別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｸﾙﾒﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　久留米大学	
フリガナ 大学の名称	ｸﾙﾒﾀﾞｲｶﾞｸ 久留米大学（Kurume University）	
大学本部の位置	福岡県久留米市旭町67番地	
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき総合的専門的教育及び研究を行うことを目的とし、学識深く、教養の高い人材を育成し、併せて学術の進展並びに社会文化の向上に寄与することを使命とする。	
新設学部等の目的	メディカルテクノロジー（臨床検査、医療技術）を基盤とした臨床検査技師教育に、ヘルスサイエンス（健康科学）の基礎的・専門的教育を融合させたメディカルサイエンス教育を実現させ、科学及び医療・検査技術の進歩と医療ニーズの変遷に対応する能力の高い検査技師、つまり、次世代型臨床検査技師を育成する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
医学部 [School of Medicine]							
医療検査学科 [School of Medical Technology]	4	74	－	296	学士（医療検査学）	令和6年4月 第1年次	福岡県久留米市旭町67番地（令和6年度のみ） 福岡県久留米市東櫛原町777番地3（令和7年度以降）
計		74	－	296			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	久留米大学 医学部附属臨床検査専門学校（廃止）　（△40） ※令和6年4月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
医学部　医療検査学科	73　科目	7　科目	22　科目	102　科目	132（マネジメントサイエンス応用コース選択者は133）単位

教員組織の概要

	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		人	人	人	人	人	人	人
新設分	医学部　医療検査学科	8 (7)	4 (4)	0 (0)	3 (1)	15 (12)	0 (0)	184 (187)
新設分	計	8 (7)	4 (4)	0 (0)	3 (1)	15 (12)	0 (0)	184 (187)
既設分	文学部　心理学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	328 (328)
既設分	情報社会学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	317 (317)
既設分	国際文化学科	8 (8)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	316 (316)
既設分	社会福祉学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	334 (334)
既設分	人間健康学部　総合子ども学科	4 (4)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	218 (218)
既設分	人間健康学部　スポーツ医科学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	218 (218)
既設分	法学部　法律学科	16 (16)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	254 (254)
既設分	国際政治学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	263 (263)
既設分	経済学部　経済学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	298 (298)
既設分	文化経済学科	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	293 (293)
既設分	商学部　商学科	15 (15)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	225 (225)
既設分	医学部　医学科	49 (49)	37 (37)	48 (48)	58 (58)	192 (192)	0 (0)	189 (189)
既設分	看護学科	9 (9)	7 (7)	9 (9)	14 (14)	39 (39)	2 (2)	132 (132)

教員組織の概要	既設分	学長直属	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		外国語教育研究所	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	67 (67)	
		留学生別科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	
		基盤教育研究センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		保健管理センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		放射性同位元素施設	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		質量分析医学応用研究施設	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		歯科口腔医療センター	1 (1)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	4 (4)	
		動物実験センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		医学教育研究センター	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	5 (5)	
		先端イメージング研究センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		地域医療連携講座	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		分子生命科学研究所	2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		循環器病研究所	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		高次脳疾患研究所	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		バイオ統計センター	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		皮膚細胞生物学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		医学部附属病院	19 (19)	19 (19)	12 (12)	134 (134)	184 (184)	0 (0)	0 (0)	
		医学部附属医療センター	6 (6)	9 (9)	3 (3)	7 (7)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	
		計	190 (190)	117 (117)	94 (94)	223 (223)	624 (624)	0 (0)	－ (－)	
	合計		198 (197)	121 (121)	94 (94)	226 (224)	639 (636)	0 (0)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
		人	人	人	
	事務職員	237 (237)	122 (122)	359 (359)	
	技術職員	1,587 (1,587)	129 (129)	1,716 (1,716)	
	図書館専門職員	8 (8)	3 (3)	11 (11)	
	その他の職員	43 (43)	327 (327)	370 (370)	
	計	1,875 (1,875)	581 (581)	2,456 (2,456)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	207,300.30 ㎡	2,175.88 ㎡	675.04 ㎡	210,151.22 ㎡	＜大学全体＞ 共用及び共用する他の学校等の専用土地は完成年度に0㎡となり専用となる。
	運動場用地	68,586.00 ㎡	32,465.00 ㎡	0 ㎡	101,051.00 ㎡	
	小計	275,886.30 ㎡	34,640.88 ㎡	675.04 ㎡	311,202.22 ㎡	
	その他	212,221.90 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	212,221.90 ㎡	
	合計	488,108.19 ㎡	34,640.88 ㎡	675.04 ㎡	523,424.12 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	149,446.55 ㎡ (136,600.19 ㎡)	0.00 ㎡ (2,838.18 ㎡)	0.00 ㎡ (3,025.65 ㎡)	149,446.55 ㎡ (142,464.02 ㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	118 室	159 室	50 室	24 室 （補助職員 4人）	6 室 （補助職員 1人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	医学部 医療検査学科	12 室	

図書・設備

新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
医学部医療検査学科	43,940〔5,486〕 (43,940〔5,486〕)	3,657〔2,017〕 (3,657〔2,017〕)	2,987〔1,318〕 (2,987〔1,318〕)	286 (286)	2,162 (721)	2 (2)
計	43,940〔5,486〕 (43,940〔5,486〕)	3,657〔2,017〕 (3,657〔2,017〕)	2,987〔1,318〕 (2,987〔1,318〕)	286 (286)	2,162 (721)	2 (2)

大学全体の数
図書　874,041冊〔248,571冊〕
学術雑誌　10,429冊〔4,627冊〕
電子ジャーナル　12,622種〔10,953種〕
視聴覚資料　6,483点

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数
	7862.41 ㎡	772	1,328,972

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要
	9331.06 ㎡	野球場1面、ソフトボール場1面、テニスコート12面地

経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
教員１人当り研究費等		732千円	732千円	678千円	678千円	－ 千円	－ 千円
共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	－ 千円	－ 千円
図書購入費	1,036千円	6,481千円	6,481千円	6,481千円	6,481千円	－ 千円	－ 千円
設備購入費	127,843千円	187,097千円	285千円	600千円	600千円	－ 千円	－ 千円

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,630 千円	1,330 千円	1,330 千円	1,330 千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要：私立大学経常費補助金、雑収入　等

教員1人当り研究費等：職位ごとに金額が異なるため、平均値にて計上。
図書購入費：電子ジャーナル、データベース、その他の経費（運用コストを含む。）も含む。

既設大学等の状況

大学の名称：久留米大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
文学部			3			1.08		
心理学科	4	87	1	349	学士（心理学）	1.09	平成14年度	福岡県久留米市御井町1635番地
情報社会学科	4	54	3 1	217	学士（社会学）	1.04	平成14年度	福岡県久留米市御井町1635番地
国際文化学科	4	106	3 2	426	学士（文学）	1.10	平成4年度	福岡県久留米市御井町1635番地
社会福祉学科	4	52	3 1	209	学士（社会福祉学）	1.08	平成12年度	福岡県久留米市御井町1635番地
人間健康学部						1.10		
総合子ども学科	4	50	－	200	学士（教育学）	1.06	平成29年度	福岡県久留米市御井町1635番地
スポーツ医科学科	4	70	－	280	学士（スポーツ医科学）	1.13	平成29年度	福岡県久留米市御井町1635番地
法学部			3			1.07		
法律学科	4	224	4	904	学士（法学）	1.07	昭和62年度	福岡県久留米市御井町1635番地
国際政治学科	4	70	－	274	学士（法学）	1.08	平成6年度	福岡県久留米市御井町1635番地
経済学部			3			1.09		
経済学科	4	157	2	632	学士（経済学）	1.11	平成6年度	福岡県久留米市御井町1635番地
文化経済学科	4	100	3 2	401	学士（経済学）	1.04	平成14年度	福岡県久留米市御井町1635番地
商学部						1.08		
商学科	4	250	－	1000	学士（商学）	1.08	昭和25年度	福岡県久留米市御井町1635番地
医学部						1.06		
医学科	6	115	－	690	学士（医学）	1.05	昭和27年度	福岡県久留米市旭町67番地
看護学科	4	110	－	440	学士（看護学）	1.07	平成6年度	福岡県久留米市東櫛原町777番地1

既設大学等の状況	大学院比較文化研究科 前期博士課程 比較文化専攻	2	30	―	60	修士（文学） 修士（社会学） 修士（保健福祉学） 修士（法学） 修士（政治学） 修士（経済学） 修士（学術）	0.28	平成元年度	福岡県久留米市御井町 1635番地	
	後期博士課程 比較文化専攻	3	12	―	36	博士（文学） 博士（社会学） 博士（保健福祉学） 博士（法学） 博士（政治学） 博士（経済学） 博士（商学） 博士（学術）	0.61	平成3年度	福岡県久留米市御井町 1635番地	
	大学院心理学研究科 前期博士課程 臨床心理学専攻	2	15	―	30	修士（臨床心理学）	0.63	平成13年度	福岡県久留米市御井町 1635番地	
	人間行動心理学専攻	2	5	―	10	修士（心理学）	0.10	平成13年度	福岡県久留米市御井町 1635番地	
	後期博士課程 心理学専攻	3	5	―	15	博士（心理学）	0.13	平成13年度	福岡県久留米市御井町 1635番地	
	大学院ビジネス研究科 修士課程 ビジネス専攻	2	12	―	24	修士（商学） 修士（経営学）	0.37	平成17年度	福岡県久留米市御井町 1635番地	
	大学院医学研究科 修士課程 医科学専攻	2	8	―	16	修士（医科学）	0.75	平成13年度	福岡県久留米市旭町 67番地	
	総合生命科学・ バイオ統計学専攻	2	8	―	16	修士（医科学）	0.93	平成31年度	福岡県久留米市旭町 67番地	
	看護学専攻	2	15	―	30	修士（看護学）	1.30	平成28年度	福岡県久留米市旭町 67番地	
	大学院医学研究科 博士課程 生理系専攻	4	4	―	16	博士（医学）	0.37	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地	
	病理系専攻	4	3	―	12	博士（医学）	1.08	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地	
	社会医学系専攻	4	8	―	32	博士（医学） 博士（医学バイオ統計学） 博士（看護学）	1.03	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地	
	個別最適医療系専攻	4	20	―	80	博士（医学）	0.78	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地	

附属施設の概要	名称：久留米大学医学部附属病院 目的：本学学則に基づき医学の教育、研究及び診療を行うこと 所在地：福岡県久留米市旭町67番地 設置年月：昭和3年4月1日 規模等：土地　46,965.18㎡、建物　128,316.11㎡	
	名称：久留米大学医療センター 目的：本学学則に基づき医学の教育、研究及び診療を行うこと 所在地：福岡県久留米市国分町155-1 設置年月：平成6年7月1日 規模等：土地　48,887.06㎡、建物　22,548.10㎡	
	名称：情報教育センター 目的：本学の情報処理に関する教育・研究の発展に寄与すること 所在地：福岡県久留米市御井町1635番地 設置年月：昭和59年4月1日 規模等：建物　3,017.60㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：比較文化研究所 目的：新しい学際的統合を基本理念として、文化の構造と機能に焦点を当てた総合的比較文化研究を行うこと 所在地：福岡県久留米市御井町1635番地 設置年月：昭和62年2月27日 規模等：建物　147.2㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：分子生命科学研究所 目的：分子生命科学に関する学理及びその応用に関する研究を行うこと 所在地：福岡県久留米市旭町67番地 設置年月：昭和元年4月1日 規模等：建物　416.50㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：外国語教育研究所 目的：専門的、主体的な見地に立って外国の言語文化及び外国語教育の在り方を研究し、その成果を教育に反映させ、もって本学の外国語教育の向上発展に資すること 所在地：福岡県久留米市御井町1635番地 設置年月：平成5年4月1日 規模等：建物　1433.60㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：先端癌治療研究センター 目的：基礎医学研究部門と臨床医学研究部門が一体となり、総合的に先端的な癌治療の研究・開発を行うこと 所在地：福岡県久留米市旭町67番地 設置年月：平成9年1月1日 規模等：建物　870.22㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：循環器病研究所 目的：循研は、基礎医学研究部門と臨床医学研究部門が一体となり、総合的・先端的な循環器病の研究と治療開発を行うこと 所在地：福岡県久留米市旭町67番地 設置年月：平成10年6月26日 規模等：建物　145.50㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：高次脳疾患研究所 目的：認知神経科学部門、臨床分子生物学部門及び再生医学部門が一体となり、総合的・先端的な脳疾患の研究と治療開発を行うこと 所在地：福岡県久留米市旭町67番地 設置年月：平成14年4月1日 規模等：建物　141.80㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：バイオ統計センター 目的：学内の付置研究施設、医学部各講座、大学病院等はもとより広く海外の研究機関及び国内産業界との連携を図り、バイオ統計学の有能な人材育成に資するため、教育研究を行うこと 所在地：福岡県久留米市旭町67番地 設置年月：平成15年10月1日 規模等：建物　349.68㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：ビジネス研究所 目的：マネジメント、ビジネス及びアカウンティングにかかわる理論と実証の研究により地域経済の発展及び広くビジネス社会化に資すること 所在地：福岡県久留米市御井町1635番地 設置年月：平成17年8月1日 規模等：建物　152.2㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：皮膚細胞生物学研究所 目的：基礎皮膚科研究部門と臨床皮膚科部門が一体となり、総合的・先端的な皮膚細胞生物学の研究と診断法・治療法の開発を目指すこと 所在地：福岡県久留米市旭町67番地 設置年月：平成22年1月1日 規模等：建物　50.06㎡（土地は大学校地に含む）	
	名称：経済社会研究所 目的：経済、社会及び環境に関する理論と実態の調査、研究を行い、他の研究機関との交流も深め、もって学術文化の発展に寄与するとともに、地域社会の発展に資すること 所在地：福岡県久留米市御井町1635番地 設置年月：平成22年4月1日 規模等：建物　83.4㎡（土地は大学校地に含む）	

別記様式第２号（その２の１）
（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（医学部医療検査学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	人間と生活・社会の理解	心理学	1前		1.5		○								兼1	
		久留米・筑後体験演習	1前		2			○							兼2	共同※講義
		スポーツカルチャーを解剖する。	1前		1.5		○								兼3	オムニバス
		観光英語	1前		1.5		○								兼1	
		文学	1後		1.5		○								兼1	
		歴史学	1後		1.5		○								兼1	
		社会学	1後		1.5		○								兼1	
		法学	1後		1.5		○								兼1	
		健康・スポーツ科学概論	1後		1.5		○								兼3	オムニバス
		文化人類学	1後		1.5		○								兼1	
		哲学	1後		1.5		○								兼1	
		人文地理学	1後		1.5		○								兼1	
		いのちの倫理	1後		1.5		○								兼1	
		経済学概論	1後		1.5		○								兼1	
		社会心理学	1後		1.5		○								兼1	
		英語TOEFL	1後		1.5		○								兼1	
		英語（リーディング）	1前・1後	1			○								兼1	
		健康・スポーツ科学（実技）	1前・1後	1					○						兼1	
		キャリア入門	1前	1				○							兼3	オムニバス※講義
	科学的思考の基礎	基礎医学ディベート	1前		1.5			○							兼3	共同
		論理学	1後		1.5		○								兼1	
		数学	1後		1.5		○								兼1	
		文献調査法	1後		1.5		○								兼1	※実習
		学びの基本Ⅰ	1前	2				○		8	4		3		兼4	オムニバス・共同※講義
		学びの基本Ⅱ	1後	1			○								兼2	オムニバス※演習
		小計（25科目）	－	6	30.5	0	－			8	4	0	3	0	兼35	－
専門基礎科目	生命科学・検査原理の基礎	化学	1前	1			○			1						
		物理学	1前	1			○								兼3	オムニバス
		生物学	1前	1			○								兼2	オムニバス
		細菌学	1通	2			○								兼3	オムニバス
		検査機器総論	1通	1			○			1			2		兼1	オムニバス・共同(一部)※演習
		医用工学概論	1後	2			○			1						
		医用工学概論実習	2後	1					○	2	1					共同
		バイオサイエンス基礎	2後	2			○			1					兼11	オムニバス・共同(一部)
	人体の構造と機能	肉眼解剖学	1前	1			○								兼1	
		組織解剖学	1前	2					○	1			1		兼3	オムニバス・共同※講義
		生理学	1通	2			○			1					兼2	オムニバス
		生化学	1通	2			○								兼4	オムニバス・共同(一部)※実習
		免疫学	1後	1			○								兼4	オムニバス
		肉眼解剖学実習	2通	1					○	2					兼1	共同(一部)※講義
	保健医療福祉とデータの取り扱い	公衆衛生学Ⅰ	1後	1			○								兼3	オムニバス
		公衆衛生学Ⅱ	2後	2			○								兼4	オムニバス
		関係法規	3前	1			○								兼1	
		マネジメントサイエンス基礎Ⅰ	1後	1			○								兼1	
		マネジメントサイエンス基礎Ⅱ	2通	1			○				1				兼4	オムニバス※演習
		保健医療情報学	2後	1			○				1				兼3	オムニバス※演習
		統計学	1後	2			○			1					兼2	オムニバス・共同(一部)※演習
		データサイエンス基礎Ⅰ	2通	2			○			1					兼2	オムニバス・共同(一部)※演習
		データサイエンス基礎Ⅱ	3前	1			○			1					兼4	オムニバス・共同(一部)※演習
		小計（23科目）	－	32	0	0	－			6	2	0	2	0	兼51	－

専門科目	病態・病理と疾病	病理学Ⅰ	1後	1			○			1						
		病理学Ⅱ	2前	1			○			1						
		病態生理学Ⅰ	1後	1			○			1						
		病態生理学Ⅱ	2通	1			○			2						オムニバス
		血液学	2前	2			○				1				兼4	オムニバス
		臨床医学総論Ⅰ	2通	2			○			1					兼13	オムニバス
		臨床医学総論Ⅱ	3前	2			○			2	1				兼4	オムニバス
		生理検査学Ⅱ	3通	2			○				1				兼11	オムニバス
		臨床栄養学	3前	1			○			1					兼4	オムニバス
		睡眠医学	3前	1			○				1				兼8	オムニバス・共同(一部)
		臨床病理検討会	3後	1			○			1						※演習
		薬理学	3後	1			○			1					兼3	オムニバス
	臨床検査学の基本	臨床検査学・ヘルスサイエンス入門	1後	1			○			8	4		3			オムニバス・共同(一部)
		医学英語	2前	1			○			4	1					オムニバス・共同(一部)※演習
		血液検査学	2後	2			○				1					
		血液検査学実習	2後	2					○	1	1		1		兼2	オムニバス・共同
		病理検査学	2通	2			○			1			1			オムニバス・共同(一部)
		病理検査学実習	2通	2					○	1			1			共同
		一般検査学	3通	2			○			1	2		1			オムニバス
		一般検査学実習	3通	2					○	1	2		1		兼1	オムニバス・共同
		臨床化学検査学Ⅰ	1後	2			○			1	1		1			オムニバス
		臨床化学検査学Ⅱ	2前	2			○			1			1			オムニバス・共同(一部)
		臨床化学検査学実習	2通	2					○	1	1		1		兼3	オムニバス・共同
		免疫学実習	1後	1					○		2				兼2	オムニバス・共同(一部)
		免疫検査学	3後	1			○			1	1		1		兼1	オムニバス・共同(一部)※実習
		RI検査学	3前	1					○	2					兼3	オムニバス・共同(一部)※講義
		遺伝子・染色体検査学	2前	1			○			1					兼3	オムニバス
		遺伝子・染色体検査学実習	2前	1					○	1	1				兼4	オムニバス・共同(一部)※講義
		輸血・移植検査学	3前	2			○			1	2				兼1	オムニバス・共同(一部)
		輸血・移植検査学実習	3前	1					○		1		1		兼1	オムニバス・共同(一部)
		微生物検査学実習Ⅰ	1後	1					○	1			1		兼3	オムニバス・共同
		微生物検査学	2通	3			○			2					兼1	オムニバス
		微生物検査学実習Ⅱ	2通	2					○	1			3		兼5	オムニバス・共同
		生理検査学Ⅰ	2通	3			○			1	1				兼8	オムニバス
		生理検査学実習	2通	2					○	5	1				兼6	オムニバス・共同(一部) ※講義
		画像検査学Ⅰ	2通	2			○			1					兼4	オムニバス・共同(一部) ※実習
		画像検査学Ⅱ	3後	1			○			1					兼5	オムニバス
	チーム医療と臨床検査学の実践に向けて	検査管理総論	3前	2			○			3	2				兼2	オムニバス・共同(一部)
		医療安全管理学	3前	1			○			1					兼3	オムニバス
		医療安全・検体採取実習	3通	1					○	4	1		2		兼2	オムニバス・共同(一部) ※講義
		薬品管理学	1前	1			○						2		兼1	オムニバス・共同(一部) ※実習
		ゲノム医療・先端医学	3通	1			○			1					兼10	オムニバス
		チーム医療演習	4前	1				○		2	1				兼2	オムニバス・共同
		臨地実習前技能修得到達度評価	4前	2					○	2	3		3			オムニバス・共同(一部)※講義
		臨地実習	4前	11					○	2	3		3			共同
		臨床検査医学特論	4後	4			○			5	3		3		兼16	オムニバス・共同(一部)
	応用選択コース	応用選択コース入門	2後	1			○			8	4		3		兼1	オムニバス・共同(一部)
		バイオサイエンス応用	3通		6				○	1					兼8	共同
		データサイエンス応用	3通		6			○		1					兼3	共同
		マネジメントサイエンス応用Ⅰ	3前		4		○			1	1				兼1	オムニバス・共同(一部)※演習
		マネジメントサイエンス応用Ⅱ	3前		1				○		1				兼2	共同
		マネジメントサイエンス応用Ⅲ	3後		2			○			1				兼1	共同
		臨床検査応用	3通		6				○	6	3		3		兼2	共同
		卒業研究	4通	2					○	8	4		3		兼13	共同
	小計（54科目）		－	85	25	0	－			8	4	0	3	0	兼125	－
合計（102科目）			－	123	55.5	0	－			8	4	0	3	0	兼184	－

学位又は称号	学士（医療検査学）	学位又は学科の分野	保健衛生学

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
「必修科目」は123単位、「選択科目」は基礎科目で3単位以上、専門科目で6単位以上、合計132単位以上修得すること。但し、3年次前期のマネジメントサイエンス応用Ⅰ（4単位）を選択した場合は、マネジメントサイエンス応用Ⅱ（1単位）とマネジメントサイエンス応用Ⅲ（2単位）も併せて修得し、合計133単位以上修得することを卒業要件とする。	1学年の学期区分	2 学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（医学部医療検査学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間と生活・社会の理解	心理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、心理学という学問領域への導入を目的として、心理学の歴史と方法を総論的に学んだ後、感覚・知覚、学習・認知、発達、動機づけと情動、性格、社会といった心理学の各論について学修する。心理学学会連合が実施している心理学検定に対応できる知識の獲得を到達目標とする。	
		久留米・筑後体験演習	本授業の形態は演習とし、一部講義が含まれる。【概要】本授業はフィールドワークにより久留米・筑後地域の文化・経済・地域社会などについて知り、人間力を養い、その後の大学生活において自分が学ぶべきことを認識して主体的に学問に取り組む姿勢や技法を身に付けることを目標とする。地域の文化、福祉教育、産業商業経済、地域貢献に携わる体験先を訪問し、見学、活動、交流を体験する。体験演習前にマナー指導や体験先別に事前講義を行い、礼儀・知識を備えた上で臨む。現場体験を通して実情を知り、現場の抱える問題点とともに自己の課題にも気づき、それらに取組む姿勢をつくる。講義では文献調査やプレゼンテーション資料作成なども学ぶ。	共同 講義12時間 演習12時間
		スポーツカルチャーを解剖する。	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】スポーツは、「する」「みる」両方の意味において、魅力的な文化である。本授業では、スポーツの価値について、近接する様々な領域から捉えることによって、「する」以外の意味を社会・文化的視点から再考する。本授業は、現代社会におけるスポーツの役割、機能、社会・文化的価値に関する基本的な視点について理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全13回） （56 大橋　充典／5回） スポーツと新体制・遊戯性・競争性、スポーツとコーチング、スポーツとメディア、スポーツとジェンダー （17 野田 耕／4回） 学校とスポーツ、子どもとスポーツ、スポーツとドーピング、スポーツの高度化 （55 行實 鉄平／4回） スポーツと政策、スポーツと福祉・医療、スポーツと産業、スポーツと地域コミュニティ	オムニバス方式
		観光英語	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】英語を公用語・準公用語とする国は50か国、その人口は約6億人にのぼる。本授業では、観光に関する英文読解とビデオ視聴によって、世界の国々の文化や社会、歴史を学ぶこと、およびこれらと比較して日本について考察することを目標とする。ビデオ教材では、ネイティブスピーカーの英語とノンネイティブスピーカーの英語を聞き取り、世界各国で話されている英語の違いについても認識する。ビデオ教材の聞き取りの他、授業の進め方としては、各チャプターの長文を前もって読み、設問も解答しておく。授業内でその答え合わせをしながら、長文の詳細を確認する。各チャプターのディスカッショントピックについてはグループディスカッションも行う。	
		文学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、多くの文学作品に触れ、作品が書かれた時代背景や様々な手法を学びながら読解力を深めるとともに、他の人の読解や感じ方を知ることで、幅広い共感力を身に付ける。それにより文学の持つ力を知り、物語を楽しむ力を養う。また、その楽しさを誰かに伝えたり、語り合う表現力を学ぶ。予習として、配付される次回の講義の教材（作品）を読んで授業に臨む。文学作品の読み方に正解があるわけではないので、読む楽しさを体験、獲得する。授業の前半は映像なども使いながら、時代背景を学ぶ。後半は作品の読解から、学生同士の意見を聞き、理解を深めるグループワークを予定している。	
		歴史学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、筑後地域を中心とした北部九州地方の歴史・文化について、地域の文化財を素材に学習する。これらの地域の歴史・文化を検証することにより、地域を取り巻く環境を深く理解する。講義を参考にして、筑前地域との比較を行いつつ、筑後地域を中心とした歴史・文化の背景を認識するとともに、久留米（筑後）地域の歴史を時系列で理解する。さらに、今後の学生生活のなかで、同地域の文化財に興味関心がもてるような知識と教養を身につける。	
		社会学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、社会学の方法・諸理論を学びながら、今後携わっていく医療の諸問題を考える上での視点を養うことを目的とする。特に、現在の社会病理問題を中心に、社会全体とその中の人間関係について考察することにより、急激に変化する世界の中での、社会、個人、医療の現状と展望をとらえるとともに、広い視野から社会を見て、より良い人間関係を築き、社会貢献に参画する下地を作る。	
		法学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、教養としての法学の基礎を学び，社会生活上のルールの基盤となる考え方を身につけることを目標とする。指定テキストに基づいて、憲法・民法・刑法という３つの法律の考え方の基礎を学び、社会生活の中で，法がどのような役割を果たしているのかについて考察する。	
		健康・スポーツ科学概論	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】日常的な身体活動（運動）は、単に体力レベルの向上にとどまらず、「からだ」と「こころ」に対し様々な好ましい影響をもたらし、疾病の予防・治療に繋がることが数多くの研究で明らかにされている。高齢社会を迎えている我が国において、健康を維持し、生涯をとおして自立した生きがいのある生活を実現するためには積極的な身体活動実践の必要性が認識されている。安静時の生理機能のみでなく、運動に伴う身体の生理・生化学的応答や運動の心身に及ぼす効果や影響の学修は、医学を学ぶ場合の必要不可欠な基礎知識であると考えられる。そこで、本授業では、運動時の生理的応答、運動が心身に及ぼす効果・影響ならびに運動実践上のスポーツ医学的アプローチについて学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （19 右田　孝志／6回） 運動とからだ（体力、身体活動、エネルギー消費量、運動と身体組成、筋肉の構造・機能と運動、筋線維の種類と運動能力の関係、筋肥大・筋線維の動員と筋力、筋収縮様式、運動時のエネルギー供給系、有酸素運動） （88 奥野　真由／2回） 健康維持のための食生活、運動時の栄養補給 （18 吉田　典子／6回） 身体活動の効果、疾病の予防や治療としての運動療法の意義、疾病を有する場合の運動療法（メディカルチェック、運動処方、事故防止）、運動と内科的スポーツ障害（熱中症、心臓突然死、オーバートレーニング、女性アスリートの三主徴、運動性貧血、摂食障害、運動性無月経、疲労骨折）	オムニバス方式

基礎科目	人間と生活・社会の理解	文化人類学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】文化人類学は「人類とは何か」について、その文化の多様性と共通点を通して探究する学問である。特にグローバリゼーション・グローカリゼーションが進む現代の我々は、我々とは異なる文化を持つ人々と日常的に接する状況となっており、文化の違いについて、分断や衝突ではなくいかに共生する方向で折り合っていくか、ということが一人一人に求められている。本授業では、「現代社会においていかに異文化理解と多文化共生を図っていくか」というテーマについて、基本的視座と理論を理解し、具体的行動に至るための人類学的思考様式を修得することを目標とする。	
		哲学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】長い歴史を持つ「哲学」の中でも、特に古くから議論されているのが私達の「知識」をめぐる「認識論」である。本授業では、特に20世紀中頃以降の議論、すなわち内在主義と外在主義の対立を中心とした「現代」の議論を扱う。内在主義と外在主義がどのように対立しているのかを整理するとともに、どちらの立場を指示するか、自分なりに考える姿勢を身に付けることを目標とする。	
		人文地理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、人文地理学の基礎的な概念を理解し、それらに基づいて地表の多様な地域における環境-人間関係の探求と、地理学的思考を応用した社会問題へのアプローチについて学修する。具体的には、①空間、地域、環境、スケールなど人文地理学の基礎的な概念を踏まえて地表の諸現象を理解し、②文化地理学から派生した文化生態学、政治生態学の概要と応用性を学んだ後、ジェンダー（男性、女性、マイノリティ）や災害における地理学的視点など国内外のさまざまな地域における人々の営みに関心を持ち、自らがテーマを立てて考察する。	
		いのちの倫理	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、いのちが問題となる局面において、複雑な状況を理解し、医療者として「人のいのち」にどう向き合うべきかという判断能力を養うことを目的とする。そのために、戦争、大災害、先端医療技術によって生じている様々な倫理的問題の基礎的な理解を身につけ、問題を吟味する。教材と授業を通じて考察した内容を論述形式のレポートで提出する。	
		経済学概論	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、現代経済学の基礎理論としてのミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を理解することを目標として、日本の経済政策の在り方について学ぶ。経済学的な考え方を理解するための基盤を作りから始め、現代経済学の基礎理論としての初歩的なミクロ経済学とマクロ経済学について学ぶ。経済学ではどのように世の中の出来事を捉えるのか、データを用いた具体例によって、経済学の概念の理解を深める。	
		社会心理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、こころの働きをめぐる社会心理学的な見方・考え方を理解し、実生活のなかで実践できるようになることを目的とする。教員との対話形式の授業により、人々が対人関係、集団、文化・環境から影響を受ける一方でそれらへも影響を与えながら生活していることについて，社会心理学の視点から学ぶ。	
		英語TOEFL	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、英語検定試験TOEFL-ITPに対応するために必要な英文法や英単語、英熟語、言い回し、リスニングや長文読解を指定テキストを用いて学修し、基礎的な英語力を養う。	
		英語（リーディング）	本授業の形態は講義とし、医療検査学科単独で開講する。【概要】大学入学後から社会に出た後も、英語で書かれた専門的な文献や機器の取扱い説明書などから情報を得る必要がある。本授業では、基本的な英文の読解・表現の演習を通じて、高校までに修得した英語の運用能力のうち、主にリーディングのスキルの向上を図り、英語理解のための基礎的な知識を修得する。	
		健康・スポーツ科学（実技）	本授業は学科単独で開講するスポーツ実技である。【概要】適度な身体活動（スポーツ）を継続することは、健康増進、体力の維持向上、精神的な充足、他者との連携構築など、QOL（Quality of life）の向上に繋がる様々なメリットをもたらす。本授業では、球技その他のレクリエーション・スポーツを通じて、生涯スポーツの意義を理解し、健康的な生活を維持するための基礎づくり、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。これまでスポーツが苦手だった者も含め、本授業を通じて運動や仲間と連携することの楽しさを感じ、スポーツによる自身の健康・体力を維持向上の必要性を認識することにより、大学生活およびその後のライフステージに応じた運動習慣を積極的に取り入れるきっかけとする。	
		キャリア入門	本授業は、学科単独で開講する初年次教育科目である。授業形態は演習とし、一部講義も含まれる。【概要】大学生になると、様々な場面において自ら考え行動すること、すなわち主体性が必要となる。本授業では、各学生がかけがえのない大学生活を主体的に過ごせるよう、入学の時点において将来の自分を考えつつ、大学生活の目標と行動計画を立てる。また、若手臨床検査技師を講師に迎え、臨床検査技師としての活躍の場が様々であることを学ぶとともに、学生時代や社会人となってからの経験や思いなどを聴くことで、より具体的な目標や成長意欲を高めるきっかけとする。 （オムニバス方式／全8回） （59 酒井 佳世／6回） ガイダンス、大学生としてのマナー・コミュニケーション、卒業後のキャリア、社会人基礎力 （159 圖師 琴音／1回） 大学病院における治験コーディネーターとして （160 徳永 翔／1回） 地域医療支援病院の臨床検査部門に勤務して	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間
	科学的思考の基礎	基礎医学ディベート	本授業の形態は演習とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】問題解決力は、人生の様々な場面で必ず必要となる能力である。特に医学に関する様々な問題は一朝一夕には結論を出せないものが多く、判断や選択を迫られた場面で、多面的に物事を考え、論理的に結論を導き出す能力が求められる。本授業では、数名の小グループにわかれ、医学に関する社会問題やトピックについてディベート形式の討論を行うことにより、賛否どちらの立場からでも物事を考えられる能力を養成する。さらに、問題点を発見し、分析し、解決し、第三者にプレゼンテーションするといった実践的な思考リテラシーを養う。到達目標は、①様々なテーマにおいて問題点を抽出できる、②ディベートに必要な情報を収集できる、③論理的な立論と説得力のあるプレゼンテーションができる、④的確な反論ができる、⑤討論を通じて諸問題を解決することができることとし、１つの課題につき3週間かけて学習を行う。	共同
		論理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、論理的に正しい推論を行えるようになるために、指定テキストを用いて論理学で扱う基本的な概念（命題と真偽、推論と演繹）を学んだ後、命題論理、述語論理の基礎を理解し、実際に自然演繹を用いた証明を行う。本授業により、日常で使用する自然言語を論理式に変換できるようになること、与えられた推論が論理的に正しいかを評価できるようになることも、到達目標とする。	
		数学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】数学および数理的考え方は、研究や論文を読み解くのに必要である。本授業では、データ解析や数学モデル等の基礎となる、大学での数学を理解し使えるようになること、及び数理的考え方を身につけ、理論的思考力を養うことを目的とする。数学の具体的な応用事例や、数学の分野間の関連についても学ぶ。	

基礎科目	科学的思考の基礎	文献調査法	本授業は医学科1年生と合同で行う。授業形態は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】本授業では、さまざまな文献や資料を集めるための基礎的な知識・方法について学び、レポートや論文の作成に必要な文献調査の知識と技能を修得する。具体的には、まず研究者倫理（著作権法）について学んだ後、情報の流れ、図書館、図書館の資料構成について学ぶ。次に、図書・雑誌・新聞・ウェブそれぞれの資料の特徴について学ぶ。その後、データベースによる検索を学び、最終的なまとめを行う。本講義は単にPC上の検索操作だけでなく、図書館に行き、実際に資料を探すことも行い、文献調査の各手法について実践的に習得する。	講義18時間 実習10時間
		学びの基本Ⅰ	本授業は、学科単独で開講する初年次教育科目である。授業形態は演習とし、一部講義も含まれる。【概要】本授業では、①大学生にふさわしい生活習慣や学修の方法について学び、4年間の学生生活で実践できるようになること、②入学後にあらためて医療従事者を目指す意欲を自覚することを目標とする。在学中に本学科が養成しようとする『メディカルサイエンスに精通し多様で高度な医療のニーズに対応できる』臨床検査技師になるために必要な知識・技能・態度を獲得するには、個々の学生の能動的な学修だけでなく、学生同士が声をかけ合い、ともに学び、教え合うような取り組み方が求められる。そのため授業の前半は、目標を共有する仲間と協力しながら自分達の課題を見つけ、解決に取り組めるような『学びの場』を作る。授業の後半には、医学科１年生との合同授業を行い、役割が異なるが医療従事者として同じ目標を持つ仲間とともに学ぶ機会を持ち、多職種連携教育の下地をつくる。 【授業の進め方】 授業の進行は、文学部心理学科、医療検査学科、医学科の教員が順に担当するオムニバス形式とする。4～6名の小グループを形成するため、医療検査学科の専任教員が『ファシリテーター』として小グループの見守り、助言、学生評価を担当する。以下の（オムニバス方式／回数）内には、全体進行を担当する教員名のみを記載する。ファシリテーターが参加する授業は、※にて注釈をつける。 （オムニバス方式／全18回） （22 安永 悟、109 石田 有紀／10回）（共同） あいさつ・学びの場づくり、授業の受け方、ノートの取り方、大学の過ごし方、資料や文献の要約の仕方、深い思考、批判的思考、レポートの書き方、資料の整理法などについて、協同学習の技法を用いて体験的に学ばせながら概説する。特に、話し合い学習法（Learning through discussion: LTD）を実践できるよう指導する。なお、資料の要約や関連付けのトレーニングを行うための主な教材は、著者や登場人物、読み手自身の心情なども、取扱いの対象となる。※ファシリテーター（医療検査学科教員）も参加する。 （3 武谷 三恵、④ 伴 匡人／2回）（共同） 心理学科教員による前半10回までの学修を振り返り、臨床検査学やヘルスサイエンス分野の学修、研究で実践することの多い文章の読解とレポートの書き方について概説し、LTDの手法を使いながら体験的に学ばせる。※ファシリテーター（医療検査学科教員）も参加する。 （3 武谷 三恵、④ 伴 匡人、62 小松 誠和／1回）（共同） ここまで医療検査学科の学生だけで授業を行ってきたが、次回から医学科1年生との合同授業となるため、これを円滑に行うためのオリエンテーションを協同学習方式で実施する。 （23 渡部 功一、62 小松 誠和、109 石田 有紀、3 武谷 三恵／4回）（共同） 協同学習方式による医学科1年生との合同授業を指導する。①両学科の学生が医療従事者を志す者同士としての仲間づくりを行い、②多様な専門家が協力し合うことで患者中心の医療が成り立つことを、初学者なりに意識できる機会を作る。※ファシリテーター（医療検査学科教員）も参加する。 （3 武谷 三恵、④ 伴 匡人、62 小松 誠和／1回）（共同） 合同授業を含む本科目の振り返りを行い、今後の授業内外での実践について目を向けさせる。 【医療検査学科の専任教員の関わり方】 医療検査学科の専任教員は、16回の授業におけるファシリテーターを担当する。上記の進行も含め、年度毎の担当者と担当回数は、以下のとおりである。 令和6年度：② 有永 照子、③ 真田 咲子、9 八木 朝子、11 田代 恭子、12 小原 仁、13 吉野 千代、15 福満 千容／16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人／18回（進行とファシリテーター） 令和7年度：② 有永 照子、6 真茅 孝志、7 室谷 健太、10 関 律子、12 小原 仁、⑤ 糸山 貴子／16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人／18回（進行とファシリテーター） 令和8年度：① 西 昭徳、② 有永 照子、5 棚町 千代子、6 真茅 孝志、13 吉野 千代、15 福満 千容／16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人／18回（進行とファシリテーター） 令和9年度：① 西 昭徳、② 有永 照子、7 室谷 健太、10 関 律子、11 田代 恭子、⑤ 糸山 貴子／16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人／18回（進行とファシリテーター）	オムニバス方式・共同 講義12時間 演習24時間
		学びの基本Ⅱ	本授業は、学科単独で開講する初年次教育科目である。授業形態は演習とし、一部講義も含まれる。【概要】本授業では「学びの基本Ⅰ」で修得した協同学習の理論と技法を活用する。授業の前半では、LTD話し合い学習法に依拠した反転授業を行い、学力の向上をめざすことを目的とし、教育活動を支える基本的な心理学理論とその活用方法について学ぶ。授業の後半では、人間の心の動きに関する知識修得を目的とし、様々な演習を通して自分自身を振り返る作業を協同で行っていく。これらの学習内容を自己と関連づけることで、各自の大学生活の質を高めることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （22 安永 悟／7回） 学習や認知などに関する心理学の基礎的な理論を手がかりに、人間行動の獲得過程や修正方法について検討する。また、先行きが見通せない不確定な状態における心の動きや行動パターンについても吟味する。 （109 石田 有紀／8回） 「こころ」と「からだ」と「社会」という3つの大きな枠組みの中で、健康-病気の結果に及ぼす生物心理社会学的要因の複雑な影響について学ぶとともに、ストレスマネジメント行動変容を実践する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間

専門基礎科目	生命科学・検査原理の基礎	化学	本授業の形態は、講義とする。【概要】化学は物質の構造や性質、物質間の反応を対象とする学問であることから、臨床検査に利用される化学反応、生命現象や疾病を分子レベルで理解する上で必要な基礎知識となる。本科目では、原子の構造、化学結合と物質の状態、反応性といった理論化学、化合物に関わる無機化学や有機化学を学んでいく。さらに生命現象に関わるタンパク質・核酸・脂質・糖などの生体物質を学び、「生化学」「臨床化学検査学」につながる基礎知識を修得する。	
		物理学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、物理学の原理・法則の基礎を学び、これらが身の回りの自然現象や生命現象、検査機器の原理とどう関連するかを理解する。力学・連続体力学・電磁気学・原子と放射線・熱力学・波動について学び、特に遠心分離器, 超音波、MRI、分光光度法、顕微鏡、放射線やX線などの検査機器の原理に物理の法則がどのように活かされているかを学修することにより、機器原理の理解に必要な基礎知識を修得する。また、有効数字やグラフなど、検査結果のデータ処理に必要な素養を身に付ける。 （オムニバス方式／全15回） （92 大久保 博／6回） 物体の運動（位置・速度・加速度、ニュートンの運動の法則、力、運動量、仕事とエネルギー、剛体の力学と角運動量、重心、検査機器の基礎原理（質量分析器、蛍光X線分析、MRI、有効数字とグラフ、片対数グラフ） （91 國友 正信／7回） 変形する物体の力学（弾性体力学、流体力学）、電気（静電気、定常電流、電流と磁場、電磁誘導、交流回路）、波動（波動を表す物理量、波動の性質）、音（音の性質、ドップラー効果、超音波の性質）、光（光の性質、レンズと顕微鏡、光の吸収と分光光度法） （24 長澤 真樹子／2回） 熱と温度（熱とは、物質の三態、熱と仕事）原子と放射線（原子と光、放射線）	オムニバス方式
		生物学	本授業の形態は、講義とする。【概要】生物に共通する特徴には、細胞膜により外界との領域を区別すること、エネルギー代謝を行うこと、自己複製できることがある。本授業では、生物がもつ様々な生命現象のしくみを学ぶことにより、人体の構造・機能、臨床検査や医学研究を支える生命科学の原理を理解するための基礎を学修する。 （オムニバス方式／全15回） （63 大沼 雅明／9回） 生命を支える物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機塩類）、細胞の増殖・生殖細胞の形成（細胞周期、体細胞分裂と減数分裂）、遺伝情報と形質の発現（DNA、遺伝子）、遺伝（メンデルの法則、染色体異常とヒトの遺伝子疾患）、発生・分化（生殖と受精、器官形成、ヒトの初期発生）、生物の進化（化学進化、生命の誕生、生物の系統進化）、生物と環境（生態系、物質の循環、人間の活動と地球環境） （93 森部 弘樹／6回） 生命の基本単位（細胞の構造、原核生物と真核生物、細胞の機能、細胞内小器官と細胞骨格）、生命活動とエネルギー（代謝、酵素、呼吸、光合成）、生物の体の構造と機能（組織、器官、細胞内コミュニケーション、内部環境の調節）	オムニバス方式
		細菌学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、病原微生物（細菌と真菌）の感染症の検査において適切な対応を行えるように、病原微生物に関する正しい知識を身に付けることを目標とする。そのために、個々の微生物の性状・病原性および感染症の検査・治療・予防に加えて、微生物とヒト・環境との相互関係や生体防御機構などについて学ぶ。 （オムニバス方式／全20回） （94 山本 武司／8回） 微生物の分類、細菌の形態と構造、観察法と染色法、細菌の代謝と発育、培養法と同定法、正常細菌叢、感染と関連法規、感染の概念、各種感染症、バイオセーフティ、感染症法、グラム陰性球菌・球桿菌（ナイセリア、モラクセラ、アシネトバクター）、グラム陰性通性嫌気性桿菌（エルシニア、クレブシエラ、プロテウス、セラチアなど）、グラム陽性,好気性桿菌（有芽胞菌：バシラス、無芽胞菌：リステリア、コリネバクテリウム）、その他の細菌（スピロヘータ、レプトスピラ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ）、真菌 （110 奥野 未来／6回） 細菌の遺伝、遺伝子診断法、化学療法（概念と基本、抗菌薬の種類と特徴、感受性試験、薬剤耐性）、感染予防（ワクチン）、グラム陽性球菌（スタフィロコッカス、ミクロコッカス）、グラム陰性通性嫌気性桿菌、グラム陰性微好気性らせん菌（ビブリオ、パスツレラ、ヘモフィルス、カンピロバクター、ヘリコバクター）、グラム陽性,抗酸性桿菌（マイコバクテリウム、ノカルジア）、 （25 小椋 義俊／6回） 滅菌と消毒、病原性と生体防御（細菌の病原性、生体防衛機構）、グラム陽性球菌（ストレプトコッカス、エンテロコッカス）、グラム陰性通性嫌気性桿菌（エシェリキア、シゲラ、サルモネラ）、グラム陰性,好気性桿菌（シュードモナス、レジオネラ、ボルデテラ、ブルセラ、フランシセラ）、嫌気性菌（グラム陽性の無芽胞球菌と桿菌、グラム陰性の無芽胞球菌と桿菌、グラム陽性の有芽胞桿菌：クロストリジウム）	オムニバス方式

専門基礎科目	生命科学・検査原理の基礎	検査機器総論	本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、化学容量器、秤量装置、遠心分離装置、顕微鏡装置など広く臨床検査で使用する『共通検査機器』について、講義とともに演習を交えて、その原理・構造、ならびに正しい取り扱い方法を学ぶ。特に演習で取り扱う機器については、原理・構造、取り扱い上の注意点を説明できるとともに、基本的な操作を実施できるようになることを目標とする。 （オムニバス方式／全12回） （6 真茅 孝志／4回） 講義にて、総論（用手法と検査機器、ならびに検査機器の取り扱い上の注意）、共通検査機器（光学顕微鏡、化学容量器、秤量装置、遠心分離装置、攪拌装置、恒温装置、保冷装置、滅菌装置、測光装置、電気化学装置、純水製造装置、遺伝子検査機器）の原理・構造を概説する。 （15 福満 千容、6 真茅 孝志／4回）（共同） 演習にて、光学顕微鏡の原理・構造、操作・取り扱い方法について解説し、学生の操作を指導する。 （13 吉野 千代、6 真茅 孝志／2回）（共同） 演習にて、化学容量器、秤量装置、遠心分離装置、測光装置（分光光度計）、電気化学装置（pHメータ）の操作・取り扱いについて解説し、学生の操作を指導する。 （26 太田 啓介／2回） 講義にて、共通検査機器のうち、電子顕微鏡の原理・構造、操作・取り扱い方法について概説する。	オムニバス方式・共同（一部） 講義12時間 演習12時間
		医用工学概論	本授業の形態は、講義とする。【概要】医療では様々な医用電気機器が用いられることから、適切な使用と安全管理のためには理工学的な知識も必要となる。臨床検査領域においては、超音波や光などの各種エネルギーを生体に作用させる場合があるため、本授業では、まず、各種エネルギーに対する生体反応（生体物性）を学修する。引き続き、医用電気機器の原理・構造を理解するうえで必要となる、電気・電子工学の基本事項を学ぶ。授業の後半には、医用電気機器を安全に使用するための知識として、電撃、医用電気機器の安全基準、病院電気設備の安全基準、電磁波障害について、JIS（日本産業規格）の基準を交えて学ぶ。	
		医用工学概論実習	本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では、各種電子機器と実験装置を用いた実習により、生体情報を収集する医用電気機器の基盤となる電気・電子工学の知識について、理解を深める。まずは各種電子機器（マルチメータ、オシロスコープ、発振器、電源装置）と各種素子（受動素子、能動素子）の取り扱い方を学ぶ。続いて①抵抗の直列・並列回路の特性、時定数などの電気回路の基礎、②医用電子回路に用いられるCRフィルタ回路と演算増幅器の特性、③センサ（サーミスタ）を用いた計測法、および心電計の特性などの生体情報を収集する機器の原理について学修する。後半では、医用電気機器の保守管理に必要となる技術・知識の修得のため、漏れ電流の測定とともに、JIS T 0601-1で規定されている漏れ電流の測定用器具（Measuring device：MD）の特性に関する実習を行う。 （共同／全15回における担当者の役割） （6 真茅 孝志／15回） すべての回における統括、解説と指導を行う。 （3 武谷 三恵／9回） 前半の回にて、各班の実習が円滑に進むよう、統括者と連携して指導する。テーマは以下のとおり： 各種電子機器と各種素子の取扱い、電気回路の基礎、医用電子回路に用いられるCRフィルタ回路と演算増幅器の特性 （9 八木 朝子／6回） 後半の回にて、各班の実習が円滑に進むよう、統括者と連携して指導する。テーマは以下のとおり： 生体情報を収集する機器の原理、電気的安全対策（医用電気機器の漏れ電流測定、MDの特性）	共同
		バイオサイエンス基礎	本授業の形態は、講義とする。【概要】バイオサイエンスの発展により、様々な生命現象の分子レベルでの理解が進み、それらの知見に基づいた診断や治療法の開発が進められている。授業ではバイオサイエンスに関する基礎理論の詳細を修得し、最先端研究の背景や過程を学ぶことで、様々な生理現象の分子メカニズムを理解することを目指す。授業の後半では、モデル動物の操作・解析技術、医療・診断技術の原理を学び、基礎研究がどのように応用されているかを知る。さらに法学・社会学・経済学的な視点から、基礎研究から得られた知見や新しい技術の適切な在り方、バイオサイエンスの発展が社会に与える影響を学ぶ。 （オムニバス形式/全15回） （④ 伴　匡人/3回） タンパク質の立体構造形成、ミトコンドリア形態制御の分子メカニズム、授業のまとめ （27 齋藤 成昭/1回）栄養飢餓に対する細胞応答 （95 豊田 雄介/1回）糖代謝を調節するシグナル経路 （113 石川 健/1回）　CRISPR-Casを用いた転写制御技術 （67 佐藤 貴弘/1回）飢餓を生き抜くサイエンス （96 佐野 浩子/1回）ショウジョウバエを用いたヘルスバイオサイエンス研究 （114 椎村 祐樹/1回）構造生物学の創薬応用 （66 塩澤 誠司、112 坂井 勇介/3回）（共同） 動物実験の意義、倫理と関連法規、実験動物の生物学的特性、微生物コントロール、実験動物の育種・繁殖、モデル動物の作出法 （111 三田尾 拡/1回）生殖補助医療の基礎と臨床 （64 在澤 英俊/1回）バイオサイエンスの発展と法問題 （65 冨吉 満之/1回）バイオサイエンスの発展が社会に及ぼす影響	オムニバス方式・共同（一部）
	人体の構造と機能	肉眼解剖学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、脈管系、神経系、骨格系、筋系の4系統の構造を、肉眼解剖学的および組織学的に学修し、各系統を構成する細胞・組織・器官の機能にも関連づけて学ぶ。各種画像検査や生理検査、および採血の実施とデータ評価を行うために必要な基礎知識と自己学修能力を身に付けることを目標とする。	

専門基礎科目	人体の構造と機能	組織解剖学	本授業の形態は実習とし、各授業の冒頭には講義も行う。【概要】様々な機能を持つ臓器は、その役割を果たすため、それぞれ独特な構造・細胞の配列を持つ組織で構成されている。本実習では、この組織を顕微鏡を使って実際に観察し、理解することで、正常な人体の機能と構成の理解を深めることを目標とする。具体的には、組織の種類別に特徴的な細胞構築とそれにより発揮される機能を学び、人体を構成する器官・系統の基礎知識を身につける。また、観察した事象を「所見」として記載する力を養う。 （オムニバス方式／全30回） （26 太田 啓介、③ 真田 咲子、15 福満 千容／10回）（共同） 細胞と組織総論、上皮組織の観察、支持組織の観察、筋組織の観察、呼吸器系の基礎と組織観察、内耳と皮膚の基礎と組織観察について概説し、実習指導を行う。 （116 中村　悠、③ 真田 咲子、15 福満 千容／16回）（共同） 神経組織の観察、循環器系・免疫系・消化器系・泌尿器系・内分泌系の基礎と組織観察、眼の構造と組織観察について概説し、実習指導を行う。 （117 井上 実紀、③ 真田 咲子、15 福満 千容／4回）（共同） 男性生殖器・女性生殖器の基礎と組織観察について概説し、実習指導を行う。	オムニバス方式・共同 講義15時間 実習45時間
		生理学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人の正常な身体の各部位の機能を理解するための基本的な知識と考え方を、分子・細胞レベルから組織・器官（臓器）・器官間連関を保つ個体レベルで学ぶ。生体における恒常性、生命維持に必要な植物機能、個体が能動的に活動するのに必要な動物機能、神経系と内分泌系による器官間の機能調節機構を学ぶことにより、生理検査や生化学検査のデータ解釈や疾病・病態を理解するための基礎を身に付けることを目標とする。 （オムニバス方式／全28回） （3 武谷 三恵／11回） 生理学総論、体液区分と恒常性、細胞膜の構成と輸送、呼吸器系、体液pHの調節、泌尿器系、消化器系、前期のまとめ、後期のまとめ （28 鷹野 誠／9回） 神経系、骨格筋、心臓・循環系 （68 菊池 清志／8回） 血液、内分泌系	オムニバス方式
		生化学	本授業は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】生化学は生命現象を分子レベルで理解しようとする学問である。化学で学んだ知識をもとに、生体を構成する様々な物質の構造や性質を理解し、それらの生体物質の化学反応によって生体の恒常性が維持され、生命が成り立っている仕組みを理解する。臨床検査の結果がどのような代謝や遺伝子の異常に由来し、どのような疾患に関連するのかを考察する上で必要とされる、生化学の基礎的知識を修得する。①生命の維持や活動に必要とされる生体物質の構造と性質を説明できる。②生体内での化学反応を触媒する酵素の性質と反応速度論について説明できる。③栄養素の消化吸収、代謝とその調節、代謝異常による疾患について説明できる。④遺伝情報とその発現、遺伝子異常による疾患について説明できる。⑤物質の代謝や輸送に基づいて、各器官の機能を説明できる。 （オムニバス方式／全30回） （70 杉島 正一／9回） 細胞の構造と機能、生体物質の構造と性質（糖質、脂質、タンパク質）、酵素、遺伝の生化学、細胞の増殖制御、栄養生化学（無機質、ビタミン） （69 佐藤 秀明／11回） 生体物質の代謝（代謝総論、糖質の代謝、クエン酸回路とATP合成、脂質の代謝、タンパク質・アミノ酸の代謝、ヌクレオチド・核酸の化学と代謝、代謝の調節と統合、生体色素ヘムの代謝） （118 塚口 舞／5回） ホルモンとシグナル伝達、器官の生化学（血液、肺、肝臓、消化管、腎臓と体液調節） （69 佐藤 秀明、70 杉島 正一、97 原田 二朗、118 塚口 舞／4回）（共同） 酵素実験①肝臓における尿素サイクル、酵素実験②酵素反応機構 （69 佐藤 秀明、70 杉島 正一／1回）（共同） 酵素実験①と②のまとめと解説	オムニバス方式・共同 （一部） 講義50時間 実習10時間
		免疫学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、自己と非自己（ウイルスや細菌、広義にはがんなど）を識別し、非自己を排除する生体システムである免疫系のしくみについて、免疫担当細胞や免疫関連分子の種類と役割を中心に学ぶ。免疫検査学、輸血・移植検査学などの臨床検査学、および感染症、アレルギー、膠原病、免疫不全などの疾患と病態を理解するための基礎知識を修得する。 （オムニバス方式／全8回 ） （29 溝口 充志／1回） 免疫系全体の概要 （30 溝口 恵美子／1回） 自然免疫の総論 （119 岡田 季之／1回） 獲得免疫の総論 （62 小松 誠和／5回） 自然免疫の各論（免疫担当細胞と免疫関連分子）、獲得免疫の各論（免疫担当細胞と免疫関連分子）、獲得免疫の各論（抗原処理と抗原提示）、獲得免疫の各論（抗原認識とリンパ球の活性化）、能動免疫と受動免疫、免疫寛容	オムニバス方式

専門基礎科目	人体の構造と機能	肉眼解剖学実習	本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】解剖見学実習を通して、第1学年で学んだ人体の構造と機能（解剖学、生理学）の知識を統合し、各臓器の三次元的な配置や位置関係を理解する。前期は医学科学生の実習に参加して小グループに分かれ、体表解剖と皮下の筋層、末梢神経、血管の走行とこれより深部の胸腹部の構造、内臓の位置関係を観察しながら学ぶ。後期は看護学科学生と合同で、既に剖出された臓器と模型を使いながら、各臓器と舌咽頭喉頭部等の詳細な構造を観察する。本実習により、検体採取や画像検査をはじめとする各種臨床検査の方法や所見の具体的な理解を深めることを目標とする。また、医学科、看護学科の学生とともに生命の尊厳、医の倫理について考察を深め、互いの意見を交換しながら学ぶことで他職種との役割や視点の違いについても学ぶ。 （共同／全15回における担当者の役割） （31 嵯峨 堅／15回）（うち8回は共同） 全講義における概説と、全実習における統括と指導を担当する。 （③ 真田 咲子、3 武谷 三恵／8回）（共同） 解剖見学実習において、各班の実習が円滑に進むよう、統括者と連携して指導する。人体各部の構造と機能の理解、各種臨床検査との関連づけ、生命の尊厳の認識、学生同士のコミュニケーションなどが促進するよう、各班と学生を見守り、適宜、助言や指導を行う。	共同（一部） 講義6時間 実習24時間
	保健医療福祉とデータの取り扱い	公衆衛生学Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人々の健康を脅かす原因を社会や環境との関わりの中に見いだし、適切に対処できる医療従事者を目指すため、公衆衛生学の基礎を学ぶ。健康とは何かを理解し、疾病予防の考え方を身に付ける。また、疾病の発症に関連する様々な社会的要因や環境要因について整理するとともに、産業保健における疾病予防についても学ぶ。 （オムニバス方式／全12回） （98 森 美穂子／4回） 公衆衛生と健康、栄養と食品衛生（栄養保健、食品安全と食品衛生）、精神保健 （120 増田 宏／4回） 環境保健（概論、健康被害、因子分析、リスクアセスメント） （71 森松 嘉孝／4回） 産業保健（労働災害と業務上疾病、健康診断、交代制勤務とTHP、産業疲労、過重労働）	オムニバス方式
		公衆衛生学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】一人一人が健康に生きていくためには、地域社会を構成する集団の疾病予防と健康増進を図る必要がある。本授業では、集団における健康に関する諸問題を把握・対処するために必要な衛生統計と疫学の基礎を学修した後、わが国の保健医療福祉制度、感染症への対策を学び、これらに基づく疾病予防対策のあり方について考察する。本授業を通じて、臨床検査において疫学指標を用いた結果の解析と評価ができるようになることも目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （32 谷原 真一／3回） 公衆衛生の意義、疫学（疫学と予防医学、疫学的因果関係論、疫学研究方法） （72 中尾 元幸／4回） 衛生統計（人口静態統計と人口動態統計、日本と世界の疾病・障害統計）、感染症（感染症対策・関連法規） （99 山内 圭子／4回） 母子保健、学校保健、成人保健（生活習慣病と健康増進対策）、精神保健・その他 （121 桑木 光太郎／4回） 高齢者保健（高齢者保健・福祉の意義と動向）、感染症（新興・再興感染症、医療関連感染）、衛生行政・社会保障・社会福祉、国際保健（国際機関・医療協力、世界の保健状況）	オムニバス方式
		関係法規	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、医療を行う上での根拠となる維持法について系統的に学び、医療施設、医療職種、薬事・環境衛生、福祉、死体解剖、労働、医療保険・介護保険・労働保険に関連する法律について具体的に学修する。また、個人情報保護の遵守、臨床検査における医療過誤防止についても法律を踏まえて学ぶ。	
		マネジメントサイエンス基礎Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、保健医療福祉を入門的に学ぶ。日常生活で受けることのできる医療はどのようにして成り立っているのかに目を向け、わが国の医療を提供するしくみ（医療制度、医療提供体制、病院を構成する各部門）についての概略を捉える。また、医学と医療の歴史、および患者の心理や権利、医の倫理、医療チームの一員としての心構えなどの医学概論も学ぶ。	
		マネジメントサイエンス基礎Ⅱ	本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、日本の社会保障の下で医療を支える法令と制度について学んだ後、安全管理を含めた医療の質を保つための医療管理について、学習を発展させる。医療資源には物的資源・人的資源・財的資源・情報資源が含まれ、医療の質を保つには、これらの資源を適切に供給し続けるための財源も必要である。限られた資源、財源の循環を維持するための取り組みや仕組みを学ぶ。授業の後半では診療報酬請求データなどの医療情報を活用した医療管理の評価手法を修得する. （オムニバス方式／全15回） （12 小原 仁／6回） 総論では医療経営・運営管理に必要な資源とその資源をどのように最適化するかについて概説する。また診療提供実績が含まれている診療情報請求（レセプト）データを用いた現状分析と活用方法については、講義と演習を交えて解説する。 （164 折岡 健太郎／4回） 医療資源の種類と特性に応じた管理・活用について概説する。また入院診療の管理ツールとしても利活用されてる診断群分類（ＤＰＣ）の取り扱いについても解説する。 （34 佐藤 敏信／3回） 厚生労働省で医療政策に携わってきた経験を踏まえて我が国の社会保障について概説し、医療を支える様々な法令と制度について解説する。 （32 谷原 真一／1回） 医療の質管理の目的を概説するとともに、品質管理と品質保証について解説する。 （121 桑木　光太郎／1回） 医療の質を管理するための評価方法と外部に向けた評価結果の公表と取り扱いについて解説する。	オムニバス方式 講義27時間 演習3時間

専門基礎科目	保健医療福祉とデータの取り扱い	保健医療情報学	本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、保健医療情報の情報科学的認識、医療情報システムの実際、医療情報の標準化の動向、診療情報のセキュリティ管理、個人情報保護の方法などについて学修し、ICTを利用した的確な診療情報管理がいかに保健医療の質の向上に貢献し得るかを学ぶ。いずれの回もコンピューター実習室で実施し、演習により理解を促進させる時間を設ける。 （オムニバス方式／全8回） （12 小原 仁／2回） 医療情報の種類と特徴に応じた取り扱い上の注意を概説する。また行政が進める保健医療の情報化政策についても解説する。 （73 宮本 貴宣／2回） 病院内で利用されている情報システムの種類と構成を概説し、特に電子カルテシステムとオーダリングシステムについては，操作・取り扱い方法を解説する。 （100 松本 晃太朗／2回） 医療情報の伝達、交換、利活用のための標準化と保健医療情報分野に関する標準規格を解説する。 （164 折岡 健太郎／2回） 情報セキュリティの観点から個人が管理する保健医療記録（PHR）と個人情報保護の方法について解説する。	オムニバス方式 講義7時間 演習8時間
		統計学	本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】ほぼ全てのデータサイエンスは統計学を基礎として成り立っている。本授業では統計学の基本的な考え方を修得し初歩的なデータ解析が出来るようになることを目標とする。要約統計量の意味、分布、推定、検定の考え方を学び、そのうえで臨床研究で頻出である t 検定、Mann-Whitney U検定、カイ2乗検定、Fisher正確検定、相関係数について、コンピューターソフトウェアでの実施と共に修得する。本授業を通じて、その後のデータサイエンス関連講義の学修や研究に必要な基礎知識を身に付ける。 （オムニバス方式／全15回） （7 室谷 健太／5回） 講義と演習にて、統計学とデータサイエンス、データの整理、感度・特異度・ROC曲線についての概説と演習指導を行い、授業最終2回には本授業で取り扱った内容の復習・演習を統括、指導する。 （7 室谷 健太、35 古川 恭治、74 大山 哲司／10回）（共同） 講義と演習にて、分布と基本統計量、母集団とデータ・点推定・信頼区間、仮説検定、2群の連続変数の比較、名義変数の比較、相関係数、回帰分析についての概説と演習指導を行う。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義15時間 演習15時間
		データサイエンス基礎Ⅰ	本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】臨床研究デザイン、回帰分析に基づく調整解析やリスク因子の探索、生存時間分析といった臨床研究で必須となる知識と技能の修得を目指す。実際のデータセットの解析を通じて現場に近い感覚での演習を行う。後半では統計ソフトウェアRの基本技術を学び、機械学習とAIの基礎を学修する。これからの臨床検査技師が習得しておくべきデータサイエンスの基礎固めを行う。 る。 （オムニバス方式／全15回） （7 室谷 健太／8回） 臨床研究デザイン、回帰分析、生存時間分析などの臨床研究を計画・実施するために必要な統計学的事項について、講義と演習を交えて解説、指導する。 （36 穴澤 務／4回） 統計ソフトウェアRを用いた基本統計学の各種解析法について、講義と演習を交えて解説、指導する。 （100 松本 晃太郎、7 室谷 健太／3回）（共同） 機械学習やAIの基礎的な考え方と活用法について、講義と演習を交えて解説、指導する。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義15時間 演習15時間
		データサイエンス基礎Ⅱ	本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】より専門的にデータサイエンスを学修する。具体的には、①疫学とリスク評価のための統計解析、②機械学習とAIの実践的な活用、③医療経済評価のための考え方の修得、④医療機器の信頼性や妥当性を評価するための統計学的手法の学修、⑤システマティックレビュー論文を読み進めていくために必要なメタアナリシスの学修を進める。これからの臨床検査技師が知っておくことが望まれる実践的なデータサイエンスの修得を目指す。 （オムニバス方式／全8回） （35 古川 恭治、7 室谷 健太／2回）（共同） 疫学・リスク評価について、講義と演習を交えて解説、指導する。 （100 松本 晃太郎、7 室谷 健太／2回）（共同） ビッグデータに対する機械学習的アプローチなどAIの活用について、講義と演習を交えて解説、指導する。 （75 加藤 淳一／2回） マーケティング、特に「市場創造」という課題に対するデータ分析について、医療との関連性を意識させながら、講義と演習を交えて解説、指導する。 （74 大山 哲司、7 室谷 健太／1回）（共同） 医療検査技法や聴きの信頼性や妥当性評価のための統計解析について、講義と演習を交えて解説、指導する。 （7 室谷 健太／1回） システマティックレビューとメタアナリシスについて、講義と演習を交えて解説、指導する。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義7時間 演習8時間

専門科目	病態・病理と疾病	病理学Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人体の病的状態について病理組織学的見地から系統立てて学ぶ。個々の病態は互いに連動することで、さまざまな症状・徴候として人体に現れる。これらを病態生理像として俯瞰することにより「病の理（やまいのことわり）」すなわち病気の原因を理解することを目標とする。本授業は病理学の総論として、全8回の講義にて①遺伝子・染色体異常を含む発生の異常、②組織細胞障害とその修復機構、③物質代謝異常、④循環障害、⑤炎症、⑥免疫異常、⑦腫瘍、⑧老化と死をテーマに取り上げる。	
		病理学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、「病理学Ⅰ」で修得した病理総論的思考をもとに、個々の臓器、システムに出来する病的状況について詳細に学修する。全13回の講義にて①循環器領域、②呼吸器領域、③上部消化管、④下部消化管、⑤肝・胆道・膵、⑥腎・泌尿器・男性生殖器、⑦婦人科、⑧乳腺、⑨内分泌領域、⑩リンパ節・造血器、⑪中枢神経、⑫小児・皮膚・膠原病、⑬骨軟部腫瘍における病的状況を取り上げ、それらが疾患名および検査、診断にどのように結びつくかを学ぶ。	
		病態生理学Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、解剖、生理、生化学など基礎医学を統合した視点に立ち、『人体の生理機能を維持する仕組み』とその一部の『機能が損なわれた病態』について学ぶ。それぞれ「○○学」として学んできた事項を、個体の生命活動の中で捉えなおし、各要素の関連性を認識することにより、2年次から学修する疾病および臨床検査学を理解する下地を作る。主たるテーマは、赤血球のライフサイクルとその異常、止血機構とその異常、心臓のポンプ機能とその異常とし、意識障害の機序と一次救命救急処置の適応と方法についても学ぶ。また、心臓の電気活動と心電図所見の関係については、2年次の専門的な授業で自ら考え、疑問を解決するための基礎力を養う内容とする。	
		病態生理学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、基礎医学の視点から疾病と病態生理、臨床検査学を理解するための統合学修を行う。また、本授業を通じて、2年次の学内実習で取り組む心・血管エコー（「画像検査学Ⅰ」）、筋電図検査（「生理検査学実習」）について、検査を実施する意義や得られる所見の解釈に必要な基礎知識を整理する。これらの授業は、対応する学内実習の日程に配慮したタイミングで実施する。 （オムニバス方式／全14回） （3 武谷 三恵／12回） 心周期と心音・心雑音の発生機序、心臓弁膜症、胎児循環と先天性心疾患、循環血液量の調節機構、浮腫の発生機序と原因疾患、ショックの発生機序と原因疾患、胸痛・腹痛の発生機序、悪心・嘔吐の発生機序、ストレスに対する生体の急性応答・慢性応答、身体運動が発現するしくみ（反射と随意運動/筋の収縮張力と運動単位の動員）、針筋電図・表面筋電図の所見と神経伝導速度の測定方法 （① 西 昭徳／2回） 大脳基底核、小脳、大脳辺縁系の働きとその障害	オムニバス方式
		血液学	本授業の形態は、講義とする。【概要】血液学は、血液および血液細胞を産生する骨髄を含む造血器、リンパ節とその異常（血液疾患）を対象とする学問である。本授業では、各血球の発生分化・形態・機能および凝固線溶系の仕組み、これらの異常により引き起こされる各種血液疾患の病態・検査を学修する。貧血や様々な造血器腫瘍の成因と診断、正常の止血機能を理解する。近年、血液疾患の分子レベルでの解析が進んでいる。これらの原理、検査法、結果の解釈を含め最新の知見についても学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （122 山口 真紀／7回） 血液学総論（造血システム、赤血球系、白血球系、凝固・線溶系疾患） （10 関 律子／4回） 各論（血液・造血器の各種疾患における病態と検査） （123 大屋 周期／2回） 各論（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などリンパ系腫瘍） （76 三好 寛明／1回） 各論（造血組織及びリンパ節の正常構造と疾患） （77 大園 秀一／1回） 各論（小児血液学分野 特に白血病・リンパ腫）	オムニバス方式

専門科目	病態・病理と疾病	臨床医学総論Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】臨床医学総論では、臨床医学における臨床検査の必要性を理解するために、臨床検査技師に必要な臨床医学の知識（疾患概念、病態生理、診断学）を修得し、必要な臨床検査や結果を的確に判断できるようになることを目標とする。本授業では心臓血管内科、消化器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科の医師がそれぞれ以下の領域における専門的な知識を臨床検査技師に必要な観点から講義し、より具体的な理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （132 赤垣 大樹／1回） 心筋虚血をきたす疾患 （131 高橋 甚彌／1回） 不整脈 （133 柴田 怜／1回） 心肥大・電解質異常時の心電図 （124 吉岡 慎一郎／1回） 消化管疾患のうち、逆流性食道炎、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群 （125 福永 秀平／1回） 消化管疾患のうち、食道癌、胃癌、大腸癌 （126 中根 智幸／1回） 消化管内視鏡、直腸肛門機能検査の適応疾患と検査の原理、方法、検査所見 （37 岡部 義信／1回） 胆膵疾患（胆嚢炎、胆石、胆嚢癌、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵癌） （② 有永 照子／2回） 肝臓疾患（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝癌、ウイルス性肝炎、脂肪肝、アルコール性肝炎、自己免疫性肝炎、代謝性肝疾患） （38 野村 政壽／1回） 糖代謝異常、脂質代謝異常をきたす疾患、メタボリックシンドロームの診断基準と病態 （127 永山 綾子／1回） 電解質・必須微量元素・ビタミンの低下症と過剰症、骨粗鬆症 （128 井口 志洋／1回） 糖尿病診療における連続皮下ブドウ糖濃度測定〈CGM〉 （129 蓮澤 奈央／1回） 下垂体疾患（先端肥大症と巨人症、下垂体性小人症、下垂体機能低下症、尿崩症、ADH不適合分泌症候群） （78 蘆田 健二／1回） 甲状腺疾患（機能亢進症と低下症、亜急性甲状腺炎、慢性甲状腺炎）、副甲状腺疾患（機能亢進症と低下症）、副腎皮質疾患（クッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病）、副腎髄質疾患（褐色細胞腫） （130 田口 顕正／1回） 腎・尿路疾患、腎不全の原因・分類・病態・治療	オムニバス方式
		臨床医学総論Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】臨床医学総論では、臨床医学において臨床検査の必要性を理解するために、臨床検査技師に必要な臨床医学の知識（疾患概念、病態生理、診断学）を修得し、必要な臨床検査や結果を的確に判断できることを目標とする。本授業では、呼吸器疾患、感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患・免疫不全、悪性新生物、血液学、産科婦人科疾患、臨床薬理学、中毒について学修し、病態の理解に基づいた臨床検査の必要性の理解と診断・治療における臨床検査の意義を理解する。 （オムニバス方式／全16回） （39 星野 友昭／8回） 呼吸器疾患、感染症、アレルギー疾患、膠原病および類縁疾患、免疫不全 （21 古賀 浩徳／1回） 悪性新生物（総論：癌の基礎と臨床） （79 中村 徹／1回） 悪性新生物（癌のトランスレーション医療） （10 関 律子／1回） 血液疾患 （③ 真田 咲子／2回） 産科婦人科疾患（婦人科疾患、周産期の基本的知識と病的状態） （① 西 昭徳／2回） 臨床薬理学（合理的な薬物療法の実践と個別化医療、医薬品開発と臨床試験） （40 松瀬 博夫／1回） 中毒（CO中毒後遺症）	オムニバス方式

専門科目	病態・病理と疾病	生理検査学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、2年次の「生理検査学Ⅰ」および「生理検査学実習」において修得した各種生理検査の手法とそれぞれの正常所見を踏まえ、特に疾患による病的所見について学ぶ機会とする。実際の画像や波形から正常と異常の区別を修得する。また、生理学的検査における被検者に対する倫理観、各種疾患を有する被検者に検査を実施する上での留意事項についても併せて修得する。 （オムニバス方式／全17回） （9 八木 朝子／1回） 生理検査学Ⅰの総括として、各種生理検査の測定法と、正常者の検査結果について振り返り、生理検査学Ⅱで学ぶべきポイントについて概説する。 （101 木下 隆／2回） 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、睡眠時呼吸障害に罹患した場合に認められる検査所見について、実際の肺機能所見等を用い、正常との違いを概説する。 （131 高橋 甚彌／2回） 循環器系疾患である不整脈、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患に罹患した場合に認められる検査所見について、実際の心電図、心エコー図などの所見を用い、正常との違いを概説する。 （80 安元 眞吾／1回） 精神・神経科疾患であるてんかんに罹患した場合に認められる検査所見について、実際の脳波記録などの所見を用い、正常との違いを概説する。 （42 小路 純央／1回） 精神・神経科疾患である認知症に罹患した場合に認められる検査所見について、実際の脳波記録やMRI画像などの所見を用い、正常との違いを概説する。 （41 小曽根 基裕／1回） うつ病、双極性障害、統合失調症など代表的な精神科疾患や睡眠障害に罹患した場合に認められる検査所見について、正常との違いを概説する。 （102 立石 貴久／2回） 中枢神経の変性・脱髄疾患、感染症、腫瘍、脳血管疾患に罹患した場合に認められる生理検査所見（脳波や筋電図などを中心に）や画像などを用い、正常との違いを概説する。 （81 山田 圭／3回） 神経伝導速度、運動誘発筋電図を含んだ筋電図を主体とした神経機能検査についてその測定方法を概説し、検査結果評価については正常と疾患の場合との違いを概説する。 （103 三橋 亮太／1回） 感覚器の検査である聴覚検査の意義、および測定法と評価法について概説する。 （135 田中 久一郎／1回） 感覚器の検査である平衡機能検査の意義、および測定法と評価法について概説する。 （136 佐藤 文彦／1回） 上気道の正常構造と機能を概説し、上気道および気管カニューレからの微生物検査目的での検体採取の方法と注意点、および感覚器の検査である嗅覚検査の意義と測定法・評価法について概説する。 （134 阿久根 穂高／1回） 感覚器の検査である眼底検査の意義、および測定法と評価法について概説する。	オムニバス方式
		臨床栄養学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、適切な検査データを提供できるようになるため、臨床検査技師に必要な臨床栄養学を体系的に学び、臨床検査との関わりを理解できることを目標とする。そのために消化吸収に必要な解剖、病態、検査を把握し、年齢・ライフステージごとの栄養の在り方、疾患を有する患者の栄養サポートの方法、内容を学ぶ。栄養サポートとしては、医師、栄養士、リハビリテーション部門との連携などチーム医療についても学び、チーム医療における臨床検査技師の役割を考察する。 （オムニバス方式／全10回） （② 有永 照子／3回） 消化器系の各器官の病理解剖、消化吸収機構、消化管の検査、膵機能検査、肝機能検査について、消化器内科医の立場から概説する。 （44 加治 建／2回） ライフステージと栄養（乳幼児期、学童・思春期、青年期、成人期、妊娠期、授乳期）について、小児外科医の立場から概説する。 （43 川口 巧／3回） ライフステージと栄養（更年期、高齢期）、疾患と栄養（栄養サポートチーム、栄養状態の評価と判定）について、栄養療法を専門とする消化器内科医の立場から概説する。 （165 永松 あゆ／1回） 疾患と栄養（疾患・症状別食事療法、病院食、栄養補給法）について、栄養サポートチームで活動する管理栄養士の立場から概説する。 （40 松瀬 博夫／1回） 疾患と栄養（健康づくりと食生活、生活習慣）について、リハビリテーション医の立場から概説する。	オムニバス方式

専門科目	病態・病理と疾病	睡眠医学	本授業の形態は、講義とする。【概要】睡眠の問題は、昼間の生活に支障をきたすだけでなく、事故やヒューマンエラーなどの社会的問題、うつ病などの気分障害、生活習慣病と密接に関係しており、このような現状を踏まえ今後は睡眠の健全化を目指す必要がある。本授業では、過眠や不眠を主訴とする睡眠障害に関して、その検査、診断、治療に関する知識を修得する。また、睡眠医療に精通する教員がオムニバスで講義を担当することにより、睡眠医療が多様な専門領域の医師、臨床検査技師、薬剤師が関与するチーム医療であることへの理解を深める機会ともする。 （オムニバス方式／全8回）（うち1回は共同） （41 小曽根 基裕・9 八木 朝子／1回）（共同） 総論として、睡眠の基礎生理と各種睡眠障害について、概説する。 ※〈41 小曽根 基裕〉は精神神経科医の立場から、〈9 八木 朝子〉は臨床検査技師の立場から概説する。 （138 石井 隆大／1回） 小児科医の立場から、小児における睡眠生理、および成長発達に伴う睡眠と生活リズムの形成について概説する。 （167 橋本 鶴美／1回） 臨床検査技師の立場から、睡眠障害を診断する検査（睡眠ポリグラフ検査、反復睡眠潜時検査）について概説する。 （137 戸次 宗久／1回） 循環器内科医の立場から、睡眠障害の中で最も有病率の高い睡眠時呼吸障害の合併症について概説する。 （45 川山 智隆／1回） 呼吸器内科医の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、持続陽圧呼吸療法について概説する。 （139 佐藤 公宣／1回） 耳鼻咽喉科医の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、外科的療法について概説する。 （168 江崎 和久／1回） 歯科医の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、歯科的療法について概説する。 （166 池田 真由美／1回） 栄養士の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、減量や栄養指導の有効性について概説する。	オムニバス方式・共同（一部）
		臨床病理検討会	本授業の形態は講義し、一部演習が含まれる。【概要】本授業では、実際の剖検症例を通して疾病の治療過程で行われた医療行為と病態生理全般を学ぶこととする。いわゆる「病的状態」であることはどういうことか、具体的に症例を提示しながら教科書を超えた実際の病態から理解を進める。病的状態が組み合わさって人体に及ぼす影響、ひいては死に至る状況について、段階を追って学ぶ。全8回の授業にて、感染症・敗血症、心筋梗塞、糖尿病、悪性腫瘍（2症例）、代謝性疾患、熱傷・外傷、膠原病の症例を対象とする。授業内では、一部の症例課題において、久留米大学病院で開催される臨床-病理検討会（Clinico-Pathological Conference；：CPC）へ参加する。 本授業の到達目標として、症例毎に以下の観点から病態生理を理解することとする：①どのような背景・要因から病的状況が発生したのか、②複数の要因がどのように影響を及ぼし合いながら病態が進行したのか、③病態の進行をくい止めるべく行われた治療に対し、生体はどのように反応したのか。そのため、症例毎に病態生理図を作成して提出することを課す。	講義12時間 演習4時間
		薬理学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、薬物治療を行うために必要な薬理学の基本を学ぶことを目標とする。薬物と薬物受容体の反応（薬力学 Pharmacodynamics）、薬物の生体内での動き（薬物動態学 Pharmacokinetics）について十分に習得し、薬物の有害反応と相互作用について学ぶ。さらに、基本的な薬物の臨床応用と適切な使用法について学び、薬物療法の考え方と実際を理解する。具体的には、臨床検査技師に必要な自律神経作用薬、中枢神経作用薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬についての知識と考え方を取り上げる。また、薬物投与計画に必要な薬物血中濃度測定とTDM（治療薬物モニタリング　Therapeutic Drug Monitoring）についても学修する。 （オムニバス方式／全8回） （① 西 昭徳／4回） 薬理学の概念と薬理作用、薬物の有害反応と相互作用、自律神経作用薬、中枢神経作用薬について概説する。 （61 首藤 隆秀／2回） 感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬について概説する。 （140 黒岩 真帆美／1回） 薬物動態について概説する。 （169 酒井 義朗／1回） TDMによる薬物治療について概説する。	オムニバス方式

専門科目	臨床検査学の基本	臨床検査学・ヘルスサイエンス入門	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、臨床検査技師を目指して専門基礎科目、専門科目を有意義に学ぶことができるよう、各専任教員の専門の立場から、医療検査学科で学ぶ内容と意義・魅力について概説する。臨床検査学の各領域の概要をつかむとともに、医療検査学科独自のプログラムとして、多様で高度な医療のニーズに対応できる臨床検査技師となるために開講されるバイオサイエンス、データサイエンス、マネジメントサイエンスの科目についての概要を学ぶ。 （オムニバス方式／全10回） （① 西 昭徳、② 有永 照子、3 武谷 三恵／1回）（共同） 臨床医学における臨床検査学について、医師の立場から概説し、医療検査学科で専門基礎科目、専門科目を学ぶ際の取り組み方についてのオリエンテーションを行う。 （11 田代 恭子、13 吉野 千代／1回）（共同） 血清検査学入門：血清検体に含まれる成分を解析する検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。 （10 関 律子／1回） 血液検査学入門：血液中の血球成分の数と形態・機能、および凝固・線溶機能を調べる検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。 （5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子／1回）（共同） 微生物検査学・一般検査学入門：血液、髄液、気道分泌物、尿、糞便、穿刺液、膿などの各種検体に含まれる感染症の原因微生物と薬剤感受性を調べる『微生物検査』、および血液以外の体液と糞便に含まれる成分を解析する『一般検査』について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。 （9 八木 朝子／1回） 生理検査学入門：生体の活動や臓器の形態を被検者から直接測定する検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。 （③ 真田 咲子、15 福満 千容／1回）（共同） 病理検査学入門：疾患や病態を診断するため、身体各部位から採取された検体から組織や細胞の標本を作製、観察する病理検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。 （6 真茅 孝志／1回） 医用工学入門：臨床検査では、人体に電磁波を作用させたり、生体で発生する電気活動を記録したりする医用電気機器が用いられる。臨床検査技師として医用工学を学ぶ意義や活用例、学修の仕方を概説する。 （④ 伴 匡人／1回） バイオサイエンス入門：臨床検査技師には、医学や医療の進歩に応じて常に新たな検査手法やデータの解釈・理解を身に付けていくことが求められている。これらの技法の進歩に大きな影響を与えるバイオサイエンス（生命科学）について、概説する。 （7 室谷 健太／1回） データサイエンス入門：検査データの適切な評価、精度の高いデータを得るための検査システムの管理、新たな診断法や治療法を開発するための臨床研究の実施に欠かせないデータサイエンス（情報科学）について、概説する。 （12 小原 仁／1回） マネジメントサイエンス入門：医療の提供は、医療制度と医療施設の適切な在り方の上に成り立つ。また、医療施設で得られる診療情報は、活用の仕方によって提供する医療をより効果の高いものとするために有用である。これからの臨床検査技師として活用できるマネジメントサイエンス（診療情報管理）について、概説する。	オムニバス方式・共同 （一部）
		医学英語	本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、臨床検査の場面で必要な英会話力と、医学・医療の英語論文や英文教科書を読むための英語力を修得するために、臨床検査技師に必要な身体器官の構造・機能、疾患、臨床検査を英語で理解し、説明できるようになることを目標とする。指定教科書「やさしい医学英語（医学書院：青野淳子著）」のチャプターを読み進める形式で講義を行い、13回は身体器官の構造・機能に関する英語表現の理解、1回は検査室での英会話、3回は英語論文検索と医学英文論文の読解と論文要旨のプレゼンテーションを行う構成とする。 （オムニバス方式／全15回） （① 西 昭徳／6回） 講義にて、医学英語基礎、呼吸器系と呼吸器系の疾患、泌尿器系と泌尿器系の疾患、神経系と神経系の疾患、皮膚および感覚器と皮膚および感覚器の疾患、内分泌系と内分泌系の疾患の英語表現について概説、指導する。 （3 武谷 三恵／1回） 講義にて、循環器系と循環器系の疾患の英語表現について概説、指導する。 （10 関 律子／1回） 講義にて、血液と血液の疾患の英語表現について概説、指導する。 （② 有永 照子／2回） 講義にて、消化器系と消化器系の疾患、筋骨格系と筋骨格系の疾患の英語表現について概説、指導する。 （③ 真田 咲子／1回） 講義にて、生殖器系と生殖器系の疾患の英語表現の講義を行う。 （① 西 昭徳、② 有永 照子、10 関 律子／4回）（共同） 講義にて被検者・患者との会話を、演習にて英語論文検索と医学英語長文の読解についての概説、指導を行う。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義24時間 演習6時間
		血液検査学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、2年前期「血液学」で学んだ内容に引き続き、主に血液検査の方法について学ぶ。臨床現場では自動分析機器による分析が主流であるが、基本である用手法を理解する事は重要である。講義内容は、血球計数の用手法と機器分析についての測定原理、末梢血塗抹標本の作製方法や血液細胞を観察するための基本的な染色原理・方法と血球の特徴について学ぶ。凝固・線溶検査では臨床で頻用されるプロトロンビン時間（PT）検査や活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）検査を中心に、基礎と出血性素因の診断に必要な検査を学修する。授業の後半では、血液や骨髄検体などを用いたフローサイトメトリーや染色体検査結果と疾患の診断および結果の判定についても学ぶ。	

専門科目	臨床検査学の基本	血液検査学実習	本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では、血液検体の取り扱い法、血球算定、血液・骨髄形態診断、標本作製、普通染色、特殊染色、止血・血液凝固、線溶系検査など、血液検査の基本手技を身に付けることを目的とする。血液塗抹標本を作製、観察し、各分化段階の形態学的特徴を捉え白血球分類を行う。正常細胞分類を修得した後は、異常細胞の鑑別を行い、その他の検査所見も併せて総合的に診断する力を養う。ここでは造血器腫瘍のWHO分類に基づいた診断を学ぶ。また、止血・線溶・凝固では、これらの質的・量的異常を捉え出血性素因及び血栓性素因の診断に関する検査法を学ぶ。 （オムニバス方式／全30回） （10 関 律子、170 垂水 俊樹、② 有永 照子/12回）（共同） 検体の取扱い、用手法による血球算定、正常骨髄像の観察とスケッチ、異常骨髄像の観察とスケッチ、血液疾患症例検討と解説（赤血球の異常、白血球の異常） （10 関 律子、170 垂水 俊樹、⑤ 糸山　貴子/8回）（共同） 赤血球浸透圧抵抗試験、赤血球沈降速度、血液薄層塗抹標本作製と普通染色、末梢血液像の観察と同定および白血球分類、特殊染色 （10 関 律子、171 岡田 和大、⑤ 糸山　貴子/8回）（共同） 血小板検査、血液凝固検査 （10 関 律子、171 岡田 和大、② 有永 照子/2回）（共同） 凝固疾患症例検討と解説	オムニバス方式・共同
		病理検査学	本授業の形態は、講義とする。【概要】病理検査は、病気の最終診断であり、病期及び治療方針の決定に重要な役割を果たしている。正確かつ迅速な病理診断を可能にするためには、優れた病理組織標本作製が必要不可欠である。本授業では、標本作製の技術（固定、脱脂、脱灰、包埋、薄切、染色、電子顕微鏡技術、病理解剖）を学び、実際の臨床現場ならびに病理学的研究で応用できる知識や技術を身につけ、コンパニオン診断についても理解を深めることを目的とする。さらに、細胞学的検査では、各領域（検体）に出現する細胞形態学的特徴を理解し、正常・良性・悪性細胞の相違点を修得する。また、検体採取法と標本作製法（細胞塗抹法、固定法、染色法）を学び、細胞診断の実際(スクリーニング方法）や細胞診検体の免疫細胞化学および遺伝子検査への応用に関する知識を修得する。最終的には学んだ内容を説明できるようになることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （③ 真田 咲子、15 福満 千容／9回）（共同） 病理検査について、検体処理（固定法、切り出し）、病理解剖、コンパニオン診断、細胞診検査の概要とスクリーニング（正常細胞と悪性細胞の見分け方）、細胞診における細胞採取法と検体処理法、婦人科の細胞診（正常～悪性細胞、感染症）、呼吸器の細胞診（正常～悪性細胞、感染症）、肺がん検診、消化器および泌尿器の細胞診（正常～悪性細胞、感染症）、体腔・乳腺・甲状腺・唾液腺・リンパ節の細胞診 ※〈③ 真田 咲子〉は病理医の立場から、〈15 福満 千容〉は臨床検査技師および細胞検査士の立場から概説する。 （15 福満 千容／6回） 検体処理（包埋、薄切の標本作製法）、一般染色、特殊染色、免疫組織化学染色、ISH法、FISH法、電子顕微鏡技術、授業の最終回で臨床検査技師が携わる病理検査法についての総括	オムニバス方式・共同（一部）
		病理検査学実習	本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では「病理検査学」の講義で学んだ知識を活かし、病理組織標本作製及び各種染色の基本技術を習得することを目的とする。近年コンパニオン診断のために病理検査では標本作製作業手順の見直しや品質・精度管理についての議論が頻繁に行われている。病理組織標本の品質が病理診断に与える影響を理解し、適切な標本作製を習得する。また、確定診断に必要不可欠となる免疫組織化学染色についても習得する。各種の特殊染色においては、染色原理や使用する試薬に関する知識のみならず、疾患との関連性など染色意義についての知識を身に付ける。細胞診においては、細胞塗抹法、固定法、染色法の理解を深め、細胞診断における各細胞の診断基準および判定方法を理解する。最終的には学んだ内容を説明できるようになることを到達目標とする。 （全30回における担当者の役割） （③ 真田 咲子） 病理標本の「切り出し」について概説し、実習に用いる標本を臓器から切り出す。これ以外の実習については適宜、概説・指導を行う。 （15 福満 千容） 「切り出し」時には、補助と見学する学生への指導を行う。これ以外の実習については、実習の企画・各実習項目の概説・指導を行う。	共同
		一般検査学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業で学ぶ一般検査とは、血液以外の検体（尿、糞便、脳脊髄液、喀痰、気管支洗浄液、関節液、穿刺液、精液等：以下、一般検査用検体）に含まれる成分を半定量的または形態学的に分析する検査法である。本授業では、まず、腎臓の解剖・生理学的知識を復習した後、医療現場で検査される一般検査用検体の適切な検体採取法、成分の化学的スクリーニング検査法、光学顕微鏡等を用いた有形成分の形態観察法を学修する。また、本授業の後半には、マラリアを含む主な寄生虫の形態的特徴・感染経路・検査法、およびヒトの体表に寄生したり刺咬吸血して伝染病を媒介したり有毒物質により害を与える衛生動物についても学ぶ。 （オムニバス方式／全24回） （⑤ 糸山 貴子／20回） 一般検査の概要を解説する。具体的には、腎臓の解剖学的基礎知識、尿の生成と排泄を概説し、尿の組成、腎機能検査および一般検査用検体の適切な採取方法と化学的スクリーニング検査（原理、検査法、結果解釈、臨床的意義）、検体の有形成分を光学顕微鏡等で観察する検査法（原理、検査法、結果解釈、臨床的意義）について解説する。 （11 田代 恭子／1回） 質量分析による新生児マススクリーニングについて概説する。 （③ 真田 咲子／2回） 主な寄生虫の形態学的特徴・感染経路・検査法、感染時の症状と病理所見、および関連する衛生動物について概説する。 （10 関 律子／1回） マラリアについて概要、感染経路、検査法、形態学的特徴について概説する。	オムニバス方式

専門科目	臨床検査学の基本	一般検査学実習	本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では「一般検査学」の講義で学んだ知識を活かして、尿検体、糞便検体の化学的スクリーニング検査法、尿沈渣検査法、髄液細胞数算定検査法の技術を習得し、各検査結果の解釈と判定を学ぶことを目的とする。また、本授業の後半には寄生虫検査の実技を含めることとし、糞便の虫卵検査法の習得、および光学顕微鏡を用いた主な寄生虫と衛生動物、血液塗抹標本のマラリアの形態観察を行う。 （オムニバス方式／全30回） （⑤ 糸山 貴子、11 田代 恭子／14回）（共同） 尿の化学的スクリーニング検査（測定項目：pH、比重、蛋白、アルブミン、Bence Jones 蛋白、糖、アセトン体、ビリルビン、ウロビリノゲン、血尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿、インジカン、バニリルマンデル酸、妊娠反応）、および便中ヘモグロビン検査 （⑤ 糸山 貴子、170 垂水 俊樹 ／10回）（共同） 尿沈渣標本の作製と尿中有形成分（赤血球、白血球、上皮類、円柱類、結晶等）の観察、模擬髄液検体を用いた細胞数算定 （③ 真田 咲子、⑤ 糸山 貴子／4回）（共同） 主な寄生虫の形態学的特徴の観察、模擬糞便検体を用いた虫卵検査法、関連する衛生動物の形態観察 （10 関 律子、⑤ 糸山 貴子／2回）（共同） マラリアの検査方法と形態観察	オムニバス方式・共同
		臨床化学検査学Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】「臨床化学検査学」は、生化学検査に関する知識と技能を学ぶ科目とする。生化学検査とは、血液、尿をはじめとする体液に含まれる成分を物理学的・化学的・生化学的・免疫化学的方法を駆使して定量的に分析し、それにより健康・病態の評価を行う検査法である。本授業では、信頼される生化学検査値を報告するために検体採取から検査結果報告までの一連のプロセスを、総論として学ぶ。さらに血液検体成分の生化学検査に用いられる基本的な各種測定法とその原理を学んだ後、各論として、電解質、糖質、脂質、ホルモン、ビタミンの生化学検査法について学修する。 （オムニバス方式／全15回） （11 田代 恭子／4回） 生化学検査の特徴・測定体系、測定値の管理、生理的・測定技術変動、自動分析法について概説する。 （④ 伴 匡人／3回） 基本的な分析方法（分光光度分析法、クロマトグラフィ、電気泳動、マススペクトロメトリ、免疫化学的分析法、電気化学分析）とその原理について解説する。 （13 吉野 千代／8回） 生化学検査法各論（電解質、糖質、脂質、ホルモン、ビタミン）の測定原理、基準値、測定の意義）について解説する。	オムニバス方式
		臨床化学検査学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では「臨床化学検査学Ⅰ」に引き続き、生化学検査法の各論として、各種成分の分析方法と基準値、および測定の意義を学ぶ。次に、生化学検査項目のうち、疾患の有無や病態の変化・治療効果を評価するのに有用な『疾患マーカー』に着目し、各種マーカーと疾患や病態の関係について学ぶ。また、一般的に血清検体から同時測定した複数の生化学検査項目のうち、異常なデータの組み合わせと逸脱度から病態や重症度が評価されることから、授業の後半に、症例の生化学検査データ一覧を読み取り、病態を考察するトレーニングを行う。 （オムニバス方式／全15回） （13 吉野 千代／10回） 生化学検査法各論として、タンパク質（総タンパク、アルブミン、免疫グロブリンやその他の血漿タンパク）、非タンパク性窒素化合物（アンモニア、尿素窒素、クレアチンとクレアチニン、尿酸、ビリルビンなど）、各種酵素（AST、ALT、LD、γ－GT,アミラーゼ、クレアチンキナーゼなど）、骨代謝マーカー（骨型アルカリホスファターゼなど）の測定原理、基準値、測定の意義について解説する。各種病態の指標となりうる疾患マーカーとしては、心不全や心筋梗塞、肝・胆道・膵疾患、腎機能障害、糖・脂質代謝異常、悪性腫瘍などについて、基礎的事項と臨床検査技師の関わり方を概説する。 （② 有永 照子、13 吉野 千代／5回）（共同） 協同学習方式5～8症例の生化学データの検討を行う。協同学習方式により、グループ学習の成果をクラスで共有・討論をしながら問題意識を持たせ、理解を深めさせる。行う。 ※〈② 有永 照子〉は医師の立場から、病歴、症状、診察所見、診断、治療への応答とも関連づけながら病態を推察できるよう助言し、解説する。 ※〈13 吉野 千代〉は臨床検査技師の立場から、検体採取条件まで考慮した生化学検査データの解釈の仕方について解説するとともに、協同学習の円滑な進行を図る。	オムニバス方式・共同（一部）
		臨床化学検査学実習	本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では試薬調製から用手法による一連の測定過程を実践することで生化学分析の測定原理および操作技術を修得することを目標とする。また「化学」「生化学」「臨床化学検査学Ⅰ、Ⅱ」で学んだ知識をもとに、測定結果を解釈し、測定値の臨床的意義の理解を図る。到達目標として、①適切な器具の取り扱いから廃液処理までができる、②ランベルト・ベールの法則を用いてモル吸光係数を求めることができる、③検量線を作成できる、④試薬の精度保証について説明できる、⑤各種生体内目的物質の測定原理の理解、測定試薬の調製、操作技術の修得、測定結果の解釈ができる、⑥酵素のKm値、モル吸光係数について説明できることとする。操作法の修得のため、学生当番が調製した試薬を使用し、各自で測定操作を実践する。自身が定量分析した測定結果の解釈について、終了時には班ごとに口頭試問を受ける。 （オムニバス方式／30回） （11 田代 恭子、13 吉野 千代、④ 伴 匡人、172 三栖 徹也／4回）（共同） 吸光度分析、Km値測定、モル吸光係数の算出 （11 田代 恭子、13 吉野 千代、172 三栖 徹也／10回）（共同） 試薬の精度検討（ツインプロット図作成、併行精度、希釈直線性）、LD測定、採血管の違いや熱処理の影響によるアルカリフォスファターゼ活性値の変化 （11 田代 恭子、13 吉野 千代、172 三栖 徹也、173 齊藤 弘子／4回）（共同） グルコース測定、トリグリセライド測定 （11 田代 恭子、13 吉野 千代、172 三栖 徹也、174 吉冨 史美／12回）（共同） 総タンパク、アルブミン測定、血清タンパク分画、尿素窒素測定、クレアチニン測定、尿酸測定、ビリルビン測定	オムニバス方式・共同

専門科目	臨床検査学の基本	免疫学実習	本授業の形態は、実習とする。【概要】免疫は、生体防御機構として重要な働きをする一方で、輸血や移植を実施した際に生体に有害事象を引き起こす要因ともなる。本実習では、輸血や移植の際に起こりうる免疫反応に関わる分子・細胞について理解を深めるために、ヒトの血液検体を用いて凝集反応、溶血反応の観察やリンパ球サブセットの解析などを行う。本実習を通じて、補体や抗体の構造と機能、主要組織適合遺伝子複合体、リンパ球の種類と機能について学び、臨床検査でも用いられるフローサイトメトリーやELISA法について理解し原理や方法を説明できるようになることを目標とする。準備学習やデータの考察、発表は、協同学習方式にて、小グループ内での話し合いとグループ間での話し合いを積み重ねながら進める。 （オムニバス方式／全15回） （62 小松 誠和／3回） 実習の概要とグループ学習の進め方（初回）、実習の総括（最終2回） （62 小松 誠和、11 田代 恭子／6回）（共同） 抗体による赤血球凝集反応の観察、補体による溶血反応の観察、ELISAによるサイトカイン測定 （62 小松 誠和、119 岡田 季之／2回）（共同） 主要組織適合遺伝子複合体の測定 （62 小松 誠和、10 関 律子、119 岡田 季之／2回）（共同） フローサイトメトリーを用いたリンパ球サブセットの解析 （62 小松 誠和、10 関 律子／2回）（共同） リンパ球の分離と培養	オムニバス方式・共同 （一部）
		免疫検査学	本授業の形態は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】免疫検査学は、抗原抗体反応を主とする免疫学的手法を臨床検査に応用する学問である。本授業では、免疫学的検査が有用な疾患について、診断と病態の評価に用いられる免疫検査法の種類と臨床的意義について学修する。また、臨床検査で用いられる試験管内の抗原抗体反応の基礎（検査法の種類、原理、方法、臨床的意義、結果の解析）を講義で学んだ後、実習にて実技と結果判定を行い、実践を通じて理解を深める。 （オムニバス方式／全10回） （③ 真田 咲子／2回） 講義にて、免疫学的検査が有用な疾患（感染症、腫瘍性疾患、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症）について、概説する。 （11 田代 恭子／4回） 講義にて、免疫学的検査の原理として、試験管内抗原抗体反応の基礎（凝集反応、沈降反応、溶解反応、補体結合反応、中和反応の特徴と原理）、非標識免疫測定法と標識免疫測定法（酵素免疫測定法、発光免疫測定法、蛍光免疫測定法、イムノクロマトグラフィ法）について概説する。さらに、免疫学的検査の実際として、各種感染症を診断するための免疫学的検査、アレルギーの種類と血清IgEや好酸球の測定法、自己免疫疾患関連検査、免疫不全症関連検査、腫瘍性疾患と腫瘍マーカー検査、血清タンパク異常症関連検査について概説する。 （11 田代 恭子、13 吉野 千代、175 牟田 誠矢 ／4回）（共同） 講義、実習にて、以下を概説、指導する：電気泳動法の基礎（免疫電気泳動法、ウエスタンブロッティング法の特徴と原理）と実際（電気泳動法における測定操作の実践および判定）、抗核抗体検査の基礎（間接蛍光抗体法における抗核抗体の種類と関連疾患）と実際（蛍光顕微鏡を用いた抗核抗体の観察と判定）。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義14時間 実習6時間
		RI検査学	本授業の形態は実習とするが、前半3分の1を講義、後半3分の2で実習を行うものとする。【概要】放射性同位元素（RI）を用いた検査のうち、in vivoの核医学検査として、これまでポジトロン放射断層撮影（PET）やシングルフォトン放射断層撮影（SPECT）の普及、進歩が進んできた。一方、in vitro検体検査は、その多くが酵素免疫測定法（EIA）などのRIを用いない検査に換わっているものの、放射性同位元素を用いた検査が必要なものも存在する。本授業では、講義・実習の形態を交え、放射線の基礎、RIを用いたin vivo、in vitro検査の方法とともに、放射線管理の実際、放射性同位の取り扱いについて学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （104 久志野 彰寛／4回） 講義にて、放射線の基礎、放射線の測定、放射性医薬品とその基本的性質、ならびに検体検査法について概説する。 （177 池末 竜治／1回） 講義にて、体外測定による検査法として、シンチグラフィ、PETにおける臓器別検査の特徴について概説する。 （104 久志野 彰寛、176 那須 沙織、① 西 昭徳、④ 伴 匡人／10回）（共同） 実習にて、放射線管理区域への入退室方法、放射線管理の実際、密封線源の取り扱い、非密封放射性同位元素の基本的取り扱い、半減期の測定、in vitro検査法の実際を概説、指導する。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義10時間 実習20時間

専門科目	臨床検査学の基本	遺伝子・染色体検査学	本授業の形態は、講義とする。【概要】遺伝子解析技術の発展により、がんや遺伝性疾患を中心に多くの疾患の染色体異常や遺伝子変異に基づく分子病態が明らかになっている。これに伴い、診断に染色体検査や遺伝子関連検査を必要となる疾患が増え、感染症においても病原体の同定に遺伝子検査が用いられている。本授業では、臨床検査実務に不可欠な遺伝子診断、分子生物学的検査方法について基本原理を学習し、患者の遺伝子・染色体診断への応用について、各領域を専門とする講師から学ぶ。 （オムニバス方式／全10回） （③ 真田 咲子／5回） DNA診断の総論、in situ hybridization,、PCRの原理と方法、病理診断における遺伝子解析の意義、癌治療における遺伝子解析の意義、の5つのテーマで、病理医の立場から遺伝子解析法、および基礎医学と臨床医学への応用について概説する。 （178 佐藤 悦子／2回） 先天染色体異常症、先天異常における染色体検査の意義、後天性染色体異常による造血器腫瘍について、実臨床で遺伝子・染色体検査に携わる臨床検査技師の立場から概説する。 （39 星野 友昭／1回） がんゲノム医療が特に進んでいる肺癌の遺伝子診断について、呼吸器医の立場から概説する。 （46 渡邊 順子／2回） 先天性異常症候群、先天異常に関する遺伝カウンセリングについて、臨床遺伝専門医、小児科医の立場から概説する。	オムニバス方式
		遺伝子・染色体検査学実習	本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】遺伝子診断技術の急速な発展により、様々な遺伝子疾患や感染症を迅速に検査・診断できるようになった。本実習では、遺伝子検査法の原理と概要を修得する。ヒト培養細胞、酵母、大腸菌を使い、生化学的なDNA抽出・操作方法を学ぶ。さらにPCR法を用いた感染症検出や病原体同定、遺伝子多型診断の実際を、それらを模した模擬実験により体験し、実習班ごとに成果発表まで行う。あわせて、染色体核型貼付け及び核型分析による染色体検査を学ぶ。臨床検査や生命科学研究の現場で、即戦力として活躍するために必要な能力を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （27 齋藤 成昭、④ 伴 匡人/1回）（共同） 遺伝子検査法の概要について説明する。 （27 齋藤 成昭、95 豊田 雄介、113 石川 健、④ 伴 匡人、10 関 律子/12回）（共同） DNA診断検査技術の原理と手技、結果の評価について、以下の課題を用いて概説、指導する：大腸菌からのDNA抽出、制限酵素切断、電気泳動法、真核生物からのDNA抽出、PCRによる遺伝子増幅、PCRによる遺伝子変異・多型検出、PCRによる生物種同定（ゲル切り出し精製法、DNA配列解読法、相同性検索による種の同定を含む）。また、最後の回には実習班による成果発表で指導を行い、理解を深めさせる。 （178 佐藤 悦子/1回） 染色体検査の概要について説明する。 （178 佐藤 悦子、④ 伴 匡人、10 関 律子/1回）（共同） 染色体検査の原理と手技、結果の評価について、以下の課題を用いて指導する：正常染色体と腫瘍性染色体異常の核型写真を用いた染色体核型貼付及び核型分析。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義4時間 実習26時間
		輸血・移植検査学	本授業の形態は、講義とする。【概要】輸血医療は、他人の細胞を輸注するため臓器移植に匹敵する医療行為であり直接患者の生命に関わってくる。安全かつ適正な輸血医療のため、臨床検査技師には免疫学の基本的知識に加え、輸血検査全般に関する知識が必要となる。本講義では、輸血検査の基礎知識（輸血用血液製剤、血液型、不規則抗体、各種検査法の原理や目的等）及び輸血副反応等について学修する。また、2022年の法改正で新たに臨床検査技師の業務となった成分採血を行う操作と医療安全についても学修する。授業の後半は、「輸血・移植検査学実習」で実際に取り扱う輸血検査法について、実習前学修を行う。 （オムニバス方式／全15回） （11 田代 恭子／8回） 総論（輸血の歴史、輸血の種類、輸血用血液製剤の種類と特性、輸血の適応と製剤の選択、輸血前に必要な検査）、ABO血液型、Rh血液型、その他の血液型、不規則抗体検査、交差適合試験、輸血副反応、自己免疫性溶血性貧血と自己抗体、血液型不適合妊娠と新生児溶血性疾患、HLA検査、血小板抗体、顆粒球抗原、移植 （② 有永 照子／1回） 成分採血の原理、操作方法と医療安全 （10 関 律子／1回） 末梢血造血幹細胞採取と移植及びアフェレーシスの現状について （11 田代 恭子、179 藤好 麻衣／5回）（共同） 輸血検査の実際（実習前学修）：血液型の判定（ABO血液型、Rh血液型検査）、不規則抗体検査、カラム凝集法、交差適合試験、直接抗グロブリン試験、ZZAP法による抗体解離法、抗A抗Bによる吸着解離試験	オムニバス方式・共同 （一部）
		輸血・移植検査学実習	本授業の形態は、実習とする。【概要】安全かつ適正な輸血療法が行われるために、臨床検査技師は輸血検査を適切に行い、適合血の選択を実施しなければならない。本実習では、各輸血検査を用手法で行うことで、「輸血・移植検査学」で学んだ原理と方法、結果解析と評価の仕方について理解を深めるとともに、正しい検査手技と結果判定を修得するまでを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （11 田代 恭子、179 藤好 麻衣、⑤ 糸山 貴子／14回）（共同） 血液型の判定（ABO血液型、Rh血液型）、不規則抗体検査（生理食塩法、ブロメリン法、PEGを用いた間接抗グロブリン試験）、カラム凝集法と交差適合試験、直接抗グロブリン試験、ZZAP法による自己抗体解離試験、抗A抗Bによる吸着解離試験 （11 田代 恭子／1回） 実習の総括	オムニバス方式・共同 （一部）

専門科目	臨床検査学の基本	微生物検査学実習Ⅰ	本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では「細菌学」で学んだ知識をもとに、微生物の取り扱いに必要な心構えと基本操作を修得する。感染予防の考え方と方法を学んだ後、無菌操作、細菌のグラム染色標本作製、顕微鏡観察、培地作製、培養、集落観察、薬剤感受性検査を実施し、それぞれの手法や結果の判定・解釈の基本について理解することを目標とする。本科目は、2年次の「微生物検査学実習Ⅱ」にて実際に菌種同定検査、薬剤感受性検査や、ウイルスの分離・同定を行うための準備学習として位置づけられる。 （オムニバス方式／全15回） （5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、181 大坪 直広／9回）（共同） 標準予防策と個人防護具（PPE）の着脱、消毒滅菌、無菌操作、グラム染色と標本観察、培地作製と培養（好気培養、炭酸ガス培養、嫌気培養）、平板培地接種、菌液調整、各種培地接種、菌検索、発育集落の観察 （5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、182 梶原 亮佑／4回）（共同） 基本的な菌種鑑別検査（溶血性、カタラーゼ試験、コアグラーゼテスト、オキシダーゼ試験、確認培地での生化学性状観察） （5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、180 宮本 直樹／2回）（共同） 薬剤感受性検査と判定（ディスク法）	オムニバス方式・共同
		微生物検査学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業の前半は、微生物検査に必要な基本操作、菌種鑑別検査の原理、結果、臨床的意義を学ぶことにより、細菌・真菌の同定および薬剤感受性の解析に必要な基礎知識を修得する。授業の後半は、ウイルスの特徴と分類、代表的なウイルス感染症を学び、ウイルス性状に応じた分離・同定法についても学習する。また、チーム医療として、感染制御チーム（Infection control team：ICT）の活動と臨床検査技師の役割についても学ぶ。 （オムニバス方式／全23回） （5 棚町 千代子／16回） 総論、染色法、培地法、培地（分離培地、選択培地等）の作製法、同定検査（通気性、通性嫌気性グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌、通性嫌気性グラム陰性桿菌、好気性グラム陰性桿菌、微好気性グラム陰性らせん菌、偏性嫌気性菌、真菌の分類・病原性と同定検査、抗菌薬と薬剤感受性検査、材料別検査法（血液、髄液、体腔液など無菌材料、尿、咽頭・鼻腔、喀痰、便など常在菌の存在する材料）、遺伝子検査（PCR法、LAMP法）、チーム医療（ICT） （3 武谷 三恵／3回） 全身感染症の病態生理（敗血症の成立、敗血性ショック、多臓器機能障害） （82 柏木 孝仁／4回） ウイルスの性状と分類、ウイルスの検査、消毒、予防、治療と関係法規、DNAウイルスによる疾患、RNAウイルスによる疾患	オムニバス方式
		微生物検査学実習Ⅱ	本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では、「微生物検査学実習Ⅰ」「微生物検査学」にて修得した知識と手技を用いて、細菌、真菌、ウイルスの培養と同定を行う。培養は細菌に適した条件下（好気培養・炭酸ガス培養・嫌気培養）で行い、同定検査ではグラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌・桿菌の鑑別、薬剤感受性検査では各抗菌薬を用いて結果を判読し、更に薬剤耐性菌の検出方法まで学ぶ。材料別検査ではそれぞれの材料で検出される起炎菌について学び、菌の検出方法を実践的に学ぶ。これらはいずれも実臨床で必要とする手法である。また、培養細胞を用いてウイルスの分離・同定を行い、ウイルス同定のための特殊な手技を修得する。 （オムニバス方式／全30回） （5 棚町 千代子、13 吉野 千代、180 宮本 直樹／4回）（共同） 微生物学的検査の基本操作、グラム染色標本の作製と観察、グラム陽性球菌の鑑別同定、グラム陰性桿菌の血清型別検査 （5 棚町 千代子、13 吉野 千代、184 田代 尚崇／4回）（共同） グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌（通性嫌気性菌）の鑑別同定 （5 棚町 千代子、13 吉野 千代、181 大坪 直広／2回）（共同） グラム陽性桿菌（抗酸菌等）の鑑別同定 （5 棚町 千代子、13 吉野 千代、183 堀田 吏乃／2回）（共同） グラム陰性桿菌（好気性菌）の鑑別同定 （5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、184 田代 尚崇／2回）（共同） 偏性嫌気性菌の鑑別同定 （5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、183 堀田 吏乃／4回）（共同） グラム陰性桿菌（微好気性菌）の鑑別同定、真菌の分類と同定（酵母様真菌、糸状菌） （5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、180 宮本 直樹／4回）（共同） 薬剤感受性検査（ディスク法・微量液体希釈法）、薬剤耐性菌と検査法、材料別検査法と結果の解釈と評価 （82 柏木 孝仁、5 棚町 千代子、15 福満 千容／8回）（共同） ウイルス：培養細胞の継代と封入体による同定、培養細胞を用いたウイルスの培養、ウイルス学的診断（TCID50法）、血清学的診断（HA・HI法） ※<82 柏木 孝仁>は実習の統括、実習内容の概説、指導を行い、<5 棚町 千代子>と<15 福満 千容>は統括者と連携して指導を行い、実習の円滑な遂行を図るとともに実習中の感染防止対策を徹底させる。	オムニバス方式・共同

専門科目	臨床検査学の基本	生理検査学Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人体の生理機能のうち、循環、呼吸、神経の３つの主要な機能を評価する生理検査について学ぶ。各機能をしらべる生理検査の種類とその測定原理、測定方法について学習する。また、検査結果の定量的および定性的な評価については、各講師の専門分野の臨床経験を踏まえた講義を通じて、特に正常所見を習得し、その意義を理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全23回） （9 八木 朝子／5回） 生理検査学総論として、生理検査項目、業務範囲、コミュニケーション能力について概説する。また総合的な生理検査として終夜睡眠ポリグラフ検査についての概説と、生理検査の医療現場における多様なニーズと将来性について概説する。 （101 木下　隆／3回） 呼吸器系検査で、呼吸器官の解剖、構造と機能、ガス代謝の基本的な肺機能の解剖と病態についてと、検査では、スパイロメトリー、特殊肺機能検査（残気量、肺コンプライアンス、呼吸抵抗、クロージングボリューム曲線）について概説する。 （105 松岡 昌信／2回） 呼吸器系検査で、ガス交換能に関する検査について概説する。 （6 真茅 孝志／4回） 呼吸機能を評価する血液ガス検査の測定方法とその評価について概説する。また経皮的ガス分圧測定法の測定方法とその評価についても概説する。循環器系検査である血圧脈波検査の測定方法とその評価方法についても概説する。 （131 高橋 甚彌／2回） 循環器系検査である心電図の講義にて、心臓の解剖と心電図生成の電気現象について概説する。また運動負荷心電図、ホルター心電図については測定法と評価法を概説する。 （141 中野 仁晴／1回） 循環器系検査である心電図の講義にて、心電計の構造と誘導法について概説する。 （142 中尾 英智／1回） 循環器系検査である心電図の講義にて、波形の計測方法、正常心電図について概説する。 （143 芝尾 昴大／1回） 循環器系検査である心音図検査の講義にて、心音の測定方法と評価法について概説する。 （80 安元 眞吾／2回） 脳機能検査である脳波検査の講義にて、脳の解剖、脳波発現機序、脳波計構造の概説と、波形の評価として脳波の基礎律動と正常脳波の概説をする。 （106 佐藤 守／2回） 脳機能検査である脳波検査の講義にて、電極配置、導出法、記録法についての概説と、誘発電位検査の講義にて、測定法と評価法について概説する。	オムニバス方式
		生理検査学実習	本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】本実習は、(1)循環、呼吸、神経・筋機能を測定する各種生理検査の実践、(2)一次救命処置（BLS）の実技訓練で構成する。(1)各種生理検査の実践では、「生理検査学Ⅰ」で学んだ検査の測定方法を理解した上で、実際の装置を用いて、精度の高い検査結果を得るための正しい手技を学ぶ。学生自身が被験者となって検査所見を取得し、その結果の評価を行い、正常な検査所見を理解する。また、被検者となることで患者心理などを理解し、検査者としての患者への配慮や接遇を学ぶ機会とする。 各実習は以下のように進め、項目別に臨床経験豊富な複数名の教員で少人数への指導を行う。 【実施方法】 (1)各種生理検査の実践：①循環機能検査、②呼吸機能検査、③脳波検査/睡眠ポリグラフ検査、④誘発電位検査、⑤筋電図検査と5つの大項目に分け、オムニバス形式で進める。各項目につき講義（ガイダンス1コマ）と実習（実技2～4コマとまとめ1～2コマ）を1セットとする。学年を1クラスとして一斉に行い、小グループ単位で機器を用いた測定と評価を行わせる。 (2)BLSの実技訓練：学年を2クラスに分けて各クラスに1コマずつ実施する（教員はのべ2コマ担当する）。授業では、ガイダンスの後、BLSシミュレーターを用いて全学生に実技を体験させ、指導する。 （オムニバス方式／全30回） （187 中島 雅子、9 八木 朝子／1回）（共同） ①循環機能検査実習のガイダンス：心電図検査、ABI （187 中島 雅子、9 八木 朝子、6 真茅 孝志、189 貞元 祐二／4回）（共同） 標準12誘導心電図、ABIの実際 （9 八木 朝子、189 貞元 祐二／1回）（共同） 循環機能検査実習のまとめ （188 大鶴 翔一、9 八木 朝子／1回）（共同） ②呼吸機能検査実習のガイダンス：スパイロメトリー、特殊肺機能検査 （188 大鶴 翔一、6 真茅 孝志、9 八木 朝子、189 貞元 祐二／4回）（共同） スパイロメトリーの実際（肺活量、分時換気量、1秒率） （188 大鶴 翔一、9 八木 朝子、185 小森 真由美、189 貞元 祐二／2回）（共同） 特殊肺機能検査の実際（機能的残気量、肺拡散能力、クロージングボリューム） （9 八木 朝子、189 貞元 祐二／1回）（共同） 呼吸機能検査実習のまとめ （47 高須 修、9 八木 朝子、① 西 昭徳、② 有永 照子、③ 真田 咲子、3 武谷 三恵、189 貞元 祐二／1回）（共同） 救急蘇生実習（BLSの実技訓練） ※<47 高須 修>がBLSのガイダンスを行い、実習を統括、指導する。<①　西　昭徳>、<② 有永照子>、<③ 真田 咲子>、<3 武谷 三恵>、<9 八木 朝子>、<189 貞元 祐二>は統括者と連携して、実技訓練を指導する。 （9 八木 朝子、186 尊田 夕香里／1回）（共同） ③脳波検査・睡眠ポリグラフ検査実習のガイダンス （9 八木 朝子、186 尊田 夕香里、185 小森 真由美、189 貞元 祐二／4回）（共同） 脳波検査・睡眠ポリグラフ検査の実際 （9 八木 朝子、189 貞元 祐二／2回）（共同） 脳波検査・睡眠ポリグラフ検査のまとめ	オムニバス方式・共同 講義10時間 実習20時間

専門科目	臨床検査学の基本	画像検査学Ⅰ	本授業の形態は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】本授業では、超音波画像検査の基礎的事項と臓器別の検査所見の特徴を学修する。さらに、疾患の病態を理解しながら画像の解析法と画像所見の特徴についてまでを学んだ後、実際に超音波検査機器を用いて実習を行い、学生自身が被検者となって目的とする画像を描出しながら理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （191 伊藤 慎一郎／4回） 講義にて、超音波の基礎（原理、装置と操作）、心臓・血管の検査・画像の解析法、主な心疾患、血管疾患における画像所見の特徴について概説する。 （191 伊藤 慎一郎、② 有永 照子／2回）（共同） 実習にて、心臓、血管の超音波検査の実演、実技の解説と指導を行う。 （144 中野 聖士／1回） 講義にて、主に腹部・体表の超音波検査の原理、装置と操作について概説する。 （48 黒松 亮子／2回） 講義にて、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓の検査・画像の解析法、造影超音波の特徴と方法、主な肝臓、胆嚢、膵臓疾患における画像所見の特徴について概説する。 （190 福島 奈央／2回） 講義にて、消化管、膀胱、前立腺、子宮付属器、乳房、甲状腺、頸部の検査・画像の解析法、主な疾患の特徴について概説する。 （190 福島 奈央、② 有永 照子／4回）（共同） 実習にて、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、消化管、子宮付属器、甲状腺、頸部の超音波検査の実演、実技の解説と指導を行う。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義18時間 実習12時間
		画像検査学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】現代の医療に不可欠な画像診断法の一つである磁気共鳴画像（MRI）は、臨床検査技師が携わることのできる検査である。また、2022年の法改正により、臨床検査技師の新たな業務として、医師が実施する消化管内視鏡検査において消化管病変部の組織を一部採取できるようになった。本授業では、これら2つの検査方法について学習する。MRI検査では、原理、方法、適応、得られる画像の特徴などの基礎を、消化管内視鏡検査では、組織検体の採取を含めた検査の一連の概要と方法、および医療安全について学ぶ。4年次の臨地実習ではこれらの検査を実際に見学する機会があることを踏まえ、検査に携わる際に必要な知識と考え方を身に付ける。 （オムニバス方式／全10回） （② 有永 照子／1回） 画像検査学Ⅱのオリエンテーション （49 内山 雄介／2回） MRIの原理、磁場とラジオ波、禁忌、撮像法の種類（SE、GE、IR法）と強調像の特徴 （83 長田 周治／2回） MRIにおける代表的な組織（水、脂肪、筋肉など）の信号、アーチファクト （192 鈴木 真／3回） MRIの利点と欠点（CTとの比較）、MRIの有用な部位と疾患、MRIの造影剤について （145 向笠 道太／1回） 消化管内視鏡検査の原理、方法と医療安全 （146 大内 彬弘／1回） 消化管内視鏡検査での組織検体の採取手技	オムニバス方式
	チーム医療と臨床検査学の実践に向けて	検査管理総論	本授業の形態は、講義とする。【概要】2年次までは、臨床検査学の各領域について、検査の原理、方法、データの取得と結果の評価・解釈、適応となる疾患・病態を個別に学んできた。本授業では、医療機関において各臨床検査が常に適切に提供されるために、検査部門がどのような体制、手段、配慮を行っているのかについて学ぶ。また、ここであらためて臨床検査技師としての使命と役割について理解を深める。各学習項目についての専任教員による講義の後に、特定機能病院における各種臨床検査を担い、臨床検査に関する国際規格ISO15189認定を取得している久留米大学病院臨床検査部の体制と最新の取り組みについて学ぶ機会を持つ。4年次の臨地実習で検査体制についても自ら学びとる視点を涵養する。 （オムニバス方式／全15回） （5 棚町 千代子、3 武谷 三恵／1回）（共同） 臨床検査技師の役割の変遷と使命 （5 棚町 千代子／3回） 臨床検査の意義と検査体制、臨床検査部門（検体検査）における業務・組織・危機管理・物品管理、検体の取扱いと保存、検査の受付と報告 （5 棚町 千代子、6 真茅 孝志／1回）（共同） 臨床検査における感染対策と安全管理 （9 八木 朝子／2回） 臨床検査部門（生体検査）における業務・組織・危機管理・物品管理、臨床検査における職業管理と情報・人事・財務管理 （193 川野 祐幸／1回） 特定機能病院における臨床検査部門の組織と運営 （11 田代 恭子／1回） 検査の精度認証制度と法規制 （6 真茅 孝志、11 田代 恭子／3回）（共同） 検査の精度管理と品質保証（概略、検査値の単位、誤差と不確かさ、精度管理法） （194 早田 峰子／3回） ISO15189取得施設における精度管理の実際（クオリティマネジメントの概要、内部・外部精度管理の評価、精度保証と医療法改正）	オムニバス方式・共同 （一部）

専門科目	チーム医療と臨床検査学の実践に向けて	医療安全管理学	本授業の形態は、講義とする。【概要】医療では、患者の安全確保を最優先に考え、さらには医療行為に伴うリスクから医療従事者をも守る必要がある。医療安全のための臨床検査技師の取り組みとして、以下が常に求められる：①適切な検体の取扱いと結果のフィードバック、②患者からの検体採取や生体検査における有害事象の発生防止と初期対応、③職種に関わらず、院内の必要な場面での患者、家族、職員へのリスク発生防止と初期対応。本授業では、医療におけるリスクマネジメントの考え方と知識、および適切な医療安全管理を実践するために必要な医療連携体制について学ぶ。授業の後半には、臨床検査技師が実施する各種検体採取に必要な医療安全について学ぶ。本授業を通して、医療安全を第一に、医療チームの一員として役割を果たすための心構えを具体的に修得することを目標とする。 （オムニバス方式／全9回） （51 横山 晋二／3回） 医療安全管理の概念とその必要性、エラーの管理、インフォームドコンセントの必要性と方法、インシデント報告制度、個人情報の保護、インシデントの実例と対策、チーム医療における臨床検査技師の役割（患者急変時とパニック値発生時の対応） （50 渡邊 浩／1回） 感染制御と医療安全、院内感染、感染予防のあり方、感染制御チーム（Infection Control Team: ICT） （② 有永 照子／4回） 臨床検査技師が実施する検体採取の種類、根拠となる法律、静脈採血の方法と安全管理、静脈路確保における安全管理、体液の組成と電解質輸液の種類（静脈路確保における安全管理）、微生物検査目的の検体採取の方法と安全管理（鼻腔・咽頭ぬぐい液、鼻腔吸引、気管カニューレからの喀痰吸引） （84 石井 文人／1回） 微生物検査目的の検体採取の方法と安全管理（皮膚表在組織病変部）	オムニバス方式
		医療安全・検体採取実習	本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】本実習では、臨床検査技師の業務である各種検体採取法、静脈路の確保と電解質輸液への接続、直腸肛門内圧測定のための圧トランスデューサーの挿入の実技訓練を行う。各実習冒頭の講義では「医療安全管理学」で学んだ知識も活用しながら、手法ごとに実施方法、医療安全、患者への配慮を具体的に学修する。各実技訓練ではシミュレーターを使用するが、静脈採血と耳朶からの毛細管採血のみ、実習説明後に採血行為への同意書を提出した学生は、教員の指導下に学生同士の採血まで行う。また、本実習では、各手技を適切、安全に実施する手法にとどまらず、必要な器具や消耗品の管理・取扱い・廃棄法、および患者への配慮とコミュニケーションを含めた一連のプロセスを、反復練習によって修得することを目標とする。行為に伴う有害事象防止の意識と対策を徹底して身に付けるとともに、発生時の初期対応についても学ぶ。 本実習では、一部の内容のみ、2クラスに分けて別の時間帯に開講する。 【実施方法】 (1)分割実施：静脈採血（8回*）では、学年を2クラス（1クラス約40名）に分けて各クラスを別の時間帯に開講する（教員はのべ16回担当する）。 (2)一斉実施：静脈採血以外の実技についても、一度に実施させるのは約40名とする。但しこれらは約半数が実技訓練をしている間、残り半分は課題に取り組むこととし、途中で入れ替えることにより同一授業時間内に学年全体の実習を終えることができるため、学年を1クラスとして実施（授業回数と教員の担当回数は一致）する。 （オムニバス方式／全18回） （② 有永 照子／3回） 講義にて、実習オリエンテーション、臨床検査技師が採血可能な部位、静脈採血における標準採血法の各手順とその理由、毛細管採血法の適応、耳朶採血の各手順およびその理由、各種採血における医療安全について、概説する。 （② 有永 照子、5 棚町 千代子、10 閔 律子、13 吉野 千代、⑤ 糸山 貴子／8回*）（共同） 実習にて、採血器具の取扱いと廃棄方法を指導した後、引き続き、肘窩からの静脈採血（前半：採血針付きホルダーを用いた真空採血、後半：翼状針付きホルダーを用いた真空採血）を指導する。各手技について概説、実演を行った後、5台のシミュレーターを用いて実技訓練を指導する。シミュレーターは交代で使用し、使わない時には学生同士で被採血者への声かけ、駆血帯の巻き方、穿刺部位の選び方など、穿刺以外の一連の動作の練習をさせる。また、各種採血管、太さの異なる注射針を観察させ、用途についても学修させる。 ※本実習のみ、分割実施とする。 ※〈② 有永 照子〉は、実習を統括、指導する。学生が対人採血を行う際には、〈5 棚町 千代子〉、〈10 閔 律子〉、〈13 吉野 千代〉、〈⑤ 糸山 貴子〉（採血業務の経験あり）のいずれかが監督・指導する。実習室にはベッドを配置し、座位と臥位での採血を選択可能にするとともに、気分不良者が発生した場合にはすぐにベッド上で安静を取らせ、〈② 有永 照子〉が経過観察を行い適切に対処する。 （② 有永 照子、5 棚町 千代子、10 閔 律子、13 吉野 千代、⑤ 糸山 貴子、① 西 昭徳、3 武谷 三恵／2回）（共同） シミュレーターを用いて、採血に伴う静脈路の確保と電解質輸液への接続の実技訓練を行う。実習の冒頭には講義を行い、静脈路確保の方法、輸液パックと注入路の操作方法について、感染や空気混入等の防止対策などの注意点を含めて概説する。実技でもこの2点に焦点を当てて修得させ、特に、静脈路確保時の輸液量の調節法や点滴ルートの接続が外れた時の問題点と対処法を体験的に理解させる。また、本実習を通じて、輸液を行っている上肢から採血をしてはいけない理由について考察させる。 ※実習の統括、概説を〈② 有永 照子〉、静脈路確保から輸液の接続までの手技を〈5 棚町 千代子〉、〈10 閔 律子〉、〈13 吉野 千代〉、〈⑤ 糸山 貴子〉、〈① 西 昭徳〉、〈3 武谷 三恵〉が指導する。 （② 有永 照子、5 棚町 千代子、10 閔 律子、13 吉野 千代、⑤ 糸山 貴子／1回）（共同） 実習にて、耳朶からの毛細管採血の実演と概説、指導を行う。教員の監督下に、同意書を提出した学生同士で実施させる。採取した検体を用いてミクロヘマトクリット法を行い、各自のヘマトクリット値を測定するとともに原理と意義について学修させる。 （85 恒松 佳代子、107 前野 里子、② 有永 照子、① 西 昭徳、3 武谷 三恵／4回）（共同）） 微生物学的検査目的の、鼻腔・咽頭拭い液の採取、鼻腔吸引液・気管カニューレからの喀痰採取、皮膚表在組織病変からの検体採取、肛門からの糞便採取、および直腸肛門機能検査における圧トランスデューサーの挿入について、シミュレーターによる実技訓練を指導する。講義と実習の組み合わせで上気道と気管カニューレからの各種検体採取（2回）、皮膚病変と肛門からの検体採取および直腸肛門内圧測定（2回）で実施する。実施時の患者への配慮、声かけと体位の取らせ方は、学生同士で練習させる。 ※〈85 恒松 佳代子〉、〈107 前野 里子〉は講義、実習の統括と指導を行い、〈② 有永 照子〉、〈① 西 昭徳〉、〈3 武谷 三恵〉は統括者と連携して指導する。	オムニバス方式・共同（一部） 講義10時間 実習26時間

専門科目	チーム医療と臨床検査学の実践に向けて	薬品管理学	本授業の形態は講義とし、一部実習が含まれる。【概要】化学薬品を取り扱う場合には、化学物質の特徴と有害性、法規制の有無を踏まえて適切に保管、使用、廃棄を行う必要がある。本授業では、安全に試薬を管理・使用するための知識を身に付けるため、毒物劇物取締法、毒物劇物の性質と取扱い方法などについて、毒物劇物取扱者試験の試験科目に準拠した内容を学ぶ。実習では、化学薬品漏洩による有害事象発生の予防策と初期対応について学び、本学科の学内実習用に備えられている薬品群について、管理と取扱い、および廃棄方法について学ぶ。 （オムニバス方式／全10回） （195 樋口 恭子／8回） 毒物劇物取締法の目的、毒物劇物の製造・輸入・販売、毒物劇物取扱責任者、毒物劇物の取扱いと規則、毒物劇物の譲渡・販売時の手続き、毒物劇物の廃棄・運搬時に対する規則、基礎科学、毒物劇物の性質と毒性、毒物劇物の鑑別と廃棄方法について、講義にて概説する。 （13 吉野 千代、15 福満 千容／2回）（共同） 化学薬品取扱い時の有害事象発生の予防と初期対応を概説し、学内実習用の薬品の取扱い、在庫管理について具体的に指導する。〈13 吉野 千代〉は毒物劇物取扱責任者の資格を有し「臨床化学検査学実習」にて試薬作成の指導を担当する立場から、〈15 福満 千容〉は同資格を有し「病理検査学実習」で試薬の取り扱いを指導する立場から、本実習指導を行う。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義16時間 実習4時間
		ゲノム医療・先端医学	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、ゲノム医療をはじめとする先端の医療や医学研究の話題に触れる、また、現役臨床検査技師で研究活動にも取り組んでいる先駆者の体験談を聴く機会を持つことにより、臨床検査の専門家としての将来像（可能性）について視野を広げることを目標とする。 （オムニバス方式／全11回） （53 秋葉 純／1回） ゲノム医療と病理組織診断との関わり （197 長峯 理子／1回） ゲノム医療と細胞診との関わり （108 植田 浩介／1回） 泌尿器科領域（腎、尿路、生殖器）におけるゲノム医療 （196 橋本 賢勇／1回） 研究、ゲノム治療選択に重要視されるビッグデータと臨床検査技師との関わり （26 太田 啓介／1回） 先端バイオイメージング （147 井形 幸代／1回） 米国における臨床検査技師の働き方 ～心臓ソノグラファーとしての臨床検査業務と研究活動～ （25 小椋 義俊／1回） 病原性大腸菌のゲノム科学 （52 山本 健／1回） ゲノム・エピゲノム解析による疾患発症予測 （③ 真田 咲子／1回） 固形癌微小環境の探索と手法 （46 渡邊 順子／1回） 癌治療と遺伝カウンセリング （16 内村 直尚／1回） 睡眠医療の最前線	オムニバス方式
		チーム医療演習	本授業の形態は、演習とする。【概要】4年次は「臨地実習」にて実臨床の場で臨床検査学の実践を学ぶとともに、卒後、臨床検査技師として社会に参画するための最終的な準備を行う期間である。臨地実習においては、学生といえども一医療従事者としての自覚を持った態度と行動が必須として求められる。本授業では、まず、社会人としての他者への接し方、対面や文書、ITなど各手段における適切なコミュニケーションの実践方法や注意点を再考した後、授業の後半では、適切な患者対応、医療安全を図るための多職種とのコミュニケーションの在り方について、具体的な場面を想定したロールプレイやグループ学習を通じて学ぶことを目標とする。後半部分は、看護学科4年生との合同授業とする。 （オムニバス方式／全8回） （59 酒井 佳世、5 棚町 千代子／4回）（共同） 社会人としてのマナーと思いやり、言葉遣いや身だしなみ、対人および遠隔での面談時の留意点、電話、メールや文書、SNSなどでのコミュニケーションの留意点、などについて、具体的な事例（好ましい例、避けるべき例）を挙げて概説し、実技指導や学生の作成した文書への指導を行う。 ※〈59 酒井 佳世〉が統括者となり、一般的な社会人として、あるいは患者やその家族の視点での事例を概説する。〈5 棚町 千代子〉は、臨地実習の学生の事例、臨床検査技師としての患者対応やチーム医療において遭遇する事例を挙げ、臨床検査の場での応用への意識を向けさせ、授業後半の回に向けた導入を行う。 （5 棚町 千代子、9 八木 朝子、54 益守 かづき、② 有永 照子／4回）（共同） ①生体検査や検体採取時の患者対応を想定したロールプレイを、学生間で実施させる。通常の対応だけでなく、患者のクレームや体調不良発生などへの対応についても行い、各トラブル発生時に取るべき考え方や行動の優先順位について、小グループ内、グループ間で意見を出し合い、考えさせる。 ②検査部門での付添看護師と臨床検査技師の間での患者情報の共有の仕方の留意点について、模擬症例を提示して考えさせる。 ③検査結果に関する報告、確認を臨床検査技師から医師へ行う場合のロールプレイを行い、留意点についても考えさせる。 ※臨床検査技師の立場から〈5 棚町 千代子〉、〈9 八木 朝子〉が、看護師の立場から〈54 益守 かづき〉が、医師の立場から〈② 有永 照子〉が指導する。	オムニバス方式・共同

専門科目	チーム医療と臨床検査学の実践に向けて	臨地実習前技能修得到達度評価	本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】本授業では、臨地実習前までに学生各自が知識・技能・態度を備え、臨地実習において『臨地実習で行う行為』が実施できるようになるために、技能修得到達度評価についての説明を行い、必要な学修・訓練指導を行ったうえで評価試験を実施する。本評価試験（実技・筆記）に合格した者のみ臨地実習に参加することができるため、満たなかった評価項目については再訓練指導・評価を実施する。 （オムニバス方式／全30回） （13 吉野 千代、5 棚町 千代子／1回）（共同） 本授業の目的と実施方法のガイダンス （9 八木 朝子／1回） 標準12誘導心電図の評価内容の概説 （6 真茅 孝志／1回） スパイロメトリーの評価内容の概説 （10 関 律子／1回） 血液検査の評価内容（血球計数検査、血液塗抹標本作製と白血球分画の観察）の概説 （⑤ 糸山 貴子／1回） 一般検査の評価内容（尿定性検査、尿沈査検査）の概説 （11 田代 恭子／1回） 輸血検査の評価内容（ABO血液型検査、RhD血液型検査）の概説 （13 吉野 千代／1回） 生化学検査の評価内容（ピペット操作、吸光度計を用いた標的物質の濃度測定、遠心分離操作）の概説 （5 棚町 千代子／2回） 感染対策と微生物検査の評価内容（手指衛生・感染対策、Gram染色、無菌操作・分離培養）の概説、コミュニケーションと患者接遇の評価内容の概説 （15 福満 千容／1回） 病理検査の評価内容（顕微鏡調整、病理組織標本の作製）の概説 （13 吉野 千代、9 八木 朝子、6 真茅 孝志、10 関 律子、⑤ 糸山 貴子、11 田代 恭子、5 棚町 千代子、15 福満 千容／16回）（共同） 各教員の担当項目に、学生を分散、ローテーションさせ、①技能修得訓練の指導、②到達度評価（実技・筆記試験）の実施、③不合格者への再訓練と再評価を行う。 （9 八木 朝子、6 真茅 孝志／1回）（共同） 標準12誘導心電図、スパイロメトリーの評価結果の総評と解説 （10 関 律子、⑤ 糸山 貴子／1回）（共同） 血液検査、一般検査の評価結果の総評と解説 （11 田代 恭子、13 吉野 千代／1回）（共同） 輸血検査、生化学検査の評価結果の総評と解説 （15 福満 千容、5 棚町 千代子／1回）（共同） 病理検査、感染対策と微生物検査、コミュニケーションと患者接遇の評価結果の総評と解説	オムニバス方式・共同 （一部） 講義28時間 実習32時間
		臨地実習	本授業の形態は、臨地実習（臨床検査を提供している学外の医療施設等での実習）とする。【概要】本授業では、学内で3年間修得した知識をもとに実際の医療現場での見聞と体験を通じて臨床検査の知識と技術を実践で活かすために必要な能力を身に付け、社会に参画・貢献できる資質と態度を育成することを目的とする。実習の内容および臨地実習施設は、『臨床検査技師等に関する法律施行令第18条第4号に定める厚生労働大臣の指定する科目』の基準を満たすものとし、11単位中3単位は生理学的検査（生理検査学および画像検査学）に関する実習とする。残りの8単位には、血液検査学、病理検査学、生化学検査学、尿糞便等一般検査/寄生虫検査学、微生物検査学、、輸血・移植検査学、免疫検査学、臨床検査総合管理学、医療安全管理学に関する実習を行う。また、臨地実習において学生に実施または見学させるべき行為等が守られるよう、学生毎に臨地実習施設の調整を行う。	共同

専門科目	チーム医療と臨床検査学の実践に向けて	臨床検査医学特論	本授業の形態は、講義とする。【概要】4年次後期は、卒業時に臨床検査技師の国家資格を取得し、医療や医学研究の分野での実践を始めるための最終的な準備期間であり、各自の主体性にもとづき、これまで学内や臨地実習で学んできた内容を整理、統合する時期である。本授業では、これらの自学や学生同士での学び合いを円滑に進めるために、臨床検査学の各領域の総括講義をオムニバス形式で実施する。また、久留米大学病院臨床検査部の臨床検査技師を講師に迎え、各領域の臨床検査の最新の動向を踏まえた考え方や検査法についても学ぶ。 （オムニバス方式／全60回） （⑤ 糸山 貴子／2回） 一般検査学 （194 早田 峰子、5 棚町 千代子／2回）（共同） 検査管理総論 （3 武谷 三恵／3回） 臨床医学総論 （9 八木 朝子／3回） 生理検査学（循環機能、神経機能） （6 真茅 孝志／5回） 生理検査学（循環機能、呼吸機能）、医用工学概論 （101 木下 隆／1回） 生理検査学（呼吸機能） （81 山田 圭／2回） 生理検査学（神経・筋機能） （191 伊藤 慎一郎／4回） 画像検査学（心臓・血管の超音波検査） （② 有永 照子／2回） 臨床医学総論、画像検査学（腹部の超音波検査） （13 吉野 千代、198 浜口 拓郎／5回）（共同） 臨床化学検査学 （③ 真田 咲子／2回） 病理学 （15 福満 千容／2回） 病理検査学 （10 関 律子、170 垂水 俊樹／2回）（共同） 血液検査学（血液検査） （10 関 律子、171 岡田 和大／2回）（共同） 血液検査学（凝固検査） （10 関 律子／3回） 血液検査（血球形態） （5 棚町 千代子／3回） 微生物検査学 （11 田代 恭子、175 牟田 誠矢／2回）（共同） 免疫検査学 （11 田代 恭子、179 藤好 麻衣／2回）（共同） 輸血・移植検査学 （163 平 誠一／１回） 医療関連法規 （32 谷原 真一／1回） 公衆衛生学（疫学と予防医学） （72 中尾 元幸／1回） 公衆衛生学（衛生統計、感染症法） （99 山内 圭子／1回） 公衆衛生学（母子保健、学校保健、精神保健） （121 桑木 光太郎／1回） 公衆衛生学（社会保障、国際保健） （98 森 美穂子／2回） 公衆衛生学（環境保健、産業保健） （82 柏木 孝仁／6回） 情報科学（コンピュータ、ネットワークの仕組み）	オムニバス形式・共同（一部）

専門科目	応用選択コース	応用選択コース入門	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業は、科目区分『応用選択コース』のガイダンスである。3年次には4つの応用選択コースから１つを選択し、通年で特定の領域における応用学修を体験することになる。「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」では主に研究活動を体験する。「マネジメントサイエンス応用」では診療情報管理の実際を深く学び、3年次2月には認定資格試験の受験により診療情報管理士の資格取得を目指す。「臨床検査応用」では、各専任教員の指導下に臨床検査学の特定の領域にて実践的な発展学修を行うとともに研究活動も体験する。4年次には「卒業研究」にて各自が学んできたことを成果として発表することとする。 本授業では、①3年次「応用」科目と4年次「卒業研究」の履修方法の説明、②学生が興味ある分野を選ぶために専任教員から各コースの概要紹介、③研究倫理と臨床研究に関するガイダンスを行う。 （オムニバス方式／全14回） （10 関 律子／3回） 応用選択コースの概略と履修方法、研究倫理（倫理綱領、行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など科学者としての心得）、 「臨床検査応用」血液・腫瘍分野での研究 （② 有永 照子／1回） 「臨床検査応用」消化器疾患における研究 （⑤ 糸山 貴子、3 武谷 三恵／1回）（共同） 「臨床検査応用」細胞・組織（泌尿生殖器系）の構造と機能に関する解析と評価 （12 小原 仁／1回） 「マネジメントサイエンス応用」診療情報管理士の資格取得と臨床への応用 （③ 真田 咲子、15 福満 千容／1回） 「臨床検査応用」病理細胞診断学と細胞検査士 （5 棚町 千代子、11 田代 恭子／1回）（共同） 「臨床検査応用」微生物検査学の研究と卒後の資格 / 質量分析学における研究 （④ 伴 匡人／1回） 「バイオサイエンス応用」分子生物学を駆使した生命現象の解明と、研究への応用 （7 室谷 健太／1回） 「データサイエンス応用」 （6 真茅 孝志／1回） 「臨床検査応用」臨床検査の現場で実践できる医療機器の保守管理 （9 八木 朝子／1回） 「臨床検査応用」睡眠生理学の臨床と研究 （13 吉野 千代、① 西 昭徳／1回）（共同） 生化学検査学における研究 ～日常の学修から生まれる疑問を探究へ～ （199 金子 富美／1回） レギュラトリーサイエンスと臨床研究、研究開始前に必要な手続き	オムニバス方式・共同（一部）
		バイオサイエンス応用	本授業は、応用選択コース（選択必修）の１つである。【概要】本授業では、細胞・遺伝子・タンパク質の機能解析や、胚・細胞培養法、遺伝子工学技術などを実際に体験し、これまでに学んだ知識や実験手法の理解を深める。教員指導のもと、学生各自が研究課題を持ち、研究計画の立案方法や、データベースからの情報収集方法、解析結果の評価方法などを学び、科学的な根拠に基づく思考力、問題解決力を修得する。さらにバイオサイエンス研究や先端医療診断に携わる者が必ず身に付けておくべき生命倫理や研究倫理を修得する。 （担当者の指導領域） （④ 伴 匡人） 蛋白質化学や生物物理学手法を用いて、タンパク質機能の詳細解析を目的とした研究課題「タンパク質による生体膜変性機構の解析」、「タンパク質会合体形成機構の解析」の研究指導を行う。 （27 齋藤 成昭、95 豊田 雄介、113 石川 健）（共同） 細胞機能の維持を担う遺伝子群の同定と機能解析を目的とした研究課題「栄養飢餓に対する細胞応答機構の解析」、「染色体の構造維持や分配に必要な遺伝子機能の解明」の研究指導を行う。 （67 佐藤 貴弘） 食欲は健康を維持するために必要な欲求であり、複数のホルモンによって制御されている。ホルモン分泌を誘導する因子に着目した研究課題「食欲を生み出す分子メカニズムの解明」の研究指導を行う。 （96 佐野 浩子） ショウジョウバエを用いて細胞が糖を感知する機構や、糖の感知が異常になった時に疾患が生じる機構解明を目的とした研究課題「ショウジョウバエを用いたヘルスバイオサイエンス研究」の研究指導を行う。 （114 椎村 祐樹） 細胞膜に存在するタンパク質グレリン受容体は、細胞伝達に機能する。グレリン受容体の活性化機構の解明を目的とした研究課題「構造情報を基盤としたグレリン受容体の活性測定」の研究指導を行う。 （66 塩澤 誠司、112 坂井 勇介）（共同） ゲノム編集技術やiPS細胞などの研究手法を用いて、病態解明や創薬応用を目的とした研究課題「ゲノム編集技術を用いた疾患モデルマウスの作成」、「iPS細胞を用いた疾患モデル系の確立」の研究指導を行う。	共同
		データサイエンス応用	本授業は、応用選択コース（選択必修）の１つである。【概要】データサイエンスの背景にある理論や方法を学習し、実社会で統計解析や機械学習法を応用する上で必要となる方法論の修得を目指す。以下の3つの要素について集中的に学修する。Ⅰ．数理統計学：データサイエンスを学習していく上で必須となる統計理論をゼミ形式の輪読会を通じて理解する。Ⅱ．プログラミング：RやSASを利用したデータ加工や解析の実践的なプログラミング技法を身に着ける。Ⅲ．プレゼンテーション：輪読や実習におけるプレゼンテーションを通じて、自身が行ったことをわかりやすく他者に伝える訓練を行う。	共同

専門科目	応用選択コース	マネジメントサイエンス応用Ⅰ	本授業は、応用選択コース（選択必修）の１つであるマネジメント応用コースに属する。授業の形態は講義とし、一部演習が含まれる。【概要】本授業では、日本病院会の診療情報管理士指導者が講師となり、診療情報管理に係る実務的な知識の理解を促進するとともに、具体的な診療情報管理の実践手法についての講義および事例研究を行う。また国際統計分類に関する知識についても体系的に学修する。また、医師が講師となり、診療情報管理を行うにあたり必要な臨床医学の基礎知識の総括講義を行う。本授業の終了後、「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」にて病院実習を行う。 （オムニバス方式／全60回） （12 小原 仁、164 折岡 健太郎／50回）（共同） 診療情報管理Ⅰ（診療情報管理の意義と役割、歴史、関連法規、診療記録の記載方式）、診療情報管理Ⅱ（診療情報管理士について、求められる資質、基本業務、個人情報保護の視点からの保管管理、紙カルテ運用における診療情報管理、電子カルテ運用における診療情報管理、診療情報の提供に係る業務、診療情報管理士による改善への取り組み、診療情報管理士の活動組織）、診療情報管理Ⅲ（DPC精度と実務、医師事務作業補助者業務、がん登録の実務）、国際統計分類Ⅰ（国際疾病分類論、国際統計分類ファミリー論、国際統計分類の利用）国際統計分類Ⅱ（国際疾病分類の基本、疾病分類体系の理解）について、講義と演習を交えて概説する。 （② 有永 照子／10回） 臨床医学の基礎知識について、講義にて総括する。	オムニバス方式・共同 （一部） 講義80時間 演習40時間
		マネジメントサイエンス応用Ⅱ	本授業は、応用選択コース（選択必修）の１つであるマネジメント応用コースに属する。診療情報管理士認定資格の受験要件となる病院実習を行う。【概要】久留米大学病院の診療情報を取り扱う部署にて40時間（5日間）の実習を行う。主に午前中は各部署における以下の業務を見学する：診療情報管理、診療情報請求、医師事務支援、癌登録、医療連携センター、病院経営企画、医療安全TQM（Total Quality Management）。DPCデータをはじめとする医療情報は、患者自身の診療に関わる一次利用だけでなく、「二次利用」により病院の指標となる統計作成や医療の質や効率の評価が行われている。実習では、院内で発生する診療情報や医療情報の処理・編集、医療情報の利活用の実践についても学ぶ。 （担当者の役割） （12 小原 仁） 実習の学科内責任者として、実習の企画と事前の学生指導、病院内担当者と連携した調整、学生指導、総括を行う。個人情報管理と守秘義務については、徹底した指導を行う。 （164 折岡 健太郎） 実習担当教員として、病院内の各部署の見学実習の調整、および実習中の主たる学生指導、総括を行う。 （73 宮本 貴宣） 実習担当教員として、病院内で診療情報利活用の実践方法を指導を行う。	共同
		マネジメントサイエンス応用Ⅲ	本授業は、応用選択コース（選択必修）のつであるマネジメント応用コースに属する。診療情報管理士の認定試験を受験し、資格を取得するための演習を行う。【概要】医療情報を利活用できる高度な医療人材の養成を目標に、診療情報管理士の認定資格取得（2月に資格認定試験）に必要な知識を網羅するとともに、理解と整理を図るため、演習形式で学修を行う。診療情報管理テキストの基礎科目、専門科目全般を取り上げ、診療情報管理士試験の認定水準に到達できるように学ぶ。	共同
		臨床検査応用	本授業は、応用選択コース（選択必修）の１つである。【概要】本授業の選択者は、さらに臨床検査応用の中での専門領域の一つを選択して、各臨床検査部門における特色を活かした実技の修得と研究活動を体験する。テーマは後述するように多様な専門領域から選択することができ、これまでの履修科目をもとに自身がさらに研鑽を深めたい分野に着眼し、自主性をもって取り組む姿勢を涵養する。本授業では、他者との良好なコミュニケーションを築くことにも注力する。また、卒後多彩な活躍が望めるという将来の職業選択への展望についても視野を広げる機会ともする。 （担当者の指導領域、研究テーマ例） （⑤ 糸山 貴子、3 武谷 三恵）（共同） 一般検査における形態検査学の習熟。一般検査学の手法を用いた症例検討。モデル動物の摘出組織の組織学的解析、および機能的解析 （③ 真田 咲子、15 福満 千容）（共同） 細胞診スクリーニングの実践（卒後の細胞検査士資格取得に向けた指導）、組織免疫染色等を用いた症例の病理学的検討 （10 関 律子） 血液疾患の形態診断の習熟、臨床分子生物学的手法による症例検討 （11 田代 恭子、86 岡村 昌尚、130 田口 顕正）（共同） 質量分析装置を用いた一連の研究活動の実践（新たな検体検査法の開発などの探究心を身に付ける）：テーマとして、メタボローム解析による代謝異常症の化学診断、MHPG測定によるストレス度評価、慢性腎臓病におけるエネルギー代謝異常メカニズム解明など。 （5 棚町 千代子） 病原微生物の同定・薬剤感受性評価の技法の習熟（卒後の専門資格取得に向けた指導）、微生物検査の手法を用いた症例検討 （6 真茅 孝志） 臨床検査で使用する医療機器の保守管理の実践に向けた知識と技術の修得、第2種ME技術者の資格取得に向けた指導 （9 八木 朝子） 睡眠生理学と睡眠医療にかかわる検査の測定法、評価方法の修得、スリープラボにおける睡眠研究への参画 （13 吉野 千代、① 西 昭徳）（共同） 生化学検査の手法を用いた精度管理に関わる検討、健常者への介入研究 （② 有永 照子） 腹部超音波検査の習熟、消化器系の形態と機能に関する検討	共同
		卒業研究	本授業の形態は、演習とする。【概要】応用選択コースで行った専門分野の取り組み、研究内容についてまとめ、発表する。データマネジメント選択者は新たに自由課題を用いた研究体験を行う。各コースに参加する3年生に対しては、担当教員の統括下に基本的な手法や考え方、取り組み方などを指導する。各応用選択コースで研鑽した内容をまとめて研究発表の場にて口演する。またデータマネジメント選択者は研究体験を通して将来の就業分野を確認する。各研究をもとに将来の大学院進学、研究職への視野を広げる。	共同

学校法人久留米大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和５年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員		令和６年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	変更の事由
久留米大学					久留米大学				
文学部					文学部				
心理学科	87	1	350		心理学科	87	1	350	
情報社会学科	54	1	218		情報社会学科	54	1	218	
国際文化学科	106	2	428		国際文化学科	106	2	428	
社会福祉学科	52	1	210		社会福祉学科	52	1	210	
人間健康学部					人間健康学部				
総合子ども学科	50	－	200		総合子ども学科	50	－	200	
スポーツ医科学科	70	－	280		スポーツ医科学科	70	－	280	
法学部					法学部				
法律学科	224	4	904		法律学科	224	4	904	
国際政治学科	70	－	280	⇒	国際政治学科	70	－	280	
経済学部					経済学部				
経済学科	157	2	632		経済学科	157	2	632	
文化経済学科	100	2	404		文化経済学科	100	2	404	
商学部					商学部				
商学科	250	－	1,000		商学科	250	－	1,000	
医学部					医学部				
医学科	115	－	690		医学科	110	－	660	
看護学科	110	－	440		看護学科	110	－	440	
					医療検査学科	74	－	296	学科の設置（認可申請）
計	1,445	13	6,036		計	1,514	13	6,302	
久留米大学大学院					久留米大学大学院				
比較文化研究科前期博士課程					比較文化研究科前期博士課程				
比較文化専攻	30	－	60		比較文化専攻	30	－	60	
比較文化研究科後期博士課程					比較文化研究科後期博士課程				
比較文化専攻	12	－	36		比較文化専攻	12	－	36	
心理学研究科前期博士課程					心理学研究科前期博士課程				
臨床心理学専攻	15	－	30		臨床心理学専攻	15	－	30	
人間行動心理学専攻	5	－	10		人間行動心理学専攻	5	－	10	
心理学研究科後期博士課程					心理学研究科後期博士課程				
心理学専攻	5	－	15		心理学専攻	5	－	15	
医学研究科修士課程					医学研究科修士課程				
医科学専攻	8	－	16		医科学専攻	8	－	16	
総合生命科学・バイオ統計学専攻	8	－	16		総合生命科学・バイオ統計学専攻	8	－	16	
看護学専攻	15	－	30		看護学専攻	15	－	30	
医学研究科博士課程					医学研究科博士課程				
生理系専攻	4	－	16		生理系専攻	4	－	16	
病理系専攻	3	－	12		病理系専攻	3	－	12	
社会医学系専攻	8	－	32		社会医学系専攻	8	－	32	
個別最適医療系専攻	20	－	80		個別最適医療系専攻	20	－	80	
ビジネス研究科修士課程					ビジネス研究科修士課程				
ビジネス専攻	12	－	24		ビジネス専攻	12	－	24	
計	145	－	377		計	145	－	377	
久留米大学医学部附属臨床検査専門学校					久留米大学医学部附属臨床検査専門学校				
	40	－	120			0	－	0	令和6年4月学生募集停止
計	40	－	120		計	0	－	0	

都道府県内における位置関係の図面

１．書類の題名

都道府県内における位置関係の図面（校地校舎等の図面 1ページ）

（旭町キャンパス
御井キャンパス
久留米大学医療センター
久留米大学藤山野球場）

２．出　典

Mapion 地図

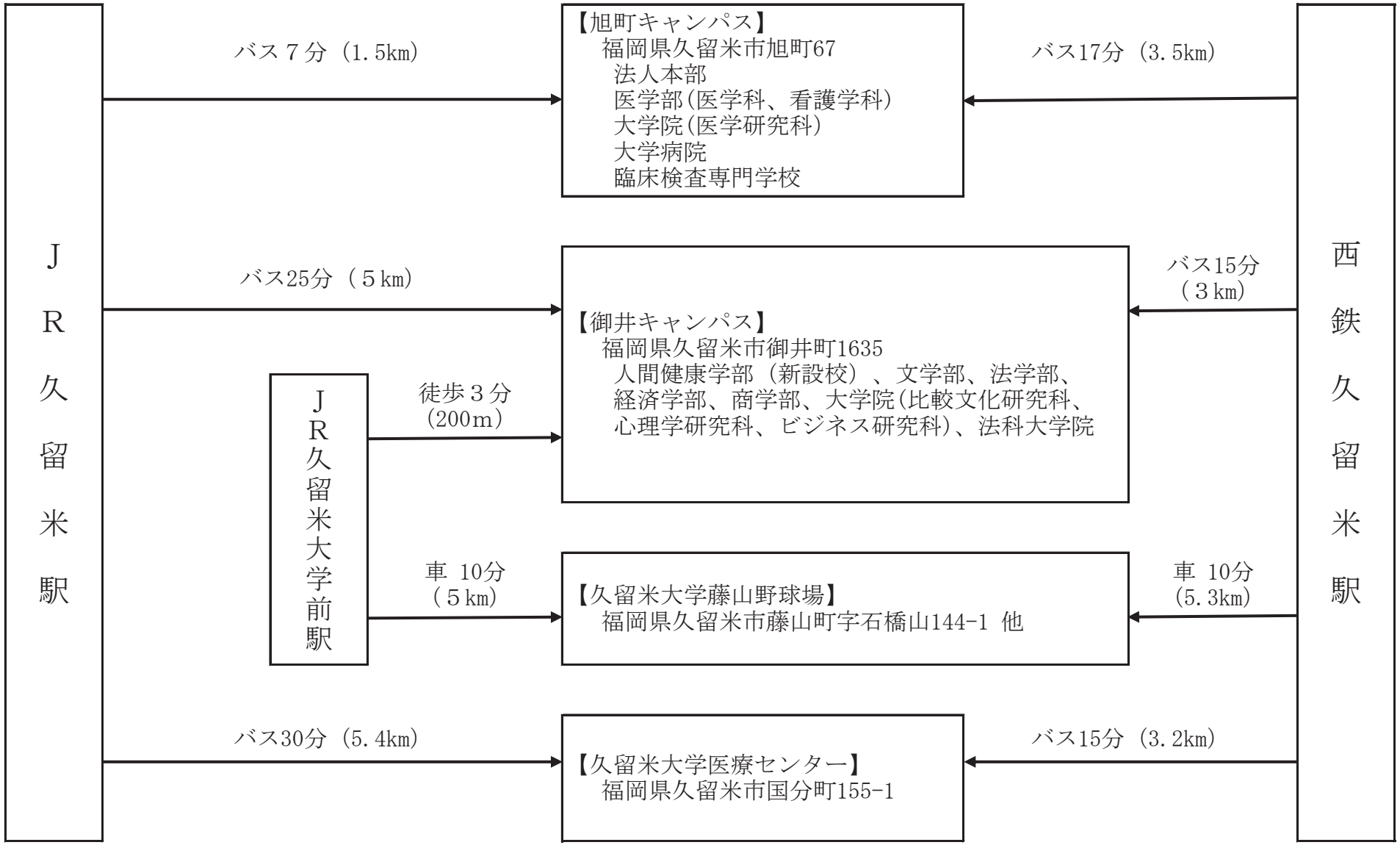
３．引用範囲

http://matome.naver.jp/odai/2138559972274126301/2138559984274206603
より画像を引用

４．その他の説明

久留米大学旭町キャンパス（久留米市旭町 67）、同御井キャンパス（久留米市御井町 1635）、同医療センター（久留米市国分町 155-1）及び同藤山野球場（久留米市藤山町字石橋山 144-1 他）の位置関係を示す地図として、Mapion 地図のウェブページを利用し、各所在地付近に●を付した上、矢印でもって所在施設名称を記した。

○最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

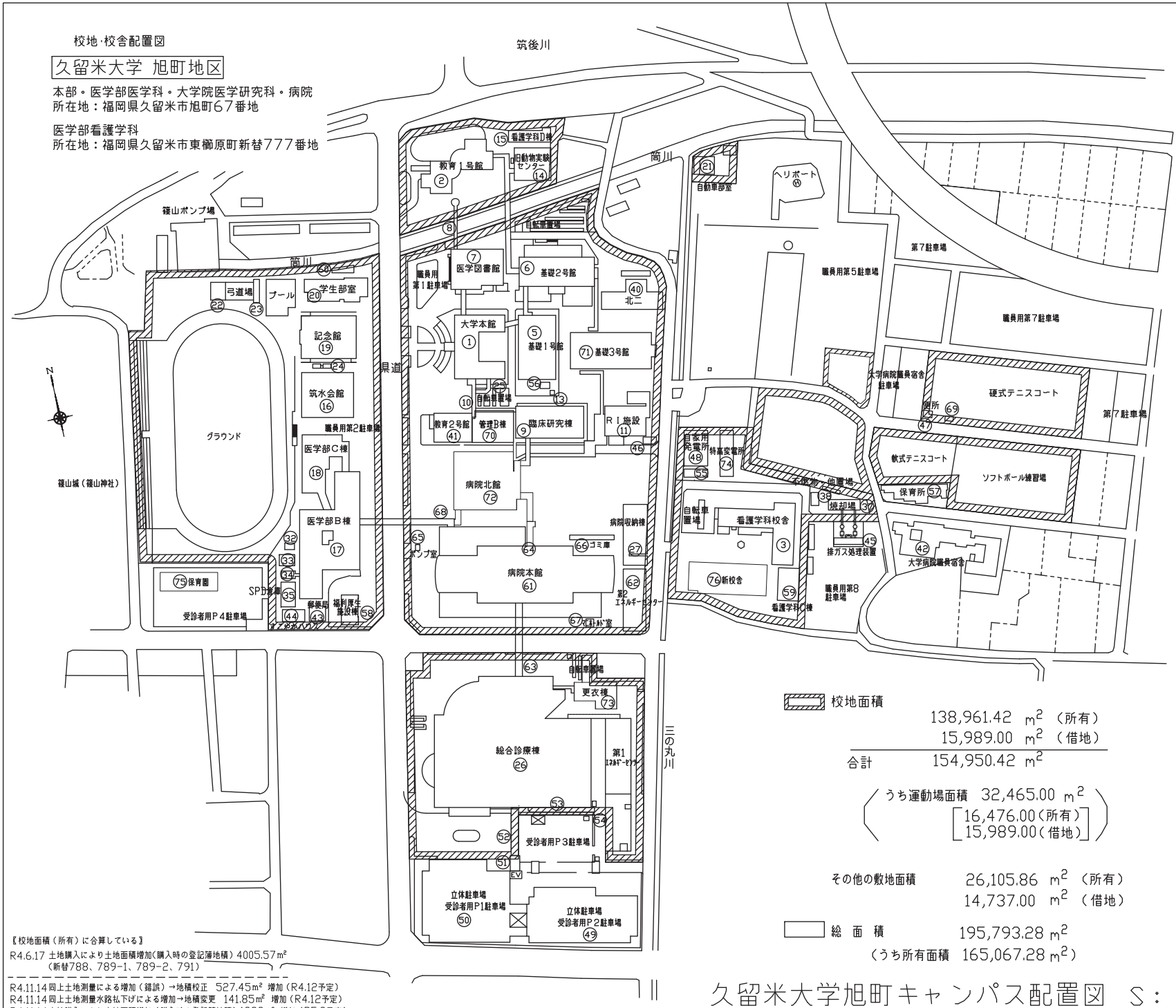


校地･校舎配置図

久留米大学 旭町地区

本部。医学部医学科。大学院医学研究科。病院
所在地：福岡県久留米市旭町67番地

医学部看護学科
所在地：福岡県久留米市東櫛原町新替777番地



校地面積

	138,961.42 ㎡	（所有）
	15,989.00 ㎡	（借地）
合計	154,950.42 ㎡	

（うち運動場面積 32,465.00 ㎡
［16,476.00（所有）
15,989.00（借地）］）

その他の敷地面積　26,105.86 ㎡（所有）
14,737.00 ㎡（借地）

総面積　195,793.28 ㎡
（うち所有面積 165,067.28 ㎡）

〔校地面積（所有）に合算している〕
R4.6.17 土地購入により土地面積増加（購入時の登記簿地積）4005.57㎡
（新替788、789-1、789-2、791）

R4.11.14 同上土地測量による増加（錯誤）→地積校正 527.45㎡ 増加（R4.12予定）
R4.11.14 同上土地測量水路払下げによる増加→地積変更 141.85㎡ 増加（R4.12予定）
R4.11.14 土地購入により土地面積増加（購入時の登記簿地積）1338㎡ 増加（R5.3予定）
（中畑647）

旭町地区建物一覧　（R4.11.1 現在）

	建物名称	構造	面積 ㎡	建築 年月
①	大学本館	RC-3	3,667.47	S. 4. 9
②	教育1号館	RC-6	5,279.48	H. 5. 1
③	看護学科校舎	RC-5	4,355.42	H. 6. 2
4	—			
⑤	基礎1号館	SRC-7	8,834.46	S.56. 3
⑥	基礎2号館	SRC-8	8,909.71	H. 3. 5
⑦	医学図書館	RC-4	2,838.18	S.42. 7
⑧	図書館北側渡廊下	S-1	66.12	S.46. 2
⑨	臨床研究棟	SRC-11	9,700.40	S.63.11
⑩	大学本館～循研渡廊下	W-1	66.11	S.28. 5
11	RI施設（H16.1増築）	RC-3	1,784.26	S.49.10
13	危険物倉庫	RC-1	8.91	H.28. 8
⑭	旧動物実験センター	RC-4	1,480.31	S.45. 1
⑮	看護学科D棟	S-2	415.99	H. 3.10
⑯	筑水会館	RC-3	1,881.08	H.11. 3
⑰	医学部B棟	RC-7	6,828.42	S.39. 3
⑱	医学部C棟	S-2	1,933.79	H. 4. 4
19	石橋正二郎記念体育館	RC(S)-2	2,009.66	H.21. 3
20	学生部室棟	S-3	2,430.80	H.21. 3
21	自動車部室	S-1	135.00	S.49. 4
22	弓道場	S-1	135.00	H. 6. 3
23	的場	CB-1	62.00	H. 6. 3
24	便所棟	RC-1	52.80	H.21. 3
25	自転車置場	S-1	72.00	S.53. 3
26	総合診療棟（ｴﾈﾙｷﾞｰｾﾝﾀｰ等含）	SRC-8	39,319.51	H.10. 1
27	病院収納棟（H16.3増築）	RC-1	665.97	S.42. 8
32	旧外来薬剤部倉庫	S-2	77.76	S.54. 3
33	旧外来空調機械室	S-1	75.00	S.53. 7
34	旧医事課更衣室	S-1	65.61	S.57. 9
35	SPD倉庫	S-1	182.18	H. 4.10
37	病院焼却炉上家	S-1	270.32	H. 7. 3
38	病院焼却不燃物庫	CB-1	48.00	H. 7. 3
39	—			
40	北二	RC-2	1,335.34	S.44. 5
㊶	教育2号館	SRC-5	2,686.65	S.49.10
42	大学病院職員宿舎	RC-5	3,841.18	H. 5.11
43	店舗（郵便局）	W-2	199.45	H.13. 3
44	慢性疾患児家族宿泊施設	S-2	203.50	H.11.10
45	排ガス処理装置機械室	RC-1	99.00	H.14. 9
46	RI施設付属設備棟	S-1	50.04	H.16. 1
47	ソフトボール場他便所	CB-1	27.00	H.15.10
48	自家用発電所	S-1	384.00	H.17. 7
49	受診者用立体駐車場（P2）	S-2	4,947.29	H.10. 1
50	受診者用立体駐車場（P1）	S-3	9,726.15	H.18. 3
51	通路屋根①（総合診南）	S-1	64.05	H.18. 5
52	通路屋根②（総合診南）	S-1	85.20	H.18. 5
53	渡り廊下（総合診南）	S-1	49.45	H.18. 5
54	便所（総合診南）	S-1	10.80	H.18. 5
55	フィーダー盤	S-1	88.55	H.18.12
56	第一分岐所	S-1	27.30	H.18.12
57	保育所	S-1	419.58	H.19. 2
58	福利厚生施設	S-1	229.92	H.19. 8
㊾	看護学科C棟	S-2	631.04	H.20. 7
60	艇庫	S-2	167.95	H.21. 3
61	病院本館	SRC-15	58,043.01	H.22. 9
62	第2エネルギーセンター	S-2	1,488.87	H.21. 2
63	渡り廊下（総合診療棟）	S-2	408.37	H.21. 2
64	東病棟渡り廊下	S-3	293.49	H.21. 2
65	ポンプ室	RC-1	9.80	H.21. 2
66	ゴミ庫	プレハブ-1	88.57	H.22. 9
67	マニホールド室	S-1	15.65	H.22. 9
68	渡り廊下（医学部B棟増築）	S-1	101.06	H.23. 8
69	テニスクラブハウス	プレハブ-1	23.83	H.21. 3
㊿	管理B棟	プレハブ-2	1,205.18	H.28.買取
(71)	基礎3号館	CFT-7	8,273.96	H.30. 2
72	病院北館	S(RC)-5	5,927.13	H.30. 2
73	更衣棟（駐輪場含む）	S-3	1,144.59	H.30.11
74	特高変電所	RC-2	562.82	R. 1.12
75	保育園（屋外倉庫含む）	S-2	701.90	R. 4. 8
(76)	新校舎	CFT-6	6,977.53	R.6.6予定
	計		214,190.92	

（凡例）
RC-3‥‥鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造　3階建
SRC-8‥鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造　8階建
S-1‥‥鉄骨造平家建
CB-1‥‥ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造平屋建
W-1‥‥木造平家建

○ ‥校舎

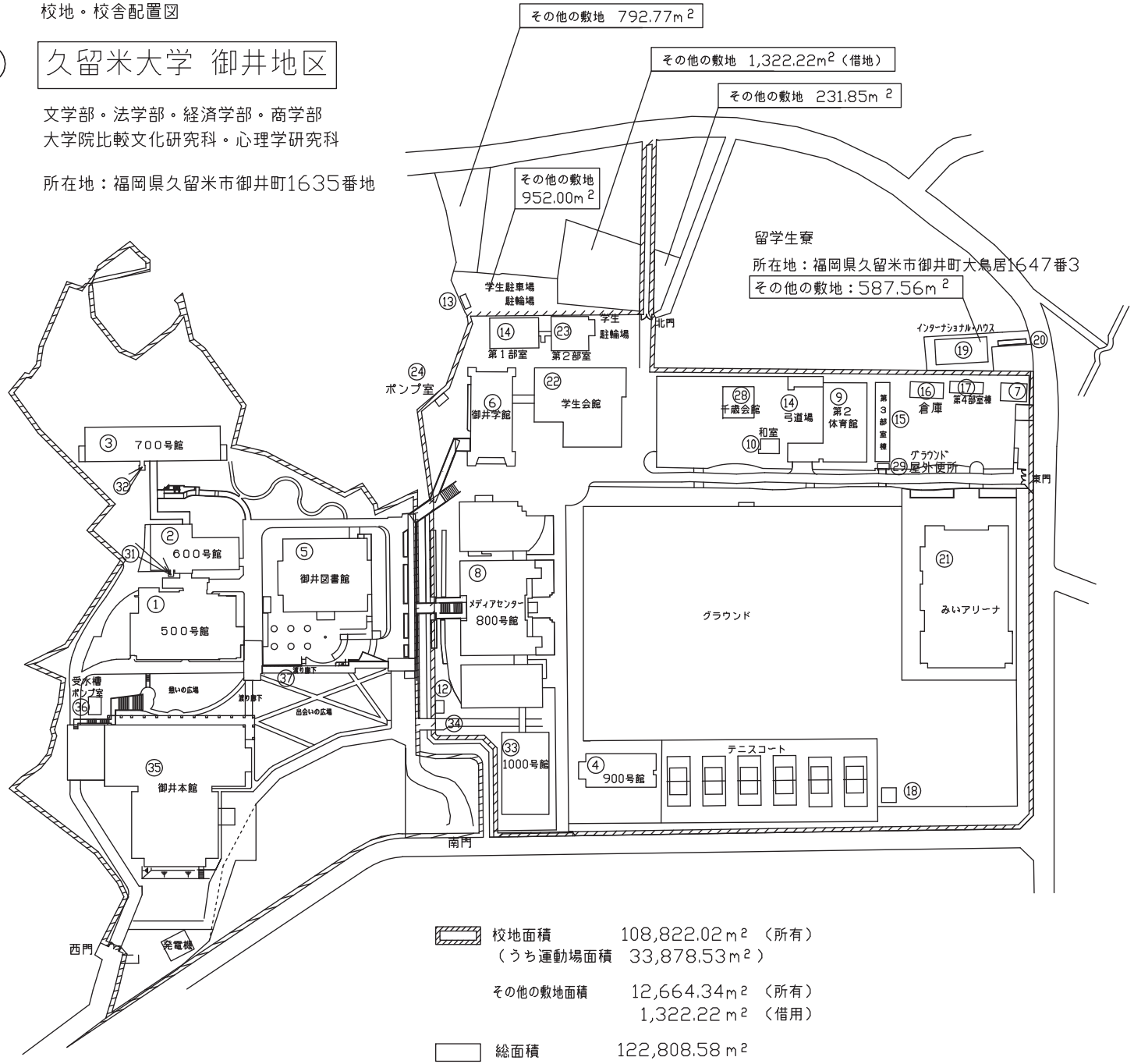
久留米大学旭町キャンパス配置図　S：1/2500

校地・校舎配置図

久留米大学 御井地区

文学部・法学部・経済学部・商学部
大学院比較文化研究科・心理学研究科

所在地：福岡県久留米市御井町1635番地



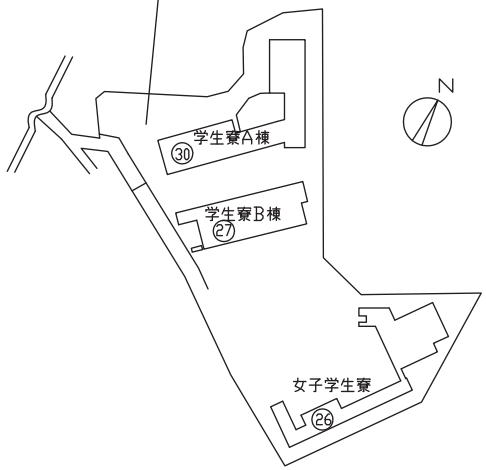
校地面積　108,822.02m²（所有）
（うち運動場面積　33,878.53m²）

その他の敷地面積　12,664.34m²（所有）
1,322.22m²（借用）

総面積　122,808.58m²
（うち所有面積　121,486.36m²）

○ ・・・校舎

学生寄宿舎
所在地：福岡県久留米市御井町堀の上 1552番地
その他の敷地：10,100.16m



御井町地区建物一覧　（R4.5.1 現在）

	建物名称	構造	面積	建築年月
			㎡	
①	教室棟500号館	RC-5・B-1	7,294.46	H12.6
②	教室棟600号館	RC-4	2,705.30	S53.3
③	教室棟700号館	RC-3	3,455.02	S62.2
④	校舎900号館	S-5	2,439.99	H16.2
⑤	御井図書館	RC-3・B-2	5,024.23	H.1.11
⑥	御井学館	RC-4	3,189.90	S49.9
⑦	木工室・倉庫	S-1	113.40	S48.3
⑧	御井メディアセンター(800号館)	S-8・RC-2	10,172.35	H.8.3
⑨	第2体育館	S-2	1,909.15	S54.3
⑩	弓道場	S-1	155.76	S54.3
⑪	和室	W-1	64.80	H.5.10
⑫	器楽室	RC-1	144.65	S54.3
⑬	自動車部部室	S-1	49.65	S48.3
⑭	第1学生部室	RC-5	1,604.31	S49.9
⑮	第3学生部室	RC-2	538.72	S54.3
⑯	倉庫	S-1	116.64	H.1.3
⑰	器楽・庭球部室	S-2	174.96	S48.3
⑱	運動場便所	CB-1	50.16	S54.3
⑲	インターナショナル・ハウス	S-3	822.20	H25.3
⑳	自転車置場	S-1	19.94	H25.3
㉑	みいアリーナ	RC-3	5,412.25	H12.3
㉒	学生会館	RC-4	4,158.63	H.14.11
㉓	第2学生部室	RC-5	1,277.02	H.14.11
㉔	ポンプ室	RC-1	21.00	H.14.11
㉖	女子学生寮	RC-4	1,980.83	S52.4
㉗	学生寮B棟	S-2	986.26	H.15.12
㉘	千歳会館	RC-1・S-1	362.15	H.17.2
㉙	グラウンド屋外便所	CB-1	18.79	H.17.3
㉚	学生寮A棟	S-3	2,871.36	H20.3
㉛	600号館エレベータ	S-4	49.35	H21.2
㉜	700号館エレベータ	S-3	33.57	H21.2
㉝	教育棟1000号館	RC-7	6,184.38	H21.2
㉞	自転車置場（通路下部）	S-1	87.45	H21.2
	小計		63,488.63	
㉟	御井本館（1期工事）	S(CFT)-8	16,004.61	H27.1
	御井本館（2期工事）	S(CFT)-10	12,616.54	H28.8
	御井本館（3期工事）		81.92	H29.8
	小計		28,703.07	
㊱	御井本館ポンプ室		30.00	H27.1
㊲	渡り廊下（御井本館）		13.76	H29.8
	小計		43.76	
	合計		92,235.46	

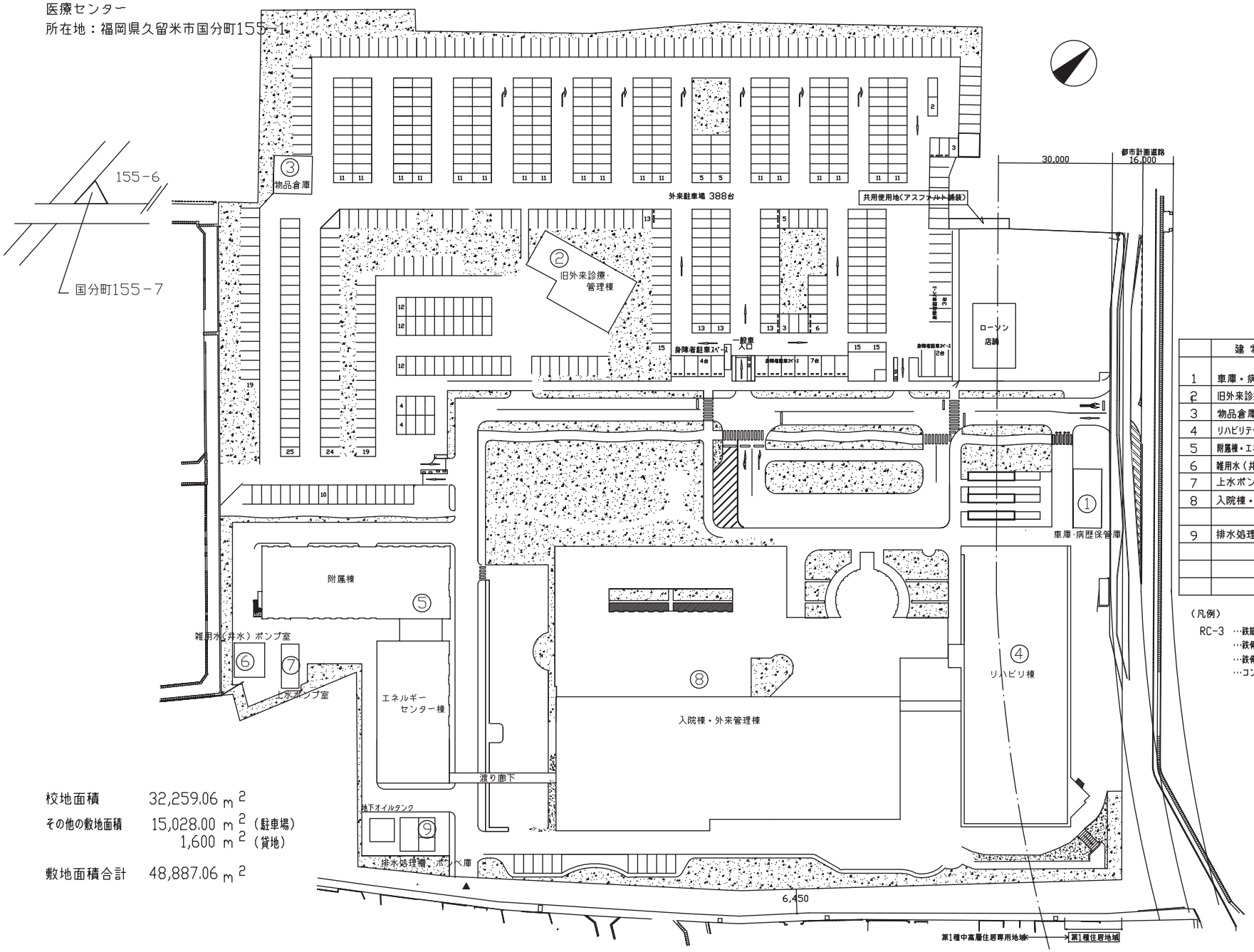
（凡例）
RC-3　鉄筋コンクリート造3階建
SRC-10　鉄骨鉄筋コンクリート造10階建
S-7　鉄骨造7階建
CB-1　コンクリートブロック造平屋
W-2　木造2階建

年号
H-平成
S-昭和

校地・校舎配置図

久留米大学　国分地区

医療センター
所在地：福岡県久留米市国分町155-1



医療センター建物一覧

R4.5.1現在

	建物名称	構造	面積	建築年月
			㎡	
1	車庫・病歴保管庫	RC-1	105.00	S.60. 3
2	旧外来診療・管理棟（増築）	S-2	733.76	H. 8. 2
3	物品倉庫	S-1	98.01	H. 9. 3
4	リハビリテーションセンター棟	RC-2	3,536.06	H.10. 1
5	附属棟・エネルギーセンター棟	S-2	2,480.16	H.16. 8
6	雑用水（井水）ポンプ室		20.00	H.16. 8
7	上水ポンプ室		12.00	H.16. 8
8	入院棟・外来管理棟（1期）	S-5	15,527.21	H.18. 2
	（2期）			H.19. 3
9	排水処理槽、ボンベ庫	CB-1	35.90	H.18. 2
	計		22,548.10	

（凡例）
RC-3 …鉄筋コンクリート造 3階建
…鉄骨鉄筋コンクリート造 5階建
…鉄骨造 平屋建
…コンクリートブロック造 平屋建

年号
H …平成
S …昭和

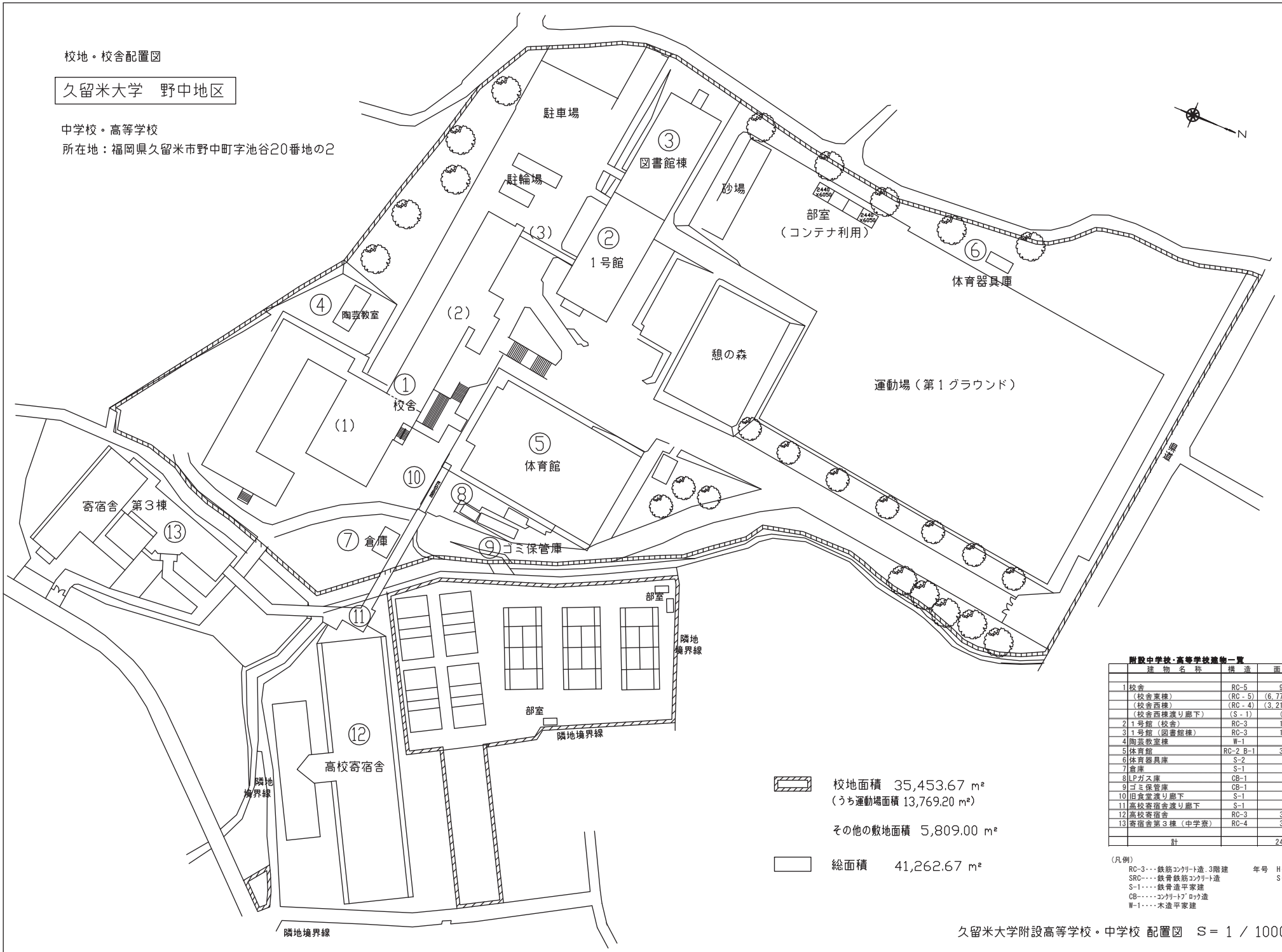
校地面積	32,259.06 ㎡
その他の敷地面積	15,028.00 ㎡（駐車場）
	1,600 ㎡（貸地）
敷地面積合計	48,887.06 ㎡

久留米大学　医療センター
配置図　S＝1／1000（A3）

校地。校舎配置図

久留米大学　野中地区

中学校。高等学校
所在地：福岡県久留米市野中町字池谷20番地の2



校地面積　35,453.67 ㎡
（うち運動場面積 13,769.20 ㎡）

その他の敷地面積　5,809.00 ㎡

総面積　41,262.67 ㎡

附設中学校・高等学校建物一覧　（R4.5.1 現在）

	建物名称	構造	面積 ㎡	建築 年月
1	校舎	RC-5	9,985.64	H.24. 9
	（校舎東棟）	（RC-5）	（6,774.72㎡）	（H.23.7）
	（校舎西棟）	（RC-4）	（3,210.92㎡）	（H.24.9）
	（校舎西棟渡り廊下）	（S-1）	（0.00㎡）	（H.24.9）
2	1号館（校舎）	RC-3	1,742.76	S.58. 2
3	1号館（図書館棟）	RC-3	1,756.98	S.52. 3
4	陶芸教室棟	W-1	72.04	H.13.11
5	体育館	RC-2 B-1	3,505.00	H. 1. 3
6	体育器具庫	S-2	64.80	H. 4. 3
7	倉庫	S-1	40.00	H.23. 7
8	LPガス庫	CB-1	17.71	H. 1. 3
9	ゴミ保管庫	CB-1	35.85	H.23. 7
10	旧食堂渡り廊下	S-1	0.00	S.45. 1
11	高校寄宿舎渡り廊下	S-1	217.12	H.11. 3
12	高校寄宿舎	RC-3	3,999.87	H.11. 3
13	寄宿舎第3棟（中学寮）	RC-4	3,373.53	S.53. 3
	計		24,811.30	

（凡例）
RC-3･･･鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造.3階建
SRC････鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造
S-1････鉄骨造平家建
CB-････ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造
W-1････木造平家建
年号　H･････平成
S････昭和

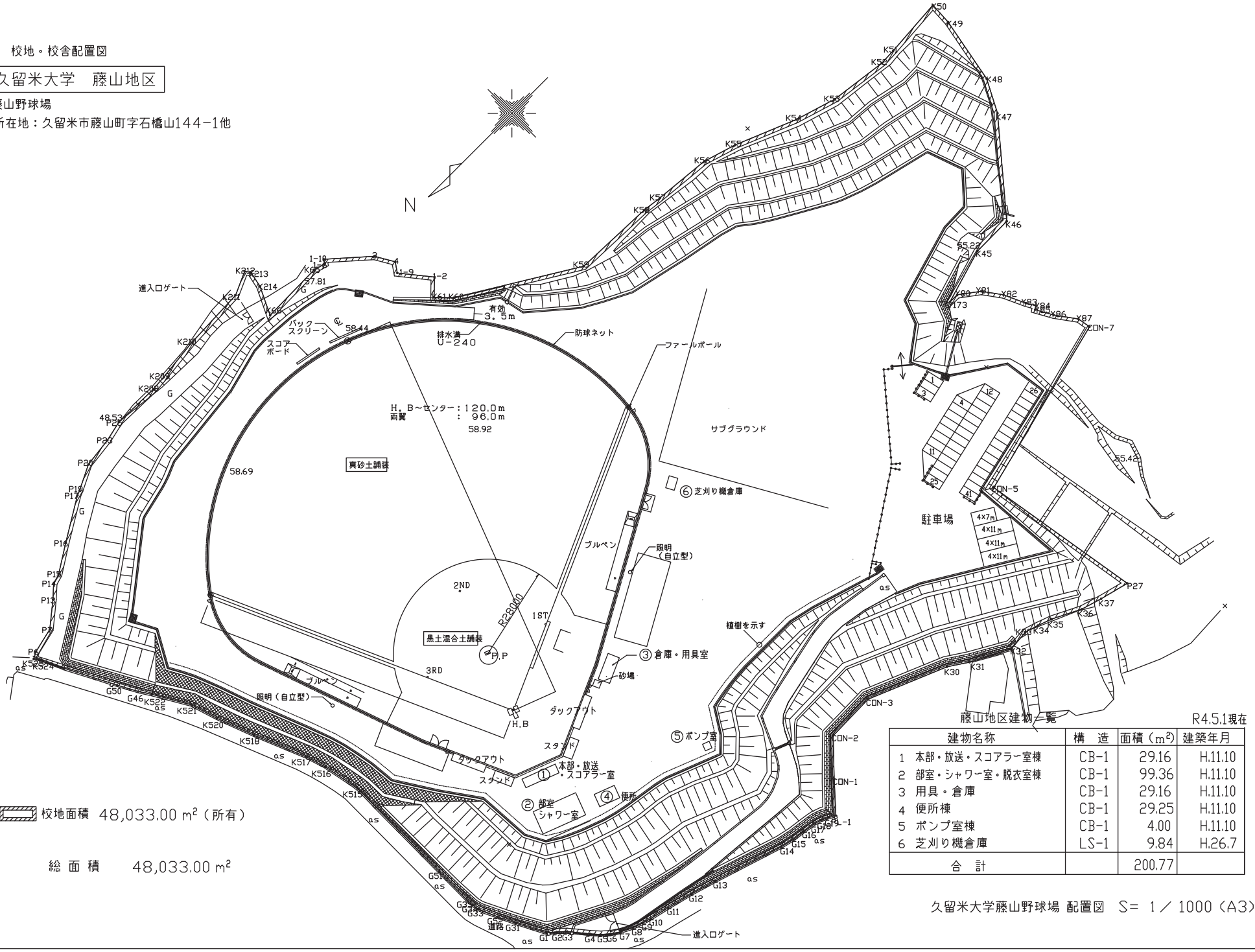
久留米大学附設高等学校。中学校 配置図　S＝1／1000（A3）

校地・校舎配置図

久留米大学　藤山地区

藤山野球場

所在地：久留米市藤山町字石橋山144−1他



校地面積　48,033.00 ㎡（所有）

総 面 積　　48,033.00 ㎡

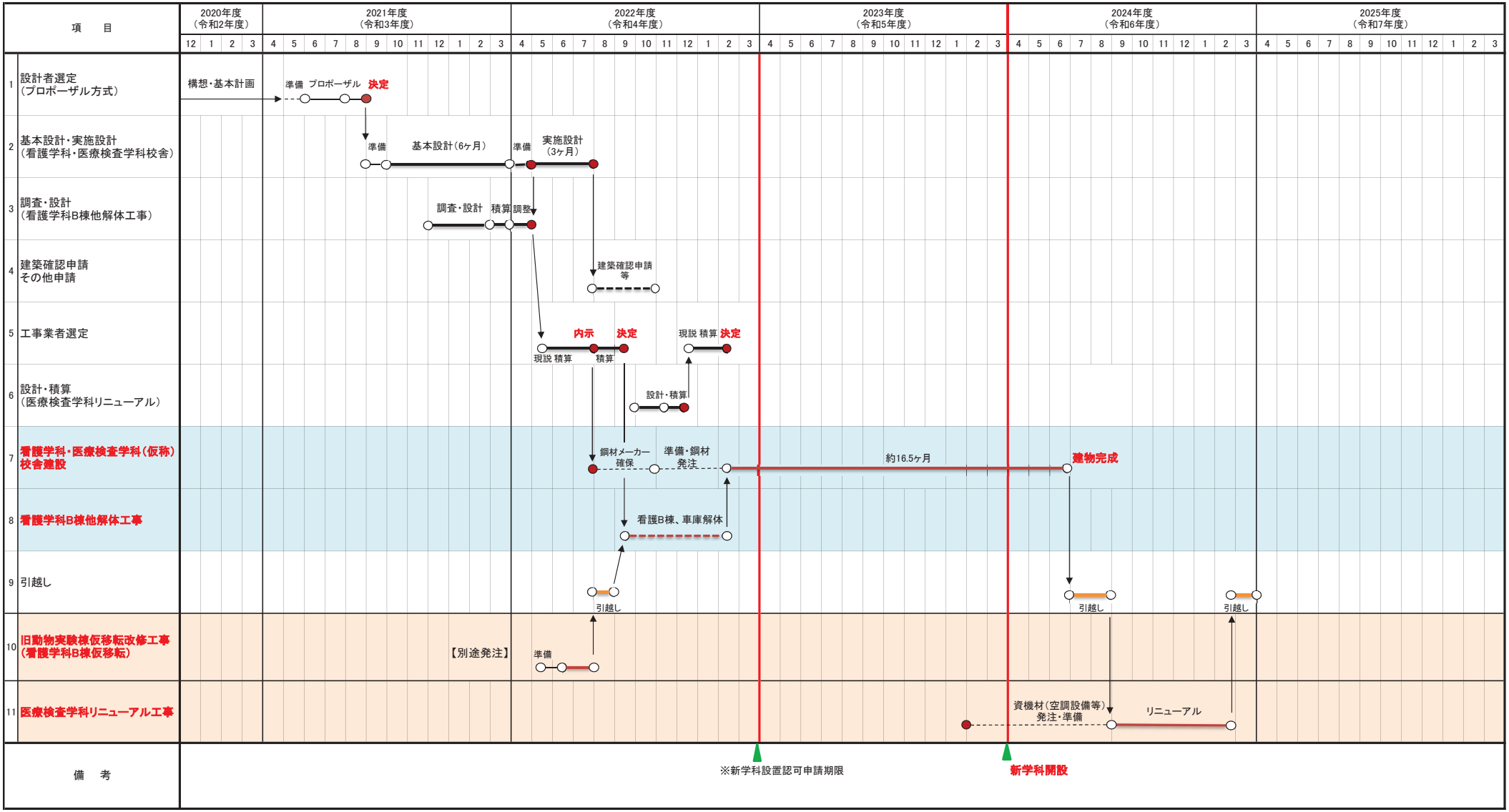
藤山地区建物一覧　　R4.5.1現在

建物名称	構　造	面積（㎡）	建築年月
1　本部・放送・スコアラー室棟	CB−1	29.16	H.11.10
2　部室・シャワー室・脱衣室棟	CB−1	99.36	H.11.10
3　用具・倉庫	CB−1	29.16	H.11.10
4　便所棟	CB−1	29.25	H.11.10
5　ポンプ室棟	CB−1	4.00	H.11.10
6　芝刈り機倉庫	LS−1	9.84	H.26.7
合　計		200.77	

久留米大学藤山野球場 配置図　S= 1／1000（A3）

医療検査学科（仮称）校舎リニューアル工事　事業スケジュール（案）

令和5年3月13日作成



○久留米大学学則（案）

昭和52年２月８日
規則　第51－２号

目次

第１章　総則
第１節　目的及び使命（第１条－第１条の２）
第２節　教育及び研究の組織（第２条－第８条）
第３節　運営の組織（第９条－第13条の２）
第４節　職員（第14条－第22条の２）
第５節　名誉学長、名誉教授、特任教授、客員教授及び客員准教授（第23条－第25条）
第６節　学年及び休業日（第26条・第27条）
第２章　教育に関する事項
第１節　修業年限及び学期の区分（第28条・第29条）
第２節　学生定員（第30条）
第３節　教育課程等に関する事項（第31条－第33条）
第４節　入学に関する事項（第34条－第41条）
第５節　在学年限（第42条）
第６節　転学部、転学科、休学、復学、退学、転学及び留学（第42条の２－第50条の２）
第７節　教員免許状及び資格取得等に関する事項（第51条－第52条）
第７節の２　専攻科に関する事項（第52条の２）
第７節の３　留学生別科に関する事項（第52条の３）
第８節　科目等履修生、外国人学生及び外国人留学生に関する事項（第53条－第57条の２）
第９節　研究生に関する事項（第58条－第68条）
第３章　学納金に関する事項（第69条－第75条）
第４章　表彰、除籍及び懲戒に関する事項（第76条－第79条）
第５章　厚生保健施設（第80条）
第６章　健康診断（第81条）
附則

第１章　総則

第１節　目的及び使命

（目的及び使命）

第１条　久留米大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき総合的専門的教育及び研究を行うことを目的とし、学識深く、教養の高い人材を育成し、併せて学術の進展並びに社会文化の向上に寄与することを使命とする。

２　第３条に規定する各学部又は学科の人材育成及び教育研究上の目的については、別に定める。

（自己評価等）

第１条の２　本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

２　前項の点検及び評価の方法等については、別に定める。

第２節　教育及び研究の組織

（学部及び大学院）

第２条　本学に、学部及び大学院をおく。

２　大学院については、別に定める。

第３条　学部は、次のとおりとし、それぞれ次の学科をおく。

文学部	心理学科
	情報社会学科
	国際文化学科
	社会福祉学科
人間健康学部	総合子ども学科
	スポーツ医科学科
法学部	法律学科
	国際政治学科
経済学部	経済学科
	文化経済学科
商学部	商学科
医学部	医学科
	看護学科
	医療検査学科

第４条　削除

（図書館、研究所等）

第５条　本学に、図書館、研究所等をおく。これについては、別に定める。

（学部附属研究所等）

第６条　学部に、研究所及び研究施設等をおく。これについては、別に定める。

（附属病院）

第７条　医学部に、附属病院をおく。これについては、別に定める。

（公開講座）

第８条　本学に、文化を高揚する目的をもって、公開講座をおくことができる。

第３節　運営の組織

（評議会）

第９条　本学に、評議会をおく。

２　評議会は、本学の教学に関する事項を審議決定し、又は学長の諮問に応ずるものとする。

３　評議会に関する規程は、別に定める。

（大学院合同委員会）

第９条の２　大学院に大学院合同委員会をおく。

２　大学院合同委員会は、学長、各研究科科長及び各研究科委員会の委員若干名をもって組織する。

３　学長は、大学院合同委員会を招集し、その議長となる。

４　大学院合同委員会は、次の事項を審議する。

(1)　大学院学則及び諸規程の制定・改廃に関する事項

(2)　その他大学院に関する事項

（学生部協議会）

第１０条　本学に、学生部協議会をおく。
２　学生部協議会は、学長の諮問に応じ、本学学生の生活の向上及び指導に関する重要事項について協議する。
３　学生部協議会に関する規程は、別に定める。
（御井学舎就職部協議会）
第１０条の２　本学に、御井学舎就職部協議会をおく。
２　御井学舎就職部協議会は、学長の諮問に応じ、御井学舎学生の円滑な就職活動の推進及び就職指導に関する事項について協議する。
３　御井学舎就職部協議会に関する規程は、別に定める。
（教授会）
第１１条　学部に、教授会をおく。
２　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり審議のうえ意見を述べるものとする。
(1)　学生の入学及び卒業に関する事項
(2)　学位の授与に関する事項
(3)　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定める事項
３　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長等（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
４　教授会は、学部の教授をもって組織する。ただし、必要な事項については学部の准教授、専任の講師及び助教を加えることができる。
５　教授会に関する規程は、別に定める。
（事務局）
第１２条　本学に事務局をおく。その組織及び運営については、別に定める。
（学生部）
第１３条　本学に学生部をおく。その組織及び運営については、別に定める。
（御井学舎就職部）
第１３条の２　本学に、御井学舎就職部をおく。その組織及び運営については、別に定める。

第４節　職員

（職員）
第１４条　本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員をおく。これらの定員及び職務については、別に定める。
２　本学に、前項のほか、副学長及び学長特別補佐をおくことができる。
３　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
４　学長特別補佐は、学長の職務を助ける。
（学長）
第１５条　学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
２　学長の選任については、別に定める。
３　学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長があらかじめ指名した順序で、副学長が学長の職務を代理し、又は学長の職務を行う。
（学部長）
第１６条　学部に、学部長をおく。
２　学部長は、当該学部の教授のうちから選出し、学部に関する事項を管掌する。

３　学部長は、教授会を招集し、その議長となる。
第１７条　削除
（図書館長）
第１８条　図書館に、図書館長をおく。
２　図書館長は、教授のうちから補し、図書館に関する事項を管掌する。
（研究所長等）
第１９条　研究所等に所長を、研究施設等にその長をおく。
２　本学附属の研究所等の所長の選出については、別に定める。
３　学部附属の研究所の研究所長及び研究施設等の長は、関係学部の教授のうちから選出し、研究所及び研究施設等に関する事項を管掌する。
（病院長）
第２０条　附属病院に、病院長をおく。
２　病院長は、医学部教授のうちから選出し、附属病院に関する事項を管掌する。
（事務局長）
第２１条　事務局に、事務局長をおく。
２　事務局長は、本学の事務を総括する。
（学生部長）
第２２条　学生部に、学生部長をおく。
２　学生部長は、教授のうちから補し、本学学生の生活の向上及び指導に関する事項を管掌する。
（就職部長）
第２２条の２　御井学舎就職部に、就職部長をおく。
２　就職部長は、御井学舎に所属する教授のうちから補し、御井学舎学生の円滑な就職活動の推進及び就職指導に関する事項を管掌する。

第５節　名誉学長、名誉教授、特任教授、客員教授及び客員准教授

（名誉学長）
第２３条　学長として特に功労の顕著であった者に対し、名誉学長の称号を授与することができる。これについては、別に定める。
（名誉教授）
第２４条　本学の教授として多年勤務した者であって、教育上又は学術上特に功績のあった者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。これについては、別に定める。
（特任教授、客員教授及び客員准教授）
第２５条　本学に特任教授、客員教授及び客員准教授をおくことができる。これについては、別に定める。

第６節　学年及び休業日

（学年）
第２６条　学年は、４月１日から始まり、翌年３月31日に終わる。
（休業日）
第２７条　休業日（授業を行わない日）は、次のとおりとする。ただし、学部長は、教授会の議を経て休業日を変更することができる。
日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第 178号）に規定する日
本学創立記念日　　４月28日
春季休業日　　４月１日から４月10日まで

夏季休業日　　７月11日から９月10日まで
冬季休業日　　12月25日から翌年１月８日まで
学年末休業日　　３月21日から３月31日まで

第２章　教育に関する事項

第１節　修業年限及び学期の区分

（修業年限）

第２８条　学生の修業年限は、４年とする。ただし、医学部医学科については６年とする。

（学期の区分）

第２９条　学期の区分は、学部規則において定める。

第２節　学生定員

（学生定員）

第３０条　学生定員は、次のとおりとする。

		入学定員	編入学定員	外国人留学生定員	収容定員
文学部	心理学科	85名	１名	２名	350名
	情報社会学科	52名	１名	２名	218名
	国際文化学科	102名	２名	４名	428名
	社会福祉学科	52名	１名		210名
人間健康学部	総合子ども学科	50名			200名
	スポーツ医科学科	70名			280名
法学部	法律学科	220名	４名	４名	904名
	国際政治学科	66名		４名	280名
経済学部	経済学科	152名	２名	５名	632名
	文化経済学科	96名	２名	４名	404名
商学部	商学科	240名		10名	1,000名
医学部	医学科	110名			660名
	看護学科	110名			440名
	医療検査学科	74名			296名

第３節　教育課程等に関する事項

（教育課程）

第３１条　学部における教育課程、履修の方法、学習の評価、課程の修了及び進級に関する事項は、学部規則において定める。

第３１条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　文部科学大臣が定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　第１項の授業を外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。

４　文部科学大臣が定めるところにより、第１項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

（卒業）

第３２条　第28条に規定する期間以上在学し、所定の教育課程を履修取得した者には、学士の学位を授与する。
第３３条　卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第31条の２第２項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。ただし、卒業に必要な単位が124単位（医学部医学科にあっては188単位）を超える学部にあっては、その超える部分の単位数を60単位に加えることができる。

第４節　入学に関する事項

（入学の時期）
第３４条　学生の入学の時期は、学年の始めとする。ただし、第39条による入学については、別に定める。
２　第35条第３号及び第４号に該当する者については、教育上支障がないときは、後期の始めに入学させることができる。
（入学資格）
第３５条　学部に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
(1)　高等学校又は中等教育学校を卒業した者
(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
(3)　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(5)　文部科学大臣の指定した者
(6)　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
(7)　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、満18歳に達した者
(8)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後修了した者
(9)　学校教育法第90条第２項の規定により他大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
（学力検定料）
第３６条　第35条第７号によって学力検定を受けようとする者は、別に定める学力検定料を納入しなければならない。
（入学志願手続）
第３７条　入学志願者は、別に定めるところにより、入学願書及び資料に入学検定料を添えて学長に提出しなければならない。
（入学の許可）
第３８条　入学は、選考のうえ許可する。
（再入学）
第３９条　再入学を志願する者については、前条の規定にかかわらず入学を許可することができる。
（編入学）
第４０条　次の各号の一に該当する者で編入学を志願する者については、選考のう

え編入学を許可することができる。
(1)　本学の一の学部の卒業者又は修業者
(2)　他の大学の卒業者又は修業者
(3)　短期大学又は高等専門学校の卒業者
(4)　専修学校の専門課程（修業年限が二年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

（入学手続）

第４１条　入学を許可された者は、誓約書その他の書類を学長に提出し、所定の学納金を所定の期日までに納めなければならない。

２　前項に規定する手続を履行しないときは、入学許可を取消す。

第５節　在学年限

（在学年限）

第４２条　学生は、第２年次の終りまでに４年、通算８年を超えて在学することができない。

２　前項の規定にかかわらず、医学部医学科の学生については、第１年次から第４年次においては各２年、第５年次から第６年次の終わりまでに４年、通算12年を超えて在学することができない。

第６節　転学部、転学科、休学、復学、退学、転学及び留学

（転学部及び転学科）

第４２条の２　転学部及び転学科は、収容定員に余裕のある場合、学長が許可することができる。

（休学）

第４３条　学生が、病気その他やむを得ない事情のため引続き３月以上修業できないときは、学長の許可を得て休学することができる。

第４４条　病気のため修業に不適当と認められる学生に対しては、学長は、休学を命ずることができる。

（復学）

第４５条　休学期間が満了したとき、又は休学中にその事情が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

（休学期間）

第４６条　休学期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

第４７条　休学期間は、通算して修業年限を超えることができない。

２　前項の規定にかかわらず、医学部医学科の休学期間は、連続して２年及び通算して４年を超えることができない。

（休学中の学納金）

第４８条　休学期間中の学納金については、別に定める。

（退学）

第４９条　学生が退学しようとするときは、書面をもって学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（転学）

第５０条　学生が他の大学に転学しようとするときは、事前に書面をもって学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

（留学）

第５０条の２　学生が外国の大学に留学しようとするときは、事前に書面をもって

学長に願い出て、その許可を受けなければならない。
２　前項の取り扱いについては、別に定める。

第７節　教員免許状及び資格取得等に関する事項

（教員免許状取得の所要資格）

第５１条　教員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要単位を修得しなければならない。

２　本学の学部の学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、次の表に掲げるとおりとする。取得方法については、別に定める。

学部	学科	教員の免許状の種類	免許教科
文学部	心理学科	高等学校教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状	公民
	情報社会学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 公民
	国際文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語・社会・英語 国語・地理歴史・英語
	社会福祉学科	高等学校教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状	公民・福祉
人間健康学部	総合子ども学科	幼稚園教諭一種免許状	
	スポーツ医科学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育 保健体育
法学部	法律学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 公民
	国際政治学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 地理歴史・公民
経済学部	経済学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 公民・情報・商業
	文化経済学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 地理歴史・公民
商学部	商学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 地理歴史・公民・情報 商業

（図書館司書となる所要資格）

第５１条の２　図書館司書となる資格を取得しようとする者は、図書館法及び図書館法施行規則に定める所要単位を修得しなければならない。

２　前項の取扱いについては、別に定める。

（日本語教育）

第５１条の３　本学に、外国人に日本語を教育する教員の養成を行うために必要な授業科目を開設する。

２　前項の取扱いについては、別に定める。
第５１条の４　削除
（博物館学芸員となる所要資格）
第５１条の５　博物館学芸員となる資格を取得しようとする者は、博物館法及び博物館法施行規則に定める所要単位を修得しなければならない。
２　前項の取扱いについては、別に定める。
（精神保健福祉士国家試験受験資格）
第５１条の６　精神保健福祉士国家試験受験資格取得志望者は、精神保健福祉士法に定める所要単位を修得しなければならない。
２　前項の取扱いについては、別に定める。
（社会福祉士国家試験受験資格）
第５１条の７　社会福祉士国家試験受験資格取得志望者は、社会福祉士及び介護福祉士法に定める所要単位を修得しなければならない。
２　前項の取扱いについては、別に定める。
（保育士の資格取得）
第５１条の８　人間健康学部総合子ども学科における保育士資格取得志望者は、児童福祉法及び児童福祉法施行規則に定める所要単位を修得しなければならない。
２　前項の取扱いについては、別に定める。
（公認心理師国家受験資格）
第５１条の９　文学部心理学科における公認心理師国家試験受験資格取得希望者は、公認心理師法に定める所要単位を修得しなければならない。
２　前項の取扱いについては、別に定める。
（履修料及び実習料）
第５２条　第51条、第51条の２、第51条の３、第51条の５、第51条の６、第51条の７、第51条の８及び第51条の９の教員免許状の取得及び資格取得等のための科目を履修しようとする者は、別に定める履修料及び実習料を納入しなければならない。

第７節の２　専攻科に関する事項

（専攻科）
第５２条の２　本学に次の専攻科を置き、学生収容定員は、次のとおりとする。

文学専攻科	心理学専攻	５名
	情報社会専攻	５名
	国際文化専攻	５名
	社会福祉専攻	５名
法学専攻科	法律学専攻	10名
	国際政治学専攻	５名
経済学専攻科	経済学専攻	10名
商学専攻科	商学専攻	10名

２　専攻科については、別に定める。

第７節の３　留学生別科に関する事項

（留学生別科）
第５２条の３　本学に留学生別科を置く。
２　別科の修業年限は、１年（以下「１年コース」という。）又は１年半（以下「１年半コース」という。）とする。ただし、教育上適当と認められる場合は、別に定

めるところにより、通算２年までの在学を許可することができる。
３　１年コース及び１年半コースの学生収容定員は、次のとおりとする。

	１年コース定員	１年半コース定員	収容定員
留学生別科	15名	20名	55名

４　留学生別科については、別に定める。

第８節　科目等履修生、特別科目等履修生、派遣聴講生、外国人学生及び外国人留学生に関する事項

（科目等履修生）
第５３条　学部の授業科目を定めて聴講しようとする者には、学部長は、学部の定めるところにより、科目等履修生として授業の聴講を許可することができる。
（特別科目等履修生、派遣聴講生）
第５４条　本学と単位互換に関する協定のある大学等との間で、特別科目等履修生又は派遣聴講生として相互交流をしようとするときは、事前に書面をもって学長に願い出て、その許可を受けなければならない。
２　前項の取扱いについては、別に定める。
（聴講授業科目単位の認定）
第５５条　科目等履修生に対しては、聴講した授業科目の単位を認定することができる。
（聴講料）
第５６条　科目等履修生は、別に定める聴講料を納入しなければならない。
（外国人学生及び外国人留学生）
第５７条　外国人であって、高等学校の卒業者と同等以上の学力があると認められる者は、選考のうえ外国人学生として学部に入学を許可することができる。
２　外国人であって、高等学校の卒業者と同等以上の学力があると認められる者は、選考のうえ外国人留学生（一般留学生）として学部に入学を許可することができる。
（協定に基づく外国人留学生）
第５７条の２　外国人であって、外国の大学から協定に基づき派遣される者は、選考のうえ外国人留学生（協定校留学生）として学部に留学を許可することができる。
２　前項の取り扱いについては、別に定める。

第９節　研究生に関する事項

（研究生）
第５８条　学部において特殊事項に関する研究に従事しようとする者があるときは、当該学部において適当と認め、かつ、さしつかえのない場合に限り、学部の定めるところにより研究生として入学を許可することができる。
２　本学附属の研究所の研究生に関する事項については、別に定める。
（資格）
第５９条　研究生として入学を志願することのできる者は、学士又はこれと同等以上の学力があり、かつ、学部において適当と認められた者とする。
（志願）
第６０条　研究生として入学を志願する者は、別に定めるところにより、願書に研究事項を記載し、履歴書及び入学検定料を添えて学部長に提出しなければならない。

（入学）
第６１条　研究生の入学は、学部長が教授会の議を経て許可する。
（指導教育職員）
第６２条　研究生の指導教育職員は、教授会において定める。
（入学の時期）
第６３条　研究生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の事情があるときは、この限りでない。
（研究期間）
第６４条　研究生の研究期間は、１年とする。ただし、必要があるときは指導教育職員を通じて申し出る場合、研究期間の延長を許可することができる。
（学部の講義の聴講、実験又は実習参加）
第６５条　研究生に対して、指導教育職員の請求があるときは、学部長は教授会の議を経て学部の講義、実験又は実習に出席することを許可することができる。
（退学）
第６６条　研究生が、退学しようとするときは、書面をもって学部長に願い出て、その許可を受けなければならない。
（除籍）
第６７条　研究生が、次の各号の一に該当するときは、学部長は教授会の議を経て除籍する。
(1)　第68条に定める料金の督促を受けても納入しないとき
(2)　研究を怠り研究生として不適当と認められるとき
（入学料及び研究料）
第６８条　研究生は、別に定める入学料及び研究料を納入しなければならない。

第３章　学納金に関する事項

（入学金）
第６９条　学部に入学する者は、入学金を納入しなければならない。
２　入学金の納入の時期は、別表第２－１及び別表第２－２に定める。
（授業料）
第７０条　学生は、授業料を納入しなければならない。
２　授業料は、分納することができる。分納の時期及び額については、別表第２－１及び別表第２－２に定める。
３　学年の中途において卒業する者の納入する授業料は、別に定める。
４　外国の大学に留学する者の授業料については、別に定める。
（その他の納入金）
第７１条　学生は、その他の納入金を納入しなければならない。
２　その他の納入金は、分納することができる。分納の時期及び額については、別表第２－１及び別表第２－２に定める。
（学納金の返還）
第７２条　この学則に基づいて納められた学納金は、返還しない。ただし、特待生及び所定の期日までに入学辞退の届け出を行い、かつ、学納金の返還を申し出た者については、入学金を除く学納金を返還する。
２　医学部医学科学生納入金減免規程に基づいて減免を決定された者については、既納の学納金のうちから減免額を返還する。
（学納金表等）
第７３条　学納金及びその分納額は、次のとおりとする。

(1)　第37条及び第60条に規定する入学検定料については、別表第１
(2)　第69条、第70条及び第71条に規定する入学金、授業料、施設拡充維持料、教育充実料、実験実習料及び休学時在籍料については、別表第２－１及び別表第２－２
(3)　第56条及び第68条に規定する聴講料、入学料及び研究料については、別表第３－１及び別表第３－２

（諸証明手数料）

第７４条　学生が、諸証明書を請求するときは、証明手数料を納入しなければならない。

（追試験料等）

第７５条　追試験又は再試験を受ける学生は、試験料を納入しなければならない。試験料は、学部において定める。

第４章　表彰、除籍及び懲戒に関する事項

（表彰）

第７６条　学生が、次の各号の一に該当するときは、学長は教授会の意見を聞いて適当な方法で表彰することができる。
(1)　学業人物ともに優秀な学生
(2)　特に賞賛に値する行為のあった学生

２　前項第１号に該当する者で特に優秀な者は、特待生とすることができる。特待生に関する規程は、別に定める。

（除籍）

第７７条　学生が、この学則その他の規則で定められた学納金（教員免許状及び資格取得等のための科目の履修料及び実習料は除く。）の督促を受けても納めないときは、学部長は学長の許可を得て除籍する。

２　学生が長期間欠席し、又は成業の見込みがないと認められるときは、学部長は、学長の許可を得て除籍する。

（懲戒）

第７８条　学生が、この学則又はこれに基づいて定められた諸規則に違反し、本学の名誉を傷つける言動をし、その他本学学生としての本分に背く行為をしたときは、その軽重によって学部長は、学長の命により懲戒する。

２　懲戒は、戒告、停学及び放学とする。ただし、放学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
(2)　正当の理由がなくて出席が常でない者
(3)　本学の秩序を乱し、その他本学学生としての本分に著しく背いた者

（停学期間の学納金）

第７９条　学生は、停学期間中もこの学則その他の規則によって定められる学納金を納入しなければならない。

第５章　厚生保健施設

（厚生保健施設）

第８０条　本学に、健康相談施設、学生集会所、学生食堂、学生売店、寄宿舎等をおくことができる。

第６章　健康診断

（健康診断）
第８１条　学生は、毎年定められたときに健康診断を受けなければならない。

附　則
１　この学則は、昭和52年４月１日から施行する。
２　次に掲げる学則は、廃止する。
久留米大学学則（昭和25年４月１日施行）
附　則（52．５．27）
この学則は、昭和52年７月１日から施行する。
附　則（52．10．28）
この学則は、昭和52年12月１日から施行する。
附　則（52．11．25）
１　この学則は、昭和52年12月24日から施行する。
２　学則第73条については、昭和52年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。
附　則（53．２．24）
この学則は、昭和53年４月１日から施行する。
附　則（53．７．28）
この学則は、昭和53年９月１日から施行する。
附　則（53．12．22）
１　この学則は、昭和54年４月１日から施行する。
２　学則第73条第１項第２号については、昭和53年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。
附　則（54．２．23）
この学則は、昭和54年４月１日から施行する。
附　則（54．６．22）（55．１．８付文部大臣認可）
１　この学則は、昭和55年４月１日から施行する。
２　第30条の規定にかかわらず商学部については、昭和57年度までの学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	総　定　員
55	商学部	商　学　科	970
		経済学科	700
56	商学部	商　学　科	980
		経済学科	800
57	商学部	商　学　科	990
		経済学科	900

附　則（54．10．26）
この学則は、昭和54年11月24日から施行する。
附　則（54．11．27）
１　この学則は、昭和55年４月１日から施行する。
２　学則第73条第１項第２号については、昭和54年度までの入学生には適用せず改

正前の規定による。

附　則（55．１．25）

この学則は、昭和55年４月１日から施行する。

附　則（55．６．27）

この学則は、昭和55年８月１日から施行する。

附　則（55．10．27）

この学則は、昭和55年12月１日から施行する。

附　則（55．12．26）

この学則は、昭和56年４月１日から施行する。

附　則（56．10．30）

1　この学則は、昭和56年11月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、昭和56年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（57．12．24）

1　この学則は、昭和58年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、昭和57年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（58．12．23）

1　この学則は、昭和59年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、昭和58年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（59．12．21）

この学則は、昭和59年12月21日から施行する。ただし、改正後の第73条第１項第１号及び第２号については、昭和60年度入学に係る者から適用する。

附　則（60．５．24）

この学則は、昭和60年６月１日から施行する。

附　則（60．９．27）

この学則は、昭和60年10月15日から施行する。

附　則（61．１．24）

この学則は、昭和61年２月１日から施行する。

附　則（60．12．20）

1　この学則は、昭和61年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、昭和60年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（61．９．26）

この学則は、昭和61年10月15日から施行する。

附　則（61．12．26）

1　この学則は、昭和62年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、昭和61年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（60．６．28）（61．12．23付文部大臣認可）

1　この学則は、昭和62年４月１日から施行する。

2　第30条の規定にかかわらず法学部については、昭和64年度までの学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	総　定　員

62	法 学 部	法 律 学 科	250
63	法 学 部	法 律 学 科	500
64	法 学 部	法 律 学 科	750

附　則（62．12．25）

1　この学則は、昭和63年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、昭和62年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（63．12．23）

1　この学則は、昭和64年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、昭和63年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（１．３．24）

1　この学則は、平成元年４月１日から施行する。

2　入学金については、学則第73条第１項第２号の定めにかかわらず、平成元年度入学者で平成元年３月31日までに入学の意思表示をした者には適用せず、改正前の規定による。

3　昭和63年度までの入学生については、学則第73条第１項第２号の授業料、施設設備維持料又は施設拡充維持料及び教育充実料については適用せず、なお改正前の規定による。ただし、施設設備維持料又は施設拡充維持料については、従前の額に３％を加算するものとする。

4　平成元年度の入学生に係る同年度の施設設備維持料又は施設拡充維持料については、昭和63年12月29日までに入学手続を完了した者には、施設設備維持料の規定は適用せず、改正前によるものとし、その他の者に係る施設設備維持料及び施設拡充維持料についての別表第２に定める納入期限については、理事長が別に定めるところによるものとする。

附　則（１．７．28）

この学則は、平成元年８月１日から施行する。

附　則（２．１．26）

1　この学則は、平成２年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成元年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（１．８．25）

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則（２．７．27）

1　この学則は、平成２年７月27日から施行し、同年４月１日から適用する。

2　学則第51条については、平成元年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（３．１．25）

1　この学則は、平成３年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成２年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（３．７．26）

この学則は、平成３年７月26日から施行する。

附　則（３．９．28）

この学則は、平成３年９月28日から施行し、同年７月１日から適用する。

附　則（３．９．28）

1　この学則は、平成３年10月１日から施行する。

2　平成元年３月24日改正の附則第３項のただし書による昭和63年度までの入学生の施設設備維持料又は施設拡充維持料に係る３％の加算額は、これを徴収しないものとする。

附　則（３．12．20）

この学則は、平成３年12月20日から施行し、同年11月14日から適用する。

附　則（３．12．20）

1　この学則は、平成４年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成３年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（４．２．28）（３．12．20付文部大臣認可）

1　この学則は、平成４年４月１日から施行する。

2　第30条の規定にかかわらず文学部については、平成６年度までの学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	総　定　員
4	文 学 部	人 間 科 学 科	100
		国際文化学科	100
5	文 学 部	人 間 科 学 科	200
		国際文化学科	200
6	文 学 部	人 間 科 学 科	300
		国際文化学科	300

3　第30条の規定にかかわらず医学部については、平成８年度までの学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	総　定　員
4	医 学 部	医　学　科	700
5	医 学 部	医　学　科	680
6	医 学 部	医　学　科	660
7	医 学 部	医　学　科	640
8	医 学 部	医　学　科	620

4　第30条の規定にかかわらず平成４年度から平成11年度までの法学部法律学科の入学定員は、300名とする。

附　則（４．７．24）

この学則は、平成４年７月24日から施行し、同年４月１日から適用する。

附　則（４．７．24）

この学則は、平成４年７月24日から施行する。

附　則（４．12．25）

1　この学則は、平成５年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成４年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（５．３．26）

この学則は、平成５年３月26日から施行し、平成４年４月１日から適用する。

附　則（５．３．26）

この学則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（６．２．25）

1　この学則は、平成６年４月１日から施行する。

2　第30条の規定にかかわらず法学部法律学科、法学部国際政治学科、経済学部経済学科及び医学部看護学科については、平成８年度までの学生の収容定員は、次の表のとおりとする。

なお、商学部経済学科については、平成８年度までの学生の収容定員は次の表のとおりとし、当該学科に在学者がなくなるまでの間存続するものとする。

摘要／年度	学　部	学　科	収容定員
6	法学部	法律学科 国際政治学科	950 50
	経済学部	経済学科	250
	商学部	経済学科	750
	医学部	看護学科	100
7	法学部	法律学科 国際政治学科	900 100
	経済学部	経済学科	500
	商学部	経済学科	500
	医学部	看護学科	200
8	法学部	法律学科 国際政治学科	850 150
	経済学部	経済学科	750
	商学部	経済学科	250
	医学部	看護学科	300

3　第30条の規定にかかわらず平成６年度から平成11年度までの法学部法律学科の入学定員は、230名とし、法学部国際政治学科の入学定員は、70名とする。

4　学則第42条第１項については、平成５年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

5　学則第73条第１項第２号については、平成５年度までの入学生には適用せず改正前の規定による。

附　則（６．３．24）

この学則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（６．11．25）

この学則は、平成６年11月25日から施行する。

附　則（６．11．25）

1　この学則は、平成７年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成６年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

なお、文学部人間科学科心理学系の実験実習料については、平成７年度以降において２年次生、３年次生及び４年次生となる者から適用する。

附　則（７．12．22）

1　この学則は、平成８年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成７年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（８．１．26）

この学則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則（８．11．22）

1　この学則は、平成９年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第１号については、平成７年11月１日から適用する。

3　学則第73条第１項第２号については、平成８年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（９．３．28）

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（９．６．27）

この学則は、平成９年７月１日から施行する。

附　則（９．６．27）

この学則は、平成９年７月１日から施行する。

附　則（９．９．26）

この学則は、平成９年10月１日から施行する。

附　則（10．１．30）

この学則は、平成10年４月１日から施行する。

附　則（10．１．30）

この学則は、平成10年４月１日から施行する。

附　則（10．１．30）

1　この学則は、平成10年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成９年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（10．３．27）

この学則は、平成10年４月１日から施行する。

附　則（11．１．29）

この学則は、平成11年４月１日から施行する。

附　則（11．１．29）

1　この学則は、平成11年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成10年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（11．５．28）

この学則は、平成12年４月１日から施行する。

附　則（11．５．28）（11．10．22付文部大臣認可）

1　この学則は、平成12年４月１日から施行する。

2　第30条の規定にかかわらず法学部については、平成14年度までの学生の収容定

員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　　部	学　　科	収 容 定 員
12	法 学 部	法 律 学 科	885
		国際政治学科	245
13	法 学 部	法 律 学 科	920
		国際政治学科	270
14	法 学 部	法 律 学 科	950
		国際政治学科	290

附　則（11．５．28）（11．12．22付文部大臣認可）

1　この学則は、平成12年４月１日から施行する。

2　学則第30条の規定にかかわらず文学部社会福祉学科については、平成14年度までの学生の収容定員は、次の表のとおりとする。

3　学則第73条第１項第２号については、平成11年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

摘要／年度	学　　部	学　　科	収 容 定 員
12	文 学 部	社会福祉学科	100
13	文 学 部	社会福祉学科	200
14	文 学 部	社会福祉学科	310

附　則（11．11．26）

1　この学則は、平成12年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成11年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（11．12．24）

この学則は、平成12年４月１日から施行する。

附　則（12．１．28）

この学則は、平成12年４月１日から施行する。

附　則（12．４．27）（12．10．26付文部大臣認可）

1　この学則は、平成13年４月１日から施行する。

2　学則第30条の規定にかかわらず医学部看護学科の平成13年度の収容定員は、408名とする。

附　則（12．９．22）

この学則は、平成13年４月１日から施行する。

附　則（13．１．26）

1　この学則は、平成13年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成12年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（13．７．27）

この学則は、平成13年８月１日から施行する。

附　則（13．３．22）（13．８．１付文部科学大臣認可）

（13．10．30付文部科学大臣認可）

1　この学則は、平成14年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成13年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

3　第30条の規定にかかわらず文学部の心理学科及び情報社会学科並びに経済学部の経済学科及び文化経済学科については、平成16年度までの学生の収容定員は、次の表のとおりとする。

なお、文学部人間科学科については、平成16年度までの学生の収容定員は次の表のとおりとし、当該学科に在学生がなくなるまでの間存続するものとする。

摘要／年度	学　部	学　科	収容定員
14	文学部	心理学科	87
		情報社会学科	63
		人間科学科	331
	経済学部	経済学科	980
		文化経済学科	100
15	文学部	心理学科	174
		情報社会学科	126
		人間科学科	226
	経済学部	経済学科	880
		文化経済学科	200
16	文学部	心理学科	266
		情報社会学科	194
		人間科学科	113
	経済学部	経済学科	770
		文化経済学科	310

附　則（13．９．28）

この学則は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（14．１．25）

この学則は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（14．６．28）

この学則は、平成14年７月１日から施行する。

附　則（15．４．25）（15．11．27付文部科学大臣認可）

この学則は、平成16年４月１日から施行する。

附　則（15．９．26）

この学則は、平成16年４月１日から施行する。

附　則（16．１．23）

この学則は、平成16年４月１日から施行する。

附　則（16．11．26）

この学則は、平成17年４月１日から施行する。

附　則（16．11．26）

1　この学則は、平成17年４月１日から施行する。

2　平成16年度までの医学部医学科の入学生については、第42条第２項に規定のう

ち「第４年次の終りまでに８年、通算12年を超えて在学することができない。」を「通算12年を超えて在学することができない。」に読み替える。

附　則（17．９．22）

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則（18．９．22）

１　この学則は、平成19年４月１日から施行する。

２　第30条の規定にかかわらず文学部情報社会学科、文学部国際文化学科、法学部法律学科、法学部国際政治学科、経済学部文化経済学科及び商学部商学科については、平成21年度までの学生の収容定員は、次の表のとおりとする。

摘要 / 年度	学部	学科	収容定員
19	文学部	情報社会学科	261
		国際文化学科	443
	法学部	法律学科	979
		国際政治学科	309
	経済学部	文化経済学科	419
	商学部	商学科	1,045
20	文学部	情報社会学科	260
		国際文化学科	442
	法学部	法律学科	978
		国際政治学科	308
	経済学部	文化経済学科	418
	商学部	商学科	1,050
21	文学部	情報社会学科	259
		国際文化学科	441
	法学部	法律学科	977
		国際政治学科	307
	経済学部	文化経済学科	417
	商学部	商学科	1,055

附　則（18．11．24）

この学則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（19．２．23）

この学則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（19．９．28）

この学則は、平成19年10月１日から施行する。

附　則（20．２．22）

この学則は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（20．９．17）

この学則は、平成20年９月１日から施行する。

附　則（20．９．17）

この学則は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（20．９．17）

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。
2　第30条の規定にかかわらず医学部医学科については、平成25年度までの学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	総　定　員
21	医 学 部	医 学 科	610
22	医 学 部	医 学 科	620
23	医 学 部	医 学 科	630
24	医 学 部	医 学 科	640
25	医 学 部	医 学 科	650

附　則（21．7．24）
1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。
2　第30条の規定にかかわらず医学部看護学科の平成22年度の収容定員は、408名とする。
附　則（21．９．25）
1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。
2　第30条の規定にかかわらず医学部医学科については、平成26年度までの学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	総　定　員
22	医 学 部	医 学 科	625
23	医 学 部	医 学 科	640
24	医 学 部	医 学 科	655
25	医 学 部	医 学 科	670
26	医 学 部	医 学 科	685

附　則（21．11．27）
この学則は、平成21年12月１日から施行する。
附　則（21．11．27）
1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。
2　平成21年度までの医学部看護学科入学生については、学則第73条第１項第２号は適用せず、改正前の規定による。
附　則（22．９．24）
1　この学則は、平成23年４月１日から施行する。
2　平成22年度までの医学部医学科の研究生については、学則第73条第１項第３号は適用せず、改正前の規定による。
附　則
この学則は、平成24年10月１日から施行する。
附　則（24．３．22）
1　この学則は、平成25年４月１日から施行する。
2　第30条の規定にかかわらず文学部心理学科、文学部情報社会学科、文学部国際文化学科、文学部社会福祉学科、法学部法律学科、法学部国際政治学科、経済学

部経済学科、経済学部文化経済学科及び商学部商学科については、平成27年度までの学生の収容定員は、次の表のとおりとする。

年度＼摘要	学　部	学　科	収容定員
25	文学部	心理学科	357
		情報社会学科	256
		国際文化学科	437
		社会福祉学科	416
	法学部	法律学科	971
		国際政治学科	301
	経済学部	経済学科	655
		文化経済学科	411
	商学部	商学科	1,055
26	文学部	心理学科	356
		情報社会学科	254
		国際文化学科	434
		社会福祉学科	412
	法学部	法律学科	966
		国際政治学科	296
	経済学部	経済学科	650
		文化経済学科	406
	商学部	商学科	1,050
27	文学部	心理学科	357
		情報社会学科	255
		国際文化学科	437
		社会福祉学科	413
	法学部	法律学科	966
		国際政治学科	296
	経済学部	経済学科	650
		文化経済学科	406
	商学部	商学科	1,055

附　則（26．７．25）

この学則は、平成26年９月１日から施行する。

附　則（26．７．25）

１　この学則は、平成27年４月１日から施行する。

2　学則第73条第１項第２号については、平成26年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（26．11．28）

1　この学則は、平成27年４月１日から施行する。

2　学則第47条第２項については、平成26年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（27．３．27）

この学則は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（27．９．25）

1　この学則は、平成28年４月１日から施行する。

2　学則第52条の３第２項のただし書については、平成27年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（27．12．25）

1　この学則は、平成28年４月１日から施行する。

2　学則第42条第２項については、平成27年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（28．９．23）

この学則は、平成28年10月１日から施行する。

附　則（28．２．26）

1　この学則は、平成29年４月１日から施行する。

2　第30条にかかわらず文学部心理学科、文学部情報社会学科、文学部国際文化学科、文学部社会福祉学科、人間健康学部総合子ども学科、人間健康学部スポーツ医科学科、法学部法律学科、法学部国際政治学科、経済学部経済学科、経済学部文化経済学科、商学部商学科及び医学部看護学科については、平成31年度までの学生の収容定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	収容定員
29	文学部	心理学科	356
		情報社会学科	246
		国際文化学科	437
		社会福祉学科	364
	人間健康学部	総合子ども学科	50
		スポーツ医科学科	70
	法学部	法律学科	956
		国際政治学科	286
	経済学部	経済学科	647
		文化経済学科	404
	商学部	商学科	1,045
	医学部	看護学科	410
30	文学部	心理学科	354

		情報社会学科	236
		国際文化学科	434
		社会福祉学科	314
	人間健康学部	総合子ども学科	100
		スポーツ医科学科	140
	法　学　部	法　律　学　科	946
		国際政治学科	276
	経 済 学 部	経　済　学　科	644
		文化経済学科	402
	商　学　部	商　　学　　科	1,030
	医　学　部	看　護　学　科	420
31	文　学　部	心　理　学　科	352
		情報社会学科	226
		国際文化学科	431
		社会福祉学科	264
	人間健康学部	総合子ども学科	150
		スポーツ医科学科	210
	法　学　部	法　律　学　科	936
		国際政治学科	266
	経 済 学 部	経　済　学　科	641
		文化経済学科	400
	商　学　部	商　　学　　科	1,015
	医　学　部	看　護　学　科	430

附　則（29．７．28）

この学則は、平成29年８月１日から施行する。

附　則（29．11．24）

この学則は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（30．３．23）

この学則は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（30．７．27）

１　この学則は、平成31年４月１日から施行する。

２　学則第73条第１項第２号の別表第２－１については、平成30年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（31．２．22）

１　この学則は、平成32年４月１日から施行する。

２　第30条の規定にかかわらず文学部心理学科、文学部情報社会学科、文学部国際文化学科、文学部社会福祉学科、法学部法律学科、法学部国際政治学科、経済学部経済学科及

び経済学部文化経済学科については、平成34年度までの学生の収容定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　部	学　科	収容定員
32	文学部	心理学科	349
		情報社会学科	216
		国際文化学科	426
		社会福祉学科	211
	法学部	法律学科	915
		国際政治学科	262
	経済学部	経済学科	635
		文化経済学科	398
33	文学部	心理学科	348
		情報社会学科	216
		国際文化学科	424
		社会福祉学科	208
	法学部	法律学科	904
		国際政治学科	268
	経済学部	経済学科	632
		文化経済学科	398
34	文学部	心理学科	349
		情報社会学科	217
		国際文化学科	426
		社会福祉学科	209
	法学部	法律学科	904
		国際政治学科	274
	経済学部	経済学科	632
		文化経済学科	401

附　則（１．12．26）

１　この学則は、令和２年４月１日から施行する。

２　第30条の規定にかかわらず医学部医学科については、令和８年度までの入学定員及び学生総定員は、次の表のとおりとする。ただし、令和２年度及び３年度の入学定員及び学生総定員については適用せず、改正前の規定による。

摘要／年度	学　部	学　科	入学定員	総　定　員
令和２	医学部	医学科	115	690
令和３	医学部	医学科	115	690

令和４	医 学 部	医 学 科	110	685
令和５	医 学 部	医 学 科	110	680
令和６	医 学 部	医 学 科	110	675
令和７	医 学 部	医 学 科	110	670
令和８	医 学 部	医 学 科	110	665

附　則（２．３．27）

この学則は、令和２年４月１日から施行する。

附　則（３．３．26）

この学則は、令和３年４月１日から施行する。

附　則（３．３．26）

１　この学則は、令和３年４月１日から施行する。

２　学則第 51 条第２項については、令和２年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（３．５．28）

この学則は、令和３年６月１日から施行する。

附　則（３．７．30）

１　この学則は、令和４年４月１日から施行する。

２　第30条の規定にかかわらず医学部医学科については、令和９年度までの入学定員及び学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　　部	学　　科	入学定員	総　定　員
令和４	医 学 部	医 学 科	115	690
令和５	医 学 部	医 学 科	110	685
令和６	医 学 部	医 学 科	110	680
令和７	医 学 部	医 学 科	110	675
令和８	医 学 部	医 学 科	110	670
令和９	医 学 部	医 学 科	110	665

附　則（４．２．25）

この学則は、令和４年４月１日から施行する。

附　則（４．７．22）

１　この学則は、令和５年４月１日から施行する。

２　第30条の規定にかかわらず医学部医学科については、令和10年度までの入学定員及び学生総定員は、次の表のとおりとする。

摘要／年度	学　　部	学　　科	入学定員	総　定　員
令和５	医 学 部	医 学 科	115	690
令和６	医 学 部	医 学 科	110	685
令和７	医 学 部	医 学 科	110	680
令和８	医 学 部	医 学 科	110	675

令和９	医 学 部	医 学 科	110	670
令和10	医 学 部	医 学 科	110	665

附　則（４．９．30）

１　この学則は、令和５年４月１日から施行する。

２　学則第42条第２項については、令和４年度までの入学生には適用せず、改正前の規定による。

附　則（５．６．23）

この学則は、令和５年６月２４日から施行し、同年４月１日から適用する。

附　則（５．１．27）

この学則は、令和６年４月１日から施行する。

附　則（５．６．24）

この学則は、令和６年４月１日から施行する。

別表第１

入学検定料の納入金表

学部 / 項目 / 金額・期限	文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部	医学部			納入期限
		医学科	看護学科	医療検査学科	
	納入金額				
入学検定料	32,000円	60,000円	32,000円	32,000円	入学願書受付締切日
入学検定料（共通テスト利用選抜）	15,000円		15,000円	15,000円	
入学検定料（前期・共通テスト併用型選抜）	10,000円		10,000円		
入学検定料（共通テスト英語４技能利用選抜）	15,000円				
入学検定料（学部研究生）	20,000円				

備　考

１　文学部、人間健康学部、法学部、経済学部及び商学部の前・後期一般選抜において、同一試験日に併願した場合のみ、２学部目以降の入学検定料を各々10,000円とする。

２　文学部、人間健康学部、法学部、経済学部及び商学部の共通テスト利用選抜（Ａ日程又はＢ日程）及び共通テスト英語４技能利用選抜において併願した場合は、２学部目以降の入学検定料を各々10,000円とする。

３　文学部、人間健康学部、法学部、経済学部、商学部及び医学部看護学科の前期・共通テスト併用型選抜（前期一般選抜と大学入学共通テストとの併用入試）の検定料については、各々の前期一般選抜検定料に加え、別途、10,000円とする。また、併願した場合の２学部目以降の入学検定料についても同額とする。

４　医学部医学科において、同一試験で実施される異なる試験種別を併願する場合、併願分の入学検定料を30,000円とする。

別表第２－１

入学金、授業料その他の納入金表

学部 / 金額・期限 / 項目	文学部・法学部・経済学部・商学部	人間健康学部		
		総合子ども学科	スポーツ医科学科	
	納入金額	納入金額	納入金額	納入期限
入　学　金	200,000円	200,000円	200,000円	入学申込締切日
授　業　料				
１　期	335,000円	345,000円	385,000円	４月末日(※１)
２　期	335,000円	345,000円	385,000円	10月末日
教育充実料				
１　期	80,000円	80,000円	80,000円	４月末日(※１)
２　期	80,000円	80,000円	80,000円	10月末日
実験実習料				
	文学部 心理学科			
１　期	25,000円	35,000円	35,000円	４月末日(※１)
２　期	25,000円	35,000円	35,000円	10月末日
	文学部 情報社会学科			
１　期	10,000円			４月末日(※１)
２　期	10,000円			10月末日
	文学部 社会福祉学科			
１　期	25,000円			４月末日(※１)
２　期	25,000円			10月末日
休学時在籍料（月　額）	10,000円	10,000円	10,000円	休学手続時

備　考

１　（※１）は、新入生については、入学手続締切日と読替えるものとする。

別表第２－２

入学金、授業料その他の納入金表

学部 / 項目 / 金額・期限	医　学　部			
	医 学 科	看護学科	医療検査学科	納入期限
	納入金額			
入　　学　　金	1,000,000円	300,000円	300,000円	入学申込締切日
授　　業　　料				
１　期	900,000円	310,000円	310,000円	４月末日(※１)
２　期	900,000円	310,000円	310,000円	８月末日
３　期	900,000円	310,000円	310,000円	12月末日
施設拡充維持料				
１　期	500,000円			４月末日(※１)
２　期	500,000円			８月末日
３　期	500,000円			12月末日
教育充実料(※２)				
１年次	4,000,000円	100,000円	150,000円	４月末日(※１)
２年次	2,000,000円	100,000円	150,000円	
３年次	1,000,000円	100,000円	150,000円	
４年次	1,000,000円	100,000円	150,000円	
５年次	1,000,000円	―	―	
６年次	1,000,000円	―	―	
実験実習料(年　　額)		250,000円	250,000円	４月末日(※１)
休学時在籍料(月　　額)	10,000円	10,000円	10,000円	休学手続時

備　考

１　（※１）は、新入生については、入学手続締切日と読替えるものとする。

２　（※２）は、修業年限を超えた場合、最終年次の金額を納入するものとする。

別表第３－１

聴講料、入学料及び研究料の納入金表

<table>
<tr><td colspan="2">学部
項目　金額・期限</td><td colspan="2">文学部・人間健康学部・
法学部・経済学部・商学部</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">納 入 金 額</td><td>納 入 期 限</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">聴　講　料</td><td>本学卒業生</td><td>その他の者</td><td rowspan="2">聴講許可後
14日以内</td></tr>
<tr><td>１単位につき
4,000円
ただし、単位認定
希望者は6,000円</td><td>１単位につき
6,000円
ただし、単位認定
希望者は10,000円</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究生</td><td>入学料</td><td colspan="2">20,000 円</td><td>聴講許可後
14日以内</td></tr>
<tr><td>研究料</td><td colspan="2">180,000 円
(140,000 円)

( ) 内は本学
卒 業 者</td><td>入学後
１ヶ月以内</td></tr>
</table>

備　考

研究生に係る研究料は、年額とし、納入期限までに一括して納入するものとする。

別表第３－２

聴講料、入学料及び研究料の納入金表

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">学部
金額・期限
項目</td><td colspan="7">医　　学　　部</td></tr>
<tr><td colspan="2">医　学　科</td><td colspan="3">看　護　学　科</td><td colspan="2">医療検査学科</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>納 入 金 額</td><td>納入期限</td><td colspan="2">納 入 金 額</td><td>納 入 期 限</td><td colspan="2">納 入 金 額</td><td>納 入 期 限</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">聴　講　料</td><td rowspan="2">１期 450,000円
２期 450,000円
３期 450,000円

聴講する学年の授業料の１/２額</td><td rowspan="2">４月末日
８月末日
12月末日

ただし、聴講許可時の聴講料は、許可後14日以内</td><td>本学卒業生</td><td>その他の者</td><td rowspan="2">聴講許可後14日以内</td><td>本学卒業生</td><td>その他の者</td><td rowspan="2">聴講許可後14日以内</td></tr>
<tr><td>１単位につき4,000円ただし、単位認定希望者は6,000円</td><td>１単位につき6,000円ただし、単位認定希望者は10,000円</td><td>１単位につき4,000円ただし、単位認定希望者は6,000円</td><td>１単位につき6,000円ただし、単位認定希望者は10,000円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究生</td><td>入学料</td><td>30,000 円</td><td>入学許可後 14 日以内</td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="2">20,000 円</td><td>入学許可後 14 日以内</td></tr>
<tr><td>研究料</td><td>500,000 円
(350,000 円)

( ) 内は本学卒業者</td><td>入学許可後 14 日以内</td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="2">180,000 円
(140,000 円)

( ) 内は本学卒業者</td><td>入学後１ヶ月以内</td></tr>
</table>

備　考

１　研究生に係る研究料は、年額とし、納入期限までに一括して納入するものとする。

２　平成22年度までの医学部医学科の研究生については、本表は適用しない。

学則の変更事項を記載した書類

このたび、新たに医学部医療検査学科を設置することに伴い、久留米大学学則を下記のとおり変更したい。

記

（１）第３条（学部及び大学院）の医学部において「医療検査学科」を追記する。
（２）第３０条（学生定員）に医学部医療検査学科における入学定員及び収容定員を追記する。
（３）第６９条（入学金）第２項、第７０条（授業料）第２項、第７１条（その他の納入金）第２項及び第７３条（学納金表等）第１項第２号において規定している別表第２－２において医学部医療検査学科の学納金を新たに規定するとともに、表の構成を変更する。
（４）第７３条（学納金表等）第１項第１号において規定している別表第１に医学部医療検査学科の入学検定料を新たに規定するとともに、表の構成を変更する。
（５）第７３条（学納金表等）第１項第３号において規定している別表第３を、文系学部用の別表第３－１及び医学部用の別表第３－２に分離し、別表第３－２において医学部医療検査学科の聴講料、入学料、及び研究料を新たに規定する。
（６）第３１条（教育課程）に「学習の評価」を追記する。
（７）附則として、次の規定を加える。
この学則は、令和６年４月１日から施行する。

以上

新	旧
（学部及び大学院） 第２条　本学に、学部及び大学院をおく。 ２　大学院については、別に定める。 第３条　学部は、次のとおりとし、それぞれ次の学科をおく。 文学部　心理学科 情報社会学科 国際文化学科 社会福祉学科 人間健康学部　総合子ども学科 スポーツ医科学科 法学部　法律学科 国際政治学科 経済学部　経済学科 文化経済学科 商学部　商学科 医学部　医学科 看護学科 医療検査学科	（学部及び大学院） 第２条　本学に、学部及び大学院をおく。 ２　大学院については、別に定める。 第３条　学部は、次のとおりとし、それぞれ次の学科をおく。 文学部　心理学科 情報社会学科 国際文化学科 社会福祉学科 人間健康学部　総合子ども学科 スポーツ医科学科 法学部　法律学科 国際政治学科 経済学部　経済学科 文化経済学科 商学部　商学科 医学部　医学科 看護学科

（注）＿＿線箇所は改正部分を示す。

新

（学生定員）

第３０条　学生定員は、次のとおりとする。

		入学定員	編入学定員	外国人留学生定員	収容定員
文学部	心理学科	85名	１名	２名	350名
	情報社会学科	52名	１名	２名	218名
	国際文化学科	102名	２名	４名	428名
	社会福祉学科	52名	１名		210名
人間健康学部	総合子ども学科	50名			200名
	スポーツ医科学科	70名			280名
法学部	法律学科	220名	４名	４名	904名
	国際政治学科	66名		４名	280名
経済学部	経済学科	152名	２名	５名	632名
	文化経済学科	96名	２名	４名	404名
商学部	商学科	240名		10名	1,000名
医学部	医学科	110名			660名
	看護学科	110名			440名
	医療検査学科	74名			296名

（教育課程）

第３１条　学部における教育課程、履修の方法、学習の評価、課程の修了及び進級に関する事項は、学部規則において定める。

旧

（学生定員）

第３０条　学生定員は、次のとおりとする。

		入学定員	編入学定員	外国人留学生定員	収容定員
文学部	心理学科	85名	１名	２名	350名
	情報社会学科	52名	１名	２名	218名
	国際文化学科	102名	２名	４名	428名
	社会福祉学科	52名	１名		210名
人間健康学部	総合子ども学科	50名			200名
	スポーツ医科学科	70名			280名
法学部	法律学科	220名	４名	４名	904名
	国際政治学科	66名		４名	280名
経済学部	経済学科	152名	２名	５名	632名
	文化経済学科	96名	２名	４名	404名
商学部	商学科	240名		10名	1,000名
医学部	医学科	110名			660名
	看護学科	110名			440名

（教育課程）

第３１条　学部における教育課程、履修の方法、課程の修了及び進級に関する事項は、学部規則において定める。

（注）＿＿線箇所は改正部分を示す。

新	旧
（入学金） 第６９条　学部に入学する者は、入学金を納入しなければならない。 ２　入学金の納入の時期は、別表第２－１及び別表第２－２に定める。	（入学金） 第６９条　学部に入学する者は、入学金を納入しなければならない。 ２　入学金の納入の時期は、別表第２－１及び別表第２－２に定める。
（授業料） 第７０条　学生は、授業料を納入しなければならない。 ２　授業料は、分納することができる。分納の時期及び額については、別表第２－１及び別表第２－２に定める。 ３　学年の中途において卒業する者の納入する授業料は、別に定める。 ４　外国の大学に留学する者の授業料については、別に定める。	（授業料） 第７０条　学生は、授業料を納入しなければならない。 ２　授業料は、分納することができる。分納の時期及び額については、別表第２－１及び別表第２－２に定める。 ３　学年の中途において卒業する者の納入する授業料は、別に定める。 ４　外国の大学に留学する者の授業料については、別に定める。
（その他の納入金） 第７１条　学生は、その他の納入金を納入しなければならない。 ２　その他の納入金は、分納することができる。分納の時期及び額については、別表第２－１及び別表第２－２に定める。	（その他の納入金） 第７１条　学生は、その他の納入金を納入しなければならない。 ２　その他の納入金は、分納することができる。分納の時期及び額については、別表第２－１及び別表第２－２に定める。
（学納金表等） 第７３条　学納金及びその分納額は、次のとおりとする。 (1)　第37条及び第60条に規定する入学検定料については、別表第１ (2)　第69条、第70条及び第71条に規定する入学金、授業料、施設拡充維持料、教育充実料、実験実習料及び休学時在籍料については、別表第２－１及び別表第２－２ (3)　第56条及び第68条に規定する聴講料、入学料及び研究料については、別表第３－１及び別表第３－２	（学納金表等） 第７３条　学納金及びその分納額は、次のとおりとする。 (1)　第37条及び第60条に規定する入学検定料については、別表第１ (2)　第69条、第70条及び第71条に規定する入学金、授業料、施設拡充維持料、教育充実料、実験実習料及び休学時在籍料については、別表第２－１及び別表第２－２ (3)　第56条及び第68条に規定する聴講料、入学料及び研究料については、別表第３
附　則 この学則は、令和６年４月１日から施行する。	

（注）＿＿＿線箇所は改正部分を示す。

新

別表第１

入学検定料の納入金表

学部 ／ 金額・期限 ／ 項目	文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	医学部 医療検査学科	納入期限
	納入金額				
入学検定料	32,000円	60,000円	32,000円	32,000円	入学願書受付締切日
入学検定料（共通テスト利用選抜）	15,000円		15,000円	15,000円	
入学検定料（前期・共通テスト併用型選抜）	10,000円		10,000円		
入学検定料（共通テスト英語４技能利用選抜）	15,000円				
入学検定料（学部研究生）	20,000円				

備考　（省　略）

旧

別表第１

入学検定料の納入金表

学部 ／ 金額・期限 ／ 項目	文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部		医学部 医学科	医学部 看護学科	医学部 納入期限
	納入金額	納入期限	納入金額	納入金額	
入学検定料	32,000円	入学願書受付締切日	60,000円	32,000円	入学願書受付締切日
入学検定料（共通テスト利用選抜）	15,000円	入学願書受付締切日		15,000円	入学願書受付締切日
入学検定料（前期・共通テスト併用型選抜）	10,000円	入学願書受付締切日		10,000円	入学願書受付締切日
入学検定料（共通テスト英語４技能利用選抜）	15,000円	入学願書受付締切日			入学願書受付締切日
入学検定料（学部研究生）	20,000円	入学願書受付締切日			

備考　（省　略）

（注）＿＿線箇所は改正部分を示す。

新

別表第２－２

入学金、授業料その他の納入金表

学部 ／ 金額・期限 ／ 項目	医学部			
	医学科	看護学科	**医療検査学科**	納入期限
	納入金額			
入学金	1,000,000円	300,000円	**300,000円**	入学申込締切日
授業料				
1期	900,000円	310,000円	**310,000円**	４月末日（※１）
2期	900,000円	310,000円	**310,000円**	８月末日
3期	900,000円	310,000円	**310,000円**	12月末日
施設拡充維持料				
1期	500,000円			４月末日（※１）
2期	500,000円			８月末日
3期	500,000円			12月末日
教育充実料（※２）				
1年次	4,000,000円	100,000円	**150,000円**	**４月末日（※１）**
2年次	2,000,000円	100,000円	**150,000円**	
3年次	1,000,000円	100,000円	**150,000円**	
4年次	1,000,000円	100,000円	**150,000円**	
5年次	1,000,000円	〃	〃	
6年次	1,000,000円	〃	〃	
実験実習料（年額）		250,000円	**250,000円**	４月末日（※１）
休学時在籍料（月額）	10,000円	10,000円	**10,000円**	休学手続時

備　考

１　（※１）は、新入生については、入学手続締切日と読替えるものとする。

２　（※２）は、修業年限を超えた場合、最終年次の金額を納入するものとする。

旧

別表第２－２

入学金、授業料その他の納入金表

学部 ／ 金額・期限 ／ 項目	医学部			
	医学科	**納入期限**	看護学科	納入期限
	納入金額		**納入金額**	
入学金	1,000,000円	**入学申込締切日**	300,000円	入学申込締切日
授業料				
1期	900,000円	**４月末日（※１）**	310,000円	４月末日（※１）
2期	900,000円	**８月末日**	310,000円	８月末日
3期	900,000円	**12月末日**	310,000円	12月末日
施設拡充維持料				
1期	500,000円	**４月末日（※１）**		
2期	500,000円	**８月末日**		
3期	500,000円	**12月末日**		
教育充実料				
1年次	4,000,000円	**入学手続締切日**	100,000円	**入学手続締切日**
2年次	2,000,000円	**入学翌年度**	100,000円	**４月末日**
3年次	1,000,000円	**（４月末日）**	100,000円	**４月末日**
4年次	1,000,000円		100,000円	**４月末日**
5年次	1,000,000円			
6年次	1,000,000円			
実験実習料（年額）			250,000円	４月末日（※１）
休学時在籍料（※２）（月額）	10,000円	**休学手続時**	10,000円	休学手続時

備　考

１　（※１）は、新入生については、入学手続締切日と読替えるものとする。

２　（※２）は、平成21年度までの入学生には適用しない。

（注）＿＿＿線箇所は改正部分を示す。

新

別表第３－１

聴講料、入学料及び研究料の納入金表

項目＼学部・金額・期限		文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部		
		納入金額		納入期限
聴講料		本学卒業生：１単位につき4,000円 ただし、単位認定希望者は6,000円	その他の者：１単位につき6,000円 ただし、単位認定希望者は10,000円	聴講許可後14日以内
研究生	入学料	20,000円		聴講許可後14日以内
研究生	研究料	180,000円（140,000円） （ ）内は本学卒業者		入学後１ヶ月以内

備　考

研究生に係る研究料は、年額とし、納入期限までに一括して納入するものとする。

削　る

旧

別表第３

聴講料、入学料及び研究料の納入金表

項目＼学部・金額・期限		文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部			医学部			
					医学科		看護学科	
		納入金額		納入期限	納入金額	納入期限	納入金額	納入期限
聴講料		本学卒業生：１単位につき4,000円 ただし、単位認定希望者は6,000円	その他の者：１単位につき6,000円 ただし、単位認定希望者は10,000円	聴講許可後14日以内	１期 450,000円 ２期 450,000円 ３期 450,000円 聴講する学年の授業料の１/２額	４月末日 ８月末日 12月末日 ただし、聴講許可時の聴講料は、許可後14日以内	本学卒業生：１単位につき4,000円 ただし、単位認定希望者は6,000円 その他の者：１単位につき6,000円 ただし、単位認定希望者は10,000円	聴講許可後14日以内
研究生	入学料	20,000円		入学許可後14日以内	30,000円	入学許可後14日以内		
研究生	研究料	180,000円（140,000円） （ ）内は本学卒業者		入学後１ヶ月以内	500,000円（350,000円） （ ）内は本学卒業者	入学許可後14日以内		

備　考

１　研究生に係る研究料は、年額とし、納入期限までに一括して納入するものとする。

２　平成22年度までの医学部医学科の研究生については、本表は適用しない。

（注）＿＿線箇所は改正部分を示す。

新

別表第３－２

聴講料、入学料及び研究料の納入金表

学部 ＼ 金額・期限 ／ 項目		医学部							
		医学科		看護学科			医療検査学科		
		納入金額	納入期限	納入金額		納入期限	納入金額		納入期限
				本学卒業生	その他の者		本学卒業生	その他の者	
聴講料		１期 450,000円 ２期 450,000円 ３期 450,000円 聴講する学年の授業料の１/２額	４月末日 ８月末日 12月末日 ただし、聴講許可時の聴講料は、許可後14日以内	１単位につき4,000円ただし、単位認定希望者は6,000円	１単位につき6,000円ただし、単位認定希望者は10,000円	聴講許可後14日以内	１単位につき4,000円ただし、単位認定希望者は6,000円	１単位につき6,000円ただし、単位認定希望者は10,000円	聴講許可後14日以内
研究生	入学料	30,000円	入学許可後14日以内				20,000円		入学許可後14日以内
	研究料	500,000円 (350,000円) （ ）内は本学卒業者	入学許可後14日以内				180,000円 (140,000円) （ ）内は本学卒業者		入学後１ヶ月以内

備　考

１　研究生に係る研究料は、年額とし、納入期限までに一括して納入するものとする。

２　平成22年度までの医学部医学科の研究生については、本表は適用しない。

旧

（注）＿＿線箇所は改正部分を示す。

○久留米大学医学部教授会規程（案）

昭和52年２月８日
規程第51－６号

第１条　学則第11条に基づき、医学部に教授会を置く。
２　医学部医学科に医学科講座主任教授会議（以下「主任教授会議」という。）を、医学部の各学科に、それぞれ学科教授会議を、医学部看護学科及び医療検査学科にそれぞれ拡大教授会議を置く。
第２条　教授会は、医学部医学科の講座主任教授（以下「主任教授」という。）及びそれ以外の教授（以下「教授」という。）並びに看護学科教授及び医療検査学科教授をもって組織する。
２　主任教授会議は主任教授を、医学科教授会議は主任教授及び教授を、看護学科教授会議は看護学科教授を、医療検査学科教授会議は医療検査学科教授をもって組織する。
３　看護学科拡大教授会議は、看護学科教授、准教授及び講師を、医療検査学科拡大教授会議は、医療検査学科教授、准教授及び講師をもって組織する。
第３条　教授会は、医学部長が、主任教授会議、学科教授会議及び拡大教授会議は、当該学科長が招集し、その議長となる。
２　医学部長に事故ある場合は、医学部長があらかじめ指名した主任教授が、学科長に事故ある場合は、学科長があらかじめ指名した主任教授又は当該学科教授がその職務を代行する。
第４条　教授会、主任教授会議、学科教授会議及び拡大教授会議は、構成員の過半数の出席がなければ開くことができない。
２　前項所定の成立要件を満たさない場合は、可及的速やかに教授会、主任教授会議、学科教授会議及び拡大教授会議を招集する。
３　教授会、主任教授会議、学科教授会議及び拡大教授会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
第５条　教授会、主任教授会議及び学科教授会議は、次の事項について、学則第11条第２項に基づき取り扱うものとする。ただし、看護学科及び医療検査学科の学科教授会議においては、次の第１号、第２号及び第３号を除く。
(1)　学生の入学及び卒業に関する事項
(2)　学位の授与に関する事項
(3)　教育課程の編成に関する事項
(4)　教員の教育研究業績の審査に関する事項
２　教授会、主任教授会議及び学科教授会議は、前項に規定するもののほか、次の事項について、学則第11条第３項に基づき取り扱うものとする。ただし、看護学科及び医療検査学科の学科教授会議においては、次の第２号及び第３号を除く。
(1)　規則に関する事項
(2)　学務に関する事項

(3)　学生に関する事項
(4)　教育職員の人事に関する事項
(5)　学部内又は学科内の予算に関する事項
(6)　学長の諮問に関する事項
(7)　その他議長が必要と認める事項

第６条　看護学科及び医療検査学科の拡大教授会議は、次の事項について、学則第11条第２項に基づき取り扱うものとする。
(1)　学生の入学及び卒業に関する事項
(2)　学位の授与に関する事項
(3)　教育課程の編成に関する事項

２　看護学科及び医療検査学科の拡大教授会議は、前項に規定するもののほか、次の事項について、学則第11条第３項に基づき取り扱うものとする。
(1)　学務に関する事項
(2)　学生に関する事項
(3)　その他議長が必要と認める事項

第７条　教授会、主任教授会議、学科教授会議及び拡大教授会議を招集するには少なくとも会議の２日前までに構成員に対し、会議の議題、日時及び場所を通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。

第８条　議長が必要と認めたときは、その他の職員を会議に出席させることができる。

第９条　教授会、主任教授会議、学科教授会議及び拡大教授会議における報告、審議の結果は議事摘録とし、構成員に配布しなければならない。

附　則

１　この規程は、昭和52年４月１日から施行する。

２　久留米大学医学部合同教授会規程（規程第50－３号）は、廃止する。

附　則（58．５．28）

この規程は、昭和58年６月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成４年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成17年５月18日から施行し、同年４月１日から適用する。

附　則

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（５．１．27）

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

設 置 の 趣 旨 等 を 記 載 し た 書 類

目　　次

第１　設置の趣旨及び必要性
１．久留米大学及び久留米大学医学部附属臨床検査専門学校の沿革等　P. 4
２．久留米市、福岡県の医療背景及び本学の貢献・・・・・・・・・・　P. 4
３．医学部医療検査学科の設置の必要性及び趣旨・・・・・・・・・・　P. 6
４．養成する人材像と３つのポリシー・・・・・・・・・・・・・・・　P. 7
５．組織として研究対象とする専門的学問分野・・・・・・・・・・・　P. 10
６．既に設置されている専門学校との違い・・・・・・・・・・・・・　P. 10
７．医学部医療検査学科に対する職能団体からの要望書及び賛同・・　P. 13
第２　学科の特色
１．医学部医療検査学科が担う役割・機能とその特色・・・・・・・　P. 14
２．医療検査学科を医学部に設置することによる久留米大学・
医学部の特色の変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 17
第３　学科の名称及び学位の名称
１．学科の名称の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 18
２．学位に付記する専攻分野の名称とその理由　・・・・・・・・・・　P. 18
３．学科及び学位の英訳名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 18
第４　教育課程の編成の考え方及び特色
１．教育課程の編成の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 18
２．ディプロマ・ポリシーの達成を実現するための科目の設定方法　P. 29
３．必修科目・選択科目の構成とその理由・・・・・・・・・・・・・　P. 30
４．科目の設定単位数の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 30
第５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件
１．教育方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 31
２．履修指導方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 33
３．卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 35
第６　実習の具体的計画
Ⅰ．臨床検査技師資格取得に係る臨地実習
１．実習計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 35
２．実習先の確保の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 37
３．実習先との契約内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 37
４．実習水準の確保の方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 38
５．臨地実習先との連携体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 40

６．実習前の準備状況(感染予防対策・保険等の加入状況)・・・・ P. 42
７．事前・事後における指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 42
８．教員の配置並びに巡回指導計画・・・・・・・・・・・・・・・ P. 44
９．実習施設における指導者の配置計画・・・・・・・・・・・・・ P. 44
１０．成績評価体制及び単位認定方法・・・・・・・・・・・・・・ P. 45
Ⅱ．診療情報管理士資格取得に係る病院実習：
「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」
１．実習の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 45
２．実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 46
３．実習先の確保の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 46
４．実習先との契約内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 46
５．実習水準の確保の方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 47
６．実習前の準備状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 48
７．実習指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 49
第７　取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 50
第８　入学者選抜の概要
１．アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)・・・・・・ P. 50
２．選抜方法及び実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 51
３．科目等履修生及び研究生の受け入れ・・・・・・・・・・・・・ P. 55
第９　教員組織の編制の考え方及び特色
１．教員組織の編制方針と特色・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 55
２．教員組織の年齢構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 57
第１０　研究の実施についての考え方、体制、取組
１．研究の実施についての考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 58
２．研究の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 59
３．研究実施の環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 61
４．特色ある研究の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 63
第１１　施設、設備等の整備計画
１．校地、運動場の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 64
２．校舎等施設の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 65
３．図書等の資料及び図書館の整備計画・・・・・・・・・・・・・ P. 71

第１２　管理運営及び事務組織
１．教学面における管理運営の体制について・・・・・・・・・・・・　P. 73
２．教授会議以外の関連する委員会・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 74
３．事務の遂行を行う事務組織体制・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 75
第１３　自己点検・評価
１．基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 76
２．実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 76
３．実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 77
４．公表及び評価項目等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 77
５．学外者による検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 77
第１４　情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 78
第１５　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・・　P. 81
１．授業内容・方法の改善を図るための研修・・・・・・・・・・・・　P. 82
２．必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組・・・・・・・・・　P. 84
第１６　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制
１．教育課程内の取組について・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 86
２．教育課程外の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 86
３．適切な体制の整備について・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 87

久留米大学医学部医療検査学科　設置の趣旨等を記載した書類

第１　設置の趣旨及び必要性

１．久留米大学及び久留米大学医学部附属臨床検査専門学校の沿革等

久留米大学は、昭和3年に当時不足していた医療分野での実践的人物の育成という地域ニーズに応えて九州医学専門学校として開学した。昭和25年に商学部の開設に伴い久留米大学が設置され、昭和27年には医学部が開設された。その後、法学部、文学部、経済学部、人間健康学部が開設され、6学部13学科、4大学院研究科、18の研究所・センター、さらに医学部附属臨床検査専門学校、附設中学校・高等学校を有する総合大学として発展してきた。

一方、久留米大学医学部附属臨床検査専門学校は、文部科学大臣が指定した臨床検査技師養成所である。昭和43年に医学部附属衛生検査技師学校として創立され、昭和47年に医学部附属臨床検査技師学校への改称を経て、昭和51年に現在の医学部附属臨床検査専門学校へと改称し、令和4年に創立54周年を迎えた。これまでに2,258名（令和5年3月現在の卒業生数）の臨床検査技師を育成してきた実績があり、多くの卒業生が久留米市のみでなく九州エリアを中心に活躍し、臨床検査業務、医療に多大な貢献をしている。

久留米大学の建学の精神と基本理念は、下記のように定められている。九州医学専門学校が設立された当時より、「国手の矜持は常に仁なり」という建学の精神を原点としており、それぞれの分野における優れた実践的人材の育成に努めてきた経緯がある。

建学の精神：「国手の矜持（ほこり）は常に仁なり」

（「国手」は本来、名医の意味で使われるが、「国中ですぐれた名人」の意味があり、全学的に通じる言葉である。「矜持」は自信と誇りを持ち、自身を抑制しながら堂々と振る舞うことで、「仁」は「礼にもとづく自己抑制と他者への思いやり」を意味している。）

基本理念：「真理と正義を探求し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする」

２．久留米市、福岡県の医療背景及び本学の貢献

久留米市は、九州北部、福岡県南西部に位置し、人口は福岡県第 3 位の約 30 万人である。久留米市は古くから「医者のまち」として知られ、久留米市の人口 10 万人あたりの医師数は 637 人であり、政令市、中核市でトップクラスである【#1】。また、市内には 32 の病院と 276 の診療所があり、医療体制が充実している。さらに、「救急搬送時間」が平均 27.2 分と全国平均より 10 分以上短く（令和元年度）、政令市、

中核市で全国第1位（平成30年度）となっている【#2】など、久留米市は医療面で安心して暮らせるまちとなっている。本学は創設以来、久留米市をはじめとした北部九州の医療福祉面での発展を長く支えてきた経緯がある。久留米大学病院は、特定機能病院、高度急性期病院として高度医療を提供し、地域の医師会や医療機関と連携して地域医療を支えてきた。同時に、久留米大学及び久留米大学病院は医師、看護師、臨床検査技師をはじめとする保健医療福祉関係に携わる人材の育成を担っている。

福岡県全体を見ても、病院施設数、診療所数がそれぞれ全国4位、5位と医療施設の多い地域である。災害、高齢化による在宅医療など地域における質の良い医療の提供体制の実現のために、これを支える医療従事者の確保、そして質の高い人材を継続して確保していくことが必要となる。福岡県臨床衛生検査技師会には、約3,400名にのぼる臨床検査技師が在籍している【#3】。福岡県臨床衛生検査技師会では、臨床検査技師の継続的な学術・技術の向上を図り、臨床検査技師の職能意識を高めることにより、国民の健康増進及び公衆衛生の向上に寄与することを目的とした活動が行われている。近年の臨床検査技術の進歩は目覚ましく、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い遺伝子検査関連試薬・機器が急速に普及し、各施設で遺伝子検査が日常的に実施されるようになった。また、令和3年7月の臨床検査技師等に関する法律施行令／施行規則の改正により、「医師の働き方改革」のための業務移管「タスク・シフト／シェア」として、臨床検査技師の業務が拡大された。このように、臨床検査技師に対しても最先端の医学知識と高度な検査技術を教育する必要性が高まっており、保健医療福祉分野において多様なニーズに応え、チーム医療に貢献できる臨床検査技師の育成が重要視されている。

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校では、就職を希望する卒業生のほぼ100%が医療機関や臨床検査センター等に就職している【#4】。過去5年間の卒業生207名のうち、久留米市内に43名（21%）、福岡県内に139名（67%）が就職、その他の九州・沖縄への就職が38名（18%）となっている。令和3年度卒業生41名の就職先内訳は、大学病院4名、一般病院31名、診療所2名、臨床検査センター4名である。久留米大学医学部附属臨床検査専門学校では、実習や臨地実習を重視し、医療の現場に対応できる実践的臨床検査技師を育成してきており、久留米市をはじめとする福岡県、九州・沖縄各県の大学病院や一般病院の臨床検査業務に携わり、保健医療福祉の向上に貢献している。

久留米市、福岡県を中心とした医療圏において、臨床検査技師の育成の必要性は高く、臨床検査技師に期待される業務内容は拡大し高度化している。このようなニーズに将来にわたって対応できる臨床検査技師を育成するためには、3年制の専門学校を発展的に改組し、4年制課程で臨床検査技師を育成する必要があると判断し、学科設置認可申請に至った。

【#1】日本医師会　地域医療情報システム
https://jmap.jp/cities/detail/city/40203
【#2】広報くるめ 2020 年 2 月 15 日号_令和元年消防統計 - 久留米市
http://www3.city.kurume.fukuoka.jp/shisei/20_2_15/news/03.htm
【#3】福岡県臨床衛生検査技師会公式サイト
https://fukuokaamt.or.jp
【#4】久留米大学医学部附属臨床検査専門学校ホームページ ＞ 就職状況
http://www.kurume-u.ac.jp/site/rinken/work.html

３．医学部医療検査学科の設置の必要性及び趣旨

臨床検査の分野において医学・医療の進歩は目覚ましく、加えて、昨今はバイオサイエンスやデータサイエンスの活用が医療現場においても必要とされている。医療行為は単に「傷病を治す」という点にとどまらず、QOL の維持向上、予防や緩和ケア、終末期医療、遠隔医療などの側面も含めトータルで考えていくことがより求められている。その結果、医療現場は、様々なオペレーションの管理とデータマネジメントを要する、多彩な専門家が協働する現場へと進化している。さらに、医療の質の向上と効率的な医療提供を進めるため、医師から他職種へのタスク・シフト／シェアが推進されている。

これまで、久留米大学医学部附属臨床検査専門学校では、医学部附属あるいは大学病院に併設している学校の特徴を活かし、質の高い実践的な臨床検査技師教育を実施し、臨床の現場で医療チームの一員として活躍できる臨床検査技師を育成してきた。しかし、上記背景から、臨床検査技師においても最先端の医学知識と高度な検査技術の教育の必要性が高まっている。

このような背景の下、医療福祉分野を中心とし、地元久留米市や福岡県といった地域社会に好影響を与える、学識と専門技術に関わる教育と研究が最大の強みである本学の特色を活かし、医学の進歩や時代のニーズに対応できる臨床検査技師の養成を目的とした医療検査学科を設置することとする。

具体的には、医学部内に医療検査学科を設置することにより、医学科、看護学科と同様の教育力・研究力を有効に活用することができ、さらには久留米大学病院という臨床に即した質の高い先進的な医学教育を提供できる。また、医学部の中で今後さらに充実させる全学的な文医融合プログラムを先行して取り込んだカリキュラムを構築し、多様で高度なニーズに対応できる臨床検査技術を修得した専門家の輩出を目指す。

教育プログラムについては、医学部における共通カリキュラムや多職種連携教育（IPE）などの医学部連携プログラムにより、チーム医療の実践に必要な態度と習慣を身に付けることを目指す。これまでの臨床検査技師教育に加え、久留米大学の強みを活かした全学的な文医融合プログラムとしてヘルスサイエンス教育を実施する。バ

イオサイエンス（分子細胞生物学や医療ゲノム学の知識を共通基盤とした医療・診断技術、遺伝子解析、細胞・胚培養を学ぶ）、データサイエンス（データサイエンスの基礎的な知識を身に付け、臨床検査や診療情報のデータ分析を学ぶ）、マネジメントサイエンス（診療情報の管理及び医療管理の基礎知識と基礎スキルを学び、診療情報管理士の資格取得を目指す）の３つのコースで、基礎（必修）と応用（選択）を学ぶことができる。

このように、質の高い医学部での臨床検査専門教育（メディカルテクノロジー教育）を基盤とし、時代のニーズに合ったヘルスサイエンス教育を実現させ、メディカルサイエンスに精通する次世代型臨床検査技師の育成を目的とした学科の設置として設置認可申請を行う。

４．養成する人材像と３つのポリシー

（１）養成する人材像

医療検査学科では、「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師の育成」を目的とした教育・研究を行う。

そのために、医学科や看護学科及び久留米大学病院と連携して医学・医療及び臨床検査学の教育を実施し、質の高い臨床検査プログラムを提供する。また、久留米大学病院や地域臨地実習病院との連携により、臨床検査技師の臨地実習教育を実施する。久留米大学医学部附属臨床検査専門学校において、医学部、久留米大学病院、地域臨地実習病院との連携体制は既に運用されており、この実績の上での密な調整により連携体制の改善と強化を図り、医療の現場に対応できる実践力を身に付けた臨床検査技師の教育を行う。

また、多様な医療のニーズに対応するために、医学科と看護学科の学生とともに学ぶ機会として「医学部連携プログラム」を設け、様々な医療職種の業務と視点について理解を深め、将来的にチーム医療の一員として多職種と協働して活躍できる能力を身に付ける。

さらに、医療の高度化と多様化の中で、臨床検査技師に求められるバイオサイエンス、データサイエンス、マネジメントサイエンスの教育の必要性を重視し、全学的文医融合プログラムとしてヘルスサイエンス教育を実施する。ヘルスサイエンス教育は基礎と応用により構成され、基礎はすべての学生が履修するが、応用は臨床検査プログラムの応用を含めた選択制となっている。応用では、学生の関心や能力に応じて選択して研究力を磨く。

このように、メディカルテクノロジー（臨床検査、医療技術）を基盤とした臨床検査技師教育に、ヘルスサイエンス（健康科学）の基礎的・専門的教育を融合させたメディカルサイエンス教育を実現する。メディカルサイエンス教育により、臨床検査技師としての実践的実務教育と研究力を育成する教育が可能となる。従って、医療検査

学科では、科学及び医療・検査技術の進歩と医療ニーズの変遷に対応する能力の高い検査技師、つまり、次世代型臨床検査技師の育成を教育・研究の目的とする。

（２）ディプロマ・ポリシー

久留米大学の建学の精神、基本理念に基づき、ディプロマ・ポリシーに記載する「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」となる能力を修得したものに対して卒業を認定し、学位を授与する。

【ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与方針）】

①医療人・研究者として高い倫理観と豊かな人間性が備わっている。
②臨床検査の基本的知識・技術を修得できており、実践する能力がある。
③医療チームの一員として医療活動に参画し、適切な臨床検査を提供できる。
④社会における多様な臨床検査のニーズに対応する能力がある。
⑤科学的思考力を身に付けており、生涯学習を行う意欲と習慣が備わっている。

（３）カリキュラム・ポリシー

医学部医療検査学科では、卒業認定・学位授与の方針に設定しているディプロマ・ポリシーが達成できるように、カリキュラムを「臨床検査プログラム」、「全学的文医融合プログラム」「医学部連携プログラム」の要素により構成する。さらに、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分して編成し、講義、演習、実習、臨地実習を組み合わせたカリキュラムとする。

【カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）】

①臨床検査の専門的な知識と技術を修得する「臨床検査プログラム」、ヘルスサイエンスを学ぶ「全学的文医融合プログラム」、多様な分野の専門家から教養とチーム医療を学ぶ「医学部連携プログラム」の 3 つの要素によりカリキュラムを構成する。これらを 1 年次から 4 年次の間に基礎から応用まで段階的に学修できるように、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分して編成する。
②臨床検査プログラムでは、はじめに医療従事者に必要な科学的知識、心理学、英語を、その後、医学と検査機器の基礎や臨床検査の実践において必要となる知識と技術を修得した後に、臨地実習による実践的職業訓練を実施する。3～4 年次には、臨床検査応用選択コースにおいて特定の臨床検査の修得と研究に向けた少人数教育を行い、卒業研究に発展させる。
③全学的文医融合プログラムでは 3 分野のヘルスサイエンス教育を実施し、次世代型の臨床検査技師として社会の新たなニーズへ対応する能力を養う（生命科学から発展した新たな医療・診断技術、遺伝子解析などを学ぶ「バイオサイエンス（基礎・

応用）」、情報科学と AI について学ぶ「データサイエンス（基礎・応用）」、保健医療福祉制度及び医療情報管理を学ぶ「マネジメントサイエンス（基礎・応用）」）。いずれも基礎は必修科目として 3 年次までに学修する。その後のヘルスサイエンス応用選択コースでは、自ら興味を持った分野を深く学び、研究や実臨床で活用する能力を養い、卒業研究に発展させる。また、「マネジメントサイエンス」の応用選択コースを履修すると、3 年次に診療情報管理士の資格試験を受験することができる。

④医学部連携プログラムでは、医学科、または看護学科の学生との合同授業を各学年で行い、医療や医学研究に携わる者として共通の立場、あるいはチーム医療で異なる役割を担う立場から、互いを尊重しながらコミュニケーションを図り、チーム医療の重要性とそれぞれの役割を理解する。

（４）アドミッション・ポリシー

医療検査学科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、以下のような学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」）を備えた人を求める。

【アドミッション・ポリシー（AP：入学者受け入れの方針）】

①臨床検査学の修学に必要な基礎学力、思考力を備えた人（知識・技能）

②社会に関心を持ち自ら課題をみつけ、学問的裏付けをもって解決策、解答を導き出す姿勢がある人（思考力・判断力・表現力）

③自らの健康を管理し、明確な目的意識を持ち規則正しい生活を送ることができる人（主体的な生活態度）

④日進月歩の臨床検査に係る技術・専門について、隣接分野での学習にも精力的に取り組み、医学・保健医療の分野で貢献したいという強い意思のある人（主体性を持って学ぶ態度）

⑤他者に対して礼を以って接し、周囲と協調して適切なコミュニケーションができる人（多様な人々と協働して学ぶ態度）

（５）３つのポリシーの相関及び整合性

3 つのポリシーの関係と自己点検・評価を基盤とした内部質保証の体制を【資料 1】に示す。カリキュラムは、「臨床検査プログラム」（青★）、「全学的文医融合プログラム」（緑★）、「医学部連携プログラム」（橙★）のいずれか、または複数の要素により構成される。さらに、基礎から応用まで段階的に学修できるように、教育課程を「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分して編成する。ディプロマ・ポリシーと教育課程科目群における各プログラム要素の割合イメージを 3 つの星マーク（青★・緑★・橙★）で図示している。ディプロマ・ポリシーと履修科目と

の対応関係と整合性は「カリキュラムマップ」に示している【資料2】。また、ディプロマ･ポリシーとカリキュラム･ポリシーに基づく教育内容を踏まえ､アドミッション･ポリシーとして入学者に求める入学前学習の成果を学力の三要素と対比して示す。アドミッション・ポリシーに基づいた入学者の選抜方法については、「第８　**入学者選抜の概要**」に詳細を記載している。

学科設置後もPDCAサイクルによる3つのポリシーの評価と改善が求められており、3つのポリシー（Plan）に基づく入学者選抜、体系的な教育課程の編成、卒業認定・学位授与(Do)の評価(Check)を実施し､自己点検･評価に基づいた教育の改善(Action)を推進する。久留米大学の内部質保証の体制はすでに整っており、この体制に従って内部点検・評価を実施する（詳細は「**第１３　自己点検・評価」に記載**）。

【資料 1】久留米大学医学部医療検査学科　3 つのポリシーの関係と自己点検・評価を基盤とした内部質保証の体制
【資料 2】久留米大学医学部医療検査学科　カリキュラムマップ

５．組織として研究対象とする専門的学問分野

本学科が組織として研究対象とする専門的学問分野は、「臨床検査学」である。「臨床検査学」は専門性が異なる多くの分野により構成されているため、専任教員が専門とする学問分野の研究を推進し、応用選択コースでの学生教育に還元する。具体的な研究分野は、「血液検査学」、「病理検査学」、「生化学検査学」、「微生物検査学」、「生理検査学」、「医用工学」などである。

ヘルスサイエンスの学問分野は「臨床検査学」と関連するが異なる学問領域にもまたがるため、「バイオサイエンス」、「データサイエンス」、「マネジメントサイエンス」も研究対象となる。なお、「臨床検査学」と「ヘルスサイエンス」を包括した学問分野を「医療検査学」とする。

６．既に設置されている専門学校との違い【表 1】

既に設置されている久留米大学医学部附属臨床検査専門学校では､文部科学大臣指定の専門学校として､臨床検査技師養成所指導ガイドラインに従い臨床検査技師教育を実施してきた。医学部附属の臨床検査技師養成校として、医学部の教授や准教授をはじめとする講師陣が兼担講師として講義を担当し､久留米大学病院の臨床検査技師が講義・実習・臨地実習で直接、実践的な指導を行うなど質の高い臨床検査技師教育を実施してきた。このような教育体制により、「医療の現場に対応できる実践的臨床検査技師」の育成を行ってきた。臨床検査技師国家試験の成績においても、近隣の 4 年制大学の臨床検査技師養成校の合格率を上回る成績（過去 5 年の新卒者国家試験合格率 95.2%）を挙げており、実習と臨地実習を重視した教育により、就職先の病院において入職当初より臨床検査技師としての働きが高く評価されてきた。しかし、

臨床検査業務の拡大と高度化、研究マインドの育成に対応した教育を行うには、3 年という修業年限では限界があることが課題となってきた。

加えて、少子化による 18 歳人口の減少に伴い受験生の大学志向が強まっていること、また、九州の臨床検査技師養成校の大学化が進んでいることにより、臨床検査専門学校における受験者数が徐々に減少している状況にある。平成 30 年度に日本臨床検査学教育協議会が実施したアンケート（進路・入学）において、3 年制専門学校の卒業者の就職先は一般・公立病院、検査センターが主であり、大学病院や医療系・一般企業への就職は限られていること、入学試験における 3 年制専門学校の志願倍率 1.3 倍、定員充足率 94.0%であるのに対して、4 年制私立大学の志願倍率は 6.2 倍であり、全国的に見ても 3 年制専門学校の志願者数の減少が顕著であることが明らかな結果である【資料 3】。

臨床検査専門学校の在校生に、平成 22 年と平成 27 年に大学化についてアンケートを実施した結果、大学化に賛成 40%、専門学校のままが良い 30%、どちらでもよい（または、わからない）30%であった。大学化の魅力として、学士の学歴、就職に有利、昇進・生涯賃金、能動的学習、大学院進学などが挙げられた。一方、専門学校の魅力は、3 年間の短期間での資格取得、安い学費であった。また、臨床検査専門学校の受験理由は、医学部附属、高い国家試験合格率と就職率、通学圏内であることなどであった。在校生には、大学受験を経験している学生が多く、在校生においても大学化を望む意見が主流と判断された。また、オープンキャンパスでの参加者アンケートからも、受験生の大学指向は明らかであった。

今般設置認可申請を行う医学部医療検査学科では、厚生労働大臣の指定する科目を履修する学校、すなわち「承認科目校」として臨床検査技師養成を行う。具体的には、厚生労働大臣の指定する指定科目を 4 年間で履修する。教育課程の特徴として、

（1）医学部内に設置する学科として質の高い医学教育と臨床検査専門教育を実施
（2）チーム医療を学ぶための医学部連携プログラムによる多職種連携教育を実施
（3）久留米大学病院・地域臨地実習病院との連携による実践的職業訓練を実施
（4）久留米大学の特色を活かした全学的文医融合プログラムを構築し、臨床検査技師に必要なメディカルサイエンス教育を実施

の 4 つを挙げることができる（各項目の詳細は「**第２　学科の特色**」に記載）。このような教育を基本として、高度化する臨床検査に対応できる医学知識の修得と臨床検査技術の理解・修得を目指す。また、学生が研究を体験・実施できる応用選択コース（臨床検査・ヘルスサイエンスの両方のプログラムに設置）を設け、研究力の育成を目指す。これまで臨床検査専門学校の入学定員は 40 名であり、医学部医療検査学科では 74 名へと増加するが、すべての学生が自らの個性と能力を活かした学修ができるように、応用選択コースでは幅広い内容の研究から選択できる体制となっている。従って、新設する医療検査学科では、「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師の育成」が人材育成の目的となる。

取得可能な主な資格として、臨床検査技師国家資格に加えて、マネジメントサイエンス応用選択コースを履修した学生は、診療情報管理士（日本病院会認定資格）の資格取得が可能となる（「**第７　取得可能な資格**」に記載）。

教員組織は、専任教員は臨床検査専門学校での 6 名体制から、医療検査学科では 15 名体制となる。しかし、専任教員のみではすべての科目を担当することは難しい現状がある。臨床検査専門学校では、これまで医学部の教員、大学病院の臨床検査技師をはじめとした教職員と連携して臨床検査教育を実施してきた実績があり、医療検査学科においても、医学部内への学科設置と久留米大学病院を持つ大学としての強みを活かし、医学部教員、大学病院の教職員を兼担・兼任講師として配置することにより、専門性の高い医学教育や実務経験に基づく臨床検査教育の充実を図る。

医学部医療検査学科の令和 6 年度開設の設置認可申請に伴い、既存の医学部附属臨床検査専門学校は令和 6 年度以降入学者募集を停止し、既に医学部附属臨床検査専門学校のホームページで受験生に周知している【#5】。令和 5 年度入学の学生が卒業する令和 7 年度末で、医学部附属臨床検査専門学校は廃止となる予定である。令和 6 年度は医療検査学科の 1 年生、臨床検査専門学校の 2・3 年生、令和 7 年度は医療検査学科の 1・2 年生、臨床検査専門学校の 3 年生が併存することになる。臨床検査専門学校の在校生に対しては、これまでどおり「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」を遵守した臨床検査技師教育を実施し、教育条件の維持に万全を尽くす。令和 7 年度は臨床検査専門学校の 3 年生が在学しており、医療検査学科棟の講義室や協同学習室などを、臨床検査専門学校の校舎（教育 2 号館）に追加して使用する方針である。なお、臨床検査専門学校は令和 7 年度末で廃止の予定であるが、すべての在校生が卒業するのを待って廃止とする。

【資料 3】日本臨床検査学教育協議会 平成 30 年度臨時総会 調査研究委員会
「平成 29 年度進路状況調査および平成 30 年度入学状況調査」に関する報告
【表 1】既に設置されていた専門学校と新たに設置する学科との違い
【#5】久留米大学医学部附属臨床検査専門学校ホームページ ＞ 2024（令和 6）年度以降の学生募集停止について（お知らせ）
http://www.kurume-u.ac.jp/site/rinken/202205301.html

表1. 既に設置されていた専門学校と新たに設置する学科との違い

	【既存】医学部附属臨床検査専門学校	【新設】医学部医療検査学科
養成校区分	（文科科学大臣）指定専門学校	（厚生労働大臣）承認科目校
修業年限	3年	4年
定員	40名	74名
人材養成の目的	医療の現場に対応できる実践的臨床検査技師の育成	メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師の育成
取得可能な主な資格	・臨床検査技師（国家資格／受験資格／全員）	・臨床検査技師（国家資格／受験資格／全員） ・診療情報管理士（民間資格／受験資格／応用選択者のみ）
教育課程の特徴	1 医学部附属の専門学校として質の高い臨床検査専門教育を実施 2 久留米大学病院と地域臨地実習病院との連携により実践的職業訓練を実施	1 医学部内に設置する学科における質の高い医学教育と臨床検査専門教育を実施 2 チーム医療を学ぶために医学部連携プログラムによる多職種連携教育を実施 3 久留米大学病院・地域臨地実習病院との連携による実践的職業訓練を実施 4 久留米大学の特色を活かした全学的文医融合プログラムを構築し、臨床検査技師に必要なメディカルサイエンス教育を実施
臨床検査プログラム	臨床検査技師養成所指導ガイドラインを遵守	「承認科目校」における厚生労働大臣の指定する科目を履修
教員組織	専任教員6名 ・医師 1名 ・臨床検査技師 5名	専任教員15名 ・医師 4名 ・臨床検査技師 8名 ・その他 3名（バイオサイエンス、データサイエンス、マネジメントサイエンス各 1名）

7．医学部医療検査学科に対する職能団体からの要望書及び賛同

久留米市では、久留米市新総合計画第4次基本計画において「学術研究都市づくりの推進」を、第2期久留米市地方創生総合戦略においても「大学等の姿がみえるまちづくり」を重要施策と位置づけ、大学等と地域の連携による地域課題の解決や地元企業との産学連携による産業振興、地域の将来を担う人材の育成、学生の確保、卒業生の地元への就職推進などが進められている。本学に医学部医療検査学科が設置され、保健医療福祉の担い手となる、あるいは発展に寄与する人材が養成されることにより、久留米市が取り組む「安心・安全のまち」「活力のあるまち」「活き活き生活できる、活躍できる共生のまち」の3つのまちづくりにとって強力な推進力になることが期待されるとして、要望書をいただいた。

福岡県臨床衛生検査技師会会長には、臨床検査は最先端技術の応用分野であり、今後もその技術の進歩発展は急速に進むことが予測されること、国民の医療に対する認識の変化や国際化に対応して、保健医療の各分野で指導的な役割を果たすことのできる臨床検査技師の育成が重要となっていることより、4年制大学での臨床検査技師教育の必要性に賛同いただき、医学部医療検査学科設置の賛同書をいただいた。また、福岡県医師会から、質の高い臨床検査技師教育に加えて、医学科・看護学科とのチーム医療教育、全学的文医融合プログラムによるデータサイエンス教育などの特徴を持つ医学部医療検査学科の設置は、高齢化社会における地域医療の体制構築においても必要であるとして賛同書をいただいた。

隣接する佐賀県には臨床検査技師養成校はなく、久留米大学医学部附属臨床検査専門学校をはじめとする他県での資格取得者が、保健医療福祉の現場を支えている状況がある。そのため、佐賀県、佐賀県臨床検査技師会及び佐賀県医師会から高度化・専門化する医学・医療の進歩に対応するためにも、4年制の医学部医療検査学科の設置に期待するとして要望書をいただいた。

なお、福岡県・久留米市は令和3年に内閣府より「福岡バイオコミュニティ」の認定を受けており、バイオベンチャー・企業・研究機関などバイオ関連企業の拠点化を目指している。バイオ関連企業と連携した地域振興においても人材育成は重要な課題であり、臨床検査技師教育に加えて、バイサイエンスやデータサイエンス教育が充実した医学部医療検査学科の設置は専門人材の育成という観点から大いに期待されるとして、「福岡バイオコミュニティ推進会議」の事務局である株式会社久留米リサーチ・パークより要望書をいただいた。

【資料4】久留米大学医学部医療検査学科設置に対する職能団体等からの要望書・意見書

第２　学科の特色

１．医学部医療検査学科が担う役割・機能とその特色

久留米大学は建学の精神の下に、地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成を理念としている。新設する医療検査学科では、「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」を育成することにより、医学や保健医療の向上に貢献することを使命とする。

新学科の使命を果たすため、医療検査学科を医学部内に設置し、医学科、看護学科に次ぐ第３の学科とし、以下の特色を有する教育を実施する。

（１）医学部内に設置する学科における質の高い医学教育と臨床検査専門教育
（２）チーム医療を学ぶための医学部連携プログラムによる多職種連携教育
（３）久留米大学病院・地域臨地実習病院との連携による実践的職業訓練
（４）全学的文医融合プログラムによるヘルスサイエンス教育

この教育プログラムにより、メディカルサイエンスの中でもメディカルテクノロジー（臨床検査、医療技術）とヘルスサイエンス教育の統合による教育研究を実現し、臨床検査技師に必要なメディカルサイエンス教育を実施する。

（１）医学部内に設置する学科における質の高い医学教育と臨床検査専門教育

医学部内に設置することにより、医学部の人的資源及び施設設備を最大限に活用した教育研究を実施する。医療検査学科では、臨床検査の各分野を専門とする専任教員が責任を持って主要な教育領域を担当するが、医学・臨床検査学の領域は広く、すべての領域を専門家として網羅することは難しい。本学医学部は医学科と看護学科に加え大学病院を擁し、良き医療人を育成するために垣根を越えた人的交流が行われている。医学・医療の各専門領域で活躍する教育研究者、医師、看護師、臨床検査技師をはじめとする医療従事者による教育体制が整っており、専任教員と連携・協力して質の高い医学教育と臨床検査専門教育を実施する。

医療検査学科の校舎には教育・研究の施設と設備を整備し、医療機器を用いた臨床検査手技の実習を行うことができる。さらに、医学部の充実した教育・実習の施設と設備として、組織学実習室、解剖学実習室、コンピュータ実習室などを利用することができる。また、医系の旭町キャンパスでは、分子生命科学研究所、バイオ統計センター、循環器病研究所、高次脳疾患研究所などの附置研究所、クリニカルスキル・トレーニングセンター、先端イメージング研究センター、動物実験センター、質量分析医学応用研究施設などの医学部中央研究施設の高度な教育・研究機器の利用が可能であり、必要に応じて研究開発支援を受けることができる環境にある。

（２）チーム医療を学ぶための医学部連携プログラムによる多職種連携教育

臨床検査技師として多様な医療のニーズに対応するために、チーム医療の一員として多職種と協働して活躍できる能力を身に付ける必要がある。そのため、医学部の医学科と看護学科の学生とともに学ぶ機会として医学部連携プログラムを設ける。このプログラムにより、様々な医療職種の業務と視点について理解を深めると同時に、共通の視点でともに学び意見交換を行うことにより他の医療職種と連携・協働する能力を育成する。1 年次から 4 年次にわたり継続的な教育プログラムとする。具体的には、1 年次の教養科目、協同学習の要素を取り入れた「学びの基本 I」では医学科学生との合同受講とし、2 年次の肉眼解剖学実習は医学科、看護学科の学生とのグループ実習とする。また、3 年次の応用選択コースでは研究室配属となる医学科学生（3 年生）と共同で研究に取り組み、4 年次には看護学科学生と合同でロールプレイによる患者とのコミュニケーション演習を実施する。臨地実習（4 年次）においては、医療安全カンファランスや感染制御チームの院内回診（ICT ラウンド）により臨床の現場でのチーム医療を体験する。

（３）久留米大学病院・地域臨地実習病院との連携による実践的職業訓練

医学部医療検査学科の前身となる医学部附属臨床検査専門学校は、久留米大学病院や地域臨地実習病院と連携した実践的職業訓練により、「医療の現場に対応できる実践的臨床検査技師」を育成してきた実績を有している。医学部医療検査学科では、多岐にわたるノウハウや経験を踏まえた上で、久留米大学病院及び地域の臨地実習病院との連携をさらに強めて実践力のある臨床検査技師教育を引き続き実施する。

医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアに伴い、臨床検査技師の業務が拡大されており、臨床検査技師の卒前教育においても学生が修得すべき知識や技術の範囲が拡大している。また、近年、実臨床では新たな科学技術を取り入れた検査が次々に増えると同時に、検査の自動化、キット化が進み、一つの検査がより簡便に実施できるようになってきた。一方で、検査の自動化により精度管理の重要性とその方法を学ぶ必要が生じている。このような臨床検査教育内容の変遷に対応できるカリキュラムと臨地実習を構成し実施する。

（４）全学的文医融合プログラムによるヘルスサイエンス教育

久留米大学附置研究所、文系学部、医学部の教員の連携による全学的文医融合プログラムとして、ヘルスサイエンス教育を実施する。ヘルスサイエンス教育の 3 部門（バイオ・データ・マネジメント）を展開することにより、課題を捉える多面的な視点を涵養するとともに、学生の興味・意欲・問題意識を刺激し、能動的な問題解決型学習の実践を誘発する。「ヘルスサイエンス基礎」（必修科目）を学んだ後、学生の希望に応じて「ヘルスサイエンス応用」の選択により深く学修できるコースを設定する。

①バイオサイエンス

生物学、医学、情報科学など多様な分野の融合によるバイオサイエンスの発展により、様々な疾患の原因についても分子レベルでの理解が進み、それらの知見に基づいた新たな診断・治療法の開発や創薬が試行されている。近年のコロナ禍で耳目を集めた PCR 診断や mRNA ワクチンに代表されるバイオサイエンスの発展は、基礎研究だけではなく、医療分野、生活全般に大きな変革をもたらしている。バイオサイエンスでは、このように社会構造を巻き込んだ大きな変化に、高い倫理観・責任感の基に対応するための力を学生に培い、医療・バイオサイエンスをはじめ様々な分野で活躍する臨床検査の専門家（次世代型臨床検査技師）を育成することを目的とする。

②データサイエンス

検査機器やコンピュータの飛躍的な発展により、医療現場では多種・膨大なデータが蓄積されるようになり、医療ビックデータの解析・活用のためのバイオ統計学による数理的研究、機械学習や人工知能（AI）の利用が進展している。バイオ統計学は、データの解析だけではなく、臨床研究・臨床試験の計画遂行、結果検証に活用されており、近年の「根拠に基づく医療」の実践に必要不可欠な学問分野となっている。データサイエンスでは臨床検査技師であるとともに、臨床研究の計画・遂行、バイオ統計学、機械学習、AI の知識を有し、医療者と円滑なサイエンティフィックコミュニケーション能力を有した、新しい臨床検査の専門家（次世代型臨床検査技師）を育成することを目的とする。

③マネジメントサイエンス

各医療機関において日常的に生成･蓄積されているカルテや診療報酬明細書などの医療情報データの「二次利用」により、病院指標の基盤となる統計データ作成や医療の質の可視化・評価が広く行われるようになった。急速な少子高齢化が進む中で、医療保険制度の持続可能性の確立が求められており、効率的な医療提供、健康増進、医療コスト削減につながる医療情報データの活用･共有システムの整備が求められてい

る。マネジメントサイエンスでは、診療情報の管理及び医療経営の知識と実践スキルを学習し、診療情報の活用に精通した臨床検査の専門家（次世代型臨床検査技師）を育成することを目的とする。「マネジメントサイエンス応用」を選択した学生には、診療情報管理の専門資格（診療情報管理士）を取得するための講義・指導を行う。

２．医療検査学科を医学部に設置することによる久留米大学・医学部の特色の変更

久留米大学の建学の精神と基本理念に基づき、医学部医療検査学科においても地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成を目指すことに変更はない。医学部医療検査学科の設置により、久留米大学の文医融合教育、医学部における多職種連携教育や共同研究において新たな取組が推進され、久留米大学の教育・研究体制の強化が見込まれる。

久留米大学では、医学部を持つ大学の特色を活かして人間健康学部や文学部で文医融合による教育カリキュラムが組まれ、教育活動の実績を積み重ねている【#6、#7】。医学部医療検査学科では、附置研究所と文系学部の教員と連携した全学的文医融合プログラムを構築し、医学部連携プログラムでも文医融合による教養教育や協同学習を実現している。これまでの医学部の教育要素を文系学部の教育に取り込む文医融合教育に加えて、文系学部の教育要素を医学部の教育に取り込む文医融合教育が実施される。その結果、医学部と文系学部との双方向性の文医融合教育体制が整うことになる。

少子高齢化社会、医師の働き方改革などを背景に、チーム医療（多職種連携）に対する社会のニーズが高まり、卒前教育における多職種連携教育も拡充が求められている。医学部への医療検査学科の開設は、医学部内で医学科と看護学科を含む 3 学科の連携教育の推進力になっている。医学部連携プログラムの実施には、合同授業を可能とする教育プログラムの見直し、多職種連携教育に関する FD による各学科教員の多職種連携教育に対する意識の向上、職種／学科の特性や抱える課題などの共有に基づく多職種連携教育プログラムの作成など今後の課題は残されているが、学科設置に伴い合同授業・多職種連携教育の実現に向けて各学科の専任教員同士の対話や協議が進められている。医学部連携プログラムには文医融合の特色を持つ科目も存在し、久留米大学全体の取り組みとしても意義は大きい。今後、医学科や看護学科の教育にも良い影響を及ぼすことが期待され、医学部の教育方針として検討を積み重ねる必要がある。

医療検査学科が対象とする研究分野での研究を充実させることにより、医学部講座、大学病院診療科だけでは実現できなかった基礎研究や臨床研究が可能になる。医療検査学科では多くの研究が計画されており、その充実は医学部全体の研究力向上につながる。医療検査学科の研究の取組の一例として、医学部講座と連携したスリープラボの設置があげられる。スリープラボを設置することにより、精神疾患や発達障害における睡眠障害研究や、睡眠ディバイスや睡眠改善を目的とした健康食品の開発を目的とした臨床研究や産学官連携の共同研究に発展することが期待される。

【#6】久留米大学人間健康学部の教育理念および特徴
https://www.kurume-u.ac.jp/site/ningenkenkougaku/idea.html
【#7】久留米大学文学部情報社会学科_文医融合の「ほとめきプロジェクト実習演習」
https://www.kurume-u.ac.jp/site/backno/20220714-2.html

第３　学科の名称及び学位の名称

１．学科の名称の理由

本学科が組織として研究対象とする専門的学問分野は「臨床検査学」であるが、医学部内への設置により、「医学部連携プログラム」を通して医学科や看護学科の学生とともに学び、チーム医療の一員として他の医療職種と連携・協働する能力の育成を実施すること、また、これまでの臨床検査技師教育に加え、文系学部や附置研究所を擁する本学の強みを活かした「ヘルスサイエンス」教育を実施することから、これらを包括した教育課程を編成する学科として、学科名を「医療検査学科」とする。

２．学位に付記する専攻分野の名称とその理由

本学科は、前述した人材養成の目的に従い、その中で養成する医療技術専門職者を適切に表現できる学位名称を「学士（医療検査学）」とする。

３．学科及び学位の英訳名称

卒業を認定された者に対し、学士の学位を授与する。

学科名称：School of Medical Technology
学位名称：Bachelor of Medical Technology

現在の専門学校の英語名はSchool for Medical Technologyであるが、学科名称の英訳は、医学科、看護学科の表記法に合わせてSchool of Medical Technologyとする。

第４　教育課程の編成の考え方及び特色

１．教育課程の編成の基本方針

医学部医療検査学科では、学生に臨床検査技師国家試験の受験資格を取得させるにあたり、臨床検査技師等に関する法律施行令第 18 条第 4 号に定める厚生労働大臣の指定する科目を履修する学校、すなわち「承認科目校」として開設する。教育課程では、この基準を満たす科目と単位数を設定することを前提とする。

さらに、カリキュラム・ポリシーに示したように、本学科の人材養成の目的を達成するために、臨床検査の専門的な知識と技術を修得する「臨床検査プログラム」、へ

ルスサイエンスを学ぶ「全学的文医融合プログラム」、多様な分野の専門家から教養とチーム医療を学ぶ「医学部連携プログラム」の 3 つの要素により、カリキュラムを構成する。

「臨床検査プログラム」には、「承認科目校」として国家試験受験資格取得に必要なすべての科目、また、これ以外にも、本学科単独で行う必修の初年次教育や、臨床検査技師としての将来に向けた動機付けを行う科目、臨床検査学に必要な医学英語を学ぶ科目、応用選択コースにて少人数でトレーニングと研究活動を行う科目を含める。

「全学的文医融合プログラム」は、3 部門のヘルスサイエンス教育を、各分野の専門家である専任教員、関連する附置研究所の教育研究者、及び文系学部教員が担当するものであり、「バイオサイエンス（基礎・応用）」では生命科学から発展した新たな医療、診断技術、遺伝子解析などを扱い、「データサイエンス（基礎・応用）」では情報科学と AI について、「マネジメントサイエンス（基礎・応用）」では保健医療福祉制度及び医療情報管理を学ぶ。3 部門とも、基礎はいずれも必修科目として、後述する科目区分のうち**「専門基礎科目」**に配置する。3 年次には、これら 3 部門に臨床検査学分野を合わせた 4 部門の応用選択コースを設けて選択必修とし、4 年次には卒業研究としてまとめ、発表する。

「医学部連携プログラム」は、医学部医学科、または看護学科の学生と合同で授業を行い、将来の医療従事者を目指す者として、共通の視点でともに学び意見交換をしたり、チーム医療の中で異なる役割を担いながら連携するために必要な事柄を認識するものである。また、医療検査学科単独で受講する場合においても、医学部と久留米大学病院の他職種の教職員からチーム医療について学ぶ科目を含める。

なお、各授業科目は 3 つのプログラムに完全に分かれるものではなく、3 つのプログラムのいずれか、または複数の要素を含んでいる（【資料 1】【資料 2】参照）。そのため、これらの要素を 1 年次から 4 年次の間に基礎から応用まで体系的に学習できるよう、教育課程は**「基礎科目」**、**「専門基礎科目」**、**「専門科目」**に区分して編成する。

（１）科目区分の設定及びその理由

「基礎科目」は**『人間と生活・社会の理解』**と**『科学的思考の基盤』**の 2 科目群で構成する。ここでは、大学での学び方、コミュニケーションの在り方、医学領域にとどまらない幅広い教養と多様な価値観を学ぶことにより、倫理観と豊かな人間性を育み、科学的思考に基づいた問題発見・解決能力の基礎を養う。また、将来の自分を意識しながら有意義に学べるよう、キャリア教育の導入も含める。

「専門基礎科目」は**『生命科学・検査原理の基礎』**、**『人体の構造と機能』**、**『保健医療福祉とデータの取り扱い』**の 3 科目群で構成する。ここで生命科学の基礎、検査原理の基礎、及び正常な人体の構造と機能を学ぶことは、「専門科目」で臨床

検査の基本知識と実践能力を修得し、病気のしくみ（病態・病理）を理解するために欠かせない。保健医療福祉や医学研究における臨床検査の活用の基礎も含め、この区分で修得する知識や考え方は、将来、医療や研究の場で課題に直面した時に新たな解決法を自ら生み出すための基盤ともなる。

「専門科目」は**『病態・病理と疾病』**、**『臨床検査学の基本』**、**『チーム医療と臨床検査学の実践に向けて』**、**『応用選択コース』**の 4 科目群で構成する。前 2 科目群にて臨床検査学の各領域における基礎と疾病の関連を学んだ後に、後 2 科目群にて臨床検査学の実践に向けた座学、応用演習・実験と臨地実習、及び卒業研究を実施する。

なお、厚生労働大臣の指定する科目は、「専門基礎科目」、「専門科目」のいずれかの区分に配置する。

（２）各科目区分の科目構成と科目の配置（履修順序）の考え方【資料 5】【資料 6】

＜基礎科目＞

一般教養選択科目、及び初年次教育に該当する必修 5 科目で構成し、すべて 1 年次に配置する。一般教養選択科目は医学科 1 年生との合同受講とし、本学文学部、人間健康学部、法学部、経済学部、商学部、医学部医学科の幅広い専門領域の兼担講師が 20 にわたる教養科目を提供する。

① **『人間と生活・社会の理解』**には、16 の一般教養選択科目（人文科学、社会科学、健康科学系と語学）、及び必修科目として「英語」、「健康・スポーツ科学（実技）」、「キャリア入門」を含む。スポーツ実技を必修としたのは、運動への苦手意識の有無にかかわらず、学生が楽しみながら仲間とのコミュニケーションを促進し、授業を通じて生涯の健康のために在学中及び卒後のライフステージに適った運動習慣を獲得するきっかけを作ることをねらっているためである。

② **『科学的思考の基礎』**では、「論理学」、「数学」、「文献調査法」、「基礎医学ディベート」の 4 つの一般教養選択科目、また必修科目では文学部心理学科（教育心理学）教員の主導の下、「学びの基本Ⅰ、Ⅱ」を開講する。「学びの基本Ⅰ」（演習）では入学直後から、大学での学び方、資料の整理・レポートの書き方、仲間とのグループ学習の進め方などを修得させる。学生にはここで、ディプロマ・ポリシーを達成するには、在学 4 年間を通じて各学生が能動的に学び、互いに教え合う活動が必須であることを自覚させるとともに、相手を尊重することの重要性も認識させる。後期には「学びの基本Ⅱ」（講義）にて、心理学を基盤とした動機づけ、人間関係、ストレスなどを扱う。

＜専門基礎科目＞

すべて必修科目とし、22 科目を 1 年次から 3 年次にかけて配置する。「化学」、「物理学」、「生物学」は臨床検査技師養成における専門分野を理解するために必須であることから本科目区分に配置し、授業内容には臨床検査学、医学との関連を意識させるような要素を含めている。

① **『生命科学・検査原理の基礎』**は 8 科目で構成する。1 年次には「化学」、「物理学」、「生物学」の自然科学 3 科目と、微生物検査学の基礎となる「細菌学」、今後の実習で頻用する顕微鏡や実験器具・機器の取り扱いを学ぶ「検査機器総論」、超音波や光エネルギーに対する生体反応及び医用電気機器を適切に取り扱うための原理を学ぶ「医用工学概論」を配置する。2 年次には「医用工学概論実習」にて装置の操作を通して講義内容の理解を深め、「バイオサイエンス基礎」にて、生命科学の分子レベルでの理解、基礎研究の原理を学び、研究への応用・発展に目を向けさせる。

② **『人体の構造と機能』**は 6 科目で構成する。「肉眼解剖学」、「組織解剖学」、「生理学」、「生化学」、「免疫学」はすべて 1 年次に配置し、個体・器官系・器官・組織・細胞・分子レベルの各階層における正常な構造と機能について学修させる。「肉眼解剖学実習」のみ 2 年次に配置し、学生が超音波などの検査、各種病態、採血や検体採取に係る問題意識を携えた上で御献体を観察させていただくようにする。

③ **『保健医療福祉とデータの取り扱い』**には 9 科目が含まれ、1 年後期から 3 年前期にかけて配置する。「公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ」、「関係法規」では保健、福祉、疫学の基本と医療関連法規を、「統計学」、「データサイエンス基礎Ⅰ、Ⅱ」ではデータサイエンスと AI の基本から手法や展開を、「マネジメントサイエンス基礎Ⅰ、Ⅱ」、「保健医療情報学」では日本の医療制度、病院管理、医療従事者としての心構え、医療情報の取り扱いを、それぞれ座学と演習を交えて学修する。また、保健医療福祉活動の観点からチーム医療の在り方も学ぶ。全学的文医融合プログラムによって、特に一般的な臨床検査技師養成課程よりも手厚い領域となっている。

＜専門科目＞

① **『病態・病理と疾患』**はこれを主題として学修する 12 科目で構成し、すべて必修科目とする。1 年後期から 2 年次に「病理学Ⅰ、Ⅱ」、「病態生理学Ⅰ、Ⅱ」、「血液学」、「臨床医学総論Ⅰ」、3 年次に「臨床医学総論Ⅱ」、「臨床栄養学」、「生理検査学Ⅱ」、「睡眠医学」、「臨床病理検討会」、「薬理学」を配置する。

なお、臨床検査技師養成課程においては、各種疾患や病態における臨床検査データの修得すべき知識量に比し、疾患・病態を履修する時間が非常に短いために、ともすれば学生は多くの学習内容の関連付けができないまま臨地実習に臨み、最終学年でようやく病態を理解し始める状態に陥りかねない。

そのため、検査データと病態に関する科目は特に、低学年から高学年にかけてらせん型教育を行えるように配置する。例えば、「病態生理学Ⅰ、Ⅱ」では専門的に疾患・病態や臨床検査学を学修する前段階として、主に基礎医学の視点から病態を理解させることを狙う。また、基本的な臨床検査学や疾患の履修をほぼ終えようとする 3 年後期に「臨床病理検討会」にて病理解剖の症例を通じて疾病の発症から病態が進行し死に至るプロセスを学ぶ。他にも「臨床化学検査学Ⅱ」、「臨床医学総論Ⅱ」、「臨床栄養学」、「薬理学」、「睡眠医学」などの科目にて多角的な視点で学ばせることにより、学生の理解・関連付けを促進させるような働きかけを行う。

また、実臨床においては、うつ病や統合失調症など、臨地実習や国家試験対策ではほとんど取り上げられない精神疾患を抱える患者とも接する機会があることを考慮し、精神神経科の専門医（兼担講師）の講義を設けている。

② **『臨床検査学の基本』**の 25 科目は、「臨床検査学・ヘルスサイエンス入門」、「医学英語」、及び厚生労働大臣の指定する“血液検査学”、“病理検査学”、“尿・糞便一般検査学”、“生化学検査学”、“免疫検査学”、“遺伝子関連・染色体検査学”、“輸血・移植検査学”、“微生物検査学”、“生理検査学”に該当する 23 科目から構成され、すべて必修科目として 1 年次から 3 年次にかけて配置する。

「臨床検査学・ヘルスサイエンス入門」は 1 年次に配置し、各臨床検査学領域とヘルスサイエンス領域の専任教員がガイダンスを行い、本格的な学修開始に先立ち両分野が取り扱う大まかな全体像を学生が把握できるように計らう。「医学英語」は 2 年次に配置し、臨床検査の場面で必要な英会話力と、医学・医療の英語論文や英文テキストの読解力を養うために、身体の構造と機能、疾患と臨床検査に関する基本的な英語を学ぶ。ここでは英語論文検索とその読解にも挑戦させる。一方、厚生労働大臣による指定科目に該当する 23 科目は、検体検査と生体検査、すなわち、各種臨床検査の原理と方法、データの解析と評価について学ぶものであり、いずれの分野でも講義に加えて実習を行う。検体検査については、近年、実臨床では自動化が進み『データ取得までの各プロセスが見えなく』なっている。だからこそ、将来、臨床検査技師としての適切な検体とデータの取り扱いとトラブルへの対処法を身に付けるため、学内実習で「用手法」を学ぶことが重要である。また、検査の各プロセスにおける適切な感染対策や患者接遇の方法と必要性についても、実践的に学ばせる。これらの科目は、1 年後期に講義

1 科目と実習 2 科目、2 年次に講義 7 科目と実習 6 科目、3 年次に講義 4 科目と実習 3 科目を配置する。

③　**『チーム医療と臨床検査学の実践に向けて』**の 9 科目はすべて必修科目であり、1 年次に開講する「薬品管理学」以外は、3、4 年次に配置する。「薬品管理学」では、毒物劇物の取り扱いに関する基礎知識を学び、履修後、毒物劇物取扱責任者の資格試験を受験させる。また、在学中に取り扱う薬物もあることから、上記資格を有する専任教員の指導下に、学科内の薬品管理の基本と廃棄処理の方法を 1 年生の時点で実際に学ばせることをねらいとする。

3 年次には、臨床検査技師が関わる業務、及び医療チームの一員として必要な知識・認識を「検査管理総論」、「医療安全管理学」にて学修する。「医療安全・検体採取実習」では、採血、気道や肛門からの検体採取、静脈路への輸液の接続、皮膚病変からの検体採取を行う。原則、シミュレーターを用いて練習するが、静脈採血、毛細管採血については、教員監督下に採血同意書を提出した学生同士で実際に血液を採取させるなど、検体採取における医療安全と患者接遇への配慮まで実践的に学ばせる。また、「ゲノム医療・先端医学」では、応用選択コースで独自の取り組みを進めている 3 年生が、卒後の進路についての視野をさらに広げ、意欲を高めることをねらい、ゲノム医療をはじめとする先端の医療や医学研究の話題、先駆的な活動をしている現役臨床検査技師の話を聴かせる。

4 年次の 4 月には「臨地実習前技能修得到達度評価」にて生理検査、検体検査、医療安全、患者接遇に関するトレーニング、実技評価と改善指導を行い、「チーム医療演習」にて学生同士でのロールプレイも交えながら、職場における態度やコミュニケーションと態度の在り方、医師や看護師との連携、患者接遇について学ばせる。その後、5 月から 12 週間の臨地実習にて、実際の臨床検査の現場を経験させる。

4 年後期には、多くの時間を『授業外で』学生自身が国家試験対策を行い、学生同士が互いに得意分野を教え合いながら学年全体として卒業及び国家試験合格に必要な知識を整理、統合できるように配慮し、教員は、学生主導でグループ学習を活用できる体制づくりを支援する。その上で「臨床検査医学特論」を設け、学生達が主体的に国家試験対策を行う際に基本となる事項について、各専門分野の講師が総括する。また、卒後、社会で働き始めた時に直面する臨床検査に係るトピックスについて、臨床検査の最前線で業務や研修会での学びを継続している久留米大学病院臨床検査部の臨床検査技師が、直接指導する場を設けている。

④　**『応用選択コース』**では、3 年次に選択必修コースを設ける。コースとして、全学的文医融合プログラムである「バイオサイエンス応用」、「データサイエン

ス応用」、「マネジメントサイエンス応用」と臨床検査プログラムである「臨床検査応用」の 4 つに分かれ、専任教員や全学的文医融合プログラムに参加している附置研究所等の指導者の下で特定のテーマに取り組む。これに先立ち、2 年次には必修で「応用選択コース入門」を配置する。この中で、研究倫理をはじめ、研究実施に必要な知識と手続きについてのガイダンス、各コースの概要紹介を行い、学生にコースを選択するための準備を進めさせる。また、4 年次には必修で「卒業研究」を設け、各コースでの調査研究をまとめたものをプレゼンテーションさせる。

選択コースの科目構成は、「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」、「臨床検査応用」では、それぞれ同名で 1 つの科目（通年で 6 単位）を配置し、実技・演習を柱とするトレーニング、研究活動を体験し、4 年次の「卒業研究」でその成果をまとめさせる（具体的には『第１０　研究の実施についての考え方、体制、取組』を参照）。4 年後期には発表会を開催する。

一方、「マネジメントサイエンス応用」コースでは、選択者全員が 3 年次の 2 月に診療情報管理士の認定試験を受験することを目指し、3 年前期に「応用Ⅰ」（講義：4 単位）、「応用Ⅱ」（病院実習：1 単位）、3 年後期に「応用Ⅲ」（受験対策の演習：2 単位）を履修させる（計 7 単位）。本コースでは資格取得に向けた学修が主体となるが、4 年次の「卒業研究」の前半にて希望する他のコースでの簡易な研究体験、診療情報に関する論文検索・読解に取り組み、これらの体験を成果としてまとめさせることとする。

【資料 5】久留米大学医学部医療検査学科　カリキュラムツリー
【資料 6】久留米大学医学部医療検査学科　時間割案

（３）全学的文医融合プログラムの在り方

全学的文医融合プログラムは、本学の文系学部と医系の附置研究所との連携により 3 分野のヘルスサイエンス教育を行うものであり、それぞれ以下の科目で構成されている。

①バイオサイエンス

「バイオサイエンス基礎」「バイオサイエンス応用」「卒業研究」

・「バイオサイエンス基礎」（2 年次・必修科目）では講義にて、バイオサイエンスに関する基礎理論を学修し、細胞や生体内で起こる様々な生理現象の分子メカニズムを理解する。さらに医療・診断技術、モデル動物の操作・解析技術の原理を学び、基礎研究がどのように応用されているかを知る。バイオサイエンスの発展に生み出されてきた新しい技術（例えば「遺伝子組換え生物・食品」など）が、我々の健康や生活環境にどのような影響を及ぼすかについて、法学・社会学・経済学的

な視点も踏まえながら科学的に議論する。本科目では、学科専任教員、産婦人科学講座教員（生殖医療専門医）、法学部法律学科教員、経済学部文化経済学科教員、及び分子生命科学研究所と動物実験センターの研究者が講師を務める。

・「バイオサイエンス応用」（3 年次・選択科目）、「卒業研究」（4 年次・必修科目）では、細胞・遺伝子・タンパク質の機能解析や、モデル動物の作成・解析、遺伝子工学などを実際に体験し、これまでに学んだ知識の理解を深める。学生一人一人が完結性の高い研究テーマを持ち、研究計画の立案方法や、データベースからの情報収集方法、解析結果の評価方法などを修得する。さらに科学作文技術やプレゼンテーション法、またバイオサイエンス研究や先端医療診断に携わる者が必ず身に付けておくべき生命倫理や研究倫理を学ぶ。本科目では、学科専任教員、及び分子生命科学研究所と動物実験センターの研究者が講師を務める。

②データサイエンス

「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」「データサイエンス応用」「卒業研究」

・「データサイエンス基礎Ⅰ」（2 年次・必修科目）では講義とコンピュータを用いた演習にて、臨床研究デザイン、回帰分析に基づく調整解析やリスク因子の探索、生存時間分析といった臨床研究で必須となる知識と技能を修得する。実臨床で集積されたヘルスデータを用いて、統計ソフトウェア R の基本技術を学び、機械学習と人工知能（AI）の基礎を学修する。本科目では、学科専任教員、商学部商学科教員、バイオ統計センターの研究者が講師を務める。

・「データサイエンス基礎Ⅱ」（3 年次・必修科目）では講義とコンピュータを用いた演習にて、より専門的に、疫学とリスク評価のための統計解析、機械学習と AI の実践的な活用、医療経済評価のための考え方、医療機器の信頼性や妥当性を評価するための統計学的手法、さらにシステマティックレビュー論文を読み進めるために必要なメタアナリシスなど、次世代型臨床検査技師が知っておくことが望まれる実践的なデータサイエンスを修得する。本科目では、学科専任教員、商学部商学科教員、バイオ統計センターの研究者が講師を務める。

・「データサイエンス応用」（3 年次・選択科目）、「卒業研究」（4 年次・必修科目）では、「統計学」と「データサイエンス基礎Ⅰ、Ⅱ」で学んだ知識を基に、統計学の数理的な側面と実データを利用して実社会で統計解析や機械学習法を応用するための実践的なアプローチの理解を深める。具体的には『数理統計学の基礎』、『プログラミングスキルの向上』、『効果的なプレゼンテーション』を 3 つの柱とし、それぞれに取り組む。数理的側面を理解した上で、データ構造を的確に捉えた解析によってエビデンスを構築し、それをプレゼンテーションする実習を通じてデータサイエンスの理解をさらに深める。本科目では、学科専任教員、バイオ統計センターの研究者が講師を務める。

③マネジメントサイエンス

「マネジメントサイエンス基礎Ⅰ」「マネジメントサイエンス基礎Ⅱ」「保健医療情報学」「関係法規」「マネジメント応用Ⅰ」「マネジメント応用Ⅱ」「マネジメント応用Ⅲ」

・「マネジメントサイエンス基礎Ⅰ」（1 年次・必修科目）は、保健医療福祉を入門的に学ぶ講義科目である。日常生活で受ける医療がどのように成り立っているのかに意識を向け、医療を提供するしくみ（医療制度、医療提供体制、病院を構成する各部門）についての概略を捉える。また、医学と医療の歴史、及び患者の心理や権利、医の倫理、医療チームの一員としての心構えなどの医学概論も学ぶ。本科目では、大学病院保険診療管理部の医師が講師を務める。

・「マネジメントサイエンス基礎Ⅱ」（2 年次・必修科目）では、日本の社会保障の下での医療行政についてより詳しく学んだ後、医療の質を保つための医療管理・財務管理の在り方を学修し、評価や公表に向けた病院内での運用ルールの設定、評価の実施方法を講義形式で学ぶ。これらの授業の講師は、厚生労働省の医療政策担当経験を有する医師（本学医療経営研究センター所属）、公衆衛生・疫学専門で医療ビッグデータ分析を研究する医師（公衆衛生学講座）が務める。授業の後半では講義とコンピュータを用いた演習にて、診断群分類（DPC）に基づく医療診療データの概念を理解し、医療マーケティング、診療情報管理、電子カルテにおける管理と活用法の修得を行う。ここでは診療情報管理士指導者の資格を有する学科専任教員とがん登録など診療情報を取り扱う大学病院の診療情報管理士が講師を務める。

・「保健医療情報学」（2 年次・必修科目）では、講義とコンピュータを用いた演習にて、医療情報システム、医療情報の標準化の動向、診療情報のセキュリティ管理、個人情報保護の方法などについて学修し、ICT を利用した診療情報管理が医療の質を向上させるために活用できる可能性を理解する。本科目では、学科専任教員の他、いずれも診療情報管理を用いた診療業務と研究を専門とする大学病院、バイオ統計センターの教員が講師を務める。

・「関係法規」（3 年次・必修科目）では、医療を行う上での根拠となる医事法について系統的に学び、医療施設、医療職種、薬事・環境衛生、福祉、死体解剖、労働、医療・介護・労働保険に関連する法律について具体的に学修する。また、個人情報保護の遵守、臨床検査における医療過誤防止についても法律を踏まえて学ぶ。本科目は、医療関連法規に明るい法学部講師（非常勤）が担当し、学生との対話を積極的に取り入れた講義を行う。

・「マネジメントサイエンス応用Ⅰ」「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」「マネジメントサイエンス応用Ⅲ」（いずれも 3 年次・選択科目）は、3 年次 2 月に診療情報管理士の認定試験受験を支援する科目であり、本コース選択者はこれら 3 科目を必修選択とする。学科専任教員、及びマネジメントサイエンス領域の必修科目を指

導してきた大学病院教員が講師を務める。「応用Ⅰ」では、診療情報管理に係る実務的な知識、診療情報管理の具体的な実践手法、国際統計分類について体系的に学修する。その後、「応用Ⅱ」にて5日間、大学病院で診療情報を扱う部門での実習を行い、診療情報管理の実践を主に見学実習により学ぶ（これら2科目と3年次前期までの医療検査学科の必修科目の受講により、認定試験の受験資格が取得できる）。その後「応用Ⅲ」にて資格取得を目指した演習を行い、これまでの学修を総括し、理解を深める。

（４）医学部連携プログラムの在り方

医学部連携プログラムは、①本学医学部医学科または看護学科との合同授業を行う科目、②医学部と久留米大学病院の他職種（臨床検査技師以外）の兼担、兼任講師からチーム医療について学ぶ科目としている。各科目の概要は、以下のとおりである。

①医学科、看護学科学生との合同授業

【1年次】「一般教養選択科目」と「学びの基本Ⅰ」

- **「一般教養選択科目」**では、20科目すべてを医学科1年生との合同受講とする。医学科学生と一緒に学ぶ機会は、お互いの存在を意識し、ともに医療従事者を目指す初学者同士の自由な交流の場となり得る。
- **「学びの基本Ⅰ」**では、科目の後半に医学科1年生と合同で『協同学習』方式でグループ学習を行うことにより、低学年のうちから他職種と協働して学び、問題解決を図ることのできる素地を作る。なお、『協同学習』は、目標を共有する仲間と協力しながら与えられた課題に対して問題発見・解決を図るアクティブラーニング型授業の一型であり、本学科及び医学科学生への『協同学習』の導入は、国内における本手法の第一人者である文学部心理学科教員が担当する。

【2年次】「肉眼解剖学実習」

御献体の観察実習において、前期は医学科2年生、後期は看護学科2年生とともに学科混成の小グループを作って学ぶ。前期は医学科の学生が剖出所見等を説明し、医療検査学科の学生が質問をすることで互いに学び合う。後期は既に剖出された臓器を医療検査学科、看護学科の学生が観察し、『協同学習』の手法で理解を深めていく。解剖学実習を通して観察する対象は同じでも、2年次後半の時点では臨床検査学領域と看護学領域の学生では、学習の視点や将来の臨床現場との関連付け方が一部大きく異なっている。与えられた課題の下で、学生同士が自由に語り合いながら御献体からより多くを学ばせていただき、互いの職種についても知る機会とする。

【3 年次】「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」、「臨床検査応用」

これらの応用選択科目を担当する専任教員と附置研究所等の研究者の一部は、9～10 月に医学科 3 年生の研究室配属も受け入れる予定である。そのため、医学生と一緒に研究活動を行う機会を持つこととなり、医療検査学科の学生は、既に自身が知っていることについて、医学生に教える体験を持つ。自身が分かること、出来ることを初心者に教えることも、大事な研究活動の一つであり、そこから新たな研究の芽、人との繋がりが生み出される。また、それぞれの研究活動の進捗状況（成果や苦労、工夫）を分かち合うことの喜びや他者への配慮について学ぶ。これらは学生にとって、より実践的な多職種連携の機会となり得る。

【4 年次】「チーム医療演習」、「臨地実習」

- **「チーム医療演習」**では、臨地実習前の総括として、医療安全や患者接遇、また医師や看護師との臨床検査に関わるコミュニケーションについて、講義やロールプレイを含めた演習を行う。この中で看護学科 4 年生との合同授業を持ち、医療検査学科からは臨床検査技師と医師、看護学科からは看護師の資格と実務経験を有する多職種の専任教員が授業を担当する。ここでは具体的な多職種連携の場面想定の下、臨床現場に立ち会う際の心構えとふるまいを身に付け、互いの職種の中での『当たり前（基本）』、『重要』とされていることが何かを学ばせる。
- **「臨地実習」**では、久留米大学病院で週 1 回開催される医療安全カンファランス、感染制御チームの院内回診（ICT ラウンド）に医学部の学生を受け入れており、ここでも他学科の学生とともに実臨床の場におけるチーム医療を体験的に学ぶことができる。

②医学部と久留米大学病院の他職種の教職員（専任教員以外）からチーム医療について学ぶ科目

1 年後期「マネジメントサイエンス基礎Ⅰ」
（医師から病院の各部門、患者の権利等について）
3 年前期「臨床栄養学」
（管理栄養士から栄養サポートチームについて）
3 年前期「医療安全管理学」
（大学病院医療安全管理部の医師から医療安全における多職種連携、大学病院感染制御部の医師から感染対策チームについて）
3 年後期「医療安全・検体採取実習」
（看護師から上気道及び肛門からの検体採取の方法と患者への配慮について）
3 年後期「睡眠医学」
（医師、管理栄養士から多職種の視点で睡眠医療について）

２．ディプロマ・ポリシーの達成を実現するための科目の設定方法

ディプロマ・ポリシーの５項目に対応する卒業時コンピテンス（領域）とコンピテンシー（到達目標）は以下のとおりであり、卒業時コンピテンシーと各科目の対応についてはカリキュラムマップ【資料 2】に示す。

【卒業時コンピテンス（領域）と卒業時コンピテンシー（到達目標）】

領域 1）高い倫理観と豊かな人間性

①他者を思いやり、社会人としての良識と規範を守る態度を備えている。

②医療及び医学研究における倫理観を備え、医療人としての責任感を持っている。

③一般教養を備え、医学の領域にとどまらない多様な価値観が存在することを認識している。

領域 2）臨床検査の基本的知識と実践能力

①臨床検査の知識と技能を修得し、基本的な各技法を安全、的確に実践できる。

②精度管理の重要性と方法を理解し、精度の高い検査結果を提供することができる。

③検査結果の解析と評価により病態を理解する視点を有し、医療や研究において適切に臨床検査を活用することができる。

領域 3）医療チームの一員として参画する能力

①医療・研究の場において他者と良好な連携を保ち、協働できる。

②患者・家族に対する適切な配慮とコミュニケーションの必要性を理解し、実践できる。

③医療に関わる多職種の役割を理解し、チーム医療に参加した時の自身の役割を想定できる。

領域 4）多様な臨床検査のニーズに対応する能力

①わが国の保健医療福祉の変遷を理解し、これからの地域医療、感染症対策、災害医療、在宅医療などで求められる臨床検査を提供できる。

②国際的視野に基づいた保健医療活動の必要性とその方法を理解し、実践できる。

③医療や医学研究の分野において、科学技術の進歩により変化する臨床検査への新たなニーズを理解し、率先して参画する意欲を備えている。

領域 5）科学的思考力と生涯学習の習慣

①科学的思考力を基盤とした問題発見・解決を生み出す姿勢、及びその成果を発信する技法を身に付けている。

②医療・研究において問題解決に必要な情報を収集し、適切に吟味する方法を身に付けている。

③保健医療の維持と発展のため、生涯学習を前提とした自己研鑽を積む意欲と姿勢を持っている。

３．必修科目・選択科目の構成とその理由

1 年次の一般教養科目と 3 年次の応用選択科目のみを選択必修とし、それ以外の初年次教育、臨床検査プログラム、全学的文医融合プログラム（基礎）については、ディプロマ・ポリシーを達成するために全学生に必要な必修科目とする。

選択必修科目は、内容自体が必須ではなく、学生自らが興味や意欲を持てる分野で主体的に学ぶことにより、ディプロマ・ポリシーを達成できるものとした。これらの科目では学生が分散することにより少人数教育となることも、学生の主体性をより引き出す環境をつくり出している。

４．科目の設定単位数の考え方

（１）単位数の計算方法

各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。授業よる教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、講義・演習については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。実技・実験・実習については、30～45 時間の授業をもって 1 単位とする。同一科目内で講義、演習、実技、実験または実習のうち 2 つ以上の方法の併用により行う場合については、別に定める時間をもって 1 単位とする。

（２）単位の配分

学生が修得すべき単位は、**「基礎科目」**9 単位（一般教養選択科目 3 単位以上を含む）以上、**「専門基礎科目」**32 単位、**「専門科目」**91～92 単位（応用選択コースでマネジメントサイエンスの選択者 7 単位、他のコース選択者は 6 単位を含む）と設定している。本学科で養成する臨床検査技師像の重要な要素である『社会の多様なニーズに対応できる』力を涵養するため、教養教育は**「基礎科目」**で終わらせず、「バイオサイエンス基礎」、「データサイエンス基礎」、「マネジメントサイエンス基礎」の全学的文医融合プログラムにも含めている。

（３）臨床検査技師養成における厚生労働大臣の指定する科目との対比

医療検査学科の教育課程と臨床検査技師を養成する「承認科目校」における厚生労働大臣の指定する科目（『指定科目』）との対比及び単位数は【資料7】のとおりである。本教育課程において『指定科目』に対応する科目の総単位数は、審査基準の総単位数 88 単位より 15.9 単位多い 103.9 単位である。これは、臨床検査データを疾患や病態に繋げる学修時間、及びディプロマ・ポリシーを達成するために必要な全学的文医融合プログラムの要素が加わったため、指定科目に該当する単位が増加したものである。

【資料 7】教育課程と『臨床検査技師等に関する法律施行令第 18 条第四号に基づき厚生労働大臣が定める検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目』との対比表

（４）診療情報管理士受験資格要件に必要な科目との対比

3 年次 2 月に診療情報管理士認定試験の受験資格を得るには、3 年次前期までの必修科目に加え、応用選択科目である「マネジメント応用Ⅰ（講義）」、「マネジメント応用Ⅱ（病院実習）」の履修が必須となる。診療情報管理士認定試験の受験資格に必要な教科目として登録予定の本学科の授業科目を【資料 8】に示す。登録にあたっては担当講師の就任承諾書を提出する必要があることから、主に学科専任教員が担当する科目で基準を満たすようにしている。

【資料 8】診療情報管理士養成科目（日本病院会）として登録予定の教育課程の科目

第５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

１．教育方法

（１）授業の方法

授業は、講義、演習、実習、実技、実験のいずれか、またはこれらの併用により行うものとする。演習、実習、実技、実験は、学生に技術や態度を修得させるのみならず、座学で学ぶ知識や考え方の理解を促進させるのに効果的な手段でもある。そのため、臨床検査プログラムのうち、血液検査学、病理検査学、臨床化学検査学、一般検査学、遺伝子・染色体検査学、微生物検査学、生理検査学においては、講義科目に対応する実習科目を同時期に開講する。これにより、ある程度は講義と実習を連動させることが可能となる。講義で学習したテーマを、学生が早期に実習で活用することで理解や新たな問題意識が生まれ、その後、次のテーマに進むというプロセスの積み重ねにより、学修効果を向上させる。

「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」では、授業の方法は対面であることと定めており、医療検査学科もこれに従い、原則、対面授業とする。ただし、臨床検査技師養成課程に必須ではない科目の一部の授業において、例外的に多様なメディアを高度に利用し授業を行うことも想定している。例えば、医学部連携プログラムの合同授業において、一教室に全員が入りきれない場合には、複数の教室間で双方向通信機能を利用しながら進行（各教室に教員を配置する）させたり、兼任講師の居住が遠方である場合などに、学外から送信されるオムニバス講義を、学生が本学科の講義室においてライブで受講（補助教員が立ち会う）したりなどが考えられる。多様なメディアを高度に利用し、授業を行うことについては、久留米大学学則第 31 条の 2 に定められている。

（２）授業方法に適した学生数の設定

必修科目については、原則、開講学年の全学生が履修する。多くの科目で一度に全学生を対象とする対面授業を行うが、「英語（リーディング）」をはじめとするいくつかの科目では、学年を 2 つに分けて 1 クラス 40 名前後とし、別々の時間帯に実施する。特に、「健康・スポーツ科学（実技）」、「医療安全・検体採取実習」の採血実技については安全面への配慮から、また、「医療安全・検体採取実習」と「生理検査学実習」において使用するシミュレーターの台数が限られている授業回においても、2 クラスに分けて実施する。

実習科目では、実施内容に応じて学生を小人数グループに分け、各学生が器材の使用や観察、結果の取得や解析・考察に携わることができる環境を整え、学生達の活動時には、複数の教員で実習室内の巡回指導と支援を行う体制とする。

応用選択科目では、指導内容や方法に応じて想定される、各指導教員の担当可能な受け入れ学生人数を設定する。学年ごとの受け入れ人数の概数は、「バイオサイエンス応用」では専任教員と附置研究所等の兼担教員により 5～10 名／学年、「データサイエンス応用」では専任教員と附置研究所の兼担教員により 5～10 名／学年、診療情報管理士資格取得を指導する「マネジメントサイエンス応用」では専任教員と久留米大学病院の兼任教員により 20～35 名／学年と見込んでいる。「臨床検査応用」では、各専任教員が学内の兼担教員と連携しながら、2～10 名／学年の受け入れを想定している。応用選択科目での指導は 3 年次から 4 年次にかかるため、指導教員は一時期、2 つの学年の学生を担当することになる。この時、4 年生が修得・経験したことを 3 年生に助言するなど屋根瓦方式を用いることにより、教員は学生同士がコミュニケーションを図りながら研究活動を進める支援をしながら、教員自身が過剰な負担を抱えることを防止する。また、「卒業研究」での発表に向けて、個別の研究計画立案やデータ解析について、適宜、その領域が専門の専任教員の助言を仰げるよう、応用選択コースでは専任教員同士も連携しながら学生指導を進めていくものとする。

（３）配当年次の設定

教育課程は、段階的に学ぶ科目編成（基礎から専門へ、領域別の総論・各論から領域が統合された実践的内容へ）としている。**「基礎科目」**はすべて 1 年次に、**「専門基礎科目」**は 1 年次 14 科目、2 年次に 7 科目、3 年次に 2 科目を配置し、必修の**「専門科目」**は 1 年次に入門・基礎的な内容のものを 7 科目、2 年次に臨床検査学の各領域を主として 19 科目、3 年次に統合・実践的な内容を 17 科目、4 年次前期に臨地実習、後期には国家試験合格と卒業後に向けた準備のための総括的な科目を設けている。2 年次に最も履修科目と単位数が多く、3 年次に応用選択科目を履修する際には、各学生の進捗状況に応じて柔軟に空きコマを活用できるようにしている。4 年次の卒業研究では、3 年次に応用選択科目で取り組んだ成果発表を実施する。

このような教育課程の編成を用いてディプロマ・ポリシーの達成を図るため、各学年で配置される科目を履修し各到達目標を達成することで、その学生が次の学年での学修に取り組む準備ができていると評価する。そのため、医療検査学科の教育課程の履修は単位制とするが、各学年の進級要件として、以下のように設定する。

・1 年次には、教養選択科目 3 単位以上を含む 35 単位以上を修得し、かつ、1 年次に配当された必修科目のうち、不合格科目が 1 科目以内の者を進級とする。
・2 年次には、教養選択科目 3 単位以上を含む 79 単位以上を修得し、かつ、2 年次までに配当された必修科目のうち、不合格科目が 1 科目以内の者を進級とする。
・3 年次には、教養選択科目 3 単位以上を含む 105 単位以上を修得し、かつ、3 年次までに配当された必修科目のうち、不合格科目が 1 科目以内の者を進級とする。ただし、単位区分「生命科学・検査原理の基礎」、「人体の構造と機能」、「臨床検査学の基本」、「病態・病理と疾病」に含まれる科目が不合格の場合は、原級留置とする。

なお、上記要件を含む履修に関する取り決めについては、既にある医学科、看護学科の履修に関する規程に倣い、整備する。

２．履修指導方法

（１）履修ガイダンス

入学直後に新入生を対象に履修ガイダンスを実施し、4 年間の学修に必要な事項を説明する。配付する『カリキュラムブック』には、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修モデル【資料 9】、履修方法、単位と時間数の考え方、科目と単位数、試験と成績評価等を掲載し、カリキュラム編成の考え方、各学年での学修計画の立て方、履修方法について指導する。また、配付する『学生生活案内』には、学生生活のための各種手続き法や心構え、トラブルシューティング、学生教育研究災害傷害保険等の案内、学内・学外施設・システムの利用法、学内の規則集等を掲載し、入学時案内としての基本事項と本冊子の利用法を説明する。特に、各種手続きや相談を行うための窓口及びオンラインの学内教務システムが入学直後から利用できるようにする。本学医学部では、e-Learning システムである Moodle（学内名称『Hondana』）を用いて双方向通信制の教務活動と学修支援を行っている。履修ガイダンスでは、コンピュータ実習室にて全学生が自らの ID で Hondana にアクセスし、活用できるようになるところまで指導する。

入学時以外にも、各学年の年度初めには履修に向けてのオリエンテーションを行い、年度末には学生が 1 年間を振り返り、次の学年に向けて具体的な目標を持てるような総括の時間を設ける。

履修に関して個別の支援を必要とする学生には、教員からの声かけや学生からの相談により、適宜、面談を行い、指導や助言を与える。

なお、年間必修単位数は 2年次で最多の 44 単位となることから、履修科目の年間登録上限を 44 単位とする。但し、再履修科目（各学年とも 1科目以内）についてはこの登録上限には含めない。

（２）シラバス

シラバスには、各科目の授業の概要、到達目標、授業計画、テキスト、自己学修の取り組み方、成績評価の方法について、統一した形式で表示し、学生が主体的に学修できるようにする。

【資料 9】久留米大学医学部医療検査学科　履修モデル

（３）成績評価

各科目における成績は、シラバスにより事前に学生へ開示された方法を用いて 100 点満点で算出され、これを AA から D までの 5 段階評価とする。評価法は医学部医学科及び看護学科と共通で、AA（100～90 点）、A（89～80 点）、B（79～70 点）、C（69～60 点）、D（60 点未満）とし、AA～C の評価を得た者は、その科目の単位を修得したとし、D は不合格とする。

また、各科目の 5 段階評価に加え、GPA（Grade Point Average）制度を導入する。各 GP は、AA を 4、A を 3、B を 2、C を 1、D を 0 とし、GPA の算出は以下の式によるものとする。

$$GPA = \frac{\text{（履修した科目の単位数×その科目の各 GP）の合計}}{\text{履修登録単位数の合計}}$$

学生には、学年末の成績評価として GPA の値も付し、学生自身がこれまでの総合的な学修結果を客観的に確認するための指標となり、その後の主体的な学修への取り組みを促進させられるようにする。それ以外には、各種奨学金や授業料免除を行うための選考資料として利用する。

（４）他大学における授業科目の履修についての考え方

本学科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーを満たすように、また履修順序にも配慮して設定しており、他大学履修制度は特に採用しない。

３．卒業要件

卒業要件は、本学科に 4 年以上在学し、**「基礎科目」**9 単位（選択必修 3 単位を含む）以上、**「専門基礎科目」**32 単位、**「専門科目」**91 単位（選択必修 6～7 単位を含む）以上の合計 132 単位以上（マネジメントサイエンス応用の選択者は 133 単位以上）を修得することとしている。

また、卒業に必要な在学期間に、休学期間は含まないものとする。

第６　実習の具体的計画

Ⅰ．臨床検査技師資格取得に係る臨地実習

１．実習計画の概要

（１）実習の目的

臨地実習は、学内で 3 年間学んだ知識を基に、実際の医療現場で必要な知識や技術の定着と向上を図り、臨床検査技師として臨床検査の知識・技術を実践で活かすことができる能力を身に付け、社会に参画・貢献できる資質及び態度を育成することを目的としている。ここでは本学科のディプロマ・ポリシー（DP）の全項目「DP① 医療人・研究者として高い倫理観と豊かな人間性が備わっている。DP② 臨床検査の基本的知識・技術を修得できており、実践する能力がある。DP③ 医療チームの一員として医療活動に参画し、適切な臨床検査を提供できる。DP④ 社会における多様な臨床検査のニーズに対応する能力がある。DP⑤ 科学的思考力を身に付けており、生涯学習を行う意欲と習慣が備わっている。」を臨床の場で培うための実習を行う。

なお、臨地実習全般においては、日本臨床衛生検査技師会・日本臨床検査学教育協議会の臨床検査技師教育「臨地実習ガイドライン 2021」第二版（以下、『臨地実習ガイドライン 2021』）に沿って実施する。本ガイドラインは令和 4 年度以降の入学生を対象とした臨地実習実施要項であり、法改正に基づき変更された臨地実習の要件・水準に対応している。また、本ガイドラインでは実習先と交わす文書、学生に提出させる文書、学生評価表などの様式が全国で統一されており、学科の臨地実習においてもこれらを使用する。

（２）実習の目標

① 社会人としての良識を実践的に身に付ける
② 臨床検査技師として不可欠な臨床検査の実践技術を修得する
③ 臨床検査の意義及び精度保証の重要性を認識する
④ 検査情報の実践的利用法（病態解析アプローチ手順）を学ぶ
⑤ 医療チームの一員として役割と責任を学ぶ

（３）実習の構成と配当年次

4 年次前期に「臨地実習前技能修得到達度評価」2 単位、その後「臨地実習」11 単位を必修科目として配置する。「臨地実習」のうち 3 単位以上は、生理学的検査に関する実習を行い、臨地実習時間の 3 分の 2 以上は、医療施設において行う。「臨地実習」は月曜日から金曜日までを 1 週として 5 月中旬から 8 月上旬に 12 週間実施する。学生の配置はそれぞれの医療施設で 1～4 名とする。ただし、久留米大学病院内で実習する場合、臨床検査部の各部門と病理診断科・病理部の配置はそれぞれ 4 名程度とする【資料 10】。

【資料 10】久留米大学医学部医療検査学科　実習計画（週間計画）

（４）学生の実習参加基準、要件等

実習に参加できるのは、4 年生に進級し、4 年前期の「臨地実習前技能修得到達度評価」に合格した者とする。

１）臨地実習前技能修得到達度評価の実施

臨地実習前に学内にて臨地実習前技能修得到達度評価を実施する。ここでは実臨床の場で学ぶために必要な知識と技能、態度について学生自身に確認させるとともに、筆記及び実技試験による評価を行う。各学生の不足している項目は補習と再評価を行い、必要な水準に到達させてから臨地実習を開始させる。

具体的には、まず技能修得到達度評価での到達目標を明確に示し、学生に理解させる。学生は臨地実習前技能修得到達度評価項目【資料 11】の全 8 部門の課題についてトレーニングし、日本臨床検査学教育協議会から提示される「臨地実習前技能習得到達度評価」実施要項に準じて行う。この実施要項は令和 5 年 3 月の設置認可申請段階では、全国の養成校へ「試行版」として提示されており、今後は随時、改訂されたものに従い企画する。終了後は各部門の担当教員から、講義形式にて評価の総評と助言などのフィードバックを行う。また、学生が各自レポートを作成することで実習内容を振り返り、その後の臨地実習へ活かすことができるようにする。不合格となった学生へは助言と再訓練を行って水準に満たなかった課題を解決した後、再度技能修得到達度評価を実施し再評価する。

２）臨地実習前技能修得到達度評価における評価法と実習への参加基準

臨床での実務実習を行うのに必要な水準を担保するために、それぞれの実技について課題を与え、評価基準を満たした者を合格とし、実習への参加を認めることとする。評価項目は細目評価と概略評価とし、細目評価では、10 前後の項目について「良い（出来る）」「良くない（出来ない）」の 2 段階で評価し、概略評価は、全体の流れや円滑さなどを 5 段階で評価する。合格の基準は、細目評価の平均点が 60 点以上、概略評価は平均 3 以上とする。

【資料 11】臨地実習前技能修得到達度評価項目一覧

２．実習先の確保の状況

実習施設については、「臨床検査技師学校養成所指定規則」厚生労働省医政局医事課・文部科学省高等教育局医学教育課通知で定められている「臨地実習において学生に実施させる行為等」の規程に基づいた実習内容を実施できる実習施設から選定し、かつ、本学の教育に対し理解と協力の意思があり、連携体制のとれた施設を確保した。

臨地実習施設は、主に学生が通学可能な久留米市及び周辺地域の施設から選定している【資料 12】。学生の配置は、各施設での受け入れ許可数、受け入れ実態、学生の実習時居住地（実家・親族宅等も含む）から通える範囲内であるかなどを考慮し、総合的に判断する。なお、現時点での実習施設の中で最も遠方となるのは鹿児島である。鹿児島には臨床検査技師養成大学がなく、これまで臨床検査専門学校へ毎年数名の入学実績があった。将来的な U ターン就職の可能性を考慮し、遠方ではあるが実習施設として設けている。今後も、入学・就職実績を踏まえながら、実習施設を確保していく予定である。

【資料 12】久留米大学医学部医療検査学科　臨地実習契約施設一覧

３．実習先との契約内容

臨地実習を行うにあたっての実習施設との契約については、『臨地実習ガイドライン 2021』とその添付様式に準拠して行う。

（１）実習先と学科間での契約

学生毎に「臨床検査学生の臨地実習に関する契約書」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 3）を準備し、実習期間、実施方法、実習教育費、実習生の健康状態、実習生への規則遵守の徹底、個人情報の保護、法人機密情報の保護、実習の中止、実習生の疾病及び傷害、損害賠償等に関する契約を行う。

（２）個人情報保護の遵守：学生から実習先への誓約書提出

個人情報の取り扱いについては、学内の臨地実習前オリエンテーションにて指導する。具体的には、臨地実習において知り得た利用者及びその家族、職員の個人情報の利用・提供の制限、収集の制限、得られた情報の適切な管理・施設外への持ち出し制限、外での会話、ブログやツイッターなどのソーシャルネットワークへの投稿禁止等を厳重に注意し、守秘義務に反する場合は法的な処罰の対象になり得る重大な事態であることを認識させる。また、「学校法人久留米大学個人情報の保護に関する規程【#8】」を遵守するよう指導し、周知徹底させる。さらに、「個人情報等および医療機関・衛

生検査所等の法人機密情報保護に関する説明文」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 6）を熟読させ、個人情報の重要性と適正な取り扱い方法を理解した上で、臨地実習施設に対して「個人情報および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報の保護に関する誓約書」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 7）を提出させる。

【#8】学校法人久留米大学個人情報の保護に関する規程
https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/personal-information.html

（３）事故防止に関する取り決め

臨地実習前のオリエンテーションにて、医療事故について、医療安全管理の必要性と予防策・対処策を指導する。その際、実習先では必ず施設のルールと指導者の指示に従うこと、機械・器具の操作や臨床検査に関わる事項については、指導者の監督・指示を受けずに学生だけで対処してはならないことを理解させる。実習先で事故が起きた場合には、後述の５．臨地実習先との連携体制（２）に示す連絡系統に従って、すみやかに現場の指導者及び専任教員（臨地実習調整教員：定義は後述）へ連絡を入れるよう指導する。さらに、学生に「アクシデント・インシデント報告書」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 12）を記載させ、実習先と学内の責任者に提出させる。臨地実習調整教員は、報告書の把握、集計、分析した結果について他の専任教員への周知を行う。

４．実習水準の確保の方策

法改正に基づく改訂により、各臨床検査技師養成校が備えるべき臨地実習の基準は大きく変化している（必要な単位数の増加、実習中に学生が実施、見学すべき行為の具体的な設定、臨地実習施設としての要件の追加）。これらの基準を満たしながら円滑な実習が遂行できるよう、『臨地実習ガイドライン 2021』に準拠しながら実習水準の確保を図る。

（１）臨地実習調整教員の配置

各実習施設と円滑で細やかな連携を図るため、学内に 2～4 名の**臨地実習調整教員**を配置し、①臨地実習全体の計画の作成、②実習施設との調整、③実習中の進捗管理、④実習前、実習中、実習後における学生指導に関する臨地実習担当専任教員（臨床検査技師）との連携を統括する。臨地実習調整教員は、専任教員のうち 5 年以上の臨床経験をもつ臨床検査技師が担当することとする。特に、④の学生指導においては、学生の成長を常に意識する、適宜評価とフィードバックを行う、知識不足や技能の低い学生とは面談をして改善方法を提示することにより、各学生の学修を促進することが求められる。

（２）臨地実習施設の水準の確保

臨地実習先としては、学生が経験すべき事項を実施している医療施設であり、かつ『臨地実習ガイドライン 2021』に明記された**臨地実習指導者**を 1 名以上配置する施設から選定する。臨地実習指導者の要件は、①各指導内容に対する専門的な知識に優れ、臨床検査技師として 5 年以上の実務経験を有し、十分な指導能力を有する者、②厚生労働省が定める基準を満たす臨地実習指導者講習会を修了した者、である。

（３）実習内容の水準の確保

『臨地実習ガイドライン 2021』には臨地実習で学生が経験すべき行為として、①必ず実施させる行為（必須行為）、②必ず見学させる行為（必須見学）、③実施させることが望ましい行為（推奨行為）、④見学させることが望ましい行為（推奨見学）が規定されている。臨地実習施設には上記の 4 項目についての実施を依頼する。施設によっては必ずしも行われていない検査項目もあることから、各学生が 1～2 施設の実習内でバランス良く必須、推奨事項を体験できるよう、臨地実習調整教員が実習施設の選定と実習中の調整を行う。特に必須実施行為と必須見学行為はすべての学生がもれなく体験できるように配慮する。

（４）臨地実習成績評価方法

成績評価については「評価基準書」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 8）を使用し、すべての施設における評価方法を統一する。実習の各分野での評価を「評価基準書」、出席状況については「臨地実習出席表」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 4）に記載することとし、実習施設の各部門の指導者（以下、**分野別実習指導者**）へ依頼する。遅刻や早退、欠席する場合は、学生に「遅刻・欠席・早退届」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 5）を提出させる。各分野では A～E の 5 段階評価とし、総合評価が「E（不可）」とされた実習生については、臨地実習調整教員と臨地実習指導者が協議し、実習内容を確認して再実習の必要がある場合は久留米大学病院内にて実施する。実習中に臨地実習指導者により実習中止と判断された、もしくは学生本人の事情により実習中止となった場合については臨地実習調整教員と臨地実習指導者が協議し、実習内容を確認して再実習を課すか検討する。いずれも最終決定は学科長の判断とする。

（５）問題対応、きめ細かな指導を行うための実習委員会の設置等

一定の教育基準を確保し、臨地実習の目的・目標を達成するために、臨地実習施設と連携した臨地実習指導体制として学科の教務委員会の下部組織「臨地実習部会」を設置し、実習前、中、後に部会を開催する。部会長は臨地実習調整教員から選ぶ。部会教員は臨地実習担当専任教員、すなわち臨床検査技師の資格を有する教員とし、オブザーバーとして学科長と教務委員長が参加する。臨地実習調整教員が主体となり、

その他の部会員がこれを補佐する形で各学生の履修状況や生じた問題点などを把握・対応し、適宜、部会長へ報告する。部会長は、これらの情報、及び臨地実習施設から得られた特記すべき情報を部会員・オブザーバーが共有できるように図り、実習上の課題・問題点についての学生と実習先との連携と解決にあたる。

５．臨地実習先との連携体制

臨地実習施設との連携体制を整えるために、臨地実習調整教員は臨地実習指導者と協議の上、実習計画の調整を行う。

（１）臨地実習施設との調整・連携

１）実習前

臨地実習調整教員は、臨地実習指導者に対して本学科が作成した「臨地実習の手引き【資料 13】」を基に、実習の目的、到達目標、実習計画、実習学生名、実習学生人数などの説明を行い、実習先の要望や注意点、必要物品の確認を行い、学生の実習環境の調整を行う。さらに、実習記録、評価方法、学内への連絡体制などについても説明する。臨地実習指導者や分野別実習指導者は実習計画に基づき直接指導を行う。

体調面の配慮やその他の合理的配慮が必要な学生がいる場合には、学生から配慮の申請を受けることとする。まず臨地実習調整教員へ相談し、申請の必要があれば「配慮事項申請書」（【資料 13】内・添付 5）を提出させる。臨地実習施設には事前に健康状態について連絡し、学生の具体的な配慮の要望を説明し、受け入れ可能か確認しておく。許可された場合は「臨地実習に伴う配慮のお願い【資料 14】」を臨地実習指導者へ提出し、診断書が必要な場合は添付する。

２）実習中

実習中は臨地実習調整教員が実習先からの連絡に対する窓口となる。特に、針刺し・切創・体液曝露事故が起きた場合の対応においては、前もって臨地実習指導者と申し合わせておき本学のマニュアル「学生の針刺し・切創・体液曝露時対応マニュアル」（【資料 13】内・添付 8）に従って対応する。臨地実習施設とは必要に応じて協議し、学生を適宜指導する。

３）実習後

臨地実習調整教員は、実習を終えた学生の振り返り（実習全体、コミュニケーション能力・知識、チーム医療、課題への取り組み、感想・反省）をまとめ、「臨地実習報告書【資料 15】」を作成し、臨地実習施設に報告する。臨地実習での学修成果の評価を共有し、次年度の臨地実習へ活用する。臨地実習施設への巡回訪問の際、各臨地実習施設で行われている指導内容と方法が大学の教育方針と異なる

場合や問題が生じている場合は、臨地実習指導者と臨地実習調整教員で話し合い、必要に応じて調整し、臨地実習環境を整える。

【資料 13】久留米大学医学部医療検査学科　臨地実習の手引き
【資料 14】臨地実習に伴う配慮のお願い
【資料 15】臨地実習報告書

（２）大学教育としての実習の質の確保に関する具体的な配慮方策

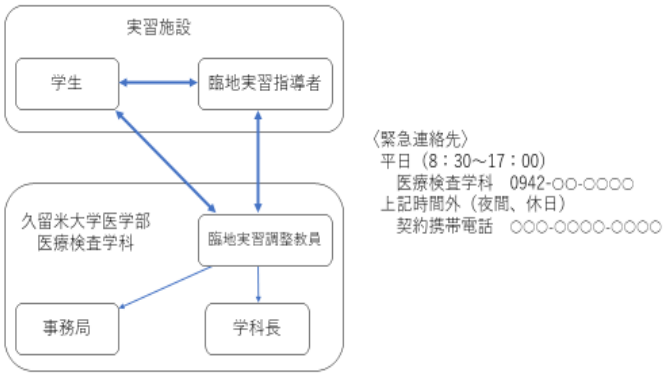
臨地実習施設には『臨地実習ガイドライン 2021』に準じて、参加型あるいは見学型実務実習を行うように依頼する。『臨地実習ガイドライン 2021』に規定された①必ず実施させる行為（必須行為）、②必ず見学させる行為（必須見学）、③実施させることが望ましい行為（推奨行為）、④見学させることが望ましい行為（推奨見学）について説明し、病棟・消化管内視鏡検査室の見学やチーム医療（ICT、AST、NST、糖尿病療養指導チーム）への参加についても可能な限り依頼する。臨地実習調整教員は実習施設の臨地実習指導者･分野別実習指導者と事前に共通認識を得られるように十分な説明及び協議を行い、実習中には学生、臨地実習調整教員、分野別実習指導者がそれぞれ円滑に連絡を取り合える環境整備に努める。

なお、本学科の近隣には臨床検査技師を養成する専門学校は少なく、九州圏内には福岡県北九州地区 1 校、長崎県 1 校、大分県 1 校のみである。実習施設がこれらの専門学校の臨地実習を受け入れている場合においても、同一の『臨地実習ガイドライン 2021』に従うため、必要とされる実習の質は保たれる。また、専門学校と比べて大学では、より充実した学内授業と自己学修に取り組んだ学生を臨地実習へ送り出せるという利点がある。本学科の教育課程によって、時間をかけて知識と技能、医療人として必要な態度をより定着させておくとともに、臨床現場において患者を中心とした医療を適切に提供するための工夫や実践を自ら学び取る視点を事前に涵養しておくことにより、同じ実習環境であったとしても、専門学校とは異なる大学教育としての質の確保が期待される。

（３）緊急時の連絡体制

緊急時には、学生は直ちに分野別実習指導者あるいは臨地実習指導者と臨地実習調整教員に報告する。臨地実習施設では臨地実習指導者の指示に従って行動するよう指導する【図 1】。

【図 1】緊急連絡体制



６．実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

（１）感染予防対策

感染予防対策としては、臨地実習前技能修得到達度評価をはじめとする複数の授業で院内感染とその対策、個人用防護具（PPE）の着脱、消毒法について講義及び実技指導を行っている。また、入学時に全学生を対象に麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎の抗体価検査と HBs 抗原・抗体価測定を行い、必要なワクチン接種の指導と大学病院でのワクチン接種を実施する。また、2 年次にも HBs 抗原・抗体価検査を行い、必要な学生へは再度 B 型肝炎ワクチンを接種させている。学内での抗体価等の測定結果とワクチン接種歴は、臨地実習施設からの要望があれば情報提供をする。なお、事情により接種しない学生がいる場合は、事前に臨地実習施設へ報告し、当該施設における実習が可能か確認する。

（２）傷害保険、損害賠償責任保険の加入状況

全学生、入学時に「学生教育研究災害傷害保険」へ加入する。学生が正課、学校行事、課外活動及びその往復路で、学生自身の怪我や対人への損害、対物破損等が発生した場合に学生が責任を問われることを考え、法律上の賠償責任を負った場合に対する補償である。さらに、臨地実習施設で医療事故が生じた場合の補償として「学研災付帯賠償責任保険」へ加入させる。

７．事前・事後における指導計画

（１）事前指導

１）学生のオリエンテーションの内容、方法

4 年次の臨地実習開始前に、学生に対するオリエンテーションを行う。オリエンテーションは学内の臨地実習調整者が 4 年生全体を対象に、臨地実習の目的と目標、実習科目、実習計画、単位数、実習方法、提出物、単位認定に関する事項及び注意事項について「臨地実習の手引き」を基に説明を行う。臨地実習に必要な基礎

的知識と検査技術を指導し、確認の下に学生がスムーズに実習を開始できるよう十分指導する。

２）「臨地実習前技能修得到達度評価」における指導

実施前にはそれぞれの実施項目の内容について説明する【資料 11】。事前に練習できるように環境を整え、練習時間を設けて、必要に応じて指導する。

３）実習中の接遇、マナー

4 年前期の「チーム医療演習」を臨地実習直前に開講し、医療接遇について指導する。臨地実習は患者や多職種の医療従事者と触れる機会であり、円滑にコミュニケーションがとれるよう基本的なマナーや接遇についての模擬演習を行う。

４）学修目標設定

学生は「個別の学修目標設定」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 9）に自身の学修目標を記載し、臨地実習調整教員は学生の目標を共有し、目標達成に向けた指導を行う。学生が記載した「個別の学修目標設定」は、事前に臨地実習施設に送付し、当該施設での指導に活用する。

（２）事後指導（学生へのフィードバック、アドバイス方法）

１）実習中

学生には、一つの領域（例：輸血・移植検査）の履修が終わる毎に自己評価基準書（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 10）と簡易な振り返りの報告を Hondana（学科の e-learning プラットフォーム）に入力させる。臨地実習担当専任教員が分担して各学生の提出物を確認することにより、久留米大学病院以外の施設における実習中であっても必要に応じて学生へ指導や助言を行い、臨地実習施設との情報共有を図る。また、臨地実習施設から指摘を受けた事柄や本学の教員が行う実習施設訪問（巡回）指導で感知した点について、必要に応じて実習中または実習後に学生へのフィードバックを行う。

２）実習終了後

実習終了時には、すべての領域の自己評価基準書に加えて総合的な振り返りレポート（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 11）を Hondana に入力させ、学生の個別及び全体指導と臨地実習施設へのフィードバックに用いる。また、学内で臨地実習報告会を開催する。発表者である 4 年生は、臨地実習で取り組んだ課題と成果、反省点や後輩に伝えたいことなどを報告する。教員は、発表への質疑、臨地実習指導者からの学生評価を含む臨地実習の総評を通じて、学生全体へのフィードバックを行う。聴衆として参加する 1～3 年生は、先輩の発表や様々な助言を受けることで

臨地実習のイメージを膨らませ、今後の学生生活における準備学修のために活用する。

８．教員の配置並びに巡回指導計画

各実習施設の巡回指導については、各施設の実習期間中に少なくとも 1 回は専任教員が施設を訪問し、学生と直接会って進捗状況と課題、体調などを確認した上で指導や助言を行う。また、臨地実習指導者や分野別指導者等と面談し、実習内容の調整、実習及び実習指導に関する施設側の意見・要望などについて情報交換を行い、連携を深める。

巡回は、臨地実習調整教員をはじめとする臨地実習担当教員が主体となって行うが、それ以外のすべての専任教員も協力して行う【資料 16】。講義・実習の担当日・時間に配慮して、各教員で週に 1、2 回を設定する。移動については基本的に公共交通機関を利用するが、施設の所在地により、自家用車もしくは社用車を利用し巡回する。遠隔地であった場合には、日程調整可能な教員が担当する。

専任教員のうち、臨床検査技師の資格を持つ者は実習生の教育・検査手技、実習事前指導で立てた目標、施設側の評価などを踏まえ実習生に直接指導・助言を行い、それ以外の専任教員は、医療人としての態度や責任ある行動について学生に指導を行い、臨地実習調整教員へ巡回結果を報告する。

また、これ以外にも必要に応じて臨地実習施設へ赴き、臨地実習が円滑に進むように努める。病院内への立ち入りが禁止であれば、ZOOM 等を活用した面談・WEB 会議へ随時変更する。

【資料 16】久留米大学医学部医療検査学科　教員別授業・実習担当計画

９．実習施設における指導者の配置計画

『臨地実習ガイドライン 2021』では、臨地実習施設に 1 名以上配置すべき臨地実習指導者の要件として、各指導内容に対する専門的な知識に優れ、臨床検査技師として 5 年以上の実務経験を有し、十分な指導能力を有する者、かつ、厚生労働省が定める基準を満たす臨地実習指導者講習会を修了した者、と示している。本学科は、臨地実習指導者が在籍する医療施設を、臨地実習施設として選定している。また、臨地実習指導者以外にも、学生は各領域の臨床検査を学修する際に、その部門の実務を担当する分野別実習指導者から直接指導を受ける。分野別実習指導者には、十分な実務経験と指導能力を有する臨床検査技師に担当いただくこととする。

臨地実習施設との連携体制を整えるために、本学全教員と臨地実習施設にて選任された臨地実習指導者で「臨地実習指導者会議」を臨地実習終了後の 11 月に開催する。なお、臨地実習指導者が出席できない時は代理者を出席させることができる。その際、代理者は臨地実習指導者と同一の機関に属する者で臨地実習指導者が指名した者とする。本会議では、各施設の臨地実習指導者からは当該実習についての実習状況や問題点など

を提示いただき、①問題点の改善に向けて協議を行い、②各施設の情報を共有し、さらなる向上に向けた意見交換を行う場とする。これにより、本学科が各実習施設と連携しながら次年度の実習の改善に向けた取り組みを行う。

１０．成績評価体制及び単位認定方法

臨地実習の単位認定は、臨地実習施設による評価と学内での評価により総合的に判定される。臨地実習施設では、臨地実習施設に依頼した「評価基準書」（「臨地実習ガイドライン」様式 8）、「出席状況」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 4）を用いた評価を 60%、提出された実習レポートの内容を 20%、臨地実習後に開かれる臨地実習報告会での評価を 20%の目安として判定する。

学生が提出する「臨地実習自己評価（総合）」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 10）と「終了時の振り返り」（『臨地実習ガイドライン 2021』様式 11）と臨地実習施設からの評価を踏まえ、必要があれば個別指導を行う。個別面談の際は、学生の自己評価と専任教員からの評価を照らし合わせ、個別の学修目標の達成度、臨地実習で学んだ態度、知識、技能、学生自身の課題やその克服に向けた自己学習計画を振り返らせ、学生が自身の課題の解決に主体的に取り組めるよう支援する。

【#9】臨地実習ガイドライン 2021
https://www.jamt.or.jp/data/2021/08/2021.html

Ⅱ．診療情報管理士資格取得に係る病院実習：「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」

１．実習の概要

「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」では、3 年次の応用選択コースでマネジメントサイエンス応用の選択者を対象に行う 40 時間（5 日間）の病院実習を行い、ここで病院組織部門ごとに取り扱う診療情報の種類や特性、管理法について学ぶ。

本実習、すなわちマネジメントサイエンス応用コース選択者の受け入れ人数は、最大 35 名／年とし、毎年 20～30 名程度の履修を想定している。実施時期は、3 年次の前期定期試験終了後の 7 月下旬から 8 月の間とする。本実習は、3 年次に日本病院会による診療情報管理士資格認定試験の受験資格を取得するための必修科目として実施する【資料 8】【資料 17】【資料 18】。

【資料 17】診療情報管理士認定試験受験資格を認める大学および専門学校の指定に関する規程（令和 3 年 7 月 1 日改正施行）
【資料 18】日本病院会 診療情報管理士通信教育 2023 による養成校が行うべき科目

２．実習の目的

診療情報の利活用に明るい臨床検査技師は、チーム医療においては、臨床検査を担う立場から医療の質の維持・改善に貢献することが期待される。また、医療情報を円滑・適正に取り扱う能力を獲得することは、臨床研究を行う場合にも重要である。

本実習の目的は、診療情報が作成される過程、各部門の役割に応じた診療情報の活用の在り方について実践的に学ぶことにより、診療情報の利活用への意識と実践力を備えることとする。

本実習は、ディプロマ・ポリシー（DP）のうち、「DP③ 医療チームの一員として医療活動に参画し、適切な臨床検査を提供できる。DP④ 社会における多様な臨床検査のニーズに対応する能力がある。」の獲得に繋がる。また、「DP① 医療人・研究者として高い倫理観と豊かな人間性が備わっている。」についても、学外の医療現場に身を置くことにより、その重要性をより深く学ぶ機会となる。

３．実習先の確保の状況

実習施設については、本学科と同じ旭町キャンパス内にある久留米大学病院を確保した。同院の診療情報管理室には 6 名の診療情報管理士が配置され、腫瘍センターや病院経営室など複数の部署にも診療情報管理士が勤務している。

本実習の目的を達成するためには、実習中、診療情報管理作業のみを体験するのではなく、役割が異なる多くの部門を見聞することにより、病院・医療を支えるためには診療情報を取り扱う多彩な専門家が有機的なネットワークを形成していることを理解させる必要がある。そのため、大学病院内の診療情報管理や診療報酬請求を行っている部署だけでなく、医師事務支援、がん登録、地域連携、医療安全管理、病院経営企画を行う部署、また、病院スタッフが一体となって医療とサービスの質を向上させる TQM（Total quality management）部門などを全学生が訪問できる機会を設け、各部署で取り扱われる診療情報の種類や特性を理解できるようにする。

４．実習先との契約内容

久留米大学病院は、他の専門学校から診療情報管理士養成課程の学生の実習を受け入れてきた実績があり、原則、その契約の手順と契約内容に準じる。

具体的には、まず前年度に、学科から次年度の実習受け入れ依頼を病院長へ提出し、これに対して病院長から承諾書と受け入れ回答書が学科に返送される。承諾書には、受け入れ人数、氏名、受け入れ期間、受け入れ部門、及び受け入れ人数と日数に応じた実習委託費が提示される。また、受け入れ回答書は学生毎に作成され、実習期間と実習時間、その他学生への連絡事項が提示される。

感染対策として、学科から病院へ、実習 2 週間前までに各学生の麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体価、HBs 抗原・抗体価の測定結果（実施から 1 年以内を有効とする）とワクチン接種証明書を久留米大学病院の書式にて提出する。

実習開始 10 日ほど前には、学生が事前訪問を行い、その際、履歴書、実習に際しての誓約書、健康診断検査結果を提出させる。誓約書には、個人情報保護の遵守、病院実習指導者の指示の遵守、諸規則に違反して対人、対物に損害を与えた場合の賠償に関して記載する。

本実習では、医療行為を行う場には立ち会わないため、医療行為に伴う事故に遭遇することは考えにくいが、学生であっても実習中は医療従事者の一員として院内の事故防止、二次的な被害の拡大防止に努める必要がある。必ず施設のルールと指導者の指示に従うこと、また、実習前の 3 年前期に開講する「医療安全管理学」において学修した、病院で起こりうる医療事故とその防止策について復習した上で実習に臨ませる。万一の場合に備え、学生自身の被害に対する「学生教育研究災害傷害保険」と対人・対物賠償に対する「学研災付帯賠償責任保険」へ加入させておく。実習先で本人の体調不良や事故が起きた場合の連絡系統、対処法についても設定しておく。

５．実習水準の確保の方策

病院実習では、①個人情報管理・守秘義務の確認、②入院診療計画書点検実習他、③退院サマリ点検、④診療情報登録、⑤診療記録監査などをもとに診療情報が作成される過程を学び、そこから発生する診療情報の処理・編集から分析・評価を行い、定量的に他者へ説明できることを目標とする。

（１）実習参加にかかわる履修要件の設定

実習に臨む時点での学修到達度の水準を確保し、臨床での実務実習の資格を担保するためにマネジメントサイエンス領域の必修科目に加え、3 年前期「マネジメントサイエンス応用Ⅰ」を選択履修し、これらの単位修得を満たす者のみ、実習への参加を認めることとする。「マネジメントサイエンス応用Ⅰ」では講義形式と演習形式を交え、診療情報管理の基礎と診療情報管理士の役割、業務について学ぶとともに、診療情報管理の実践的な手法についても学修する。

（２）担当教員とその役割

実習水準を確保するために、実習の企画と遂行を統括・調整する者として、医療検査学科内に専任教員 1 名（以下、**専任教員**）、大学病院内に兼担・兼任教員計 2 名（以下、**実習担当教員**）を配置し、いずれも診療情報管理士指導者、または 5 年以上の診療情報管理業務等の経験を有する診療情報管理士とする。また、専任教員と実習担当教員は、大学病院の実務指導者（以下、**実務部門指導者**）とも実習前・中・後に連携を取り、円滑な実習遂行、適切な学生指導が行われるように取り計らう。

なお、専任教員は学科を本拠とし、実習予定の学生の情報を取りまとめて実習依頼等の準備を進めるとともに、学生への事前指導を担当する。実習中は、院内の実習担当教員と連携しながら実習の進捗状況を把握し、適宜、実習先を訪問する。実習後は、

学生の成果物と、実習担当教員や実務部門指導者による学生評価をもとに総括と指導を行い、個々の学生の評価をとりまとめる。

一方、実習担当教員は勤務先である大学病院を本拠とし、実習受け入れ先の実務部門指導者と調整を行い具体的な事前計画を立てる。実習中も実務部門指導者と連携しながら実習を円滑に遂行させ、施設内での教育、学生評価を行う他、事故やその他の問題が起こった場合に専任教員、実務部門指導者と速やかに情報共有を行い対応を図る。専任教員が行う事前・事後の指導にも協力する。

実務部門指導者については、診療情報管理士の資格を有し、大学教育と病院実習の目的を十分理解した者とする。

６．実習前の準備状況

（１）実習施設との連携

受け入れ部署と連携しながら実習を企画するため、実習前年度に専任教員は実習担当教員と主たる実務部門指導者との「実習指導者連絡会議」を開催し、実習の到達目標や実習計画、実習記録、評価方法、学内への連絡体制などについて説明を行い、協議する。

（２）感染予防対策

入学時に全学生を対象に麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎の抗体価検査と HBs 抗原・抗体価測定を行い、必要なワクチン接種の指導と大学病院でのワクチン接種を実施する。また、2 年次にも HBs 抗原・抗体価検査を行い、必要な学生へは再度 B 型肝炎ワクチンを接種させている。学内での抗体価等の測定結果とワクチン接種歴は、実習開始二週間前までに大学病院へ情報を提供する。

（３）傷害保険、損害賠償責任保険の加入状況

全学生、入学時に「学生教育研究災害傷害保険」へ加入させ、病院実習を行う 3 年次に「学研災付帯賠償責任保険」へ加入させる。

（４）個人情報の適切な取り扱い

実習前のガイダンスにおいて利用・提供の制限、収集の制限、知り得た情報の適切な管理・施設外への持ち出し制限、外での会話、ブログやツイッターなどのソーシャルネットワークへの投稿禁止等を厳重に注意する。また、「学校法人久留米大学個人情報の保護に関する規程【#8】」を遵守するよう指導し、周知徹底させた上で、臨地実習施設に対して誓約書を提出させる。

（５）配慮申請

体調面にて配慮が必要な学生の場合は申請を受ける。まず実習担当教員へ相談し、申請の必要があれば配慮事項申請書を提出する。病院実習施設には事前に健康状態について連絡し、学生の具体的な配慮の要望を説明し、受け入れ可能か確認しておく。

７．実習指導計画

（１）実習前

7 月に実習前オリエンテーションを実施し、①病院実習の意義と目的、②医療安全、③実習事項と心得及び評価基準について、専任教員と実習担当教員から指導する。個人情報の適切な取り扱いについても、この時間に指導する。実習約 10 日前に病院を訪問する際の注意事項と提出書類（履歴書、誓約書、健康診断結果）についても説明し、履歴書については作成したものを専任教員が確認する。また、学生は病院情報活用実習で自身の課題を設定し、実習担当教員は学生の目標と教員が期待する目標達成に向けた指導を行う。

（２）実習中

実習期間中は、実習担当教員が実務部門指導者と連携を取りながら実習を遂行させる。また、実習生の教育・実務手順、実習事前指導で立てた目標、施設側の評価などを踏まえ実習生に直接指導・助言を行う。専任教員も実習担当教員と連携を取り、適宜、実習先を巡回する。実習期間の終了時には、専任教員立ち会いのもと、実習担当教員と病院実習指導者が実習の総括を行う。

（３）実習後

実習終了後、学生には実習報告書を実習担当教員へ提出させ、自分の行動、目標への達成度を振り返ることによって自らの成長につなげさせる。実習担当教員と専任教員が連携し、学生の振り返りの内容、及び実習担当教員と実務部門指導者からの評価や具体的な指摘、専任教員による実習施設訪問指導で気づかれた点などを踏まえて、個別にフィードバックを行い指導する。また、病院実習施設には実習担当教員により実習を終えた学生の声（実習全体、コミュニケーション能力・知識、課題への取り組み、感想・反省）をまとめ、次年度の病院実習へ活用する。

成績評価については、実習への参加態度と理解度、実習中に与えた課題に対する成果物の到達度の点数化により行う。欠席などにより実習時間が 40 時間に満たなかったものは、不足した実習を 8 月内に行った上で評価を実施する。

第７　取得可能な資格

本学科において所定の単位を修得し卒業することにより、下記の国家試験受験資格が取得できる。

臨床検査技師国家試験受験資格

また、3年次前期までの必修科目、及びマネジメントサイエンス応用Ⅰ、応用Ⅱを履修すれば、下記の認定試験受験資格が取得できる。

診療情報管理士認定試験受験資格

第８　入学者選抜の概要

１．アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本学科では、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を遂行する上で、基礎学力を備え医学と医療への関心と意欲を持った学生を受け入れるべく、以下のとおり、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定める。

【アドミッション・ポリシー（AP：入学者受け入れの方針）】

① 臨床検査学の修学に必要な基礎学力、思考力を備えた人
② 社会に関心を持ち自ら課題をみつけ、学問的裏付けをもって解決策、解答を導き出す姿勢がある人
③ 自らの健康を管理し、明確な目的意識を持ち規則正しい生活を送ることができる人
④ 日進月歩の臨床検査に係る技術・専門について、隣接分野での学習にも精力的に取り組み、医学・保健医療の分野で貢献したいという強い意思のある人
⑤ 他者に対して礼を以って接し、周囲と協調して適切なコミュニケーションができる人

また、学力の三要素（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」）を適切に把握するよう留意するとともに、入学後の教育との関連を十分踏まえた上で、最新の高等学校学習指導要領に基づき入学者選抜を実施する。

なお、学力の三要素の評価とアドミッション・ポリシーとの関係性は、以下のとおりである。

「知識・技能」＝AP①
「思考力・判断力・表現力」＝AP②
「主体的に学習に取り組む態度」＝AP③、AP④、AP⑤
※主体的な生活態度＝AP③
主体性を持って学ぶ態度＝AP④
多様な人々と協働して学ぶ態度＝AP⑤

臨床検査の目的は、単なる検体の分析ではなく、その「人」の生理・病態を知り、適切な検査情報を提供することである。そのためには、生命現象や疾病の専門知識、検査や解析の技能の修得、データの取り扱い、的確な情報の発信が求められ、専門知識や技術の基盤となる「理科」、「数学」、「英語」の基礎科目を十分に修得する必要があり、高等学校においてもこれらの教科を履修しておくのが望ましい。さらに情報の発信、コミュニケーションに向けた文章の読解と作成の基礎となる国語力も重要である。

２．選抜方法及び実施体制

（１）募集人員

本学科の入学定員は 74 名とし、前述した学科のアドミッション・ポリシーに基づき、本学科の教育を受ける十分な資質・能力・意欲等を有し、且つ多様な学生を受け入れるために、一般選抜（前期・後期）、共通テスト利用選抜（A 日程・B 日程）、学校推薦型選抜（一般）を実施する。入試制度ごとの募集人員は【表 2】のとおりとする。

【表 2】募集人員と選抜区分

入学定員	前期一般選抜	共通テスト利用選抜（A 日程）	共通テスト利用選抜（B 日程）	後期一般選抜	学校推薦型選抜（一般）
74 名	40 名	10 名		4 名	20 名

なお、一般選抜及び共通テスト利用選抜の募集人員は全体の約 70%、学校推薦型選抜（一般）の募集人員は全体の約 30%とする。

（２）選抜方法と学力の三要素、アドミッション・ポリシーとの関連性

入学者選抜の方法は、学力試験により知識・技能等を重視する選抜や、面接により意欲・態度等を重視する選抜を実施することで、多様な学生の受け入れを図る。

各選抜方法で重視する学力の三要素、アドミッション・ポリシーの項目及び選抜概要は、以下のとおりである。

１）一般選抜

≪「知識・技能」（AP①）、「思考力・判断力・表現力」（AP②）を重視≫

一般選抜においては、個別学力試験による「知識・技能」（AP①）及び「思考力・判断力・表現力」（AP②）の評価を重視し、調査書により「主体的に学習に取り組む態度」（AP③、AP④、AP⑤）を評価する。

前期（試験日：2月上旬）と後期（試験日：3月上旬）の2回実施し、前期の個別学力試験の科目は、「外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ）」「数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A）」「理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1科目選択）」の3科目とする。「知識・技能」はもちろんのこと、出題範囲に基づく知識を応用して考えることで解答を導き出すことができるような問題も出題し、「思考力・判断力・表現力」を適切に判断する。

科目設定の捉え方について、「外国語」は、医学や臨床検査の新しい知見を得るためには英語論文を読解する力が必要であると考え、コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱを、さらに、臨床検査の場面では外国人と英語で意思疎通を行う必要性もあるため、英語表現Ⅰを出題範囲とする。

「数学」は、臨床検査技師の日々の課題に対し、エビデンスを基に行動するための基礎となる学問であり、臨床検査における統計学の理解及び科学的な思考力・判断力・表現力を深めるために有用であると考え、通常、高校2年生までに学習し基礎知識として身に付けておくべき数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱを出題範囲とする。

「理科（物理・化学・生物）」は、医学の基礎、臨床検査の原理を理解するために必要と考え設定した。医学や臨床検査には、原子から生物個体に関する幅広い知識が必要となるため、基礎を付した科目のみならず、応用科目についても出題範囲とする。

後期の個別学力試験の科目は、「外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ）」「数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A）」の2科目とし、科目設定の捉え方は前期に準ずる。

２）共通テスト利用選抜

≪「知識・技能」（AP①）、「思考力・判断力・表現力」（AP②）を重視≫

共通テスト利用選抜においては、大学入学共通テストによる「知識・技能」（AP①）及び「思考力・判断力・表現力」（AP②）の評価を重視し、調査書により「主体的に学習に取り組む態度」（AP③、AP④、AP⑤）を評価する。

大学入学共通テストの結果を用いてA日程（出願時期：1月上旬～1月下旬）とB日程（出願時期：2月中旬～2月下旬）の2回実施し、本学独自の個別学力試験は課さない。

共通テスト利用選抜の科目（A日程・B日程共通）は、「外国語（英語（リスニングを含む））」は必須、数学（「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」から1科目）、理科（理科①（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」）、理科②（「物理」、「化学」、「生物」）から1科目）の中から高得点の2科目を自動採用する。ただし、理科①は、2科目の合計点を1科目の得点として扱う。また、外国語（英語）はリーディングとリスニングの配点比率を3：1とし、リーディング150点、リスニング50点の合計200点に換算する。なお、科目設定の捉え方は、一般選抜に準ずる。

3）学校推薦型選抜（一般）

≪「知識・技能」（AP①）、「思考力・判断力・表現力」（AP②）、「主体的に学習に取り組む態度」（AP③、AP④、AP⑤）のすべてを重視≫

学校推薦型選抜においては、学力の三要素のすべての項目を重視し、個別学力試験により「知識・技能」（AP①）及び「思考力・判断力・表現力」（AP②）を、推薦書、調査書と個人面接により「主体的に学習に取り組む態度」（AP③、AP④、AP⑤）を評価する。

本学科への高い入学意欲を有し、人物・学業ともに優秀で、入学後の能力向上が期待でき、高等学校長が推薦する専願者を対象とし実施する（試験日：11月中旬）。

個別学力試験の科目は、「外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ）」「数学（数学Ⅰ、数学A）」の2科目とする。なお、科目設定の捉え方は、一般選抜に準ずる。

また、臨床検査技師には、知識や技能を修得するだけではなく、周囲と協調する能力を持つことが求められることから、コミュニケーション能力を測るための個人面接を、1人あたり10分程度実施し、医学と医療への関心と意欲、自身の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性等を評価する。

【表 3】　学力の三要素の評価とアドミッション・ポリシーとの関係性及び入学者選抜における評価項目

入試制度	選考方法	配点	学力の三要素 評価項目			概要
			AP① 知識・技能	AP② 思考力・判断力・表現力	AP③④⑤ 主体的に学習に取り組む態度	
学校推薦型選抜（一般）A日程	教科・科目	200	●	●		入学を強く希望する者を対象とする（学習成績の状況は出願資格としない）。専願制・学校長推薦。個別学力試験（2科目「外国語（英語）」（100点）、「数学」（100点））の総得点および面接・提出書類の評価により総合的に選考する。面接の評価が著しく低い場合には、試験科目の結果に関わらず、不合格となる場合がある。面接は受験生1名に対し、面接官2～3名で10分程度行い、提出書類と評価項目に基づいて行う。面接では、自分の意見・主張を論理的に説明できる能力、自己研鑽への情熱や社会性等を評価する。
	面接・書類選考	50	●	●	●	
前期一般選抜	教科・科目	300	●	●		個別学力試験（3科目「外国語（英語）」（100点）、「理科（①物理基礎・物理、②化学基礎・化学、③生物基礎・生物から1科目選択）」（100点）、「数学」（100点））の総得点により選考する。
共通テスト利用選抜（A日程）	教科・科目	400	●	●		大学入学共通テスト（3科目）の得点により選考する。 ・外国語（英語）（リスニングを含む） ・数学（「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」から1科目） ・理科（理科①（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」）、理科②（「物理」、「化学」、「生物」）から1科目） ※外国語（英語）は必須とし、数学と理科については高得点の2科目を自動採用する。ただし、理科①は、2科目の合計点を1科目の得点として扱う。
共通テスト利用選抜（B日程）	教科・科目	400	●	●		大学入学共通テスト（3科目）の得点により選考する。 ・外国語（英語）（リスニングを含む） ・数学（「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」から1科目） ・理科（理科①（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」）、理科②（「物理」、「化学」、「生物」）から1科目） ※外国語（英語）は必須とし、数学と理科については高得点の2科目を自動採用する。ただし、理科①は、2科目の合計点を1科目の得点として扱う。
後期一般選抜	教科・科目	200	●	●		個別学力試験（2科目「外国語（英語）」（100点）、「数学」（100点））の得点により選考する。

●…重点を置いて評価している

（３）入学者選抜の実施体制

本学は、入学者受入れの方針策定及び円滑な実施のため、「アドミッションオフィス」を設け、次の委員会を置いている。

１）大学アドミッション委員会

学長が議長となり、入学者の受入れに係る基本方針を審議し、決定する。

２）大学アドミッションオフィス委員会

アドミッションオフィス部長が議長となり、大学アドミッション委員会の基本方針に従い、全学的な入学者受入れ方針の策定に関することなどについて審議する。

３）学部アドミッション検討委員会

（医学部においては学科アドミッション検討委員会）

学部長（医学部においては学科長）が議長となり、具体的な選抜方法や判定方法について審議する。

入学者選抜にあたっては、各学部（医学部においては学科）にアドミッション検討委員会を置き、厳正な選抜を実施する。医学部医療検査学科においても、学科長を委

員長とするアドミッション検討委員会を設置し、入学者受入れの方法に関すること、学部入学者判定資料の原案作成に関すること、広報活動に関すること、その他委員長が必要と認める事項について審議し、教授会議の審議を経て、学長が決定する。

なお、学科長は、前述の大学アドミッション委員会及び大学アドミッションオフィス委員会の構成員であり、これらの委員会において審議・決定された事項は、学科のアドミッション検討委員会にて情報を共有した上で、全学としての意向を踏まえ、学科の入学者選抜に係る事項を検討する。

３．科目等履修生及び研究生の受け入れ

医療検査学科では、医学部規則第 3 章第 12 条の規程により、学部の科目の聴講を希望し、その科目の授業を理解する学力があると認められる者には、学科の学生の履修に支障がない場合、教授会議の議を経て、科目等履修生として受け入れる。なお、受け入れ人数は若干名とする。

また、久留米大学学則第 2 章第 9 節における「研究生に関する事項」の規程により、学科において適当と認め、且つ、差し支えのない場合に限り、研究生として受け入れる。こちらも受け入れ人数は若干名とする。

第９　教員組織の編制の考え方及び特色

１．教員組織の編制方針と特色

（１）組織編制の基本方針

医学部医療検査学科の養成する人材像は、「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」であり、これを実現するために、「臨床検査プログラム」、「全学的文医融合プログラム」、「医学部連携プログラム」の 3 つの要素を組み込んだ教育課程を編成している。

そのため、本学科の専任教員は、①各専門分野で教育、研究、実務経験のうち 2 つ以上を十分に有し、本学科の教育課程の主要な分野における企画と教育、評価と改善を担当できる者、②教育課程を円滑に実現するために、専任教員同士はもとより学科外の兼担講師や兼任講師と連携できる者となっている。

専任教員組織は 15 名で編制され、そのうち臨床検査技師 8 名、医師 4 名が主に多職種連携を含む「臨床検査学」を担当し、全学的文医融合プログラムの 3 つのヘルスサイエンス領域の責任統括者としてそれぞれ、「バイオサイエンス」、「データサイエンス」、「マネジメントサイエンス（医療情報管理学）」に 1 名ずつの専門家が配置される。なお、これらのヘルスサイエンス領域の専任教員は、各専門分野と重なる「臨床検査学」領域の教育も担当することとする。

（２）教員組織の特色と主要科目に対する教員配置

専任教員組織は、教授８名、准教授４名、助教３名により構成される。各教員の取得学位は博士 11 名、修士３名、学士１名である。教授は、教育・研究経験が豊富な人材を配置し、准教授については十分な教育研究の経験や医療機関等での実務経験を有する人材、助教には臨床検査技師としての実務経験、及び臨床検査専門学校で実践的な臨床検査技師を育成してきた経験が豊富な人材を配置している。

臨床検査技師、または医師の資格を持つ専任教員 12 名の「臨床検査学」領域における主たる専門分野は、①病態学・基礎医学（医師３名）、②医用工学（臨床検査技師１名）、③血液検査学（臨床検査技師１名）、④病理検査学（医師１名・臨床検査技師１名）、⑤質量分析・生化学検査学（臨床検査技師２名）、⑥尿・糞便等一般検査学（臨床検査技師１名）、⑦生理検査学（臨床検査技師１名）、⑧微生物検査学（臨床検査技師１名）であり、いずれも豊富な実務経験を有し、継続的に実務または臨床検査学教育に携わっている。また、臨床検査技師の有資格者は、上記の主たる専門分野以外の領域でも臨床検査技師としての実務経験を有している。

「専門科目」の授業科目にはすべて、専任の教授または准教授を配置している。また、**「専門基礎科目」**についても、原則、専任の教授または准教授を配置しているが、一部、自然科学系、基礎医学系、社会医学系の科目において、専門性の高い分野においては、本学医学部、大学病院、附置研究所の兼担・兼任教員が担当する。なお、**「専門基礎科目」**において兼担教員が主導で実施する実習科目（「組織解剖学」、「肉眼解剖学実習」、「免疫学実習」）には、複数の専任教員が補助として担当し、実習の準備と実施が円滑に行える体制としている。

特色として、主要科目で構成されている「臨床検査学」領域における講義と学内実習においては、多くの場合、教授、または准教授を含む複数の専任教員によるオムニバスや共同方式を取っている。これにより、１つの科目内で教育・研究における専門性の高さと、豊富な実務経験に基づく実践的な指導の両方の要素を携えた授業を展開する。臨床検査の実務経験が豊富な教員が各授業に関与することで、①学内の授業で学ぶ基本知識や技術が実際の検査業務の何と関わるのか、学生に具体的に認識させ、修得する必要性を理解させる、②テキストには載っていない検査上の注意点やコツを教えることで、意識や技能をより実践的なレベルに高めさせる、という利点を活かして教育効果を高めようとするものである。

一人の専任教員の担当科目数としては、最多が 20 科目となるが、1 回しか担当しない科目もあり、全教員の一人一週間当たりの担当授業時間数は 10 時間以上 16 時間未満の範囲である。これは、『臨床検査技師養成所指導ガイドライン』４（３）に示されている、専任教員の一人１週間当たり 15 時間を標準とすることに準拠している。この中には、応用選択コース計 180 時間も含まれており、教員がその時間すべてを拘束されるわけではない。また、完成年度の時間割案【資料 6】を作成して担当科目が同じ時間に重ならないことも確認している。

（３）教員組織において中心となる研究分野

教員組織として研究対象とする主たる学問分野は、「臨床検査学」である。「臨床検査学」は専門性が異なる多くの分野により構成されているため、専任教員が専門とする学問分野の研究を推進し、応用選択コースでの学生教育に還元する。具体的な研究分野は、「血液検査学」、「病理検査学」、「生化学検査学」、「微生物検査学」、「生理検査学」、「医用工学」などである。ヘルスサイエンスの学問分野は「臨床検査学」と関連するが、異なる学問領域にもまたがるため、「バイオサイエンス」、「データサイエンス」、「マネジメントサイエンス（診療情報管理学）」も研究対象となる。ただし、病理検査学、生化学検査学を除くと教員は各分野で1名の体制であり、研究の遂行においては、学科内の専任教員同士、あるいは学科外の部署との連携を図りながら実施することも必要となる。具体的な研究体制については、『第１０　研究の実施についての考え方、体制、取組』に記載する。

（４）完成年度に向けた教員組織の段階的な整備

開設初年度である令和6年度には、15名中12名が専任教員として就任する。残りの3名のうち1名は、医学部医学科の講座主任教授、兼医学部附属臨床検査専門学校の校長、2名は同専門学校の専任教員を務める。同専門学校は、令和7年度末に閉校となる予定であり、開設3年目となる令和8年度から、学科の専任教員が全員揃って15名体制となる。

令和6年度から就任予定の12名のうち11名は、令和5年4月1日の時点で本学旭町（医系）キャンパス内の部署に常勤教員として在籍している。残り1名は、学年進行中の他大学の学部に在籍しているが、令和6年4月1日から本学へ赴任することについては、現在の所属している大学の学長から了承を得ている。

２．教員組織の年齢構成

本学科の完成年度末日における専任教員の年齢構成は、【表4】に示すように、60歳代4名、50歳代9名、40歳代2名となっている。専任教員に就任する時点で本学の定年規程により定年年齢65歳を迎える者が1名含まれるが、本学の『教授の採用に関する特別規程』【資料19】を適用し、教授として採用して70歳（令和12年度末）まで任用する。その他に、完成年度までに定年を迎える者はおらず、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない安定した教員組織構成となっている。

【表 4】完成年度末日における医学部医療検査学科専任教員の年齢構成

職　位	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳
教　授	1 名	4 名	3 名
准教授		3 名	1 名
助　教	1 名	2 名	
合　計	2 名	9 名	4 名

【資料 19】久留米大学『教授の採用に関する特別規程』

第１０　研究の実施についての考え方、体制、取組

１．研究の実施についての考え方

「臨床検査学」は基礎医学や臨床医学に関連し、生命科学や情報科学、さらには医療情報などの様々な分野の研究が対象となる。また、「臨床検査学」の発展のためには、臨床検査技師としての実務経験に基づいた研究と、当該研究成果の教育内容へのフィードバックが重要である。そのため、医療検査学科の学生は、研究に先立って病態の把握、臨床検査学の基礎的な知識、具体的には対応する検査方法、手技について講義、実習で事前ないし並行して修得することが前提である。基礎的な知識を修得した 3～4 年生において、研究活動を行う応用選択コースを設けている。応用選択コースでは、臨床検査応用とヘルスサイエンス応用を設け、専任教員が専門とする研究分野から 1 つを選択し、研究テーマの選定、研究仮説の設定、研究方法と手技の修得、データ取得・解析とその解釈、研究成果のまとめといった一連の研究活動を行う。研究成果は卒業研究としてまとめ、報告会でその内容を発表・評価する機会を設ける。研究の実施にあたり、医療検査学科の教員には臨床検査技師、医師、科学者、生物統計学者を擁しており、臨床検査学、医学、ヘルスサイエンスの垣根のない研究を実施することが最大の特徴である。専任教員による少人数での研究指導により、研究する力（問題発見力・創造力・実行力等）と研究の基本ルールを身に付けることを教育目標とする。

学問分野の中でもヘルスサイエンス分野では、研究実験（バイオサイエンス）、データ解析（データサイエンス）、医療データベース構築（マネジメントサイエンス）を専門とする研究者が、 次世代型臨床検査技師の育成という共通の目的の下に集結しており、各々の専門性、研究設備を活用した研究環境の構築を行う。学生への研究指導を通して、 研究実験とデータ解析の専門家が協力することで、生命科学において必須の統計解析の最適化、データ解析方法論の新規開発が期待でき、質の高い学術論文の発信が可能となる。さらにデータ解析と医療データベース構築の専門家が協力することで、久留米大学病院に蓄積された膨大な医療データの有効かつ効率の良い活用法の開発が期待できる。 将来的には、三者が中心となり、その人的ネットワークを駆使することで、

多種多様かつ膨大な生命科学、医療情報を活用した研究を進め、本学の研究力の増大を目指す。

医療検査学科の設置時には「臨床検査学」の大学院は設けられていないが、久留米大学大学院医学研究科修士課程の「総合生命科学・バイオ統計学専攻」に進学し、この分野の研究者、大学教員を目指すことが可能である。また、医学部の研究施設では、研究を遂行するにあたって実験手技に精通した研究員の獲得が重要であり、人材は常に求められている。実験分野に興味を持つ学生は応用選択コースを窓口として、特化した研鑽を積むことが可能であり、卒業後は研究員、技術者として医学部の研究体制に強力な戦力となることが見込まれる。

２．研究の実施体制

（１）教員の研究実施体制

医療検査学科の専任教員は、「臨床検査学」、「医学」及び「ヘルスサイエンス」における研究実績を有している。医療検査学科棟に研究室を設置し、教員が速やかに研究を開始できる施設・設備を整備している。さらに、医学部に設置される学科としての特色を活かし、医学部の基礎医学及び臨床医学講座、研究施設（久留米大学附置研究所・医学部中央研究施設）、久留米大学病院と連携して研究に取り組む体制がある。臨床検査技師の資格を持つ専任教員は、「血液腫瘍学」分野では血液病理を専門とする病理学講座、「微生物学」分野では感染制御学講座、「生化学検査学」分野では久留米大学病院臨床検査部、「細胞診断学」分野では久留米大学病院病理診断科・病理部、「質量分析によるメタボローム解析」分野では質量分析医学応用研究施設といった講座や部署と連携して、臨床検査領域の最先端の研究を実施する。また、「睡眠医学」分野では、スリープラボにて睡眠脳波研究を行い、医学部神経精神医学講座、久留米大学病院と連携した研究体制とする（詳細は「４．特色ある研究の実施」を参照）。「医用工学」分野においては、他の研究分野と共同での医療機器開発を行う。医師の資格を持つ専任教員は、「消化器疾患の画像診断学」、「婦人科疾患の病理診断学」、「細胞の電気生理学的解析」、「神経科学」の研究領域の研究者であり、医学部の基礎医学及び臨床医学講座と連携して研究を実施する。

ヘルスサイエンス分野の専任教員 3 名は、それぞれバイオサイエンス、データサイエンス、マネジメントサイエンスの分野での研究を行う。バイオサイエンスを担当する教員は本学分子生命科学研究所の出身であり、分子生命科学研究所と密な連携をとることが可能である。分子生命科学研究所は、生命科学分野の研究促進を目的に開設された研究所であり、細胞工学研究部門、 高分子化学研究部門、 遺伝情報研究部門の 3 部門より構成されている。研究成果は国際的に著名な学術専門誌に発表されるなど最先端の研究が行われており、本研究所の研究者と共同で研究を推進する【#9】。データサイエンスを担当する教員は、バイオ統計センターの出身である。バイオ統計センターは全国でも珍しいバイオ統計学（生物統計学、医学統計学などとほぼ同義）

の専門家育成機関であり、教員・研究者 6 名を擁している【#10】。臨床研究のデザイン開発・研究、診断法比較のための統計解析法の開発・研究などのデータサイエンス研究においては､久留米大学病院､バイオ統計センターと連携して研究を推進する。また、マネジメントサイエンスを担当する教員は、診療情報管理士資格取得のための教育に加えて、久留米大学病院、医療経営研究センター【#11】、バイオ統計センターと連携し､電子カルテデータやオーダリングデータなど蓄積され続けている膨大な医療データから付加価値を生み出す利活用法の研究を推進する。

【#10】久留米大学分子生命科学研究所ホームページ
http://www.kurume-u.ac.jp/site/lifescience/
【#11】久留米大学バイオ統計センター
http://www.biostat-kurume-u.jp
【#12】久留米大学医療経営研究センター
http://www.kurume-u.ac.jp/site/i-keiei/

（２）学生の研究実施体制

学生は応用選択コースにおいて､臨床検査応用コースとヘルスサイエンス応用コースの研究分野から 1 つを選択する。

①臨床検査応用コース

臨床検査応用コースを選択する学生は「血液腫瘍学」、「病理細胞診断学」、「生化学検査学」、「微生物学」、「質量分析学」、「睡眠生理学」、「医用工学」などより 1 つを選択し､各分野の専任教員と兼担教員のもとで研究を行う。概ね 5 人前後の少人数制として教員が各学生の進捗を把握できるようにする。研究内容、方法は各分野の特色を活かした、かつ卒後実地臨床や基礎研究分野において役立つ内容とする（「臨床検査応用」のシラバスを参照）。

②ヘルスサイエンス応用コース

ヘルスサイエンス応用コースを選択する学生は、「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」、「マネジメントサイエンス応用」から 1 つを選択する。

「バイオサイエンス応用」：細胞・遺伝子・タンパク質の機能解析や、胚・細胞培養法、遺伝子工学技術などの研究を体験し、バイオサイエンス研究のプロセスを学ぶことが可能となっている。分子生命科学研究所、動物実験センターと連携して研究指導を行う（「バイオサイエンス応用」のシラバスを参照）。

「データサイエンス応用」:データサイエンスの背景にある理論や方法を学習し、実社会で統計解析や機械学習法を応用する上で必要となる方法論の修得を目指す。数理統計学、プログラミング、プレゼンテーションを専門書の輪読、実習を通じて学ぶことができる。バイオ統計センターと連携して研究指導を行う(「データサイエンス応用」のシラバスを参照)。

「マネジメントサイエンス応用」:医療情報を利活用できる高度な医療人材の養成を目標に、診療情報管理の専門資格(診療情報管理士)を取得するための講義・指導を行うコースとなっている。本コースのカリキュラムは、診療情報管理士の受験資格要件を満たしている。3 年生で診療情報管理士の取得を目指し、4 年生では医療情報を活用した研究について学ぶ(「マネジメントサイエンス応用Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」のシラバスを参照)。

(3)研究実施のための基礎講習と倫理的配慮

研究を開始するにあたり、「応用選択コース入門」において研究倫理や科学者としての心得を学ぶ。人を対象とする臨床研究や診療情報を用いた研究を行う場合には、『臨床研究法』、『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針』に従って実施する必要がある。そのため、学生全員が「レギュラトリーサイエンスと臨床研究」の講義を受講する。人のサンプルや臨床データ、医療データを用いた研究や解析を行う学生は、久留米大学医に関する倫理委員会に『学生教育を目的とした臨床研究』の申請を行い、倫理審査において承認を得る。

学生であっても研究内容によっては、基礎講習を受講しておく必要がある。動物を用いた実験を行う学生は『動物実験に関する教育訓練』、遺伝子組み替え実験を行う学生は『遺伝子組み換え実験教育訓練』、病原体を取り扱う学生は『バイオセーフティ講習』を事前に受講する。

3.研究実施の環境整備

(1)医療検査学科の研究環境整備

事前に専任教員、兼担教員らにより各研究分野に必要な機器、物品、消耗品を過不足ない範囲で購入予定としており、学生には基礎的な技術修得から専門的な内容まで対応できる環境を整えている。各検査学に必要な機器、研究室は他学科等と共有しながら行う形式とする。

臨床検査学分野では、具体的には血液検査学及び病理検査学では 5 人まで鏡検可能なマルチヘッド顕微鏡、スクリーニング技術修得のための全身の細胞診検体の確保、症例研究に際しては十分な検体、標本作成・染色機器を確保している。生化学検査学、微生物検査学ではクリーンベンチを設置し、細菌培養装置、電気泳動装置、遠心分離

機器を確保している。生理検査学では超音波検査装置、電位測定検査装置（脳波、睡眠脳波、筋電図、聴覚誘発電位、神経伝導など）などを確保している。

ヘルスサイエンス分野では、専任教員の個別研究、応用選択コースの学生への研究指導を行うために、バイオサイエンスラボ、データアナリティクスラボ、データマネジメントラボの整備を行う。バイオサイエンスラボには、遺伝子組換え実験に必要な拡散防止措置がP1レベル及びP2レベルの培養室を設置する。また、バイオサイエンス研究に使用するPCR装置、培養装置、超遠心機、タンパク質精製装置、マイクロプレートリーダなどの実験装置を既に確保している。データアナリティクスラボ、データマネジメントラボには、応用選択コースの学生が使用する複数台のコンピュータを整備する。

（２）医学部の研究支援体制

医学部では研究活動をサポートする技術職員が、先端イメージング研究センター(3次元構造解析が可能なFIB-SEMを含む電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡、多光子顕微鏡など）【#12】、質量分析医学応用研究施設（メタボローム解析）、動物実験センター（動物実験支援、ゲノム編集など）【#13】に配置されている。また、病理学講座での分子病理学的解析などの研究サポートを要請することが可能である。

【#13】久留米大学医学部先端イメージング研究センター　ホームページ
http://airc.kurume-u.ac.jp
【#14】久留米大学医学部動物実験センター　ホームページ
https://animal.med-kurume.jp

（３）教員研究費

本学科の専任教員には、医学部看護学科の個人研究費と同額の個人研究費が支給される。個人研究費は、職位により教授850千円、准教授640千円、講師430千円、助教270千円とする。なお、学生の応用選択コースで必要となる研究経費は、別途、授業用費などから支出する。

また、本学科では複数の教員より構成される講座を設けていないため、共同研究費は設定しない。共同研究費に代わってすべての専任教員に個人研究費が支給されるため、研究に支障は来さない。

（４）URAの配置状況、役割・責任

久留米大学における研究活動の発展と外部資金獲得の増加のために、平成30年度に久留米大学産学官連携戦略本部から「久留米大学研究推進戦略センター」への改組を行い、研究推進戦略センターに専任の専門職員（URA：リサーチ・アドミニストレーター）を配置している。

研究推進戦略センターは、全学的な産学官連携の強化及び拡大を図るため、本学が保有する人材、物的資産、資金、情報、技術等、すべての経営資源を有効かつ効果的に活用するシステムを構築し、産学官連携の戦略的な企画立案、実践及び管理・運営を担っている。また、競争的資金の獲得と知的財産を基礎とした受託研究及び共同研究の増加を図るとともに、研究推進・支援を強化し、産学官連携による戦略的な研究開発原資の拡大に努め、学術研究の振興及び社会貢献に資する活動に取り組んでいる。さらに、地域経済の活性化に向けて、自治体・地域企業等との連携を密にしながら、幅広い産業ニーズに適応した共同研究の創出、出願特許の質的向上、技術移転活動の効率化を進めている。

具体的な研究支援としては、①研究者への競争的研究資金の獲得支援（科研費応募、科研費獲得セミナーなど）、②研究者と学生からのアイデア（シーズ）の知財相談、特許出願、③研究成果の技術移転活動における研究者と学生の展示会参加、④研究者、学生向けの知的財産に関するセミナー、⑤研究者と企業等の受託・共同研究のマネジメント、⑥研究者・学生のアイデアをベースにした大学発ベンチャー起業の支援などが挙げられ、必要に応じて支援を受けることができる。

４．特色ある研究の実施

（１）競争的研究資金の獲得

本学では競争的研究資金の獲得のために、科研費獲得促進セミナーなどの FD や科研費応募支援などを実施している。専任教員は研究者として競争的研究資金の獲得に努める。さらに、学生を研究協力者とする研究課題を推進することで、競争的研究資金を学会参加などの学生教育へも還元する。

（２）スリープラボにおける医学科講座と連携した研究体制

医学部内に設置する学科としての特色を活かした取り組みとして、臨床検査学研究の中でも睡眠研究をブランディングモデルとして**「スリープラボ」**を設置する。スリープラボは、睡眠脳波を専門とする専任教員、医学部神経精神医学講座の睡眠グループ（学長、主任教授）、文学部心理学科との協力体制で運用し、睡眠脳波解析が可能なシールドルーム 2 部屋を設置したラボとする。睡眠検査ができる臨床検査技師の育成に加え、睡眠研究の推進を目指す。

スリープラボでは、睡眠脳波を用いた神経学的アプローチのみならず、呼吸・循環系活動も同時に記録できる終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG）を用いた本格的な睡眠研究が可能である。PSG は睡眠の量や質を定量できるため、睡眠薬の有効性検証試験（治験）では欠かせないツールとして知られている。また、医学部神経精神医学講座では、本邦における数多くの睡眠薬開発実験を先導してきた実績から、本学科のスリープラボの設置によって、医学科との連携を図りながらの開発実験の運用が期待される。また、近年、うつ病、PTSD（心的外傷後ストレス障害）や発達障害などの精神疾患、睡

眠時無呼吸症候群及び 24 時間社会やストレス等による様々な睡眠障害が増加しており、その病態解明や診断・治療に睡眠脳波が多大に貢献できるため、医学科との連携により研究を推進することができる。さらに、ヘルスケア分野では、良質な睡眠が心と身体の健康維持には重要であるという認識が浸透しており、睡眠の見える化ディバイス（スリープテック）開発や、睡眠改善を目的とした食品、飲料、嗜好品や寝具の開発が活発である。このような分野でも、室温、騒音、照度などの環境統制が可能なシールドルームを備えたスリープラボを使用した研究は注目されており、幅広い分野の睡眠研究が可能である。このように、スリープラボは本学医学部の特色を活かした研究の取り組みであり、臨床研究の展開が期待される。

第１１　施設、設備等の整備計画

１．校地、運動場の整備計画

久留米大学は、福岡県久留米市に位置し、約 4km 離れた旭町キャンパスと御井キャンパスを有している。旭町キャンパスには大学本部、医学部、大学院医学研究科、医学部附属病院、及びヘルスサイエンス領域を含む複数の附置研究所が所在している。また御井キャンパスには文学部、人間健康学部、法学部、経済学部、商学部と大学院、附置研究所が所在している。

（１）教育にふさわしい環境

本学科で養成する人材像は「メディカルサイエンスに精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師」であり、医学部医療検査学科として医学部に医学科、看護学科に次ぐ学科として設置する。そのため、医学部、大学病院をはじめとし、医系の施設や研究所が集合している旭町キャンパスに校舎を整備する。その利点としては、①臨床検査学教育、ヘルスサイエンス教育のいずれにおいても、旭町キャンパスの医学部、大学病院をはじめとする各部署の人的資源と施設設備を有効に活用できる、②医学科、看護学科と同じキャンパスに設置することで、3 つの学科の学生と教員が、授業の内外で交流、連携する機会を頻繁に持てること、がある。学内の講義と実習については、文系学部教員が担当する科目も含め、すべて旭町キャンパス内で実施することとする。

また、校地は多くの学生が余裕をもって、授業を受けることができ、日常的な休息や交流、イベントを開催する上での十分な広さと設備を整えることも重視している。

（２）校地について

学科を設置する旭町キャンパスは、九州新幹線の停車駅でもある JR 久留米駅からバスで約 7 分、福岡市の中心部と福岡県南部を結ぶ西鉄天神大牟田線の久留米駅から約 17 分の場所に所在する。交通の便に恵まれていることから、多くの学生、教職

員の通学、通勤に公共交通機関が用いられている。久留米市は鉄道、道路とも九州における広域交通ネットワークの結節点となっており、九州の各都市と比較的短時間で往来できる。日本の四大都市圏である福岡市へは 30 分前後で移動できる一方で、福岡市よりも家賃や物価が安いため、一人暮らしをする学生の経済的負担が軽く、快適な「学び」と「暮らし」の両立ができる地域である。

（３）運動場および学生の休息・その他の利用のための適当な空地の整備状況

旭町キャンパスの総面積は 154,423.20 ㎡であり、敷地内のスポーツ施設としてナイター照明付きグラウンド、テニスコート、野球場（総面積 32,465.00 ㎡）、体育館（2,009.66 ㎡）と学生部室棟を備えている。従来から医学科、看護学科、臨床検査専門学校の学生はスポーツの授業や課外活動でこれらの施設を利用しており、新学科の学生も同様の場面で利用する予定である。運動場は、令和 5 年 1 月に全天候型陸上走路、観戦スタンド、人工芝を備えた医学部総合グラウンドに改装され、これを機に運動場や体育館などを本学学生はもとより、久留米市や周辺地域住民のスポーツ活動や健康づくりの場としても積極的に提供されている。

学生が休憩できる場所を確保するために、空地には樹木やベンチがあるオープンスペースを設置している。さらに建物内には、多目的ホールやカフェスペースがある学生ラウンジを設け、学生たちに憩いや交流の場を提供している。学生ラウンジや食堂、売店、書店などの福利厚生施設は、各学科の校舎から徒歩 5 分以内の場所に配置している。後述する建設中の**看護学科新棟**と医療検査学科が令和 7 年度から移転する**医療検査学科棟**においても、それぞれに学生のためのオープンスペースを確保する計画である。

２．校舎等施設の整備計画

医療検査学科の入学定員は 74 名（最大入学者数は定員の 1.19 倍の 88 名）であり、全学年が揃うと約 290～350 名の収容となる予定である。施設と設備はこれらの学生の教育課程の履修と課外活動が円滑に行えるように整える。

なお、学科開設初年度の令和 6 年度のみ、臨床検査専門学校の校舎を使用し、令和 7 年度からは現在、医学部看護学科が使用している看護学科 A 棟を改修した医療検査学科棟に移転する計画である。看護学科の新校舎の建築は令和 4 年度から始まっており、令和 6 年 9 月には、看護学科は新校舎へ完全に移転する予定である。

本項では、まず（１）医療検査学科棟へ移転（校舎完成）後の施設、設備の整備計画を記載し、続いて（２）開設年度以降の段階的な整備計画について述べる。

（１）医療検査学科棟（校舎）完成後の施設、設備の在り方

１） 医療検査学科棟の校舎面積と概要

医療検査学科棟は、総面積 4,355.42 ㎡、地上 4 階建てである。改修前にも看護学科 4 学年（収容定員 440 名）の校舎として用いられていたため、講義室、実習室、演習室、教員研究室、アメニティスペースも十分に確保されており、増築は行わない。改修工事では特に、臨床検査学領域の実習や、各応用選択コースでの実験や演習に必要な設備工事を行う。また、学生たちが授業外で交流や学習ができる部屋やオープンスペースを確保し、内装をリラックスした雰囲気にすることで、学生生活を快適に送れるようにする。医療検査学科では、看護学科よりも男子学生の比率が高くなることが想定されるため、男性用の学生更衣室と便所を拡張する。男性用、女性用とも学生更衣室は全員が年間、固定したロッカーを使える面積を確保し、便所は各階に配置する。医療検査学科棟の各階の概要を以下の表に示す。

【表 4】医療検査学科棟の各階の概要

階	階ごとの総面積(㎡)	主 な 部 屋 の 名 称
4 階	1,110.60	講義室 3、講義室 4、協同学習室 B、教員室（20.20 ㎡×10 部屋）、学生更衣室（男性、女性）、倉庫
3 階	1,110.60	生化学実習室・準備室、生理実習室、バイオサイエンスラボ、試薬室、細菌培養室、細胞培養室、スリープラボ、共同研究室 1、共同研究室 2、共同研究室 3・生化学機器収納室
2 階	1,110.60	講義室 1、講義室 2、小講義室、協同学習室 A（2 部屋に分割可能）、データアナリティクスラボ、肺機能検査室、教員室（20.20 ㎡×1 部屋、40.40 ㎡×1 部屋）、学生更衣室（男性、女性）、倉庫
1 階	758.60	会議室、学科長室、応接室、非常勤講師室、給湯室、資料室・印刷室、データマネジメントラボ、図書室、多目的ホール、自販機コーナー

1 階には、学生のためのアメニティスペース、図書室、マネジメントサイエンス応用選択者の講義・演習室を、教員には会議や応接、配付資料作成を行うスペースを設ける。

2 階には、1、2 年生が使用する講義室、データサイエンス応用選択者の演習室、学生が小グループで自由に勉強できる協同学習室を設ける。また、ここに 1～2 名、2～4 名用の教員室（教員研究室）各 1 室も配置する。

3 階には、主に実技を行う実習室と準備室・収納室、バイオサイエンス応用と臨床検査応用選択者の各種実習室を配置する。

4 階には、3、4 年生が使用する講義室、協同学習室、1～2 名用の教員室（教員研究室）10 室を配置する。4 階の協同学習室の一角には、利用者のプライバシーを保護しつつ対人や Web での面談ができるテレワークブースを 2 か所設置し、学生が就職活動等にも利用できるようにする。

なお、事務組織は「看護学科・医療検査学科事務室（仮称）」として、看護学科新棟内に配置される。医療検査学科棟には常駐する職員がいないため、棟の入り口各所と各階には防犯カメラを設置し、事務室でモニタリングを行う。また、時間外には施錠し、ID カードを使用できる教職員と学生のみが入棟できるようにする。

２） 教員の研究室

専任教員 15 名が学生教育、研究指導、及び自身の研究活動を円滑に行うため、教員室を 12 部屋設ける。教員室は 20.2 ㎡（11 部屋）もしくは 40.4 ㎡（1 部屋）の面積があり、教授は 1 名、准教授、講師及び助教はそれぞれ 1～2 名、2～4 名で使用する計画である。学科長を除く 14 名の専任教員の教員室は十分に確保されており、将来教員が増えた場合でも十分に対応できる。各教員室には応接設備を設けるが、学生や来客者に対して、成績や学科運営に関する情報等が漏洩しない環境づくりを行う。教員室とは別に、学科長室、会議室、資料作成に用いる共用スペースを設ける。

３） 講義と学内実習に必要な施設と設備

4 学年の講義・演習、実習は、原則として医療検査学科棟にて実施する。但し、一部の演習や実習は基礎 1 号館（8,834.46 ㎡）、基礎 2 号館（8,909.71 ㎡）、基礎 3 号館（8,273.96 ㎡）にて行い、医学科、看護学科との合同授業では教育 1 号館（5,279.48 ㎡）、看護学科新棟（6,982.53 ㎡）、筑水会館（1,881.08 ㎡）も適宜利用する。実施場所がほぼ固定されているのは、以下のとおりである。

①講義室

医療検査学科棟の 4 つの講義室の面積は 181.5～205.1 ㎡である。これは臨床検査技師養成所指導ガイドラインの基準（入学定員 74 名で 122 ㎡以上）を上回っており、ゆとりを持って全学年が同時に各講義室で受講することができる。各講義室に配備される映像音響システムでは、対面授業だけでなく外部へのライブ配信、外部講義のライブ受信、及び教室間での双方向通信が可能である。また、授業の形態が小グループに分散する場合には、協同学習室や小講義室なども使うことができる。

②実習室

学生自身を被検者とする実習科目には、2 年次に開講する「生理検査学実習」「画像検査学Ⅰ（超音波実習）」「医用工学概論実習」などの生体検査に関する実習と、

3 年次に採血その他の検体採取を行う「医療安全・検体採取実習」があり、これらは医療検査学科棟の生理実習室（229.5 ㎡）、肺機能検査室（20.2 ㎡）、スリープラボ（59.4 ㎡）の 3 室（総面積 309.1 ㎡）で行う。採血を含む「医療安全・検体採取実習」のみ、実技は学年を半分に分けた 40 名程度で行い、その他は 1 学年一斉の実習を実施する。

検体や装置を取り扱う実技のうち、医療検査学科棟の生化学実習室（357.4 ㎡）を使用する科目は、1 年次の「生化学」「免疫学実習」「検査機器総論」「薬品管理学」、2 年次の「医用工学概論実習」「血液検査学実習」「病理検査学実習」「臨床化学検査学実習」、3 年次の「一般検査学実習」「RI 検査学」「免疫検査学」「遺伝子・染色体検査学実習」「輸血・移植検査学実習」である。生化学実習室には 18 台の学生用実験台を置き、1 学年が 1 班 4～6 名程度に分かれて同時に実技実習を行うことができるようにする。

いずれの実習室も、臨床検査技師養成所指定ガイドラインで定められている実習室の広さ（入学定員 74 名で 245 ㎡以上）を十分に確保している。

なお、医療検査学科棟の外にある医学科、看護学科との共用の実習室、その他病院施設などを実習で利用する場合がある。例えば、基礎 1 号館 2 階の組織実習室では受講する学生全員が同時に光学顕微鏡を使用することが可能であり、これを必要とする授業を実施する。同館 3 階の実習室では学生全員の光学顕微鏡使用に加え、実習班単位で水道とガスを用いることができ、微生物を含む検体も取り扱うことが可能なため、血液検査、病理検査、一般検査、微生物検査における標本作製と観察を行う実習の際に使用する。また、医療検査学科には、1 学年の受講者全員が入室して小グループ単位、または学生全員にパーソナルコンピュータ（PC）を操作できる実習室は整備しないため、そのような演習形式の必修科目は、すべて基礎 3 号館 1 階のコンピュータ実習室で開講する。これらの具体的な科目は、以下のとおりである。

【表 5】医学部内で共用する実習室の使用目的

実習場所	科目名	使用目的
基礎 1 号館 1 階 解剖実習室	肉眼解剖学実習	御献体を観察する。
基礎 1 号館 2 階 組織実習室	検査機器総論 組織解剖学 血液検査学実習 病理検査学実習	学生全員が同時に光学顕微鏡を用いて標本を観察する。
基礎 1 号館 3 階 実習室	血液検査学実習 病理検査学実習 一般検査学実習 微生物検査学実習Ⅰ 微生物検査学実習Ⅱ	実習班単位で水道とガスを使用し標本の作製をする。学生全員が同時に光学顕微鏡を用いて標本を観察する。
基礎 3 号館 1 階 コンピュータ実習室	統計学 保健医療情報学 マネジメントサイエンス基礎Ⅱ データサイエンス基礎Ⅰ データサイエンス基礎Ⅱ	学生全員が同時に PC を使用する。

③実習用の機器備品

臨床検査技師養成所指導ガイドラインに示された水準を目安とし、科目毎に編制される班の数や学生数を考慮した上で、実習を円滑に進められるだけの機器備品を整備する。

生体検査の実習にはベッド 12 台を備え、スパイロメーター、心電計、超音波診断装置、血圧脈波検査装置、脳波計、誘発電位検査装置は各装置とも少人数グループに分かれて授業時間内に実施できる数を備える。

採血、その他の検体採取の実技訓練には、静脈採血・静脈注射用ポンプシミュレータの他、鼻腔・咽頭拭い液採取モデル、吸引シミュレータ、爪白癬採取モデルを備える。学習教材として、人体模型も配置する。

生化学実習室で行う検体検査の実習では、分光光度計、電子天秤、イオンメーター､遠心分離機など共用で使用するものは 1～2 班で 1 台使用できる数を確保し、マイクロピペットやガラス器具類は、一人一人が同時に使用できるよう、想定される学生数分を確保している。

PC の医療検査学科棟の教室内の配置は、データアナリティクスラボ（76.9 ㎡）に 26 台、データマネジメントラボ（62.3 ㎡）に 2 台であり、授業では主にデータサイエンス応用、マネジメントサイエンス応用の各コース選択者を対象にこれらの教室を用いる。

４） 学生への研究指導の施設と設備

応用選択コースにおいて学生への研究指導を行うが、学生は臨床検査応用コースとヘルスサイエンス応用コースの研究分野から１つを選択して研究を行うため、研究に必要な施設と設備は多岐に渡る。医療検査学科棟には、共同研究室３部屋、細菌培養室、細胞培養室、バイオサイエンスラボ、スリープラボ、データアナリティクスラボ、データマネジメントラボなどの研究室を整備する。研究テーマによっては、生化学実習室、生理実習室も利用する。これらの研究に必要な設備の整備状況については、**「第１０　研究の実施についての考え方、体制、取組」**に詳細を記載している。

（２）開設年度以降の校舎、施設、設備の段階的な整備計画

１） 令和６年度の１年生と専任教員のための施設

令和６年度の１年間は医療検査学科棟を使えないため、この間、医療検査学科１年生（入学定員 74 名）の講義室と更衣室、及び専任教員４名の教員研究室は、臨床検査専門学校（入学定員 40 名）の校舎内に設置する【資料 20】。残りの専任教員（令和６年度の専任教員は 12 名）のうち、４名の教員研究室は令和５年度に学内に配置されていた部署に置き、４名は、基礎１号館２階の会議室を改修して教員研究室とする。

臨床検査専門学校の校舎である教育２号館（2686.65 ㎡）には、354 名を収容できる大講義室が１部屋、180 名を収容できる中講義室が２部屋ある。令和６年度末には、医療検査学科１年生は大講義室、臨床検査専門学校２年生、３年生は中講義室２部屋を使用することとする。なお、これらの講義室の映像音響システムは、外部へのライブ配信、外部講義のライブ受信、及び教室間での双方向通信が可能である。よって、教育２号館での講義環境は、移転する医療検査学科棟と同様に整備されており、令和６年度の医療検査学科１年生にとって不利益となることはない。

一方、１年次に実習を行う科目には、「生化学」（４回分の実習）と「免疫学実習」（13 回分の実習）がある。これら２つの実習においては、基礎２号館１階の東実習室と西実習室、基礎１号館３階の実習室で実施することとしている。医学科、看護学科などの利用スケジュールと重ならないことは、確認済みである(詳細は(3)に記載)。

令和６年度末には、臨床検査専門学校校舎に設置していた医療検査学科の所有物はすべて改修された医療検査学科棟へ移動させ、学内の各部署に分散していた専任教員の研究室も医療検査学科棟へ移転させる。これをもって、新校舎体制の完成とする。令和７年度からは医療検査学科棟を拠点とした運営を行う。

【資料 20】久留米大学医学部附属臨床検査専門学校　面積基準の算出根拠となる規程

２）　機器備品の段階的な整備計画

開設前年度の令和 5 年度から、実習等に必要な機器備品を、段階的に購入する。令和 5 年度には総購入費の 4 割を費やし、学生人数分のマイクロピペットの他、光学顕微鏡、各種生理検査機器、超音波検査装置、医用工学の電気回路実験装置を中心とする実習器具、及びバーチャルスライドシステムを購入する。令和 6 年度には医療検査学科棟の改修完了、移転を行うため、残りの機器備品、実験台、校具、AV 装置等、ここまでで総購入費の 99%以上の購入を済ませる。臨床検査専門学校が現有する機器類は、廃校時でも利用可能なものがあれば移管する可能性もある。

３）　医学科、看護学科、及び臨床検査専門学校と施設共用利用

上述したように、令和 6 年度、及び令和 7 年度以降も、旭町キャンパス内の医療検査学科棟以外の実習室等を活用するが、これらの部屋は、医学科、看護学科、臨床検査専門学校の教育課程でも利用されている。医療検査学科が新たにこれらの施設を利用しても、時間割の重複などによる支障は生じない【資料 21】。

また、令和 6 年度中に完成する看護学科新棟は、医療検査学科棟に隣接して建設され、両棟の 2 階部分は渡り廊下で接続される。看護学科新棟の 1 階のオープンスペースや食堂は、医療検査学科の学生の利用も想定して設計・建築されている。このような環境により、授業外にも日常から両学科の学生と教員の距離が近づき、多くの交流が生まれることが期待される。

【資料 21】他学科・専門学校の実習施設を使用する時間割予定表

３．図書等の資料及び図書館の整備計画

（１）旭町キャンパスの医学図書館

久留米大学では、御井、旭町の 2 つのキャンパスにそれぞれ御井図書館、医学図書館を設置している。旭町キャンパスに拠点を置く医療検査学科の学生と教職員は、主に医学図書館を利用する。医学図書館は昭和 42 年に竣工し、これまで臨床検査学を含む医学・医療領域の教育研究用の書籍、雑誌、及び視聴覚教材の購入を継続しており、文献や教材の充実を図っている。

医学図書館は、医学部附属である臨床検査専門学校の学生と教員も頻繁に利用しており、医療検査学科の学生、教員も医学図書館を通じて豊富に医学領域の文献を入手することができる。また、本学の学生は、自主学修の場としても閲覧室（閲覧席数：772 席、開館時間：平日 8 時半～22 時、土日 8 時半～22 時、祝日休館）を活用することができる。

医学図書館は、延べ床面積が 2,838.18 ㎡、医学系の図書 31,541 冊、学術雑誌 3,657

種を保有しており、「臨床検査法提要」、雑誌「臨床検査」をはじめとする臨床検査学に必須の各領域の蔵書を保有している。レファレンスルームとしての専用の部屋は設けていないが、学生の授業時間帯において常勤の担当を 1 名配置し、図書及び文献検索のフォロー、利用指導の他利用者からの種々の質問に対応している。また、蔵書検索（OPAC）用 PC を設置している他、館内に Wi-Fi アンテナを設置し、利用者が持ち込んだ PC を利用できるよう環境を整えている。

（２）デジタルデータベース等の整備

電子ジャーナルについては、生化学、遺伝学、分子生物学、化学、臨床医学、エンジニアリングなど多くの分野を取り扱う Elsevier（Science Direct)、Springer、Wiley といった主要電子ジャーナル・サイトと既に購読契約を締結している。その多くは FTE（フルタイム当量）契約であるため、医療検査学科の学生も参照・利用する環境が整っている。国内の論文検索用データベース資料として国内医学関連雑誌・図書の検索及びフルテキストの閲覧が可能なメディカルオンライン、医書.jp 等、さらに、海外の論文検索用データベース資料として Scopus、Medline、文献管理用ツールとして EndNote、Mendeley、雑誌論文の評価ツールとして Journal Citation Reports(JCR)等を利用できるようにしている他、EBM 臨床支援ツールである今日の診療、UpToDate 等も利用可能としている。Wi-Fi 環境が整えば、本学の学生と教職員は、これらの学外からでも医学図書館にアクセスし EZproxy 経由で契約雑誌等を閲覧することができる。

（３）医療検査学科棟の図書室

令和 7 年度から利用する医療検査学科棟内にも図書室（51.3 ㎡）を配置し、学科棟内でも学生が容易に関連図書を閲覧できるような環境を整え、自己学修により臨床検査学とヘルスサイエンス領域の理解を深める一助とする。学科開設前年度の令和 5 年度に、専任教員が選定した 180 書籍、視聴覚教材 2 点【資料 22】を創設費として購入し、医療検査学科棟開設までは、臨床検査専門学校内の図書室にこれらを配置する。年度毎に予算を計上し、和書及び洋書を追加購入する。

臨床検査専門学校図書室には、国家試験対策や画像診断アトラスや雑誌「Medical Technology」、「検査と技術」などの検査関連書籍が備えられている。専門学校廃校後は、医療検査学科の図書として利用可能なものがあれば移管する可能性もある。

【資料 22】久留米大学医学部医療検査学科　新規購入図書及び視聴覚教材

（４）図書館相互協力

図書館相互協力については、国立情報学研究所の NACSIS-CAT/ILL や国立国会図書館の図書館間貸出制度に加入して、学生や教員への資料提供を行っている。

また、九州地区大学図書館協議会、私立大学図書館協会、九州地区協議会等を通じて、職員の研修や情報の共有を図り、利用者サービスの向上に努めている。

第１２　管理運営及び事務組織

１．教学面における管理運営の体制について

（１）教授会議の役割

教授会議は、学則第 11 条第 4 項に基づき、学長が掲げる事項について決定を行うにあたり審議のうえ意見を述べる役割を担っている。

（２）構成員

医療検査学科教授会議は、医療検査学科の教授をもって組織する。また、医療検査学科拡大教授会議は、医療検査学科教授、准教授及び講師をもって組織する。

（３）開催頻度

教授会議の開催は原則として月 1 回とする。

（４）審議事項

１）医療検査学科教授会議は、次の事項について、学則第 11 条第 2 項に基づき取り扱うものとする。

①教員の教育研究業績の審査に関する事項

②上記に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会議の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定める事項

２）医療検査学科教授会議は、前項に規定するもののほか、次の事項について、学則第 11 条第 3 項に基づき取り扱うものとする。

①規則に関する事項

②教育職員の人事に関する事項

③学科内の予算に関する事項

④その他学長及び学部長等（以下、「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

３）医療検査学科拡大教授会議は、次の事項について、学則第 11 条第 2 項に基づき取り扱うものとする。

①学生の入学及び卒業に関する事項

②学位の授与に関する事項

③教育課程の編成に関する事項

4）医療検査学科拡大教授会議は、前項の規定するもののほか、次の事項について、学則第 11 条第 3 項に基づき取り扱うものとする。
①学務に関する事項
②学生に関する事項
③その他議長が必要と認める事項

２．教授会議以外の関連する委員会

（１）大学評議会

大学評議会は、学則第 9 条第 3 項に規定する「久留米大学評議会規程」に則り設置されており、学長召集のもと、教学全体に関わる以下の事項について審議するとともに、学長からの以下の諮問に応ずる機関として機能している。

①決議事項
ア　学生に関する重大なる賞罰に関する事項
イ　大学教育方針、補導事項
ウ　自己点検、自己評価に関する事項
エ　その他議長が必要と認める事項

②諮問事項
ア　大学教育機構の改廃
イ　大学教育に関する重要規則の制定、改廃
ウ　学部、学科、大学院研究科の増減、改廃
エ　学長、教授、准教授及び専任の講師の任免
オ　名誉学長及び名誉教授の称号の授与
カ　その他議長が必要と認める事項

（２）教学マネジメント会議

教学マネジメント会議は、「教学マネジメント会議規程」に則り設置されており、学長のリーダーシップのもと、教学における学内組織の運営・連携・改革を推進するため、本学全体または各学部、大学院、研究所、センター等に共通する以下の重要事項について協議する。

①協議事項
ア　教育及び研究の基本方針に関する事項
イ　教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証及び評価に関する事項

ウ　教育の質向上に関する事項
エ　教育及び研究の充実・発展に必要な事項
オ　産学官連携、研究推進及び外部資金に関する事項
カ　その他議長が必要と認める事項

３．事務の遂行を行う事務組織体制

学校法人久留米大学が設置する学校の管理運営については、「学校法人久留米大学業務運営規則」により理事会または理事長がそれぞれ決定する事項を定めている。

また、設置する学校の事務組織及び各職位の諸関係を明らかにし、職務の適切かつ円滑な運営のために「事務組織規則」を設けている。この規則では、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教育職員と事務職員等との適切な役割分担の下で連携体制を確保し、協働で職務を行うよう求められている。

さらに、これらの規則に基づき事務分掌及び事務決裁基準に関する細則を設け、事務組織における事務の適切かつ能率的な運営を確保することとしている。

医療検査学科の事務遂行に関しても、これらに基づき適切に運営されることになるが、医療検査学科の設置認可を得た上で、現在の医学部事務部内の「看護学科事務室」を改組し、令和５年 10 月１日を目途に「学科事務室（仮称）」とすべく関連規則等の一部改正を行う予定にしている。

具体的には、「看護学科事務室」への人員配置が６名（令和５年３月１日現在）となっているところを、令和５年４月１日から漸次増員することとし、完成年度には「看護・医療検査学科事務室（仮称）」への人員配置が９名（予定）となるように計画を進める。

また、その間は、臨床検査専門学校の事務職員の業務知見、経験等を共有または活用することで、円滑に事務遂行（移行）できるように配慮することとしており、「看護・医療検査学科事務室（仮称）」の事務を臨床検査専門学校の事務職員が兼務できるようにするなど、事務組織が一体となった弾力的な運用も行うこととしている。

４．学生の厚生補導を行うための組織

学生支援のための総合的対応機関である「学生支援室」が文系キャンパスに設置され活動している。医系キャンパスでは、医学教育研究センター、保健管理センター(学生相談室)、医学部医療検査学科に設置される委員会組織、医学部事務が一体となって、学生の生活・修学・進路に関する総合的な支援体制を整備している。医学部医療検査学科学生の生活・修学に関する支援は、医療検査学科の学生委員会及び教務委員会が主体となって対応する。進路及び就職の支援は、医療検査学科の就職・進学支援委員会が対応する。経済的支援は、旭町（医系）キャンパスでは医学部学生委員会で対応する。健康への支援は、学生からの相談を保健管理センターが対応する。

第１３　自己点検・評価

１．基本方針

本学では、自己点検・評価活動の目的を「本学の理念･目的に現状を照らし、教育・研究･診療水準の向上及び社会への貢献を図り、もって、本学の社会的使命の達成に寄与するとともに、これらの活動を支えるよりよい環境や諸条件を整備し、将来に亘り、本学の不断の改革･改善を図ること、また、PDCA サイクル等を適切に機能させ、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを本学自らの責任で説明し証明していく内部質保証の取組みに努めること」とし、その範囲を教育・研究・診療・社会への貢献及びそれらの管理運営並びに経営の各分野としている。

２．実施体制

本学における自己点検・評価活動については、学内（内部）検証と外部検証に大別され、さらに外部検証については、外部評価（本学が選任した本学以外の者による評価）と第三者評価（本学から独立した客観的立場の者による評価）に分けられる。

まずは、学内における点検・評価活動の実施体制であるが、「久留米大学自己点検・評価規程」に基づき、全学自己点検・評価委員会（以下、「全学委員会」という。）、大学専門自己点検・評価委員会（以下、「大学専門委員会」という。）及び個別自己点検・評価委員会（以下、「個別委員会」という。）を設置している。これら 3 つの委員会が中心となり、相互に連携をとりながら、点検・評価活動を展開している。全学委員会は、学長が委員長を務め、学部長や大学院研究科長をはじめとする各部門の長で構成されており、その目的は、大学の理念・目的に照らし、大学の活性化と現状改革の視点から自己点検・評価についての基本方針を策定すること、また、自己点検・評価、外部評価または第三者評価の結果に基づき現状を分析するとともに、大学の改善・改革の方策についても検討し、適宜、理事長及び学長に提起することである。大学専門委員会は、学部、大学院研究科ごとの個別委員会の委員長で構成されており、大学の教育・研究・社会への貢献に関する自己点検・評価を効率的に実施すべく、具体的に点検･評価項目等を設定するとともに、各個別委員会間の調整を行っている。個別委員会は、学部、大学院研究科等の単位で設置され、当該組織における自己点検・評価を担い、その進捗状況と結果について、当該組織の全学委員を通じて、適宜、全学委員長に報告することを目的としている。

また、学長のリーダーシップのもと、教学における学内組織の運営・連携・改革を推進するため、本学全体または学部、大学院、研究所、センター等に共通する教育、研究、その他重要事項について協議することを目的として久留米大学教学マネジメント会議（以下、「教学マネジメント会議」という。）を設置し、内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として体制を整備している。

３．実施方法

本学では、学部・研究科・センター等の部局レベルにおいてPDCAサイクルを可視化するため、個別委員会主導の下、公益財団法人大学基準協会が設定する大学基準の各項目に準拠して作成した本学独自の点検・評価シートを用いて自己点検・評価を行う。その後、各部局レベルで作成された点検・評価シートを基に、大学専門委員会が全学的な自己点検・評価報告書を取り纏める。最終的に取り纏められた自己点検・評価報告書は、全学委員会において検討・審議を行い、課題の明確化を図る。これらの課題に関し、個別の部局レベルで解決すべき事項は当該個別委員会を中心に解決に向けた対応が図られることになる。また、全学的な課題については、学長が教学マネジメント会議に諮問した上で、改善計画を策定し、必要に応じ、教学の意思決定機関である大学評議会で審議・決議を行う。その後、必要に応じ、理事会での報告を経て、改善策の実行に繋げる。また、理事長に提起された課題や改善方策については、理事長から将来構想策定会議に諮問され、中・長期の計画に反映する。

４．公表及び評価項目等

本学では、本学が展開している教育・研究をはじめとした諸活動に対する点検・評価結果について、ホームページを通じて公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

なお、点検・評価にあたっては、認証評価機関である公益財団法人大学基準協会が定める基準及び点検・評価項目に準じた評価項目で構成し実施している。

５．学外者による検証

外部評価については、本学が作成した自己点検・評価報告書に基づいて、検証及び評価を行い、本学の教育・研究水準の向上及び組織の活性化に資する提言を行う機関として、学外有識者を委員とする久留米大学外部評価委員会（以下、「外部評価委員会」という）を設置している。同委員会では、本学が作成した点検・評価シート等に対する書面評価及び年１回程度開催する会議形式における本学関係者との質疑応答等の内容を踏まえ、外部評価報告書を作成の上、学長に報告する。この報告書において指摘が為された事項については、翌年度以降の本学の教育・研究活動における重点的な改善事項として取り扱われる。また、同報告書は、本学ホームページへ掲載し公表している。なお、外部評価は平成25年度から毎年実施しているが、そこで得られる知見は本学にとって非常に有益であることから、今後も継続実施していくこととしている。

一方、第三者評価については、公益財団法人大学基準協会による機関別認証評価（大学評価）を平成19年度から7年毎に受審している。直近においては、令和2年度に受審し、適合認定を得ている。この認証評価結果についても、本学が作成した自己点検・評価報告書及び関連データとともにホームページに掲載している。

第１４　情報の公表

本学では、教育研究活動等の状況についての情報公表を積極的に推進している。公表にあたり、主に大学ホームページによる情報発信に加えて、大学案内（毎年度発行）、久留米大学広報誌「EQUAL」（1、4、7、10 月の定期発行）、各種の受験情報サイト及び公開講座など、さまざまな媒体や機会を利用して学生・卒業生・その父母等、患者・その家族・医療関係者等、志願者・その父母等、学校・企業・国・自治体をはじめとした多様な関係機関の方々への情報提供を行っている。

・大学の教育研究上の目的に関すること

＊ 大学の教育研究上の目的

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/idea.html

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 建学の精神・基本理念

＊ 各学部における教育理念・目的、3 つのポリシー

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/information-disclosure.html

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 情報公表 > 教育理念

・教育研究上の基本組織に関すること

＊ 大学の沿革

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/enkaku.html

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 沿革

＊ 学部、学科等に関する基本組織

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/organization.html

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 組織図

・教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

＊ 教員組織、教員の数

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/kyoinsu.html

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 専任教員数

＊ 各教員が有する学位及び業績

https://research.kurume-u.ac.jp/index.html

トップページ > 久留米大学研究者紹介

・入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

＊ 入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/nyuushi/list80-217.html

トップページ > 入試情報 > 入試情報 > アドミッションポリシー

＊ 入学者数

https://www.kurume-u.ac.jp/site/nyuushi/info-data-index.html

トップページ > 入試情報 > 入試情報 > 入試結果 > 入試結果

＊ 収容定員及び在学する学生の数（学生定員及び在籍学生数）

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/students.html

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 学生数

＊ 卒業または修了した者の数

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/students.html#sotugyou

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 学生数 > 卒業（修了）者数

＊ 進学及び就職等の状況（文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/career/jobnavi-syujokyo.html

トップページ > 就職・キャリア > 就職部 > 就職状況 > 就職状況

＊ 進学及び就職等の状況（医学部医学科）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/med/20190816sinro.html

トップページ > 医学部医学科 > 学科案内 > 進路情報 > 卒業後の進路・資格・就職

＊ 進学及び就職等の状況（医学部看護学科）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/nurse/career-work.html

トップページ > 医学部看護学科 > 学科案内 > 進路情報 > 就職・進路状況

・授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

＊ 授業科目、授業方法及び内容並びに年間授業計画

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/information-disclosure.html

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 情報公表 > （各学部） > カリキュラム

トップページ > 大学紹介 > 久留米大学の概要 > 情報公表 > （各学部） > 授業方法、内容、年間授業計画

・学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定にあたっての基準に関すること

＊ 卒業に必要な単位（文系学部）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/b-kyoumu/gakui-youken.html

トップページ > 在学生の方へ > 教務情報 > 文系学部教務情報 > 授業・履修関係 > 卒業に必要な単位 > 卒業に必要な単位（文系学部）

＊ 卒業に必要な単位（医学部医学科）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/med/med-curriculum.html

トップページ > 医学部医学科 > 学科案内 > 学科概要 > 教育カリキュラム（医学部医学科）

＊ 卒業に必要な単位（医学部看護学科）

http://www.kurume-u.ac.jp/site/nurse/nurse.html

トップページ > 医学部看護学科 > 学科案内 > カリキュラム > 授業方法・内容・年間事業計画 > 卒業所要単位

・校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

＊ 御井キャンパス案内（文系学部）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/navi/mii-campusannai.html

トップページ > @Campus > キャンパス案内 > 御井キャンパス案内（文系学部）

＊ 旭町キャンパス案内（医学部）

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/asahimachi-campus.html

トップページ > @Campus > キャンパス案内 > 旭町キャンパス案内（医学部）

＊ 福利厚生施設

https://www.kurume-u.ac.jp/site/gakusei-bun/gakuseika-facilities-index.html

トップページ > 学生生活（文系） > 福利厚生施設 > 福利厚生施設 > 福利厚生施設

・授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

＊ 学納金（入学金・授業料等）文系学部

https://www.kurume-u.ac.jp/site/gakusei-bun/gakuseika-support-gakuno.html

トップページ > 学生生活（文系） > 学生生活の概要 > 学生生活サポート > 学納金（入学金・授業料等）

＊ 学納金（入学金・授業料等）医学部

https://www.kurume-u.ac.jp/site/gakusei-med/list34-76.html

トップページ > 学生生活（医系） > 学生生活サポート > 学納金

・大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

＊ 学生生活サポート（文系学部）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/gakusei-bun/list43-107.html

トップページ > 学生生活（文系） > 学生生活の概要 > 学生生活サポート

＊ 学生生活サポート（医学部）

https://www.kurume-u.ac.jp/site/gakusei-med/list34.html

トップページ > 学生生活（医系） > 学生生活サポート

・その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

＊ 本学での学び

https://www.kurume-u.ac.jp/life/1/1/6/

トップページ ＞ 大学紹介 ＞ 本学での学び

＊ 久留米大学学則

https://www.kurume-u.ac.jp/site/med/subject-regulations.html

トップページ ＞ 医学部医学科 ＞ 学科案内 ＞ 学科概要 ＞ 久留米大学学則

＊ 設置計画履行状況報告

http://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/houkokusyo29.html

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/houkokusyo30.html

http://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/houkokusyo1.html

トップページ ＞ 学内組織 ＞ 広報室 ＞ 設置計画履行状況報告書

＊ 大学評価

https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/1/tenkenhyoka.html

トップページ ＞ 大学紹介 ＞ 大学評価 ＞ 大学評価

なお、ホームページについては、令和５年４月１日より、システムも含めた大幅リニューアルを予定しており、より見やすく分かりやすい魅力的な内容を発信できるよう努める。

第１５　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学の教育内容及び授業方法などの改善を目的として、FD 活動を推進している。

医学部においては、医学科と看護学科にそれぞれ FD 委員会を置いており、学生教育に関する教職員の研修や能力開発に関する事項について審議し、教育の質の向上に資することを目的としている。また、各学科に教務委員会を置き、さらに医学科、看護学科、臨床検査専門学校との合同教務委員会を設けている。FD 委員会、教務委員会は相互にその役割を果たし、医学部合同教務委員会において共通認識を持ち、FD 活動を積極的に推進している。

また、本学医学部医学教育研究センターでは、社会が求める医学教育をサイエンスとして追求することを理念として掲げ、医学教育を科学的に分析し、教育環境の改善に繋げるとともに、IT 及び DX に関するサポートも実施している。医学教育に関する研究及び情報収集、ならびに医学教育活動への助言及び指導を通じて、学生の自主学修を支え、

教員の教育力の向上に貢献することを目的としており、医学科、看護学科、現在の臨床検査専門学校の学生や教員がその支援を受けている。

文系学部においては、「基盤教育研究センター」がその役割を担い、FD・SD の取り組みに関して、教育の目指す方向性や取り組んでいる課題をテーマとした講演による研修活動を中心に行っている。

キャンパスにより FD を実施する体制は異なるが、医系・文系での全学の合同教務協議会を通して、双方における共通認識を図っている。

１．授業内容・方法の改善を図るための研修

（１）組織的な研修

１）ワークショップ、研修会

医学科においては、医学教育ワークショップとカリキュラムワークショップを定期的に開催し、教員と学生とが参加してカリキュラムに関する問題点を話し合い、妥当性を検証している。意見交換の場を設けることにより、大学教員としての教育活動や能力開発の促進を図っている。ワークショップでの講演要旨やアンケート結果は記録集として参加者や各部署に配布する。

また、看護学科においては、教育の質を高めることを目的とする組織的な取り組みとして、毎年教員向けの講演会や授業研修会・看護学の領域ごとの研究発表会を、FD 委員会が企画し開催している。

医療検査学科においても、医学科、看護学科と同様に、教員と学生が参加できる独自のワークショップや各種研修会を開催し、そこで得たものを教務委員会などをはじめとした各種委員会に反映させ、教育の質の改善を図る。また、学科における FD 活動報告を医学部合同教務委員会で共有することにより、学科のみならず医学部全体の教育環境の充実を図っていく。

２）情報提供

医学教育研究センターはマンスリーレポート、ニュースレター、医学教育ニュースを定期的に発刊・公開し、ワークショップの結果報告や研修会、e-learning の案内など、教育に関する情報を提供している。また、FD 委員は授業改善の相談役及びコーディネーターであり、学部専門授業を担当する教員に対して、常時、授業改善の支援があることを周知する。

（２）教員教育と授業改善

１）教員教育

学科教員としての共通理解が必要な事項には、①医療検査学科の養成する人材と 3 つのポリシー、②教育課程の概要、③学生評価を含む教育方法の方針・ルー

ル、④傷病者や災害等発生時の連絡系統及び対処法、⑤個別の対応が必要となった学生への対処などがあり、FD や会議等の手段を用いて周知を図る必要がある。

令和 5 年 3 月の申請時点では、専任教員予定の 15 名全員が学科設置準備に関わっており、対面の会議と通信により密に情報共有を行いながら、①3 つのポリシーに基づいて②教育課程の作成等に携わっている。令和 5 年度には次年度の学科開設に向け、大学、医学部の方針に基づいて上記①～⑤に関する学科での在り方をさらに細部まで検討しながら共通理解を図る場を設けていく。また、ここで決定した内容については、年度毎に確認や改訂を行い、教職員へ周知していく。

なお、医学部では現在、医学科、看護学科、臨床検査専門学校とも電子シラバス「Hondana」を用いて随時、オンライン・オンデマンド講義の実施、レポート提出や小テスト、アンケート調査の実施、教務情報、求人情報の公開を行っており、医療検査学科の教員もこれを活用することになる。Hondana の活用方法については、Hondana 上で e-learning により学ぶことが可能であり、対面での講習会も定期的に実施されている。これ以外にも、Hondana では講義設計やバイオセーフティ講習など、教員向けの e-learning 教材が提供されている。

また、アクティブラーニング型授業の「協同学習」に関する養成プログラム及びワークショップを受講し、学生との接し方、能動的学修の指導法を学び、それぞれの専門教育の指導に活用する。さらに実践の場として、専任教員は、全員が『協同学習』方式で行われる初年次教育科目「学びの基本Ⅰ」に参加し、小グループのファシリテーター（テューター）として小グループの指導と学生評価を担当する。

現在の臨床検査専門学校と同様に、本学科は日本臨床検査学教育協議会（以下、日臨教）に加盟する予定である。日臨教には令和 4 年 10 月現在で全国 100 校の臨床検査技師養成機関が加盟しており、毎年 5 月に総会、12 月に臨時総会が開催される。ここで、カリキュラム改正や教育水準の確保の方策などの臨床検査技師養成に関する動向や基本方針が具体的に提示され、厚生労働省・文部科学省からの指導・助言及び各養成校との質疑応答も共有することができる。近年は新型コロナウイルス感染流行を機に総会は Web 配信されており、ここで行われる教員研修会（改正「障害者差別解消法」と合理的配慮、タスク・シフト／シェアの経過と臨床検査技師に求められること、など）は総会に出席しない教員も視聴が許されている。また、総会以外にもアップデートされた情報が随時メーリングリストにより配信される。学科代表者 1 名は必ず会に参加するとともに、日臨教から発信される内容を適切に臨床検査プログラムを担当する専任教員へ周知し、カリキュラムへ反映させていくことで、常に国内の最新基準の臨床検査技師教育を実施できるようにする。

日臨教は、会員校と所属する個々の教員の教育・研究の資質向上を図り、臨床検査学と臨床検査技師教育・研究を発展させるため、日本臨床検査学教育学会を例年 8 月に開催している。本学会及び日本臨床衛生検査技師会が主催する各種学会や研

究会には、これまで臨床検査専門学校の教員も参加し、研究成果の発表や新たな知見の入手を行ってきた。医療検査学科では、これらの学会に加え、専任教員の各分野における学会や研究会への参加を推進し、教員の資質を向上させていく。

２）授業評価アンケートの実施と授業改善

医学部の学生による授業評価アンケートは、医学教育研究センターで作成された電子シラバス「Hondana」を用いる。これによりデータの蓄積・加工が容易となり、毎年各期別で集計された授業評価アンケート結果をもとに、各教員にフィードバックすることで、FD 委員の支援のもと授業の改善がさらに容易となるようにする。教員は授業評価に基づき自己の授業にどのように反映させていくか、授業改善報告書を毎年作成し、授業改善に取り組む。

医療検査学科においても、医学科や看護学科を踏襲した仕組みを構築し、さらには、授業評価アンケートにより得点の高かった教員に公開講義を依頼する相互授業参観制度を設けるなどの取り組みも検討していく。

医療検査学科では、FD 活動を積極的に展開することで、教育内容や教育技法の改善に取り組み、かつ個々の教員の意識変革と能力の涵養を図り、教育力の向上を目指す。

２．必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組

（１）人権擁護への取り組み

本学においては、平成 14 年 4 月に「人権侵害行為を防止及び排除するための措置並びに人権侵害の問題が生じた場合に適切に対応するための措置に関し、必要な事項を定めること」を目的に、「学校法人久留米大学人権擁護に関する規程」を整備し、ガイドラインを制定した。このガイドラインはハラスメントをはじめとする人権侵害の防止と問題解決に際しての基本的方策を明示するとともに、これを周知することにより本学構成員に対し、人権侵害への理解を深めることを目指している。総合大学である本学は、教育機関をはじめ 2 つの附属病院を有し、学生や生徒、患者、委託業者や取引業者そして教職員など、多種多様の人が携わっている。本学に何らかの関わりがある中で人権侵害（差別、暴力、脅迫、嫌がらせ等）について、起こさない、起こさせないをモットーに取り組みを実施している。

各キャンパスには相談窓口ならびに相談員を配置（学内 16 箇所）し、相談箱の設置やリーフレットの配付等の相談しやすい環境づくりにも力を注いでいる。また、前述の規程第 3 条 3 項に定める、「本学の教職員で、管理監督する地位にある者は、日常の業務遂行または教育、研究活動を通じて、適切な指導によりセクシュアルハラスメントをはじめとする人権侵害行為の防止及び排除に努めなければならない」に則り、法人役員、教授、管理職、管理的な職務を行う教職員等を対象とした研修会を実施している。

（２）研究活動コンプライアンス研修

研究費不正防止策の取り組みの一環として、公的研究費や学内研究費を取り扱う研究者、研究支援者等を対象に、日本学術振興会の研究倫理 e ラーニングコース（eL CoRe）を利用した研修を実施している。未受講者については、公的研究費、その他の研究費等に係る応募制限を行い、既に公的研究費、その他の研究費等の採択を受けている者や学内研究費については研究費の執行停止、また、研究支援者については、研究支援に従事できないこととするなど、研究費使用の厳格化及び法令遵守の徹底に力を注いでいる。

（３）TQM 講習会

TQM（Total Quality Management）講習会は久留米大学病院職員を対象とした講習会である。

医療安全管理対策委員会では、医療法に基づく医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体策等については、職員へ周知徹底を図ることを目的として、年 2 回以上の研修会を開催している。

また、感染対策委員会においても、病院職員の感染対策に対する意識向上を目的とし、全ての病院職員を対象に年 2 回の病院内講習会及び新規採用職員へのオリエンテーションを行うほか、必要に応じて随時講習会を実施している。

医療安全管理対策委員会と感染対策委員会の開催する研修会へは最低各 2 回出席することが義務付けられており、病院職員として高い意識を持ち続けるために実施している取り組みである。申請時点では、医療検査学科の専任教員がこれらの TQM 講習会を聴講できるように担当部署と連絡調整を行っており、専任教員もインフォームドコンセントの在り方を含む医療安全や感染対策についての意識と知識を継続的にアップデートする環境を整える予定である。

（４）KG-PROJECT による取り組み（ダイバーシティ事業）

本学は文部科学省令和 2 年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特性対応型）」に選定された。選定を受け、本学におけるダイバーシティ事業の事業名を"KG-PROJECT"とし、ダイバーシティ・インクルージョン（DI）推進室を中心に、様々な取り組みを実施している。

特に、令和 4 年度に創設した「科研費クラブ」においては、科研費や公的研究費の申請に関する悩みを共有するなど、研究者間のコミュニケーションを図る場をオンライン上に設けるほか、関連するイベント時には対面での交流会も実施している。本学の URA が所属する研究推進戦略センターとコラボレーションした「科研費獲得セミナー」を開催するなど、学内研究者のさらなる活躍に繋がる催しを企画している。科研費クラブへは、文系・医系を問わず、大学院生を含めた学内の研究者

であれば誰でも参加することができ、異なるキャンパスに所属する、あるいは異なる専門分野を持つ研究者間の新たなネットワークを生み出している。

第１６　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学のキャリア教育は、臨床検査技師に必要な知識・スキルの修得または資格取得を目的とするだけでなく、将来幅広い分野でのキャリアを選択するために基礎学習から連動した専門的な教育プログラムの中で学ぶことで、個々の学生が希望する進路を選択できるように教職員一体となった教育・就職支援体制を整えている。

１．教育課程内の取組について

本学科では、医療人としての基本的な態度や専門職としての臨床検査技師の役割を学び、チーム医療に必要な資質、能力を育成する。キャリア形成支援として１年次に「キャリア入門」を開講し、自身の個性や適性を認め、将来像を実現できるよう支援する。学内の実習では、広範囲の臨床検査分野の検査を体験することにより、将来に繋がる臨床に関する知識や技能を把握し、キャリア検討を具体化している。4 年次に開講する「チーム医療演習」では多職種の構成員の専門性を理解し、チーム医療に関する基本的能力を学修する。「臨地実習」では医療施設での臨床検査技師の実際の業務について見学及び体験する。患者や家族、検査室内の臨床検査技師、多職種の医療従事者、病院職員等に接することでコミュニケーションの図り方や態度、言葉遣い、仕事に取り組む姿勢を実践する。医療人・社会人として身に付けたコミュニケーションスキルや態度等を確認し、社会的・職業的自立に向けた最終的な指導を行う。

専門教育とし設置した応用選択コースでは、卒業研究に向けて探求を深めるとともに、質の高い臨床検査のスキル、メディカルサイエンスに精通した次世代型臨床検査技師の育成を図り、特定の分野のみならず様々な分野での活躍の可能性を高めていくことで、キャリア選択肢を広げる。「卒業研究」では、生涯にわたって学び続ける研究の素養を身に付け、大学院への進学や医療機関への就職後に行う研究で必要な科学的根拠に基づく問題解決能力や自己研磨に努める能力を養う。

２．教育課程外の取組について

（１）資格取得に向けた受験指導

国家試験の受験指導体制として、「国家試験対策部会」を設け、個別指導やグループ指導を行い、国家試験合格に向けた支援を行う。

（２）学会・講演会・研修会活動

4 年次には、「応用選択コース」の集大成として演題発表（日本臨床検査学教育学会、日本臨床衛生検査技師会学会等）できるよう指導する。日本臨床衛生検査技師会

が主催する各種学会や研修会、その他に開催される講演会・研修会等で学生の参加が認められているようであれば、参加を促し、知識・技術の発展を図る。

（３）ボランティア活動

医療施設や地域活動を通して社会人としての素養形成を促すために、ボランティア活動を推奨する。例えば、子宮頸がん啓発活動（筑後地区）では、市民に子宮頸がん検診の呼び掛けのパンフレットを配布する。

（４）就職セミナー

将来設計については、企業説明会を通して、病院以外の検査センターや企業での働き方や、臨床検査技師の他、治験コーディネーター、研究員などの職域を紹介し、主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図る。

（５）就職ガイダンス

外部講師等による就職セミナーでは履歴書の書き方や小論文の書き方を身に付けるための指導及び訓練を行う。さらに、マナー講習会では身だしなみや姿勢・態度に加え、言葉遣い、挨拶等を学ぶ機会を設けている。また、課外でのキャリア教育に関する業務として、専任教員による就職相談や履歴書・エントリーシート等の添削、模擬面接などを実施する。

３．適切な体制の整備について

本学科において「就職・進学支援委員会」を設置し、学生の就職・進学への助言や相談、指導にあたる。事務局と連携しながら、学生相談、就職斡旋、求人情報管理、学生へのデータ提供、企業応対、資格・就職試験対策講座の企画運営等に取り組み、学生の基礎学力の向上から社会人としての将来設計まで、学年を問わず学生支援を行う。

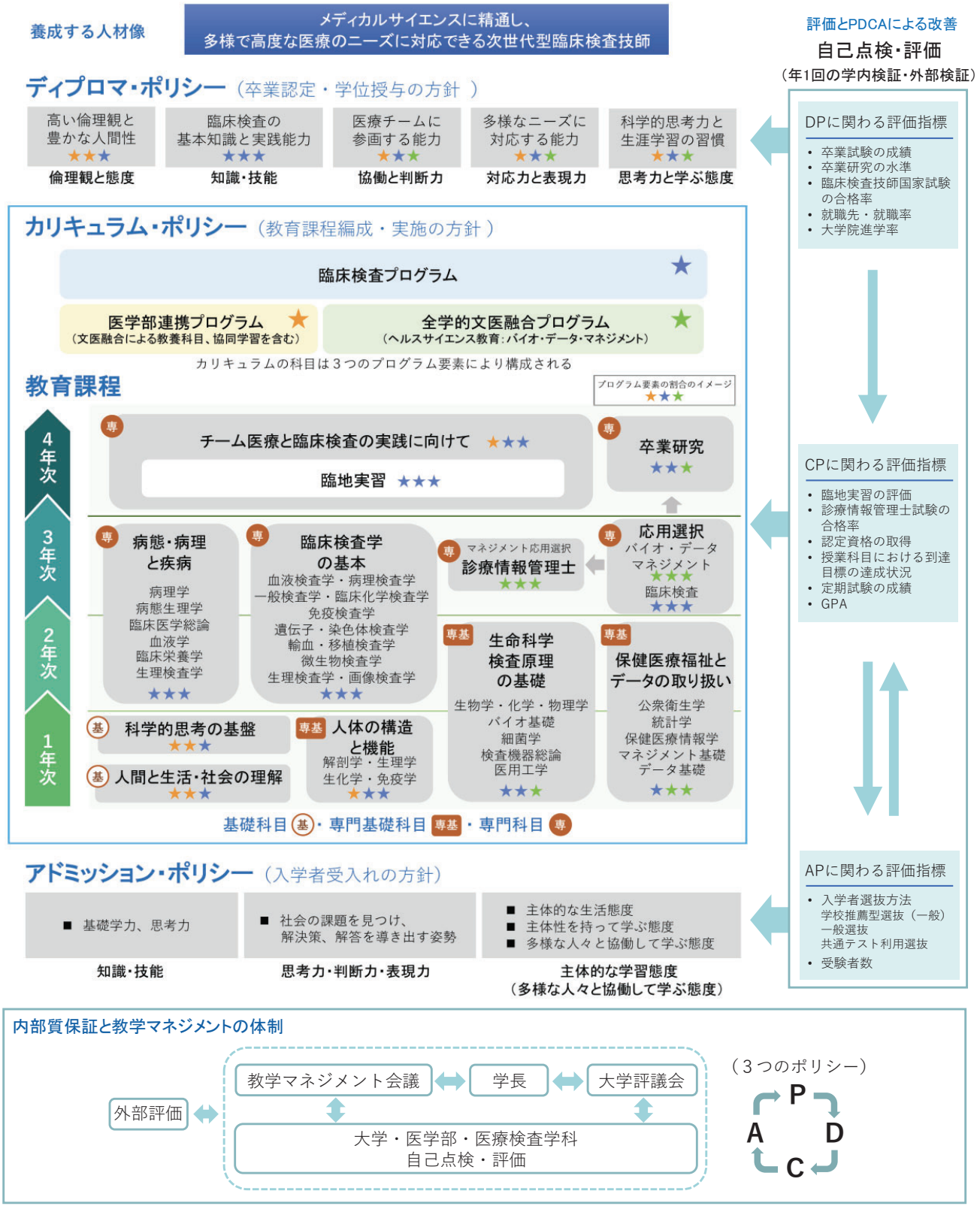
設 置 の 趣 旨 等 を 記 載 し た 書 類

資 料 目 次

資 料　１．久留米大学医学部医療検査学科　3 つのポリシーの関係と自己点検・評価を基盤とした内部質保証の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2
資 料　２．久留米大学医学部医療検査学科　カリキュラムマップ・・・・・・・ P. 3
資 料　３．日本臨床検査学教育協議会 平成 30 年度臨時総会 調査研究委員会「平成 29 年度進路状況調査および平成 30 年度入学状況調査」に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4
資 料　４．久留米大学医学部医療検査学科設置に対する職能団体等からの要望書・意見書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5
資 料　５．久留米大学医学部医療検査学科　カリキュラムツリー・・・・・・・ P. 12
資 料　６．久留米大学医学部医療検査学科　時間割案・・・・・・・・・・・・ P. 13
資 料　７．教育課程と『臨床検査技師等に関する法律施行令第 18 条第四号に基づき厚生労働大臣が定める検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目』との対比表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 14
資 料　８．診療情報管理士養成科目（日本病院会）として登録予定の教育課程の科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 15
資 料　９．久留米大学医学部医療検査学科　履修モデル・・・・・・・・・・・ P. 16
資 料１０．久留米大学医学部医療検査学科　実習計画（週間計画）・・・・・・ P. 17
資 料１１．臨地実習前技能修得到達度評価項目一覧・・・・・・・・・・・・・ P. 18
資 料１２．久留米大学医学部医療検査学科　臨地実習契約施設一覧・・・・・・ P. 19
資 料１３．久留米大学医学部医療検査学科　臨地実習の手引き・・・・・・・・ P. 20
資 料１４．臨地実習に伴う配慮のお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 62
資 料１５．臨地実習報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 63
資 料１６．久留米大学医学部医療検査学科　教員別授業・実習担当計画・・・・ P. 64
資 料１７．診療情報管理士認定試験受験資格を認める大学および専門学校の指定に関する規程（令和 3 年 7 月 1 日改正施行）・・・・・・・・・・・・ P. 65
資 料１８．日本病院会 診療情報管理士通信教育 2023 による養成校が行うべき科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 65
資 料１９．久留米大学『教授の採用に関する特別規程』・・・・・・・・・・・ P. 66
資 料２０．久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 面積基準の算出根拠となる規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 67
資 料２１．他学科・専門学校の実習施設を使用する時間割予定表・・・・・・・ P. 76
資 料２２．久留米大学医学部医療検査学科　新規購入図書及び視聴覚教材・・・ P. 77
別添資料 ．久留米大学医学部医療検査学科　診療情報管理士病院実習施設一覧 P. 87

資料1　久留米大学医学部医療検査学科　3つのポリシーの関係と自己点検・評価を基盤とした内部質保証の体制

久留米大学医学部 医療検査学科（３つのポリシーの関係とその評価）



資料2　久留米大学医学部医療検査学科　カリキュラムマップ

			卒業時コンピテンス				1. 高い倫理観と豊かな人間性			2. 臨床検査の基本的知識と実践能力			3. 医療チームの一員として参画する能力			4. 多様な臨床検査のニーズに対応する能力			5. 科学的思考力と生涯学習の習慣		
			臨床検査プログラム	全学的文医融合プログラム	医学部連携プログラム	卒業時コンピテンシー（学修成果）	①他者を思いやり、社会人としての良識と規範を守る態度を備えている	②医療および医学研究における倫理観を備え、医療人としての責任感を持っている	③一般教養を備え、医学の領域にとどまらない多様な価値観の存在を認識している	①臨床検査の知識と技能を修得し、基本的な各技法を安全、的確に実践できる	②精度管理の重要性と方法を理解し精度の高い検査結果を提供できる	③検査結果の解析と評価により病態を理解する視点を有し医療や研究において適切に臨床検査を活用することができる	①医療・研究の場において他者と良好な連携を保ち、協働できる	②患者・家族に対する適切な配慮とコミュニケーションの必要性を理解し実践できる	③医療に関わる多職種の役割を理解し、チーム医療に参加した時の自身の役割を想定できる	①わが国の保健医療福祉の変遷を理解し、これからの地域医療、感染症対策、災害医療、在宅医療で求められる臨床検査を提供できる	②国際的視野に基づいた保健医療活動の必要性とその方法を理解できる	③医療や医学研究の分野において、進歩により変化する臨床検査への新たな科学技術のニーズを理解し、率先して参画する意欲を備えている	①科学的思考力を基盤とした問題解決法を生み出す姿勢、およびその成果を発見・発信する技法を身につけている	②医療・研究において問題解決に必要な情報を収集し、適切に吟味する方法を身につけている	③保健医療の維持と発展のために生涯学習を前提とした自己研鑽を積む意欲と姿勢を持っている
区分	小区分	科目名（※は選択科目）				学年															
基礎科目	人間と生活・社会の理解	心理学※			医	1	○		○												
		久留米・筑後体験演習※			医	1	○		○												
		スポーツカルチャーを解剖する。※			医	1			○												
		観光英語※			医	1	○		○												
		文学※			医	1			○												
		歴史学※			医	1			○												
		社会学※			医	1	○		○												
		法学※			医	1		○	○												
		健康・スポーツ科学概論※			医	1	○		○												
		文化人類学※			医	1	○		○												
		哲学※			医	1			○												
		人文地理学※			医	1			○												
		いのちの倫理※			医	1	○	○	○												
		経済学概論※			医	1	○	○	○												
		社会心理学※			医	1	○		○												
		英語TOEFL※			医	1			○					○					○	○	
		英語（リーディング）	臨			1			○					○					○	○	
		スポーツ・健康科学（実技）	臨			1	○		○				○								
		キャリア入門	臨			1	○	○	○				○	○	○						○
	科学的思考の基礎	基礎医学ディベート※			医	1			○				○						○	○	
		論理学※			医	1			○										○	○	
		数学※			医	1			○												
		文献調査法※			医	1			○										○	○	
		学びの基本Ⅰ	臨		医	1	○	○	○				○	○	○						
		学びの基本Ⅱ	臨			1	○	○	○				○	○	○				○		○
専門基礎科目	生命科学・検査原理の基礎	化学	臨			1				○								○		○	
		物理学	臨			1				○		○							○	○	
		生物学	臨			1				○										○	
		細菌学	臨			1		○		○		○						○	○	○	
		検査機器総論	臨			1				○											
		医用工学概論	臨			1				○											
		医用工学概論実習	臨			2				○			○								
		バイオサイエンス基礎		全		2			○	○								○	○		
	人体の構造と機能	肉眼解剖学	臨			1				○										○	
		組織解剖学	臨			1				○										○	
		生理学	臨			1				○		○								○	
		生化学	臨			1				○	○	○	○							○	
		免疫学	臨			1				○			○								
		肉眼解剖学実習	臨		医	2	○	○		○			○	○	○					○	
	保健医療福祉とデータの取扱い	公衆衛生学Ⅰ	臨			1									○	○			○	○	
		公衆衛生学Ⅱ	臨			2		○				○			○	○	○			○	
		関係法規	臨	全		3	○	○								○					
		マネジメントサイエンス基礎Ⅰ	臨	全	医	1		○					○	○	○	○					○
		マネジメントサイエンス基礎Ⅱ	臨	全		2		○							○	○				○	
		保健医療情報学		全		2										○	○	○			
		統計学	臨			1					○	○						○	○	○	
		データサイエンス基礎Ⅰ		全		2					○	○			○			○	○	○	
		データサイエンス基礎Ⅱ		全		3		○			○	○			○			○	○	○	
専門科目	病態・病理と疾病	病理学I	臨			1						○							○	○	○
		病理学Ⅱ	臨			2						○							○	○	○
		病態生理学Ⅰ	臨			1				○		○							○	○	
		病態生理学Ⅱ	臨			2				○		○							○	○	
		血液学	臨			2				○		○			○						
		臨床医学総論Ⅰ	臨			2		○		○		○			○			○		○	
		臨床医学総論Ⅱ	臨			3		○		○		○			○			○		○	
		生理検査学Ⅱ	臨			3		○		○		○			○						
		臨床栄養学	臨		医	3	○	○		○		○			○	○				○	
		睡眠医学	臨		医	3		○		○		○			○	○					
		臨床病理検討会	臨			3						○							○	○	○
		薬理学	臨			3						○			○	○		○	○	○	
	臨床検査学の基本	臨床検査学・ヘルスサイエンス入門	臨			1		○		○					○						○
		医学英語	臨			2	○	○		○				○			○	○	○		
		血液検査学	臨			2				○		○			○						
		血液検査学実習	臨			2				○		○			○						
		病理検査学	臨			2		○		○		○			○			○			
		病理検査学実習	臨			2			○	○	○	○	○		○						
		一般検査学	臨			3		○		○		○	○					○			○
		一般検査学実習	臨			3				○		○	○								○
		臨床化学検査学Ⅰ	臨			1				○	○	○			○						
		臨床化学検査学Ⅱ	臨			2				○		○			○						
		臨床化学検査学実習	臨			2				○	○	○	○								
		免疫学実習	臨			1				○			○						○	○	
		免疫検査学	臨			3				○		○									
		RI検査学	臨			3				○			○								
		遺伝子・染色体検査学	臨			2				○	○	○						○	○		
		遺伝子・染色体検査学実習	臨			2				○	○	○	○					○	○		
		輸血・移植検査学	臨			3				○		○									
		輸血・移植検査学実習	臨			3				○		○									
		微生物検査学実習Ⅰ	臨			1				○		○									
		微生物検査学	臨			2				○		○			○						
		微生物検査学実習Ⅱ	臨			2				○		○									
		生理検査学Ⅰ	臨			2		○		○	○	○	○			○		○			
		生理検査学実習	臨			2		○		○		○									
		画像検査学Ⅰ	臨			2		○		○	○	○		○	○			○		○	○
		画像検査学Ⅱ	臨			3		○		○				○	○			○			○
	チーム医療と臨床検査学の実践に向けて	検査管理総論	臨			3					○	○				○	○			○	
		医療安全管理学	臨		医	3		○		○		○	○	○	○	○			○	○	
		医療安全・検体採取実習	臨		医	3		○		○			○	○	○						
		薬品管理学	臨			1				○											
		ゲノム医療・先端医学	臨			3	○	○	○	○					○		○	○			○
		チーム医療演習	臨		医	4	○	○					○	○							
		臨地実習前技能修得到達度評価	臨			4				○		○									
		臨地実習	臨		医	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
		臨床検査医学特論	臨			4				○	○	○			○	○		○	○	○	
	応用選択	応用選択コース入門	臨	全		2	○	○	○	○		○	○		○				○	○	
		バイオサイエンス応用※		全	医	3	○		○		○	○	○					○	○	○	○
		データサイエンス応用※		全	医	3										○	○			○	
		マネジメントサイエンス応用Ⅰ※		全		3										○	○			○	
		マネジメントサイエンス応用Ⅱ※		全		3		○					○			○			○	○	○
		マネジメントサイエンス応用Ⅲ※		全		3		○								○					○
		臨床検査医学応用※	臨		医	3	○	○	○	○		○	○		○				○	○	
		卒業研究	臨	全		4			○	○	○	○	○					○	○	○	

バイオサイエンスに含まれる科目

データサイエンスに含まれる科目

マネジメントサイエンスに含まれる科目

資料 3　日本臨床検査学教育協議会平成 30 年度臨時総会 調査研究委員会「平成 29 年度　進路状況調査および平成 30 年度入学状況調査」に関する報告

１．書類の題名

日本臨床検査学教育協議会平成 30 年度臨時総会 調査研究委員会「平成 29 年度進路状況調査および平成 30 年度入学状況調査」に関する報告
（設置の趣旨等を記載した書類【資料 3】4～11 ページ）

２．出　典

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会　平成 30 年度臨時総会資料

３．引用範囲

臨時総会次第及び調査研究委員会「平成 29 年度進路状況調査および平成 30 年度入学状況調査」に関する報告（18～23 ページ）

４．その他の説明

本報告で示された正会員校へのアンケート調査結果から、「設置の趣旨等を記載した書類」の本文（11 ページ）と【資料 3】においてその概要を引用することにより、受験生の臨床検査技師養成校への進学に対する意識、及び卒業後の進路の全国的な動向について説明した。

文部科学大臣　永岡　桂子　殿

要　望　書

学校法人久留米大学が計画されております医学部医療検査学科の新設について、是非ともご認可いただきますよう、ここにお願い申し上げます。

久留米市は、九州一の大河筑後川や東西に連なる耳納連山に象徴される豊かな自然に恵まれたまちです。この「水と緑」に育まれた筑後平野の肥沃な大地では、多種多様な農産物が生産され、また、古くから交通の要衝であることから、農業・工業・商業などあらゆる分野の産業はもとより、医療機関や高等教育・学術研究機関が集積するなど、佐賀県東部を含む福岡県南地域の中核都市として着実に発展してまいりました。

本市では、この恵まれた地域資源を背景に、久留米市新総合計画第４次基本計画において「学術研究都市づくりの推進」を、第２期久留米市地方創生総合戦略においても、「大学等の姿がみえるまちづくり」を、重要施策と位置づけ、大学等と地域の連携による地域課題の解決や地元企業との産学連携による産業振興、地域の将来を担う人材の育成、学生の確保、卒業生の地元への就職推進などを進めていくこととしております。

久留米大学には、これまでも様々なかたちで地域の発展に先導的かつ重要な役割を果たして頂いており、久留米大学病院、そして関連医療施設には福岡県南、隣接する県を中心に広範な地域医療を担っていただくとともに、新型コロナウイルス感染症への対応等においても大変ご尽力を頂いております。

このような中で、臨床検査の分野は多彩な専門性を有した医療従事者が協働する現場へと進化しており、臨床検査技師についても最先端の医学知識と高度な検査技術を教育する必要性が高まっております。このような背景の下、医学部における専門性の高い医学教育やチーム医療教育、文医融合プログラム等からなる４年制の「医療検査学科」を医学部内へ設置することで、これから変わりゆく保健医療福祉の担い手となる、あるいは発展に寄与する人材を養成される計画とされております。

このことは、本市が取り組む「安心・安全のまち」「活力のあるまち」「活き活き生活できる、活躍できる共生のまち」の３つのまちづくりにとって、強力な推進力になると同時に、近隣自治体に波及することが期待されるものであります。

新学科の設置に向けては、久留米市といたしましても、可能な限りの協力と配慮をさせて頂く所存でございます。

こうした状況をご勘案のうえ、何とぞ久留米大学医学部に「医療検査学科」の設置をご認可くださいますよう、切にお願い申し上げます。

令和　５年　２月１０日

久留米市長　原 口　新 五

令和５年１月 11 日

学校法人　久留米大学
　理事長　永田　見生　殿
　学　長　内村　直尚　殿

一般社団法人　福岡県臨床衛生検査技師会
会長　外山　洋子

拝啓

時下、貴校におかれましてはますますご発展の事とお慶び申し上げます。
平素は、医療技術者の教育にご尽力され、さらにこの度は医療の高度化、専門化、タスクシフト/シェアによる業務拡大に対応するため、久留米大学医学部附属臨床検査専門学校の改組により、久留米大学に医学部医療検査学科として新設される準備に精励されておられる事について、心から感謝申し上げるとともに高く評価しております。

近年、大学学士課程を卒業した臨床検査技師が多くを占めております。今後は、医療の現場における様々な職種の専門性を考慮した教育の導入が必要であり、チーム医療に欠かせない知識・技術・寛容性を身につけた人材を大学教育のレベルから養成し、医療現場へ送り出して頂きたいと考えております。

医療が高度化する中で、臨床検査技師養成機関の大学化の流れは、今や当然となりつつあります。貴学校法人での医療検査学科の設置はまさに時代の流れに沿っているものと考えます。是非医療検査学科の新設を推進して頂くよう、下記の通り学科設立に関する要望事項を示して、ここにお願い申し上げます。

敬具

記

学科設立に関する要望事項

1. 本会は「臨床検査技師の養成は臨床検査技師の手で」なされるべきと考えております。
   貴学校法人におかれましても、是非とも臨床検査技師の資格を持つ教員を主体として頂きたいこと。又、病院等の臨地実習についても充実して頂きたいこと。
2. 臨床検査技師業務は、最先端技術の応用分野であります。今後の進歩発展はますます急速に進むことが予想されます。又、一方では国民の医療に対する認識の変化や国際化に対応し、保健医療の各分野で指導的な役割を果たすことの出来る臨床検査技師の育成が重要です。
   4 年制学部のみならず、大学院増設も視野に入れて頂きたいこと。
3. 現在進めている医学部医療検査学科の設立を、福岡県臨床衛生検査技師会としても期待しておりますので、上記のことを含めて速やかに進めて頂きたいこと。

以上

久留米大学　学長　内村　直尚　殿

新学科「医学部医療検査学科」の設置に関する意見書

福岡県では、平成 29 年３月に医療計画の一部として福岡県地域医療構想を策定しました。地域医療構想の達成に向けて、地域ごとに異なる人口構造の変化、すなわち医療需要の将来の変化に対して、地域の実情に応じて、それに見合った医療資源の効果的かつ効率的な配置を促し、より良質な医療サービスを受けられる体制構築に向けて議論が進められております。

貴大学がある久留米医療圏の人口及び高齢者の推移では、総人口は減少を続け、75歳以上の後期高齢者人口は 2030 年をピークに減少に転じるものの、総人口に占める割合は 2040 年まで増加を続けると予想されています。慢性疾患を有する高齢者の増加や生産年齢人口の減少が加速していく 2040 年頃までを視野に入れて「治す医療」を担う医療機関と「治し、支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確化するとともに、在宅を中心に入退院を繰り返し、最後は看取りを要する高齢者を支えるため、かかりつけ医機能を有する医療機関を中心とした患者に身近な地域での「地域完結型」の医療・介護提供体制を構築する必要があります。

一方、令和２年３月に策定された福岡県医師確保計画における医師偏在指標（医師全体）では、久留米医療圏は県内で最も大きな値となっており、全国でも３位となっています。引き続き、医師の定着を通じた医師確保に取り組んでおりますが、臨床検査技師もまた、各医療圏に確保すべき重要な人的資源であります。

貴大学におかれましては、昭和 43 年に久留米大学医学部附属衛生検査技師学校として創設されて以来 50 年もの長きにわたり、３年間の在校期間内に臨床の現場で医療チームの一員として活躍できる臨床検査技師を育成されてこられました。しかし、近年、臨床検査技師の業務は飛躍的に拡大し、医師の働き方改革を受けたタスク・シフト/シェアの推進の結果、より高度な医療安全の知識と技術を必要とする業務も担うことが求められております。また、チーム医療の推進による多職種連携が必要不可欠となる中、患者の生活の質（QOL）の維持・向上を目的に臨床検査技師には検査データなどの解析と管理、データに伴う助言を求められ、これまで以上に医療に関する知識と技術の修得が必要になると考えております。

上記背景などから、貴大学が「医療チームの一員として患者と家族、地域や社会に貢献できる臨床検査技師」の育成を掲げ、医学部における質の高い専門教育や医学科・看護学科とのチーム医療教育、全学的文医融合プログラム等からなる新学科「医学部医療検査学科」を設置することは、地域医療に大きく寄与するものでありますので、福岡県医師会として賛同いたします。

令和５年２月 16 日

公益社団法人福岡県医師会

会　長　蓮　澤　浩　明

久留米大学
学　長　　内　村　直　尚　　様

新学科「医学部医療検査学科」の設置に関する意見書

本県は「人口当たりの病院数」が全国３位であり、一般診療所病床数、病院病床数も全国平均を大きく上回っています。中核病院・基幹病院が県内に分散立地しており、患者からのアクセスが良いなど充実した医療体制にあります。本県においては、総人口の減少や高齢者数の増加など人口構造、疾病構造等が変化しているほか、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年や、後期高齢者の数がピークを迎える2035年を見据えた新しい医療体制の構築が求められており、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築、さらに介護分野についても、各市町において、在宅医療・介護連携推進事業の実施をはじめ、地域包括ケアシステムの推進を進めているところであります。

本県では2020年より第７次佐賀県保健医療計画の一部として医師確保計画を定め、診療科間の偏在是正と医師少数区域における医師偏在指標の改善に取り組んでおります。臨床検査技師もまた、各医療圏に確保すべき重要な人的資源であると考えています。特に、医師の時間外労働の上限規制が2024年４月から適用されることから、臨床検査技師にはこれまで以上に保健医療分野において、その専門性を活かした幅広い役割を担うことが期待されています。

本県の中でも東部医療圏は、長年にわたり隣接する福岡県久留米医療圏との連携が強く、両圏の地域医療は相互補完関係を築いてまいりました。この度、近隣に位置する久留米大学にて、臨床検査技師を養成する医療検査学科の設置準備が進められていることに大いに期待しております。

昨今の臨床検査技師は、タスクシフト・シェアによる業務拡大へはもちろん、医療の高度化・専門化、超高齢化社会などに対応できる知識や技術、行動力を備えることが求められます。久留米大学は医学部、大学病院と医学・医療の研究機関を備えるとともに文系学部を擁し、多様な学問領域において人材を育成しておられます。これまで専門学校として臨床検査技師を養成してこられた経験も活かして、医学部医療検査学科でより充実した医学教育を施し、これからの社会のニーズに応えることのできる臨床検査技師を育成されることは、佐賀県の保健医療福祉の維持、向上にも寄与するものであることから「医学部医療検査学科」の設置に賛同いたします。

令和５年３月10日

佐　賀　県　知　事
山　口　祥　義

文部科学大臣　永岡　桂子　殿

要　望　書

学校法人久留米大学が実現しようとしている、臨床検査技師養成を目的とした新学科「医学部医療検査学科」の設置について、是非とも認可いただきたくお願い申し上げます。

現在、臨床検査分野における臨床検査技師の職務は、品質保証に基づいた検査を行うだけでなく、多くの職種とのチーム医療はもちろんのこと、高度化・専門化する医学・医療の進歩に柔軟かつ迅速に対応する技量を求められています。

さらには法改正により、検体採取をはじめ医師の働き方改革に伴うタスクシフト・シェアの推進、新型コロナウイルスワクチン接種など、臨床検査技師が実施できる業務の範囲が拡大されており、今後更なる専門性と幅広い視点を持った人材の育成が望まれます。

佐賀県には、臨床検査技師養成施設がありません。佐賀県出身者は現在の久留米大学医学部附属臨床検査専門学校をはじめとした他県の養成施設で資格を取得し、佐賀の地に戻り保健医療福祉の現場を支えています。

このような背景の下、久留米大学では、医学の進歩や時代のニーズに対応するための専門性の高い医学教育やチーム医療教育、文医融合プログラム等からなる 4 年制の新学科設置を構想しており、久留米大学の特色を活かした教育により現場で求められる臨床検査技師を育成することは、近隣の地域社会、佐賀県の保健医療福祉に大きく貢献するものであると期待しています。

つきましては、こうした状況をご勘案の上、何卒久留米大学に「医学部医療検査学科」の設置をご認可くださいますよう、強く要望申し上げます。

令和 5 年 2 月 10 日

一般社団法人佐賀県臨床検査技師会
会長　平野　敬之

佐県医発第１８９４号
令和５年２月２１日

久留米大学
学長　内　村　直　尚　　殿

佐賀県医師会長
松　永　啓　介

新学科「医学部医療検査学科」の設置に関する意見書

佐賀県は「人口当たりの病院数」が全国３位であり、一般診療所病床数、病院病床数も全国平均を大きく上回っています。また、中核病院・基幹病院が県内に分散立地しており、患者のアクセスが良いことなど、充実した医療体制が構築されているものの、総人口の減少や高齢者数の増加など、人口構造、疾病構造等が変化しているほか、団塊の世代がすべて後期高齢者となる２０２５年や、後期高齢者の数がピークを迎える２０３５年を見据えた新しい医療体制の構築が求められており、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築、さらに介護分野についても、各市町において、在宅医療・介護連携推進事業の実施をはじめ、地域包括ケアシステムの構築が進められているところです。加えて、２０２０年より第７次保健医療計画の一部として医師確保計画を定め、診療科間の偏在是正と医師少数区域における医師偏在指標の改善に取り組んでいますが、そのような中、臨床検査技師も各医療圏に確保すべき重要な人的資源であると考えています。

貴学におかれましては、昭和４３年に久留米大学医学部附属衛生検査技師学校として創設されて以来５０年もの長きにわたり、３年間の在校期間内に臨床の現場で医療チームの一員として活躍できる臨床検査技師を育成されてこられました。しかし、近年、臨床検査技師の業務は飛躍的に拡大し、医師の働き方改革を受けたタスク・シフト／シェアの推進の結果、より高度な医療安全の知識と技術を必要とする業務も担うことが求められています。また、チーム医療の推進による多職種連携が必要不可欠となる中、患者の生活の質（ＱＯＬ）の維持・向上を目的に、臨床検査技師には検査データなどの解析と管理、データに伴う助言を求められ、これまで以上に医療に関する知識と技術の修得が必要になると考えています。

つきましては、貴学が「医療チームの一員として患者と家族、地域や社会に貢献できる臨床検査技師」の育成を掲げ、医学部における質の高い専門教育や医学科・看護学科とのチーム医療教育、全学的文医融合プログラム等からなる新学科「医学部医療検査学科」を設置することは、地域医療に大きく寄与するものであることから、佐賀県医師会として賛同いたします。

文部科学大臣　永岡　桂子　殿

要　望　書

学校法人久留米大学が計画されております医学部医療検査学科の新設について、是非ともご認可いただけますよう、ここにお願い申し上げます。

福岡県・久留米市は、バイオ関連産業を育成するため県南部の久留米地域を中心にバイオベンチャー・企業・研究機関などバイオ関連産業の拠点化を目指しており、2021年には内閣府より「福岡バイオコミュニティ」の認定を受けました。弊社（㈱久留米リサーチ・パーク）は、当コミュニティの推進機関である「福岡バイオコミュニティ推進会議」の事務局として地域産業の振興に努めてまいりました。また久留米大学様には、当該推進会議の副会長に永田見生理事長に就任いただいた他、創薬企業に対する開発アドバイスや前臨床試験の実施など、大学の地域貢献としてバイオ産業振興にご尽力いただいています。

この度、久留米大学が医学部に医療検査学科を新設し、地域医療に貢献する臨床検査技師の養成の他、時代のニーズに合った最先端の医療技術を学ぶヘルスバイオサイエンス人材や、データサイエンスの基礎的な知識を学ぶヘルスデータサイエンス人材の養成を目指します。

人材育成は、地域の産業振興においても重要な課題であり、この度の医療検査学科の設置により、地域医療に大きく貢献するだけでなく、専門人材不足に悩む創薬やスマートセル、機能性表示食品開発に関わる企業が必要とする人材を提供することが可能となり、企業の発展が大いに期待されます。学術的裏付けを持った専門人材の育成は、福岡バイオコミュニティにとって長年の懸案であり、地域産業振興の強力な推進力と人材のエコシステムになると大いに期待するものであります。

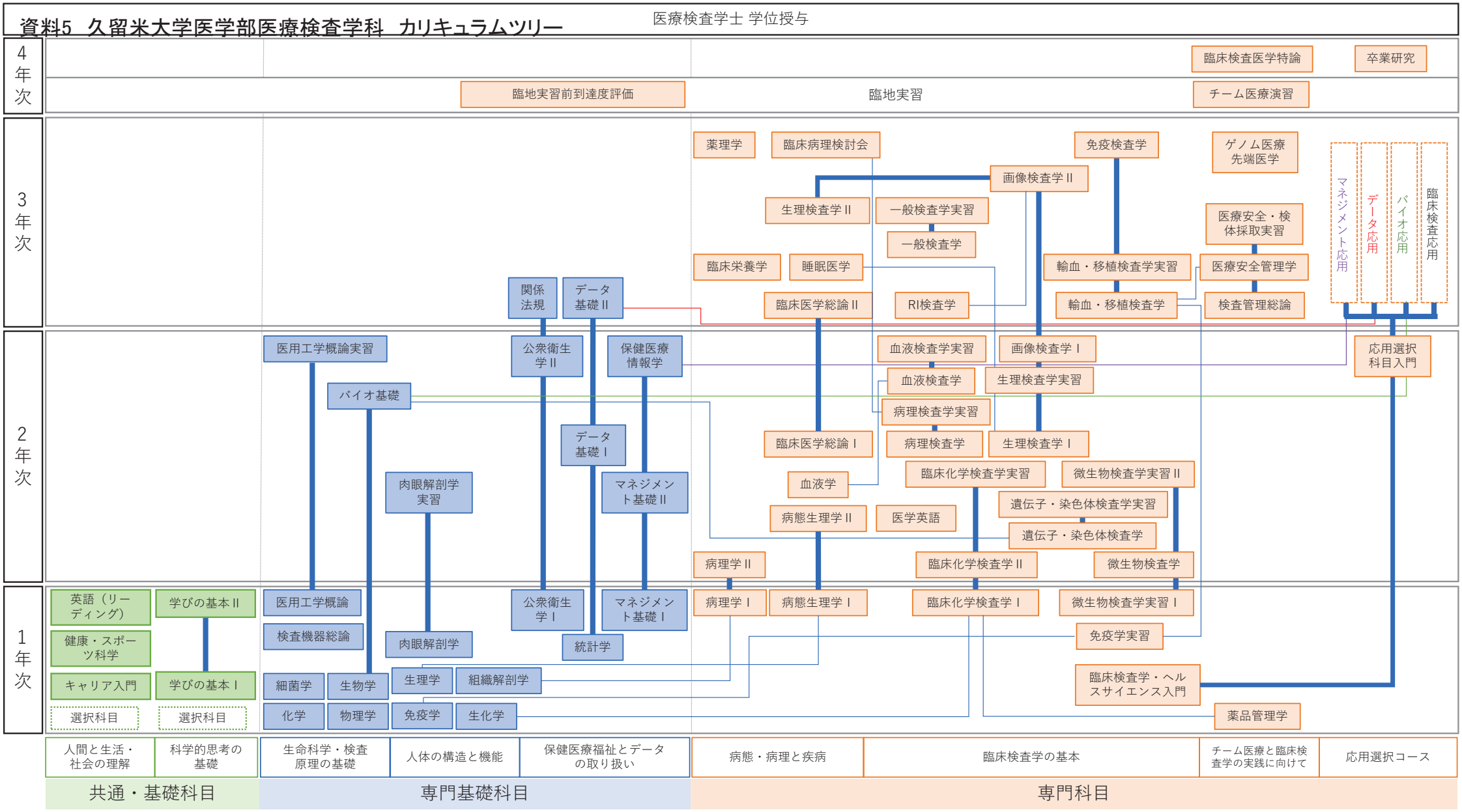
新学科の設置に向けては、㈱久留米リサーチ・パークといたしましても、可能な限りの協力と配慮をさせて頂く所存です。

こうした状況をご懸案の上、なにとぞ久留米大学医学部に医療検査学科の設置をご認可くださいますよう、切にお願い申し上げます。

令和5年2月27日

株式会社久留米リサーチ・パーク
代表取締役社長　田中　達也

資料5　久留米大学医学部医療検査学科　カリキュラムツリー



資料6 久留米大学医学部医療検査学科 時間割案

履修年次		1年次				2年次				3年次				4年次			
期		前期	場所	後期	場所	前期	場所	後期	場所	前期	場所	後期	場所	前期	場所	後期	場所
曜日	時期	科目名		科目名		科目名		科目名		科目名		科目名		科目名		科目名	
月	1	化学		臨床検査入門		医学英語		病態生理学Ⅱ/臨床医学総論Ⅰ		睡眠医学		臨床病理討論会		臨地実習			
	2	細菌学		細菌学		生理検査学Ⅰ		保健情報管理学	基礎3PC室	医療安全管理学		一般検査学					
	3	物理学		教養選択		遺伝子・染色体検査学		医用工学概論実習	生化学実習室	医療安全・検体採取実習	生理実習室	輸血・移植検査学				臨床医学特論	
	4	英語/健康スポーツ				画像検査学Ⅰ		医用工学概論実習	生化学実習室	医療安全・検体採取実習	生理実習室	ゲノム医療・先端医学				臨床医学特論	
	5			英語/健康スポーツ		臨床化学検査学Ⅱ		応用選択科目入門									
火	1	協同学習		統計学	基礎3PC室	病態生理学/臨床医学総論Ⅰ		生理検査学/マネジメント基礎Ⅱ		生理検査学Ⅱ		医療安全・検体採取実習	生理実習室	卒業研究	研究室	卒業研究	研究室
	2	生物学		公衆衛生学Ⅰ		マネジメント基礎Ⅱ		微生物検査学		臨床栄養学		医療安全・検体採取実習	生理実習室	卒業研究	研究室	卒業研究	研究室
	3	生理学		教養選択		生理検査学実習/臨床化学検査学実習	生理検査実習室/生化学実習室	生理検査学実習	生理実習室	応用選択	研究室	応用選択	研究室				
	4					生理検査学実習/臨床化学検査学実習	生理検査実習室/生化学実習室	生理検査学実習	生理実習室	応用選択	研究室	応用選択	研究室				
	5			病態生理学Ⅰ				画像検査学Ⅰ	生理実習室								
水	1	生化学		病理学Ⅰ		病理学Ⅱ		血液検査学		一般検査学実習	基礎1実習室	薬理学		チーム医療演習	協同学習室		
	2	薬品管理学	生化学実習室	臨床化学検査学Ⅰ		微生物検査学		病理検査学		一般検査学実習	基礎1実習室	免疫検査学	生化学実習室	チーム医療演習	協同学習室		
	3	肉眼解剖学		マネジメント基礎Ⅰ		肉眼解剖学実習	基礎1解剖学実習室	臨床化学検査学実習	生化学実習室	RI検査学	生化学実習室	画像検査学Ⅱ					
	4			生理学		肉眼解剖学実習	基礎1解剖学実習室	臨床化学検査学実習	生化学実習室	RI検査学	生化学実習室						
	5			生化学				公衆衛生学Ⅱ		輸血・移植検査学							
木	1			検査機器総論	生化学実習室	病理検査学/病理検査学実習	基礎1実習室	病理検査学実習/肉眼解剖学実習	基礎1実習室/解剖学実習室	検査管理総論		生理検査学Ⅱ					
	2	検査機器総論	生化学実習室	医用工学概論		病理検査学実習	基礎1実習室	病理検査学実習/肉眼解剖学実習	基礎1実習室/解剖学実習室	一般検査学							
	3	組織解剖学	基礎1組織実習室	微生物検査学実習Ⅰ	基礎1実習室	微生物検査学実習Ⅱ	基礎1実習室	血液検査学実習	生化学実習室	輸血・移植検査学実習	生化学実習室						
	4	組織解剖学	基礎1組織実習室	微生物検査学実習Ⅰ	基礎1実習室	微生物検査学実習Ⅱ	基礎1実習室	血液検査学実習	生化学実習室	輸血・移植検査学実習	生化学実習室						
	5																
金	1	教養選択		教養選択		血液学		バイオサイエンス基礎		データサイエンス基礎Ⅱ	基礎3PC室	一般検査学実習	生化学実習室				
	2	学びの基礎Ⅰ		学びの基礎Ⅱ		データサイエンス基礎Ⅰ	基礎3PC室	データサイエンス基礎Ⅱ	基礎3PC室	臨床医学総論Ⅱ		一般検査学実習	生化学実習室				
	3	キャリア入門		免疫学		遺伝子・染色体検査学実習	生化学実習室	微生物検査学実習Ⅱ	基礎1実習室	関係法規							
	4			免疫学実習	生化学実習室	遺伝子・染色体検査学実習	生化学実習室	微生物検査学実習Ⅱ	基礎1実習室	ゲノム医療・先端医学							
	5			免疫学実習	生化学実習室												

教育課程と『臨床検査技師等に関する法律施行令第18条第四号に基づき厚生労働大臣が定める検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目』との対比表

（久留米大学医学部医療検査学科）

※『厚生労働大臣による指定科目の教科内容対比表』に従い本教育課程の必修科目を分類

区分	授業科目	単位数 講義	単位数 実習	時間数 講義	時間数 実習	1単位当たりの時間数	必須単位数（A）	各科目の単位数 病態学 人体の構造と機能	病態学 臨床検査の基礎とその疾病との関連	病態学 左2項目に含まれない科目	公衆衛生学	医用工学概論	血液検査学	病理検査学	尿・糞便一般検査学	生化学検査学（免疫検査学を含む）	遺伝子関連・染色体検査学	輸血・移植検査学	微生物検査学	生理検査学	臨床検査総合管理学	医療安全管理学	臨地実習	計
								8	5															
								合計20			4	4	4	5	3	6	2	4	6	10	6	2	12	88
専門基礎科目	肉眼解剖学	1		24		24		1																
	組織解剖学		2		60	30		2																
	生理学	2		56		28		2																
	生化学	2		60		30		2																
	免疫学	1		16		16										1								
	肉眼解剖学実習		1		30	30		1																
	細菌学	2		40		20			2															
	公衆衛生学Ⅰ	1		24		24					1													
	公衆衛生学Ⅱ	2		30		15					2													
	関係法規	1		16		16					1													
	マネジメントサイエンス基礎Ⅰ	1		18		18					1													
	マネジメントサイエンス基礎Ⅱ	1		30		30					0.3	0.2									0.5			
	保健医療情報学	1		16		16						1												
	統計学	2		30		15															2			
	検査機器総論	1		24		24						1												
	医用工学概論	2		30		15						2												
	医用工学概論実習		1		30	30						1												
	バイオサイエンス基礎	2		30		15											0.3							
						小計		8	2	0	5.3	5.2	0	0	0	1	0.3	0	0	0	2.5	0	0	24.3
専門科目	薬理学	1		16		16		1																
	病理学Ⅰ	1		16		16			1															
	病理学Ⅱ	1		26		26			1															
	臨床栄養学	1		20		20			1															
	病態生理学Ⅰ	1		20		20				1														
	病態生理学Ⅱ	1		28		28				1														
	血液学	2		30		15				1.2			0.8											
	臨床医学総論Ⅰ	2		30		15				1.7						0.1				0.1		0.1		
	臨床医学総論Ⅱ	2		32		16				2														
	睡眠医学	1		16		16				1														
	血液検査学	2		30		15							2											
	血液検査学実習		2		60	30							2											
	病理検査学	2		30		15								2										
	病理検査学実習		2		60	30								2										
	臨床病理検討会	1		16		16								1										
	一般検査学	2		48		24									2									
	一般検査学実習		2		60	30									2									
	臨床化学検査学Ⅰ	2		30		15										2								
	臨床化学検査学Ⅱ	2		30		15										2								
	臨床化学検査学実習		2		60	30										2								
	免疫検査学	1		20		20										1								
	RI検査学		1		30	30										1								
	遺伝子・染色体検査学	1		20		20				0.2				0.1			0.7							
	遺伝子・染色体検査学実習		1		30	30											1							
	ゲノム医療・先端医学	1		22		22											0.6							
	免疫学実習		1		30	30												1						
	輸血・移植検査学	2		30		15												1.9				0.1		
	輸血・移植検査学実習		1		30	30												1						
	微生物検査学実習Ⅰ		1		30	30													1					
	微生物検査学	3		46		15													2.9			0.1		
	微生物検査学実習Ⅱ		2		60	30													2					
	生理検査学Ⅰ	3		46		15														2.9		0.1		
	生理検査学実習		2		60	30				0.1										1.9				
	生理検査学Ⅱ	2		34		17				0.8										1.2				
	画像検査学Ⅰ	2		30		15														1.9		0.1		
	画像検査学Ⅱ	1		20		20														1				
	薬品管理学	1		20		20					0.4										0.6			
	検査管理総論	2		30		15															2			
	医療安全管理学	1		18		18																1		
	医療安全・検体採取実習		1		36	36																1		
	チーム医療演習	1		16		16															0.8	0.2		
	臨地実習前技能修得到達度評価		2		60	30																	2	
	臨地実習（生理学的検査3単位を含む）		11		450	41																	11	
	臨床検査医学特論	4			120	30				0.3	0.5	0.5	0.5	0.1	0.1	0.4		0.2	0.2	1	0.2			
						小計		1	3	9.3	0.9	0.5	5.3	5.2	4.1	8.5	2.3	4.1	6.1	10	3.6	2.7	13	79.6
専門基礎科目と専門科目の合計単位数(B)								9	5	9.3	6.2	5.7	5.3	5.2	4.1	9.5	2.6	4.1	6.1	10	6.1	2.7	13	103.9
各指定科目の必須単位数(A)に対する(B)の増単位数								(1)	(0)	※3.3	2.2	1.7	1.3	0.2	1.1	3.5	0.6	0.1	0.1	0	0.1	0.7	1	15.9

※病態学合計の必須20単位との比較（9 + 5 + 9.3 = 23.3）

資料8　診療情報管理士養成科目（日本病院会）として登録予定の教育課程の科目

診療情報管理士養成科目（日本病院会）として登録予定の教育課程の科目

（久留米大学医学部医療検査学科）

教育課程＼指定科目					基礎科目													専門科目														計
区分	授業科目	必修科目	選択科目	必須の実時間	医療概論	人体構造・機能論	臨床医学総論（外傷学・先天異常を含む）	臨床医学Ⅰ（感染症）	臨床医学Ⅱ（新生物）	臨床医学Ⅲ（血液・代謝）	臨床医学Ⅳ（精神・脳）	臨床医学Ⅴ（循環器・呼吸器）	臨床医学Ⅵ（消化器・泌尿器）	臨床医学Ⅶ（周産期）	臨床医学Ⅷ（皮膚・筋骨格）	医学・医療用語	医療管理総論	医療管理各論Ⅰ（病院管理）	医療管理各論Ⅱ（医療保険・介護保険制度）	医療管理各論Ⅲ（医療安全・医療の質管理）	保健医療情報学	医療統計Ⅰ（統計理論）	医療統計Ⅱ（病院統計・疾病統計）	診療情報管理Ⅰ（法令・諸規則）	診療情報管理Ⅱ（診療情報管理士の実務）	診療情報管理Ⅲ（DPC／がん登録の実務）	国際統計分類Ⅰ	国際統計分類Ⅱ	病院実習	
					15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	40	400
専門基礎科目	生理学	○				○																								
	公衆衛生学Ⅱ	○			○																									
	関係法規	○																	○											
	マネジメントサイエンス基礎Ⅰ	○															○	○	○											
	マネジメントサイエンス基礎Ⅱ	○																○	○	○	○									
	保健医療情報学	○																			○		○							
	統計学	○																		○		○	○							
	データサイエンス基礎Ⅰ	○															○				○	○	○							
専門科目	臨床検査学・ヘルスサイエンス入門	○																○												
	医学英語	○									○				○	○	○													
	病理学Ⅰ	○					○		○	○		○																		
	病理学Ⅱ	○								○	○	○	○	○	○															
	臨床栄養学	○											○																	
	病態生理学Ⅰ	○					○			○		○																		
	病態生理学Ⅱ	○					○	○			○	○		○																
	臨床医学総論Ⅰ	○											○																	
	臨床医学総論Ⅱ	○												○																
	臨床化学検査学Ⅱ	○						○		○																				
	免疫検査学	○													○															
	遺伝子・染色体検査学	○					○		○					○																
	病理検査学	○							○						○															
	微生物検査学	○						○																						
	生理検査学Ⅱ	○									○																			
	画像検査学Ⅰ	○											○	○																
	検査管理総論	○															○			○										
	医療安全管理学	○																		○										
	マネジメントサイエンス応用Ⅰ		●		●			●						●	●									●	●	●	●	●		
	マネジメントサイエンス応用Ⅱ		●																										●	

※本表での授業時間は、日本病院会の審査基準にあわせて実時間で表示している。
※3年次にマネジメントサイエンス応用コースを選択した学生のみが●で表示される講義と病院実習をすべて履修し、診療情報管理士認定試験の受験資格を取得する。
※3年次の2月に資格認定試験を受験するには、3年次の9月には全指定教科を修得している必要がある。

※網掛けは選択科目

年次	リテラシー	1年次		2年次		3年次		4年次	
区分		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎科目	人間と生活・社会の理解	英語（リーディング） 1 スポーツ・健康科学 1 心理学 1.5 久留米・筑後体験演習 2 スポーツカルチャーを解剖する 1.5 観光英語 1.5 キャリア入門 1	英語（リーディング） 1 スポーツ・健康科学 1 文学 1.5 歴史学 1.5 社会学 1.5 法学 1.5 健康・スポーツ科学概論 1.5 文化人類学 1.5 哲学 1.5 人文地理学 1.5 いのちの倫理 1.5 経済学概論 1.5 社会心理学 1.5 英語TOEFL 1.5						
	科学的思考の基礎	基礎医学ディベート 1.5 学びの基本Ⅰ 2	論理学 1.5 数学 1.5 文献調査法 1.5 学びの基本Ⅱ 1						
専門基礎科目	生命科学・検査原理の基礎	細菌学 2 検査機器総論 1 化学 1 物理学 1 生物学 1	医用工学概論 2	肉眼解剖学実習 1	医用工学概論実習 1 バイオサイエンス基礎 2				
	人体の構造と機能	生理学 2 生化学 2 肉眼解剖学 1 組織解剖学 2	免疫学 1						
	保健医療福祉とデータの取り扱いⅠ		公衆衛生学Ⅰ 1 マネジメントサイエンス基礎Ⅰ 1 統計学 2	マネジメントサイエンス基礎Ⅱ 1 データサイエンス基礎Ⅰ 2	公衆衛生学Ⅱ 2 保健医療情報学 1	関係法規 1 データサイエンス基礎Ⅱ 1			
専門科目	病態と疾病・病理		病理学Ⅰ 1 病態生理学Ⅰ 1	病理学Ⅱ 1 血液学 2 病態生理学Ⅱ 1 臨床医学総論Ⅰ 2		臨床医学総論Ⅱ 2 臨床栄養学 1 睡眠医学 1 生理検査学Ⅱ 2	臨床病理検討会 1 薬理学 1		
	臨床検査学の基本		臨床検査学・ヘルスサイエンス入門 1 臨床化学検査学Ⅰ 2 免疫学実習 1 微生物検査学実習Ⅰ 1	医学英語 1 臨床化学検査学Ⅱ 2 遺伝子・染色体検査学 1 遺伝子・染色体検査学実習 1 病理検査学 2 病理検査学実習 2 臨床化学検査学実習 2 微生物検査学 3 微生物検査学実習Ⅱ 2 生理検査学Ⅰ 3 生理検査学実習 2 画像検査学Ⅰ 2	血液検査学 2 血液検査学実習 2	一般検査学 2 一般検査学実習 2 RI検査学 1 輸血・移植検査学 2 輸血・移植検査学実習 1	免疫検査学 1 画像検査学Ⅱ 1		
	チーム医療と臨床検査の実践に向けて	薬品管理学 1				検査管理総論 2 医療安全管理学 1 医療安全・検体採取実習 1 ゲノム医療・先端医学 1		チーム医療演習 1 臨地実習前技能修得到達度評価 2 臨地実習 11	臨床検査医学特論 4
	応用選択コースⅠ				応用選択コース入門 1	マネジメントサイエンス応用Ⅰ 4 マネジメントサイエンス応用Ⅱ 1 バイオサイエンス応用 6 データサイエンス応用 6 臨床検査応用 6	マネジメントサイエンス応用Ⅲ 2	卒業研究 2	
単位数		28科目 37単位		26科目 44単位		20科目 31単位（マネジメント応用選択者のみ32単位）		5科目 20単位	

単位 総計 132単位以上（マネジメント応用選択者は133単位以上）

資料10 久留米大学医学部医療検査学科 実習計画(週間計画)

グループ	許容人数	5月		6月				7月					8月	
		3週目	4週目	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	1週目	2週目	3週目	4週目	1週目	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
		臨地実習（前半）						臨地実習（後半）						
1	2	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院(※病理)						肺・心電図・脳波		病　理		チーム医療	輸　血	
2	2	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院						病　理		肺・心電図・脳波		チーム医療	輸　血	
3	4	社会医療法人財団白十字会 白十字病院						病　理		肺・心電図・脳波		輸　血	チーム医療	
4	2	社会医療法人天神会 新古賀病院						肺・心電図・脳波		血液・一般		生化学・免疫	超音波・画像	
5	3	独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO） 久留米総合病院						肺・心電図・脳波		血液・一般		生化学・免疫	超音波・画像	
6	2	国立病院機構九州医療センター						血液・一般		肺・心電図・脳波		生化学・免疫	超音波・画像	
7	2	久留米大学医療センター （※細菌）						細　菌・遺伝子		輸　血	チーム医療	超音波・画像	生化学・免疫	
8	2	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大分県済生会日田病院						細　菌・遺伝子		チーム医療	輸　血	超音波・画像	生化学・免疫	
9	2	地方独立行政法人 筑後市立病院（※細菌）						細　菌・遺伝子		チーム医療	輸　血	超音波・画像	生化学・免疫	
10	1	産業医科大学病院						輸　血	チーム医療	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		
11	4	佐賀大学医学部附属病院						チーム医療	輸　血	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		
12	2	医療法人徳洲会 福岡徳州会病院						輸　血	チーム医療	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		
13	2	日本赤十字社 福岡赤十字病院						生化学・免疫	超音波・画像	血液・一般		肺・心電図・脳波		
14	2	佐賀県医療センター 好生館						血液・一般		超音波・画像	生化学・免疫	肺・心電図・脳波		
15	2	国立病院機構小倉医療センター						血液・一般		超音波・画像	生化学・免疫	肺・心電図・脳波		
16	2	日本赤十字社 熊本赤十字病院						血液・一般		超音波・画像	生化学・免疫	肺・心電図・脳波		
17	1	医療法人清和会 長田病院（※細菌・病理）						生化学・免疫	超音波・画像	病　理		細　菌・遺伝子		
18	2	医療法人社団水光会 宗像水光会総合病院						生化学・免疫	超音波・画像	病　理		細　菌・遺伝子		
19	1	公立八女総合病院 （※細菌）						生化学・免疫	超音波・画像	病　理		細　菌・遺伝子		
20	1	一般社団法人朝倉医師会 朝倉医師会病院 （※細菌）						超音波・画像	生化学・免疫	細　菌・遺伝子		血液・一般		
21	2	公立学校共済組合 九州中央病院						超音波・画像	生化学・免疫	細　菌・遺伝子		血液・一般		
22	1	社会保険 田川病院						超音波・画像	生化学・免疫	細　菌・遺伝子		血液・一般		
23	3	地方独立行政法人 大牟田市立病院（※細菌）						超音波・画像	生化学・免疫	細　菌・遺伝子		血液・一般		
24	2	社会福祉法人 北九州病院 北九州総合病院												
25	4	鹿児島大学病院												
26	2	輸　血	チーム医療	肺・心電図・脳波		病　理		社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院						
27	2	病　理		肺・心電図・脳波		輸　血	チーム医療	社会医療法人天神会 新古賀病院						
28	4	病　理		肺・心電図・脳波		チーム医療	輸　血	社会医療法人財団白十字会 白十字病院						
29	3	肺・心電図・脳波		血液・一般		超音波・画像	生化学・免疫	独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO） 久留米総合病院						
30	2	肺・心電図・脳波		血液・一般		生化学・免疫	超音波・画像	国立病院機構九州医療センター						
31	2	肺・心電図・脳波		血液・一般		生化学・免疫	超音波・画像	公立学校共済組合 九州中央病院						
32	3	細　菌・遺伝子		輸　血	チーム医療	超音波・画像	生化学・免疫	地方独立行政法人 大牟田市立病院（※細菌）						
33	1	生化学・免疫	超音波・画像	チーム医療	輸　血	細　菌・遺伝子		社会保険 田川病院						
34	2	細　菌・遺伝子		チーム医療	輸　血	生化学・免疫	超音波・画像	地方独立行政法人 筑後市立病院（※細菌）						
35	1	チーム医療	輸　血	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		産業医科大学病院						
36	1	チーム医療	輸　血	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院						
37	2	血液・一般		生化学・免疫	超音波・画像	肺・心電図・脳波		医療法人徳洲会 福岡徳州会病院						
38	2	血液・一般		超音波・画像	生化学・免疫	肺・心電図・脳波		日本赤十字社 福岡赤十字病院						
39	2	血液・一般		超音波・画像	生化学・免疫	肺・心電図・脳波		国立病院機構小倉医療センター						
40	1	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		細　菌・遺伝子		医療法人清和会 長田病院（※細菌・病理）						
41	2	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		細　菌・遺伝子		医療法人社団水光会 宗像水光会総合病院						
42	1	生化学・免疫	超音波・画像	病　理		細　菌・遺伝子		一般社団法人朝倉医師会 朝倉医師会病院 （※細菌）						
43	2	超音波・画像	生化学・免疫	細　菌・遺伝子		血液・一般		久留米大学医療センター （※細菌）						
44	1	超音波・画像	生化学・免疫	細　菌・遺伝子		血液・一般		公立八女総合病院（※細菌）						
45	2	超音波・画像	生化学・免疫	細　菌・遺伝子		血液・一般		社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大分県済生会日田病院						

※実習ができない部門

久留米大学病院		
実習内容	実習場所	
肺・心電図・脳波	臨床検査部A	総合診療棟2F
輸血	臨床検査部B	総合診療棟2F
血液・一般	臨床検査部B	総合診療棟2F
生化学・免疫	臨床検査部B	総合診療棟2F
細菌・遺伝子	細菌検査室	病院本館3F
病理	病理診断科・病理部	病院北館3F
超音波	超音波診断センター	総合診療棟3F
画像	画像診断センター	総合診療棟3F
チーム医療	感染制御部	病院本館2F
	医療安全管理室	病院本館2F
	栄養部	病院本館2F
	消化器病センター内視鏡室	病院本館3F
	質量分析医学応用研究施設	基礎3号館2F

臨地実習前技能修得到達度評価項目一覧

No.	項目	内容
1	生理検査	患者の確認、検査説明が出来る。標準 12 誘導心電図検査で電極を正しく装着し、心電図を記録出来る。肺機能検査では検査の説明をし、スパイロメトリーの記録が出来る。
2	血液検査	血球計算盤を用いた目視法で、赤血球数、白血球数、血小板の計測が出来る。引きガラス法により血液薄層塗抹標本を作製する。正常末梢血塗抹普通染色した標本で白血球 6 分画の分類・同定が出来る。
3	一般検査	試験紙法にて尿定性検査が出来る。尿沈渣標本を作製後、眼幅・コンデンサ・視野絞り・開口絞り・光源量を調整し、顕微鏡で観察出来る。
4	病理検査	病理組織を用いて Hematoxylin-Eosin（HE）染色し、封入して標本を作製後、観察して臓器を同定出来る。細胞診検体を用いて Papanicolaou（Pap）染色を実施し、観察して判定できる。
5	生化学検査	マイクロピペットを正しく操作し、規定量を採取出来る。分光光度計の操作ができる。採血管で遠心分離が必要なものに対して、適切に遠心分離機を操作し遠心分離が出来る。
6	微生物検査	手洗い、PPE の着脱が正しくできる。無菌操作により材料の画線塗抹を実施する。グラム染色の標本を作製し、油浸で顕微鏡観察し Gram 陽性/陰性、球菌/桿菌の判別が出来る。
7	輸血検査	試験管法による ABO 血液型検査（オモテ・ウラ検査）及び RhD 血液型検査を実施し、正しく判定できる。不規則抗体スクリーニング検査が実施できる。
8	コミュニケーション	採血応対、待ち時間の長かった患者への対応、医師へ情報提供（パニック値等）ができる。

資料12 久留米大学医学部医療検査学科 臨地実習契約施設一覧

No.	実施施設名		所在地		検査内容	受け入れ人数		備考
	施設名	部門	郵便番号	住所		前半	後半	
1	久留米大学病院	臨床検査部・病理診断科病理部	830-0011	福岡県久留米市旭町67	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	37	37	筑後地区
2	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	臨床検査センター	830-8543	福岡県久留米市津福本町422	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液・染色体、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	筑後地区
3	独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO） 久留米総合病院	臨床検査科診療部	830-0013	福岡県久留米市櫛原町21	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	3	3	筑後地区
4	社会医療法人天神会 新古賀病院	臨床検査部	830-8577	福岡県久留米市天神町120	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	筑後地区
5	地方独立行政法人 大牟田市立病院	中央検査部	836-8567	福岡県大牟田市宝坂2－19－1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床組織細胞、生理機能	3	3	筑後地区
6	地方独立行政法人 筑後市立病院	中央検査室	833-0041	福岡県筑後市和泉917－1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床組織細胞、生理機能	2	2	筑後地区
7	久留米大学医療センター	臨床検査室	830-0863	福岡県久留米市国分町155－1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床組織細胞、生理機能	2	2	筑後地区
8	一般社団法人朝倉医師会 朝倉医師会病院	臨床検査科	838-0069	福岡県朝倉市来春422-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床組織細胞、生理機能	1	1	筑後地区
9	公立八女総合病院	臨床検査科	834-0034	福岡県八女市高塚540-2	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床組織細胞、生理機能	1	1	筑後地区
10	医療法人清和会 長田病院	検査科	832-0059	福岡県柳川市下宮永町523-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、生理機能	1	1	筑後地区
11	公立学校共済組合 九州中央病院	検査技術科	815-8588	福岡県福岡市南区塩原3丁目23-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	福岡地区
12	医療法人徳洲会 福岡徳州会病院	臨床検査科	810-8563	福岡県福岡市中央区地行浜1－8－1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	福岡地区
13	医療法人社団水光会 宗像水光会総合病院	臨床検査室	811-3298	福岡県福津市日蒔野5丁目7-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	福岡地区
14	日本赤十字社 福岡赤十字病院	検査部	815-8555	福岡県福岡市南区大楠3－1－1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	福岡地区
15	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	臨床検査科	810-8563	福岡県福岡市中央区地行浜1－8－1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	福岡地区
16	公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院	検査部	812-8633	福岡県福岡市博多区千代5丁目18-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	0	1	福岡地区
17	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院	検査部	813-0017	福岡県福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、生理機能	2	0	福岡地区
18	社会医療法人財団白十字会 白十字病院	臨床検査技術部	819-8511	福岡県福岡市西区石丸4丁目3-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	4	4	福岡地区
19	社会保険 田川病院	検査課	826-8585	福岡県田川市上本町10-18	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	1	1	福岡地区
20	産業医科大学病院	臨床検査・輸血部/病理部	807-8556	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	1	1	北九州地区
21	社会福祉法人 北九州病院 北九州総合病院	検査科	802-8517	福岡県北九州市小倉北区東城野町1番1号	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	北九州地区
22	独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター	臨床検査科	802-8533	福岡県北九州市小倉南区春ケ丘10-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	北九州地区
23	佐賀大学医学部附属病院	検査部	849-8501	佐賀県佐賀市鍋島５丁目１番１号	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	4	0	佐賀県
24	佐賀県医療センター 好生館	検査部	840-8571	佐賀県佐賀市嘉瀬町中原400番地	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	0	佐賀県
25	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大分県済生会日田病院	検査部	877-1292	大分県日田市大字三和643-7	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	2	大分県
26	日本赤十字社 熊本赤十字病院	検査部	861-8520	熊本県熊本市東区長嶺南2丁目1-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	2	0	熊本県
27	鹿児島大学病院	検査部	890-0075	鹿児島県鹿児島市桜ケ丘8丁目35-1	一般、臨床化学・免疫、輸血・移植、臨床血液、臨床微生物、臨床組織細胞、生理機能	4	4	鹿児島県
合　計						90	81	

2027 年度

医療検査学科
臨地実習の手引き

学籍番号		氏名	

目　次

1. 医療検査学科臨地実習の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2. 実習科目・時期・単位　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
3. 実習評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1～2
4. 留意事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2～3
5. 個人情報の取り扱いと守秘義務　・・・・・・・・・・・・・・・　4
6. 交通事故・災害発生時の対応　・・・・・・・・・・・・・・・・　5
7. 実習中のインシデント・アクシデント対応　・・・・・・・・・　5
8. 誓約書への署名　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
9. 添付 1　個別の学修目標設定　・・・・・・・・・・・・・・・・　6
   添付 2　自己評価基準書・臨地実習自己評価・・・・・・・・・　7～28
   添付 3　臨地実習終了時の振り返り　・・・・・・・・・・・・・　29
   添付 4　遅刻・欠席・早退届　・・・・・・・・・・・・・・・・　31
   添付 5　臨地実習に伴う配慮事項申請　・・・・・・・・・・・　32
   添付 6　個人情報等および医療機関・衛生検査所等の法人機密
   　　情報保護に関する説明　・・・・・・・・・・・・・・・・　33～34
   添付 7　アクシデント・インシデント報告書　・・・・・・・・　35
   添付 8　学生の針刺し・切創・体液暴露時対応マニュアル　・　36
   添付 9　臨床検査学生の臨地実習に関する契約書　・・・・　37～39
   添付 10 個人情報の個人情報および医療機関・衛生検査所等の
   　　法人機密情報の保護に関する誓約書　・・・・・・・・　41

1.　医療検査学科臨地実習の目的

臨地実習では学内で学修した知識・技術および態度を実地医療に統合する過程であり、社会に飛び立つための準備期間（精神的な受け入れを含めて）である。学校の講義や実習では体験できない大切な事柄（特に医療人としての心構え）を学ぶ。4 年次前期に必修 13 単位で実施する。

具体的な臨地実習の目標は以下の通りである。

① 社会人としての良識を身につける
② 臨床検査技師として不可欠な臨床検査の実践技術を習得する
③ 臨床検査の意義および精度保証の重要性を認識する
④ 検査情報の実践的利用法（病態解析アプローチ手順）を学ぶ
⑤ 医療チームの一員として役割と責任を学ぶ

臨地実習前に学生は自ら学修目標を具体的に設定し、臨地実習調整者から助言のもと「個別の学修目標設定」（添付 1）をまとめ、目標到達に向け主体的かつ積極的に学修を進める。

2.　実習科目・時期・単位

科目名：臨地実習前技能修得到達度評価、臨地実習Ⅰ、臨地実習Ⅱ
時期：5 月中旬～8 月上旬
単位数：13 単位（うち 2 単位は 4 年次前期に技能修得到達度評価を実施する）

3.　実習評価

1）　成績評価

臨地実習施設に依頼した「評価基準書」における評価、出席状況、実習レポート、総括レポートなど各分野での基礎知識、実習態度、実践能力および実習記録等を総合的に評価する。臨地実習では 1.必ず実施させる行為（必須行為）、2.必ず見学させる行為（必須見学）、3.実施させることが望ましい行為（推奨行為）、4.見学させることが望ましい行為（推奨見学）について評価する。必須行為・見学については、12 週間のうちに必ず実習する。推奨行為は臨地実習施設によるため、

必ずしも実習する必要はない。レポート作成では、「自己評価基準書」（添付 2）を用いて自己評価を行い、実習終了後は学んだ態度や知識、技能、さらに目標達成度、今後の課題と計画についてまとめ「臨地実習終了時の振り返り」（添付 3）を提出する。

また、出席時間が基準に満たない場合、あるいは総合的評価が不十分な場合、単位は認定されない。

2） 成績の評価の基準

実習成績は、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

3） 欠席

- 当日など急に実習を欠席する場合は、実習指導者に電話連絡し、許可を得た後、事務局に連絡する。また、登校後に「遅刻・欠席・早退届」（添付 4）を提出する。（事務局から臨地実習調整者へ連絡する）
- 感染性の疾患に罹患している恐れがある場合ややむを得ない事由で実習を欠席させることが適当と実習指導者が判断した場合は、実習を欠席するよう命じることがある。

4. 留意事項

1） 接遇（態度）

- 実習開始時間に余裕をもって、指定された実習場所へ集合する。
- 実習に必要な基礎知識・技術は、予習をして臨む。
- 欠席、遅刻、早退する場合はかならず事前に連絡する。なお、連絡先は実習指導者の指示に従う。
- 対象者、家族、スタッフに対しては、挨拶、言葉遣い等に十分注意する。また、学生同士の言葉遣いにも注意する。
- 実習をすすめる上で、困ることや分からないことがあった場合は、自分で判断せず臨地実習調整者または実習指導者、スタッフに相談する。
- 対象者および家族からの金銭、品物は受け取らない。
- 貴重品（携帯電話を含む）は出来るだけ実習場所へは持参しない。持参する場合は、各自が責任をもって保管する。
- 実習時間内に実習場所を離れる場合や時間外に実習場所に赴く場合は、実習指導者に了解を得る。

- 対象者、およびその家族に自分自身、実習指導者等の情報（住所、電話番号、メールアドレス等）を伝えない。

2） 服装

- 実習時の服装は、各実習において指示された服装で、清潔なものを着用する。
- 名札を必ず身につける。（本学もしくは指定された名札）
- 行き帰りの服装は、学生らしく「清楚」で「清潔」な服装を心掛ける。（病院内を通る場合もあるため、派手な私服の着用を避ける）
- 相手に不快感を与えないよう、身だしなみを整える。
  髪：茶髪であれば染め直す。地毛であれば染め直す必要はない。
  　　長い髪は後ろで束ね、出来るだけ結い上げる。横髪は留める。
  爪：マニキュアはせず、短く切る。
  化粧：控えめにする。（つけまつげはしない）
  装飾品や香水は身に着けない。
- 履物は白を基調とした運動靴を着用。スリッパ、ヒール、ブーツ、サンダルは厳禁である。

3） 健康管理

- 実習期間の健康管理は、各自の責任において十分留意する。睡眠、食事等に注意して、実習に支障をきたさないようにする。
- 感染の予防に努め、必要時予防接種等を受ける。
- 感染症を疑う症状がある場合には、他者への感染を防ぐように欠席するなどの行動をとる。また、欠席などの連絡は、感染拡大を防ぐために電話で行う。
- 必ず健康診断および抗体検査を受け、その結果を把握し、必要時提示できるようにしておく。
- 実習期間中に体調が悪くなった場合は、速やかに実習指導者に申し出て、指示を受ける。また、実習に際して教員の配慮が必要な場合は事前に申し出る。
- 発熱や急な嘔吐、下痢等の感染性疾患に罹患した可能性がある場合は、速やかに実習指導者および臨地実習調整者に連絡し、病院を受診する。受診の結果は実習指導者および臨地実習調整者の報告し、インフルエンザ、流行性角結膜炎等（学校保健安全法で出席停止を定められている疾患）の場合は事務局にも連絡する。
- 臨地実習施設での配慮が必要な場合は臨地実習調整者へ申し出ること（添

付 5)。

4)　対象者の安全確保

- 対象者の安全を守り、事故を起こさないように細心の注意を払って実習を行う。
- 曖昧な知識や技術のまま実習を行うことがないようにし、必ず確認して実施する。
- 対象者やその家族から質問や要望を受けた場合は、実習指導者およびスタッフに相談する。
- 標準予防策を遵守して実習を行う。

5)　実習要件となる検査、ワクチン接種について

- 実習学生は以下のワクチンを接種していることが実習要件となる。
  麻疹・風疹・水痘・ムンプス、B 型肝炎
- 抗体価基準値とワクチン接種は、実習前に各自責任をもって、自身の抗体検査結果を確認すること。(入学時抗体検査結果とその後のワクチン接種履歴は大学健康管理センターにて確認可能)

6)　その他

- 携帯電話は病院内での使用は禁止する。ただし、実習指導者により許可が得られた場合は使用が認められる。
- 病院敷地内での喫煙は禁じられているので、禁煙を遵守する。

5.　個人情報の取り扱いと守秘義務

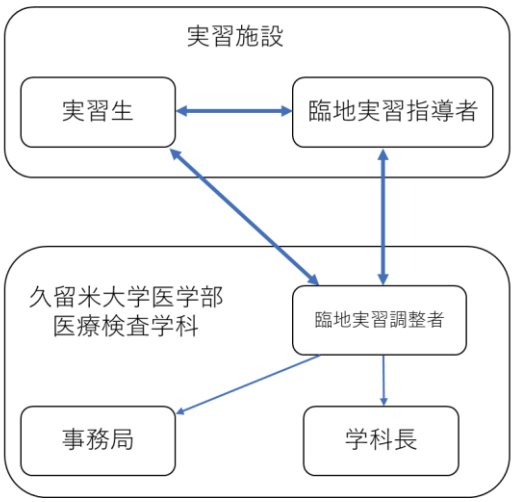
個人情報の保護に関する法律（平成 17 年 4 月）に基づいて、個人情報の取り扱いに注意し、個人が特定されないよう留意する。実習施設で知り得た情報について SNS・インターネット等（Twitter、Instagram、Facebook、LINE）での利用は厳重に注意を払うものである。さらに、実習後も継続して守秘義務は遂行される。

なお、臨地実習中の実習記録やメモ等対象者および家族に関する情報を自宅などの実習施設以外へ持ち出す場合は、事前に実習指導者に申請し許可を得た上で持ち出す。個人情報等および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報保護に関する説明（添付 6）について熟読し、個人情報は厳重に注意し管理する。

6.　交通事故・災害発生時の対応

- 通学途中に交通事故やその他のトラブルが発生した場合は、怪我人の救護、救急・警察への通報を行い、その後すみやかに臨地実習調整者及び実習施設に連絡を取り、指示に従う。
- 臨地実習調整者に連絡が取れない場合には、事務局に連絡を取り、指示に従う。
- 実習施設での災害については、学生自身が安全を確保し各施設の指示に従う。

緊急連絡体制



〈緊急連絡先〉
平日（8：30～17：00）
医療検査学科　0942-31-7592
上記時間外（夜間、休日）
契約携帯電話　000-1111-2222

7.　実習中のインシデント・アクシデント対応

インシデント・アクシデントを起こした場合は、速やかに実習指導者に報告するとともに臨地実習調整者に連絡する。詳細は、「アクシデント・インシデント　報告書」（添付7）に記載の上、実習指導者に提出する。実習指導者に確認頂いた後、臨地実習調整者に提出する。「学生の針刺し・切創・体液暴露時対応マニュアル」を参照する（添付 8）。

8.　誓約書への署名

「臨床検査学生の臨地実習に関する契約書」（添付 9）、「個人情報および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報の保護に関する誓約書」（添付 10）に署名し、事務局へ提出すること。

※提出用紙については本学科ホームページよりダウンロードし印刷したものを用いる。

（添付 1）

個別の学修目標設定

氏　　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実習施設名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実習期間　＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日～＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

記　入　日　＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

Ⅰ．臨地実習での目標

1.
2.
3.

（添付 2）

自己評価基準書（生理学的検査）

臨地実習施設名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間：＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日（　　）～＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日（　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者の本人確認ができる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1．必ず実施させる行為：生理学的検査

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
標準 12 誘導心電図検査	患者の安全に配慮し検査室に誘導できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	患者に心電図検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	
	患者に脱衣などの検査準備の指示ができる	A・B・C・D・E	
	電極を手早く正確に装着できる	A・B・C・D・E	
	診断に適した波形記録ができる	A・B・C・D・E	
	ペーストや電極の除去などが手際よく行える	A・B・C・D・E	
	患者へ着衣と検査後の指示ができる	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動ができる	A・B・C・D・E	
	心電図検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる	A・B・C・D・E	
	全ての手順をスムーズに行える	A・B・C・D・E	

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
肺機能検査 （スパイロメトリー）	患者の安全に配慮し検査室に誘導できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	患者に肺機能検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	
	患者に検査中の注意点が説明できる	A・B・C・D・E	
	クリップなどの器具を手早く正確に装着できる	A・B・C・D・E	
	検査中の呼吸の指示がしっかりとできる	A・B・C・D・E	
	検査器具の除去などが手際よく行える	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動ができる	A・B・C・D・E	
	患者へ検査後の指示ができる	A・B・C・D・E	
	測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる	A・B・C・D・E	

2. 必ず見学させる行為：生理学的検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
ホルター心電図検査のための検査器具装着	ホルター心電図検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	各種誘導法の特徴と電極位置を説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
	電極装着中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる	A・B・C・D・E	
肺機能検査（スパイロメトリー除く）	各種肺機能検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の呼吸の指示について説明できる	A・B・C・D・E	
	肺機能検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる	A・B・C・D・E	
脳波検査	脳波検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
	脳波検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる	A・B・C・D・E	
負荷心電図検査	負荷心電図検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	機械・器具などの正しい準備ができる	A・B・C・D・E	
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の医師との連携が説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる	A・B・C・D・E	

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
超音波検査（心臓）	心臓超音波検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検査中の体位変換と呼吸の指示が説明できる	A・B・C・D・E	
	超音波の基本的性質が説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
	各種測定モードの特徴と検査対象臓器が説明できる	A・B・C・D・E	
	プローブの持ち方など器機取り扱いの注意点が説明できる	A・B・C・D・E	
	心臓超音波検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる	A・B・C・D・E	
超音波検査（腹部）	腹部超音波検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検査中の体位変換と呼吸の指示が説明できる	A・B・C・D・E	
	超音波の基本的性質が説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
	各種測定モードの特徴と検査対象臓器が説明できる	A・B・C・D・E	
	プローブの持ち方など器機取り扱いの注意点が説明できる	A・B・C・D・E	
	腹部超音波検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる	A・B・C・D・E	
足関節上腕血圧比（ABI）検査	ABI 検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
	ABI 検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる	A・B・C・D・E	
	ABI 検査の禁忌を説明できる	A・B・C・D・E	

3. 実施させることが望ましい行為：生理学的検査

該当項目なし

4. 見学させることが望ましい行為

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
運動誘発電位検査	運動誘発電位検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	
体性感覚誘発電位検査	体性感覚誘発電位検査一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検査中の一般的な注意事項が説明できる	A・B・C・D・E	

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

自己評価基準書(検体検査:血液学的検査)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(　)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(　)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 必ず実施させる行為:血液学的検査

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
血球計数検査	検体の確認ができる(氏名・抗凝固剤、検体量、凝固、溶血等)	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	機器に検体を間違いなくセットし測定できる	A・B・C・D・E	
	測定結果が基本的に妥当なデータか判断できる	A・B・C・D・E	
	測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる	A・B・C・D・E	
	各項目の基準範囲が説明できる	A・B・C・D・E	
	各種貧血・代表的血液疾患の血球計数結果を説明できる	A・B・C・D・E	
	血球計数機の測定原理の概要が説明できる	A・B・C・D・E	
	至急検体の対処方法が説明できる	A・B・C・D・E	
血液塗抹標本作成と鏡検	検体の確認ができる(氏名・抗凝固剤、検体量、凝固、溶血等)	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	塗抹標本の良悪とその原因が説明できる	A・B・C・D・E	
	良好な塗抹標本が作製できる(染色含む)	A・B・C・D・E	
	普通染色の原理が説明できる	A・B・C・D・E	

2. 必ず見学させる行為:血液学的検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
精度管理	標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	異常反応やパニック値への対応について説明できる	A・B・C・D・E	
	外部精度管理の種類とその必要性を説明できる	A・B・C・D・E	
	代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	内部精度管理のフローと意義を説明できる	A・B・C・D・E	
メンテナンス作業	日々に行うメンテナンスの目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる	A・B・C・D・E	

3. 実施させることが望ましい行為:血液学的検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
血栓・止血検査	検体の確認できる(氏名・抗凝固剤、検体量、検体凝固など)	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	PT、APTT 検査の原理を説明できる	A・B・C・D・E	
	PT、APTT 検査の用手法と装置分析の違いを説明できる	A・B・C・D・E	
	PT、APTT 検査結果の解釈が出来る	A・B・C・D・E	
	出血時間について、原理と結果解釈について説明できる	A・B・C・D・E	
	FDP、D ダイマーの臨床的意義が説明できる	A・B・C・D・E	
	DIC の病態と検査が説明できる	A・B・C・D・E	

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

自己評価基準書(検体検査:尿・糞便等一般検査)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(　)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(　)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 必ず実施させる行為:尿・糞便等一般検査

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
尿定性検査(機器判定)	検体の確認ができる(氏名　生状、検体量等)	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	色調等の観察が実施できる	A・B・C・D・E	
	試験紙を正しく取り扱い検体を測定できる	A・B・C・D・E	
	測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる	A・B・C・D・E	
	各項目の基準範囲が説明できる	A・B・C・D・E	
	各項目の測定原理が説明できる	A・B・C・D・E	
	各項目が異常値となる代表的疾患名と異常値となる機序が説明できる	A・B・C・D・E	

2. 必ず見学させる行為:尿・糞便等一般検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
精度管理	標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	測定結果のチェック方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	異常反応やパニック値への対応について説明できる	A・B・C・D・E	
	外部精度管理の種類とその必要性を説明できる	A・B・C・D・E	
	代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	内部精度管理のフローと意義を説明できる	A・B・C・D・E	
メンテナンス作業	日々に行うメンテナンスの目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる	A・B・C・D・E	

3. 実施させることが望ましい行為:尿・糞便等一般検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
尿沈渣検査	検体の確認ができる(氏名　性状、検体量等)	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	標本を正しく作製できる	A・B・C・D・E	
	正しい顕微鏡条件で鏡検できる	A・B・C・D・E	
	正常成分(赤血球、白血球、上皮細胞、塩類・結晶等)の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	病的成分(糸球体型赤血球、各種円柱、結晶等)の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	正常成分と病的基本成分を判別できる	A・B・C・D・E	
	JCCLS に準拠した方法で報告できる	A・B・C・D・E	

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

自己評価基準書(検体検査:輸血・移植検査)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 必ず実施させる行為:輸血・移植検査

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
血液型検査(試験管法)	検体の確認ができる(氏名・抗凝固剤、検体量、検体凝固など)	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	赤血球浮遊液の適切な濃度と作製法を説明できる	A・B・C・D・E	
	適切な濃度の赤血球浮遊液が作製できる	A・B・C・D・E	
	測定用試験管を規則正しく準備できる	A・B・C・D・E	
	判定試薬を正確に規定量滴下できる	A・B・C・D・E	
	血球浮遊液を正確に規定量滴下できる	A・B・C・D・E	
	ABO、Rh 血液型を正しく判定できる	A・B・C・D・E	
	ABO、Rh 血液型測定の適切な反応温度を説明できる	A・B・C・D・E	
	適切な温度で測定できる	A・B・C・D・E	
	血液型検査で使用する遠心力と時間を説明できる	A・B・C・D・E	
	輸血用遠心機を適切に操作できる	A・B・C・D・E	

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
…続き有 血液型検査 （試験管法）	測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる	A・B・C・D・E	
	ABO 血液型の日本人の出現頻度が説明できる	A・B・C・D・E	
	ABO 血液型の代表的な亜型について説明できる	A・B・C・D・E	
	ABO、Rh 血液型の異型輸血について説明できる	A・B・C・D・E	
	至急検体の対処方法が説明できる	A・B・C・D・E	

2. 必ず見学させる行為：輸血・移植検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
精度管理	標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	血液製剤管理について説明できる	A・B・C・D・E	
	機器管理方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	外部精度管理の種類とその必要性を説明できる	A・B・C・D・E	
	代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	内部精度管理のフローと意義を説明できる	A・B・C・D・E	

3. 実施させることが望ましい行為：輸血・移植検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
交差適合試験	検体の確認ができる（溶血の有無等）	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	主試験・副試験の一般的な目的・操作法を説明できる	A・B・C・D・E	
	主試験・副試験を実施し報告書を作成できる	A・B・C・D・E	
	血液製剤との交差適合試験において、副試験を省く理由を説明できる	A・B・C・D・E	
	IgG 感作赤血球を使用する理由を説明できる	A・B・C・D・E	
不規則抗体 検査	検体の確認ができる（氏名・抗凝固剤、検体量、検体凝固等）	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	不規則抗体検査の一般的な目的・操作法を説明できる	A・B・C・D・E	
	不規則抗体の反応温度、反応原理を説明できる	A・B・C・D・E	
	蛋白分解酵素法の特徴を説明できる	A・B・C・D・E	
	不規則抗体検査を実施できる	A・B・C・D・E	
	不規則抗体の同定検査を実施できる	A・B・C・D・E	
	アンチグラムにより消去法にて、不規則抗体を同定できる	A・B・C・D・E	
	適合血を提案できる	A・B・C・D・E	

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

自己評価基準書(検体検査:微生物学的検査)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 必ず実施させる行為:微生物学的検査

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
培養・Gram 染色検査	検体の確認(氏名、性状、保存状態等)ができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	微生物検査における無菌操作が実施できる	A・B・C・D・E	
	検体に適した培地を選択し、症状に合わせた選択培地を追加できる	A・B・C・D・E	
	Gram 染色の染色原理と手順が説明できる	A・B・C・D・E	
	Gram 染色を適切に実施できる	A・B・C・D・E	
	顕微鏡を正しく取り扱え、鏡検ができる	A・B・C・D・E	
	鏡検により Gram 陽性・陰性と球菌・桿菌、酵母の鑑別ができる	A・B・C・D・E	
	代表的な細菌名とその疾患、形態が説明できる	A・B・C・D・E	
･･･続き有	スタンダードプリコーション(標準予防策)を理解できる	A・B・C・D・E	
	PPE(個人防護具)を正しい順序と操作で脱着できる	A・B・C・D・E	
	ICT・ASTの役割、細菌検査室との連携の在り方を体験できる	A・B・C・D・E	
	血液培養装置の原理を説明できる	A・B・C・D・E	

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
培養・Gram 染色検査	血液培養の結果から次にとるべき対応を説明できる	A・B・C・D・E	
	コロニーからの菌推定ができる	A・B・C・D・E	
	適切な検体であるか評価できる(採取容器、検体外見、鏡検時)	A・B・C・D・E	

2. 必ず見学させる行為:微生物検査

該当項目なし

3. 実施させることが望ましい行為:微生物学的検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
同定・薬剤感受性試験	全自動同定薬剤感受性検査システムの原理を説明できる	A・B・C・D・E	
	微量液体希釈法からMIC(最小発育阻止濃度)を求めることができる	A・B・C・D・E	
	MICから薬剤耐性菌の判定ができる	A・B・C・D・E	
	ESBL、MBL、CRE等の薬剤耐性菌の検査方法を説明できる	A・B・C・D・E	
	遺伝子診断(微生物)を説明できる	A・B・C・D・E	
	イムノクロマト法による同定検査の原理を説明できる	A・B・C・D・E	
	代表的な抗菌薬適正使用について説明できる	A・B・C・D・E	
	性状確認培地、カタラーゼ試験、オキシダーゼ試験等の同定法を説明できる	A・B・C・D・E	

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

自己評価基準書(検体検査:病理学的検査)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 必ず実施させる行為(病理学的検査)

該当項目なし

2. 必ず見学させる行為(病理学的検査)

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
精度管理	標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	試薬管理の概要を説明できる	A・B・C・D・E	
	外部精度管理の種類とその必要性を説明できる	A・B・C・D・E	
	代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	適切な検体ブロック・標本であるかの判断ができる	A・B・C・D・E	
	内部精度管理のフローと意義を説明できる	A・B・C・D・E	
メンテナンス作業	日々に行うメンテナンスの目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる	A・B・C・D・E	

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
臓器切り出しと臓器写真撮影	検体と受付番号の確認ができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	臨床所見に応じた写真撮影の方法と注意点を説明できる	A・B・C・D・E	
	適切な切り出し部位の説明ができる	A・B・C・D・E	
	コンタミネーション対策を説明できる	A・B・C・D・E	
	取り扱う試薬の危険性を理解し、それに準じた行動がとれる	A・B・C・D・E	
迅速標本作成から報告	凍結組織標本作製の目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検体と受付番号の確認ができる	A・B・C・D・E	
	標本作製の手順を説明できる	A・B・C・D・E	
	包埋・凍結法における手技と注意点を説明できる	A・B・C・D・E	
	クリオスタットによる薄切法とその後の処理を説明できる	A・B・C・D・E	
	感染対策を説明することができる	A・B・C・D・E	

3. 実施させることが望ましい行為:病理学的検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
HE 染色や特殊染色検査	検体と受付番号の確認ができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	染色前処理について説明できる	A・B・C・D・E	
	HE 染色の目的・原理を説明できる	A・B・C・D・E	
	HE 染色を適切に実施できる	A・B・C・D・E	
	染色後処理が実施できる	A・B・C・D・E	
	代表的特殊染色の目的・原理・注意点・染色結果を説明できる	A・B・C・D・E	
病理標本観察	臓器別に正常の組織像が説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
細胞診標本作成と鏡検	検体と受付番号の確認ができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検体別の適切な処理方法を説明できる	A・B・C・D・E	
	感染対策を説明できる	A・B・C・D・E	
	鏡検を行い、良悪性の判断ができる	A・B・C・D・E	
	鏡検を行い、組織型の推定ができる	A・B・C・D・E	

自己評価基準書(検体検査:生化学的検査)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(　)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(　)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 臨地実習において必ず実施させる行為:生化学的検査

該当項目なし

2. 必ず見学させる行為:生化学的検査

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
精度管理	標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	測定結果のチェック方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	異常反応やパニック値への対応について説明できる	A・B・C・D・E	
	外部精度管理の種類とその必要性を説明できる	A・B・C・D・E	
	代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	適切な検体であるかの判断ができる(溶血、フィブリン析出など)	A・B・C・D・E	
	内部精度管理のフローと意義を説明できる	A・B・C・D・E	
メンテナンス作業	日々に行うメンテナンスの目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる	A・B・C・D・E	

3. 実施させることが望ましい行為:生化学的検査

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
血液ガス分析検査	検体の確認ができる(氏名、凝固、保存状態等)	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	検体を適切に取り扱うことが出来る	A・B・C・D・E	
	測定結果のチェック法について説明できる	A・B・C・D・E	
	異常反応やパニック値への対応について説明できる	A・B・C・D・E	

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

自己評価基準書(検体検査:免疫学的検査)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 臨地実習において必ず実施させる行為:免疫学的検査

該当項目なし

2. 必ず見学させる行為:免疫学的検査

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
精度管理	標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	測定結果のチェック方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	異常反応やパニック値への対応について説明できる	A・B・C・D・E	
	外部精度管理の種類とその必要性を説明できる	A・B・C・D・E	
	代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	適切な検体であるかの判断ができる(溶血、フィブリン析出など)	A・B・C・D・E	
	内部精度管理のフローと意義を説明できる	A・B・C・D・E	
メンテナンス作業	日々に行うメンテナンスの目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる	A・B・C・D・E	

3.　実施させることが望ましい行為:免疫学的検査

該当項目なし

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

自己評価基準書(その他)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分野別指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習期間:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)～＿＿＿＿年＿＿月＿＿日(＿＿)

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等:共通項目

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等	医療人として相応しい身だしなみができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	医療人として相応しい言葉遣いができる	A・B・C・D・E	
	時間や約束事を守ることができる	A・B・C・D・E	
	臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる	A・B・C・D・E	
	実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる	A・B・C・D・E	
	実習に際して目的意識をもって臨むことができる	A・B・C・D・E	
	実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる	A・B・C・D・E	
	守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設などを清潔に保つことができる	A・B・C・D・E	
	実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる	A・B・C・D・E	

1. 臨地実習において必ず実施させる行為:その他

該当項目なし

2. 必ず見学させる行為:その他

一般目標	行動目標	行動目標評価	一般目標評価
検査前の患者への説明(検査手順含む)	同意書の作成と管理について説明ができる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	挨拶、敬語など社会人として相応しい振る舞いについて説明ができる	A・B・C・D・E	
	患者への声かけの仕方について説明できる	A・B・C・D・E	
	患者の本人確認の方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	患者の安全に配慮し検査室に誘導する方法について説明ができる	A・B・C・D・E	
	患者を不愉快にさせない接遇について説明ができる	A・B・C・D・E	
	患者の様子・反応を確認しながらの説明方法について説明ができる	A・B・C・D・E	
	患者の理解度を推測して説明方法について指導を受け、説明ができる	A・B・C・D・E	

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
チーム医療 （NST・ICT・ 糖尿病療養指導）	各チームを見学参加し、業務内容が説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	各チームにおける臨床検査技師の関わりを説明できる	A・B・C・D・E	
	スタンダードプリコーションを含む院内感染対策・方法等を説明できる	A・B・C・D・E	
	NST において低栄養者の抽出方法・項目について説明できる	A・B・C・D・E	
	NST において栄養療法について説明できる。	A・B・C・D・E	
	糖尿病およびその合併症について説明できる	A・B・C・D・E	
	SMBG の測定注意点と意義について説明できる	A・B・C・D・E	
検体採取	各検体採取部位の解剖学的特徴を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	患者心理に配慮した接遇について説明できる	A・B・C・D・E	
	患者の安全に配慮し検査室に誘導できる	A・B・C・D・E	
	スワブの持ち方など器具取り扱いの注意点が説明できる	A・B・C・D・E	
	疾病や患部の特性に応じた適切な採取方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	検体採取における合併症について説明できる	A・B・C・D・E	
	感染管理および医療安全対策について説明できる	A・B・C・D・E	
	微生物検査の検体保存容器と保存方法を説明できる	A・B・C・D・E	
	検体採取の適切な実施方法を説明できる（遺伝子検査含む）	A・B・C・D・E	
消化器内視鏡 検査	消化器内視鏡検査の一般的な目的を説明できる	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	患者心理に配慮した接遇について説明できる	A・B・C・D・E	
	患者の安全に配慮し検査室に誘導できる	A・B・C・D・E	
	器具取り扱いの注意点が説明できる	A・B・C・D・E	
	疾病や患部の特性に応じた適切な採取方法について説明できる	A・B・C・D・E	
	検体採取における合併症について説明できる	A・B・C・D・E	
	感染管理および医療安全対策について説明できる	A・B・C・D・E	
	検体保存容器と保存方法を説明できる	A・B・C・D・E	
	検体採取の適切な実施方法を説明できる（遺伝子検査含む）	A・B・C・D・E	

3. 実施させることが望ましい行為:その他

一般目標	行　動　目　標	行動目標評価	一般目標評価
採血室業務 (採血行為を除く)	採血に適した清潔な身だしなみを整えることが出来る(爪や清潔な白衣等))	A・B・C・D・E	A・B・C・D・E
	挨拶、敬語など社会人に相応しい振る舞いがとれる	A・B・C・D・E	
	自分から患者に声かけ(挨拶を含む)ができる	A・B・C・D・E	
	患者の本人確認ができる	A・B・C・D・E	
	患者の様子や反応を確認しながら検査説明ができる	A・B・C・D・E	
	採血器具の適切な使用方法を理解し、清潔状態を保って安全に準備できる	A・B・C・D・E	
	解剖学的に血管・神経走行を理解し、採血に適した安全な静脈を選択できる	A・B・C・D・E	
	針先の清潔、安全を保っての採血行為について説明できる	A・B・C・D・E	
	採血後の血液検体の処理を適切に実施できる(分注、混和・氷冷など)	A・B・C・D・E	
	採血手技全体において、患者状態に合わせた声掛けができる	A・B・C・D・E	
	採血後の止血を適切に行える (抗凝固剤使用の確認、皮膚の状態に合わせた止血パッチの選択等)	A・B・C・D・E	
	採血中の容態急変に備えた観察・行動について実施できる	A・B・C・D・E	
	採血禁忌(シャント側・オペ側・点滴側など)を理解できる	A・B・C・D・E	

〔評価基準〕

評価	実　技　評　価
A	他の学生に教えられる
B	すべて自分でできる
C	ひと言ヒントがあれば自分でできる
D	模範を見せてもらえればその通りに出来る
E	全てを一緒にやってもらえれば出来る

臨地実習自己評価(総合)

臨地実習施設名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実習指導者:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学　生　氏　名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実　習　期　間:　　年　　月　　日(　　)　～　　年　　月　　日(　　)

提　　出　　日:　　年　　月　　日(　　)

総 合 評 価	A ・ B ・ C ・ D ・ E
分 野 別 評 価	
臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等	A ・ B ・ C ・ D ・ E
生理学的検査	A ・ B ・ C ・ D ・ E
検体検査:血液学的検査	A ・ B ・ C ・ D ・ E
検体検査:尿・糞便等一般検査	A ・ B ・ C ・ D ・ E
検体検査:輸血・移植検査	A ・ B ・ C ・ D ・ E
検体検査:微生物学的検査	A ・ B ・ C ・ D ・ E
検体検査:病理学的検査	A ・ B ・ C ・ D ・ E
検体検査:生化学・免疫学的検査	A ・ B ・ C ・ D ・ E
その他:検査前の患者への説明(検査手順含む)	A ・ B ・ C ・ D ・ E
その他:チーム医療(NST,ICT,糖尿病療養指導)	A ・ B ・ C ・ D ・ E
その他:検体採取	A ・ B ・ C ・ D ・ E
その他:採血業務	A ・ B ・ C ・ D ・ E

（添付 3）

臨地実習終了時の振り返り

氏　　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実習施設名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実習期間　＿＿＿年＿＿月＿＿日～＿＿＿年＿＿月＿＿日

記　入　日　＿＿＿年＿＿月＿＿日

Ⅰ．個別の学修目標設定で記入した臨地実習における学習目標

1.

2.

3.

Ⅱ．臨地実習で学んだ態度・知識・技能について書いてください

Ⅲ．当初設定した学修目標の達成度はどのくらいですか。（%評価）

Ⅳ．この臨地実習で気づいた自分自身の課題および、その克服に向けた自己学修計画を書いてください。

臨地実習調整者氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記入日　＿＿＿年＿＿月＿＿日

（添付 4）

提出日：　　年　　月　　日

遅刻・欠席・早退届

実 習 施 設 名: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実習指導者氏名: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 様

下記の通り臨地実習を遅刻・欠席・早退しましたので届出ます。

久留米大学医学部医療検査学科: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学 籍 番 号: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実 習 生 氏 名: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記

日　　時:　　年　　月　　日（　　時　　分 ～　　時　　分の　　時間）

内　　容:　遅刻　・欠席・　早退　（各該当に○をつける事）

理　　由:

※添付書類（診断書、証明書等）が必要な場合は内容が発生後速やかに提出すること

以上

（添付 5）

臨地実習に伴う配慮事項申請

久留米大学医学部医学部医療検査学科
学科長　　殿

○　前期実習機関名
実習期間　　令和　　年　　月　　日 ～ 令和　　年　　月　　日
○　後期実習機関名
実習期間　　令和　　年　　月　　日 ～ 令和　　年　　月　　日

1.　配慮が必要な理由：
2.　具体的な配慮事項：
3.　診 断 書 の 添 付：（　　有　　・　　無　　）

臨地実習にあたり、上記の通り配慮をお願いしたく申請致します。

年　　月　　日

久留米大学医学部医療検査学科
学籍番号
学生氏名　　㊞
保証人氏名　　㊞
学生との続柄（　　）

（添付 6）

個人情報等および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報保護に関する説明

本説明文章は、臨地実習のカリキュラムとして行われる医療機関・衛生検査所等における実習・研修・見学（以下「臨地実習等」という）において実習生が守るべき事項のうち、特に臨地実習等の誠実な履行、臨地実習等に関連して実習生が取得した個人情報、秘密およびプライバシー（以下、「個人情報等」という）の保護、医療機関・登録衛生検査所等の法人機密情報の保護に関するものである。

１．個人情報等

１）「個人情報の保護に関する法律」において、個人情報とは、生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することが出来るもの（他の情報と容易に照合することが出来、それにより特定の個人を識別することが出来ることとなるものを含む）をいう。

２）個人情報等には以下の情報などが含まれる。

（１）特定の患者あるいはその関係者が識別できる情報
（カルテ情報、検査データ、処方箋などを含む）

（２）実習先医療機関・衛生検査所等の特定の職員あるいはその関係者が識別できる情報

（３）特定の各学生が識別できる情報

２．個人情報等の適正管理

１）実習生は、個人情報の保護に関する法律、各養成施設が定める個人情報保護規程、および実習先医療機関・登録衛生検査所等の定める個人情報保護規程・機密保護規程等を順守し個人情報を適正に管理する。

２）個人情報等を記録した文書、パソコン、記憶媒体などが紛失あるいは盗難にあわないように最大限配慮し注意する。

３）以下に掲げる行為は個人情報等の適正管理を妨げるものであり、実習生はこれらの行為を行ってはならない。

（１）個人情報等を、実習施設の許可なしに使用すること。

（２）実習施設の文書による許可なく個人情報等を第三者に提供すること。

（３）個人情報等を実習施設の許可なしに複製・複写すること。

（４）個人情報等を、実習施設の許可なしに、実習施設の指定した場所以外に持ち出しすること。

（５）個人情報等を実習施設の許可なしに廃棄すること。

（６）個人情報等を実習施設の許可なしに、私用パソコンで取り扱うこと。

（７）個人情報等を、ファイル交換ソフトを入れたパソコンで取り扱うこと。

（８）個人情報等を、離席時あるいは退出時に、机上等に放置すること。

４）実習終了時に、実習施設の指示に従い、実習期間中に取得した個人情報等およびその複製物・複写物のすべてを返還または廃棄しなければならない。

５）実習生は、臨地実習等の終了後においても、個人情報等の保護義務を負う。

３．医療機関・衛生検査所等の法人機密の保護

１）本文書の「医療機関・衛生検査所等の法人機密情報」とは、以下の情報をいう。

（１）実習先医療機関・衛生検査所等の経営および事業運営に関する情報で公知でないもの

（２）公知であっても、第三者に提供されることによって実習先医療機関・衛生検査所等の権利・利益が損なわれる恐れのある情報。

2）以下は本文書の医療機関・衛生検査所等の法人機密文書ではない。

（１）情報取得時に既に公知であったもの

（２）情報取得後に、実習生の責によらず公知となった情報

（３）情報取得時に既に実習生が保有していた情報

（４）正当な権限を有する第三者から秘密保護義務を負わずに入手した情報

（５）法令その他に基づき公的機関等により開示を要求された情報

実習生は、医療機関・衛生検査所等における臨地実習等において、法人機密情報の保護義務を負う。法人機密情報の適正管理については、前項の個人情報等の適正管理に準じる。

４．周知徹底の義務

養成校は実習生に対し、個人情報および法人機密情報の保護義務を履行するために、個人情報等および法人機密情報の取り扱いについて周知徹底しなければならない。

５．誓約書の提出

実習生は、以上の条項を理解したうえで、これを順守する証として、「医療機関・衛生検査所等における臨地実習等の誠実な履行ならびに個人情報の保護に関する誓約書」を提出しなければならない。

（添付 7）

アクシデント・インシデント　報告書

臨地実習施設名		
報告者（学生）		
発生日時		令和　　年　　月　　日　（午前・午後）　　時　　分頃
臨地実習指導者への報告日時		令和　　年　　月　　日　（午前・午後）　　時　　分頃
臨地実習調整者への報告日時		令和　　年　　月　　日　（午前・午後）　　時　　分頃
対象者情報		性別：□男性・□女性　　年齢：　　歳代
概要（何がどうした）		
原因		
経過・対応		
被害	対象者への信頼度	□大きく損なう　□少し損なう　□余り損なわない
	生命への危険度	□極めて高い　□高い　□可能性低い　□ない
	物品（その他）	
被害の状況・程度		
問題点・課題の分析		

アクシデント・インシデントを引き起こした場合、学生は直ちに臨地実習指導者（実習施設）に報告する。

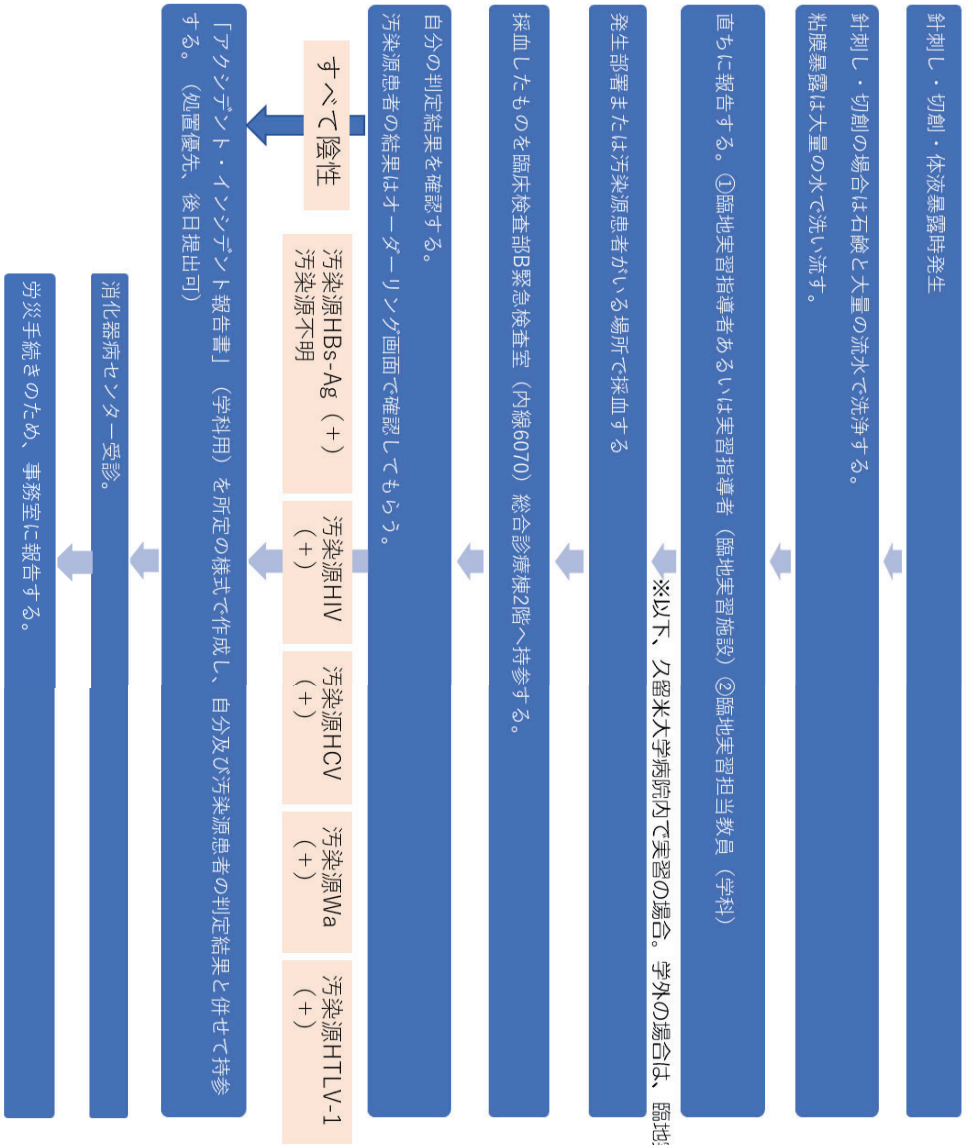
・アクシデント（事故発生）の場合は、臨地実習指導者の指示の下、初期対処が終わったらできるだけ早く、臨地実習調整者（学科）に電話等で報告する。

・本報告は、臨地実習中の学生がアクシデント・インシデントの状況を把握、分析し、養成校施設内教育に役立てるものです。

臨地実習指導者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

臨地実習調整者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

（添付 8）


学生の針刺し・切創・体液暴露時対応マニュアル
針刺し・切創・体液暴露時発生
針刺し・切創の場合は石鹸と大量の流水で洗浄する。
粘膜暴露は大量の水で洗い流す。
直ちに報告する。①臨地実習指導者あるいは実習指導者（臨地実習施設）②臨地実習担当教員（学科）
※以下、久留米大学病院内で実習の場合。学外の場合は、臨地実習施設の取り決めに従う。
発生部署または汚染源患者がいる場所で採血する
採血したものを臨床検査部B緊急検査室（内線6070）総合診療棟2階へ持参する。
自分の判定結果を確認する。
汚染源患者の結果はオーダーリング画面で確認してもらう。
すべて陰性
汚染源HBs-Ag（＋）
汚染源不明
汚染源HIV（＋）
汚染源HCV（＋）
汚染源Wa（＋）
汚染源HTLV-1（＋）
「アクシデント・インシデント報告書」（学科用）を所定の様式で作成し、自分及び汚染源患者の判定結果と併せて持参する。（処置優先、後日提出可）
消化器病センター受診。
労災手続きのため、事務室に報告する。

（添付 9）

臨床検査学生の臨地実習に関する契約書

○○医療施設名（衛生検査所等の名称）（以下、「甲」という）と、久留米大学医学部医療検査学科（以下「乙」という）は、甲の施設において、第１条に記載する乙の実習生（以下実習生という）の臨地実習（以下実習という）を実施するにあたり、次のとおり契約を締結する。

第１条（実習の対象等）

実習の対象等は次のとおりとする。

養成施設名　　久留米大学医学部医療検査科

実習生氏名（学籍番号）

（　　）

実習期間　　年　　月　　日から　　年　　月　　日までの期間（　　週間）で、甲乙が協議して定める学習時間

実習施設名

所在地

第２条（実習の実施方法）

甲は、実習プログラムを策定し、実習を実施する。

第３条（実習教育費）

乙は、甲に対し、第１条の実習教育費として、実習生１人１日当たり　　円を負担し、実習終了後　　日以内にこれを支払う。

第４条（実習生の健康状態）

乙は、甲に対し、実習開始前に実習生の健康状態を記載した書類を提出する。

２　本契約書に定める実習にあたって実習生の健康状態に多大な問題が生じた場合には、甲乙双方は協議の上、実習生の実習を中断または中止することができる。

第５条（実習生への規則遵守の徹底）

乙は、実習生が実習をおこなうにあたり、事前に甲が定めた諸規則・心得等を実習生に説明し理解させる、かつ臨地実習指導者の指示に従うように実習生を指導する。

第６条（個人情報、秘密およびプライバシー（以下、個人情報という）の保護）

実習の実施にあたって、甲乙双方は、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号（以下、「個人情報保護法」という）に従い、甲の保有する患者をはじめとする個人情報等、ならびに実習生の個人情報等の漏洩などが生じないように、情報を適正に管理する。

２　前項に基づき、乙は実習生に対し、個人情報等の保護に関する取扱いについての説明文書をもって十分に説明し、実習生の了解のもとに、個人情報等の保護に関する誓約書を提出させるものとする。

３　乙は、甲の求めがある場合、前項の説明文書および誓約書を開示するものとする。

４　乙は、実習生に対し、実習終了後、卒業まで甲の保有する個人情報等の保護を徹底するよう指導監督する。

５　甲は、実習終了後も実習生の個人情報を施設規定に従い適正に管理する。

第７条（個人情報等の保護状況の報告および調査）

甲は、乙に対し、実習中および実習終了後の個人情報等の保護状況について、書面による報告を求めることができるものとし、乙は遅滞なくこれに応じるものとする。

２、甲は、乙に対し、実習中および実習終了後の個人情報等の保護状況について、確認のために調査できるものとし、乙は、正当な理由がある場合を除き、これに協力するものとする。

第８条（法人機密情報の保護）

本契約における甲の法人機密情報とは、以下の情報をいう。

・甲の経営および事業運営に関する情報で公知でないもの

・公知であっても、第三者に提供されることによって甲の権利利益が損なわれる恐れのある情報

２．乙は、実習の実施にあたって、甲の法人機密情報の漏洩などが生じないように、法人機密情報の保護について実習生に説明文書をもって適切な指導をするとともに、実習終了後も法人機密の保護を徹底するよう指導監督する。

第９条（実習の中止）

甲または乙は、実習生が以下に示す事項に該当すると判断したときは、甲乙協議の上、実習を中止することができる。

１）　甲の定める諸規定・心得等に違反した場合

２）　甲の施設内の秩序あるいは規律を乱した場合

３）　個人情報等の保護に関して漏洩があった場合

４）　甲の法人機密情報の保護に関して漏洩があった場合

５）　実習態度の不良などにより実習の目的を果たし得ない場合

６）　実習期間中に生じた疾病・傷害等により長期欠席した場合

７）　甲による実習指導の継続が不可能となった場合

２．乙が既に支払った実習委託費については、甲は乙に返還しない。ただし、前項の６）または７）や想定できなかった理由により実習の継続が不可能になった場合は、実習委託費に関して甲乙協議の上、解決するものとする。

第 10 条（実習生の疾病及び傷害）

実習を原因とする疾病および障害については、甲の故意または過失による場合を除き、乙の責任において対処するものとする。

第 11 条（損害賠償）

実習生の故意または過失により、甲に事故、器物破損、機密情報の漏洩その他の損害

を与えた場合は、乙は甲に対し、実習生と連携してその賠償責任を負うものとする。

第 12 条（第 3 者損害賠償）

実習生の故意または過失により、第 3 者（甲の従業員を含む）に人的または物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問われる紛争または訴訟が発生した場合は、乙はその当事者としての誠意をもってその対応にあたるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。

第 13 条（その他の事項）

本契約に定めのない事項および契約条項に疑義が生じた場合は、それぞれ甲乙協議の上解決する。

本契約の締結を証するために、本契約書を 2 通作成し、甲乙記名押印の上、各自その 1 通を保有するものとする。

年　　月　　日

甲）　所在地
医療提供施設名又は
衛生検査所等の名称

代表者名

乙）　所在地　　福岡県久留米市東櫛原町 777-1
養成施設名　　久留米大学医学部医療検査科
代表者名

（添付 10）

令和　　年　　月　　日

個人情報および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報の保護に関する誓約書

●●●●●●施設

施設長　●●●●　様

１．私は久留米大学医学部医療検査学科の学生として実習先医療機関・衛生検査所等において実習・研修・見学（以下、「臨地実習等」という）を行うにあたり、「個人情報等および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報保護に関する説明文書」の事項を十分に理解しましたので、これを順守いたします。

2．私は、臨地実習等の期間中はもちろん、その後においても、実習等において知りえた個人情報等および法人機密情報を第三者に漏洩いたしません。

以上誓約いたします。

年　　月　　日

久留米大学医学部医療検査学科：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生住所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生氏名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※日時は書類を記入した日を記載してください

資料14　臨地実習に伴う配慮のお願い

令和　　年　月　日

臨地実習に伴う配慮のお願い

臨地実習施設名
実習指導者名

本校学生の臨地実習にあたり、貴施設で臨地実習予定の学生のうち健康状態につきまして事前に周知の必要と思われる者につきまして以下のようにご報告させていただきます。つきましては、対象学生の健康状態にご承知おき下さいますようお願い申し上げます。また、学生に関する個人情報保護に関しましてもご配慮いただくようお願い申し上げます。

学籍番号	
氏　　名	
住　　所	
実習期間	
配慮が必要な理由	
具体的な配慮等	
診断書添付の有無	

※ご不明な点がございましたら臨地実習担当教員までご連絡下さい。

久留米大学医学部医療検査学科

資料15 臨地実習報告書

（資料 ○5. 臨地実習報告書）

臨地実習報告書

臨地実習施設名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

責任者名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学 生 氏 名	
臨地実習期間	年 月 日 ～ 月 日
臨地実習で学んだ 態度・知識・技能	
学修目標達成度（%評価）	
臨地実習で気づいた課題	
今後の学修計画	
感想・反省	

臨地実習調整者 氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記入日 ＿＿＿＿＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

資料16 久留米大学医学部医療検査学科 教員別授業・実習担当計画

<時間帯> 1限：9:00 - 10:30　2限：10:40 -12:10　3限：13:00 - 14:30　4限：14:40 - 16:10　5限：16:20 - 17:50

月	5月第3週目 ～ 8月第1週目（12週間）																					
週	1週間																					
曜日	月					火				水					木				金			
時間 / 教員	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4
西 昭徳	医学英語																			臨床医学総論Ⅱ	巡回予定	巡回予定
有永 照子	医療安全管理学	医療安全	医療安全・検体採取	（画像検査学Ⅰ）	臨床化学Ⅱ		臨床栄養学			チーム医療演習	チーム医療演習										巡回予定	巡回予定
武谷 三恵			巡回予定	巡回予定		病態生理学Ⅱ / 臨床医学		生理学				（肉眼解剖実習）	（肉眼解剖実習）		（検査管理総論）							
真田 咲子	（医学英語）		遺伝子・染色体					巡回予定	巡回予定	病理学Ⅱ		（肉眼解剖実習）	（肉眼解剖実習）		（病理検査学実習）	（病理検査学実習）	（組織解剖学）	（組織解剖学）		臨床医学総論Ⅱ		
室谷 健太																			データ基礎Ⅱ	データ基礎Ⅰ		
伴 匡人	化学							（臨床化学実習）	（臨床化学実習）								巡回予定	巡回予定			（遺伝子・染色体実習）	（遺伝子・染色体実習）
小原 仁							マネジメント															
棚町 千代子			医療安全・検体採取	医療安全・検体採取				巡回予定	巡回予定	チーム医療演習	微生物検査学				検査管理総論		微生物検査学実習Ⅱ	微生物検査学実習Ⅱ				
真茅 孝志								（生理検査実習）	（生理検査実習）	（一般検査学実習）	（一般検査学実習）			（輸血・移植学）	検査管理総論	検査機器総論	巡回予定	巡回予定				
八木 朝子	睡眠医学	生理検査学Ⅰ		（画像検査学Ⅰ）		生理検査学Ⅱ		生理検査実習	生理検査実習	チーム医療演習	チーム医療演習				（検査管理総論）		巡回予定	巡回予定				
関 律子	（医学英語）		医療安全・検体採取	医療安全・検体採取						（一般検査学実習）	（一般検査学実習）	（RI検査学）	（RI検査学）	（輸血・移植学）			巡回予定	巡回予定	血液学	（臨床医学総論Ⅱ）	（遺伝子・染色体実習）	（遺伝子・染色体実習）
田代 恭子								（臨床化学実習）	（臨床化学実習）	（一般検査学実習）	（一般検査学実習）			輸血・移植学	（検査管理総論）	一般検査学	輸血・移植検査学実習	輸血・移植検査学実習			巡回予定	巡回予定
吉野 千代			医療安全・検体採取	医療安全・検体採取	臨床化学Ⅱ			臨床化学実習	臨床化学実習		薬品管理学					検査機器総論	（微生物検査学実習Ⅱ）	（微生物検査学実習Ⅱ）			巡回予定	巡回予定
糸山 貴子			医療安全・検体採取	医療安全・検体採取						一般検査学実習	一般検査学実習					一般検査学	（輸血・移植検査学実習）	（輸血・移植検査学実習）			巡回予定	巡回予定
福満 千容			巡回予定	巡回予定							薬品管理学				病理検査学実習	病理検査学実習	（組織解剖学）	（組織解剖学）				

1)　　選択コースで指導
2)　括弧付きは主に補佐の役割

資料 17　診療情報管理士認定試験受験資格を認める大学および専門学校の指定に関する規程（令和 3 年 7 月 1 日改正施行）

資料 18　日本病院会 診療情報管理士通信教育 2023 による養成校が行うべき科目

１．書類の題名

・診療情報管理士認定試験受験資格を認める大学および専門学校の指定に関する規程（令和 3 年 7 月 1 日改正施行）
（設置の趣旨等を記載した書類【資料 17】72 ページ）

・日本病院会 診療情報管理士通信教育 2023 による養成校が行うべき科目

（設置の趣旨等を記載した書類【資料 18】73～74 ページ）

２．出　典

・【資料 17】一般社団法人 日本病院会　診療情報管理士認定試験受験資格を認める大学および専門学校の指定に関する規程（令和 3 年 7 月 1 日改正施行）

・【資料 18】一般社団法人 日本病院会　診療情報管理士通信教育 2023 年 7 月開講 第 103 期生受講生募集チラシ

３．引用範囲

・【資料 17】診療情報管理士認定試験受験資格を認める大学および専門学校の指定に関する規程（令和 3 年 7 月 1 日改正施行）全文

・【資料 18】診療情報管理士通信教育 2023 年 7 月開講 第 103 期生受講生募集チラシ全文

４．その他の説明

診療情報管理士資格取得に係る病院実習の概要を記載する上で、「設置の趣旨等を記載した書類」の本文（45 ページ）と【資料 17】【資料 18】において受験資格を取得するための科目について説明した。

○教授の採用に関する特別規程

〔平成３年７月26日
規程第３－２号〕

第１条　久留米大学の大学院・学部・学科の設置、拡充、維持等に伴い、教育及び研究上必要な場合は、学校法人久留米大学教職員定年規程の規定にかかわらず65歳を超える者を教授として採用することができる。

第２条　教授の採用は、当該学部の教授会及び大学評議会の議を経て理事会において決定する。

第３条　本規程による教授の任用期間は、５年を限度とする。

第４条　教授の給与等待遇については、理事長が別に定める。

附　則

この規程は、平成３年７月26日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

昭和五十一年文部省令第二号

専修学校設置基準

第五章　施設及び設備等

（位置及び環境）

第四十四条　専修学校の校地及び校舎の位置及び環境は、教育上及び保健衛生上適切なものでなければならない。

（校地等）

第四十五条　専修学校は、次条に定める校舎等を保有するに必要な面積の校地を備えなければならない。

2　専修学校は、前項の校地のほか、目的に応じ、運動場その他必要な施設の用地を備えなければならない。

（校舎等）

第四十六条　専修学校の校舎には、目的、生徒数又は課程に応じ、教室（講義室、演習室、実習室等とする。）、教員室、事務室その他必要な附帯施設を備えなければならない。

2　専修学校の校舎には、前項の施設のほか、なるべく図書室、保健室、教員研究室等を備えるものとする。

3　専修学校は、目的に応じ、実習場その他の必要な施設を確保しなければならない。

（昼間学科又は夜間等学科のみを置く専修学校の校舎の面積）

第四十七条　昼間学科又は夜間等学科のみを置く専修学校の校舎の面積は、次の各号に定める区分に応じ、当該各号に定める面積以上とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

一　一の課程のみを置く専修学校で当該課程に一の分野についてのみ学科を置くもの　別表第二イの表により算定した面積

二　一の課程のみを置く専修学校で当該課程に二以上の分野について学科を置くもの又は二若しくは三の課程を置く専修学校で、当該課程にそれぞれ一若しくは二以上の分野について学科を置くもの　次のイ及び口に掲げる面積を合計した面積

イ　これらの課程ごとの分野のうち別表第二イの表第四欄の生徒総定員四十人までの面積が最大となるいずれか一の分野について同表により算定した面積

ロ　これらの課程ごとの分野のうち前イの分野以外の分野についてそれぞれ別表第二ロの表により算定した面積を合計した面積

（設備）

第四十九条　専修学校は、目的、生徒数又は課程に応じ、必要な種類及び数の機械、器具、標本、図書その他の設備を備えなければならない。

第五十条　夜間において授業を行う専修学校は、適当な照明設備を備えなければな

らない。

（他の学校等の施設及び設備の使用）

第五十一条　専修学校は、特別の事情があり、かつ、教育上及び安全上支障がない場合は、他の学校等の施設及び設備を使用することができる。

別表第二　昼間学科又は夜間等学科に係る校舎面積（第四十七条関係）

イ　基準校舎面積の表

課程の区分	学科の属する分野の区分	学科の属する分野ごとの生徒総定員の区分	面積（平方メートル）
高等課程又は専門課程	工業関係、農業関係、医療関係、衛生関係又は教育・社会福祉関係	四十人まで	２６０
		四十一人以上	２６０＋３．０×（生徒総定員－４０）
	商業実務関係、服飾・家政関係又は文化・教養関係	四十人まで	２００
		四十一人以上	２００＋２．５×（生徒総定員－４０）
一般課程	工業関係、農業関係、医療関係、衛生関係又は教育・社会福祉関係	四十人まで	１３０
		四十一人以上	１３０＋２．５×（生徒総定員－４０）
	商業実務関係、服飾・家政関係又は文化・教養関係	四十人まで	１３０
		四十一人以上	１３０＋２．３×（生徒総定員－４０）

備考

一　この表の算式中生徒総定員とあるのは、学科の属する分野ごとの生徒総定員をいう。（ロの表において同じ。）

二　一の情報関係学科を工業関係の分野に属する学科として設置する場合（他に工業関係の分野に属する学科を置いていない場合に限る。）であつて、当該情報関係学科と他分野学科の教育課程との間に一定以上の関連性があることを確認できる場合における校舎面積は、次のイ及びロに掲げる数の合計数とする（ロの表において同じ。）。

イ　当該情報関係学科と当該他分野学科が、工業関係の分野に属するものとして算定した面積に、当該情報関係学科の定員数が、情報関係定員総数に占める割合を乗じて得た数

ロ　当該情報関係学科と当該他分野学科が、当該他分野学科の属する分野に属するものとして算定した面積に、当該他分野学科の属する分野の生徒総定員が、情報関係定員総数に占める割合を乗じて得た数

三　科目等履修生等を学科の属する分野ごとの生徒総定員を超えて相当数受け入れる場合においては、教育に支障のないよう、相当の面積を増加するものとする。（ロの表において同じ。）

ロ　加算校舎面積の表

課程の区分	学科の属する分野の区分	学科の属する分野ごとの生徒総定員の区分	面積（平方メートル）
高等課程又は専門課程	工業関係、農業関係、医療関係、衛生関係又は教育・社会福祉関係	四十人まで	１８０
		四十一人以上	１８０＋３．０×（生徒総定員－４０）
	商業実務関係、服飾・家政関係又は文化・教養関係	四十人まで	１４０
		四十一人以上	１４０＋２．５×（生徒総定員－４０）
一般課程	工業関係、農業関係、医療関係、衛生関係又は教育・社会福祉関係	四十人まで	１１０
		四十一人以上	１１０＋２．５×（生徒総定員－４０）
	商業実務関係、服飾・家政関係又は文化・教養関係	四十人まで	１００
		四十一人以上	１００＋２．３×（生徒総定員－４０）

昭和四十五年文部省・厚生省令第三号

臨床検査技師学校養成所指定規則

（指定基準）

第二条　令第十条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。

一　学校教育法第九十条第一項に規定する者（法第十五条第一号に規定する文部科学大臣の指定を受けようとする学校が大学である場合において、当該大学が学校教育法第九十条第二項の規定により当該大学に入学させた者を含む。）、旧中等学校令（昭和十八年勅令第三十六号）による中等学校を卒業した者又は次条各号のいずれかに該当する者であることを入学又は入所の資格とするものであること。

二　修業年限は、三年以上であること。

三　教育の内容は、別表第一に定めるもの以上であること。

四　別表第一に掲げる各教育内容を教授するのに適当な数の教員を有し、かつ、そのうち六人（一学年に二学級以上を有する学校又は養成所にあつては、一学級増すごとに三を加えた数）以上は、医師、臨床検査技師又はこれと同等以上の学識経験を有する者（以下「医師等」という。）である専任教員であること。ただし、医師等である専任教員の数は、当該学校又は養成所が設置された年度にあつては四人（一学年に二学級以上を有する学校又は養成所にあつては、一学級増すごとに一を加えた数）、その翌年度にあつては五人（一学年に二学級以上を有する学校又は養成所にあつては、一学級増すごとに二を加えた数）とすることができる。

五　医師等である専任教員のうち少なくとも三人は、免許を受けた後五年以上法第二条に規定する業務を業として行つた臨床検査技師（以下「業務経験五年以上の臨床検査技師」という。）であること。ただし、業務経験五年以上の臨床検査技師である専任教員の数は、当該学校又は養成所が設置された年度にあつては一人、その翌年度にあつては二人とすることができる。

六　一学級の定員は、十人以上四十人以下であること。

七　同時に授業を行なう学級の数を下らない数の専用の普通教室を有すること。

八　適当な広さの専用の実習室及び図書室を有すること。

九　教育上必要な機械器具、標本、模型、図書及びその他の設備を有すること。

十　臨地実習を行うのに適当な施設を実習施設として利用しうること及び当該実習について適当な実習指導者の指導が行われること。

十一　専任の事務職員を有すること。

十二　管理及び維持経営の方法が確実であること。

（別添）

令和３年３月31日
医政発0331第85号

各都道府県知事　殿

厚生労働省医政局長
（公印省略）

臨床検査技師養成所指導ガイドラインについて

臨床検査技師学校養成所指定規則については、平成12年に教育科目の名称を定める規定から教育の内容を定める規定への変更や単位制の導入など、カリキュラムの弾力化等の見直しを行って以降大きな改正は行われなかったが、この間、国民の医療へのニーズの増大と多様化、チーム医療の推進による業務の拡大等により、臨床検査技師に求められる役割や知識等は変化してきた。これら臨床検査技師を取り巻く環境の変化に対応するため、令和元年12月から「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」を開催し、令和２年４月８日に報告書を取りまとめたところである。

これに伴い、別紙のとおり、新たに「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」を定めたので、貴管下の関係機関に対し周知徹底を図られるとともに、貴管下の養成所に対する指導方よろしくお願いする。

特に臨地実習については、「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」において、必ず実施させる行為、必ず見学させる行為、実施することが望ましい行為の３区分として個別具体的な行為が検討され、臨地実習の質を底上げする取組みが図られたことから、貴管下の関係機関に対し周知徹底を図られるとともに、貴管下の養成施設に対する指導方よろしくお願いする。

なお、本通知は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の４第１項の規定に基づく技術的助言であることを申し添える。

並びに、本ガイドラインは、2022年（令和４年）４月１日から適用することとし、「臨床検査技師養成所指導ガイドラインについて」（平成27年３月31日医政発0331第27号都道府県知事宛本職通知）は、2022年（令和４年）４月１日をもって廃止する。

〔別紙〕

臨床検査技師養成所指導ガイドライン

1　設置計画書に関する事項

臨床検査技師養成所（以下「養成所」という。）について、都道府県知事の指定を受けようとするとき又は学生の定員を増加しようとするときは、その設置者は、授業を開始しようとする日（学生の定員を増加しようとする場合は変更を予定する日）の１年前までに次に掲げる事項を記載した養成所設置計画書（学生の定員を増加しようとする場合は定員変更計画書）をその設置予定地（学生の定員を増加しようとする場合は養成所の所在地）の都道府県知事に提出すること。

（１）設置者の氏名及び住所（法人にあっては、名称及び主たる事務所の所在地）

（２）養成所の名称

（３）位置

（４）設置予定年月日（定員の変更にあっては、変更予定年月日）

（５）入学予定定員（定員の変更にあっては、現在の定員及び変更予定定員）

（６）長の氏名及び履歴

（７）収支予算及び向う２年間の財政計画

2　一般的事項

（１）臨床検査技師学校養成所指定規則（以下「指定規則」という。）第４条第１項の指定の申請は、授業を開始しようとする日の６か月前までに、その設置予定地の都道府県知事に提出すること。

（２）指定規則第５条第１項の変更の承認申請は、変更を行おうとする日の３か月前までに、当該養成所の所在地の都道府県知事に提出すること。

（３）養成所の設置者は、国及び地方公共団体が設置者である場合のほか、営利を目的としない法人であることを原則とすること。

（４）会計帳簿、決算書類等収支状態を明らかにする書類が整備されていること。

（５）養成所の経理が他と明確に区分されていること。

（６）敷地、校舎は、養成所が所有するものが望ましく、かつ、その位置及び環境は教育上適切であること。

３　学生に関する事項

（１）学則に定められた学生の定員が守られていること。

（２）入学資格の審査及び選考が適正に行われていること。

（３）学生の出席状況が確実に把握されており、出席状況の不良な者については、進級又は卒業を認めないものとすること。

（４）入学、進級、卒業、成績、出席状況等学生に関する記録が確実に保存されていること。

（５）健康診断の実施、疾病の予防措置等学生の保健衛生に必要な措置を講ずること。

４　教員に関する事項

（１）養成所の長は、保健医療、教育又は学術に関する業務に５年以上従事した者であり、臨床検査技師教育を十分に理解し、明確な教育方針をもった者であること。

（２）全日制課程に定時制課程を併せて設置する場合の定時制課程の専任教員については、３名を限度として全日制課程の専任教員の兼任をもってこれにあてることができること。

（３）専任教員の１人１週間当たりの担当授業時間数は、過重にならないよう15時間を標準とすること。

（４）教員は、その担当科目に応じ、それぞれ相当の経験を有する者であること。

（５）臨地実習全体の計画の作成、実習施設との調整、臨地実習の進捗管理等を行う者（以下、「実習調整者」という。）として、専任教員から１名以上配置すること。

５　授業に関する事項

（１）指定規則別表に定める各教育分野は、別表１に掲げる事項を修得させることを目的とした内容とすること。

（２）授業の方法は対面授業によるものとする。

（３）単位の計算方法については、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、１単位の授業時間数は、講義及び演習については15時間から30時間、実験、実習及び実技については30時間から45時間の範囲で定めること。

なお、時間数は実際に講義、実習等が行われる時間をもって計算すること。

（４）臨地実習については、実習時間の３分の２以上は医療機関において行うこと。

（５）単位を認定するに当たっては、講義、実習等を必要な時間以上受けているとともに、

当該科目の内容を修得していることを確認すること。

また、指定規則別表の備考2に定める大学、高等専門学校、養成所等に在学していた者に係る単位の認定については、本人からの申請に基づき、個々の既修の学習内容を評価し、養成所における教育内容に該当するものと認められる場合には、当該養成所における履修に替えることができること。

（６）１の授業科目について同時に授業を行う学生の数は、40人以下であること。

ただし、授業の方法、施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられる場合は、この限りでないこと。

（７）臨地実習前の技能修得到達度評価（臨地実習に必要な技能・態度を備えていることを確認する実技試験等）に当たっては、別表３を参照すること。

6　臨地実習に関する事項

（１）臨地実習は、原則として昼間に行うこと。

（２）実習施設における実習人員は、当該施設の実情に応じた受入れ可能な数とし、１検査室につき５人程度を限度とすること。

（３）臨地実習に当たっては、指定規則別表第二に掲げる行為を必ず実施させ、かつ必ず見学させることに加え、別表４に掲げる実施することが望ましい行為を参考として実施すること。

7　施設設備に関する事項

（１）各学級の専用教室の広さは、学則に定める入学定員１人当たり1.65平方メートル以上であること。

↳40人　↳×40＝66㎡

（２）実習室の広さは、学則に定める入学定員の定員１人当たり3.31平方メートル以上とし、かつ、適正に実習を行うことができる設備機能を有すること。

↳40人　↳×40＝132.4㎡

（３）教室及び実習室の広さは、内法で測定されたものであること。

（４）微生物学実習等顕微鏡を使用する実習室は、他の実習室と区分して整備すること。

（５）教育上必要な機械器具及び標本は、別表２を標準として整備すること。

（６）教育上必要な専門図書は1000冊以上、学術雑誌は10種類以上を備えていること。

8　その他

（１）入学料、授業料及び実習費等は適当な額であり、学生または父兄から寄附金その他の

資料 20　久留米大学医学部附属臨床検査専門学校　面積基準の算出根拠となる規程

１．書類の題名

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校　面積基準の算出根拠となる規程
（設置の趣旨等を記載した書類【資料 20】84～90 ページ）

２．出　典

・令和 4 年度学校基本調査

・久留米大学校舎平面図

３．引用範囲

・久留米大学医学部附属臨床検査専門学校　学校施設調査票（高等学校等）

・久留米大学 大学本館 1 階及び教育 2 号館 1～5 階平面図

４．その他の説明

施設、設備等の整備計画について、共用する医学部附属臨床検査専門学校が、規定の面積基準を満たしている旨を記載する上で、【資料 20】70～83 ページに示した関連規程等に加え、令和 4 年度学校基本調査において提出した学校施設調査票（高等学校等）及び該当の校舎平面図を添付した。

施設使用計画（R6～R9年度）

医学科　医療検査学科
看護学科　臨検校

※枠内の数字は学年を示す

【R6年度】

前期	4月										5月										6月										7月									
	月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
基礎1号館2階組織実習室	2	2						1	1	1	3	3						1	1	1	3	3						1	1	1	3	3						1	1	1
基礎1号館3階実習室				2		2			1	1				2		2			1	1				2		2			1	1				2		2			1	1
本館第1実習室	2		1					2	2		2		2					2	2		2		2					2	2	2	2		2					2	2	2
基礎3号館コンピュータ実習室		4	1	4	4	4		4		4		4	4	4	3	4		4		1		1	4	1	3		3	1		1	1	1	4	1	2		3	1		

後期	10月										11月										12月										1月									
	月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
基礎1号館2階組織実習室						1		1		1						1		1		1						1		1		1				2		2	1	2	1	1
基礎1号館3階実習室								1		1						2		2		2						1		2		2						1		1		2
本館第1実習室		2	2		2	2		2	1			2	2		2	2		2	1			2		2	2		2					2					2		2	
基礎3号館コンピュータ実習室	1	2	1	1	1	1				2	1	2	1		1	1					1	2	1			1					1	2	1			1				

【R7、R8、R9年度】

前期	4月										5月										6月										7月									
	月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
基礎1号館2階組織実習室	2	2					2	1	1	1	3	3						1	1	1	3	3						1	1	1	3	3						1	1	1
基礎1号館3階実習室								2	1	1									1	1									1	1									1	1
基礎3号館コンピュータ実習室		4	1	4	4	4		4	3	4		4	4	4	3	4		4	1	1		1	4	1	3		3	1	3	1	1	1	4	1			3	1	3	
生化学実習室			1	2	3			3		2			1	2	3			3		2			1	2	3			3		2			1	2	3			3		2
生理実習室		3		2								3		2								3		2								3		2						

後期	10月										11月										12月										1月									
	月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
基礎1号館2階組織実習室						1		1		1						1		1		1						1		1		1						1		1		1
基礎1号館3階実習室						2	2	1	3	1						2	2	2	3	1						2	2	1	3	1						2	2	1	3	1
基礎3号館コンピュータ実習室	2		1	1	1	1		2		2		1		1	1			2		1		1				1			2		2		1			1		2	
生化学実習室		2					2	1	2			2					2	1	2			2		3			2	1	2			2					2	1	2	
生理実習室			3	2									3	2								3	2									3	2						

資料22　久留米大学医学部医療検査学科　新規購入図書及び視聴覚教材

参　考　御　見　積　書

令和5年2月9日

久留米大学　御中

株式会社 紀伊國屋書店
九州営業部　部長　渥美　保志
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南一丁目3番11号
KDX博多南ビル6階

下記の通り御見積申し上げます。

合計金額　￥1,008,900－
(消費税10%を含みます。消費税率が変更になった場合は御請求時の税率を採用させて頂きます。)

〔見積有効期限:3ヶ月 〕

品名及び仕様		数量		単価	金額
久留米大学<医学部医療検査学科　新設用:図書　視聴覚資料>					
<令和5年度>	図書　内国書	176	冊		945,540
	視聴覚資料	2	点		63,360
				小計:	1,008,900
総　合　計					¥1,008,900

*見積もり有効期限:発行日より3か月
*発注後、品切、絶版となる場合がございます

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W001	カラー図解　人体の正常構造と機能〈1〉呼吸器（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932405	坂井建雄：河原克雅	1	5,940
W002	カラー図解　人体の正常構造と機能〈2〉循環器（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932412	坂井建雄：河原克雅	1	5,940
W003	カラー図解　人体の正常構造と機能〈3〉消化管（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932429	坂井建雄：河原克雅	1	5,940
W004	カラー図解　人体の正常構造と機能〈4〉肝・胆・膵（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932436	坂井建雄：河原克雅	1	5,940
W005	カラー図解　人体の正常構造と機能〈5〉腎・泌尿器（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932443	坂井建雄：河原克雅	1	5,940
W006	カラー図解　人体の正常構造と機能〈6〉生殖器（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932450	坂井建雄：河原克雅	1	5,940
W007	カラー図解　人体の正常構造と機能〈7〉血液・免疫・内分泌（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932467	坂井建雄：河原克雅	1	6,130
W008	カラー図解　人体の正常構造と機能〈8〉神経系（1）中枢神経系の構造・高次神経機能・運動系（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932474	坂井建雄：河原克雅	1	6,130
W009	カラー図解　人体の正常構造と機能〈9〉神経系（2）末梢神経系の構造・自律神経機能・感覚系（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932481	坂井建雄：河原克雅	1	6,130
W010	カラー図解　人体の正常構造と機能〈10〉運動器（改訂第4版）	日本医事新報社	9784784932498	坂井建雄：河原克雅	1	6,730
W011	カラー図解人体の細胞生物学	日本医事新報社	9784784932320	坂井建雄：石崎泰樹	1	5,340
W012	病気がみえる　vol.1　消化器　第6版	メディックメディア	9784896327922	医薬情報科学研究所	1	3,660
W013	病気がみえる　vol.2　循環器　第5版	メディックメディア	9784896328301	医薬情報科学研究所	1	3,560
W014	病気がみえる　vol.3　糖尿病・代謝・内分泌　第5版	メディックメディア	9784896327663	医薬情報科学研究所	1	3,360
W015	病気がみえる　vol.4　呼吸器　第3版	メディックメディア	9784896327304	医薬情報科学研究所	1	3,460
W016	病気がみえる　vol.5　血液　第2版	メディックメディア	9784896326529	医薬情報科学研究所	1	3,160
W017	病気がみえる　vol.6　免疫・膠原病・感染症　第2版	メディックメディア	9784896327205	医薬情報科学研究所	1	3,460
W018	病気がみえる　vol.7　脳・神経　第2版	メディックメディア	9784896326864	医薬情報科学研究所	1	3,860
W019	病気がみえる　vol.8　腎・泌尿器　第3版	メディックメディア	9784896327717	医薬情報科学研究所	1	3,360
W020	病気がみえる　vol.9　婦人科・乳腺外科　第4版	メディックメディア	9784896327120	医薬情報科学研究所	1	3,260
W021	病気がみえる　vol.10　産科　第4版	メディックメディア	9784896327137	医薬情報科学研究所	1	3,560
W022	病気がみえる　vol.11　運動器・整形外科　第1版	メディックメディア	9784896326321	医薬情報科学研究所	1	3,760

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W023	病気がみえる　vol.12　眼科　第1版	メディックメディア	9784896327601	医薬情報科学研究所	1	3,260
W024	病気がみえる　vol.13　耳鼻咽喉科　第1版	メディックメディア	9784896328158	医薬情報科学研究所	1	3,460
W025	病気がみえる　vol.14　皮膚科　第1版	メディックメディア	9784896328189	医薬情報科学研究所	1	3,460
W026	病気がみえる　vol.15　小児科　第1版	メディックメディア	9784896328783	医薬情報科学研究所	1	4,450
W027	絵でみる脳と神経 第4版: しくみと障害のメカニズム	医学書院	9784260027830	馬場元毅	1	2,770
W028	臨床脳波学 第6版	医学書院	9784260014496	大熊輝雄	1	17,820
W029	はじめての心電図 第2版増補版	医学書院	9784260020244	兼本成斌	1	4,450
W030	心電図のやさしい読み方教えます	羊土社	9784758107655	小雲雅美	1	3,560
W031	運動負荷心電図―その方法と読み方	医学書院	9784260008730	川久保清	1	4,950
W032	呼吸機能検査ハンドブック	日本呼吸器学会 肺生理専門委員会 呼吸機能検査ハンド	9784779223877		1	3,960
W033	ココが知りたい!!スパイロメトリーの基本と秘訣!―呼吸機能検査きれいに記録!しっかり判断!	克誠堂出版	9784771903654	柴田正慶	1	4,650
W034	臨床検査技師のための呼吸機能検査ハンドブック	真興交易(株)医書出版部	9784880037523	中村雅夫	1	4,550
W035	ここからはじめる!神経伝導検査・筋電図ナビ	南山堂	9784525225711	飛松省三	1	3,460
W036	新 神経・筋疾患の電気診断学: 筋電図・神経伝導検査 原理と実際	西村書店	9784890134977	木村淳	1	14,850
W037	血液細胞ノート第1版	文光堂	9784830614187	巽敬之	1	2,470
W038	血液形態アトラス第1版	医学書院	9784260032018	矢冨裕	1	5,740
W039	医療情報 第7版 医学・医療編	篠原出版新社	9784867058138		1	3,360
W040	医療情報 第7版 情報処理技術編	篠原出版新社	9784867058145		1	3,360
W041	医療情報 第7版 医療情報システム編	篠原出版新社	9784867058152		1	3,360
W042	第4版　医療情報サブノート	篠原出版新社	9784884123987		1	3,860
W043	医療情報の基礎知識改訂第2版	南江堂	9784524249930		1	2,570
W044	医療情報を見る、医療情報から見る エビデンスと向き合うための10のスキル	金芳堂	9784765318075		1	2,770

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W045	医療従事者のための情報リテラシー 第2版	日経BP	9784822253431		1	1,880
W046	基礎から読み解くDPC 第3版	医学書院	9784260012058		1	3,360
W047	DPC点数早見表 2022年4月版	医学通信社	9784870588714		1	4,450
W048	診療点数早見表 2022年4月版	医学通信社	9784870588707		1	4,450
W049	すべてExcelでできる! 経営力・診療力を高めるDPCデータ活用術 増補改訂版	日経BP	9784822239664		1	11,880
W050	人体大全 なぜ生まれ、死ぬその日まで無意識に動き続けられるのか	新潮社	9784105072315	ビル・ブライソン	1	2,670
W051	論文図表を読む作法	羊土社	9784758122603	中山敬--	1	4,450
W052	Essential細胞生物学原書第5版	南江堂	9784524226825	中村桂子	1	7,920
W053	標準病理学	医学書院	9784260036597	北川昌伸/仁木利郎	1	10,890
W054	染色法のすべて	医歯薬出版株式会社	9784263226902	水口國雄	1	5,540
W055	臨床研究アウトプット術	中外医学社	9784498048782		1	4,750
W056	多変量解析法入門（ライブラリ新数学大系）	サイエンス社	9784781909806		1	2,170
W057	新装改訂版 現代数理統計学	学術図書出版社	9784780608601		1	2,670
W058	数理統計学: 統計的推論の基礎	共立出版	9784320114296		1	2,870
W059	初心者のためのロジスティック回帰分析入門	丸善出版	9784621064931		1	8,710
W060	JMPによるデータ分析 第3版—統計の基礎から多変量解析まで	東京図書	9784489023477		1	2,970
W061	JMPによる医療系データ分析 第2版 —統計の基礎から実験計画・アンケート調査まで—	東京図書	9784489023033		1	3,160
W062	JMPによる医療・医薬系データ分析 第2版—分散分析・反復測定・傾向スコアを中心に	東京図書	9784489023736		1	3,160
W063	臨床試験ハンドブック(新装版): デザインと統計解析	朝倉書店	9784254322620		1	19,800
W064	医学統計学ハンドブック	朝倉書店	9784254122299		1	19,800
W065	医学統計学の事典(新装版)	朝倉書店	9784254122336		1	7,920
W066	線形代数学［新装版］	日本評論社	9784535786547		1	3,760

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W067	微分積分学	東京図書	9784489007323		1	2,970
W068	データサイエンスのための数学（データサイエンス入門シリーズ）	講談社	9784065169988		1	2,770
W069	統計モデルと推測（データサイエンス入門シリーズ）	講談社	9784065178027		1	2,370
W070	医薬データのための統計解析（原著第2版）	共立出版	9784320113817		1	10,890
W071	回帰分析(新装版)（統計ライブラリー）	朝倉書店	9784254122466		1	3,160
W072	医学研究における実用統計学	サイエンティスト社	9784914903688		1	11,880
W073	異常値の出るメカニズム	医学書院	9784260032407	河合忠/山田俊幸	1	5,940
W074	わかりやすい生化学：疾病と代謝・栄養の理解のために	ヌーヴェルヒロカワ	9784861740695	石黒伊三雄：篠原力雄	1	2,270
W075	検査値を読むトレーニング：ルーチン検査でここまでわかる	医学書院	9784260024761	本田孝行	1	4,450
W076	診断に自信がつく検査値の読み方教えます！：異常値に惑わされない病態生理と検査特性の理解	羊土社	9784758117432	野口善令	1	3,560
W077	検査値ドリル：基礎・応用問題から鍛える、診断につながるポイントを	羊土社	9784758118958	神田善伸	1	4,250
W078	検査値の読み方・考え方：専門医からのアドバイス	総合医学社	9784883787319	西崎統：村田満	1	5,440
W079	診断に直結する検査値の読み方事典	総合医学社	9784883788729	池田均：中原一彦	1	7,920
W080	こどもの身体の基準：検査値と身体所見	中外医学社	9784498145320	金子一成：吉村健	1	4,350
W081	心電図ドリル	総合医学社	9784883787159	土居忠文：宮尾恵示	1	1,980
W082	心電図のみかた，考えかた．基礎編	中外医学社	9784498037847	杉山裕章	1	5,340
W083	心電図のみかた，考えかた．応用編	中外医学社	9784498037861	杉山裕章	1	6,130
W084	腹部超音波検査ドリル	総合医学社	9784883784578	土居忠文：上田彩未	1	3,460
W085	エキスパートから学ぶ腹部超音波検査：基本走査・カテゴリー判定・鑑別診断	文光堂	9784830637568	竹原靖明：岡庭信司	1	6,430
W086	心エコーハンドブック　基礎と撮り方	金芳堂	9784765317702	竹中克：戸出浩之	1	3,960
W087	小児心電図のみかた，考えかた	中外医学社	9784498145702	三浦大：山岸敬幸	1	6,730
W088	小児超音波検査のみかた，考えかた	中外医学社	9784498145481	市橋光：野中航仁	1	5,140

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W089	小児エコーの撮影法と正常像がぜんぶわかる！：腹部・体表・心臓・頭部を完全マスター	金芳堂	9784765317931	日本小児超音波研究会	1	5,740
W090	小児エコーの撮影法と異常像がぜんぶわかる！：腹部・体表・頭部・心臓・肺・救急を完全マスター	金芳堂	9784765318723	日本小児超音波研究会	1	6,230
W091	下肢静脈エコーの攻略法：ｗｅｂ動画みて！マネて！いざ実践！	メディカ出版	9784840465335	山本哲也	1	6,930
W092	実践臨床生殖免疫学	中外医学社	9784498060883	柴原浩章	1	10,890
W093	図説よくわかる臨床不妊症学　一般不妊治療編	中外医学社	9784498076822	柴原浩章：森本義晴	1	4,550
W094	図説よくわかる臨床不妊症学　生殖補助医療編	中外医学社	9784498076884	柴原浩章：森本義晴	1	5,540
W095	臨床検査学基礎実習	医歯薬出版	9784263223208	鈴木優治：信岡学	1	2,970
W096	臨床化学検査学実習書	医歯薬出版	9784263223215	大西英文：狩野元成	1	2,970
W097	血液検査学実習書	医歯薬出版	9784263223222	三村邦裕	1	3,360
W098	輸血・移植検査学実習書	医歯薬出版	9784263223239	永尾暢夫	1	2,970
W099	遺伝子検査学実習書	医歯薬出版	9784263223253	岩谷良則	1	3,560
W100	一般検査学実習書	医歯薬出版	9784263223260	市村輝義：辰喜亮介	1	3,160
W101	病理検査学実習書	医歯薬出版	9784263223277	吾妻美子：佐藤健次	1	3,760
W102	微生物検査学実習書	医歯薬出版	9784263223284	森田耕司	1	3,560
W103	免疫検査学実習書	医歯薬出版	9784263223246	加藤晃二：利光央	1	3,560
W104	生理機能検査学実習書	医歯薬出版	9784263223291	今井正	1	3,960
W105	生理検査学・画像検査学	医学書院	9784260014182	谷口信行	1	4,550
W106	病理学・病理検査学	医学書院	9784260014359	仁木利郎：福嶋敬宜	1	3,960
W107	臨床化学	医学書院	9784260014748	前川真人	1	4,450
W108	臨床医学総論	医学書院	9784260017039	小山高敏：戸塚実	1	5,740
W109	血液検査学	医学書院	9784260015097	矢冨裕：通山薫	1	3,960
W110	遺伝子検査学	医学書院	9784260015196	宮地勇人：横田浩充	1	3,760

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W111	検査機器総論・検査管理総論	医学書院	9784260016360	横田浩充：大久保滋夫	1	3,760
W112	臨床検査医学総論	医学書院	9784260015080	矢冨裕：横田浩充	1	3,160
W113	微生物学・臨床微生物学・医動物学	医学書院	9784260017015	一山智：田中美智男	1	5,340
W114	基礎医学：人体の構造と機能	医学書院	9784260017534	岩谷良則：岩谷良則	1	5,740
W115	臨床検査総論	医学書院	9784260016650	伊藤機一：松尾収二	1	2,970
W116	免疫検査学	医学書院	9784260016483	折笠道昭	1	5,540
W117	トートラ人体の構造と機能第5版(原書15版)	丸善	9784621303566	桑木共之ら編	1	9,900
W118	WHO分類改訂第4版による白血病･リンパ系腫瘍の病態学第1版	中外医学社	9784498225169	木崎 昌弘 ， 田丸 淳一	1	13,860
W119	臨床に直結する血栓止血学 改訂2版	中外医学社	9784498125797	朝倉 英策	1	9,700
W120	ICD-10　1巻　内容例示表	日本病院共済会	9784875116745		1	7,920
W121	ICD-10　2巻　総論	日本病院共済会	9784875116752		1	5,940
W122	ICD-10　3巻　索引表	日本病院共済会	9784875116769		1	8,910
W123	ICD-O　国際統計分類　腫瘍学　3.1版	日本病院共済会	9784875117711		1	6,430
W124	ICDのABC　令和3年版	日本病院共済会	9784875118619		1	590
W125	実践&入門 診療情報管理パーフェクトガイド 2019年新版	医学通信社	9784870587090		1	2,570
W126	HL7 FHIR: 新しい医療情報標準	丸善出版	9784621304914		1	8,310
W127	医療系スタッフのための情報システム入門　改訂第２版	学研メディカル秀潤社	9784780904130		1	3,160
W128	院内ビッグデータ分析による病院機能高度化	じほう	9784840748575		1	2,570
W129	MEの基礎知識と安全管理　改訂第7版	南江堂	9784524246564	[illegible]	1	5,740
W130	詳説　電気回路演習-初めて学ぶ問と解-	科学情報出版	9784904774151	著者：横山道央	1	2,770
W131	【73-1】JISハンドブックJIS HB 73-1 医療機器 I 2021	日本規格協会	9784542188778	編集：日本規格協会	1	13,460
W132	第2種ME技術実力検定試験マスター・ノート 2nd edition	メジカルビュー社	9784758319232	編集：中村藤夫	1	5,140

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W133	2022 第2種ME技術実力検定試験全問解説	秀潤社	9784780904543	[illegible]	1	3,760
W134	医療系資格試験のための電気・臨床工学技士国家試験・第2種ME技術実力検定試験	コロナ社	9784339072297	著者：仲田昭彦	1	3,160
W135	大規模計算時代の統計推論: 原理と発展	共立出版	9784320114340		1	8,710
W136	Rと事例で学ぶベイジアンネットワーク〔原著第2版〕	共立出版	9784320114654		1	3,960
W137	Rによるインタラクティブなデータビジュアライゼーション: 探索的データ解析のためのplotlyとshiny	共立出版	9784320124868		1	4,750
W138	数式不要! はめ込み統計学 EZRでできる保健医療統計これだけ	医学書院	9784260045827		1	2,570
W139	Rによる 統計的学習入門	朝倉書店	9784254122244		1	6,730
W140	実践Data Scienceシリーズ RとStanではじめる ベイズ統計モデリングによるデータ分析入門(KS情報科学専門書)	講談社	9784065165362		1	2,970
W141	データ解析のための統計モデリング入門――一般化線形モデル・階層ベイズモデル・MCMC (確率と情報の科学)	岩波書店	9784000069731		1	3,760
W142	多変量解析入門――線形から非線形へ	岩波書店	9784000056533		1	3,460
W143	Rによる医療統計学 原書2版	丸善出版	9784621087756		1	3,760
W144	EZRでやさしく学ぶ統計学 改訂3版 ～EBMの実践から臨床研究まで～	中外医学社	9784498109186		1	4,550
W145	超入門! Rでできるビジュアル統計学 学会・論文発表に役立つデータ可視化マニュアル	金芳堂	9784765318808		1	3,560
W146	エモリー大学クラインバウム教授の生存時間解析	サイエンティスト社	9784860790721		1	5,940
W147	データ解析のためのロジスティック回帰モデル	共立出版	9784320111400		1	8,110
W148	製薬医学入門 くすりの価値最大化をめざして	メディカル・サイエンス・インターナショナ	9784815730536		1	5,340
W149	統計的学習の基礎 ―データマイニング・推論・予測―	共立出版	9784320123625		1	13,860
W150	Kaggleで勝つデータ分析の技術	技術評論社	9784297108434		1	3,240
W151	米国SWOGに学ぶ がん臨床試験の実践 第2版(原書第3版)	医学書院	9784260018647		1	4,950
W152	がん臨床試験テキストブック: 考え方から実践まで	医学書院	9784260016452		1	4,950
W153	Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)	講談社	9784065186190		1	2,970
W154	ベイズ統計モデリング: R,JAGS, Stanによるチュートリアル 原著第2版	共立出版	9784320113169		1	8,110

NO	書籍タイトル	出版社	ISBN13	編著者（1~2名）	数量	見積価格（税込）
W155	StanとRでベイズ統計モデリング (Wonderful R)	共立出版	9784320112421		1	2,970
W156	アドバンスト分析疫学 369の図表で読み解く疫学的推論の論理と数理	メディカルサイエンス・インターナショナル	9784815701895		1	5,540
W157	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版	メディカルサイエンス・インターナショナル	9784895927833		1	4,650
W158	医学的研究のための多変量解析 第2版 基本一般化線形モデルから一般化推定方程式まで 最適モデルの選択、実践、報告の実践ガイド	メディカルサイエンス・インターナショナル	9784815701994		1	4,050
W159	医学的介入の研究デザインと統計 ランダム化/非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで	メディカルサイエンス・インターナショナル	9784895927574		1	3,660
W160	医学的測定尺度の理論と応用 -妥当性、信頼性からG理論、項目反応理論まで	メディカル・サイエンス・インターナショナ	9784895928670		1	4,550
W161	実践Data Scienceシリーズ データ分析のためのデータ可視化入門 (KS情報科学専門書)	講談社	9784065164044		1	3,160
W162	Rグラフィックスクックブック 第2版 ーggplot2によるグラフ作成のレシピ集	オライリー・ジャパン(発売：オーム社)	9784873118925		1	3,560
W163	心臓・循環の生理学	メディカルサイエンスインターナショナル	9784895926898	岡田隆夫　監訳	1	7,520
W164	若葉マーク臨床検査学エッセンス・ノート１臨床生理機能検査	メジカルビュー社	9784758314619	磯部智範　編集	1	4,150
W165	睡眠学第２版　日本睡眠学会編集	朝倉出版	9784254301205		1	27,720
W166	睡眠障害国際分類第３版　日本睡眠学会診断分類委員会訳	ライフ・サイエンス	9784898016282		1	4,450
W167	臨床睡眠検査マニュアル　日本睡眠学会編	ライフ・サイエンス	9784898015278		1	5,440
W168	AASMによる睡眠および随伴イベントの判定マニュアル ver.2.5	ライフ・サイエンス	9784898016312		1	4,750
W169	スタンダード細胞診テキスト	医歯薬出版株式会社	9784263226841		1	8,910
W170	細胞診を学ぶ人のために 第6版	医学書院	9784260037990		1	9,700
W171	細胞診ガイドライン1 婦人科・泌尿器	金原出版	9784307050432		1	5,440
W172	細胞診ガイドライン2乳腺・皮膚・軟部骨	金原出版	9784307050449		1	5,440
W173	細胞診ガイドライン3甲状腺・内分泌・神経系	金原出版	9784307050456		1	5,440
W174	細胞診ガイドライン4呼吸器・胸腺・体腔液・リンパ節	金原出版	9784307050463		1	5,940
W175	細胞診ガイドライン5消化器	金原出版	9784307050470		1	5,940
W176	JAMT技術教本シリーズ　一般検査技術教本	丸善出版	9784621301388	一般社団法人　日本臨床衛生検査技師会	1	3,460
					176	945,540

御　見　積　書

令和　5 年　2 月　9 日
見積No.　41274

久留米大学　医学図書館　御中

ご照会の件につき、下記の通り御見積申し上げます。

(株)日本病院共済会　代表取締役 堺　常雄

〒102-0075
東京都千代田区三番町9番地15
ホスピタルプラザビル1階

TEL:03-3264-9888　FAX:03-3222-0016

納入期日：
納入場所：
送　　料：
有効期限：
支払条件：

御見積総額	￥28,470

品　名	入数	数量	単位	単価	金額
診療情報管理Ⅰ2016　8版5刷		1		8,000	8,000
診療情報管理Ⅱ2016　8版4刷　増刷		1		1,500	1,500
診療情報管理Ⅲ　専門課程　2022　初版2刷		1		10,000	10,000
ICD-10(2013)準拠　内容例示表　簡易版		1		4,500	4,500
宅急便					1,882
※梱包手数料を含む					
（鬼塚　卓也　様）					
［見積合計額］					[25,882]
（消費税額等）					(2,588)
【合　　計】					【 28,470】

備　考：

別添資料　久留米大学医学部医療検査学科　診療情報管理士病院実習施設一覧

No.	実施施設名	所在地		受け入れ人数
		郵便番号	住所	
1	久留米大学病院	830-0011	福岡県久留米市旭町67	35
合　計				35

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 久留米大学の現状把握・分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
ウ 新設学科の趣旨目的、教育内容、定員設定
(1) 医療検査学科の趣旨目的の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
(2) 教育内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
(3) 定員と学納金の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
エ 学生確保の見通し
A. 学生確保の見通しの調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
・第三者機関による高等学校学生アンケート調査の概要・・・・・・・・・・・・ P5
・アンケート調査の結果と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5
B. 保健系分野の学部・学科の志願動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5
C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
D. 競合校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
E. 既設学部等の学生確保の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
F. その他、久留米大学において検討・分析した事項・・・・・・・・・・・・・・ P7
オ 学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果
(1) 高等学校訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
(2) 進学相談会・大学進学ガイダンスへの参加、入試説明会の開催・・・・・・・ P7
(3) オープンキャンパスの開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
(4) 広報活動、大学ホームページを利用した情報発信・・・・・・・・・・・・・ P8

2 人材需要の動向等社会の要請

ア 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・・・・・・ P8
イ 教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠
(1) 社会・地域における臨床検査技師需要の拡大・・・・・・・・・・・・・・・ P9
(2) これまでの実績と、地域社会からの要望・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
(3) 本学科の卒業生に対する社会ニーズと採用意向・・・・・・・・・・・・・・ P10
・第三者機関による事業所アンケート調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・ P10
・アンケート調査の結果と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P10

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア　久留米大学の現状把握・分析

久留米大学は昭和 3 年の創立以来、「人へ、地域へ、そして世界へ」というスローガンのもと、それぞれの専門分野において、人間性豊かな実践的人材の育成に力を入れてきた。現在、久留米市にある 2 つのキャンパスに、医学部、文学部、人間健康学部、法学部、経済学部、商学部の 6 学部 13 学科、4 つの大学院研究科と 18 の研究所・研究センター、医学部附属臨床検査専門学校を有する私立総合大学として発展してきた。

急激に進む 18 歳人口の減少により、私立大学の定員割れが令和 4 年度には過去最高の 47.49%となる中【資料 1】、本学では各学部において定員を満たしており、大学全体での入学定員超過率は 1.03 となっている【資料 2】。この結果は、地域の産業や医学・保健医療に貢献する人材の育成を重視する本学の教育方針が高い評価を受けたものだと考えられる。また、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が公表している「THE 世界大学ランキング 2023」において、本学はランキング対象となった国内 117 大学中の 14 位（同位）となった【資料 3】。研究の影響力の指標となる「被引用論文」では 6 位となり、研究の質において高い評価を得ている。

一方で、少子・高齢化の加速、日本経済の長期低迷、世界情勢は困惑を深め、本学を取り巻く社会経済環境には厳しさが増している。このような状況下においても、本学が掲げる 4 つの社会的使命「教育、研究、医療、社会貢献」を達成するために、時代に順応できる特色ある大学づくりに積極的に取り組む必要がある。

イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析

本学科の前身となる久留米大学医学部附属臨床検査専門学校は、文部科学大臣指定専門学校として、2,258 名（令和 5 年 3 月までの卒業生数）の臨床検査技師を育成し、久留米市をはじめ九州地域の保健医療福祉の向上に貢献してきた。一方で、高等学校卒業後の進路として 4 年制大学への進学志向が上昇し、また、九州の臨床検査技師養成校の大学化が進んでいることもあり、臨床検査専門学校の入学者数は徐々に減少している状況である【資料 4】。

近年の医療の高度・専門化、少子高齢化社会や医療提供体制の変化を背景に、多職種連携によるチーム医療、根拠に基づく医療に対するニーズが高まり、医学・保健医療の分野においても多職種連携教育、教育研究の高度化、研究活動による研究マインド育成が求められている。これらの教育に対して、既存の臨床検査専門学校の 3 年間という修業年限では限界があること、大学教育カリキュラムにおいては体制の強化と拡充が課題となっている。

ウ　新設学科の趣旨目的、教育内容、定員設定

（１）医療検査学科の趣旨目的の概要

近年の臨床検査技術の進歩は目覚ましく、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い

遺伝子検査関連試薬・機器が急速に普及し、各施設で遺伝子検査が日常的に実施されるようになった。また、令和3年7月の臨床検査技師等に関する法律施行令／施行規則の改正により、「医師の働き方改革」のための業務移管「タスク・シフト／シェア」として、臨床検査技師の業務が拡大された。これに伴い、最先端の医学知識と高度な検査技術を持つ臨床検査技師の育成が重要視されるようになった。

今後、さらに進展する少子高齢化や社会構造の多様化により、臨床検査技師に求められる医療・社会ニーズは変化することが予想される。こうしたニーズの変化に対応できる教育体制の確立のために、3年制の専門学校を発展的に改組し、4年制課程で臨床検査技師を育成する必要があると判断し、学科設置認可申請に至った。

（2）教育内容

本学科の設置趣意を踏まえ、既存の臨床検査専門学校の中心であった臨床検査・医療技術教育と、多様な医療・社会ニーズに対応するヘルスサイエンス教育の統合による教育研究を実施する。

1）「臨床検査プログラム」による質の高い医学教育と臨床検査専門教育

臨床検査専門学校の実践力育成教育を基に、久留米大学及び大学病院の人的資源と施設設備を最大限に活用した「臨床検査プログラム」を実施する。社会で活躍する医療従事者に必要な教養と基礎知識に加え、医学・臨床検査学の専門知識と技術を培う。

2）久留米大学病院・地域臨地実習病院との連携による実践的職業訓練

臨床検査専門学校が、大学病院や地域臨地実習病院との連携により積み重ねてきた実践的職業訓練を活用した臨床検査技師教育を実施する。実践的教育により臨床検査技師等に関する法律施行令／施行規則によって拡大した業務、高度・精密化を続ける臨床検査に対応できる能力を培う。

3）「医学部連携プログラム」による多職種連携教育

医学科、看護学科、大学病院に所属する他職種の教職員による授業、医学科と看護学科の学生との合同授業を含めた「医学部連携プログラム」を実施する。医学科と看護学科の学生とともに学ぶ機会を持つことにより、他の医療職種の業務や役割について理解を深め、チーム医療の一員として多様な医療ニーズに対応できる力を培う。

4）「全学的文医融合プログラム」によるヘルスサイエンス教育

附置研究所、文系学部、医学部の教員との連携による「全学的文医融合プログラム」として、ヘルスサイエンス教育を実施する。バイオサイエンス、情報科学・人工知能、医療情報・社会保障制度の基礎知識及び社会への応用を学び、多様な社会ニーズに対応する力を培う。

臨床検査技師育成の専門教育に加え、3年生では学生全員が、専任教員及び「全学的文医融合プログラム」に参加する兼担教員の下で個別の研究テーマに取り組み、論理的思考

力、本質的な問題発見・解決力を主体とする研究マインドを培う。本学科で計画されている教育研究により、医学部連携、文医融合が進み、これまで医学部、大学病院及び附置研究所だけでは実現できなかった基礎・臨床研究が可能となる。これらの取り組みは大学全体の研究力の強化につながり、久留米大学が世界的に高く評価されている質の高い研究への貢献が期待できる。

久留米大学では、大学の使命である教育・研究・医療及び社会貢献の質の向上とこれらを実現するために、5年ごとの中期計画として「将来構想Vision」を設定している。「将来構想Vision 2022-2026」では、全学の行動目標として文医融合による教育・研究の促進を掲げている【資料 5】。既存の文学部と人間健康学部では、文医融合カリキュラムが組まれ、教育活動の実績を積み重ねている。本学科の「全学的文医融合プログラム」における医学部教育への文系学部の教育要素の取り込みにより、医学部と文系学部との双方向性の文医融合教育体制が整い、「将来構想Vision」の目的達成、久留米大学の使命の実現への貢献が期待できる。

（3）定員と学納金の設定

医療検査学科の入学定員は74名、収容定員は296名とした。既存の臨床検査専門学校の入学定員は40名であり、学生数はおおよそ2倍に増加するが、専任教員数、兼担・兼任教員数、講義・実習等の教育環境、臨地実習を含めた臨床検査専門教育、多職種連携教育における他学科とのバランス、応用選択コースにおける研究設備等に関して十分な検討を行い、本学科の教育目的及び質を担保できる範囲であると判断した。また、後述の高等学校生徒及び採用意向のアンケート調査の結果から、入学定員を超える入学希望者と採用意向件数が見込まれており、増員は適切な範囲であると言える。

学納金は、入学金300,000円、授業料 930,000円（1期310,000円、2期310,000円、3期 310,000円）、教育充実料 150,000円、実験実習料 250,000円とし、初年度納入金を1,630,000円とした。「将来構想Vision 2022-2026」【資料5】にある「安定した経営基盤の確立」、既存の医学部看護学科の学納金1,580,000円、本学科の教育目的及び教育環境の実現・維持を踏まえ、学生への過度な負担にならない範囲で設定を行った。また、後述する近隣の競合校の学納金が、1,450,000円～1,550,000円であり、妥当な金額だと言える。

エ　学生確保の見通し

Ａ．学生確保の見通しの調査結果

本学科への入学意向を調査するために、第三者機関である「株式会社高等教育総合研究所」への委託により、設置構想に関するアンケート調査を実施した【資料6-1】【資料6-2】。

・第三者機関による高等学校生徒アンケート調査の概要

① 調査時期

令和 4 年 10 月から令和 5 年 1 月

② 調査対象校

福岡県を中心に久留米大学への進学実績等から抽出した合計 69 校【資料 7】

福岡県 40 校、佐賀県 11 校、大分県 5 校、長崎県 3 校、熊本県 2 校、宮崎県 2 校、鹿児島県 2 校、山口県 1 校、愛媛県 1 校、島根県 1 校、岡山県 1 校

③ 調査対象者

学科開設予定の令和 6 年度に大学 1 年生となる高等学校 2 年生

④ 調査方法

アンケート調査実施の了承が得られた高等学校に、本学科の概要説明書【資料 8】、アンケート調査用紙、返信用封筒を送付した。高等学校教職員による配布、WEB 調査により回答を得た。

⑤ 有効回答数

6,942 件

・アンケート調査の結果と分析

アンケート調査結果【資料 9】によると、高校卒業後の希望進路について「4 年制以上の大学」が 5,321 人（82.0%）であり、回答者の多くが大学進学を希望していることが分かった。関心のある学問分野については、本学科の学問分野である「保健衛生学（臨床検査学、リハビリテーション医学)」が 906 人（全体の 14.0%）となった。「保健衛生学（看護学)」を含めると、1,773 人（全体の 27.3%）となり、「保健衛生学」分野が極めて高い関心を集めていることがわかる。

本学科の概要書を示し、受験・入学意欲について調査した結果、406 人（全体の 6.3%）が、本学科を「受験したい」と回答した。406 人の入学意欲を問う設問においては、184 人（上記の 406 人の 45.3%）が、「合格した場合、入学したい」と回答した。さらに「希望進路」、「学問分野」、「受験意欲」、「入学意欲」のクロス集計の結果、166 人が「受験したい」と回答し、そのうち 79 人が「合格した場合、入学したい」と強い入学意欲を示した。

今回の調査結果から、74 人の入学定員を超える入学希望者がいることが明らかとなったため、十分な学生数の確保が見込まれる。

Ｂ．保健系分野の学部・学科の志願動向

平成 30 年度から令和 4 年度の私立大学における「保健系」分野の志願者は、令和 2 年度を除き、18 万人台で推移している。学部・学科の増加による入学定員増加により、志願倍率が低下したと考えられるが、4.64 倍以上の志願倍率を維持している。学部数が最も多い看護学部を除いた場合でも、志願者はおおよそ 13 万人で推移しており、その志願倍率は 4.44

倍以上となっている。これらのことから、全国的に「保健系」分野への進学志望者が多いことが示されている【資料 10】。

既存の臨床検査専門学校への入学者が最も多い福岡県と、近隣の熊本県に所在する大学のうち、臨床検査技師養成課程を設置している国立大学は 2 校、私立大学は 3 校である。平成 30 年度から令和 4 年度の志願者は、募集定員を上回っており、ほとんどの年度で募集定員以上の入学者を確保していることから、一定の志願者及び入学者の確保が見込まれる【資料 11】。

Ｃ．中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向

文部科学省「学校基本調査」によると、日本の 18 歳人口は、令和 3 年の約 114 万人から令和 15 年の約 101 万人へと 11.2%減少することが予測されている【資料 12】。一方、福岡県では 1.5%の減少、福岡県を含む九州地方の 7 県でも 6.6%の減少にとどまると予想される。既存の臨床検査専門学校の令和 4 年度入学者は、福岡県の高等学校出身者の割合が 47.5%と最も高く、九州地方の高等学校出身者が全体の 87.5%を占める。また、久留米大学医学部でも、同様に九州地方の高等学校出身者が大部分を占めている【資料 13】。なお、福岡県の高等学校出身者は、地元大学への進学率が高く【資料 14】、中長期的に入学者の確保が期待される。

Ｄ．競合校の状況

既存の臨床検査専門学校の競合校、本学科の立地、入学者選抜方法・入試科目から想定される受験者層、定員の規模等から、【資料 11】にある近隣の大学のうち、純真学園大学、国際医療福祉大学、熊本保健科学大学を競合校に設定した。競合校における入学定員超過率は、平成 30 年度から令和 4 年度のほぼ全ての年度で 1 以上となっている。公表されているデータによると、令和 4 年度の志願倍率は 3.08～4.17 倍、歩留まり率は 49.79～61.26%であることから、臨床検査技師養成学科への高い入学希望がうかがえる。これらの状況と競合校の入学定員が、本学科の入学定員 74 名より多いことから、本学科が新たに臨床検査技師養成課程を設置しても、確実な学生確保が見込まれる。

Ｅ．既設学部等の学生確保の状況

平成 30 年度から令和 4 年度における既存の臨床検査専門学校の入学定員超過率は令和 2 年度を除き、1.00 以上となっている【資料 4】。また、同時期における久留米大学 6 学部 13 学科の平均入学定員超過率は 1.03～1.14 となっている【資料 2】。上記のＡ～Ｄ項の分析結果に加え、久留米大学全体が適切な入学定員超過率を維持していることから、学科設置後も十分な学生の確保が見込まれる。

Ｆ．その他、久留米大学において検討・分析した事項

第三者機関への委託による「設置構想についての高校生アンケート調査」によると、本学科の教育の特色に対する興味・関心については、臨床検査技師や医療に関する項目が関心を集め、全体の 53.2%を占めている【資料 9】。「久留米大学医学部の教育研究力を有効に活用した質の高い臨床検査専門教育が基盤となっていること」は 796 人（12.3%）、「全学的な文医融合プログラムの実施により、時代のニーズにあったヘルスサイエンス教育が実施されること」は 642 人（9.9%）となった。この結果から、配布資料の説明だけでは、医学部における基礎研究や、文系・医系の学部横断的な学びが、十分に伝わっていないことが示唆された。広報活動、高校訪問、オープンキャンパスにおいて、久留米大学の研究力や文医融合プログラムの利点を丁寧に説明していくことで、一層の志願者の確保に努めていきたい。

オ　学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果

設置認可申請に先駆け、令和 4 年 5 月 30 日に大学ホームページに「新学科の設置構想」を掲載し、新学科の概要及び既存の臨床検査専門学校の学生募集停止の発表を行った。臨床検査専門学校が行ってきた高校訪問やオープンキャンパスの経験・実績を活用し、本学科の趣旨、全学的文医融合プログラムを含めた教育の認知度の向上に努め、志願者の確保につなげていく。

≪令和 5 年度に予定している学生確保に向けた取り組み≫

前述の設置認可申請に向けた高等学校生を対象にしたアンケート調査から、本学科へ高いニーズが示されていることから、久留米大学の入試課、広報室、本学科の専任教員予定者との協力・連携により、学生確保に向けた取り組みを積極的に展開していく。

（1）高校訪問

既存の臨床検査専門学校では、入学者の多くが、福岡県を含む北部九州地域の出身であることから、福岡県、近隣の佐賀県と熊本県の高校訪問を行っていた。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の流行のために、高校訪問を行っていなかったが、平成 29 年度には 75 校を訪問し、25 校から受験者を募ることができた。これに対して、令和 3 年度に本学入試課が訪問した高等学校は 1,253 校であり、臨床検査専門学校を遥かに上回る規模となるため、より多くの志願者を募ることが期待できる。

（2）進学相談会・大学進学ガイダンスへの参加、入試説明会の開催

本学入試課は、各地で開催される進学相談会に参加し、受験生や保護者へ、入試、学生生活、就職状況などについて、直接説明する機会を設けている。令和 4 年度は、久留米大学への入学者が多い地域を中心として、福岡県 19 回、佐賀県 6 回、長崎県 9 回、熊本県 5 回、大分県 15 回、宮崎県 6 回、鹿児島県 8 回、沖縄県 3 回、山口県 7 回の合計 78 回の

進学相談会に参加した。また、高等学校で開催される大学進学ガイダンスには97回参加し、久留米大学の周知に努めている。さらに、本学独自の取り組みとして、高等学校教員を対象とした全学部の単独入試説明会を、対面及び動画配信を用いて行っている。令和5年度も引き続き、進学相談会及び大学進学ガイダンスへの参加、単独入試説明会を開催し、より多くの志願者の確保を目指す。

（3）オープンキャンパスの開催

既存の臨床検査専門学校では、オープンキャンパスを毎年8月に開催している。オープンキャンパスは、臨床検査技師に興味を持つ受験生や保護者に、本学の特徴や学校の生活を直接紹介できる絶好の機会とし、在校生が主体となって企画と運営を行っている。また、オープンキャンパスに参加できない希望者には、インターネットを用いた教職員による個別相談・入試説明を行っている。これに加えて、本学においては令和5年3月26日に、全学部・学科への志望者を対象に「春のミニオープンキャンパス」を開催する。新設予定の本学科をいち早く紹介するガイダンスや臨床検査技師の仕事を知ることができる体験ブースを設け、本学科の周知を行う。令和5年7月には、本学科単独でのオープンキャンパスを開催する予定である。

（4）広報活動、大学ホームページを利用した情報発信

本学科専用のポスター及びパンフレットを作成し、高等学校へ配布、説明会やオープンキャンパス等での配布を行う。大学ホームページ上での情報発信に加え、受験対象者に向けた「大学案内」「入試ガイド」の公開、希望者には配布を行い、志願者の確保に努める。さらに、JR 九州や西鉄電車の駅構内広告、新聞社広告などを行い、本学科の認知度の向上を図っていく。

２．人材需要の動向等社会の要請

ア　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学科では、久留米大学の基本理念である「地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成」に基づき、多様で高度な医療と社会のニーズに対応でき、将来にわたって専門家として活躍できる臨床検査技師の育成を教育上の目的としている。学生が卒業までに修得すべき資質や能力を、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）として定めた。

医療検査学科におけるディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

１）医療人・研究者として高い倫理観と豊かな人間性が備わっている。
２）臨床検査の基本的知識・技術を修得できており、実践する能力がある。
３）医療チームの一員として医療活動に参画し、適切な臨床検査を提供できる。

４）社会における多様な臨床検査のニーズに対応する能力がある。
５）科学的思考力を身に付けており、生涯学習を行う意欲と習慣が備わっている。

イ　上記アが社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

（１）社会・地域における臨床検査技師需要の拡大

高齢化社会の進展や生活習慣の多様化により、急性疾患からがん、糖尿病、神経疾患などの慢性疾患へと疾病構造が変化し、医療ニーズの多様化が起きている。加えて、介護が必要な高齢者の数が増加しており、医療は治療だけでなく、生活の質（QOL）の維持・向上、健康管理、予防医学、介護の視点を併せ持つ必要が高まっている。こうした背景のもと、令和３年７月の臨床検査技師に関する法律施行令・施行規則の改正により、「医師の働き方改革」を受け、採取できる検体の種類や実施できる生理検査項目が増加した。さらに、静脈路確保から成分採血・電解質輸液の注入・超音波検査時の造影剤注入など高度な専門技術と医療安全知識が必要とされる業務を担えるようになった。また、直接的な医療に加え、安全で適切な医療提供及びゲノム治療の実用化に向けた、検体検査における品質・精度保証に関する責任者、これらの研修を行う責任者としての業務を担えるようになり、その業務範囲は拡大を続けている。これらの業務に加え、多様化した医療ニーズに対応するために、多職種連携による「チーム医療」の一員としての役割を担うようになり、「地域包括ケアシステム」の構築が進む中、将来的には在宅医療への参入も提言されている。今後、さらに高齢者人口が増加する中、医療需要の増大が予想され、最先端の医学知識と高度な検査技術を持つ臨床検査技師の需要は、今後も高まるものと考えられる。

（２）これまでの実績と地域社会からの要望

既存の臨床検査専門学校では、医学部附属の臨床検査技師養成校として、質の高い医学教育と臨床検査専門教育を実践しており、臨床検査技師国家試験合格率は、近隣の4年制の大学を上回る成績を上げている【資料15】。さらに、実習と臨地実習を重視した教育は就職先の医療機関においても高く評価されており、就職を希望する学生のほぼ100%が医療機関等に就職している【資料16】。これまでの卒業生の臨床検査技師としての働き、地域の保健医療への貢献から、本学科が育成する次世代型臨床検査技師が地域の保健医療のさらなる発展と、指導的な役割の担い手として地域の期待は大きく、久留米市、福岡県臨床衛生検査技師会、福岡県医師会、さらに近隣の佐賀県、佐賀県臨床検査技師会、佐賀県医師会から本学科設置の要望書、意見書が寄せられている【資料17】。

本学科が目的とする最先端のバイオサイエンス、データサイエンス、医療情報管理に精通した臨床検査技師は、「本学科の卒業生に対する社会ニーズと採用意向」に示されているように、医療機関だけではなく、一般企業からもそのニーズが高く評価されている。さらに、高い知識と研究マインドを併せ持つ人材として、創薬、機能性表示食品、生物生産

技術の研究・開発の担い手としても期待されており、久留米市と福岡県が地域の産学官連携によりバイオ関連産業の振興・拠点化を推進する「福岡バイオコミュニティ推進会議」の事務局からも要望書が寄せられている【資料 17】。

以上のことから、本学科卒業生への社会的・地域的な人材需要は着実に増加することが見込まれる。

（３）本学科の卒業生に対する社会ニーズと採用意向

本学科卒業生に対する採用意向、本学科の社会的ニーズを検証するために、第三者機関である「株式会社高等教育総合研究所」への委託により、本学科の設置構想に関するアンケート調査を実施した【資料 18-1】【資料 18-2】。

・第三者機関による事業所アンケート調査の概要

① 調査時期

令和 4 年 10 月から令和 4 年 12 月

② 調査対象

福岡県を中心に事業を展開する施設・企業のうち、本学科卒業生の採用が期待される合計 1,401 施設

③ 調査方法

調査対象の人事・採用担当者宛てに依頼状、本学科の概要説明書、アンケート調査用紙、返信用封筒を送付した。アンケート調査用紙または WEB 調査により回答を得た。

④ 回答件数

229 件（回答率 16.3%）

・アンケート調査の結果と分析

アンケート結果【資料 19】によると、本学科の社会的ニーズに関する設問では、「ニーズは極めて高い」が 43 件（18.8%）、「ニーズはある程度高い」が 143 件（62.4%）、「ニーズはあまり高くない」が 26 件（11.4%）、「ニーズは高くない」が 1 件（0.4%）となった。ニーズの高さを示す回答が全体の 81.2%を占めたことから、本学科の社会的ニーズの高さが示された。本学科の卒業生の採用意向に関する設問では、「採用したい」が 176 件（76.9%）、「採用したくない」が 47 件（20.5%）となり、多くの施設が本学科の卒業生の採用意向を示した。また、「採用意向」「採用可能人数」のクロス集計の結果、卒業生を採用したいと回答した施設 176 件の採用可能人数の合計は、204 名となった（「人数は未定」は 1 人とした）。一般企業からの回答を見ると、一般企業（製薬）では「採用したい」が 2 件（50%）、一般企業（医療機器）では「採用したい」が 6 件（85.7%）となり、卒業生の主な就職先として想定されている医療機関以外の業種からも高い採用意向を得ることができた。さらに採用の意向に

関わらず、回答を得た一般企業が、本学科の社会的ニーズを高く評価していることが分かった。これらのアンケート結果から、本学科の社会的ニーズが高く、医療機関や一般企業からの採用予定人数が入学定員よりも多いことから、卒業生に対する需要は十分に高いものであると考えられる。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料 1】　全国の私立大学における志願者・入学者数の動向
【資料 2】　久留米大学における既設学部の学生確保の状況
【資料 3】　THE 世界大学ランキング 2023
【資料 4】　久留米大学医学部附属臨床検査専門学校における学生確保の状況
【資料 5】　学校法人久留米大学 将来構想 VISION 2022-2026
【資料 6-1】 調査用紙による高校生アンケート調査
【資料 6-2】 WEB による高校生アンケート調査
【資料 7】　高校生アンケート協力高校一覧
【資料 8】　高校生アンケート調査、採用意向アンケートに添付した久留米大学医学部「医療検査学科（仮称)」の概要説明書
【資料 9】　久留米大学 医学部 「医療検査学科（仮称)」設置構想についての高校生アンケート調査の結果報告書
【資料 10】 私立大学における「保健系」分野の入学志願状況
【資料 11】 臨床検査技師養成課程を設置する近隣大学の学生確保状況
【資料 12】 18 歳人口の推移：令和 3 年～令和 15 年
【資料 13】 出身高等学校の所在地県別　入学者数
【資料 14】 福岡県における自県進学率
【資料 15】 臨床検査技師国家試験の合格率
【資料 16】 久留米大学医学部附属臨床検査専門学校卒業生の進学・就職状況
【資料 17】 久留米大学医学部「医療検査学科（仮称)」設置の要望書・意見書
久留米市、福岡県臨床衛生検査技師会、福岡県医師会、佐賀県、佐賀県臨床検査技師会、佐賀県医師会、株式会社久留米リサーチ・パーク
【資料 18-1】調査用紙による採用意向アンケート調査
【資料 18-2】WEB による採用意向アンケート調査
【資料 19】 久留米大学 医学部 「医療検査学科（仮称)」設置構想についての採用意向アンケート調査の結果報告書

【資料 1】

全国の私立大学における志願者・入学者数の動向

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
集計学校数（校）	582	587	593	597	598
入学定員（人）	484,986	487,065	491,012	495,162	498,019
志願者数（人）	4,158,495	4,424,451	4,368,215	3,834,860	3,822,509
受験者数（人）	3,999,532	4,245,788	4,174,803	3,663,960	3,643,116
合格者数（人）	1,211,499	1,250,195	1,348,219	1,437,909	1,508,201
入学者数（人）	497,773	500,085	503,830	494,208	502,199
入学定員超過率	1.02	1.02	1.02	0.99	1.00
入学定員超過率 1.00 未満の学校数（校）	210	194	184	277	284
大学全体に占める 未超過校の割合（%）	36.08	33.04	31.02	46.39	47.49

※日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センターが公表したデータをもとに作成

※入学定員超過率 = 入学者数 ÷ 入学定員

※大学全体に占める未充足校の割合 = 入学定員充足率 100%未満の学校数 ÷ 集計学校数 x 100

比率の表記は、小数点以下第 3 位を切り捨てしたもの

【資料 2】1/2

久留米大学における既設学部の学生確保の状況

学部	学科	項目	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
文学部	心理学科	募集定員（人）	86	86	87	87	87
		志願者数（人）	496	540	652	562	583
		受験者数（人）	490	527	643	552	563
		合格者数（人）	241	235	238	218	262
		入学者数（人）	97	105	90	88	90
		入学定員超過率	1.12	1.22	1.03	1.01	1.03
	情報社会学科	募集定員（人）	53	53	54	54	54
		志願者数（人）	221	250	269	252	244
		受験者数（人）	220	247	263	244	236
		合格者数（人）	130	144	149	164	167
		入学者数（人）	68	59	57	56	58
		入学定員超過率	1.28	1.11	1.05	1.03	1.07
	国際文化学科 英語コミュニケーション専攻	募集定員（人）	52	52	53	53	53
		志願者数（人）	238	295	368	266	230
		受験者数（人）	236	294	360	263	218
		合格者数（人）	122	151	176	143	168
		入学者数（人）	61	51	64	56	48
		入学定員超過率	1.17	0.98	1.20	1.05	0.90
	国際文化学科 国際文化専攻	募集定員（人）	52	52	53	53	53
		志願者数（人）	304	319	360	380	341
		受験者数（人）	299	312	351	378	333
		合格者数（人）	145	159	174	162	210
		入学者数（人）	55	59	65	55	64
		入学定員超過率	1.06	1.13	1.22	1.03	1.20
	社会福祉学科	募集定員（人）	51	51	52	52	52
		志願者数（人）	230	225	263	261	181
		受験者数（人）	226	223	259	256	174
		合格者数（人）	136	133	134	122	130
		入学者数（人）	65	57	54	54	57
		入学定員超過率	1.27	1.11	1.03	1.03	1.09
人間健康学部	総合子ども学科	募集定員（人）	50	50	50	50	50
		志願者数（人）	207	228	207	207	163
		受験者数（人）	207	226	199	198	159
		合格者数（人）	126	126	141	127	128
		入学者数（人）	54	51	51	54	51
		入学定員超過率	1.08	1.02	1.02	1.08	1.02

※入学定員超過率 = 入学者数 ÷ 入学定員、比率の表記は小数点以下第 3 位を切り捨てしたもの

【資料 2】2/2

久留米大学における既設学部の学生確保の状況

学部	学科	項目	平成30年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
人間健康学部	スポーツ医科学科	募集定員（人）	70	70	70	70	70
		志願者数（人）	378	324	316	281	314
		受験者数（人）	375	318	310	276	306
		合格者数（人）	163	173	174	153	173
		入学者数（人）	84	86	82	74	71
		入学定員超過率	1.20	1.22	1.17	1.05	1.01
法学部	法律学科 国際政治学科	募集定員（人）	288	288	294	294	294
		志願者数（人）	1122	1027	1437	1233	1246
		受験者数（人）	1107	1014	1406	1184	1205
		合格者数（人）	766	788	835	846	920
		入学者数（人）	332	322	334	305	304
		入学定員超過率	1.15	1.11	1.13	1.03	1.03
経済学部	経済学科 文化経済学科	募集定員（人）	254	254	257	257	257
		志願者数（人）	1281	1470	1639	1448	1223
		受験者数（人）	1267	1455	1605	1407	1176
		合格者数（人）	730	726	765	736	737
		入学者数（人）	295	288	292	265	261
		入学定員超過率	1.16	1.13	1.13	1.03	1.01
商学部	商学科	募集定員（人）	250	250	250	250	250
		志願者数（人）	969	1112	1107	1154	1003
		受験者数（人）	959	1097	1084	1119	957
		合格者数（人）	529	523	545	480	542
		入学者数（人）	292	278	285	259	259
		入学定員超過率	1.17	1.11	1.14	1.03	1.03
医学部	医学科	募集定員（人）	115	115	115	115	115
		志願者数（人）	2364	2917	3387	3110	2468
		受験者数（人）	2171	2598	3049	2861	2203
		合格者数（人）	193	208	198	198	189
		入学者数（人）	116	117	116	116	116
		入学定員超過率	1.00	1.01	1.00	1.00	1.00
	看護学科	募集定員（人）	110	110	110	110	110
		志願者数（人）	792	867	838	802	711
		受験者数（人）	780	862	827	780	699
		合格者数（人）	254	234	267	240	274
		入学者数（人）	117	118	118	119	119
		入学定員超過率	1.06	1.07	1.07	1.08	1.08
全学部学科の平均入学定員超過率			1.14	1.11	1.11	1.03	1.03

※入学定員超過率 = 入学者数 ÷ 入学定員、比率の表記は小数点以下第 3 位を切り捨てしたもの

【資料 3】

THE 世界大学ランキング 2023

国内順位	世界順位	大学名	総合スコア	教育	研究	被引用論文	産業界からの収入	国際性
1	39	東京大学	75.9	88.1	91.4	55.5	86.7	43.3
2	68	京都大学	68	77.5	79.1	52.3	88.6	40.5
3	201-250	東北大学	51.2-54.3	59.1	62.3	36.8	94.5	51.1
4	251-300	大阪大学	48.9-51.1	54.3	60.9	31.8	96.4	42.2
5	301-350	名古屋大学	47.0-48.7	48.4	54.1	39.7	99.2	35.8
	301-350	東京工業大学	47.0-48.7	49.7	58.2	31	80	50
7	501-600	北海道大学	39.3-42.0	43.1	40.8	32.2	65.4	44
	501-600	九州大学	39.3-42.0	46	42.5	34.8	71	43.6
	501-600	東京医科歯科大学	39.3-42.0	45.1	29.7	44	74.5	31.7
	501-600	筑波大学	39.3-42.0	43.9	37.8	38.5	43.7	43
	601-800	関西医科大学	34.0-39.2	27.6	8.5	82.6	38.1	18.2
	601-800	産業医科大学	34.0-39.2	27.1	10.8	78.6	42.1	20.3
	601-800	横浜市立大学	34.0-39.2	26.4	10.2	82.8	47.6	25.2
14	801-1000	会津大学	29.8–33.9	21.9	13	50.8	40	74.6
	801-1000	藤田医科大学	29.8–33.9	25.1	11.7	64.0	40.2	20.5
	801-1000	広島大学	29.8–33.9	32.5	23.5	29.7	49.6	38.6
	801-1000	順天堂大学	29.8–33.9	33.5	18.6	47.3	52.9	22.8
	801-1000	慶応大学	29.8–33.9	31.8	24.7	44.3	44.9	33.7
	801-1000	近畿大学	29.8–33.9	19.7	11.0	59.8	41.3	27.6
	801-1000	神戸大学	29.8–33.9	33.3	25.2	38.5	46.7	33.1
	801-1000	久留米大学	29.8–33.9	23.0	11.0	60.5	39.4	23.8
	801-1000	日本医科大学	29.8–33.9	26.8	9.5	64.4	37.3	18.4

※Times Higher Education (THE)が公表したランキングをもとに作成

【資料 4】

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校における学生確保の状況

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	40	40	40	40	40
志願者数（人）	92	124	89	98	92
受験者数（人）	91	122	86	98	91
合格者数（人）	65	69	56	67	58
入学者数（人）	48	51	36	53	40
志願倍率（倍）	2.30	3.10	2.22	2.45	2.30
入学定員超過率（倍）	1.20	1.27	0.90	1.32	1.00

※志願倍率 = 志願者数 ÷ 入学定員、入学定員超過率 = 入学者数 ÷ 入学定員

比率の表記は、小数点以下第 3 位を切り捨てしたもの

学校法人 久留米大学

将来構想 VISION 2022-2026

【資料5】

学校法人久留米大学将来構想 Vision 2022-2026 の答申について

◆はじめに

本学の中期計画は、平成24年から平成28年の「久留米大学基本構想」に始まり、現在の「久留米大学将来構想 Vision 2017-2021」へと引き継がれ今日に至っています。現将来構想も令和３年度に最終年度を迎え、令和３年当初より新たな中期計画の検討に着手しました。

建学の精神、基本理念を礎に、これから５年間取り組んでいくビジョン及び全学的な目標を掲げ、部門毎の達成目標、行動目標を設定しました。ここに、第３次中期計画となる「学校法人久留米大学将来構想 Vision 2022-2026」を全学的共通目標（課題）として掲げ、2022年度（令和４年度）から開始する５年間の指標とさせていただきますので、皆さまに共有いたします。

「久留米大学将来構想 Vision 2022-2026」の策定プロセスについて

現在の久留米大学将来構想策定会議において、新たな中期計画は「将来構想 Vision 2017-2021」を引き継ぐ形で検討を行い、①フレームの統一、②重点項目の設定、③定量的指標とする KPI（Key Performance　Indicator）の設定重視等、計画策定における形成と構造を見直しました。そして、Society5.0による人間中心の社会の実現に向けたデジタル化や SDGs、ダイバーシティの推進及びこれまで取り組んできた文医融合を加え、部門毎の６つの検討委員会で議論を重ね、重点項目毎に行動目標、行動計画を設定しました。

教学部門には、御井キャンパス検討委員会、旭町キャンパス検討委員会、附設高中校検討委員会の３つを、医療部門には、大学病院検討委員会及び医療センター検討委員会の２つを、そして部門間の共通課題や部門を越える全学的な取組み、各部門への提言や全体的調整等、大局的な役割とする全学共通事項検討委員会で議論を重ね、第24回将来構想策定会議で承認されました。

◆おわりに

本学の使命である教育・研究・医療および社会貢献の質向上とこれらを実現するためには、「安定した経営基盤の確立」は不可欠であり、財務基盤の強化に向けた取組みを行うことが引き続き最重要課題となります。2028年（令和10年）に本学は創立100周年を迎えます。変化に強い、時代に順応できる大学、今後も求められる大学、地域を牽引していく久留米大学を目指し、我々が歴史を刻むという気概を持ち、更なる発展に向け前進してまいる所存ですので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

2022年３月

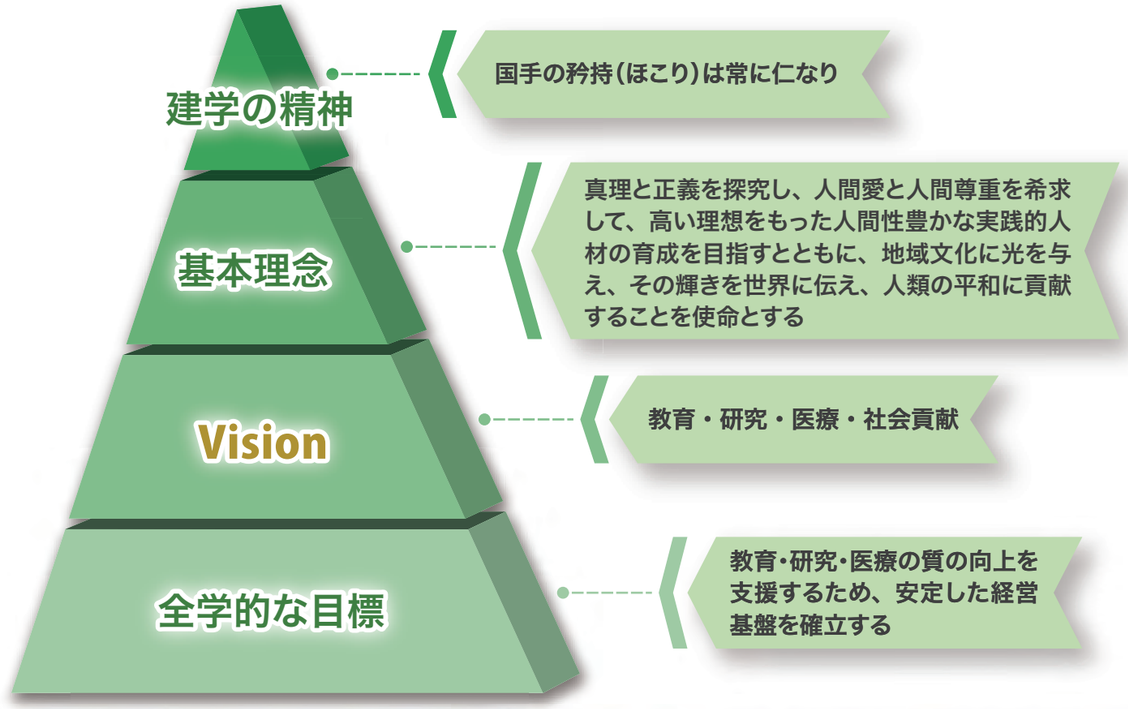
学校法人久留米大学将来構想策定会議
議　長　　永　田　見　生
副議長　　内　村　直　尚

久留米大学の将来構想について

本学の将来構想は、学校法人久留米大学の中長期に亘る将来的な基本構想を策定し推進することを目的に、理事長の下に久留米大学将来構想策定会議を設置しています。この会議で議論している将来構想とは、今後５年から10年後の大学の将来像、到達目標で、本学のあるべき姿、目指す姿というべきものです。建学の精神と基本理念のもと、全学的な目標およびビジョンを掲げ、中期計画を着実に実行するため PDCA による進捗管理を徹底するほか、構成員への理解を深めるため情報発信等を行っています。

このビジョンとは、基本理念を実現するための細分化した目標であり、教職員が判断に迷った時に進むべき方向を分かりやすく示したものです。

将来構想構図



【資料5】

学校法人 久留米大学

VISION

私たち久留米大学は、教育・研究・医療・社会貢献の4つのビジョンを掲げ、持続可能な社会の実現を視野にさまざまな取り組みを進めていきます。

教育ビジョン

私達の目指す **教育**

【大学】
- 世の中の多様化に適応し、変革と創造のできる実践的　人材の育成

【附設高等学校・中学校】
- 社会的影響力を発揮できる　人材の育成
- 多様な価値観の尊重

研究ビジョン

私達の目指す **研究**

- 先端的研究の世界への発信
- 地域に根ざした研究を通じた地域への貢献

グラウンド　イメージ図

御井本館
人間健康学部新設

医学部看護学科　イメージ図
新校舎

医療ビジョン

私達の目指す **医療**

- 高度な先進的医療と地域に根ざした医療の実践

社会貢献 ビジョン

私達の目指す **社会貢献**

- 地域から世界へ広がる連携強化による持続可能な社会への貢献

2012 第1次中長期計画 基本構想 Vision 2012-2016
2013
2014
2015
2016
2017 90th Anniversary
2018 第2次中長期計画 将来構想 Vision 2017-2021
2019
2020
2021 第3次 中期計画 将来構想 Vision 2022-2026
2022
2023
2024
2025 附設高等学校 創立75周年
2026
2027 第4次中期計画へ
2028
2029
2030
2031 100th

RESEARCH
BACKGROUND FOR

【資料5】

御井キャンパス

戦略目標：学内外の連携を深め、多様な志願者を集め、特色のある教育を推進することにより、教育の質を確保する。

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
A 文系総合	御）A−1 ・社会環境に対応した教育組織の整備	1	学部・学科、大学院、別科の在り方の点検（将来像、現行課題など）と対応
		2	附置研究所及び学部横断的組織の位置づけの点検
	御）A−2 ・学部横断的な計画的管理	1	教員組織編成の定期的点検と人事計画の実施（人事制度点検含む）
		2	御井学舎施設整備計画策定と予算管理計画化
		3	学生情報全般に係るIRの部門間連携の組織化
B 学生受け入れ	御）B−1 ・本学理念の理解を広める情報発信	1	エビデンスに基づいた学生受け入れ方針の点検
		2	高等学校との連携強化
		3	新たなメディアをふくめた戦略的な広報
	御）B−2 ・社会環境に対応した多角的な入学者選抜	1	社会動向を考慮した入試制度の計画的な変更調整
		2	受験生のニーズに対応した効率的な入試方法の円滑な実施
		3	別科・学部・大学院の間の連携を通じた入学者の確保
C 教育および学修支援	御）C−1 ・時代の変化に対応した教育制度の整備と運営	1	学位教育の到達目標に即した教育制度の編成
		2	学位アセスメントの制度整備と実施（ディプロマサプリメントを含む）
		3	体系性・順序性を担保した効果的な教育運営
		4	ポストコロナを見据えた新しい教育制度・運営方法の探求 （他大学等外部連携含む）
	御）C−2 ・教育の質を保証する教育運営改善	1	IRを通じた学生の学修行動と教育成果の把握
		2	学修ポートフォリオの活用による学習成果の可視化
		3	授業方法の改善（FD/SD）（学生授業評価利用含む＋ティーチングポートフォリオ）
	御）C−3 ・特色ある教育プログラムの拡充	1	情報化への対応（ICT教育＋データサイエンス）
		2	変動する国際化への対応（語学教育、留学支援）
		3	アクティブラーニング型授業・社会連携教育の組織的推進
		4	キャリア教育および資格教育の充実化
		5	リカレント教育プログラムの整備・充実化（社会人教育・専門職大学院含む）
	御）C−4 ・きめ細かな学生支援の充実化	1	担任制と学生支援室の連携による組織的助言指導
		2	障がい者など学生の多様性に対応した支援の充実化
		3	人間教育としての学友会活動の活性化
D 進学・就職支援	御）D−1 ・社会の要請と学生の志向に配慮した進路支援	1	地域社会や卒業生との連携強化による多様な進路選択の支援
		2	データ管理システム改善による就職支援の効率化

戦略目標：特色のある研究の展開を図り、研究のブランド化を進めると共に外部資金獲得の強化を図る。

E 研究（研究活動活性化）	御）E−1 ・研究力の強化と研究成果の発信	1	社会課題の解決に取り組む研究の支援
		2	外部の競争的資金の応募・採択の支援
		3	研究成果・学術情報の集約と公開・発信
	御）E−2 ・研究管理の適切化	1	附置研究所等の共同研究の管理・計画化
		2	研究活動コンプライアンスの強化

戦略目標：学内一体となった地域連携・産学官連携を推進し、持続可能な地域と国際社会の発展に寄与する。

F 社会貢献・地方創生	御）F−1 ・地域社会との連携推進と拠点整備	1	地域連携活動の推進と組織化
		2	福岡サテライトの活用
		3	900号館の活用

旭町キャンパス

戦略目標：学内外の連携を深め、多様な志願者を集め、特色のある教育を推進することにより、教育の質を確保する。

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
A 医系総合	旭）A−1 ・社会環境に対応した教育組織の整備	1	学部・学科、大学院の現状の点検と将来構想の検討
		2	附置研究所等の在り方と将来像についての検討
	旭）A−2 ・医学部内の学科横断的な計画的管理	1	学生カルテの導入検討
		2	ICTを用いた教育環境整備の検討
		3	医学部連携プログラムによる多職種連携教育の提供
		4	旭町キャンパス施設整備計画
	旭）A−3 ・災害時の学生の安全確保を強化	1	安否確認制度の見直し
		2	災害時避難訓練計画の策定
B 学生受け入れ	旭）B−1 ・優秀な学生の受入	1	特徴ある入試戦略の展開（医学科）
		2	奨学金制度検討（医学科）
		3	保健師教育課程の選抜定員の維持（看護学科）
		4	看護学科教育棟の新築（看護学科）
		5	入学定員の増員（看護学科）
		6	推薦入学者予定者への入学前支援（看護学科）
		7	社会人や海外からの志願者増加を見据えた入試制度の見直し（医学研究科）
		8	動的能力（臨床力）向上についてHPを介した情報発信及び講座のリンクも含めた総合的英語版HPの構築
		9	女性支援についてHPを介した情報発信
	旭）B−2 ・次世代型臨床検査技師として活躍できる学生の確保 （医療検査学科）	1	他大学と差別化できる魅力的な教育プログラムの構築
		2	「求める学生像」の入学者を確保するための入試制度の構築
		3	学生確保と就職先確保の見通しの検討 （アンケート調査）
		4	新学科設置の広報活動の実施

【資料5】

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
C−a 学生支援	旭）C−a−1 ・大学の特性を活かした学生支援制度の充実、新支援制度の導入と確立	1	短期留学制度の設立（医学科）
		2	学生支援体制の強化（医学科／看護学科）
		3	学生相談室、学生支援室の有効活用（医学科／看護学科）
		4	学生寮を活用した教育制度の見直しの検討（医学科）
	旭）C−a−2 ・DI推進（医学研究科）	1	女性研究者支援制度の検討
		2	研究発表を通じた活動内容の発信
	旭）C−a−3 ・研究環境の整備と院生間の交流推進・拡大（医学研究科）	1	外国人教員・学生受け入れの構築
C−b 教育の質の向上	旭）C−b−1 ・医学科の教育の質向上	1	医学教育分野別評価認証の受審結果（指摘事項）への対応
	旭）C−b−2 ・教員の教育力の向上	1	講義法改善のFD
		2	教育成果の検証と成績不振者対策
		3	到達目標と成果評価を明確化
	旭）C−b−3 ・学生のモチベーションの維持・向上（医学科）	1	時代や社会状況に応じた切れ目のないカリキュラム（講義・実習）の改善の検討
		2	USMLE STEP1試験の有効活用
	旭）C−b−4 ・看護学教育評価認定の取得と看護学科カリキュラムマネジメントのための学習成果の可視化（看護学科）	1	日本看護学教育評価機構（JABNE）の評価申請の準備 日本看護学教育評価機構（JABNE）の評価の申請・受審
		2	ポートフォリオ（実習ポートフォリオ／学習ポートフォリオ）の充実によるアセスメント戦略の推進
	旭）C−b−5 ・国際性を伴う大学院教育の充実と改善：アジアさらには世界に開かれた研究拠点（医学研究科）	1	外国人入学者向けカリキュラム充実
		2	国際交流事業を活性化し世界的知名度向上を目指す
	旭）C−b−6 ・基礎研究及び臨床研究の推進と大学院生の動的能力向上計画作成と実行（医学研究科）	1	大学院生のコミュニケーション能力向上
		2	臨床医に必要な動的能力向上を目的とした医学研究科カリキュラムの作成
	旭）C−b−7 ・多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型臨床検査技師を育成（医療検査学科）	1	医学部の質の高い臨床検査専門教育の提供
		2	全学的文医融合プログラムによるヘルスサイエンス教育の提供
		3	教育・実習施設の整備
		4	臨地実習病院の確保（臨検校より34名の定員増加）

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
D 進学・就職	旭）D−1 ・新卒者の医師国家試験合格率95%以上（医学科）	1	ディプロマポリシー遵守のための評価の厳格化
		2	臨床研修へのスムーズな移行を支援
		3	医師国家試験支援体制の拡充
	旭）D−2 ・看護師及び保健師の国家試験合格率を100%とする（看護学科）	1	ディプロマポリシー達成度の定期的な確認
		2	模擬試験企画。成績結果のアドバイザー教員との共有による個別指導及び国試就職委員会での個別指導の継続
	旭）D−3 ・臨床検査技師国家試験合格率100%の達成（医療検査学科）	1	臨床検査技師国家試験の支援体制の充実
		2	ダブルライセンス：診療情報管理士試験の支援体制の充実
	旭）D−4 ・修士課程の教育の質の担保	1	優秀な学生の受け入れのため、入試の時期を早める
		2	学習支援体制の充実と終了後の各種認定審査受審にむけた支援体制の充実
	旭）D−5 ・博士課程の教育の質の担保	1	大学院医学研究科博士課程に「看護学専攻」の設置を検討
	旭）D−6 ・博士号取得者の質担保を目的とした久留米モデルの構築	1	質の高い博士号取得を目指した久留米モデルの確立

戦略目標：特色のある研究の展開を図り、研究のブランド化を進めると共に外部資金獲得の強化を図る。

E 研究（研究活動活性化）	旭）E−1 ・質の高い研究を推進し、RMCP実習（医学科）や研究Ⅰ（2学年）・Ⅱ（3学年）・Ⅲ（4学年）（看護学科）による研究マインドの醸成	1	学会発表や論文発表の積極的取組み
		2	研究者や大学院進学希望者の増加（医学科／看護学科）
	旭）E−2 ・研究活動の推進	1	文部科研、厚労科研、AMEDの申請件数と採択率向上の取組み
	旭）E−3 ・研究室配属による研究の実践（医療検査学科）	1	臨床検査応用選択コースによる研究の実践
		2	ヘルスサイエンスコース（バイオ・データ・マネジメントによる研究の実践）
		3	大学院修士課程進学を希望する学生の育成

戦略目標：学内一体となった地域連携・産学官連携を推進し、持続可能な地域と国際社会の発展に寄与する。

F 社会貢献・地方創生	旭）F−1 ・御井キャンパスの地域連携部門との関連を高める（医学部）	1	社会貢献活動を評価する
	旭）F−2 ・研究成果の地域への発信	1	HPやSNSを介した研究業績の発信と市民公開講座の開設

全学

戦略目標：学内外の連携を深め、多様な志願者を集め、特色のある教育を推進することにより、教育の質を確保する。

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
A 全学	全学）A−1 ・全学的な教育・研究の推進及び管理体制の整備	1	国の施策（指針）についての対応方針策定
		2	研究倫理教育及び研究費等の不正使用防止体制の強化（研究不正防止計画に基づく）
		3	研究支援及び研究体制の強化
		4	研究・教育におけるDI（ダイバーシティ・インクルージョン）の推進と環境整備
		5	近隣教育機関等との全学的な連携の推進
		6	DXを通じた業務運営・改善
	全学）A−2 ・文医融合の推進・強化	1	文医融合の教育・研究の推進（SDGs含む）
		2	文医融合推進による御井学舎からの医学研究科志願者確保
		3	医療経営研究センターの3領域（医療経営・大学院教育・社会還元）一層の充実

【資料5】

大学病院

戦略目標：機能分化と連携強化をすすめ、高度な医療でブランド化を図る。

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
A 財務基盤	病）A−1 ・医療収入の増加	1	病床稼働率の向上 ①診療科別入院患者目標数の達成
		2	病床稼働率の向上 ②病床機能や病床数の適正な配置
		3	外来における初診患者数の増加
		4	手術件数の増加
		5	がん医療の充実
		6	救急医療の充実
		7	小児・周産期医療の充実
	病）A−2 ・収支バランスの検証と改善	1	薬剤に関する収支バランスの検証と改善
		2	医療材料に関する収支バランスの検証と改善
		3	委託費や保守料の削減
	病）A−3 ・高度医療実践のための診療機器や設備等の充実と費用対効果の検証	1	高度医療実践のために診療機器や設備等の充実を図るとともに、特に高額な機器設置後の費用対効果について、定期的な検証を行う
	病）A−4 ・診療報酬請求における精度の向上	1	診療報酬請求における査定対策の強化
B 顧客満足度（サービス・質）	病）B−1 ・患者満足度の向上	1	患者満足度調査の「総合評価」における最高評価割合の向上
		2	「外来待ち時間」短縮に向けた取組みの強化
		3	患者が求めている情報を分かりやすく伝えるとともに、他院と差別化できるブランドイメージの確立を目指すべく、広報紙やホームページ等の充実を図る
		4	診療プロセスに関し、患者が理解できるよう説明・同意を徹底する
	病）B−2 ・紹介元医療機関の満足度向上	1	紹介率や逆紹介率の向上
		2	新たに開始した診療や新規導入機器の紹介など、医療機関が求めている情報を的確に発信すべく、医療機関向け広報紙やホームページ等の充実を目指す
		3	久留米大学関連医療施設協議会との連携強化
C 業務改善	病）C−1 ・看護部門におけるBSCの推進	1	看護部門におけるBSCの推進
	病）C−2 ・中央部門における治療・検査効率の向上	1	放射線部門（画像診断センター、放射線腫瘍センター、核医学・PETセンター、血管造影部門）における検査効率等の向上
		2	臨床検査部門における検査効率等の向上
		3	リハビリテーション部門におけるリハビリ効率等の向上
	病）C−3 ・業務改善の手段としてのDX活用	1	業務負担の軽減と生産性向上等に資するAIやICTの利活用を推進する
	病）C−4 ・非常事態・緊急時における診療機能の維持	1	風水害・地震等を想定した災害訓練の実施と事業継続計画（BCP）の定期的な見直し
		2	新興感染症への対応と高度な医療提供の両立
D 人材確保と育成	病）D−1 ・働き方改革の推進と勤務環境の改善	1	働きやすい職場環境の構築により、教職員の健康と安全を確保するとともに、医療の質を高め、患者の安全と健康の確保に繋げる
	病）D−2 ・安全で質の高い医療を提供する体制の強化	1	特定機能病院としての安全で質の高い医療を提供する体制の強化
		2	職員に対する効果的な研修の実施
	病）D−3 ・臨床研修体制の改善	1	研修環境の改善
		2	指導医の資質向上

大学病院

【資料5】

医療センター

戦略目標：機能分化と連携強化をすすめ、高度な医療でブランド化を図る。

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
A 財務基盤	医C）A−1 ・収益向上と経営の効率化による安定した基盤の構築	1	積極的な患者受入
		2	積極的な院外での地域医療連携活動
		3	効率的な手術室運営
		4	適正な診療報酬請求と積極的な加算取得
		5	経費節減活動
		6	各診療科クリニカルパスの改訂
	医C）A−2 ・新収益軸の確立	1	関連団体の積極的な利用
		2	診療形態の多様化
B 顧客満足度（サービス・質）	医C）B−1 ・地域に選ばれる病院づくり	1	顧客満足度調査実施
		2	院内施設設備の整備
		3	入退院支援、外来予約方法検討
		4	地域医療従事者に向けた情報発信
		5	医療・施設からのワンポイント相談（受診相談など）の充実
		6	久留米市包括ケアシステム（KICS）基幹病院体制の構築
	医C）B−2 ・安全で質の高い医療を提供する体制の維持向上	1	医療安全、感染対策室の組織強化
		2	クリニカルインディケーターの整備・公表
C 業務改善	医C）C−1 ・医療センター、大学病院の機能分化の推進	1	機能分化後の適正な人員配置と検証
	医C）C−2 ・適正な人員配置と働き方改革の推進	1	医療スタッフの配置・勤務体制検討
		2	DXの推進
	医C）C−3 ・災害対策体制の整備	1	BCPマニュアルに沿った訓練実施と評価
		2	大学病院放射線設備等の浸水被害回避に向けた医療センター移転の検討
D 人材確保と育成	医C）D−1 ・患者の尊厳を守る、人間性豊かな医療従事者の育成	1	医師力育成のための研修制度の充実
		2	専門医、認定医の育成
		3	高度技能を有するコメディカルの育成
		4	コメディカル部門の研修の充実
		5	次世代医療人としての学生教育の推進

附設高等学校・中学校

戦略目標：志願者を確保するとともに、特色のある教育を推進することにより、更なる質の向上とブランド化を図る。

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
A 学生受け入れ	附）A−1 ・教育活動の優れた成果を全国に広報し、優秀な入学者を確保する。	1	学習塾・メディアとの連携強化
		2	学校に関する適切な情報を提供し、応募を促進する入学説明会の開催者
B 学生支援	附）B−1 ・学校教育全体及び個々の生徒の教育を効果的に実現するための資材を充実させる。	1	附設教育振興基金への募金協力依頼（同窓会等）
		2	各種奨学金の学内への周知
		3	老朽化した施設の更新
		4	同窓会・後援会と緊密に連携して教育支援を実施する
C 教育の質の向上	附）C−1 ・中等教育機関としての教育機能の充実	1	教育の更なる充実と深化・高度化による、多分野に亘る進学実績の確保と向上
		2	情報機器の教育への導入
		3	各種学校行事の着実な実施
	附）C−2 ・高い知力を背景とする優れた人間性の陶冶	1	各学年での校外研修の成果を発信する
		2	中学の卒業論文・制作の完成のための指導を行い、優れた結果を追求する
D 進学	附）D−1 ・旧帝大をはじめとする難関大学への合格者が多数を占めるようにする。	1	難関大学への合格に向けた特別講座の充実化
		2	定期試験・校内外模擬試験結果にもとづく学習支援
	附）D−2 ・多分野に亘る進学実績を実現させる。	1	文系、理系の両分野にわたる高度な内容の授業を展開する
		2	進路講座の開催

【資料5】

管理・運営

戦略目標：安定した経営基盤を確立する。

重点項目	行動目標		行動計画（5年間）
A 管理運営	管）A−1 ・キャンパスマスタープランの策定	1	キャンパス整備の優先的課題および経営的課題の明確化
		2	保有施設資産の再生・有効活用の検証・評価
		3	整備計画に基づく資産形成・財政強化
	管）A−2 ・大学運営体制の改革	1	教職員の人事制度の見直し （教職員のモチベーション向上に資する人事制度の見直しや研修体制の見直し及びそれに伴う人材育成、社会変化に応じた組織体制と新たな雇用形態の導入等を検討する）
		2	大学ブランド化の推進 ・学内外への情報発信、情報共有化により多面的に大学ブランドの醸成を図る ・広報戦略の実践と推進
B 財務基盤	管）B−1 ・財務基盤の強化	1	寄付文化の醸成に向けた取組み
		2	各種寄付金増への取組み
		3	補助金等の獲得に向けた取組みによる財源確保
	管）B−2 ・外部資金獲得の推進	1	競争的研究費を含む外部資金（科研費、AMED、民間財団等）獲得に向けた支援強化
		2	産学連携による共同研究等の推進

キャンパス案内

旭町キャンパス（医学科）

旭町キャンパス（看護学科）

御井キャンパス（文系）

附設中学校・附設高等学校

大学病院

医療センター

臨床検査専門学校

KURUME UNIVERSITY

旭町キャンパス（医系）

本部・医学部（医学科）・大学院（医学研究科）
〒830-0011　福岡県久留米市旭町67　TEL：0942-35-3311 / FAX：0942-27-8712

医学部（看護学科）・認定看護師教育センター
〒830-0003　福岡県久留米市東櫛原町777-1（看護学科）TEL：0942-31-7714 / FAX：0942-31-7715（認定C）TEL: 0942-31-7871 / FAX: 0942-31-7868

臨床検査専門学校
〒830-0011　福岡県久留米市旭町67　TEL：0942-31-7592 / FAX：0942-31-7724

大学病院
〒830-0011　福岡県久留米市旭町67　TEL：0942-35-3311 / FAX：0942-32-6278

御井キャンパス（文系）

文学部・人間健康学部・法学部・経済学部・商学部・大学院（比較文化研究科・心理学研究科・ビジネス研究科）・留学生別科
〒839-8502　福岡県久留米市御井町1635　TEL：0942-43-4411 / FAX：0942-43-0574

附設中学校・附設高等学校
〒839-0862　福岡県久留米市野中町20-2　TEL：0942-44-2222 / FAX：0942-44-8257

医療センター
〒839-0863　福岡県久留米市国分町155-1　TEL：0942-22-6111 / FAX：0942-22-6533

福岡サテライト
〒810-0001　福岡市中央区天神1-4-2 エルガーラオフィス6階　TEL：092-737-3111 / FAX：092-737-3112

北京教育交流センター
100037　中国北京市西城区北礼士路甲98号 阜成大厦　B座　408号　TEL：(86-10)6833-5898 / FAX：(86-10)6833-4640

KURUME UNIVERSITY

学校法人 久留米大学

〒830-0011　久留米市旭町67

TEL 0942-35-3311 FAX 0942-27-8712

https://www.kurume-u.ac.jp/

久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」設置構想についての高校生アンケート調査

＜対象 :2022年度 高校2年生の皆様＞

久留米大学は、2024年4月に医学部「医療検査学科（仮称）」（入学定員74名）の新設を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、2024年に大学進学時期を迎える高校2年生の皆様から、ご意見をお聞きし、構想内容に反映したいと考えております。なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、新学科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部として活用いたします。個人が特定されることはなく、回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。
つきましては、別紙のリーフレットをご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。
※このアンケート調査は久留米大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※リーフレット及びアンケートに記載されている新学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

・記入は必ずシャープペンシル、または黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムで消してください。
・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。
　正しい回答のように塗りつぶすか、または正しくチェックを入れてください。誤った回答の場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

問 1 あなたの性別をお答えください。

○ 男性　○ 女性　○ 回答しない

問 2 あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋田県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問 3 高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください。

○ 4年制以上の大学　○ 短期大学　○ 専門学校　○ 就職　○ その他 [　　]

問 4 あなたが関心のある学問分野をお答えください。（あてはまるもの全てにマークするかチェックを入れてください）

○ 保健衛生学（臨床検査学、リハビリテーション医学など）	○ 保健衛生学（看護学）
○ 医学・歯学・薬学	○ 理学（数学、物理学、化学、生物学など）
○ 工学（機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など）	○ 農学（農学、林学、水産学、獣医学など）
○ 家政学（生活科学、食物学、住居学など）	○ 人文科学（文学、史学、心理学、外国語学など）
○ 社会学（法学・政治学、経営学、経済学など）	○ 教育学・保育学
○ 芸術学（音楽、デザイン、美術など）	○ その他

アンケートは裏面に続きます。以下の質問から、別紙・リーフレットをご覧になった上でお答えください。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問５ 久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」には、以下のような教育の特色があります。あなたが興味を持った内容についてお教えください。（あてはまるもの全てにマークするかチェックを入れてください）

- ○ 医学部に設置する臨床検査技師養成学科であること
- ○ 久留米大医学部の教育研究力を有効に活用した質の高い臨床検査専門教育が基盤となっていること
- ○ 久留米大学病院と地域臨地実習病院との連携により実践的職業訓練が実施されること
- ○ チーム医療を学ぶための医学部連携プログラムによる多職種連携教育が実施されること
- ○ 全学的な文医融合プログラムの実施により、時代のニーズにあったヘルスサイエンス教育が実施されること
- ○ 上記にあてはまるものはなく、この学科に関心はない

問６ あなたは、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験したいと思いますか。

- ○ 受験したい→問７へお進みください
- ○ 受験しない→問８へお進みください

【問７は、問６で「受験したい」と回答された方のみお答えください】
問７ あなたが久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験し、合格した場合の入学意欲について教えてください。

- ○ 合格した場合、入学したい
- ○ 合格した場合、併願校の結果によっては入学したい

問７を回答された方のアンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。

【問８は、問６で「受験しない」と回答された方のみお答えください】
問８ あなたが久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験しない理由を教えてください。（あてはまるもの全てにマークするかチェックを入れてください）

- ○ 興味・関心のある分野ではないから
- ○ 興味・関心のある分野だが、詳細を知った上で検討したいから
- ○ 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
- ○ 卒業後の進路として、大学進学を考えていないから
- ○ 通学が不便そうだから
- ○ 学費が高いから
- ○ その他

アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

【資料6-2】WEBによる高校生アンケート調査

久留米大学医学部「医療検査学科(仮称)」設置構想についての高校生アンケート調査

1ページ目（全4ページ）

＜対象：2022年度 高校2年生の皆様＞

久留米大学は、2024年4月に医学部「医療検査学科（仮称）」（入学定員74名）の新設を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、 2024年に大学進学時期を迎える高校2年生の皆様から、ご意見をお聞きし、構想内容に反映したいと考えております。なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、新学科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部として活用いたします。個人が特定されることはございません。つきましては、別紙のリーフレットをご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。久留米大学は、2024年4月に医学部「医療検査学科（仮称）」（入学定員74名）の新設を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、 2024年に大学進学時期を迎える高校2年生の皆様から、ご意見をお聞きし、構想内容に反映したいと考えております。なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、新学科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部として活用いたします。個人が特定されることはございません。つきましては、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※ このアンケート調査は久留米大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※ リーフレット及びアンケートに記載されている新学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

＜本調査について＞ 必須

本アンケートの回答はお一人様につき、一回までとなります。

☐ 同意する

規約に同意の上チェックしてください

次へ

【資料6-2】

あなたの性別をお答えください。 必須

選択してください

あなたのお住まいの都道府県をお答えください。 必須

選択してください

高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください。 必須

選択してください

あなたが関心のある学問分野をお答えください。 必須

（あてはまるもの全てにチェックを入れてください）

- [ ] 保健衛生学（臨床検査学、リハビリテーション医学など）
- [ ] 保健衛生学（看護学）
- [ ] 医学・歯学・薬学
- [ ] 理学（数学、物理学、化学、生物学など）
- [ ] 工学（機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など）
- [ ] 農学（農学、林学、化学、生物学など）
- [ ] 家政学（生活科学、食物学、住居学など）
- [ ] 人文科学（文学、史学、心理学、外国語など）
- [ ] 社会学（法学・政治学、経営学、経済学など）
- [ ] 教育学、保育学
- [ ] 芸術学（音楽、デザイン、美術など）
- [ ] その他

次の質問から、次ページのリーフレットをご覧になった上でお答えください。

【資料6-2】

久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」には、以下のような教育の特色があります。あなたが興味を持った内容についてお教えください。 必須

（あてはまるもの全てにチェックを入れてください）

- [ ] 医学部に設置する臨床検査技師養成学科であること
- [ ] 久留米大医学部の教育研究力を有効に活用した質の高い臨床検査専門教育が基盤となっていること
- [ ] 久留米大学病院と地域臨地実習病院との連携により実践的職業訓練が実施されること
- [ ] チーム医療を学ぶための医学部連携プログラムによる多職種連携教育が実施されること
- [ ] 全学的な文医融合プログラムの実施により、時代のニーズにあったヘルスサイエンス教育が実施されること
- [ ] 上記にあてはまるものはなく、この学科に関心はない

あなたは、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験したいと思いますか。 必須

選択してください

【資料6-2】

あなたは、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験したいと思いますか。 必須

受験したい

あなたが久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験し、合格した場合の入学意欲について教えてください。 必須

選択してください

アンケート回答は以上です。
ご回答ありがとうございました。

あなたは、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験したいと思いますか。 必須

受験しない

あなたが久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験しない理由を教えてください。 必須

（あてはまるものすべてにマークしてください）

- [ ] 興味・関心のある分野ではないから
- [ ] 興味・関心のある分野だが、詳細を知った上で検討したいから
- [ ] 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
- [ ] 卒業後の進路として、大学進学を考えていないから
- [ ] 通学が不便そうだから
- [ ] 学費が高いから
- [ ] その他

アンケート回答は以上です。
ご回答ありがとうございました。

【資料 7】

高校生アンケート協力高校一覧

NO.	高校名	NO.	高校名
1	唐津西高等学校	36	玄洋高等学校
2	三養基高等学校	37	筑紫中央高等学校
3	浮羽究真館高等学校	38	佐賀学園高等学校
4	九州産業大学附属九州産業高等学校	39	福岡講倫館高等学校
5	八女学院高等学校	40	香椎高等学校
6	西南学院高等学校	41	筑紫台高等学校
7	中津北高等学校	42	筑紫女学園高等学校
8	長崎西高等学校	43	純真高等学校
9	小城高等学校	44	三池高等学校
10	武蔵台高等学校	45	小郡高等学校
11	福岡常葉高等学校	46	神埼高等学校
12	明善高等学校	47	福岡工業高等学校
13	糸島高等学校	48	朝倉高等学校
14	弘学館高等学校	49	伊万里高等学校
15	宮崎第一高等学校	50	大村高等学校
16	昭和学園高等学校	51	大牟田高等学校
17	筑前高等学校	52	日南高等学校
18	佐賀東高等学校	53	鹿本高等学校
19	明治学園高等学校	54	サビエル高等学校
20	沖学園高等学校	55	佐賀清和高等学校
21	今治北高等学校	56	佐世保西高等学校
22	八女高等学校	57	三潴高等学校
23	三井高等学校	58	鹿児島実業高等学校
24	武岡台高等学校	59	上智福岡高等学校
25	久留米高等学校	60	精華女子高等学校
26	須恵高等学校	61	大分鶴崎高等学校
27	藤蔭高等学校	62	致遠館高等学校
28	益田高等学校	63	朝倉東高等学校
29	岡山高等学校	64	東明館高等学校
30	八幡中央高等学校	65	南筑高等学校
31	岩田高等学校	66	必由館高等学校
32	久留米学園高等学校	67	福岡舞鶴高等学校
33	久留米信愛高等学校	68	福岡雙葉高等学校
34	大川樟風高等学校	69	柳川高等学校
35	祐誠高等学校		

【資料8】
高校生アンケート調査、採用意向アンケートに添付した久留米大学医学部「医療検査学科（仮称）」の概要説明書

久留米大学

医学部 医療検査学科（仮称）

2024年4月 設置構想中

医学と医療の進歩は目覚ましく、
臨床検査技師においても最先端の医学知識と
高度な検査技術の教育の必要性が高まっています。
久留米大学では、医学部における質の高い
臨床検査の専門教育と、本学の特色を活かした
時代のニーズに合ったヘルスサイエンス教育を実現させ、
メディカルサイエンスに精通する
次世代型臨床検査技師の養成を目指します。

久留米大学 KURUME UNIVERSITY

※掲載内容は計画中のものであり、今後変更になる場合があります。

【資料8】

2024年4月 設置構想中

医学部 医療検査学科

養成する人材

メディカルサイエンス※に精通し、多様で高度な医療のニーズに対応できる次世代型の臨床検査技師を養成します。

※本学科では、メディカルサイエンスの中でも特にメディカルテクノロジー（臨床検査、医療技術）とヘルスサイエンス（健康科学）の融合による教育研究を重視しています。

学科の概要

学科名	医療検査学科（仮称）	入学定員	74名
学位	学士（医療検査学）	開設時期	2024年4月
所在地	〒830-0011　福岡県久留米市旭町67		

取得可能な資格・免許

- 臨床検査技師国家資格受験資格
- 診療情報管理士資格受験資格（ヘルスマネジメントサイエンス選択者のみ）

想定される進路

- 臨床検査技師（大学病院、総合病院、クリニックなど）
- 大学院への進学　● バイオ関連企業や製薬企業
- 胚培養士など臨床検査技師の知識・技術を活用した専門職など

納付金について

		入学金	初年度授業料等	初年度納付金（計）	4年間総額
久留米大学	医学部 医療検査学科（仮称）	300,000円	1,330,000円	1,630,000円	5,620,000円
熊本保健科学大学	保健科学部 医学検査学科	200,000円	1,350,000円	1,550,000円	5,600,000円
国際医療福祉大学	福岡保健医療学部 医学検査学科	300,000円	1,150,000円	1,450,000円	5,650,000円
純真学園大学	保健医療学部 検査科学科	200,000円	1,386,000円	1,586,000円	5,744,000円

臨床検査技師の仕事

臨床検査技師とは？

身体の構造や機能、さらに細胞や組織に関するさまざまな情報を得るために生体を調べることが臨床検査です。医師・歯科医師の指示の下で、検体検査と厚生労働省令で定める生理学的検査を行い、医師が患者や受診者の健康状態を知るために必要な情報としての検査データを提供するのが臨床検査技師です。さらに患者からの検体採取や検査システムの管理を行うなど、正確な検査データを得るために欠かせない役割も担っています。臨床検査は、病気の診断や治療方針の決定、また病気の早期発見を行うために必要不可欠なものです。臨床検査技師は、臨床検査のエキスパートとして医療や予防医学に貢献する存在です。

検体検査

検体検査とは、血液、尿、糞便、喀痰あるいは身体組織の一部を採取し、自動分析機や顕微鏡観察などをとおして生体に異常があるかどうかを調べる検査です。そして、検体検査は大きく7つに分けることができます。

一般検査	尿、糞便、胃液、髄液などの成分を調べたり、寄生虫を見つける
臨床化学的検査	血液の分析を行う
血液学的検査	血液細胞の数や形態を見る
微生物学検査	細菌やウイルスなどについて調べる
免疫学的検査	免疫状態を調べたり、輸血の検査を行う
病理学的検査	さまざまな臓器・器官の異常やがん細胞を見つける
遺伝子関連・染色体検査	ヒトや細菌・ウイルスの遺伝情報を解析する

生理学的検査

生理学的検査とは生体検査とも言われ、下記のように大別されます。

循環機能検査	心電図、心音図、脈波、毛細血管抵抗
呼吸機能検査	肺機能、経皮的血液ガス分圧、基礎代謝
神経機能検査	脳波、筋電図
感覚機能検査	眼振電図、重心動揺、眼底写真、聴力、味覚、嗅覚
画像検査	超音波、磁気共鳴画像、熱画像

人体に直接働きかけて検査を行い、人の機能情報を得るものです。人体の生理機能を熟知した上で、さまざまな検査機器などを使用して生体情報を取り出し、病気の診断や治療などに利用されています。

【資料8】

新学科の特色

メディカルテクノロジー教育
（臨床検査プログラム、医学部連携プログラム）

医学部の教育・研究力を有効に活用	質の高い臨床検査専門教育を提供
大学病院の実践的な臨床検査教育を実施	学部内での多職種連携教育を実施

ヘルスサイエンス教育（全学的文医融合プログラム）

附置研究所や文系学部等と一体となった全学的な取り組み

- 分子生命科学研究所
- バイオ統計センター
- 医療経営研究センター
- 文系学部（御井キャンパス）

カリキュラムの特徴

臨床検査技師

連携
・研究施設
・学部学科

ヘルスサイエンス教育

バイオ	＋	データ	＋	マネジメント
・分子生命科学研究所 ・文学部心理学科 ・文学部情報社会学科 ・法学部		・バイオ統計センター ・文学部心理学科 ・法学部		・医療経営研究センター ・文学部社会情報学科 ・法学部 ・医学部

全学的文医融合プログラム

メディカルテクノロジー教育

臨床検査プログラム

医学部の質の高い
医学・臨床検査専門教育

医学部連携プログラム

医学部（医学科・看護学科）
多職種連携教育

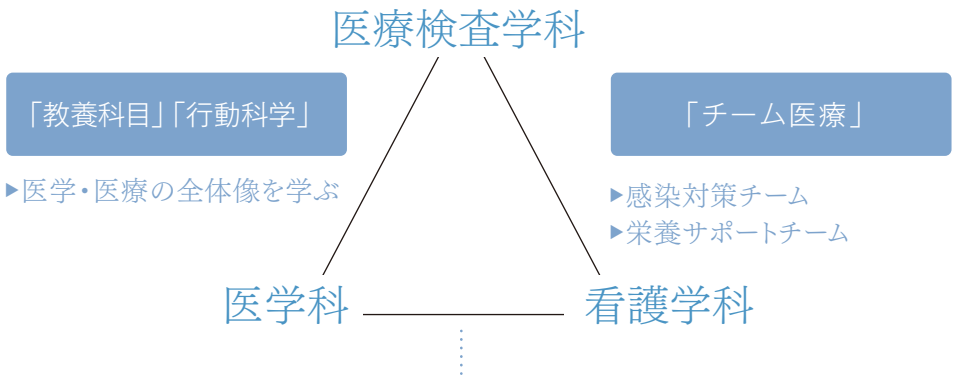
※臨床検査学科（仮称）は設置構想中であり、内容は変更になる場合があります。

ヘルスサイエンス教育

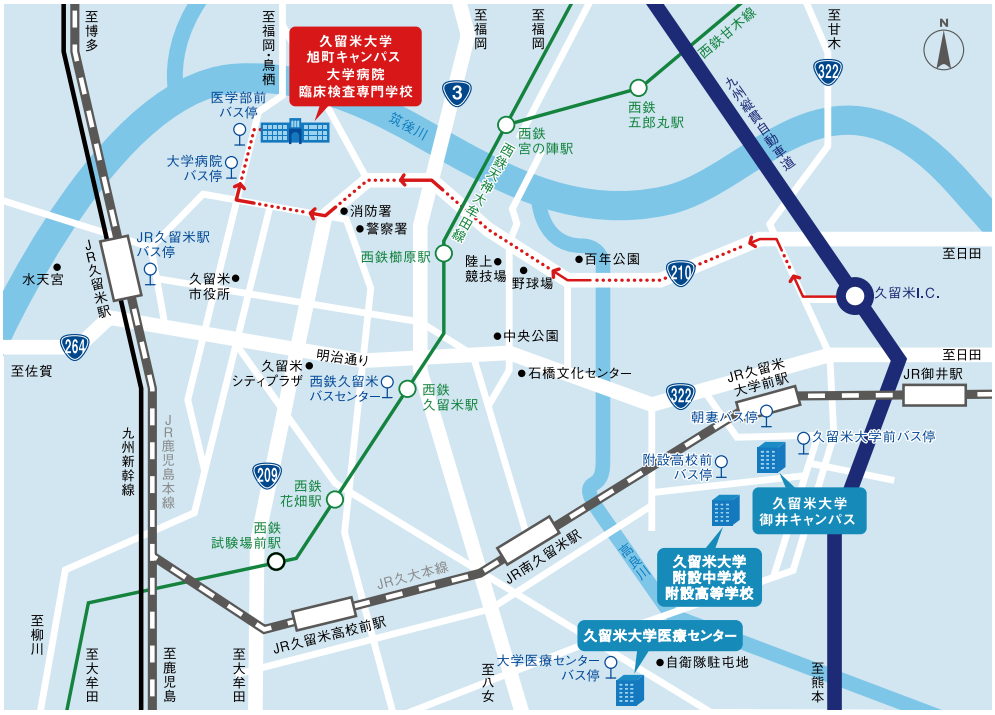
ヘルスバイオサイエンス	基礎 ▶分子生物学や遺伝子工学の基礎を学ぶ 応用 ▶細胞・遺伝子・タンパク質の研究を行う
ヘルスデータサイエンス	基礎 ▶統計学、データ解析、機械学習、AIの基礎を学ぶ 応用 ▶臨床試験デザインと臨床データ解析を学ぶ
ヘルスマネジメントサイエンス	基礎 ▶診療・医療情報の基礎や病院管理、医療の質管理を学ぶ 応用 ▶診療情報管理士の資格取得を目指す

【資料8】

医学部連携プログラム



ACCESS



西鉄をご利用の場合

（西鉄電車の時刻・運賃検索／西鉄バスの時刻・運賃検索）

西鉄久留米駅 下車 → 西鉄バス系統番号8 西鉄久留米駅から 約17分 → 大学病院、高専方面行「大学病院」または「医学部前」下車

JRをご利用の場合

（JR九州の時刻・運賃検索）

JR久留米駅 下車 → 西鉄バス系統番号18 JR久留米駅から 約7分 → 高専方面行「大学病院」または「医学部前」下車

久留米大学 KURUME UNIVERSITY
https://www.kurume-u.ac.jp/

久留米大学 医学部事務部庶務課
月～金（祝日除く）8:30～17:00
〒830-0011 福岡県久留米市旭町67
Tel：0942-31-7527
Fax：0942-31-4374
Mail：igakubu_syomu@kurume-u.ac.jp

【資料9】
久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」設置構想についての
高校生アンケート調査の結果報告書

久留米大学
医学部 医療検査学科（仮称）
学生確保の見通し調査
【設置構想についての高校生アンケート調査】
報告書

令和５年１月 30 日

株式会社高等教育総合研究所

【資料9】

目次

１．　「設置構想についての高校生アンケート調査」概要　2

２．　「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果　3

３．　「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果のポイント　6

４．　「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果の分析　11

添付資料　12

久留米大学 医学部 医療検査学科（仮称）
・概要説明プリント
・設置構想についての高校生アンケート調査
・高校生アンケート協力高校一覧

【資料9】

１．「設置構想についての高校生アンケート調査」概要

調査目的	久留米大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の医学部「医療検査学科（仮称）」（以下、当該学部学科と記す）における学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	2023（令和 5）年度に大学入試を受験する可能性が最も高い現高校 2 年生（2024 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。当該学部学科の学生確保の基盤となる福岡県を中心に通学利便性により周辺他県地域を含め、大学進学実績等も考慮して抽出した高校にアンケート調査実施を依頼し 6,492 件の回答を得た。
調査内容	● 問 1～2：回答者の基本情報（性別、居住地） ● 問 3～4：高校卒業後の希望進路、関心のある学問分野 ● 問 5：当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心 ● 問 6：当該学部学科への受験意欲 ● 問 7：当該学部学科への入学意欲 ● 問 8：当該学部学科を受験しない理由 以上、全 8 問で主に選択肢式
調査時期	2022（令和 4）年 10 月～2023（令和 5）1 月
調査方法	アンケート調査実施の了承が得られた高校にアンケート用紙及び概要説明プリント（必要部数）を送付。教職員から調査対象者（現高校 2 年生）にアンケート調査用紙を配布し回答を得たほか、WEB 調査により回答を得た。
回答件数	有効回答数 6,492 件（紙回答：5,374 件、WEB 回答：1,118 件）

【資料9】

２.「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問１　あなたの性別をお答えください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	男性	2,966	45.7%
2	女性	3,238	49.9%
3	回答しない	211	3.3%
4	無回答	77	1.2%
合計		6,492	100.0%

問２　あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比
北海道	0	0.0%	石川県	0	0.0%	岡山県	32	0.5%
青森県	0	0.0%	福井県	1	0.0%	広島県	3	0.0%
岩手県	0	0.0%	山梨県	0	0.0%	山口県	60	0.9%
宮城県	0	0.0%	長野県	0	0.0%	徳島県	1	0.0%
秋田県	0	0.0%	岐阜県	0	0.0%	香川県	4	0.1%
山形県	0	0.0%	静岡県	1	0.0%	愛媛県	78	1.2%
福島県	6	0.1%	愛知県	0	0.0%	高知県	1	0.0%
茨城県	0	0.0%	三重県	0	0.0%	福岡県	3,957	61.0%
栃木県	0	0.0%	滋賀県	1	0.0%	佐賀県	859	13.2%
群馬県	1	0.0%	京都府	2	0.0%	長崎県	347	5.3%
埼玉県	0	0.0%	大阪府	1	0.0%	熊本県	189	2.9%
千葉県	1	0.0%	兵庫県	4	0.1%	大分県	362	5.6%
東京都	3	0.0%	奈良県	1	0.0%	宮崎県	174	2.7%
神奈川県	0	0.0%	和歌山県	0	0.0%	鹿児島県	263	4.1%
新潟県	1	0.0%	鳥取県	2	0.0%	沖縄県	3	0.0%
富山県	0	0.0%	島根県	120	1.8%	無回答	14	0.2%
合計							6,492	100.0%

問３　高校卒業後の進路について、希望するものをお答えください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	4年制以上の大学	5,321	82.0%
2	短期大学	208	3.2%
3	専門学校	574	8.8%
4	就職	252	3.9%
5	その他	83	1.3%
6	無回答	54	0.8%
合計		6,492	100.0%

【資料9】

問 4　あなたが関心のある学問分野をお答えください。

No	選択項目	回答数	回答率
1	保健衛生学（臨床検査学、リハビリテーション医学など）	906	14.0%
2	保健衛生学（看護学）	867	13.4%
3	医学・歯学・薬学	1,264	19.5%
4	理学（数学、物理学、化学、生物学など）	1,038	16.0%
5	工学（機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など）	1,596	24.6%
6	農学（農学、林学、水産学、獣医学など）	469	7.2%
7	家政学（生活科学、食物学、住居学など）	356	5.5%
8	人文科学（文学、史学、心理学、外国語学など）	672	10.4%
9	社会学（法学・政治学、経営学、経済学など）	1,039	16.0%
10	教育学・保育学	678	10.4%
11	芸術学（音楽、デザイン、美術など）	778	12.0%
12	その他	473	7.3%

※問 4 は複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率＝回答数÷6,492 人

問 5　久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」には、以下のような教育の特色があります。あなたが興味を持った内容についてお教えください。

No	選択項目	回答数	回答率
1	医学部に設置する臨床検査技師養成学科であること	1,117	17.2%
2	久留米大医学部の教育研究力を有効に活用した質の高い臨床検査専門教育が基盤となっていること	796	12.3%
3	久留米大学病院と地域臨地実習病院との連携により実践的職業訓練が実施されること	1,264	19.5%
4	チーム医療を学ぶための医学部連携プログラムによる多職種連携教育が実施されること	1,074	16.5%
5	全学的な文医融合プログラムの実施により、時代のニーズにあったヘルスサイエンス教育が実施されること	642	9.9%
6	上記にあてはまるものはなく、この学科に関心はない	2,960	45.6%

※問 5 は複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率＝回答数÷6,492 人

【資料9】

問 6　あなたは、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験したいと思いますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	406	6.3%
2	受験しない	5,858	90.2%
3	無回答	228	3.5%
合計		6,492	100.0%

問 7 は、問 6 で「1. 受験したい」とした 406 人が回答対象である。

問 7　あなたが久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験し、合格した場合の入学意欲について教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	184	45.3%
2	合格した場合、併願校の結果によっては入学したい	219	53.9%
3	無回答	3	0.7%
合計		406	100.0%

問 8 は、問 6 で「2. 受験しない」とした 5,858 人が回答対象である。

問 8　あなたが久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を受験しない理由を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	興味・関心のある分野ではないから	3,892	66.4%
2	興味・関心のある分野だが、詳細を知った上で検討したいから	396	6.8%
3	興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	934	15.9%
4	卒業後の進路として、大学進学を考えていないから	308	5.3%
5	通学が不便そうだから	364	6.2%
6	学費が高いから	714	12.2%
7	その他	332	5.7%

※問 8 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷5,858 人

【資料9】

３．「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

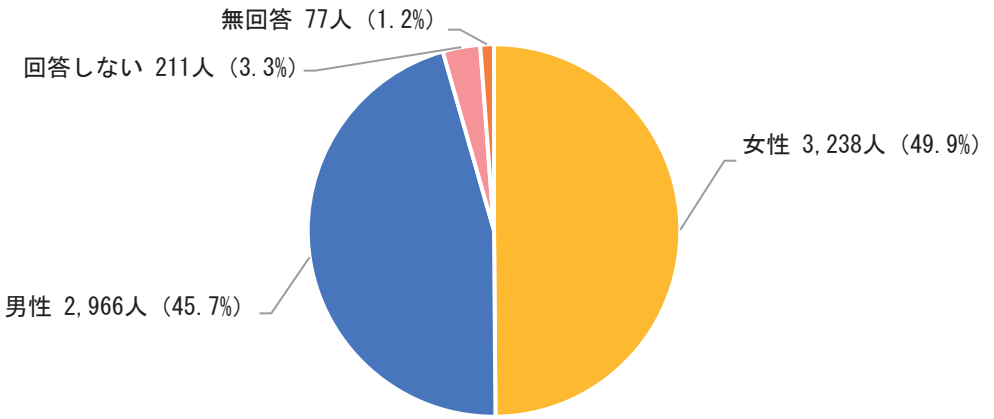
● 回答者の居住地は福岡県を含む九州地方の 7 県の合計が 9 割を超える結果となった

久留米大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の医学部「医療検査学科（仮称)」に係る「設置構想についての高校生アンケート調査」において、有効な回答とする 6,492 件の集計を行った。

その結果、回答者の性別については、回答しないおよび無回答を除いて、「女性」が 3,238 人（49.9%)、「男性」が 2,966 人（45.7%）からの回答を得た。

回答者の居住地については、当該学部学科が所在する「福岡県」が 3,957 人（61.0%）で最も多く、次いで「佐賀県」が 859 人（13.2%)、「大分県」が 362 人（5.6%)、「長崎県」が 347 人（5.3%)、「鹿児島県」が 263 人（4.1%)、「熊本県」が 189 人（2.9%)、「宮崎県」が 174 人（2.7%）となり、この 7 県の合計が 6,151 人となり、全体の 94.7%と回答者の 9 割を超える結果となった。

【グラフ】回答者の性別について＜問 1 の結果より＞



【表】回答者の居住地について＜問 2 の結果より＞

選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比
福岡県	3,957	61.0%	岡山県	32	0.5%	千葉県	1	0.0%
佐賀県	859	13.2%	福島県	6	0.1%	新潟県	1	0.0%
大分県	362	5.6%	兵庫県	4	0.1%	福井県	1	0.0%
長崎県	347	5.3%	香川県	4	0.1%	静岡県	1	0.0%
鹿児島県	263	4.1%	東京都	3	0.0%	滋賀県	1	0.0%
熊本県	189	2.9%	広島県	3	0.0%	大阪府	1	0.0%
宮崎県	174	2.7%	沖縄県	3	0.0%	奈良県	1	0.0%
島根県	120	1.8%	京都府	2	0.0%	徳島県	1	0.0%
愛媛県	78	1.2%	鳥取県	2	0.0%	高知県	1	0.0%
山口県	60	0.9%	群馬県	1	0.0%	無回答	14	0.2%
合計							6,492	100.0%

※回答のあった都道府県のみ記載

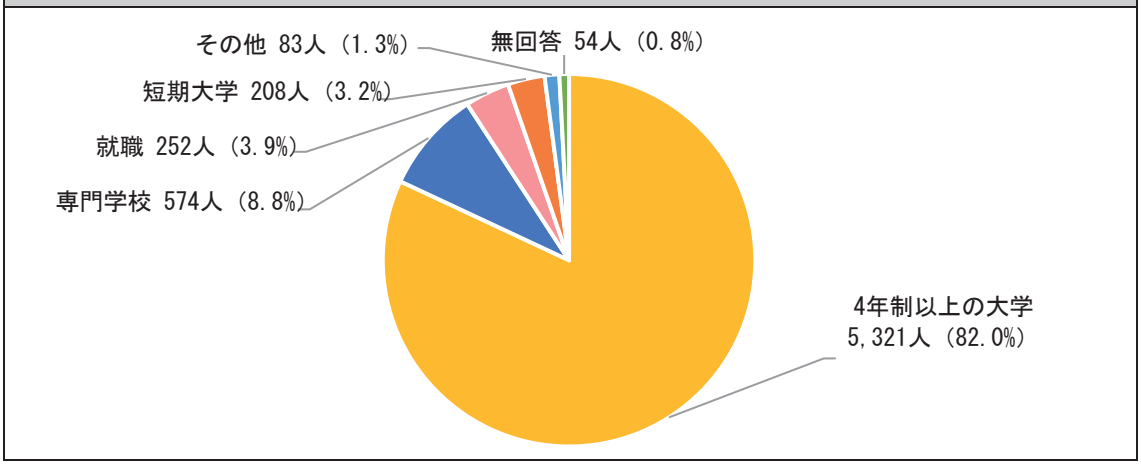
【資料9】

● 大学への進学希望が約 8 割、当該学部学科に関連する学問分野に興味のある者は 906 人で全体の 14.0%となり、多くの需要が示された

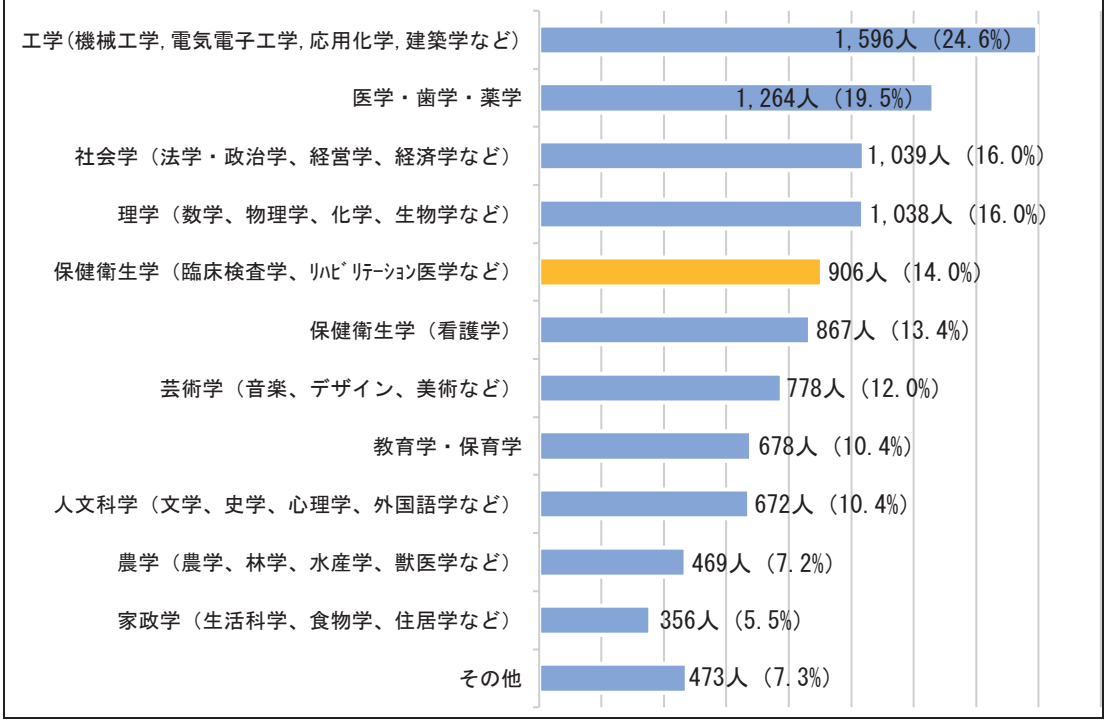
高校卒業後の希望進路については、「4 年制以上の大学」が 5,321 人（82.0%）で最も多く、次いで「専門学校」が 574 人（8.8%）、「就職」が 252 人（3.9%）、「短期大学」が 208 人（3.2%）であった。

関心のある学問分野については、当該学部学科の学問分野の「保健衛生学（臨床検査学、リハビリテーション医学など）」が、906 人と全体の 14.0%となり、多くの者が関心を示す結果となった。

【グラフ】高校卒業後の希望進路について＜問 3 の結果より＞



【グラフ】関心のある学問分野について＜問 4 の結果より＞

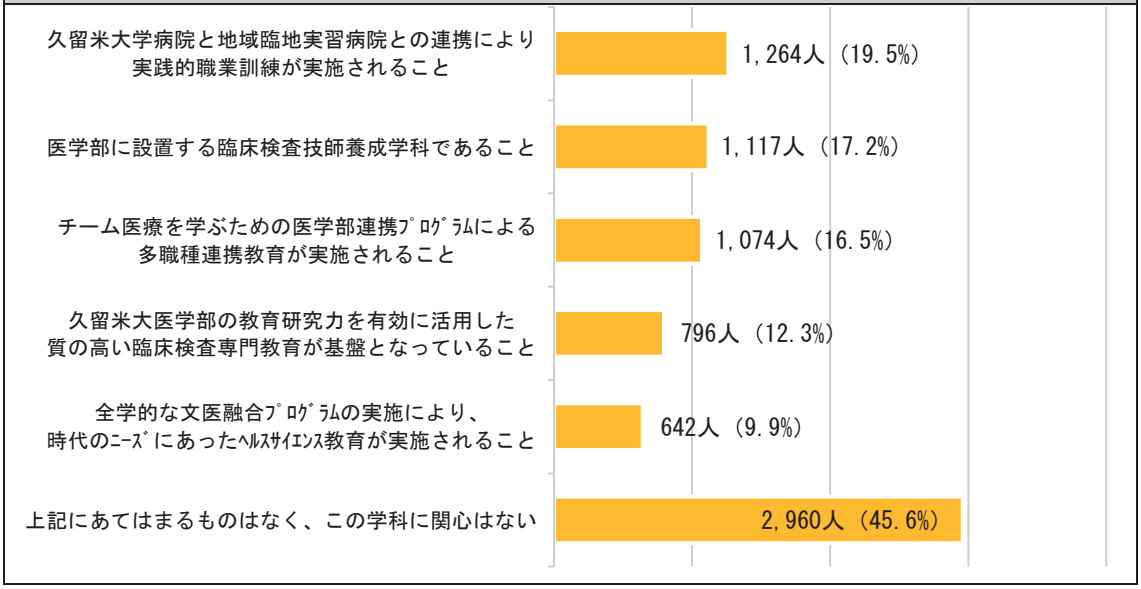


【資料9】

● 当該学部学科の教育の特色「久留米大学病院と地域臨地実習病院との連携により実践的職業訓練が実施されること」に、最も多くの興味、関心が示された

当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心については、「上記にあてはまるものはなく、この学科に関心はない」との回答は除き、多かった順に、「久留米大学病院と地域臨地実習病院との連携により実践的職業訓練が実施されること」が 1,264 人（19.5%）、「医学部に設置する臨床検査技師養成学科であること」が 1,117 人（17.2%）、「チーム医療を学ぶための医学部連携プログラムによる多職種連携教育が実施されること」が 1,074 人（16.5%）、「久留米大医学部の教育研究力を有効に活用した質の高い臨床検査専門教育が基盤となっていること」が 796 人（12.3%）、「全学的な文医融合プログラムの実施により、時代のニーズにあったヘルスサイエンス教育が実施されること」が 642 人（9.9%）であった。

【グラフ】当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心について＜問 5 の結果より＞



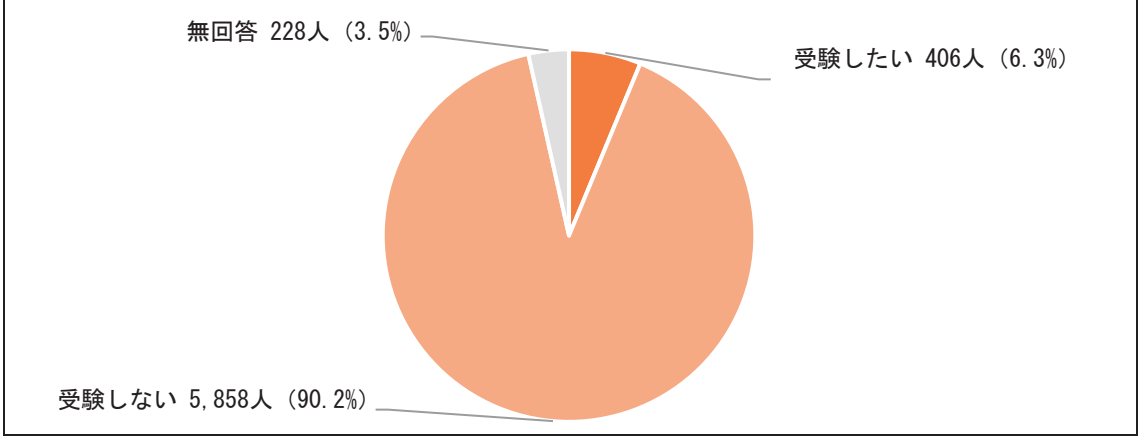
【資料9】

● 予定している入学定員 74 名を大きく上回る 184 人が入学意欲を示す

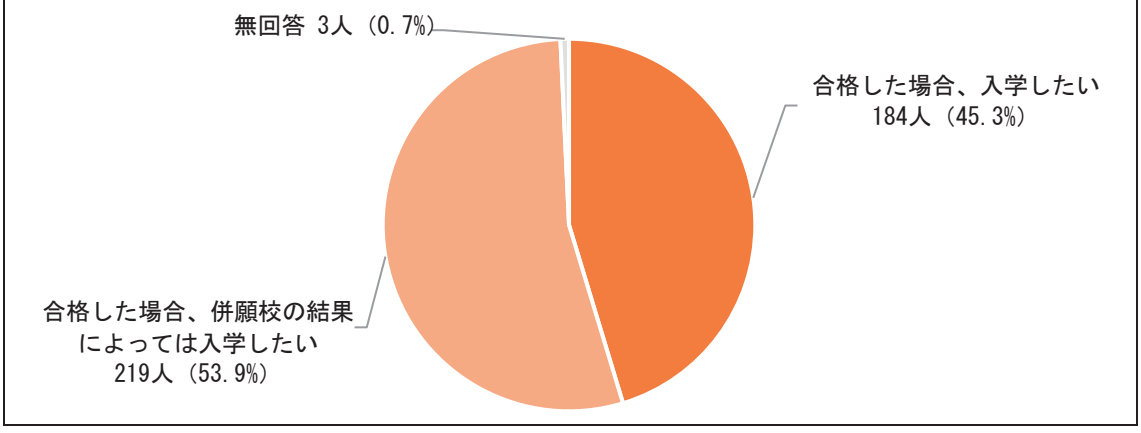
当該学部学科の概要を示し、受験・入学意欲について回答を求めた。その結果、406 人（6.3%）が当該学部学科を「受験したい」と回答した。それら 406 人に入学意欲を問う設問においては、強い入学意欲をもつと考えられる「合格した場合、入学したい」とする回答は 184 人（45.3%（上記 406 人に対する割合））であった。また、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したい」とする回答は、219 人（53.9%（上記 406 人に対する割合））となった。

当該学部学科の入学定員は 74 名であり、それを十分に上回る受験・入学意欲の回答を得る結果となった。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲について＜問 6 の結果より＞



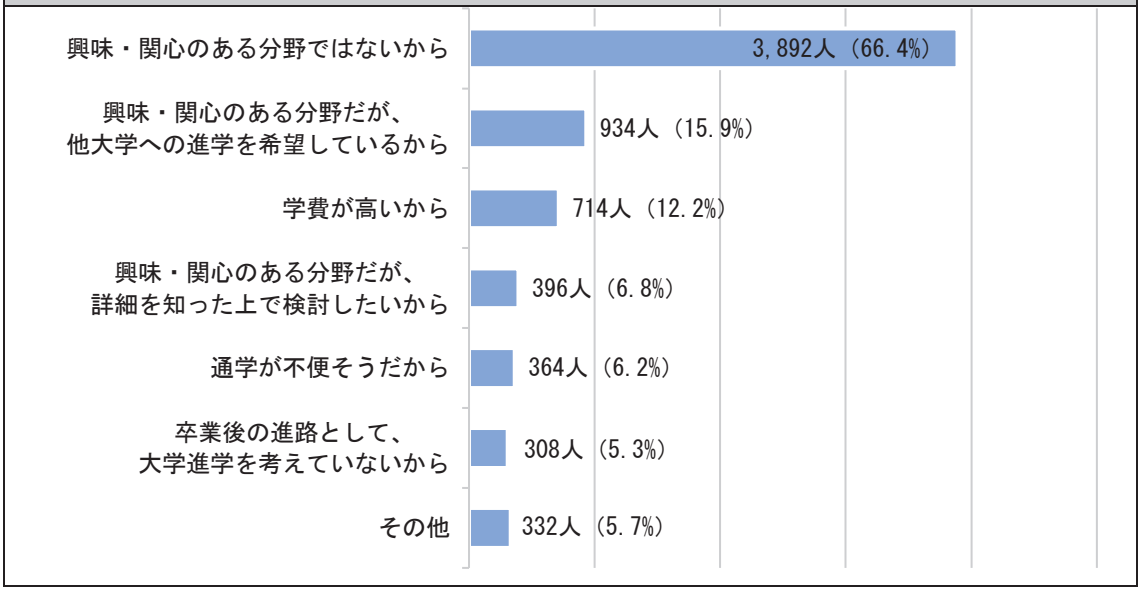
【グラフ】当該学部学科への入学意欲について＜問 7 の結果より＞



● 当該学部学科を受験しない理由は、「興味・関心のある分野ではないから」が約 7 割

問 6 で受験しないと回答した 5,858 人に、当該学部学科を受験しない理由についての質問では、「興味・関心のある分野ではないから」が 3,892 人（66.4%）で最も多く、次いで「興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから」が 934 人（15.9%）、「学費が高いから」が 714 人（12.2%）、「興味・関心のある分野だが、詳細を知った上で検討したいから」が 396 人（6.8%）、「通学が不便そうだから」が 364 人（6.2%）、「卒業後の進路として、大学進学を考えていないから」が 308 人（5.3%）であった。

【グラフ】当該学部学科を受験しない理由について＜問 8 の結果より＞



【資料9】

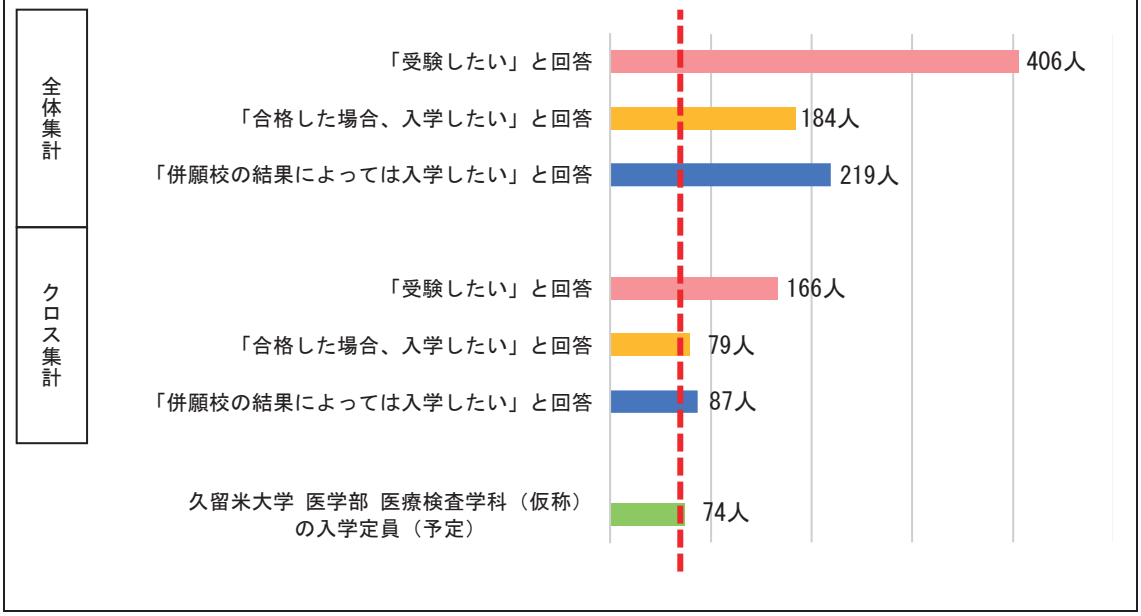
４．「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果の分析

当該学部学科への受験・入学意欲がある者の希望進路（問 3)、学問分野（問 4)、受験意欲（問 6)、入学意欲（問 7）のクロス集計結果は、以下の通りである。

【表】当該学部学科への受験・入学意欲について（クロス集計）

No	希望進路（問 3）		学問分野（問 4）		受験意欲（問 6）		入学意欲（問 7）	
	選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数
1	4 年制以上の大学	5, 321	保健衛生学(臨床検査学、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学など)	745	受験したい	166	合格した場合、入学したい	79
2							併願校の結果によっては入学したい	87
3			上記以外	4, 576	受験したい	208	合格した場合、入学したい	96
4							併願校の結果によっては入学したい	109
5							無回答	3

【グラフ】当該学部学科への受験・入学意欲について



以上の結果より、久留米大学が 2024（令和 6）年 4 月に設置構想する医学部「医療検査学科（仮称)」の学生確保の見通しは、全体では、受験したいと回答した 406 人のうち、184 人が「合格した場合、入学したい」と示し、クロス集計の結果では、受験したいと回答した 166 人のうち、79 人が「合格した場合、入学したい」と強い入学意欲をした。

これは、予定する入学定員の 74 名を上回る回答結果であるため、当該学部学科の学生確保の見通しは問題なしと判断できる。

【資料 10】

私立大学における「保健系」分野の入学志願状況

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	34,307	35,861	37,221	38,143	39,789
志願者数（人）	185,322	188,548	200,366	188,155	184,961
入学者数（人）	34,669	36,159	37,721	38,130	39,444
志願倍率（倍）	5.40	5.25	5.38	4.93	4.64
入学定員超過率（倍）	1.01	1.00	1.01	0.99	0.99

私立大学における看護学部を除く「保健系」分野の入学志願状況

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	25,488	26,526	28,071	28,940	30,066
志願者数（人）	128,710	131,680	146,020	137,422	133,562
入学者数（人）	25,267	26,555	28,315	28,677	29,550
志願倍率（倍）	5.04	4.96	5.20	4.74	4.44
入学定員超過率（倍）	0.99	1.00	1.00	0.99	0.98

※日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センターが公表したデータをもとに作成

※志願倍率 = 志願者 ÷ 入学定員、入学定員超過率 = 入学者 ÷ 入学定員

比率の表記は、小数点以下第 3 位を切り捨てしたもの

【資料 11】1/2　臨床検査技師養成課程を設置する近隣大学の学生確保状況

福岡県の臨床検査技師養成課程を設置する大学における学生確保の状況

九州大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

令和 5 年度の初年度納入金：817,800 円（入学金 282,000 円、授業料 535,800 円）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	33	33	33	33	33
志願者数（人）	109	82	87	84	69
受験者数（人）	102	75	81	77	64
合格者数（人）	36	35	35	36	36
入学者数（人）	36	34	33	33	33
志願倍率（倍）	3.30	2.48	2.63	2.54	2.09
実質倍率（倍）	2.83	2.14	2.31	2.13	1.77
歩留り率（%）	100.00	97.14	94.28	91.66	91.66
入学定員超過率（倍）	1.09	1.03	1.00	1.00	1.00

純真学園大学 保健医療学部 検査科学科

令和 5 年度の初年度納入金：1,550,000 円（入学金 200,000 円、初年度授業料等 1,350,000 円）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	75	75	75	75	75
志願者数（人）	223	277	302	204	222*
受験者数（人）	216	263	297	191	218*
合格者数（人）	153	158	167	166	134*
入学者数（人）	80	84	72	79	77
志願倍率（倍）	2.97	3.69	4.02	2.72	-
実質倍率（倍）	1.41	1.66	1.77	1.15	-
歩留り率（%）	52.28	53.16	43.11	47.59	-
入学定員超過率（倍）	1.06	1.12	0.96	1.05	1.03

* 一般入試の志願者、受験者、合格者数

国際医療福祉大学 福岡医療保健学部 医学検査学科

令和 5 年度の初年度納入金：1,450,000 円（入学金 300,000 円、授業料 1,350,000 円）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	80	80	80	80	80
志願者数（人）	252	280	370	374	334
受験者数（人）	非公表	非公表	366	372	331
合格者数（人）	150	147	164	154	142
入学者数（人）	87	82	97	84	87
志願倍率（倍）	3.15	3.50	4.62	4.67	4.17
実質倍率（倍）	-	-	2.23	2.41	2.33
歩留り率（%）	58.00	55.78	59.14	54.54	61.26
入学定員超過率（倍）	1.08	1.02	1.21	1.05	1.08

【資料 11】2/2

熊本県の臨床検査技師養成課程を設置する大学における学生確保の状況

熊本大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

令和 4 年度の初年度納入金：817,800 円（入学金 282,000 円、授業料 535,800 円）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	37	37	37	37	37
志願者数（人）	106	99	116	88	89
受験者数（人）	97	92	107	81	84
合格者数（人）	41	42	42	41	41
入学者数（人）	37	39	39	38	36
志願倍率（倍）	2.86	2.67	3.13	2.37	2.40
実質倍率（倍）	2.36	2.19	2.54	1.98	2.04
歩留り率（%）	90.24	92.85	92.85	92.68	87.80
入学定員超過率（倍）	1.00	1.05	1.05	1.02	0.97

熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科

令和 4 年度の初年度納入金：1,550,000 円（入学金 200,000 円、初年度授業料等 1,350,000 円）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学定員（人）	100	100	100	100	100
志願者数（人）	391	405	333	338	308
受験者数（人）	非公表	非公表	332	337	305
合格者数（人）	198	220	202	227	241
入学者数（人）	116	117	112	105	120
志願倍率（倍）	3.91	4.05	3.30	3.38	3.08
実質倍率（倍）	-	-	1.64	1.48	1.26
歩留り率（%）	58.58	53.18	55.44	46.25	49.79
入学定員超過率（倍）	1.16	1.17	1.12	1.05	1.20

※各大学の公表をもとに作成

※志願倍率 = 志願者 ÷ 入学定員、実質倍率 = 受験者 ÷ 合格者数

※歩留り率 = 入学者数 ÷ 合格者数 x 100、入学定員超過率 = 入学者数 ÷ 入学定員

※比率の表記は、小数点以下第 3 位を切り捨てしたもの

【資料 12】

18 歳人口の推移予測：令和 3 年～令和 15 年

全国

	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年	R7 年	R8 年	R9 年	R10 年	R11 年	R12 年	R13 年	R14 年	R15 年
人数（人）	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,537	1,092,199	1,084,161	1,070,907	1,068,668	1,050,118	1,034,763	1,023,785	1,014,014
増減率	100.0	98.2	96.1	93.1	95.5	95.7	95	93.8	93.6	92.0	90.6	89.7	88.8

福岡県

	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年	R7 年	R8 年	R9 年	R10 年	R11 年	R12 年	R13 年	R14 年	R15 年
人数（人）	46,524	45,564	45,254	44,280	46,018	47,244	47,251	47,001	47,853	46,971	46,451	46,278	45,848
増減率	100.0	97.9	97.2	95.1	98.9	101.5	101.5	101	102.8	100.9	99.8	99.4	98.5

九州地方

	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年	R7 年	R8 年	R9 年	R10 年	R11 年	R12 年	R13 年	R14 年	R15 年
人数（人）	120,754	118,406	116,712	113,885	117,234	119,417	119,349	117,920	119,245	117,598	115,285	114,702	112,887
増減率	100.0	98.0	96.6	94.3	97.0	98.8	98.8	97.6	98.7	97.3	95.4	94.9	93.4

※リクルート進学総研マーケットリポート Vol.105 2022 年 6 月号に掲載されたデータをもとに作成

※18 歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下のとおり定義して算出

・18 歳人口 = 3 年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数、義務教育学校卒業者数

・中学校卒業者数 = 高校生 ＋ フリーター ＋ 就職者全て含む

※令和 3 年の人数を 100 とした場合、各年における人数の割合を増減率とした

比率の表記は、小数点以下第 2 位を切り捨てしたもの

※九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

【資料 13】

出身高等学校の所在地県別　入学者数

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学者数（人）	48	51	36	53	40
福 岡 県（人）	27 (56.2%)	28 (54.9%)	15 (41.6%)	30 (56.6%)	19 (47.5%)
九州地方（人）	45 (93.7%)	48 (94.1%)	33 (91.6%)	50 (94.3%)	35 (87.5%)

久留米大学医学部（医学科・看護学科）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入学者数（人）	233	235	234	235	235
福 岡 県（人）	120 (51.5%)	125 (53.1%)	115 (49.1%)	116 (49.3%)	113 (48.0%)
九州地方（人）	198 (84.9%)	196 (83.4%)	186 (79.4%)	196 (83.4%)	193 (82.1%)

※%は、入学者に占める割合を示す、比率の表記は、小数点以下第 2 位を切り捨てしたもの

※九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

【資料 14】

福岡県における自県進学率

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
福岡県の大学の入学者数　（人）	22,583	22,966	22,861	22,333	22,941
福岡県の高等学校出身者数　（人）	14,652	15,138	14,817	14,541	14,928
自県進学率（%）	64.8	65.9	64.8	65.1	65.0

※文部科学省「学校基本調査」のデータをもとに作成した

※自県進学率 = 福岡県の高等学校出身者数 ÷ 福岡県の大学の入学者数 x 100

比率の表記は、小数点以下第 2 位を切り捨てしたもの

【資料 15】

臨床検査技師国家試験の合格率（新卒者）

	第 64 回 平成 30 年	第 65 回 令和 1 年	第 66 回 令和 2 年	第 67 回 令和 3 年	第 68 回 令和 4 年
受験者数（名）	54	41	35	45	46
合格者数（名）	54	38	33	44	42
合 格 率（%）	100.00	92.68	94.28	97.77	91.30
全国の 4 年制大学の平均合格率（%)	90.47	86.50	83.07	91.56	86.43
近隣の 4 年制大学*の平均合格率（%)	90.55	87.20	80.86	94.80	85.48

※合格率= 合格者数 ÷ 受験者数 x 100、比率の表記は、小数点以下第 3 位を切り捨てしたもの

※他大学のデータは、旺文社教育情報センターの情報をもとに作成

※近隣の 4 年制大学＝九州大学、純真学園大学、国際医療福祉大学、熊本大学、熊本保健科学大学

【資料 16】

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校卒業生の進学・就職状況

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
卒業生数（人）	46	45	35	41	54
進学者数（人）	0	0	0	1	0
就職希望者数（人）	40	42	33	37	54
就職者数（人）	40	42	33	37	54
就 職 率（%）	100	100	100	100	100

※就職率= 就職者数 ÷ 就職希望者数 x 100

【資料17】久留米大学医学部「医療検査学科（仮称）」設置の要望書・意見書

文部科学大臣　永岡　桂子　殿

要　望　書

学校法人久留米大学が計画されております医学部医療検査学科の新設について、是非ともご認可いただきますよう、ここにお願い申し上げます。

久留米市は、九州一の大河筑後川や東西に連なる耳納連山に象徴される豊かな自然に恵まれたまちです。この「水と緑」に育まれた筑後平野の肥沃な大地では、多種多様な農産物が生産され、また、古くから交通の要衝であることから、農業・工業・商業などあらゆる分野の産業はもとより、医療機関や高等教育・学術研究機関が集積するなど、佐賀県東部を含む福岡県南地域の中核都市として着実に発展してまいりました。

本市では、この恵まれた地域資源を背景に、久留米市新総合計画第４次基本計画において「学術研究都市づくりの推進」を、第２期久留米市地方創生総合戦略においても、「大学等の姿がみえるまちづくり」を、重要施策と位置づけ、大学等と地域の連携による地域課題の解決や地元企業との産学連携による産業振興、地域の将来を担う人材の育成、学生の確保、卒業生の地元への就職推進などを進めていくこととしております。

久留米大学には、これまでも様々なかたちで地域の発展に先導的かつ重要な役割を果たして頂いており、久留米大学病院、そして関連医療施設には福岡県南、隣接する県を中心に広範な地域医療を担っていただくとともに、新型コロナウイルス感染症への対応等においても大変ご尽力を頂いております。

このような中で、臨床検査の分野は多彩な専門性を有した医療従事者が協働する現場へと進化しており、臨床検査技師についても最先端の医学知識と高度な検査技術を教育する必要性が高まっております。このような背景の下、医学部における専門性の高い医学教育やチーム医療教育、文医融合プログラム等からなる４年制の「医療検査学科」を医学部内へ設置することで、これから変わりゆく保健医療福祉の担い手となる、あるいは発展に寄与する人材を養成される計画とされております。

このことは、本市が取り組む「安心・安全のまち」「活力のあるまち」「活き活き生活できる、活躍できる共生のまち」の３つのまちづくりにとって、強力な推進力になると同時に、近隣自治体に波及することが期待されるものであります。

新学科の設置に向けては、久留米市といたしましても、可能な限りの協力と配慮をさせて頂く所存でございます。

こうした状況をご勘案のうえ、何とぞ久留米大学医学部に「医療検査学科」の設置をご認可くださいますよう、切にお願い申し上げます。

令和　５年　２月１０日

久留米市長　原　口　新　五

【資料17】

令和５年１月 11 日

学校法人　久留米大学
　理事長　永田　見生　殿
　学　長　内村　直尚　殿

一般社団法人　福岡県臨床衛生検査技師会
会長　外山　洋子

拝啓

時下、貴校におかれましてはますますご発展の事とお慶び申し上げます。

平素は、医療技術者の教育にご尽力され、さらにこの度は医療の高度化、専門化、タスクシフト/シェアによる業務拡大に対応するため、久留米大学医学部附属臨床検査専門学校の改組により、久留米大学に医学部医療検査学科として新設される準備に精励されておられる事について、心から感謝申し上げるとともに高く評価しております。

近年、大学学士課程を卒業した臨床検査技師が多くを占めております。今後は、医療の現場における様々な職種の専門性を考慮した教育の導入が必要であり、チーム医療に欠かせない知識・技術・寛容性を身につけた人材を大学教育のレベルから養成し、医療現場へ送り出して頂きたいと考えております。

医療が高度化する中で、臨床検査技師養成機関の大学化の流れは、今や当然となりつつあります。貴学校法人での医療検査学科の設置はまさに時代の流れに沿っているものと考えます。是非医療検査学科の新設を推進して頂くよう、下記の通り学科設立に関する要望事項を示して、ここにお願い申し上げます。

敬具

記

学科設立に関する要望事項

1. 本会は「臨床検査技師の養成は臨床検査技師の手で」なされるべきと考えております。
   貴学校法人におかれましても、是非とも臨床検査技師の資格を持つ教員を主体として頂きたいこと。又、病院等の臨地実習についても充実して頂きたいこと。
2. 臨床検査技師業務は、最先端技術の応用分野であります。今後の進歩発展はますます急速に進むことが予想されます。又、一方では国民の医療に対する認識の変化や国際化に対応し、保健医療の各分野で指導的な役割を果たすことの出来る臨床検査技師の育成が重要です。
   4 年制学部のみならず、大学院増設も視野に入れて頂きたいこと。
3. 現在進めている医学部医療検査学科の設立を、福岡県臨床衛生検査技師会としても期待しておりますので、上記のことを含めて速やかに進めて頂きたいこと。

以上

【資料17】

久留米大学　学長　内村　直尚　殿

新学科「医学部医療検査学科」の設置に関する意見書

福岡県では、平成 29 年３月に医療計画の一部として福岡県地域医療構想を策定しました。地域医療構想の達成に向けて、地域ごとに異なる人口構造の変化、すなわち医療需要の将来の変化に対して、地域の実情に応じて、それに見合った医療資源の効果的かつ効率的な配置を促し、より良質な医療サービスを受けられる体制構築に向けて議論が進められております。

貴大学がある久留米医療圏の人口及び高齢者の推移では、総人口は減少を続け、75歳以上の後期高齢者人口は 2030 年をピークに減少に転じるものの、総人口に占める割合は 2040 年まで増加を続けると予想されています。慢性疾患を有する高齢者の増加や生産年齢人口の減少が加速していく 2040 年頃までを視野に入れて「治す医療」を担う医療機関と「治し、支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確化するとともに、在宅を中心に入退院を繰り返し、最後は看取りを要する高齢者を支えるため、かかりつけ医機能を有する医療機関を中心とした患者に身近な地域での「地域完結型」の医療・介護提供体制を構築する必要があります。

一方、令和２年３月に策定された福岡県医師確保計画における医師偏在指標（医師全体）では、久留米医療圏は県内で最も大きな値となっており、全国でも３位となっています。引き続き、医師の定着を通じた医師確保に取り組んでおりますが、臨床検査技師もまた、各医療圏に確保すべき重要な人的資源であります。

貴大学におかれましては、昭和 43 年に久留米大学医学部附属衛生検査技師学校として創設されて以来 50 年もの長きにわたり、３年間の在校期間内に臨床の現場で医療チームの一員として活躍できる臨床検査技師を育成されてこられました。しかし、近年、臨床検査技師の業務は飛躍的に拡大し、医師の働き方改革を受けたタスク・シフト/シェアの推進の結果、より高度な医療安全の知識と技術を必要とする業務も担うことが求められております。また、チーム医療の推進による多職種連携が必要不可欠となる中、患者の生活の質（QOL）の維持・向上を目的に臨床検査技師には検査データなどの解析と管理、データに伴う助言を求められ、これまで以上に医療に関する知識と技術の修得が必要になると考えております。

上記背景などから、貴大学が「医療チームの一員として患者と家族、地域や社会に貢献できる臨床検査技師」の育成を掲げ、医学部における質の高い専門教育や医学科・看護学科とのチーム医療教育、全学的文医融合プログラム等からなる新学科「医学部医療検査学科」を設置することは、地域医療に大きく寄与するものでありますので、福岡県医師会として賛同いたします。

令和５年２月 16 日

公益社団法人福岡県医師会

会　長　蓮　澤　浩　明

【資料17】

久留米大学
学　長　　内　村　直　尚　　様

新学科「医学部医療検査学科」の設置に関する意見書

本県は「人口当たりの病院数」が全国３位であり、一般診療所病床数、病院病床数も全国平均を大きく上回っています。中核病院・基幹病院が県内に分散立地しており、患者からのアクセスが良いなど充実した医療体制にあります。本県においては、総人口の減少や高齢者数の増加など人口構造、疾病構造等が変化しているほか、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年や、後期高齢者の数がピークを迎える2035年を見据えた新しい医療体制の構築が求められており、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築、さらに介護分野についても、各市町において、在宅医療・介護連携推進事業の実施をはじめ、地域包括ケアシステムの推進を進めているところであります。

本県では2020年より第７次佐賀県保健医療計画の一部として医師確保計画を定め、診療科間の偏在是正と医師少数区域における医師偏在指標の改善に取り組んでおります。臨床検査技師もまた、各医療圏に確保すべき重要な人的資源であると考えています。特に、医師の時間外労働の上限規制が2024年４月から適用されることから、臨床検査技師にはこれまで以上に保健医療分野において、その専門性を活かした幅広い役割を担うことが期待されています。

本県の中でも東部医療圏は、長年にわたり隣接する福岡県久留米医療圏との連携が強く、両圏の地域医療は相互補完関係を築いてまいりました。この度、近隣に位置する久留米大学にて、臨床検査技師を養成する医療検査学科の設置準備が進められていることに大いに期待しております。

昨今の臨床検査技師は、タスクシフト・シェアによる業務拡大へはもちろん、医療の高度化・専門化、超高齢化社会などに対応できる知識や技術、行動力を備えることが求められます。久留米大学は医学部、大学病院と医学・医療の研究機関を備えるとともに文系学部を擁し、多様な学問領域において人材を育成しておられます。これまで専門学校として臨床検査技師を養成してこられた経験も活かして、医学部医療検査学科でより充実した医学教育を施し、これからの社会のニーズに応えることのできる臨床検査技師を育成されることは、佐賀県の保健医療福祉の維持、向上にも寄与するものであることから「医学部医療検査学科」の設置に賛同いたします。

令和５年３月10日

佐　賀　県　知　事
山　口　祥　義

佐賀県知事印

【資料17】

文部科学大臣　永岡　桂子　殿

要　望　書

学校法人久留米大学が実現しようとしている、臨床検査技師養成を目的とした新学科「医学部医療検査学科」の設置について、是非とも認可いただきたくお願い申し上げます。

現在、臨床検査分野における臨床検査技師の職務は、品質保証に基づいた検査を行うだけでなく、多くの職種とのチーム医療はもちろんのこと、高度化・専門化する医学・医療の進歩に柔軟かつ迅速に対応する技量を求められています。

さらには法改正により、検体採取をはじめ医師の働き方改革に伴うタスクシフト・シェアの推進、新型コロナウイルスワクチン接種など、臨床検査技師が実施できる業務の範囲が拡大されており、今後更なる専門性と幅広い視点を持った人材の育成が望まれます。

佐賀県には、臨床検査技師養成施設がありません。佐賀県出身者は現在の久留米大学医学部附属臨床検査専門学校をはじめとした他県の養成施設で資格を取得し、佐賀の地に戻り保健医療福祉の現場を支えています。

このような背景の下、久留米大学では、医学の進歩や時代のニーズに対応するための専門性の高い医学教育やチーム医療教育、文医融合プログラム等からなる 4 年制の新学科設置を構想しており、久留米大学の特色を活かした教育により現場で求められる臨床検査技師を育成することは、近隣の地域社会、佐賀県の保健医療福祉に大きく貢献するものであると期待しています。

つきましては、こうした状況をご勘案の上、何卒久留米大学に「医学部医療検査学科」の設置をご認可くださいますよう、強く要望申し上げます。

令和 5 年 2 月 10 日

一般社団法人佐賀県臨床検査技師会
会長　平野　敬之

【資料17】

佐県医発第１８９４号
令和５年２月２１日

久留米大学
学長　内　村　直　尚　　殿

佐賀県医師会長
松　永　啓　介

新学科「医学部医療検査学科」の設置に関する意見書

佐賀県は「人口当たりの病院数」が全国３位であり、一般診療所病床数、病院病床数も全国平均を大きく上回っています。また、中核病院・基幹病院が県内に分散立地しており、患者のアクセスが良いことなど、充実した医療体制が構築されているものの、総人口の減少や高齢者数の増加など、人口構造、疾病構造等が変化しているほか、団塊の世代がすべて後期高齢者となる２０２５年や、後期高齢者の数がピークを迎える２０３５年を見据えた新しい医療体制の構築が求められており、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築、さらに介護分野についても、各市町において、在宅医療・介護連携推進事業の実施をはじめ、地域包括ケアシステムの構築が進められているところです。加えて、２０２０年より第７次保健医療計画の一部として医師確保計画を定め、診療科間の偏在是正と医師少数区域における医師偏在指標の改善に取り組んでいますが、そのような中、臨床検査技師も各医療圏に確保すべき重要な人的資源であると考えています。

貴学におかれましては、昭和４３年に久留米大学医学部附属衛生検査技師学校として創設されて以来５０年もの長きにわたり、３年間の在校期間内に臨床の現場で医療チームの一員として活躍できる臨床検査技師を育成されてこられました。しかし、近年、臨床検査技師の業務は飛躍的に拡大し、医師の働き方改革を受けたタスク・シフト／シェアの推進の結果、より高度な医療安全の知識と技術を必要とする業務も担うことが求められています。また、チーム医療の推進による多職種連携が必要不可欠となる中、患者の生活の質（ＱＯＬ）の維持・向上を目的に、臨床検査技師には検査データなどの解析と管理、データに伴う助言を求められ、これまで以上に医療に関する知識と技術の修得が必要になると考えています。

つきましては、貴学が「医療チームの一員として患者と家族、地域や社会に貢献できる臨床検査技師」の育成を掲げ、医学部における質の高い専門教育や医学科・看護学科とのチーム医療教育、全学的文医融合プログラム等からなる新学科「医学部医療検査学科」を設置することは、地域医療に大きく寄与するものであることから、佐賀県医師会として賛同いたします。

【資料17】

文部科学大臣　永岡　桂子　殿

要　望　書

学校法人久留米大学が計画されております医学部医療検査学科の新設について、是非ともご認可いただけますよう、ここにお願い申し上げます。

福岡県・久留米市は、バイオ関連産業を育成するため県南部の久留米地域を中心にバイオベンチャー・企業・研究機関などバイオ関連産業の拠点化を目指しており、2021年には内閣府より「福岡バイオコミュニティ」の認定を受けました。弊社（㈱久留米リサーチ・パーク）は、当コミュニティの推進機関である「福岡バイオコミュニティ推進会議」の事務局として地域産業の振興に努めてまいりました。また久留米大学様には、当該推進会議の副会長に永田見生理事長に就任いただいた他、創薬企業に対する開発アドバイスや前臨床試験の実施など、大学の地域貢献としてバイオ産業振興にご尽力いただいています。

この度、久留米大学が医学部に医療検査学科を新設し、地域医療に貢献する臨床検査技師の養成の他、時代のニーズに合った最先端の医療技術を学ぶヘルスバイオサイエンス人材や、データサイエンスの基礎的な知識を学ぶヘルスデータサイエンス人材の養成を目指します。

人材育成は、地域の産業振興においても重要な課題であり、この度の医療検査学科の設置により、地域医療に大きく貢献するだけでなく、専門人材不足に悩む創薬やスマートセル、機能性表示食品開発に関わる企業が必要とする人材を提供することが可能となり、企業の発展が大いに期待されます。学術的裏付けを持った専門人材の育成は、福岡バイオコミュニティにとって長年の懸案であり、地域産業振興の強力な推進力と人材のエコシステムになると大いに期待するものであります。

新学科の設置に向けては、㈱久留米リサーチ・パークといたしましても、可能な限りの協力と配慮をさせて頂く所存です。

こうした状況をご懸案の上、なにとぞ久留米大学医学部に医療検査学科の設置をご認可くださいますよう、切にお願い申し上げます。

令和5年2月27日

株式会社久留米リサーチ・パーク
代表取締役社長　田中　達也

久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」
設置構想についての採用意向アンケート調査

＜対象 :人事・採用ご担当者様＞

久留米大学は、2024年4月に医学部「医療検査学科（仮称）」（入学定員74名）の新設を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、将来、新学科の卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。
なお、ご回答いただいた皆様から得られた情報は、新学科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用いたします。
アンケートの回答は、統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として、公表されることはありません。
つきましては、別紙のリーフレットをご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます

※このアンケート調査は久留米大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※リーフレット及びアンケートに記載されている新学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

・記入は必ずシャープペンシル、または黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムで消してください。
・解答用紙（マークシート）を汚したり、折り曲げたりしないでください。
　正しい回答のように塗りつぶすか、または正しくチェックを入れてください。誤った回答の場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。

問１ 貴社・貴機関の本社（本部）所在地についてお教えください。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋田県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問２ 貴社・貴機関の業種についてご回答ください。

○ 病院、診療所	○ 健診センター
○ 検査センター	○ 保健所
○ 地方自治体	○ 一般企業（製薬関係）
○ 一般企業（医療機器関係）	○ その他 [　　]

問３ 貴社・貴機関において勤務されている臨床検査技師の人数をお答えください。

○ 臨床検査技師 [　　]

問４ 貴社・貴機関における臨床検査技師の充足状況についてお答えください。

○ 大きく不足している　○ やや不足してる　○ 適度に充足している　○ 過剰である　○ わからない

アンケートは裏面に続きます。以下の質問から、別紙・リーフレットをご覧の上でご回答ください。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

【資料18-1】

問５ 久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」は、社会的ニーズが高いと思われますか。

○ ニーズは極めて高い　○ ニーズはある程度高い　○ ニーズはあまり高くない　○ ニーズは高くない

問６ 貴事業所では、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を卒業した学生について、採用したいと思われますか。

○ 採用したいと思う　→問７へお進みください

○ 採用したいと思わない→問８へお進みください

問７ 問６で「採用したいと思う」と回答された方にお尋ねします。現時点で採用可能と思われる人数をお教えください。

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人以上　○ 人数は未定

問８ 久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

問９ 差し支えなければ、貴事業所名をお教えください。※どの企業・団体にご返送いただいたかを把握するためのお伺いであり、本アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。（※ゴム印の押印でも問題ございません。）

アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

【資料18-2】WEBによる採用意向アンケート調査

久留米大学 医学部 医療検査学科（仮称）設置構想についての採用意向アンケート調査

＜対象：人事・採用ご担当者　様＞

1ページ目（全4ページ）

久留米大学は、2024年4月に医学部「医療検査学科（仮称）」（入学定員74名）の新設を構想しております。本学では、このアンケート調査を通して、将来、新学科の卒業生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行なってまいりたいと考えております。なお、ご回答いただいた皆様から得られた情報は、新学科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用いたします。アンケートの回答は、統計的に処理され、特定の企業が識別できる情報として、公表されることはありません。
つきましては、別紙のリーフレットをご覧いただいた上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※このアンケート調査は久留米大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※リーフレット及びアンケートに記載されている新学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

＜本調査につきまして＞ 必須

回答はお一人につき、一回のみとなります。

☐ 同意する

【資料18-2】

久留米大学 医学部 医療検査学科（仮称）設置構想についての採用意向アンケート調査

＜対象：人事・採用ご担当者　様＞

2ページ目（全4ページ）

貴社・貴機関の本社（本部）所在地についてお教えください。 必須

選択してください

貴社・貴機関の業種についてご回答ください。 必須

選択してください

貴社・貴機関において勤務されている臨床検査技師の人数をお答えください。 必須

貴社・貴機関における臨床検査技師の充足状況についてお答えください。 必須

選択してください

次へ

戻る

【資料18-2】

久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」は社会的ニーズが高いと思われますか。 必須

選択してください

貴社・貴機関では、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を卒業した学生について採用したいと思われますか。 必須

- ○ 採用したいと思う
- ○ 採用したいと思わない

現時点で採用可能と思われる人数をお教えください。 必須

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人以上
- ○ 人数は未定

久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。 任意

差し支えなければ貴社・貴機関名をお教えください。 任意

※どの企業・団体にご返送いただいたかを把握するためのお伺いであり、本アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・機関が識別できる情報として公表されることはございません。

送信

戻る

【資料18-2】

久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」は社会的ニーズが高いと思われますか。 必須

選択してください

貴社・貴機関では、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を卒業した学生について採用したいと思われますか。 必須

○ 採用したいと思う　● 採用したいと思わない

久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。 任意

差し支えなければ貴社・貴機関名をお教えください。 任意

※どの企業・団体にご返送いただいたかを把握するためのお伺いであり、本アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・機関が識別できる情報として公表されることはございません。

送信

戻る

【資料19】
久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」設置構想についての
採用意向アンケート調査の結果報告書

久留米大学
医学部 医療検査学科（仮称）
人材需要の見通し調査
【設置構想についての採用意向アンケート調査】
報告書

令和５年１月 30 日

株式会社高等教育総合研究所

【資料19】

目次

１．　「設置構想についての採用意向アンケート調査」概要　2

２．　「設置構想についての採用意向アンケート調査」集計結果　3

３．　「設置構想についての採用意向アンケート調査」集計結果のポイント　7

４．　「設置構想についての採用意向アンケート調査」集計結果の分析　11

添付資料　12

久留米大学 医学部 医療検査学科（仮称）
・概要説明プリント
・設置構想についての採用意向アンケート調査

【資料19】

１.「設置構想についての採用意向アンケート調査」概要

調査目的	久留米大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の医学部「医療検査学科（仮称）」（以下、当該学部学科と記す）における採用意向の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	当該学部学科の卒業生の採用が期待される、福岡県を事業の中心とした施設・企業の計 1,401 件を対象とした。
調査内容	● 問 1～4：回答企業の基本情報（本社（本部）所在地、業種、臨床検査技師雇用の状況） ● 問 5：当該学部学科に対する社会的ニーズ ● 問 6：当該学部学科の卒業生に対する採用の意向 ● 問 7：採用可能人数 ● 問 8：当該学部学科に対する期待・要望 以上、全 8 問で主に選択肢式。一部記述を含む。 （問 9 は、貴事業所名称のため、省略する）
調査時期	2022（令和 4）年 10 月～12 月
調査方法	調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状・アンケート調査用紙 1 部・返送用封筒を送付。ご協力いただける場合は、アンケート調査用紙または WEB 調査により回答を得た。
回答件数	有効回答数 229 件（紙回答：150 件、WEB 回答：79 件）

２.「設置構想についての採用意向アンケート調査」集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問１　貴社・貴機関の本社（本部）所在地についてお教えください。

選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比
北海道	3	1.3%	石川県	0	0.0%	岡山県	0	0.0%
青森県	0	0.0%	福井県	0	0.0%	広島県	4	1.7%
岩手県	0	0.0%	山梨県	1	0.4%	山口県	17	7.4%
宮城県	0	0.0%	長野県	0	0.0%	徳島県	0	0.0%
秋田県	0	0.0%	岐阜県	0	0.0%	香川県	0	0.0%
山形県	0	0.0%	静岡県	0	0.0%	愛媛県	2	0.9%
福島県	0	0.0%	愛知県	2	0.9%	高知県	0	0.0%
茨城県	1	0.4%	三重県	0	0.0%	福岡県	75	32.8%
栃木県	1	0.4%	滋賀県	0	0.0%	佐賀県	17	7.4%
群馬県	0	0.0%	京都府	2	0.9%	長崎県	10	4.4%
埼玉県	2	0.9%	大阪府	1	0.4%	熊本県	25	10.9%
千葉県	2	0.9%	兵庫県	1	0.4%	大分県	12	5.2%
東京都	17	7.4%	奈良県	0	0.0%	宮崎県	12	5.2%
神奈川県	4	1.7%	和歌山県	0	0.0%	鹿児島県	12	5.2%
新潟県	0	0.0%	鳥取県	3	1.3%	沖縄県	1	0.4%
富山県	0	0.0%	島根県	2	0.9%			
合計							229	100.0%

問２ 貴社・貴機関の業種についてご回答ください。

選択項目	回答件数	構成比
病院、診療所	195	85.2%
健診センター	7	3.1%
検査センター	11	4.8%
保健所	0	0.0%
地方自治体	2	0.9%
一般企業(製薬関係)	4	1.7%
一般企業(医療機器関係)	7	3.1%
その他	2	0.9%
無回答	1	0.4%
合計	229	100.0%

問３　貴社・貴機関において勤務されている臨床検査技師の人数をお答えください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	0人	7	3.1%
2	1人～10人	69	30.1%
3	11人～50人	71	31.0%
4	51人～100人	8	3.5%
5	101人以上	8	3.5%
6	無回答	66	28.8%
合計		229	100.0%

【資料19】

問 4　貴社・貴機関における臨床検査技師の充足状況についてお答えください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	大きく不足している	7	3.1%
2	やや不足してる	50	21.8%
3	適度に充足している	129	56.3%
4	過剰である	3	1.3%
5	わからない	3	1.3%
6	無回答	37	16.2%
合計		229	100.0%

問 5　久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」は、社会的ニーズが高いと思われますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	43	18.8%
2	ニーズはある程度高い	143	62.4%
3	ニーズはあまり高くない	26	11.4%
4	ニーズは高くない	1	0.4%
5	無回答	16	7.0%
合計		229	100.0%

問 6　貴事業所では、久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」を卒業した学生について、採用したいと思われますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	採用したいと思う	176	76.9%
2	採用したいと思わない	47	20.5%
3	無回答	6	2.6%
合計		229	100.0%

問 7 は、問 6 で「1. 採用したいと思う」とした 176 人が回答対象である。

問 7　問 6 で「採用したいと思う」と回答された方にお尋ねします。現時点で採用可能と思われる人数をお教えください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	1 人	41	23.3%
2	2 人	14	8.0%
3	3 人	6	3.4%
4	4 人	1	0.6%
5	5 人以上	0	0.0%
6	人数は未定	113	64.2%
7	無回答	1	0.6%
合計		176	100.0%

【資料19】

問 8　久留米大学 医学部「医療検査学科（仮称）」に対して期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

※以下、回答内容を掲載。順不同。

No	回答内容
1	広島県での就職を希望する様な学生さんがいましたらよろしくお願いいたします。
2	ご存知のとおり、鹿児島には臨床検査の学校がありません。地理的なものもあり、熊本、大分、福岡方面へ流れていってしまいます。鹿児島出身の方で、「卒業後は地元へ帰らないといけない」という方を是非採用させていただきたい。 期待しております。
3	地域の医療要求に根ざした人材育成を期待します。
4	私どものような中小病院に貴校の学力レベルの高い学生様が一員となってくれたら、組織が活性化し、他職員も巻き込んで検査技術の向上を図れるものと考えております。
5	開学し、卒業生が出る年に検討します。
6	現在、臨床検査技師 9 名、昨年 2 名の新卒を採用しています。コロナ遺伝子検査の増加に伴い収益が上がりましたが、今後、検査科を運営するにより幅広い知識が必要だと痛感します。 タスクシフト基礎講習はもちろん、柔軟な思考も養ってほしいところです。
7	検体検査についてはある程度対応できる技師はいるのですが、生理検査、特に心電図や心エコーが経験不足のように思えます。学内で積極的に指導いただけると即戦力として期待出来ると思います。
8	是非、優秀な人材を育ててほしい
9	臨床検査技師の方には、従来の検査、研究に加え今後より求められている感染管理、医療安全等にも強いマネジメント力も必要と思われます。スキルの高い学生の教育に期待しております。
10	60 代の検査技師が退職していく年代になり、人手不足です。毎年、求人はありませんが、募集する時には案内させて頂きます。（あと数年は専門学校の方ですかね）
11	7 人中 3 人が久留米の卒業生です。採用時にはぜひお願いしたいと思っています。
12	地区での採用決定となります。
13	貴校は歴史ある大学であるため、これまでの実績を活かした検査学科に特化したカリキュラムを構築頂けるかと思います。将来的に有能な検査技師を輩出頂けることを期待致します。
14	地方学生が、地元企業、法人で就職されること／実習等で多様な経験を積まれ、一定の知識と協調性を育んでもらいたい
15	臨床検査技師として病院で勤務できる（適正がある）学生を入学させ、教育してほしい。
16	知識はもちろんのこと、社会性や探究心のある学生を教育して頂ければと思います。
17	検査技師としての職種ではございませんが、弊社営業職とサービスエンジニア職は、医療機器商社・メーカーとして技師さんと接する機会は多く、知識やスキルは大いに活かしていただけると思います。
18	卒業・資格取得後は地元に帰って地域貢献する人材を育ててほしい

【資料19】

19	臨床検査医学教育の充実を希望いたします。
20	現在も久留米大学医学部と距離が近いため高度な教育を提供されていると思いますが、就学期間が１年延びることでさらに深い知識・経験を備えて社会に羽ばたかれることを期待しています。
21	優秀な人材を養成して欲しい。但し、当院における臨床検査技師の定員は３名で１名不足しているが、一度入職されると長く勤務されるので当院では、定期採用は困難です。
22	技師として活躍できる場所、働き方の多様性を知ってほしい
23	大学卒となるため企業、試薬メーカー等への就職が期待される。
24	医療機関と言ってもサービス業に近い業務です。お人柄や意欲など知識以外のことも重要視しておりますので、一概に資格のみでの採用は考えておりませんので、未定とさせていただいております。しかし、実習で来られる学生さんの素晴らしさは実感しております。今後ともよろしくお願いいたします。
25	検査全般に携わることが主になりますが、当院では超音波部門、中央検査部門（生理、血液、細菌）、病理部門と別れていますので、それぞれの領域に興味を持って専門性を高めたいと思う方に興味を持ちます。
26	今後の医療に求められるバイオ、データサイエンス、マネージメントを教育されるとの事ですので、視野の広い臨床検査技師養成に期待しております。
27	単に技師養成に留まらず、ヘルスマネジメントサイエンス教育もされることが興味深いです、医療制度や診療報酬教育のエッセンスをどこまで入れるのかはわかりませんが、経営企画スタッフ候補になれるような人材育成を期待します。
28	当院の機能上、心臓や血管をエコーできちんと見られる技師のニーズが高いのだが、そういった技術を身につけている技師が少ないように感じる。また、興味を持ってエコー技術を磨きたいという技師も相対的に少ないように感じる。あくまでも私見ですが。是非、エコーを診られる技師を育てて頂きたい。
29	先進医療を学び即戦力となる学生の育成を希望する
30	現状、検査技師は充足しています。学生の就職先検討の際は他県も積極的に検索いただけると幸いです。
31	これまでも久留米大学医学部とのご縁は深く連携させていただいてきました。医療検査学科の設置により、さらに久留米大学医学部の総合力を高め、現場の医療機関との相互交流を図りながら発展を願っています。
32	幅広い地域からの育成を望むと同時に、地域に貢献する将来性のある人材を期待します。
33	女性技師の育成、生理学的検査における女性技師のニーズは非常に高い
34	質問　現在の専門学校は閉校となり、4 年生への移行でしょうか？ 期待　より長い期間の教育によって専門性の高いスタッフの教育／より即戦力としてのスタッフの教育など
35	質の高い専門性／社会人としての人間性（コミュニケーション、チームワーク力など）

３．「設置構想についての採用意向アンケート調査」集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

● 福岡県を本社(本部)所在地とする企業が約 3 割、業種は病院、診療所が約 9 割。

久留米大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の医学部「医療検査学科（仮称)」に係る「設置構想についての人材需要アンケート調査」において、有効な回答とする 229 件の集計を行った。その結果、本社（本部）所在地の内訳は、「福岡県」が 75 件（32.8%）と最も多く、次いで「熊本県」が 25 件（10.9%)、「東京都」が 17 件（7.4%)、「山口県」、「佐賀県」が 17 件（7.4%)、「大分県」、「宮崎県」、「鹿児島県」が 12 件（5.2%)、「長崎県」が 10 件（4.4%）となった。

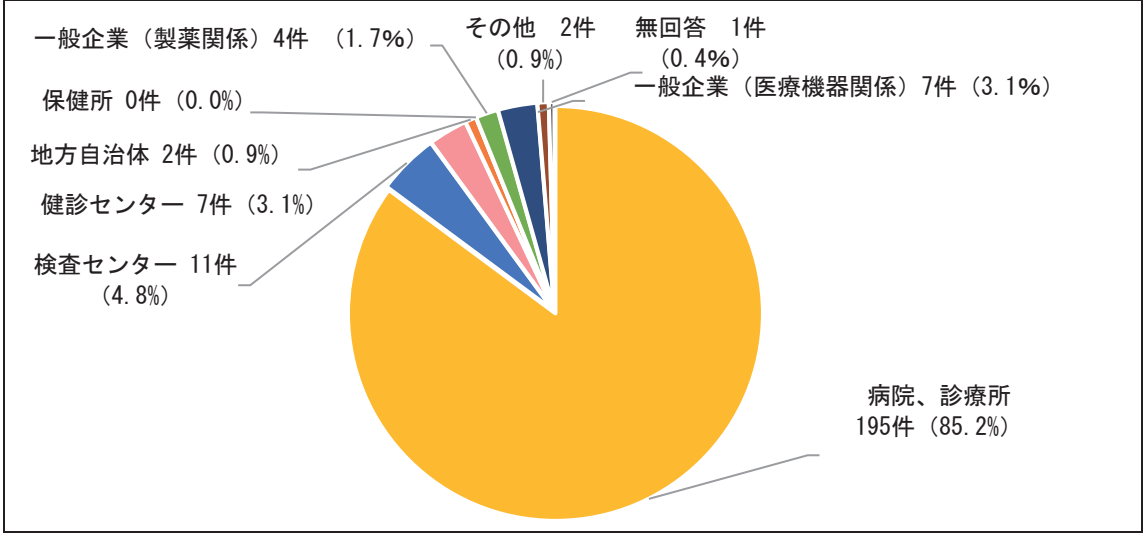
企業の業種については、「病院」、「診療所」が 195 件（85.2%）と最も多く、次いで「検査センター」が 11 件（4.8%)、「健診センター」と「一般企業（医療機器関係)」が 7 件（3.1%)、「一般企業（製薬関係)」が 4 件（1.7%)、「地方自治体」が 2 件（0.9%）となった。

【表】回答企業の本社（本部）所在地について＜問 1 の結果より＞

選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比
福岡県	75	32.8%	神奈川県	4	1.7%	愛媛県	2	0.9%
熊本県	25	10.9%	広島県	4	1.7%	茨城県	1	0.4%
東京都	17	7.4%	北海道	3	1.3%	栃木県	1	0.4%
山口県	17	7.4%	鳥取県	3	1.3%	山梨県	1	0.4%
佐賀県	17	7.4%	埼玉県	2	0.9%	大阪府	1	0.4%
大分県	12	5.2%	千葉県	2	0.9%	兵庫県	1	0.4%
宮崎県	12	5.2%	愛知県	2	0.9%	沖縄県	1	0.4%
鹿児島県	12	5.2%	京都府	2	0.9%			
長崎県	10	4.4%	島根県	2	0.9%			
合計							229	100.0%

※回答のあった都道府県のみ記載

【グラフ】回答企業の業種について＜問 2 の結果より＞

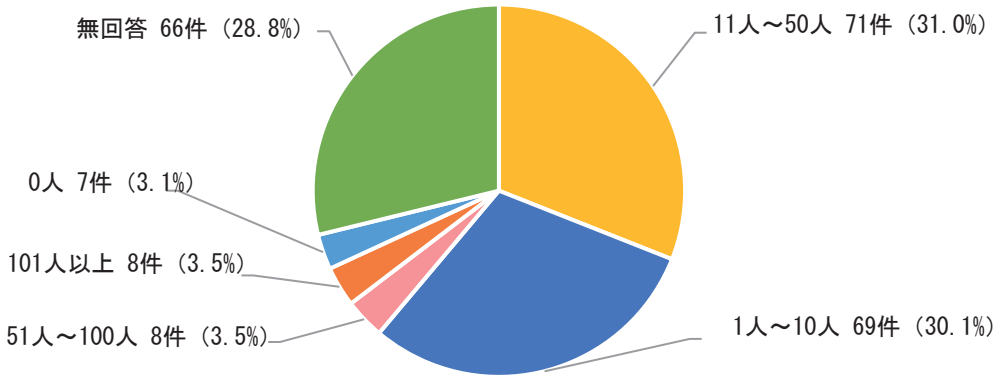


● 臨床検査技師の充足状況については、適度に充足している、やや不足している、大きく不足していると回答した合計が、約 8 割であった。

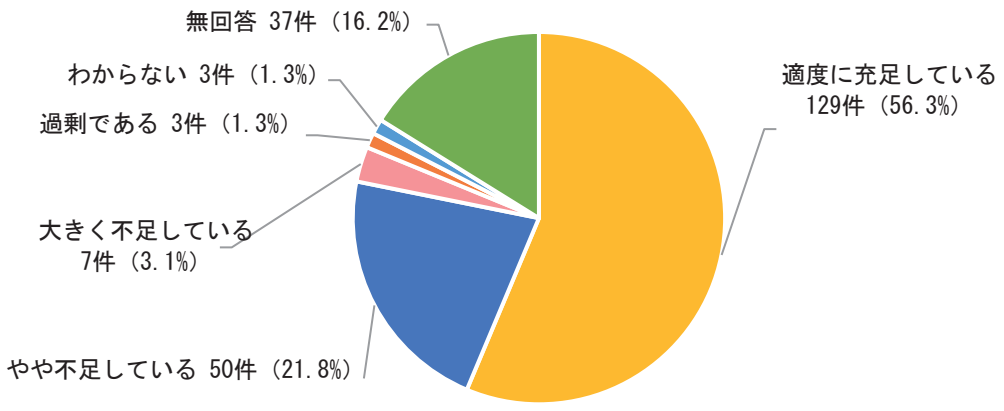
回答企業の臨床検査技師の勤務状況については、無回答を除いて、11 人～50 人が 71 件（31.0%）と最も多く、次いで 1 人～10 人が 69 件（30.1%）、51 人～100 人および 101 人以上が 8 件（3.5%）、0 人が 7 件（3.1%）という回答となった。

また、臨床検査技師の充足状況については、回答の多い順に、「適度に充足している」が 129 件（56.3%）、「やや不足している」が 50 件（21.8%）、「大きく不足している」が 7 件（3.1%）、過剰であるが 3 件（1.3%）、わからないが 3 件（1.3%）であった。

【グラフ】回答企業の臨床検査技師の勤務状況について＜問 3 の結果より＞



【グラフ】回答企業の臨床検査技師の充足状況ついて＜問 4 の結果より＞

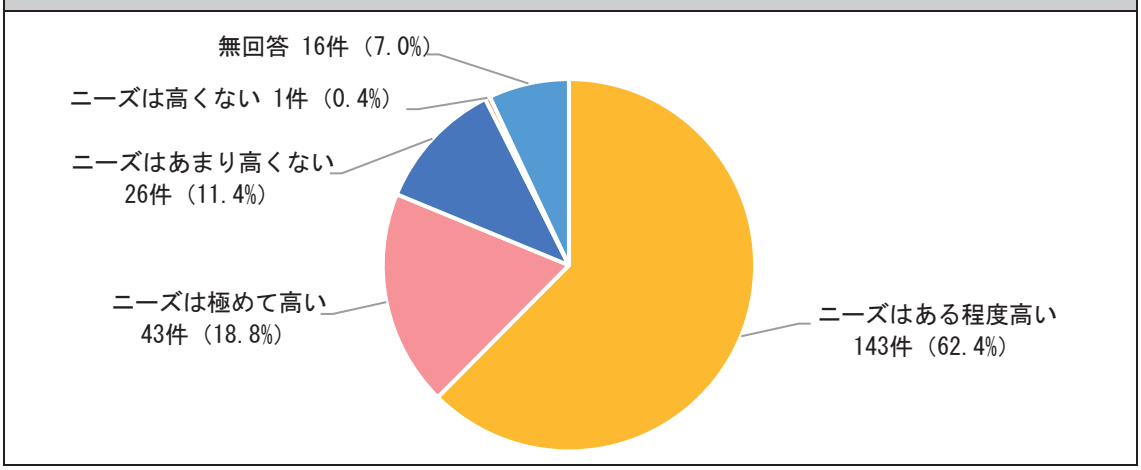


【資料19】

● 「ニーズは極めて高い」、「ニーズはある程度高い」の回答の合計が、全体の 8 割を超える結果となった。

当該学部学科に対する社会的ニーズについての質問では、「ニーズはある程度高い」が 143 件（62.4%）と最も多く、次いで「ニーズは極めて高い」が 43 件（18.8%）、「ニーズはあまり高くない」が 26 件（11.4%）、「ニーズは高くない」が 1 件（0.4%）の順となっている。「ニーズは極めて高い」、「ニーズはある程度高い」の回答は、合計で 186 件（81.2%）となり全体の 8 割を超える結果となった。

【グラフ】当該学部学科に対する社会的ニーズについて＜問 5 の結果より＞



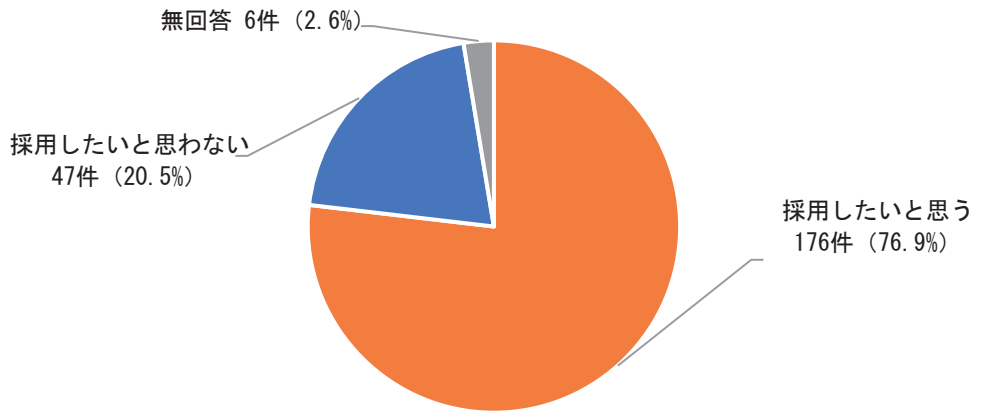
【資料19】

● 採用可能人数は、予定している入学定員 74 名を大きく上回る 204 人であった。

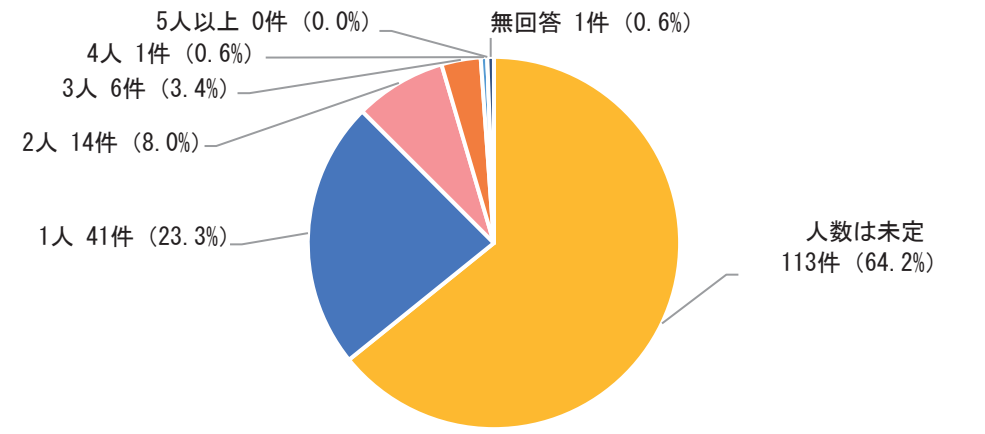
当該学部学科の卒業生に対する採用の意向については、176 件（76.9%）が「採用したいと思う」と回答し、7 割を超える企業が採用意欲を示す結果となった。またこの 176 件から示された具体的な採用可能人数は、「人数は未定」が 113 件（64.2%）と最も多く、次いで「1 人」が 41 件（23.3%）、「2 人」が 14 件（8.0%）、「3 人」が 6 件（3.4%）、「4 人」が 1 件（0.6%）の順となっている。

この採用可能人数の合計は 204 人（「人数は未定」は 1 人として集計）となり、当該学部学科における入学定員の 74 名を十分に上回る回答を得る結果となった。

【グラフ】当該学部学科の卒業生に対する採用の意向について＜問 6 の結果より＞



【グラフ】採用可能人数について＜問 7 の結果より＞



【資料19】

４．「設置構想についての採用意向アンケート調査」集計結果の分析

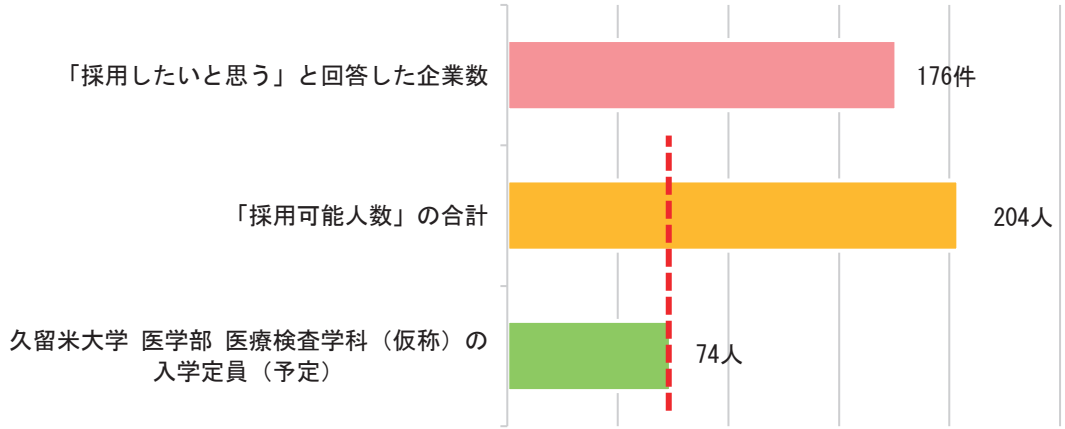
当該学部学科の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業 176 件（問 6）の採用可能人数の結果（問 7）は、以下の通りである。

【表】採用可能人数について＜問 6 の結果より＞

No	選択項目	回答数	採用可能人数
1	1 人	41	41 人
2	2 人	14	28 人
3	3 人	6	18 人
4	4 人	1	4 人
5	5 人以上	0	0 人
6	人数は未定	113	113 人
7	無回答	1	0 人
合計		176	204 人

※人数は未定は 1 人として集計

【グラフ】当該学部学科卒業生の採用可能人数について



以上の結果より、久留米大学が 2024（令和 6）年 4 月に設置構想する医学部「医療検査学科（仮称)」の人材需要の見通しは、卒業生を採用したいと回答した企業 176 件の採用可能人数を乗じた合計の 204 人が採用の意向・人数を示す回答であった。

これは、久留米大学が予定する入学定員の 74 名を大きく上回る回答結果であるため、当該学部学科の人材需要の見通しは問題なしと判断できる。

【資料19】

久留米大学様【出口調査】クロス集計表

◆「採用したい」と回答した企業の業種別

選択肢	問２回答件数	採用したい
病院、診療所	195	147
健診センター	7	6
検査センター	11	11
保健所	0	0
地方自治体	2	2
一般企業（製薬関係）	**4**	**2**
一般企業（医療機器関係）	**7**	**6**
その他	2	2
合計	228	176

◆一般企業と社会的ニーズのクロス集計

選択肢	一般企業（製薬関係）	一般企業（医療機器関係）
ニーズは極めて高い	2	3
ニーズはある程度高い	2	4
ニーズはあまり高くない	0	0
ニーズは高くない	0	0
合計	4	7

※回答件数は以下のとおり
一般企業（製薬関係）:4件
一般企業（医療機器関係）：7件

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
16	学長	ウチムラ　ナオヒサ 内村　直尚 ＜令和6年4月＞		医学博士		久留米大学学長 （令和2.1～令和5.12）

別記様式第３号（その２の１）

教員の氏名等

（医学部医療検査学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
①	専	教授 (学科長)	ニシ　アキノリ 西　昭徳 ＜令和8年4月＞		博士 (医学) Ph.D. スウェーデン		学びの基本Ⅰ※ 病態生理学Ⅱ※ 臨床医学総論Ⅱ※ 薬理学※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 医学英語※ 生理検査学実習※ 医療安全・検体採取実習※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 2通 3前 3後 1後 2前 2通 3通 2後 3通 4通	1.8 0.1 0.3 0.5 0.1 0.7 0.1 0.3 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1	久留米大学医学部医学科 薬理学講座 教授 兼医学部附属臨床検査専門学校校長 （昭60.4）	5日
							RI検査学※	3前	0.7	1		
	兼担	教授 (学科長)	ニシ　アキノリ 西　昭徳 ＜令和6年4月＞		博士 (医学) Ph.D. スウェーデン		病態生理学Ⅱ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 医学英語※ 生理検査学実習※ 応用選択コース入門	2通 1後 2前 2通 2後	0.1 0.1 0.7 0.1 0.1	1 1 1 2 1		
②	専	教授	アリナガ　テルコ 有永　照子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ※ 臨床医学総論Ⅰ※ 臨床栄養学※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 医学英語※ 臨床化学検査学Ⅱ※ 生理検査学実習※ 画像検査学Ⅱ※ 医療安全管理学※ 医療安全・検体採取実習 チーム医療演習※ 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ マネジメントサイエンス応用Ⅰ※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 2通 3前 1後 2前 2前 2通 3後 3前 3通 4前 4後 2後 3前 3通 4通	1.8 0.7 0.3 0.1 0.4 0.7 0.1 0.1 0.5 1.5 0.5 0.1 0.1 0.7 6 2	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1.5 1 1 1 1 1 1	久留米大学医学部医学科 内科学講座（消化器内科部門） 准教授 （昭63.4）	4日
							画像検査学Ⅰ※	2通	0.8	1		
							血液検査学実習※ 輸血・移植検査学※	2後 3前	0.9 0.1	1 1		
3	専	教授	タケヤ　ミツエ 武谷　三恵 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ 医用工学概論実習 生理学※ 肉眼解剖学実習 病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 医学英語※ 微生物検査学※ 生理検査学実習※ 検査管理総論※ 医療安全・検体採取実習※ 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 2後 1通 2通 1後 2通 1後 2前 2通 2通 3前 3通 4後 2後 3通 4通	2 0.6 0.8 0.5 1 0.9 0.1 0.1 0.4 0.1 0.1 0.3 0.2 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	久留米大学医学部医学科 生理学講座（統合自律機能部門） 准教授 兼医学部附属臨床検査専門学校教務主任 （平8.5）	4日
③	専	教授	サナダ　サキコ 真田　咲子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ※ 組織解剖学 肉眼解剖学実習 病理学Ⅰ 病理学Ⅱ 臨床医学総論Ⅱ※ 臨床病理検討会 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 医学英語※ 病理検査学※ 病理検査学実習 免疫検査学※ 遺伝子・染色体検査学※ 生理検査学実習※ ゲノム医療・先端医学※ 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 1前 2通 1後 2前 3前 3後 1後 2前 2通 3後 2前 2通 3通 4後 2後 3通 4通	1.8 2 0.5 1 1 0.3 1 0.1 0.1 1.2 2 0.2 0.5 0.1 0.1 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1	久留米大学医学部医学科 病理学講座 准教授 （平15.5）	4日
							一般検査学※ 一般検査学実習※	3通 3通	0.2 0.3	1 1		

5	専	教授	タナマチ　チヨコ 棚町　千代子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 微生物検査学実習Ⅰ 微生物検査学※ 微生物検査学実習Ⅱ 検査管理総論※ 医療安全・検体採取実習※ チーム医療演習 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 1後 1後 2通 2通 3前 3通 4前 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.1 1 2.1 2 0.7 1 1 1.3 1.5 0.3 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1.8 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 専任教員 （昭63.4）	5日
6	専	教授	マカヤ　タカシ 真茅　孝志 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ※ 検査機器総論※ 医用工学概論 医用工学概論実習 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 生理検査学Ⅰ※ 生理検査学実習※ 検査管理総論※ 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 1通 1後 2後 1後 2通 2通 3前 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.8 2 1 0.1 0.5 0.5 0.5 1.2 1.5 0.3 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	純真学園大学保健医療学部 医療工学科 教授 （平30.4）	4日
7	専	教授	ムロタニ　ケンタ 室谷　健太 ＜令和6年4月＞		博士 (医学 バイオ 統計学)		学びの基本Ⅰ※ 統計学※ データサイエンス基礎Ⅰ※ データサイエンス基礎Ⅱ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 応用選択コース入門※ データサイエンス応用 卒業研究	1前 1後 2通 3前 1後 2後 3通 4通	1.8 1.5 1.5 0.8 0.1 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学バイオ統計センター 教授 （平30.4）	5日
④	専	教授	バン　タダト 伴　匡人 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		学びの基本Ⅰ※ 化学 バイオサイエンス基礎※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 臨床化学検査学Ⅰ※ 臨床化学検査学実習※ 遺伝子・染色体検査学実習※ 応用選択コース入門※ バイオサイエンス応用 卒業研究	1前 1前 2後 1後 1後 2通 2前 2後 3通 4通	2 1 0.4 0.1 0.4 0.3 0.9 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学分子生命科学研究所 准教授 （平23.10）	5日
							RI検査学※	3前	0.7	1		
9	専	准教授	ヤギ　トモコ 八木　朝子 ＜令和6年4月＞		修士 (学術)		学びの基本Ⅰ※ 医用工学概論実習 生理検査学Ⅱ※ 睡眠医学※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 生理検査学Ⅰ※ 生理検査学実習 検査管理総論※ チーム医療演習※ 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 2後 3通 3前 1後 2通 2通 3前 4前 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.4 0.3 0.2 0.1 0.7 2 0.3 0.5 1.2 2 0.2 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学 学長直属特命准教授 （令5.4）	4日
10	専	准教授	セキ　リツコ 関　律子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ※ 血液学※ 臨床医学総論Ⅱ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 医学英語※ 血液検査学 血液検査学実習 一般検査学※ 一般検査学実習※ 免疫学実習※ 遺伝子・染色体検査学実習※ 輸血・移植検査学※ 医療安全・検体採取実習※ 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 2前 3前 1後 2前 2後 2後 3通 3通 1後 2前 3前 3通 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.6 0.1 0.1 0.3 2 2 0.1 0.1 0.3 0.9 0.1 1 1.2 1 0.5 0.2 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1.8 1 1 1 1 1 1	久留米大学 学長直属特命講師 （平18.8）	5日

11	専	准教授	タシロ　キョウコ 田代　恭子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 一般検査学※ 一般検査学実習※ 臨床化学検査学Ⅰ※ 臨床化学検査学実習 免疫学実習※ 免疫検査学※ 輸血・移植検査学※ 輸血・移植検査学実習 検査管理総論※ 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 1後 3通 3通 1後 2通 1後 3後 3前 3前 3前 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.1 0.1 0.9 0.5 2 0.4 0.8 1.7 1 0.5 1.2 2 0.3 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学医学部医学科 質量分析医学応用研究施設 准教授 （平30.4）	5日
12	専	准教授	オバラ　ヒトシ 小原　仁 ＜令和6年4月＞		博士 (医学 バイオ 統計学)		学びの基本Ⅰ※ マネジメントサイエンス基礎Ⅱ※ 保健医療情報学※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 応用選択コース入門※ マネジメントサイエンス応用Ⅰ※ マネジメントサイエンス応用Ⅱ マネジメントサイエンス応用Ⅲ 卒業研究	1前 2通 2後 1後 2後 3前 3前 3後 4通	1.8 0.4 0.3 0.1 0.1 3.3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学バイオ統計センター 講師 （平30.4）	4日
13	専	助教	ヨシノ　チヨ 吉野　千代 ＜令和8年4月＞		修士 (医科 学)		学びの基本Ⅰ※ 検査機器総論※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 臨床化学検査学Ⅰ※ 臨床化学検査学Ⅱ 臨床化学検査学実習 免疫検査学※ 微生物検査学実習Ⅱ※ 医療安全・検体採取実習※ 薬品管理学※ 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 1通 1後 1後 2前 2通 3後 2通 3通 1前 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.2 0.1 1.1 2 2 0.4 0.8 1 0.2 1.3 1 0.3 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1.8 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 専任教員 （平2.4）	5日
	兼任	講師	ヨシノ　チヨ 吉野　千代 ＜令和6年4月＞		修士 (医科 学)		学びの基本Ⅰ※ 検査機器総論※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 臨床化学検査学Ⅰ※ 臨床化学検査学Ⅱ 臨床化学検査学実習 微生物検査学実習Ⅱ※ 薬品管理学※ 応用選択コース入門※	1前 1通 1後 1後 2前 2通 2通 1前 2後	1.8 0.2 0.1 1.1 2 2 0.8 0.2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1		
⑤	専	助教	イトヤマ　タカコ 糸山　貴子 ＜令和8年4月＞		修士 (医科 学)		学びの基本Ⅰ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 一般検査学※ 一般検査学実習 輸血・移植検査学実習※ 微生物検査学実習Ⅰ 微生物検査学実習Ⅱ※ 医療安全・検体採取実習※ 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 1後 3通 3通 3前 1後 2通 3通 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.1 1.6 2 0.9 1 0.7 1 1.2 1 0.1 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1.8 1 1 1 1 1 1	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 専任教員 （平4.4）	5日
							血液検査学実習※	2後	1.1	1		
	兼任	講師	イトヤマ　タカコ 糸山　貴子 ＜令和6年4月＞		修士 (医科 学)		学びの基本Ⅰ※ 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 血液検査学実習※ 微生物検査学実習Ⅰ 微生物検査学実習Ⅱ※ 応用選択コース入門※	1前 1後 2後 1後 2通 2後	1.8 0.1 1.1 1 0.7 0.1	1 1 1 1 1 1		
15	専	助教	フクミツ　チヒロ 福満　千容 ＜令和6年4月＞		学士 (生命科 学)		学びの基本Ⅰ※ 検査機器総論※ 組織解剖学 臨床検査学・ヘルスサイエンス入門※ 病理検査学 病理検査学実習 微生物検査学実習Ⅱ※ 薬品管理学※ 臨地実習前技能修得到達度評価※ 臨地実習 臨床検査医学特論※ 応用選択コース入門※ 臨床検査応用 卒業研究	1前 1通 1前 1後 2通 2通 2通 1前 4前 4前 4後 2後 3通 4通	1.8 0.3 2 0.1 2 2 0.5 0.2 1.2 1 0.1 0.1 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 専任教員 （平24.4）	4日

16	兼担	教授	ウチムラ　ナオヒサ 内村　直尚 ＜令和8年4月＞		医学博士		ゲノム医療・先端医学※	3通	0.1	1	久留米大学学長 （昭61.4）	
17	兼担	教授	ノダ　コウ 野田　耕 ＜令和6年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツカルチャーを解剖する。※	1前	0.5	1	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科 教授 （平29.4）	
18	兼担	教授	ヨシダ　ノリコ 吉田　典子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		健康・スポーツ科学概論※	1後	0.7	1	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科 教授 （昭59.4）	
19	兼担	教授	ミギタ　タカシ 右田　孝志 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		健康・スポーツ科学概論※	1後	0.6	1	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科 教授 （平9.4）	
20	兼担	教授	ヒガシモト　ユウイチロウ 東元　祐一郎 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		基礎医学ディベート	1前	1.5	1	久留米大学 医学部医学科化学教室 教授 （平14.4）	
21	兼担	教授	コガ　ヒロノリ 古賀　浩徳 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		基礎医学ディベート 臨床医学総論Ⅱ※	1前 3前	1.5 0.1	1 1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門） 教授 （平6.6）	
22	兼担	教授	ヤスナガ　サトル 安永　悟 ＜令和6年4月＞		博士 (教育心理学)		学びの基本Ⅰ※ 学びの基本Ⅱ※	1前 1後	1.1 1	1 1	久留米大学 文学部心理学科 教授 （62.4）	
23	兼担	教授	ワタナベ　コウイチ 渡部　功一 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		学びの基本Ⅰ※	1前	0.4	1	久留米大学 医学部医学科解剖学講座 （肉眼・臨床解剖部門） 教授 （平6.5）	
24	兼担	教授	ナガサワ　マキコ 長澤　真樹子 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		物理学※	1前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科物理学教室 教授 （平27.4）	
25	兼担	教授	オグラ　ヨシトシ 小椋　義俊 ＜令和6年4月＞		博士 (バイオサイエンス)		細菌学※ ゲノム医療・先端医学※	1通 3通	0.6 0.1	1 1	久留米大学 医学部医学科感染医学講座 （基礎感染医学部門） 教授 （令2.6）	
26	兼担	教授	オオタ　ケイスケ 太田　啓介 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		組織解剖学※ 検査機器総論※ ゲノム医療・先端医学※	1前 1後 3通	0.7 0.2 0.1	1 1 1	久留米大学 医学部医学科 先端イメージング研究センター 教授 （平5.4）	
27	兼担	教授	サイトウ　シゲアキ 齋藤　成昭 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		遺伝子・染色体検査学実習※ バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2前 2後 3通 4通	0.9 0.1 6 2	1 1 1 1	久留米大学 分子生命科学研究所 教授 （平14.6）	
28	兼担	教授	タカノ　マコト 鷹野　誠 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		生理学※	1通	0.6	1	久留米大学 医学部医学科生理学講座 （統合自律機能部門） 教授 （平23.4）	
29	兼担	教授	ミゾグチ　アツシ 溝口　充志 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		免疫学※	1後	0.2	1	久留米大学 医学部医学科免疫学講座 教授 （平26.2）	
30	兼担	教授	ミゾグチ　エミコ 溝口　恵美子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		免疫学※	1後	0.1	1	久留米大学 医学部医学科免疫学講座 教授 （平28.4）	
31	兼担	教授	サガ　ツヨシ 嵯峨　堅 ＜令和7年4月＞		博士 (水産学) 博士 (医学)		肉眼解剖学実習	2通	1	1	久留米大学医学部看護学科 教授 （平6.4）	
32	兼担	教授	タニハラ　シンイチ 谷原　真一 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		公衆衛生学Ⅱ※ マネジメントサイエンス基礎Ⅱ※ 臨床検査医学特論※	2後 2通 4後	0.5 0.1 0.1	1 1 1	久留米大学医学部医学科 公衆衛生学講座 教授 （平30.6）	
33	兼担	教授	ウシジマ　コウスケ 牛島　高介 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		マネジメントサイエンス基礎Ⅰ※	1後	1	1	久留米大学病院 保険診療管理部 教授 （平2.4）	

34	兼担	教授	サトウ　トシノブ 佐藤　敏信 ＜令和7年4月＞		医学博士 博士 (公衆衛生)		マネジメントサイエンス基礎Ⅱ※	2通	0.2	1	久留米大学 学長直属特命教授 （平28.4）	
35	兼担	教授	フルカワ　キョウジ 古川　恭治 ＜令和6年4月＞		Ph.D. アメリカ		統計学※ データサイエンス基礎Ⅱ※ データサイエンス応用 卒業研究	1後 3前 3通 4通	1.3 0.3 6 2	1 1 1 1	久留米大学 バイオ統計センター 教授 （平30.4）	
36	兼担	教授	アナザワ　ツトム 穴澤　務 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		データサイエンス基礎Ⅰ※	2通	0.5	1	久留米大学 商学部商学科 教授 （平19.4）	
37	兼担	教授	オカベ　ヨシノブ 岡部　義信 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学病院 消化器病センター 教授 （平5.5）	
38	兼担	教授	ノムラ　マサトシ 野村　政壽 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （内分泌代謝内科部門） 教授 （平29.7）	
39	兼担	教授	ホシノ　トモアキ 星野　友昭 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅱ※ 遺伝子・染色体検査学※	3前 2前	1 0.1	1 1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （呼吸器・神経・膠原病内科部門） 教授 （平5.4）	
40	兼担	教授	マツセ　ヒロオ 松瀬　博夫 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅱ※ 臨床栄養学※	3前 3前	0.1 0.1	1 1	久留米大学病院 リハビリテーション部 教授 （平13.5）	
41	兼担	教授	オゾネ　モトヒロ 小曽根　基裕 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※ 睡眠医学※	3通 3前	0.1 0.1	1 1	久留米大学 医学部医学科神経精神医学講座 教授 （平31.4）	
42	兼担	教授	ショウジ　ヨシヒサ 小路　純央 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※	3通	0.1	1	久留米大学 高次脳疾患研究所 教授 （平8.4）	
43	兼担	教授	カワグチ　タクミ 川口　巧 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		臨床栄養学※	3前	0.3	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門） 教授 （平7.5）	
44	兼担	教授	カジ　タツル 加治　建 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		臨床栄養学※	3前	0.2	1	久留米大学 医学部医学科外科学講座 （小児外科部門） 教授 （令3.11）	
45	兼担	教授	カワヤマ　トモタカ 川山　智隆 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		睡眠医学※	3前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （呼吸器・神経・膠原病内科部門） 教授 （平6.4）	
46	兼担	教授	ワタナベ　ヨリコ 渡邊　順子 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		遺伝子・染色体検査学※ ゲノム医療・先端医学※	2前 3通	0.2 0.1	1 1	久留米大学医学部医学科 質量分析医学応用研究施設 教授 （昭63.5）	
47	兼担	教授	タカス　オサム 高須　修 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		生理検査学実習※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科救急医学講座 教授 （平19.4）	
48	兼担	教授	クロマツ　リョウコ 黒松　亮子 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		画像検査学Ⅰ※	2通	0.3	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門） 教授 （昭61.4）	
49	兼担	教授	ウチヤマ　ユウスケ 内山　雄介 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		画像検査学Ⅱ※	3後	0.2	1	久留米大学 医学部医学科放射線医学講座 教授 （平6.5）	
50	兼担	教授	ワタナベ　ヒロシ 渡邊　浩 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		医療安全管理学※	3前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科感染制御学講座 教授 （平18.10）	
51	兼担	教授	ヨコヤマ　シンジ 横山　晋二 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		医療安全管理学※	3前	0.3	1	久留米大学病院 医療安全管理部 教授 （平6.5）	

52	兼担	教授	ヤマモト　ケン 山本　健 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		ゲノム医療・先端医学※	3通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科医化学講座 教授 （平26.5）	
53	兼担	教授	アキバ　ジュン 秋葉　純 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		ゲノム医療・先端医学※	3通	0.1	1	久留米大学病院 病理診断科・病理部 教授 （平9.5）	
54	兼担	教授	マスモリ　カヅキ 益守　かづき ＜令和9年4月＞		博士 (看護学)		チーム医療演習※	4前	0.5	1	久留米大学医学部看護学科 教授 （平24.4）	
55	兼担	准教授	ユキザネ　テッペイ 行實　鉄平 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学) ※		スポーツカルチャーを解剖する。※	1前	0.5	1	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科 准教授 （平29.4）	
56	兼担	准教授	オオハシ　ミツノリ 大橋　充典 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学) ※		スポーツカルチャーを解剖する。※	1前	0.6	1	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科 准教授 （平29.4）	
57	兼担	准教授	ソノダ　フミ 薗田　史 ＜令和6年4月＞		修士 (法学)		法学	1後	1.5	1	久留米大学 法学部法律学科 准教授 （平20.4）	
58	兼担	准教授	イノウエ　ヒロキ 井上　寛規 ＜令和6年4月＞		博士 (経済学)		経済学概論	1後	1.5	1	久留米大学 経済学部文化経済学科 准教授 （平31.4）	
59	兼担	准教授	サカイ　カヨ 酒井　佳代 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		キャリア入門※ チーム医療演習※	1前 4前	0.8 0.5	1 1	久留米大学 基盤教育研究センター 准教授 （平23.5）	
60	兼担	准教授	アサノ　リョウスケ 浅野　良輔 ＜令和6年4月＞		博士 (心理学)		社会心理学	1後	1.5	1	久留米大学 文学部心理学科 准教授 （平28.4）	
61	兼担	准教授	シュトウ　タカヒデ 首藤　隆秀 ＜令和6年4月＞		博士 (薬学)		基礎医学ディベート 薬理学※	1前 3後	0.3 0.3	1 1	久留米大学医学部医学科 薬理学講座 准教授 （平17.4）	
62	兼担	准教授	コマツ　ノブカズ 小松　誠和 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		学びの基本Ⅰ※ 免疫学※ 免疫学実習	1前 1後 1後	0.7 0.6 1	1 1 1	久留米大学 医学部医学科免疫学講座 准教授 （平17.4）	
63	兼担	准教授	オオヌマ　マサアキ 大沼　雅明 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生物学※	1前	0.6	1	久留米大学 医学部医学科生物学教室 准教授 （平2.4）	
64	兼担	准教授	アリサワ　ヒデトシ 在澤　英俊 ＜令和7年4月＞		修士 (法学) ※		バイオサイエンス基礎※	2後	0.1	1	久留米大学 法学部法律学科 准教授 （平21.4）	
65	兼担	准教授	トミヨシ　ミツユキ 冨吉　満之 ＜令和7年4月＞		博士 (地球環境学)		バイオサイエンス基礎※	2後	0.1	1	久留米大学 経済学部文化経済学科 准教授 （平28.4）	
66	兼担	准教授	シオザワ　セイジ 塩澤　誠司 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2後 3通 4通	0.4 6 2	1 1 1	久留米大学 医学部医学科動物実験センター 准教授 （令2.7）	
67	兼担	准教授	サトウ　タカヒロ 佐藤　貴弘 ＜令和7年4月＞		博士 (農学)		バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2後 3通 4通	0.1 6 2	1 1 1	久留米大学 分子生命科学研究所 准教授 （平15.4）	
68	兼担	准教授	キクチ　キヨシ 菊池　清志 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		生理学※	1通	0.6	1	久留米大学 医学部医学科生理学講座 （脳・神経機能部門） 准教授 （平17.5）	
69	兼担	准教授	サトウ　ヒデアキ 佐藤　秀明 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生化学※	1通	1.1	1	久留米大学 医学部医学科医化学講座 准教授 （平17.10）	

70	兼担	准教授	スギシマ　マサカズ 杉島　正一 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生化学※	1通	0.9	1	久留米大学 医学部医学科医化学講座 准教授 （平19.4）	
71	兼担	准教授	モリマツ　ヨシタカ 森松　嘉孝 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		公衆衛生学Ⅰ※	1後	0.3	1	久留米大学 医学部医学科環境医学講座 准教授 （平11.5）	
72	兼担	准教授	ナカオ　モトユキ 中尾　元幸 ＜令和7年4月＞		博士 (農学)		公衆衛生学Ⅱ※ 臨床検査医学特論※	2後 4後	0.5 0.1	1 1	久留米大学医学部医学科 公衆衛生学講座 准教授 （平23.4）	
73	兼担	准教授	ミヤモト　タカノブ 宮本　貴宣 ＜令和7年4月＞		博士 (工学)		保健医療情報学※ マネジメントサイエンス応用Ⅱ※	2後 3前	0.3 1	1 1	久留米大学病院 病院経営室 准教授 （令3.4）	
74	兼担	准教授	オオヤマ　テツジ 大山　哲司 ＜令和6年4月＞		博士 (医学 バイオ 統計学)		統計学※ データサイエンス基礎Ⅱ※ データサイエンス応用 卒業研究	1後 3前 3通 4通	1.3 0.1 6 2	1 1 1 1	久留米大学 バイオ統計センター 准教授 （平29.4）	
75	兼担	准教授	カトウ　ジュンイチ 加藤　淳一 ＜令和8年4月＞		博士 (商学)		データサイエンス基礎Ⅱ※	3前	0.3	1	久留米大学 商学部商学科 准教授 （平27.4）	
76	兼担	准教授	ミヨシ　ヒロアキ 三好　寛明 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		血液学※	2前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科病理学講座 准教授 （平22.4）	
77	兼担	准教授	オオゾノ　シュウイチ 大園　秀一 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		血液学※	2前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科小児科学講座 准教授 （平7.5）	
78	兼担	准教授	アシダ　ケンジ 蘆田　健二 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （内分泌代謝内科部門）　准教授 （平30.4）	
79	兼担	准教授	ナカムラ　トオル 中村　徹 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅱ※	3前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門）　准教授 （平9.5）	
80	兼担	准教授	ヤスモト　シンゴ 安元　眞吾 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※ 生理検査学Ⅰ※	3通 2通	0.1 0.3	1 1	久留米大学 医学部医学科神経精神医学講座 准教授 （平14.4）	
81	兼担	准教授	ヤマダ　ケイ 山田　圭 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※ 臨床検査医学特論※	3通 4後	0.4 0.1	1 1	久留米大学医学部医学科 医学教育研究センター 准教授 （平4.4）	
82	兼担	准教授	カシワギ　タカヒト 柏木　孝仁 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		微生物検査学※ 微生物検査学実習Ⅱ※ 臨床検査医学特論※	2通 2通 4後	0.5 0.5 0.4	1 1 1	久留米大学医学部医学科 医学教育研究センター 准教授 （平11.4）	
83	兼担	准教授	ナガタ　シュウジ 長田　周治 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		画像検査学Ⅱ※	3後	0.2	1	久留米大学 医学部医学科放射線医学講座 准教授 （平9.5）	
84	兼担	准教授	イシイ　ノリト 石井　文人 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		医療安全管理学※	3前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科皮膚科学講座 准教授 （平10.5）	
85	兼担	准教授	ツネマツ　カヨコ 恒松　佳代子 ＜令和8年4月＞		修士 （看護 学）※		医療安全・検体採取実習※	3通	0.2	1	久留米大学医学部看護学科 准教授 （令和5.4）	
86	兼担	准教授	オカムラ　ヒサヨシ 岡村　尚昌 ＜令和8年4月＞		博士 （心理 学） 博士 (医学)		臨床検査応用 卒業研究	3通 4通	6 2	1 1	久留米大学 文学部心理学科 准教授 （平14.6）	
87	兼担	講師	フジモト　アキツグ 藤本　晃嗣 ＜令和6年4月＞		博士 (比較社 会文化)		文学	1後	1.5	1	久留米大学 文学部国際文化学科 講師 （令5.4）	

88	兼担	講師	オクノ　マユ 奥野　真由 ＜令和6年4月＞		修士 (スポーツ科学)		健康・スポーツ科学概論※	1後	0.2	1	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科 講師 （平29.4）	
89	兼担	講師	サキタ　セイシロウ 崎田　誠志郎 ＜令和6年4月＞		博士 (地理学)		人文地理学	1後	1.5	1	久留米大学 文学部国際文化学科 講師 （令4.4）	
90	兼担	講師	タマオカ　ケンジ 玉岡　兼治 ＜令和6年4月＞		修士 (人文学)		文献調査法	1後	1.5	1	久留米大学 文学部情報社会学科 講師 （令3.4）	
91	兼担	講師	クニトモ　マサノブ 國友　正信 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		物理学※	1前	0.5	1	久留米大学 医学部医学科物理学教室 講師 （平31.4）	
92	兼担	講師	オオクボ　ヒロシ 大久保　博 ＜令和6年4月＞		理学修士 ※		物理学※	1前	0.4	1	久留米大学 医学部医学科物理学教室 講師 （昭63.4）	
93	兼担	講師	モリベ　ヒロキ 森部　弘樹 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生物学※	1前	0.4	1	久留米大学 医学部医学科生物学教室 講師 （平23.4）	
94	兼担	講師	ヤマモト　タケシ 山本　武司 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		細菌学※	1通	0.8	1	久留米大学 医学部医学科感染医学講座 （基礎感染医学部門）　講師 （平24.4）	
95	兼担	講師	トヨダ　ユウスケ 豊田　雄介 ＜令和7年4月＞		博士 (生命科学)		遺伝子・染色体検査学実習※ バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2前 2後 3通 4通	0.8 0.1 6 2	1 1 1 1	久留米大学 分子生命科学研究所 講師 （平26.9）	
96	兼担	講師	サノ　ヒロコ 佐野　浩子 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2後 3通 4通	0.1 6 2	1 1 1	久留米大学 分子生命科学研究所 講師 （平24.4）	
97	兼担	講師	ハラダ　ジロウ 原田　二朗 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生化学※	1通	0.3	1	久留米大学 医学部医学科医化学講座 講師 （平21.4）	
98	兼担	講師	モリ　ミホコ 森　美穂子 ＜令和6年4月＞		博士 (医学) 博士 (バイオ統計学)		公衆衛生学Ⅰ※ 臨床検査医学特論※	1後 4後	0.4 0.1	1 1	久留米大学 医学部医学科環境医学講座 講師 （平7.4）	
99	兼担	講師	ヤマウチ　ケイコ 山内　圭子 ＜令和7年4月＞		博士 (栄養学) Master of Public Health アメリカ		公衆衛生学Ⅱ※ 臨床検査医学特論※	2後 4後	0.5 0.1	1 1	久留米大学医学部医学科 公衆衛生学講座 講師 （平24.10）	
100	兼担	講師	マツモト　コウタロウ 松本　晃太郎 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		データサイエンス基礎Ⅰ※ 保健医療情報学※ データサイエンス基礎Ⅱ※ データサイエンス応用 卒業研究	2通 2後 3前 3通 4通	0.4 0.3 0.3 6 2	1 1 1 1 1	久留米大学 バイオ統計センター 講師 （令3.8）	
101	兼担	講師	キノシタ　タカシ 木下　隆 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※ 生理検査学Ⅰ※ 臨床検査医学特論※	3通 2通 4後	0.2 0.4 0.1	1 1 1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （呼吸器・神経・膠原病内科部門）　講師 （平14.5）	
102	兼担	講師	タテイシ　タカヒサ 立石　貴久 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※	3通	0.2	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （呼吸器・神経・膠原病内科部門）　講師 （令1.6）	
103	兼担	講師	ミハシ　リョウタ 三橋　亮太 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※	3通	0.1	1	久留米大学医学部医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 講師 （平19.4）	
104	兼担	講師	クシノ　アキヒロ 久志野　彰寛 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)		RI検査学※	3前	0.9	1	久留米大学医学部医学科 放射性同位元素施設 講師 （平27.4）	

105	兼担	講師	マツオカ　マサノブ 松岡　昌信 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅰ※	2通	0.3	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （呼吸器・神経・膠原病内科部門）　講師 （平14.5）	
106	兼担	講師	サトウ　マモル 佐藤　守 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅰ※	2通	0.3	1	久留米大学 高次脳疾患研究所 講師 （平18.4）	
107	兼担	講師	マエノ　サトコ 前野　里子 ＜令和8年4月＞		修士 (看護学)		医療安全・検体採取実習※	3通	0.2	1	久留米大学医学部看護学科 講師 （令和2.6）	
108	兼担	講師	ウエダ　コウスケ 植田　浩介 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		ゲノム医療・先端医学※	3通	0.1	1	久留米大学医学部医学科 泌尿器科学講座 講師 （平19.4）	
109	兼担	助教	イシダ　ユキ 石田　有紀 ＜令和6年4月＞		修士 (心理学)		学びの基本Ⅰ※ 学びの基本Ⅱ※	1前 1後	1.5 1	1 1	久留米大学 文学部心理学科 助教 （令2.10）	
110	兼担	助教	オクノ　ミキ 奥野　未来 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		細菌学※	1通	0.6	1	久留米大学 医学部医学科感染医学講座 （基礎感染医学部門）　助教 （令2.12）	
111	兼担	助教	ミタオ　ヒロシ 三田尾　拡 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		バイオサイエンス基礎※	2後	0.1	1	久留米大学 医学部医学科産婦人科学講座 助教 （平23.4）	
112	兼担	助教	サカイ　ユウスケ 坂井　勇介 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2後 3通 4通	0.4 6 2	1 1 1	久留米大学 医学部医学科動物実験センター 助教 （平27.4）	
113	兼担	助教	イシカワ　ケン 石川　健 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		遺伝子・染色体検査学実習※ バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2前 2後 3通 4通	0.8 0.1 6 2	1 1 1 1	久留米大学 分子生命科学研究所 助教 （平30.10）	
114	兼担	助教	シイムラ　ユウキ 椎村　祐樹 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		バイオサイエンス基礎※ バイオサイエンス応用 卒業研究	2後 3通 4通	0.1 6 2	1 1 1	久留米大学 分子生命科学研究所 助教 （平29.4）	
115	兼担	助教	ハン　アヤ 范　綾 ＜令和6年4月＞		学士 (医学)		肉眼解剖学	1前	1	1	久留米大学 医学部医学科解剖学講座 （肉眼・臨床解剖部門）　助教 （平25.4）	
116	兼担	助教	ナカムラ　ヒサシ 中村　悠 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		組織解剖学※	1前	1.1	1	久留米大学 医学部医学科解剖学講座 （顕微解剖・生体形成部門） 助教 （令1.8）	
117	兼担	助教	イノウエ　ミキ 井上　実紀 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		組織解剖学※	1前	0.3	1	久留米大学 医学部医学科解剖学講座 （顕微解剖・生体形成部門） 助教 （令4.10）	
118	兼担	助教	ツカグチ　マイ 塚口　舞 ＜令和6年4月＞		博士 (薬学)		生化学※	1通	0.6	1	久留米大学 医学部医学科医化学講座 助教 （平23.4）	
119	兼担	助教	オカダ　トシユキ 岡田　季之 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		免疫学※ 免疫学実習※	1後 1後	0.1 0.1	1 1	久留米大学 医学部医学科免疫学講座 助教 （平26.11）	
120	兼担	助教	マスダ　ヒロシ 増田　宏 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		公衆衛生学Ⅰ※	1後	0.3	1	久留米大学 医学部医学科環境医学講座 助教 （平30.4）	
121	兼担	助教	クワキ　コウタロウ 桑木　光太郎 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		公衆衛生学Ⅱ※ マネジメントサイエンス基礎Ⅱ※ 臨床検査医学特論※	2後 2通 4後	0.5 0.1 0.1	1 1 1	久留米大学医学部医学科 公衆衛生学講座 助教 （平15.5）	
122	兼担	助教	ヤマグチ　マキ 山口　真紀 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		血液学※	2前	0.9	1	久留米大学病院臨床検査部 助教 （平22.4）	

123	兼担	助教	オオヤ　シュウキ 大屋　周期 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		血液学※	2前	0.3	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （血液・腫瘍内科部門）　助教 （平28.4）	
124	兼担	助教	ヨシオカ　シンイチロウ 吉岡　慎一郎 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門）　助教 （平14.5）	
125	兼担	助教	フクナガ　シュウヘイ 福永　秀平 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門）　助教 （平17.4）	
126	兼担	助教	ナカネ　トモユキ 中根　智幸 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門）　助教 （平19.4）	
127	兼担	助教	ナガヤマ　アヤコ 永山　綾子 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （内分泌代謝内科部門）　助教 （平22.4）	
128	兼担	助教	イノグチ　ユキヒロ 井口　志洋 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （内分泌代謝内科部門）　助教 （令4.4）	
129	兼担	助教	ハスザワ　ナオ 蓮澤　奈央 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （内分泌代謝内科部門）　助教 （平30.4）	
130	兼担	助教	タグチ　ケンセイ 田口　顕正 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※ 臨床検査応用 卒業研究	2通 3通 4通	0.1 6 2	1 1 1	久留米大学病院 腎臓センター 助教 （平18.4）	
131	兼担	助教	タカハシ　ジンヤ 髙橋　甚彌 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※ 生理検査学Ⅱ※ 生理検査学Ⅰ※	2通 3通 2通	0.1 0.2 0.3	1 1 1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平24.4）	
132	兼担	助教	アカガキ　ダイキ 赤垣　大樹 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平25.4）	
133	兼担	助教	シバタ　リョウ 柴田　怜 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		臨床医学総論Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平25.4）	
134	兼担	助教	アクネ　ホダカ 阿久根　穂高 ＜令和8年4月＞		学士 (医学)		生理検査学Ⅱ※	3通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科眼科学講座 助教 （平26.4）	
135	兼担	助教	タナカ　ヒサイチロウ 田中　久一郎 ＜令和8年4月＞		学士 (医学)		生理検査学Ⅱ※	3通	0.1	1	久留米大学医学部医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教 （平27.4）	
136	兼担	助教	サトウ　フミヒコ 佐藤　文彦 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		生理検査学Ⅱ※	3通	0.1	1	久留米大学医学部医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教 （平27.4）	
137	兼担	助教	ベッキ　ムネヒサ 戸次　宗久 ＜令和8年4月＞		学士 (医学)		睡眠医学※	3前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平21.4）	
138	兼担	助教	イシイ　リュウタ 石井　隆大 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		睡眠医学※	3前	0.1	1	久留米大学 医学部医学科小児科学講座 助教 （平23.4）	
139	兼担	助教	サトウ　キミノブ 佐藤　公宣 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		睡眠医学※	3前	0.1	1	久留米大学医学部医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教 （平24.4）	
140	兼担	助教	クロイワ　マホミ 黒岩　真帆美 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		薬理学※	3後	0.1	1	久留米大学 医学部医学科薬理学講座 助教 （平21.1）	

141	兼担	助教	ナカノ　マサハル 中野　仁晴 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		生理検査学Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平25.4）	
142	兼担	助教	ナカオ　エイチ 中尾　英智 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		生理検査学Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平26.4）	
143	兼担	助教	シバオ　コウダイ 芝尾　昴大 ＜令和7年4月＞		学士 (医学)		生理検査学Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平31.4）	
144	兼担	助教	ナカノ　マサヒト 中野　聖士 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		画像検査学Ⅰ※	2通	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門）　助教 （平14.5）	
145	兼担	助教	ムカサ　ミチタ 向笠　道太 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		画像検査学Ⅱ※	3後	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門）　助教 （平13.5）	
146	兼担	助教	オオウチ　アキヒロ 大内　彬弘 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		画像検査学Ⅱ※	3後	0.1	1	久留米大学 医学部医学科内科学講座 （消化器内科部門）　助教 （平18.4）	
147	兼担	助教	イガタ　サチヨ 井形　幸代 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		ゲノム医療・先端医学※	3通	0.1	1	久留米大学医学部医学科 内科学講座 （心臓・血管内科部門）　助教 （平26.4） カリフォルニア大学 サンディエゴ校 超音波検査技師 兼務（平28.9）	
148	兼担	特任 教授	ナカニシ　ヨシノリ 中西　吉則 ＜令和6年4月＞		修士 (社会 学)		社会学	1後	1.5	1	久留米大学文学部 特任教授 （昭62.4）	
149	兼任	講師	テンマ　ショウ 天満　翔 ＜令和6年4月＞		修士 (心理 学) ※		心理学	1前	1.5	1	久留米大学非常勤講師 （令4.4）	
150	兼任	講師	シノクラ　ダイキ 篠倉　大樹 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		久留米・筑後体験演習	1前	2	1	久留米大学非常勤講師 （平22.4）	
151	兼任	講師	ムラエ　フミトシ 村江　史年 ＜令和6年4月＞		修士 (教育 学)		久留米・筑後体験演習	1前	2	1	北九州市立大学 基盤教育センターひびきの分室 准教授 （平27.4）	
152	兼任	講師	ヨコオ　サトコ 横尾　聡子 ＜令和6年4月＞		Master of Arts in Applied Linguisti cs イギリス		観光英語	1前	1.5	1	久留米大学非常勤講師 （平30.4）	
153	兼任	講師	ヤシマ　ヨシユキ 八嶋　義之 ＜令和6年4月＞		学士 (人文 学)		歴史学	1後	1.5	1	福岡市博物館市史編さん室 会計年度任用職員 市史編さん担当員 （平19.4）	
154	兼任	講師	ナガヨシ　マモル 永吉　守 ＜令和6年4月＞		博士 (国際文 化)		文化人類学	1後	1.5	1	久留米大学非常勤講師 （令4.9）	
155	兼任	講師	マルヤマ　ノゾミ 丸山　望実 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		哲学	1後	1.5	1	久留米大学非常勤講師 （令5.4）	
156	兼任	講師	イサ　トモコ 伊佐　智子 ＜令和6年4月＞		博士 (法学)		いのちの倫理	1後	1.5	1	久留米大学非常勤講師 （平25.9）	
157	兼任	講師	キタガキ　ヒロシ 北垣　浩志 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		英語TOEFL 英語（リーディング）	1後 1前・1後	1.5 2	1 2	佐賀大学農学部 食資源環境科学コース 教授 （平20.4）	

158	兼任	講師	チサカ　ダイジロウ 千坂　大二郎 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		健康・スポーツ科学（実技）	1前・1後	2	2	ナナイロプリズム福岡 ハイパフォーマンスコーチ （令2.3）	
159	兼任	講師	ズシ　コトネ 圖師　琴音 ＜令和6年4月＞		専門学校卒		キャリア入門※	1前	0.1	1	株式会社EP綜合 福岡支店福岡第2オフィス 臨床検査技師 （令3.4）	
160	兼任	講師	tクナガ　カケル 徳永　翔 ＜令和6年4月＞		専門学校卒		キャリア入門※	1前	0.1	1	新古賀病院 臨床検査課 臨床検査技師 （令4.4）	
161	兼任	講師	ツチモチ　タカシ 土持　貴志 ＜令和6年4月＞		修士 (文学) ※		論理学	1前	1.5	1	九州大学大学院人文科学研究院 学術研究員 （令4.12）	
162	兼任	講師	モリ　ノブユキ 森　信之 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		数学	1後	1.5	1	九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 教授 （平18.4）	
163	兼任	講師	タイラ　セイイチ 平　誠一 ＜令和8年4月＞		修士 (法学)		関係法規 臨床検査医学特論※	3前 4後	1 0.1	1 1	日本経済大学 経済学部経済学科 教授 （平29.4） 久留米大学法学部非常勤講師 （平25.4）	
164	兼任	講師	オリオカ　ケンタロウ 折岡　健太郎 ＜令和7年4月＞		修士 (医療情報学)		マネジメントサイエンス基礎Ⅱ※ 保健医療情報学※ マネジメントサイエンス応用Ⅰ※ マネジメントサイエンス応用Ⅱ マネジメントサイエンス応用Ⅲ	2通 2後 3前 3前 3後	0.3 0.3 3.3 1 2	1 1 1 1 1	久留米大学病院 腫瘍センター事務室 課長補佐 （平13.4）	
165	兼任	講師	ナガマツ　アユ 永松　あゆ ＜令和8年4月＞		修士 (医科学)		臨床栄養学※	3前	0.1	1	久留米大学病院栄養部 主任栄養士 （平15.4）	
166	兼任	講師	イケダ　マユミ 池田　真由美 ＜令和8年4月＞		学士 (食物栄養学)		睡眠医学※	3前	0.1	1	久留米大学病院栄養部 副主任栄養士 （平14.4）	
167	兼任	講師	ハシモト　ツルミ 橋本　鶴美 ＜令和8年4月＞		学士 (臨床検査学)		睡眠医学※	3前	0.1	1	帝人ヘルスケア株式会社 久留米営業所 臨床検査技師 （平13.9）	
168	兼任	講師	エサキ　カズヒサ 江崎　和久 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)		睡眠医学※	3前	0.1	1	睡眠科学研究所 江崎歯科内科医院 院長 （平15.6）	
169	兼任	講師	サカイ　ヨシロウ 酒井　義朗 ＜令和6年5月＞		博士 (医学)		薬理学※	3後	0.1	1	久留米大学病院薬剤部 主任薬剤師 （平16.4）	
170	兼任	講師	タルミズ　トシキ 垂水　俊樹 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		血液検査学実習※ 一般検査学実習※ 臨床検査医学特論※	2後 3通 4後	1.3 0.7 0.1	1 1 1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平25.4）	
171	兼任	講師	オカダ　カズヒロ 岡田　和大 ＜令和7年4月＞		修士 (保健学)		血液検査学実習※ 臨床検査医学特論※	2後 4後	0.7 0.1	1 1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平28.4）	
172	兼任	講師	ミス　テツヤ 三栖　徹也 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		臨床化学検査学実習	2通	2	1	久留米大学病院臨床検査部 副主任技師 （平21.4）	
173	兼任	講師	サイトウ　ヒロコ 齊藤　弘子 ＜令和7年4月＞		学士 (教養)		臨床化学検査学実習※	2通	0.3	1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平27.4）	
174	兼任	講師	ヨシトミ　フミ 吉冨　史美 ＜令和7年4月＞		修士 (保健学)		臨床化学検査学実習※	2通	0.8	1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平31.4）	

175	兼任	講師	ムタ　セイヤ 牟田　誠矢 ＜令和8年4月＞		専門学校卒		免疫検査学※ 臨床検査医学特論※	3後 4後	0.4 0.1	1 1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平24.4）	
176	兼任	講師	ナス　サオリ 那須　沙織 ＜令和8年4月＞		学士（理学）		RI検査学※	3前	0.7	1	久留米大学医学部医学科 放射性同位元素施設 技術職員 （平25.4）	
177	兼任	講師	イケマツ　リュウジ 池末　竜治 ＜令和8年4月＞		学士（保健衛生学）		RI検査学※	3前	0.1	1	久留米大学病院放射線部 主任技師 （平6.4）	
178	兼任	講師	サトウ　エツコ 佐藤　悦子 ＜令和7年4月＞		準学士（臨床検査）		遺伝子・染色体検査学※ 遺伝子・染色体検査学実習※	2前 2前	0.2 0.1	1 1	雪の聖母会聖マリア病院 中央臨床検査センター 染色体・遺伝子検査室主任 （昭和60.4）	
179	兼任	講師	フジヨシ　マイ 藤好　麻衣 ＜令和8年4月＞		専門学校卒		輸血・移植検査学※ 輸血・移植検査学実習※ 臨床検査医学特論※	3前 3前 4後	0.7 0.9 0.1	1 1 1	久留米大学病院臨床検査部 副主任技師 （平23.4）	
180	兼任	講師	ミヤモト　ナオキ 宮本　直樹 ＜令和6年4月＞		修士（医科学）		微生物検査学実習Ⅰ※ 微生物検査学実習Ⅱ※	1後 2通	0.1 0.5	1 1	久留米大学病院臨床検査部 副主任技師 （平22.4）	
181	兼任	講師	オオツボ　ナオヒロ 大坪　直広 ＜令和6年4月＞		専門学校卒		微生物検査学実習Ⅰ※ 微生物検査学実習Ⅱ※	1後 2通	0.6 0.1	1 1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平25.4）	
182	兼任	講師	カジワラ　リョウスケ 梶原　亮佑 ＜令和6年4月＞		修士（保健学）		微生物検査学実習Ⅰ※	1後	0.3	1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平28.4）	
183	兼任	講師	ホリタ　リエ 堀田　恵乃 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		微生物検査学実習Ⅱ※	2通	0.1	1	久留米大学病院臨床検査部 主任技師 （平6.4）	
184	兼任	講師	タシロ　ナオタカ 田代　尚崇 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		微生物検査学実習Ⅱ※	2通	0.4	1	久留米大学病院臨床検査部 副主任技師 （平20.4）	
185	兼任	講師	コモリ　マユミ 小森　真由美 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		生理検査学実習※	2通	0.8	1	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 専任教員 （昭61.4）	
186	兼任	講師	ソンダ　ユカリ 尊田　夕香里 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		生理検査学実習※	2通	0.3	1	久留米大学病院臨床検査部 副技師長 （平5.4）	
187	兼任	講師	ナカシマ　マサコ 中島　雅子 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		生理検査学実習※	2通	0.3	1	久留米大学病院臨床検査部 副主任技師 （平3.4）	
188	兼任	講師	オオヅル　ショウイチ 大鶴　翔一 ＜令和7年4月＞		学士（教養）		生理検査学実習※	2通	1	1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平22.4）	
189	兼任	講師	サダモト　ユウジ 貞元　祐二 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		生理検査学実習※	2通	1.7	1	福岡浦添クリニック 主任技師 （平成19.2）	
190	兼任	講師	フクシマ　ナオ 福島　奈央 ＜令和7年4月＞		専門学校卒		画像検査学Ⅰ※	2通	0.8	1	久留米大学病院臨床検査部 副主任技師 （平13.4）	
191	兼任	講師	イトウ　シンイチロウ 伊藤　慎一郎 ＜令和7年4月＞		学士（教養）		画像検査学Ⅰ※ 臨床検査医学特論※	2通 4後	0.8 0.3	1 1	久留米大学病院臨床検査部 副主任技師 （平17.4）	
192	兼任	講師	スズキ　マコト 鈴木　真 ＜令和8年4月＞		修士（保健学）		画像検査学Ⅱ※	3後	0.3	1	久留米大学病院放射線部 副主任技師 （平30.4）	

193	兼任	講師	カワノ　ヒロユキ 川野　祐幸 ＜令和8年4月＞		専門学校卒		検査管理総論※	3前	0.1	1	久留米大学病院臨床検査部 技師長 （平5.4）	
194	兼任	講師	ソウダ　ミネコ 早田　峰子 ＜令和8年4月＞		専門学校卒		検査管理総論※ 臨床検査医学特論※	3前 4後	0.4 0.1	1 1	久留米大学病院臨床検査部 主任技師 （平6.4）	
195	兼任	講師	ヒグチ　キョウコ 樋口　恭子 ＜令和6年4月＞		博士（医学バイオ統計学）		薬品管理学※	1前	0.8	1	久留米大学病院薬剤部 副部長 （平11.4）	
196	兼任	講師	ハシモト　ケンユウ 橋本　賢勇 ＜令和8年4月＞		修士（医科学）		ゲノム医療・先端医学※	3通	0.1	1	新古賀病院 臨床検査課 臨床検査技師 （平23.4）	
197	兼任	講師	ナガミネ　ミチコ 長峯　理子 ＜令和8年4月＞		博士（医学）		ゲノム医療・先端医学※	3通	0.1	1	京都府立医科大学 病理学教室（人体病理学部門） 講師 （令2.10）	
198	兼任	講師	ハマグチ　タクロウ 浜口　拓郎 ＜令和9年4月＞		学士（保健学）		臨床検査医学特論※	4後	0.3	1	久留米大学病院臨床検査部 臨床検査技師 （平22.4）	
199	兼任	講師	カネコ　フミ 金子　富美 ＜令和7年4月＞		博士（医学）		応用選択コース入門※	2後	0.1	1	久留米大学病院 臨床研究センター 副部長補佐 （平16.4）	

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1　人	4　人	2　人	1　人	人	8　人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	3　人	人	人	人	3　人	
	修　士	人	人	人	人	1　人	人	人	1　人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	2　人	人	人	人	2　人	
	学　士	人	人	1　人	人	人	人	人	1　人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	1　人	7　人	2　人	1　人	人	11　人	
	修　士	人	人	人	2　人	1　人	人	人	3　人	
	学　士	人	人	1　人	人	人	人	人	1　人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	